別記様式第２号（その１の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

基　本　計　画　書

基　本　計　画			
事　　項	記　　入　　欄		備　考
計　画　の　区　分	学部の設置		
フ　リ　ガ　ナ 設　置　者	ｶﾞｯｺｳﾎｳｼﾞﾝ　ﾌｪﾘｽｼﾞｮｶﾞｸｲﾝ 学校法人　フェリス女学院		
フ　リ　ガ　ナ 大　学　の　名　称	ﾌｪﾘｽｼﾞｮｶﾞｸｲﾝﾀﾞｲｶﾞｸ フェリス女学院大学（Ferris University）		
大　学　本　部　の　位　置	神奈川県横浜市泉区緑園４丁目５番地３		
大　学　の　目　的	本学は、キリスト教を教育の基本方針となし、学問研究および教育の機関として、女子に高度の教育を授け、専門の学問を教授研究し、もって真理と平和を愛し、人類の福祉に寄与する人物を養成することを目的とする。		
新設学部等の目的	グローバル教養学部は、本学の教育理念「For Others」のもと、複雑化・多様化する国際社会において、自立した市民として時代や環境の変化に対処するための力、すなわちグローバルな教養を身に付け、異なる文化や価値観をもつ人々と共生・協働し、国際社会の発展とイノベーションの推進に主体的に貢献できる創造的な人材を養成する。 　国際社会学科は、複雑化・多様化する国際社会を多角的に理解するための学びを通じて、国際的な社会の諸課題を地球規模の視点で捉え、身近な社会とのつながりにも着目して主体的に行動する力を身に付け、幅広い教養と多文化共生の視点をもって、国際社会の発展とイノベーションの推進に貢献できる創造的な人材を養成する。 　心理コミュニケーション学科は、心理、メディア、共生コミュニケーションの領域における学際的な学びを通じて、人間への深い理解と多様なルーツや価値観を持つ人と人をつなぐ「コミュニケーション」手法を身に付け、幅広い教養と多文化共生の視点をもって、多文化共生社会の発展とイノベーションの推進に貢献できる創造的な人材を養成する。 　文化表現学科は、ヨーロッパ・アメリカ・アジア・日本を対象とし、多様な価値観が共存する国際社会における文化表現に関する総合的な学びを通じて、グローバルな視点から文化表現の専門的知識と思考力・判断力・表現力を身に付け、幅広い教養と多文化共生の視点をもって、国際社会の発展とイノベーションの推進に貢献できる創造的な人材を養成する。		

新設学部等の概要

新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位	学位の分野	開設時期及び開設年次	所在地
	年	人	年次 人	人			年　月 第　年次	
グローバル教養学部								
国際社会学科	4	195	－	780	学士（国際社会）	文学関係 法学関係 経済学関係		神奈川県横浜市泉区緑園４丁目５番地３
心理コミュニケーション学科	4	180	－	720	学士（心理コミュニケーション）	文学関係		神奈川県横浜市泉区緑園４丁目５番地３
文化表現学科	4	170	－	680	学士（文化表現）	文学関係	令和7年4月 第1年次	神奈川県横浜市泉区緑園４丁目５番地３ 神奈川県横浜市中区山手町37番地
計		545	－	2180				

同一設置者内における変更状況（定員の移行，名称の変更等）	
	文学部（廃止） 　英語英米文学科　（△90） 　日本語日本文学科　（△90） 　コミュニケーション学科　（△90） ※令和7年4月学生募集停止 音楽学部（廃止） 　音楽芸術学科　（△75） ※令和7年4月学生募集停止 国際交流学部（廃止） 　国際交流学科　（△197） 　（2年次編入学定員）　（△4） ※令和7年4月学生募集停止 　（2年次編入学定員は令和8年4月学生募集停止）

	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数	
		講義	演習	実験・実習	計		
教育課程	グローバル教養学部 国際社会学科	150科目	232科目	22科目	404科目	124単位	
	グローバル教養学部 心理コミュニケーション学科	142科目	243科目	26科目	411科目	124単位	
	グローバル教養学部 文化表現学科	118科目	258科目	24科目	400科目	124単位	

	学部等の名称	基幹教員					助手	基幹教員以外の教員（助手を除く）	
		教授	准教授	講師	助教	計			
新設分	グローバル教養学部　国際社会学科	人 15 (15)	人 4 (4)	人 0 (0)	人 0 (0)	人 19 (19)	人 0 (0)	人 226 (226)	
	a．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	15 (15)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	19 (19)			大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数　10人
	b．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（a に該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	小計（a～b）	15 (15)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	19 (19)			
	c．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（a 又はb に該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（a，b 又はc に該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	計（a～d）	15 (15)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	19 (19)			
	グローバル教養学部　心理コミュニケーション学科	9 9	9 (9)	2 (2)	0 0	20 (20)	0 (0)	250 (250)	
	a．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	9 (9)	9 (9)	0 (0)	0 (0)	18 (18)			大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数　7人
	b．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（a に該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	小計（a～b）	9 9	9 (9)	0 (0)	0 0	18 (18)			
	c．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（a 又はb に該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	2 (2)	0 (0)	2 (2)			
	d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（a，b 又はc に該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	計（a～d）	9 (9)	9 (9)	2 (2)	0 (0)	20 (20)			
	グローバル教養学部　文化表現学科	12 (12)	11 (11)	3 (3)	1 (1)	27 (27)	0 (0)	228 (228)	
	a．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	12 (12)	10 (10)	0 (0)	0 (0)	22 (22)			大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数　7人
	b．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（a に該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	小計（a～b）	12 (12)	10 (10)	0 (0)	0 (0)	22 (22)			
	c．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（a 又はb に該当する者を除く）	0 (0)	1 (1)	3 (3)	1 (1)	5 (5)			
	d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（a，b 又はc に該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	計（a～d）	12 (12)	11 (11)	3 (3)	1 (1)	27 (27)			
	計	36 (36)	24 (24)	5 (5)	1 (1)	66 (66)	0 (0)	－ (－)	

既設分	該当なし	人 － (－)	人 － (－)	人 － (－)	人 － (－)	人 － (－)	人 － (－)	人 － (－)
	a．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	－ (－)	－ (－)	－ (－)	－ (－)	－ (－)		
	b．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａに該当する者を除く）	－ (－)	－ (－)	－ (－)	－ (－)	－ (－)		
	小計（ａ～ｂ）	－ (－)	－ (－)	－ (－)	－ (－)	－ (－)		
	c．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ又はｂに該当する者を除く）	－ (－)	－ (－)	－ (－)	－ (－)	－ (－)		
	d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ，ｂ又はcに該当する者を除く）	－ (－)	－ (－)	－ (－)	－ (－)	－ (－)		
	計（ａ～ｄ）	－ (－)	－ (－)	－ (－)	－ (－)	－ (－)		
	計	－ (－)	－ (－)	－ (－)	－ (－)	－ (－)	－ (－)	－ (－)

職種	専属	その他	計
	人	人	人
事務職員	68 (68)	44 (44)	112 (112)
技術職員	0 (0)	0 (0)	0 (0)
図書館職員	3 (3)	2 (2)	5 (5)
その他の職員	0 (0)	0 (0)	0 (0)
指導補助者	0 (0)	38 (38)	38 (38)
計	71 (71)	84 (84)	155 (155)

校地等	区分	専用	共用	共用する他の学校等の専用	計	
	校舎敷地	81,699㎡	0㎡	0㎡	81,699㎡	
	その他	833㎡	0㎡	0㎡	833㎡	
	合計	82,532㎡	0㎡	0㎡	82,532㎡	
校舎		専用	共用	共用する他の学校等の専用	計	
		28,525㎡ (28,525㎡)	0㎡ (0㎡)	0㎡ (0㎡)	28,525㎡ (28,525㎡)	
教室・教員研究室		教室	105室	教員研究室	79室	大学全体

図書・設備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	電子図書 〔うち外国書〕	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	機械・器具 点	標本 点	
	グローバル教養学部	374,065〔110,937〕 (364,758〔110,255〕)	1,330〔970〕 (1,179〔892〕)	4,268〔795〕 4,238〔792〕	8,461〔6,911〕 (8,055〔6,505〕)	－ (　－　)	－ (　－　)	学部等単位での特定不能なため、大学全体の数
	計	374,065〔110,937〕 (364,758〔110,255〕)	1,330〔970〕 (1,179〔892〕)	4,268〔795〕 4,238〔792〕	8,461〔6,911〕 (8,055〔6,505〕)	－ (　－　)	－ (　－　)	

スポーツ施設等	スポーツ施設	講堂	厚生補導施設	
	0㎡	0㎡	5,249㎡	大学全体

経費の見積り及び維持方法の概要

区分	開設前年度	第１年次	第２年次	第３年次	第４年次	第５年次	第６年次
経費の見積り 教員１人当り研究費等		461千円	461千円	461千円	461千円	― 千円	― 千円
経費の見積り 共同研究費等		1,200千円	1,200千円	1,200千円	1,200千円	― 千円	― 千円
経費の見積り 図書購入費	47,474千円	47,474千円	47,474千円	47,474千円	47,474千円	― 千円	― 千円
経費の見積り 設備購入費	1,150千円	1,150千円	1,150千円	1,150千円	1,150千円	― 千円	― 千円
学生１人当り納付金		第１年次	第２年次	第３年次	第４年次	第５年次	第６年次
		1,396千円	1,196千円	1,196千円	1,196千円	― 千円	― 千円
学生納付金以外の維持方法の概要		手数料収入、資産運用収入、国庫補助金及び寄付金収入を充当する。					

図書費には電子ジャーナル・データベースの整備費（運用コストを含む）を含む。

既設大学等の状況

大学等の名称：フェリス女学院大学

学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	収容定員充足率	開設年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍			
文学部						0.92			
英語英米文学科	4	90	―	360	学士（文学）	0.80	昭和40年度	神奈川県横浜市泉区緑園４丁目５番地３	
日本語日本文学科	4	90	―	360	学士（文学）	0.92	昭和40年度		
コミュニケーション学科	4	90	―	360	学士（文学）	1.06	平成16年度		
音楽学部						0.85		（１・２年次）神奈川県横浜市泉区緑園４丁目５番地３	※平成31年度より学生募集停止（演奏学科）
音楽芸術学科	4	75	―	300	学士（音楽）	0.85	平成元年度		
演奏学科	4	―	―	―	学士（音楽）	―	平成17年度	（３・４年次）神奈川県横浜市中区山手町37番地	
国際交流学部						0.78		神奈川県横浜市泉区緑園４丁目５番地３	
国際交流学科	4	197	4	800	学士（国際交流学）	0.78	平成9年度		
人文科学研究科									
（博士前期課程）									
英語英米文学専攻	2	6	―	12	修士（文学）	0.16	平成3年度	神奈川県横浜市泉区緑園４丁目５番地３	
日本語日本文学専攻	2	6	―	12	修士（文学）	0.08	平成3年度		
コミュニケーション学専攻	2	6	―	12	修士（文学）	0.33	平成20年度		
（博士後期課程）									
英語英米文学専攻	3	2	―	6	博士（文学）	0.16	平成7年度		
日本語日本文学専攻	3	3	―	9	博士（文学）	0.22	平成7年度		
コミュニケーション学専攻	3	2	―	6	博士（文学）	0.16	平成22年度		
音楽研究科									
（修士課程）									
音楽芸術専攻	2	6	―	12	修士（音楽）	1.16	平成10年度	神奈川県横浜市中区山手町37番地	※令和5年度より学生募集停止（演奏専攻）
演奏専攻	2	―	―	―	修士（音楽）	―	平成21年度		
国際交流研究科									
（博士前期課程）									
国際交流専攻	2	6	―	12	修士（国際交流）	0.58	平成13年度	神奈川県横浜市泉区緑園４丁目５番地３	
（博士後期課程）									
国際交流専攻	3	2	―	6	博士（国際交流）	0.00	平成13年度		

附属施設の概要	該当なし

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（グローバル教養学部国際社会学科）

科目区分			授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
						必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外の教員（助手を除く）	
全学教養教育	共通科目	ＣＬＡコア科目	キリスト教概論	1前・後		2			○				1				3	
			キリスト教学	1・2前・後		2			○				1				10	
			フェリス女学院とキリスト教	1・2・3・4後			2		○			1						隔年
			一神教概論	1・2・3・4後			2		○			1						隔年
			アカデミック・ライティング入門	1前・後			2		○								3	
			アカデミック・ライティング	2・3・4前・後			2		○								2	
			プレゼンテーションのスキル	1・2・3・4前・後			2		○								1	
			ディスカッションのスキル	1・2・3・4後・休			2		○								1	標準外
			健康・スポーツ論	1・2・3・4前・後			2		○								2	
			スポーツ実習	1・2・3・4前・後			1			○							7	
			情報リテラシー基礎	1前・後			2		○								2	
			情報リテラシー：コンピュータサイエンス入門	1・2・3・4前・後			2		○								1	
			情報リテラシー：データサイエンス入門	1・2・3・4前・後			2		○				1					
			情報科学：コンピュータと社会	1・2・3・4前			2		○								1	
			情報科学：ソフトウェアとビジネス	1・2・3・4後			2		○								1	
			情報とメディアのリテラシー	1・2・3・4後			2		○								1	
			ジェンダーと教育の歴史	1・2・3・4後			2		○								1	
			ジェンダーから学ぶ現代社会	1・2・3・4後			2		○			1					9	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
			ジェンダー特論	1・2・3・4前			2		○								1	
			男女共同参画政策	1・2・3・4後			2		○								1	
			地域社会と女性リーダー	1・2・3・4前			2		○								1	
			ジェンダーと人権	1・2・3・4前			2		○								1	
			男性学	1・2・3・4後			2		○								1	
			グローバリゼーションとジェンダー	1・2・3・4後			2		○								1	
			ジェンダー&セクシュアリティ入門	1・2・3・4前			2		○								1	
			プロジェクトで学ぶ	3・4前・後			1			○							2	
			デザインと表現	1・2・3・4後			2		○								4	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
			デザイン概論	1・2・3・4前			2		○								1	
			ことばとデザイン	1・2・3・4後			2		○								1	
			美術芸術論	1・2・3・4後・休			2		○								1	標準外
			ファッションデザイン論	1・2・3・4後			2		○								1	
			メディア・デザイン	1・2・3・4前			2		○								1	
			読書とメディア	1・2・3・4後			2		○								1	
			コピーライティング演習	1・2・3・4前			2			○							1	
			住空間デザイン	1・2・3・4前			2		○								1	
			都市生活の空間デザイン	1・2・3・4前			2		○								1	
			キャリア形成の基礎	1・2・3・4前・後、1・2・3・4前・休			2			○							3	標準外（一部）
			キャリア形成の意義	1・2・3・4前・後			2			○							2	
			キャリア形成の実際	1・2・3・4後、1・2・3・4後・休			2			○							2	標準外（一部）
			キャリア形成の諸問題	1・2・3・4前・後			2			○							2	
			キャリア実習（短期インターンシップ）	3・4前・休			1				○						1	標準外
			キャリア実習（短期就業体験）	1・2・3・4前・後・休			1				○						1	標準外
			キャリア実習（長期インターンシップ）	3・4前・休			2				○						1	標準外
			キャリア実習（長期就業体験）	1・2・3・4前・後・休			2				○						1	標準外
			ボランティア活動（短期）	1後、2・3・4前・後			1				○						1	
			ボランティア活動（中期）	1後、2・3・4前・後			2				○	1						
			ボランティア活動（長期）	2・3・4後			6				○						1	
			市民活動の役割と意義	1・2・3・4前			2		○			1						
			今年の一冊	1・2・3・4前			2		○								1	
			科学技術入門	1・2・3・4前			2		○								1	
			数学の基礎	1・2・3・4後			2		○								1	
			生命科学と倫理	1・2・3・4前			2		○								1	
			日本国憲法	1・2・3・4前・後			2		○								1	
			哲学Ａ	1・2・3・4前			2		○								1	
			哲学Ｂ	1・2・3・4後			2		○								1	
			心理学	1・2・3・4前・後			2		○								1	
			青年心理	1・2・3・4前・後			2		○								1	
			プロジェクト演習	2前			1			○							3	
			小計（58科目）	－	－	4	110	0	－			4	2				64	－
	語学科目		英語Ｉｓ（聞く・話す）	1前			1			○							19	
			英語Ｉｓ（読む・書く）	1前			1			○							21	
			英語Ⅱｓ（聞く・話す）	1後			1			○							9	
			英語Ⅱｓ（読む・書く）	1後			1			○							11	
			英語Ⅲｓ（聞く・話す）	2前			1			○							10	
			英語Ⅲｓ（読む・書く）	2前			1			○							9	
			英語Ⅳｓ（聞く・話す）	2後			1			○							9	
			英語Ⅳｓ（読む・書く）	2後			1			○							8	
			英語Ⅱｉ（分析・理解）	1後			2			○							4	
			英語Ⅱｉ（発信・表現）	1後			2			○							4	
			英語Ⅱｉ（プロジェクト）	1後			1			○							4	
			英語Ⅲｉ（分析・理解）	2前			2			○							5	
			英語Ⅲｉ（発信・表現）	2前			2			○							5	
			英語Ⅲｉ（プロジェクト）	2前			1			○							4	
			英語Ⅳｉ（分析・理解）	2後			2			○							4	

科目区分			授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
						必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外の教員（助手を除く）	
全学教養教育	共通科目	語学科目	英語Ⅳｉ（発信・表現）	2後			2			○							4	
			英語Ⅳｉ（プロジェクト）	2後			1			○							4	
			英語Ⅴｉ（プロジェクト）	3前			1			○							4	
			英語e（Academic Reading）	1・2・3・4前・後			1			○							2	
			英語e（Discussion and Debate）	1・2・3・4前			1			○							1	
			英語e（English through Movies）	1・2・3・4後			1			○							1	
			英語e（TOEFL-iBT PreparationⅠ）	1・2・3・4前・後			1			○							3	
			英語e（TOEIC Preparation Ⅰ）	1・2・3・4前・後、1・2・3・4前・後・休			1			○		1					3	標準外（一部）
			英語e（TOEIC Preparation Ⅲ）	1・2・3・4前			1			○							1	
			英語e（Academic Reading: Advanced）	1・2・3・4前			1			○							1	
			英語e（Conversation Skills: Basic）	1・2・3・4前・後			1			○							2	
			英語e（News and Views）	1・2・3・4前			1			○							1	
			英語e（Creative Writing）	1・2・3・4前・後			1			○							1	
			英語e（Academic Listening）	1・2・3・4前・後			1			○							2	
			英語e（Conversation Skills: Advanced）	1・2・3・4前・後			1			○							2	
			英語e（English through Music: Basic）	1・2・3・4後			1			○							1	
			英語e（Grammar: Basic）	1・2・3・4前・後			1			○							3	
			英語e（Business Communication）	1・2・3・4前・後			1			○							2	
			英語e（Speech and Debate）	1・2・3・4後			1			○							1	
			英語e（TOEIC Preparation Ⅱ: Listening）	1・2・3・4後			1			○							1	
			英語e（TOEIC Preparation Ⅱ: Reading）	1・2・3・4前			1			○							1	
			英語e（Pronunciation: Basic）	1・2・3・4前・後			1			○							2	
			英語e（Writing Skills）	1・2・3・4前・後			1			○							2	
			英語e（Vocabulary）	1・2・3・4前			1			○							2	
			英語e（TOEFL-iBT Preparation Ⅱ: Reading/Writing）	1・2・3・4前			1			○							1	
			英語e（TOEFL-iBT Preparation Ⅱ:Listening/Speaking）	1・2・3・4後			1			○							1	
			英語e（Extensive Reading）	1・2・3・4前・後			1			○							2	
			英語e（Special Topic）	1・2・3・4前・後			1			○							10	
			英語e（IELTS PreparationⅠ）	1・2・3・4前・後			1			○							2	
			英語e（IELTS PreparationⅡ）	1・2・3・4前・後			1			○							2	
			英語e（Songs and Poems）	1・2・3・4後			1			○							1	
			英語e（EIKEN Grade 2 Preparation）	1・2・3・4前・後			1			○							2	
			英語e（EIKEN Grade Pre-1 Preparation）	1・2・3・4前・後			1			○							2	
			英語e（Pre-Study Abroad: Basic）	1・2・3・4前			1			○							1	
			海外語学実習（アメリカ）	1・2・3・4前・休			2				○						1	標準外
			海外語学実習（イギリス）	1・2・3・4前・休			2				○						1	標準外
			海外語学実習（カナダ）	1・2・3後・休			2				○	1						標準外
			フランス語Ⅰ（入門）	1前			1			○			1				4	
			フランス語Ⅱｓ（文法）	1後			1			○							2	
			フランス語Ⅱｓ（理解）	1後			1			○							2	
			フランス語Ⅱｓ（表現）	1後			1			○							1	
			フランス語Ⅲｓ（文法）	2前			1			○							1	
			フランス語Ⅲｓ（理解）	2前			1			○							2	
			フランス語Ⅲｓ（表現）	2前			1			○							1	
			フランス語Ⅳｓ（文法）	2後			1			○							1	
			フランス語Ⅳｓ（理解）	2後			1			○							2	
			フランス語Ⅳｓ（表現）	2後			1			○							1	
			フランス語Ⅱｉ（文法）	1後			3			○							2	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
			フランス語Ⅱｉ（理解）	1後			1			○							1	
			フランス語Ⅱｉ（表現）	1後			1			○							1	
			フランス語Ⅱｉ（総合）	1後			1			○							1	
			フランス語Ⅲｉ（文法）	2前			2			○							1	
			フランス語Ⅲｉ（理解）	2前			1			○							1	
			フランス語Ⅲｉ（表現）	2前			1			○							1	
			フランス語Ⅲｉ（総合）	2前			1			○							1	
			フランス語Ⅳｉ（文法）	2後			2			○			1				1	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
			フランス語Ⅳｉ（理解）	2後			1			○							1	
			フランス語Ⅳｉ（表現）	2後			1			○							1	
			フランス語Ⅳｉ（総合）	2後			1			○							1	
			フランス語Ⅴｉ（理解）	3・4前			1			○			1					
			フランス語Ⅴｉ（表現）	3・4前			1			○							1	
			フランス語Ⅴｉ（総合）	3・4前			1			○		1						
			フランス語Ⅵｉ（理解）	3・4後			1			○							1	
			フランス語Ⅵｉ（表現）	3・4後			1			○							1	
			フランス語Ⅵｉ（総合）	3・4後			1			○			1					
			海外語学実習（フランス語）	1・2・3・4前・休			2				○						1	標準外
			ドイツ語Ⅰ（入門）	1前			1			○		1	1				4	
			ドイツ語Ⅱｓ（文法）	1後			1			○							2	
			ドイツ語Ⅱｓ（理解）	1後			1			○							2	
			ドイツ語Ⅱｓ（表現）	1後			1			○							1	
			ドイツ語Ⅲｓ（文法）	2前			1			○							2	
			ドイツ語Ⅲｓ（理解）	2前			1			○							2	
			ドイツ語Ⅲｓ（表現）	2前			1			○							1	
			ドイツ語Ⅳｓ（文法）	2後			1			○							2	
			ドイツ語Ⅳｓ（理解）	2後			1			○							2	
			ドイツ語Ⅳｓ（表現）	2後			1			○							1	
			ドイツ語Ⅱｉ（文法）	1後			3			○							2	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
			ドイツ語Ⅱｉ（理解）	1後			1			○		1						
			ドイツ語Ⅱｉ（表現）	1後			1			○							1	
			ドイツ語Ⅱｉ（総合）	1後			1			○							1	

科目区分			授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
						必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外の教員（助手を除く）	
全学教養教育	共通科目	語学科目	ドイツ語Ⅲｉ（文法）	2前			2			○							1	
			ドイツ語Ⅲｉ（理解）	2前			1			○							1	
			ドイツ語Ⅲｉ（表現）	2前			1			○							1	
			ドイツ語Ⅲｉ（総合）	2前			1			○							1	
			ドイツ語Ⅳｉ（文法）	2後			2			○							2	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
			ドイツ語Ⅳｉ（理解）	2後			1			○			1					
			ドイツ語Ⅳｉ（表現）	2後			1			○							1	
			ドイツ語Ⅳｉ（総合）	2後			1			○							1	
			ドイツ語Ⅴｉ（理解）	3・4前			1			○							1	
			ドイツ語Ⅴｉ（表現）	3・4前			1			○							1	
			ドイツ語Ⅴｉ（総合）	3・4前			1			○		1						
			ドイツ語Ⅵｉ（理解）	3・4後			1			○		1						
			ドイツ語Ⅵｉ（表現）	3・4後			1			○							1	
			ドイツ語Ⅵｉ（総合）	3・4後			1			○			1					
			海外語学実習（ドイツ語）	1・2・3・4前・休			2				○		1					標準外
			スペイン語Ⅰ（入門）	1前			1			○							7	
			スペイン語Ⅱｓ（文法）	1後			1			○							2	
			スペイン語Ⅱｓ（理解）	1後			1			○							2	
			スペイン語Ⅱｓ（表現）	1後			1			○							1	
			スペイン語Ⅲｓ（文法）	2前			1			○							2	
			スペイン語Ⅲｓ（理解）	2前			1			○							2	
			スペイン語Ⅲｓ（表現）	2前			1			○							1	
			スペイン語Ⅳｓ（文法）	2後			1			○							2	
			スペイン語Ⅳｓ（理解）	2後			1			○							2	
			スペイン語Ⅳｓ（表現）	2後			1			○							1	
			スペイン語Ⅱｉ（文法）	1後			3			○							2	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
			スペイン語Ⅱｉ（理解）	1後			1			○							1	
			スペイン語Ⅱｉ（表現）	1後			1			○							1	
			スペイン語Ⅱｉ（総合）	1後			1			○							1	
			スペイン語Ⅲｉ（文法）	2前			2			○							2	
			スペイン語Ⅲｉ（理解）	2前			1			○							1	
			スペイン語Ⅲｉ（表現）	2前			1			○							1	
			スペイン語Ⅲｉ（総合）	2前			1			○							1	
			スペイン語Ⅳｉ（文法）	2後			2			○							2	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
			スペイン語Ⅳｉ（理解）	2後			1			○							1	
			スペイン語Ⅳｉ（表現）	2後			1			○							1	
			スペイン語Ⅳｉ（総合）	2後			1			○							1	
			スペイン語Ⅴｉ（理解）	3・4前			1			○							1	
			スペイン語Ⅴｉ（表現）	3・4前			1			○							1	
			スペイン語Ⅴｉ（総合）	3・4前			1			○							1	
			スペイン語Ⅵｉ（理解）	3・4後			1			○							1	
			スペイン語Ⅵｉ（表現）	3・4後			1			○							1	
			スペイン語Ⅵｉ（総合）	3・4後			1			○							1	
			海外語学実習（スペイン語）	1・2・3・4前・休			2				○						1	標準外
			中国語Ⅰ（入門）	1前			1			○							8	
			中国語Ⅱｓ（文法）	1後			1			○							3	
			中国語Ⅱｓ（理解）	1後			1			○							2	
			中国語Ⅱｓ（表現）	1後			1			○							1	
			中国語Ⅲｓ（文法）	2前			1			○							2	
			中国語Ⅲｓ（理解）	2前			1			○							2	
			中国語Ⅲｓ（表現）	2前			1			○							1	
			中国語Ⅳｓ（文法）	2後			1			○							1	
			中国語Ⅳｓ（理解）	2後			1			○							2	
			中国語Ⅳｓ（表現）	2後			1			○							2	
			中国語Ⅱｉ（文法）	1後			3			○							3	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
			中国語Ⅱｉ（理解）	1後			1			○							1	
			中国語Ⅱｉ（表現）	1後			1			○							1	
			中国語Ⅱｉ（総合）	1後			1			○		1						
			中国語Ⅲｉ（文法）	2前			2			○		1					1	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
			中国語Ⅲｉ（理解）	2前			1			○							1	
			中国語Ⅲｉ（表現）	2前			1			○							1	
			中国語Ⅲｉ（総合）	2前			1			○							1	
			中国語Ⅳｉ（文法）	2後			2			○							2	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
			中国語Ⅳｉ（理解）	2後			1			○							1	
			中国語Ⅳｉ（表現）	2後			1			○							1	
			中国語Ⅳｉ（総合）	2後			1			○		1						
			中国語Ⅴｉ（理解）	3・4前			1			○							1	
			中国語Ⅴｉ（表現）	3・4前			1			○							1	
			中国語Ⅴｉ（総合）	3・4前			1			○		1						
			中国語Ⅵｉ（理解）	3・4後			1			○							1	
			中国語Ⅵｉ（表現）	3・4後			1			○							1	
			中国語Ⅵｉ（総合）	3・4後			1			○							1	
			海外語学実習（中国語）	1・2・3・4前・休			2				○						1	標準外
			韓国語Ⅰ（入門）	1前			1			○							8	
			韓国語Ⅱｓ（文法）	1後			1			○							2	
			韓国語Ⅱｓ（理解）	1後			1			○							2	
			韓国語Ⅱｓ（表現）	1後			1			○							1	
			韓国語Ⅲｓ（文法）	2前			1			○							2	
			韓国語Ⅲｓ（理解）	2前			1			○							2	
			韓国語Ⅲｓ（表現）	2前			1			○							1	

科目区分			授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
						必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外の教員（助手を除く）	
全学教養教育	共通科目	語学科目	韓国語Ⅳｓ（文法）	2後			1			○							3	
			韓国語Ⅳｓ（理解）	2後			1			○							2	
			韓国語Ⅳｓ（表現）	2後			1			○							1	
			韓国語Ⅱｉ（文法）	1後			3			○							2	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
			韓国語Ⅱｉ（理解）	1後			1			○							1	
			韓国語Ⅱｉ（表現）	1後			1			○							1	
			韓国語Ⅱｉ（総合）	1後			1			○							1	
			韓国語Ⅲｉ（文法）	2前			2			○							1	
			韓国語Ⅲｉ（理解）	2前			1			○							1	
			韓国語Ⅲｉ（表現）	2前			1			○							1	
			韓国語Ⅲｉ（総合）	2前			1			○							1	
			韓国語Ⅳｉ（文法）	2後			2			○							2	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
			韓国語Ⅳｉ（理解）	2後			1			○							1	
			韓国語Ⅳｉ（表現）	2後			1			○							1	
			韓国語Ⅳｉ（総合）	2後			1			○							1	
			韓国語Ⅴｉ（理解）	3・4前			1			○							1	
			韓国語Ⅴｉ（表現）	3・4前			1			○							1	
			韓国語Ⅴｉ（総合）	3・4前			1			○		1						
			韓国語Ⅵｉ（理解）	3・4後			1			○							1	
			韓国語Ⅵｉ（表現）	3・4後			1			○							1	
			韓国語Ⅵｉ（総合）	3・4後			1			○		1						
			海外語学実習（韓国語）	1・2・3・4前・休			2				○						1	標準外
			イタリア語Ⅰ（基礎）	1・2・3・4前			1			○							2	
			イタリア語Ⅱ（文法）	1・2・3・4後			1			○							1	
			イタリア語Ⅱ（理解）	1・2・3・4後			1			○							1	
			イタリア語Ⅲ（理解）	2・3・4前			1			○							1	
			イタリア語Ⅲ（表現）	2・3・4前			1			○							1	
			イタリア語Ⅳ（理解）	2・3・4後			1			○							1	
			イタリア語Ⅳ（表現）	2・3・4後			1			○							1	
			ラテン語Ⅰ（文法）	1・2・3・4前			1			○							1	
			ラテン語Ⅱ（文法）	1・2・3・4後			1			○							1	
			ラテン語Ⅲ（読む）	2・3・4前			1			○							1	隔年
			ラテン語Ⅳ（読む）	2・3・4後			1			○							1	隔年
			古典ギリシア語Ⅰ（文法）	1・2・3・4前			1			○							1	隔年
			古典ギリシア語Ⅱ（文法）	1・2・3・4後			1			○							1	隔年
			古典ギリシア語Ⅲ（読む）	2・3・4前			1			○							1	隔年
			古典ギリシア語Ⅳ（読む）	2・3・4後			1			○							1	隔年
			日本語Ⅰ	1・2・3・4前			1			○							1	
			日本語Ⅱ	1・2・3・4後			1			○							1	
			小計（214科目）	－	－	0	248	0	－			6	2				97	－
		ＰＡ（パフォーミングアーツ）科目	ＰＡヴォーカル	1・2・3・4前・後			2			○							6	
			ＰＡ鍵盤楽器	1・2・3・4前・後			2			○							9	
			ＰＡ弦楽器	1・2・3・4前・後			2			○							11	
			ＰＡ管楽器	1・2・3・4前・後			2			○							7	
			ＰＡ打楽器	1・2・3・4前・後			2			○							1	
			ＰＡ制作	1・2・3・4前・後			2			○							2	
			ＰＡアンサンブル１	1・2・3・4前・後			1			○							3	
			ＰＡアンサンブル２	1・2・3・4前・後			2			○							2	
			ＰＡ舞台芸術１	1・2・3・4前・後			1			○							4	
			ＰＡ舞台芸術２	1・2・3・4前・後			2			○							2	
			ＰＡ舞台芸術３	1・2・3・4前・後			3			○							1	
			小計（11科目）	－	－	0	21	0	－			0	0				41	－
		日本語科目及び日本事情に関する科目	大学で学ぶ日本語Ⅰ	1・2・3・4前・後			1		○								2	
			大学で学ぶ日本語Ⅱ	1・2・3・4前・後			1		○								2	
			日本事情Ａ	1・2・3・4前			2		○								2	
			日本事情Ｂ	1・2・3・4後			2		○								2	
			小計（4科目）	－	－	0	6	0	－			0	0				4	－
	基礎科目	国際社会	学科の学び	1前	○	2			○			12	4					ｵﾑﾆﾊﾞｽ・共同（一部）
			国際学への招待	1後	○	2			○			3						ｵﾑﾆﾊﾞｽ
			導入ゼミ	1前	○	1				○		9	1					
			基礎ゼミ	1後、2前・後	○	1				○		11	4					
			小計（4科目）	－	－	6	0	0	－			15	4				0	－
	学科専門科目	国際社会基幹科目	国際協力入門	1・2前	○		2		○			1						
			国際政治入門	1・2前	○		2		○			1						
			国際政治経済入門	1・2後	○		2		○			1						
			政治思想入門	1・2後			2		○			1						
			政治学概論	1・2・3・4前			2		○			1						
			経済学入門（マクロ）	1・2前	○		2		○			1						
			経済学入門（ミクロ）	1・2後	○		2		○			1						
			日本経済入門	1・2前	○		2		○			1						
			国際ビジネス入門	1・2後	○		2		○			1						
			グローバル経済史入門	1・2後			2		○			1						
			社会データ分析入門	1・2前			2		○				1					
			観光学入門	1・2前			2		○			1						
			社会学概論Ａ	1・2・3・4前			2		○			1						
			社会学概論Ｂ	1・2・3・4後			2		○			1						
			環境学入門	1・2後	○		2		○			1						
			環境経済学入門	1・2前	○		2		○			1						
			地域環境入門	1・2前	○		2		○				1					
			法学概論	1・2前	○		2		○			1						

科目区分		授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外の教員（助手を除く）	
学科専門科目	国際社会基幹科目	アメリカ史入門	1・2後			2		○			1						
		ヨーロッパ史入門	1・2前			2		○				1					
		アジア史入門	1・2後			2		○			1						
		東アジア史入門	1・2前			2		○			1						
		小計（22科目）	－	－	0	44	0	－			15	3				0	－
	国際社会発展科目 国際関係	国際協力論	2・3後	○		2		○			1						
		国際開発論	2前			2		○			1						
		開発援助論	2後			2		○			1						
		国際政治学	2・3後	○		2		○			1						
		平和構築	2前			2		○			1						
		外交政策論	2後			2		○			1						
		国際政治経済学	2・3前			2		○			1						
		比較政治学	2前			2		○			1						
		アメリカ政治経済論	2後			2		○			1						
		英語で学ぶ国際関係	2・3・4後			2		○			1						
		文化の政治学	2前			2		○			1						
		現代アメリカ政治思想	2前			2		○			1						
		国際社会と地域	2・3前・後			2		○								5	
		小計（13科目）	－	－	0	26	0	－			5	0				5	－
		開発経済学	2・3前			2		○			1						
		国際経済学	2後	○		2		○			1						
		金融論	2前			2		○			1						
		日本経済論	2・3後			2		○			1						
		日本経済史	2前			2		○			1						
		日本経営史	2後			2		○			1						
		日本企業論	2後			2		○			1						
		国際ビジネス論	2・3前	○		2		○			1						
		国際経営戦略論	2後			2		○			1						
		マーケティング論	2前			2		○			1						
		観光ビジネス論	2後			2		○			1						
		社会データ分析	2後			2		○				1					
		プログラミングとデータの可視化	2後			2		○				1					
		データ分析設計	2前			2		○				1					
		日本の経済と経営	2・3前・後			2		○								2	
		英語で学ぶ観光学	2・3・4後			2		○			1						
		観光史	2後			2		○			1						
		観光学	2前			2		○			1						
		観光・地域創生実習	2・3・4後			2				○	1						
		観光文化論	2・3前			2		○								1	
		横浜学	2・3前			2		○								1	
		小計（21科目）	－	－	0	42	0	－			5	1				4	－
		環境学	2・3後			2		○			1						
		資源利用論	2前			2		○			1						
		環境学実習	2・3・4前			2				○	1						
		環境経済学	2・3後	○		2		○			1						
		環境政策論	2前	○		2		○			1						
		ボランティア論	2前			2		○			1						
		地域環境学	2前			2		○				1					
		地域環境研究	2後			2		○				1					
		法学研究	2後			2		○			1						
		比較法	2前			2		○			1						
		環境法	2後			2		○			1						
		ジェンダーと法	2後			2		○								1	
		世界の環境問題	2・3前・後			2		○								3	
		人文地理学	1・2・3・4前			2		○								1	
		自然地理学	1・2・3・4前			2		○								1	
		地誌	1・2・3・4後			2		○								1	
		小計（16科目）	－	－	0	32	0	－			3	1				6	－
		グローバル・ヒストリー	2前	○		2		○			1						
		グローバル・ヒストリー研究	2後	○		2		○			1						
		アメリカ史研究	2前			2		○			1						
		ヨーロッパ史研究	2後			2		○				1					
		ヨーロッパ地域研究	2前			2		○			1						
		現代中国論	2前			2		○			1						
		東アジア国際関係史	2後			2		○			1						
		東アジア研究（韓国）	2前			2		○			1						
		東アジア研究（北朝鮮）	2後			2		○			1						
		現代宗教論	2後			2		○				1					
		世界史概説Ａ	1・2・3・4前			2		○								1	
		世界史概説Ｂ	1・2・3・4後			2		○								1	
		日本史概説Ａ	1・2・3・4前			2		○								1	
		日本史概説Ｂ	1・2・3・4後			2		○								1	
		小計（14科目）	－	－	0	28	0	－			4	2				3	－
	専門演習科目 国際社会	専門ゼミⅠＡ	3前	○	1				○		15	4					
		専門ゼミⅠＢ	3後	○	1				○		15	4					
		専門ゼミⅡＡ	4前	○	1				○		15	4					
		専門ゼミⅡＢ	4後	○	1				○		15	4					
		卒業論文	4通	○	6				○		15	4					
		小計（5科目）	－	－	10	0	0	－			15	4				0	－
	海外実習科目	海外現地実習	1・2・3・4前・後・休			2				○	3						標準外
		小計（1科目）	－	－	0	2	0	－			3	0				0	－

科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員（助手を除く）以外の教員	
教職に関する科目	社会・地理歴史科教育法Ⅰ	3前				4	○								1	
	社会・地理歴史科教育法Ⅱ	3後				4	○								1	
	社会・公民科教育法Ⅰ	3前				4	○								1	
	社会・公民科教育法Ⅱ	3後				4	○								1	
	教育原理	1・2・3・4前			2		○								1	
	教育思想	1・2・3・4前			2		○								1	
	教職入門	1後				2	○								1	
	教育社会学	1・2・3・4前・後			2		○								1	
	教育心理学	1・2・3・4前・後			2		○								1	
	特別支援教育の基礎と方法	2前・後				1	○								1	標準外
	教育課程論	2前・後				2	○								1	
	道徳教育の理論と実践	2前・後				2	○								1	
	総合的な学習の時間の指導法	2・3前・後				1	○								1	標準外
	特別活動	2・3前・後				2	○								1	
	教育の方法・技術（情報通信技術の活用含む）	2・3前・後				2	○								1	
	生徒・進路指導の理論と方法	2・3前・後				2	○								1	
	教育相談	2・3前・後				2	○								1	標準外（前期のみ）
	教育実習１	3後				1			○						2	標準外・共同
	教育実習２	4通				2			○						2	標準外・共同
	教育実習３	4通				2			○						2	標準外・共同
	教職実践演習（中・高）	4後				2		○							5	共同
	小計（21科目）	－	－	0	8	23	－			0	0				12	－
合計（404科目）		－	－	20	567	23	－			15	4				226	

学位又は称号	学士（国際社会）	学位又は学科の分野	文学関係、法学関係、経済学関係

卒業・修了要件及び履修方法	授業期間等	
全学教養教育から必修4単位、選択必修12単位、語学科目は履修コースにより選択必修10単位・16単位・22単位のいずれかを修得。 学科専門科目から必修17単位（うち「基礎ゼミ」は配当年次別に2単位を修得）、選択必修30単位を修得。 全学教養教育及び学科専門科目のなかから、語学科目の履修コースに応じて選択51単位・45単位・39単位のいずれかを修得。 以上、合計124単位修得すること。 （履修登録の上限：24単位（1学期））	１学年の学期区分	２期
	１学期の授業期間	15週
	１時限の授業の標準時間	90分

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（グローバル教養学部心理コミュニケーション学科）

科目区分			授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
						必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外の教員（助手を除く）	
全学教養教育	共通科目	CLAコア科目	キリスト教概論	1前・後		2			○			1					3	
			キリスト教学	1・2前・後		2			○			3					8	
			フェリス女学院とキリスト教	1・2・3・4後			2		○								1	隔年
			一神教概論	1・2・3・4後			2		○								1	隔年
			アカデミック・ライティング入門	1前・後			2		○								3	
			アカデミック・ライティング	2・3・4前・後			2		○								2	
			プレゼンテーションのスキル	1・2・3・4前・後			2		○								1	
			ディスカッションのスキル	1・2・3・4後・休			2		○								1	標準外
			健康・スポーツ論	1・2・3・4前・後			2		○								2	
			スポーツ実習	1・2・3・4前・後			1				○						7	
			情報リテラシー基礎	1前・後			2		○								2	
			情報リテラシー：コンピュータサイエンス入門	1・2・3・4前・後			2		○								1	
			情報リテラシー：データサイエンス入門	1・2・3・4前・後			2		○								1	
			情報科学：コンピュータと社会	1・2・3・4前			2		○								1	
			情報科学：ソフトウェアとビジネス	1・2・3・4後			2		○								1	
			情報とメディアのリテラシー	1・2・3・4後			2		○								1	
			ジェンダーと教育の歴史	1・2・3・4後			2		○			1						
			ジェンダーから学ぶ現代社会	1・2・3・4後			2		○			3	2				5	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
			ジェンダー特論	1・2・3・4前			2		○								1	
			男女共同参画政策	1・2・3・4後			2		○				1					
			地域社会と女性リーダー	1・2・3・4前			2		○			1						
			ジェンダーと人権	1・2・3・4前			2		○								1	
			男性学	1・2・3・4後			2		○				1					
			グローバリゼーションとジェンダー	1・2・3・4後			2		○			1						
			ジェンダー＆セクシュアリティ入門	1・2・3・4前			2		○				1					
			プロジェクトで学ぶ	3・4前・後			1			○			2					
			デザインと表現	1・2・3・4後			2		○								4	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
			デザイン概論	1・2・3・4前			2		○								1	
			ことばとデザイン	1・2・3・4後			2		○								1	
			美術芸術論	1・2・3・4後・休			2		○								1	標準外
			ファッションデザイン論	1・2・3・4後			2		○								1	
			メディア・デザイン	1・2・3・4前			2		○								1	
			読書とメディア	1・2・3・4後			2		○								1	
			コピーライティング演習	1・2・3・4前			2			○							1	
			住空間デザイン	1・2・3・4前			2		○								1	
			都市生活の空間デザイン	1・2・3・4前			2		○								1	
			キャリア形成の基礎	1・2・3・4前・後、1・2・3・4前・休			2			○							3	標準外（一部）
			キャリア形成の意義	1・2・3・4前・後			2			○							2	
			キャリア形成の実際	1・2・3・4後、1・2・3・4後・休			2			○							2	標準外（一部）
			キャリア形成の諸問題	1・2・3・4前・後			2			○							2	
			キャリア実習（短期インターンシップ）	3・4前・休			1				○						1	標準外
			キャリア実習（短期就業体験）	1・2・3・4前・後・休			1				○						1	標準外
			キャリア実習（長期インターンシップ）	3・4前・休			2				○						1	標準外
			キャリア実習（長期就業体験）	1・2・3・4前・後・休			2				○						1	標準外
			ボランティア活動（短期）	1後、2・3・4前・後			1				○	1						
			ボランティア活動（中期）	1後、2・3・4前・後			2				○						1	
			ボランティア活動（長期）	2・3・4後			6				○						1	
			市民活動の役割と意義	1・2・3・4前			2		○								1	
			今年の一冊	1・2・3・4前			2		○								1	
			科学技術入門	1・2・3・4前			2		○								1	
			数学の基礎	1・2・3・4後			2		○								1	
			生命科学と倫理	1・2・3・4前			2		○								1	
			日本国憲法	1・2・3・4前・後			2		○								1	
			哲学Ａ	1・2・3・4前			2		○								1	
			哲学Ｂ	1・2・3・4後			2		○								1	
			心理学	1・2・3・4前・後			2		○								1	
			青年心理	1・2・3・4前・後			2		○								1	
			プロジェクト演習	2前			1			○							3	
			小計（58科目）	－	－	4	110	0	－			5	2	0			64	－
	語学科目		英語Ｉｓ（聞く・話す）	1前			1			○							19	
			英語Ｉｓ（読む・書く）	1前			1			○			1				20	
			英語Ⅱｓ（聞く・話す）	1後			1			○							9	
			英語Ⅱｓ（読む・書く）	1後			1			○							11	
			英語Ⅲｓ（聞く・話す）	2前			1			○							10	
			英語Ⅲｓ（読む・書く）	2前			1			○							9	
			英語Ⅳｓ（聞く・話す）	2後			1			○							9	
			英語Ⅳｓ（読む・書く）	2後			1			○							8	
			英語Ⅱｉ（分析・理解）	1後			2			○							4	
			英語Ⅱｉ（発信・表現）	1後			2			○							4	
			英語Ⅱｉ（プロジェクト）	1後			1			○							4	
			英語Ⅲｉ（分析・理解）	2前			2			○							5	
			英語Ⅲｉ（発信・表現）	2前			2			○							5	
			英語Ⅲｉ（プロジェクト）	2前			1			○							4	
			英語Ⅳｉ（分析・理解）	2後			2			○							4	

科目区分			授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
						必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外の教員（助手を除く）	
全学教養教育	共通科目	語学科目	英語Ⅳｉ（発信・表現）	2後			2			○							4	
			英語Ⅳｉ（プロジェクト）	2後			1			○							4	
			英語Ⅴｉ（プロジェクト）	3前			1			○							4	
			英語e（Academic Reading）	1・2・3・4前・後			1			○							2	
			英語e（Discussion and Debate）	1・2・3・4前			1			○							1	
			英語e（English through Movies）	1・2・3・4後			1			○			1					
			英語e（TOEFL-iBT PreparationⅠ）	1・2・3・4前・後			1			○							3	
			英語e（TOEIC Preparation Ⅰ）	1・2・3・4前・後、1・2・3・4前・後・休			1			○							4	標準外（一部）
			英語e（TOEIC Preparation Ⅲ）	1・2・3・4前			1			○							1	
			英語e（Academic Reading: Advanced）	1・2・3・4前			1			○							1	
			英語e（Conversation Skills: Basic）	1・2・3・4前・後			1			○							2	
			英語e（News and Views）	1・2・3・4前			1			○							1	
			英語e（Creative Writing）	1・2・3・4前・後			1			○							1	
			英語e（Academic Listening）	1・2・3・4前・後			1			○							2	
			英語e（Conversation Skills: Advanced）	1・2・3・4前・後			1			○							2	
			英語e（English through Music: Basic）	1・2・3・4後			1			○		1						
			英語e（Grammar: Basic）	1・2・3・4前・後			1			○							3	
			英語e（Business Communication）	1・2・3・4前・後			1			○							2	
			英語e（Speech and Debate）	1・2・3・4後			1			○							1	
			英語e（TOEIC Preparation Ⅱ: Listening）	1・2・3・4後			1			○							1	
			英語e（TOEIC Preparation Ⅱ: Reading）	1・2・3・4前			1			○		1						
			英語e（Pronunciation: Basic）	1・2・3・4前・後			1			○							2	
			英語e（Writing Skills）	1・2・3・4前・後			1			○							2	
			英語e（Vocabulary）	1・2・3・4前			1			○							2	
			英語e（TOEFL-iBT Preparation Ⅱ: Reading/Writing）	1・2・3・4前			1			○							1	
			英語e（TOEFL-iBT Preparation Ⅱ:Listening/Speaking）	1・2・3・4後			1			○							1	
			英語e（Extensive Reading）	1・2・3・4前・後			1			○		1					1	
			英語e（Special Topic）	1・2・3・4前・後			1			○		1					9	
			英語e（IELTS PreparationⅠ）	1・2・3・4前・後			1			○							2	
			英語e（IELTS PreparationⅡ）	1・2・3・4前・後			1			○							2	
			英語e（Songs and Poems）	1・2・3・4後			1			○							1	
			英語e（EIKEN Grade 2 Preparation）	1・2・3・4前・後			1			○							2	
			英語e（EIKEN Grade Pre-1 Preparation）	1・2・3・4前・後			1			○							2	
			英語e（Pre-Study Abroad: Basic）	1・2・3・4前			1			○							1	
			海外語学実習（アメリカ）	1・2・3・4前・休			2				○						1	標準外
			海外語学実習（イギリス）	1・2・3・4前・休			2				○						1	標準外
			海外語学実習（カナダ）	1・2・3後・休			2				○						1	標準外
			フランス語Ⅰ（入門）	1前			1			○							5	
			フランス語Ⅱｓ（文法）	1後			1			○							2	
			フランス語Ⅱｓ（理解）	1後			1			○							2	
			フランス語Ⅱｓ（表現）	1後			1			○							1	
			フランス語Ⅲｓ（文法）	2前			1			○							1	
			フランス語Ⅲｓ（理解）	2前			1			○							2	
			フランス語Ⅲｓ（表現）	2前			1			○							1	
			フランス語Ⅳｓ（文法）	2後			1			○							1	
			フランス語Ⅳｓ（理解）	2後			1			○							2	
			フランス語Ⅳｓ（表現）	2後			1			○							1	
			フランス語Ⅱｉ（文法）	1後			3			○							2	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
			フランス語Ⅱｉ（理解）	1後			1			○							1	
			フランス語Ⅱｉ（表現）	1後			1			○							1	
			フランス語Ⅱｉ（総合）	1後			1			○							1	
			フランス語Ⅲｉ（文法）	2前			2			○							1	
			フランス語Ⅲｉ（理解）	2前			1			○							1	
			フランス語Ⅲｉ（表現）	2前			1			○							1	
			フランス語Ⅲｉ（総合）	2前			1			○							1	
			フランス語Ⅳｉ（文法）	2後			2			○							2	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
			フランス語Ⅳｉ（理解）	2後			1			○							1	
			フランス語Ⅳｉ（表現）	2後			1			○							1	
			フランス語Ⅳｉ（総合）	2後			1			○							1	
			フランス語Ⅴｉ（理解）	3・4前			1			○							1	
			フランス語Ⅴｉ（表現）	3・4前			1			○							1	
			フランス語Ⅴｉ（総合）	3・4前			1			○							1	
			フランス語Ⅵｉ（理解）	3・4後			1			○							1	
			フランス語Ⅵｉ（表現）	3・4後			1			○							1	
			フランス語Ⅵｉ（総合）	3・4後			1			○							1	
			海外語学実習（フランス語）	1・2・3・4前・休			2				○						1	標準外
			ドイツ語Ⅰ（入門）	1前			1			○							6	
			ドイツ語Ⅱｓ（文法）	1後			1			○							2	
			ドイツ語Ⅱｓ（理解）	1後			1			○							2	
			ドイツ語Ⅱｓ（表現）	1後			1			○							1	
			ドイツ語Ⅲｓ（文法）	2前			1			○							2	
			ドイツ語Ⅲｓ（理解）	2前			1			○							2	
			ドイツ語Ⅲｓ（表現）	2前			1			○							1	
			ドイツ語Ⅳｓ（文法）	2後			1			○							2	
			ドイツ語Ⅳｓ（理解）	2後			1			○							2	
			ドイツ語Ⅳｓ（表現）	2後			1			○							1	
			ドイツ語Ⅱｉ（文法）	1後			3			○							2	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
			ドイツ語Ⅱｉ（理解）	1後			1			○							1	
			ドイツ語Ⅱｉ（表現）	1後			1			○							1	

科目区分			授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
						必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外の教員（助手を除く）	
全学教養教育	共通科目	語学科目	ドイツ語Ⅱｉ（総合）	1後			1			○							1	
			ドイツ語Ⅲｉ（文法）	2前			2			○							1	
			ドイツ語Ⅲｉ（理解）	2前			1			○							1	
			ドイツ語Ⅲｉ（表現）	2前			1			○							1	
			ドイツ語Ⅲｉ（総合）	2前			1			○							1	
			ドイツ語Ⅳｉ（文法）	2後			2			○							2	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
			ドイツ語Ⅳｉ（理解）	2後			1			○							1	
			ドイツ語Ⅳｉ（表現）	2後			1			○							1	
			ドイツ語Ⅳｉ（総合）	2後			1			○							1	
			ドイツ語Ⅴｉ（理解）	3・4前			1			○							1	
			ドイツ語Ⅴｉ（表現）	3・4前			1			○							1	
			ドイツ語Ⅴｉ（総合）	3・4前			1			○							1	
			ドイツ語Ⅵｉ（理解）	3・4後			1			○							1	
			ドイツ語Ⅵｉ（表現）	3・4後			1			○							1	
			ドイツ語Ⅵｉ（総合）	3・4後			1			○							1	
			海外語学実習（ドイツ語）	1・2・3・4前・休			2				○						1	標準外
			スペイン語Ⅰ（入門）	1前			1			○							7	
			スペイン語Ⅱｓ（文法）	1後			1			○							2	
			スペイン語Ⅱｓ（理解）	1後			1			○							2	
			スペイン語Ⅱｓ（表現）	1後			1			○							1	
			スペイン語Ⅲｓ（文法）	2前			1			○							2	
			スペイン語Ⅲｓ（理解）	2前			1			○							2	
			スペイン語Ⅲｓ（表現）	2前			1			○							1	
			スペイン語Ⅳｓ（文法）	2後			1			○							2	
			スペイン語Ⅳｓ（理解）	2後			1			○							2	
			スペイン語Ⅳｓ（表現）	2後			1			○							1	
			スペイン語Ⅱｉ（文法）	1後			3			○							2	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
			スペイン語Ⅱｉ（理解）	1後			1			○							1	
			スペイン語Ⅱｉ（表現）	1後			1			○							1	
			スペイン語Ⅱｉ（総合）	1後			1			○							1	
			スペイン語Ⅲｉ（文法）	2前			2			○							2	
			スペイン語Ⅲｉ（理解）	2前			1			○							1	
			スペイン語Ⅲｉ（表現）	2前			1			○							1	
			スペイン語Ⅲｉ（総合）	2前			1			○							1	
			スペイン語Ⅳｉ（文法）	2後			2			○							2	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
			スペイン語Ⅳｉ（理解）	2後			1			○							1	
			スペイン語Ⅳｉ（表現）	2後			1			○							1	
			スペイン語Ⅳｉ（総合）	2後			1			○							1	
			スペイン語Ⅴｉ（理解）	3・4前			1			○							1	
			スペイン語Ⅴｉ（表現）	3・4前			1			○							1	
			スペイン語Ⅴｉ（総合）	3・4前			1			○							1	
			スペイン語Ⅵｉ（理解）	3・4後			1			○							1	
			スペイン語Ⅵｉ（表現）	3・4後			1			○							1	
			スペイン語Ⅵｉ（総合）	3・4後			1			○							1	
			海外語学実習（スペイン語）	1・2・3・4前・休			2				○						1	標準外
			中国語Ⅰ（入門）	1前			1			○							8	
			中国語Ⅱｓ（文法）	1後			1			○							3	
			中国語Ⅱｓ（理解）	1後			1			○							2	
			中国語Ⅱｓ（表現）	1後			1			○							1	
			中国語Ⅲｓ（文法）	2前			1			○							2	
			中国語Ⅲｓ（理解）	2前			1			○							2	
			中国語Ⅲｓ（表現）	2前			1			○							1	
			中国語Ⅳｓ（文法）	2後			1			○							1	
			中国語Ⅳｓ（理解）	2後			1			○							2	
			中国語Ⅳｓ（表現）	2後			1			○							2	
			中国語Ⅱｉ（文法）	1後			3			○							3	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
			中国語Ⅱｉ（理解）	1後			1			○							1	
			中国語Ⅱｉ（表現）	1後			1			○							1	
			中国語Ⅱｉ（総合）	1後			1			○							1	
			中国語Ⅲｉ（文法）	2前			2			○							2	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
			中国語Ⅲｉ（理解）	2前			1			○							1	
			中国語Ⅲｉ（表現）	2前			1			○							1	
			中国語Ⅲｉ（総合）	2前			1			○							1	
			中国語Ⅳｉ（文法）	2後			2			○							2	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
			中国語Ⅳｉ（理解）	2後			1			○							1	
			中国語Ⅳｉ（表現）	2後			1			○							1	
			中国語Ⅳｉ（総合）	2後			1			○							1	
			中国語Ⅴｉ（理解）	3・4前			1			○							1	
			中国語Ⅴｉ（表現）	3・4前			1			○							1	
			中国語Ⅴｉ（総合）	3・4前			1			○							1	
			中国語Ⅵｉ（理解）	3・4後			1			○							1	
			中国語Ⅵｉ（表現）	3・4後			1			○							1	
			中国語Ⅵｉ（総合）	3・4後			1			○							1	
			海外語学実習（中国語）	1・2・3・4前・休			2				○						1	標準外
			韓国語Ⅰ（入門）	1前			1			○							8	
			韓国語Ⅱｓ（文法）	1後			1			○							2	
			韓国語Ⅱｓ（理解）	1後			1			○							2	
			韓国語Ⅱｓ（表現）	1後			1			○							1	
			韓国語Ⅲｓ（文法）	2前			1			○							2	
			韓国語Ⅲｓ（理解）	2前			1			○							2	

科目区分			授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
						必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外の教員（助手を除く）	
全学教養教育	共通科目	語学科目	韓国語Ⅲｓ（表現）	2前			1			○							1	
			韓国語Ⅳｓ（文法）	2後			1			○							3	
			韓国語Ⅳｓ（理解）	2後			1			○							2	
			韓国語Ⅳｓ（表現）	2後			1			○							1	
			韓国語Ⅱｉ（文法）	1後			3			○							2	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
			韓国語Ⅱｉ（理解）	1後			1			○							1	
			韓国語Ⅱｉ（表現）	1後			1			○							1	
			韓国語Ⅱｉ（総合）	1後			1			○							1	
			韓国語Ⅲｉ（文法）	2前			2			○							1	
			韓国語Ⅲｉ（理解）	2前			1			○							1	
			韓国語Ⅲｉ（表現）	2前			1			○							1	
			韓国語Ⅲｉ（総合）	2前			1			○							1	
			韓国語Ⅳｉ（文法）	2後			2			○							2	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
			韓国語Ⅳｉ（理解）	2後			1			○							1	
			韓国語Ⅳｉ（表現）	2後			1			○							1	
			韓国語Ⅳｉ（総合）	2後			1			○							1	
			韓国語Ⅴｉ（理解）	3・4前			1			○							1	
			韓国語Ⅴｉ（表現）	3・4前			1			○							1	
			韓国語Ⅴｉ（総合）	3・4前			1			○							1	
			韓国語Ⅵｉ（理解）	3・4後			1			○							1	
			韓国語Ⅵｉ（表現）	3・4後			1			○							1	
			韓国語Ⅵｉ（総合）	3・4後			1			○							1	
			海外語学実習（韓国語）	1・2・3・4前・休			2				○						1	標準外
			イタリア語Ⅰ（基礎）	1・2・3・4前			1			○							2	
			イタリア語Ⅱ（文法）	1・2・3・4後			1			○							1	
			イタリア語Ⅱ（理解）	1・2・3・4後			1			○							1	
			イタリア語Ⅲ（理解）	2・3・4前			1			○							1	
			イタリア語Ⅲ（表現）	2・3・4前			1			○							1	
			イタリア語Ⅳ（理解）	2・3・4後			1			○							1	
			イタリア語Ⅳ（表現）	2・3・4後			1			○							1	
			ラテン語Ⅰ（文法）	1・2・3・4前			1			○							1	
			ラテン語Ⅱ（文法）	1・2・3・4後			1			○							1	
			ラテン語Ⅲ（読む）	2・3・4前			1			○							1	隔年
			ラテン語Ⅳ（読む）	2・3・4後			1			○							1	隔年
			古典ギリシア語Ⅰ（文法）	1・2・3・4前			1			○							1	隔年
			古典ギリシア語Ⅱ（文法）	1・2・3・4後			1			○							1	隔年
			古典ギリシア語Ⅲ（読む）	2・3・4前			1			○							1	隔年
			古典ギリシア語Ⅳ（読む）	2・3・4後			1			○							1	隔年
			日本語Ⅰ	1・2・3・4前			1			○							1	
			日本語Ⅱ	1・2・3・4後			1			○							1	
			小計（214科目）	－	－	0	248	0	－			2	1	0			102	－
	ＰＡ（パフォーミングアーツ）科目		ＰＡヴォーカル	1・2・3・4前・後			2			○							6	
			ＰＡ鍵盤楽器	1・2・3・4前・後			2			○							9	
			ＰＡ弦楽器	1・2・3・4前・後			2			○							11	
			ＰＡ管楽器	1・2・3・4前・後			2			○							7	
			ＰＡ打楽器	1・2・3・4前・後			2			○							1	
			ＰＡ制作	1・2・3・4前・後			2			○							2	
			ＰＡアンサンブル１	1・2・3・4前・後			1			○							3	
			ＰＡアンサンブル２	1・2・3・4前・後			2			○							2	
			ＰＡ舞台芸術１	1・2・3・4前・後			1			○							4	
			ＰＡ舞台芸術２	1・2・3・4前・後			2			○							2	
			ＰＡ舞台芸術３	1・2・3・4前・後			3			○							1	
			小計（11科目）	－	－	0	21	0	－			0	0	0			41	－
	日本語科目及び日本事情に関する科目		大学で学ぶ日本語Ⅰ	1・2・3・4前・後			1		○					2				
			大学で学ぶ日本語Ⅱ	1・2・3・4前・後			1		○					2				
			日本事情Ａ	1・2・3・4前			2		○					1			1	
			日本事情Ｂ	1・2・3・4後			2		○					1			1	
			小計（4科目）	－	－	0	6	0	－			0	0	2			2	－
	心理コミュニケーション基礎科目		学科の学び	1前	○	2			○			9	9					ｵﾑﾆﾊﾞｽ・共同（一部）
			導入ゼミ	1前	○	1				○		6	3					
			心理コミュニケーションの基礎	1・2前・後	○	2			○			1	2					
			基礎ゼミ	1後、2前	○	1				○		5	9					
			小計（4科目）	－	－	6	0	0	－			9	9	0			0	－
学科専門科目	心理コミュニケーション基幹科目		コミュニケーション概論	1・2・3前・後	○		2		○			2	1				1	
			身体としぐさの心理学	1・2・3・4前			2		○				1				1	
			談話分析	1・2・3前	○		2		○			1						
			コミュニケーションと社会・文化・共生	1・2・3・4前	○		2		○			1	1				1	
			ことばと心理・個人・社会・地理の因果関係	1・2・3・4前			2		○			1						
			マスコミュニケーションと情報社会	1・2・3前			2		○								1	
			メディアリテラシー論	1・2・3後			2		○								1	隔年・ﾒﾃﾞｨｱ
			多文化共生論入門	1・2・3・4前	○		2		○			1						
			日本語教育学概論	1・2・3・4前・後			2		○			1					1	
			比較共生社会論	1・2・3・4前			2		○			1						
			文献・情報の集め方	1・2・3前			2		○								1	ﾒﾃﾞｨｱ
			社会・心理調査の方法	1・2・3前・後			2		○				1					
			プレゼンテーションの方法	1・2・3後			2		○								1	
			インタビュー・面接のスキル	1・2・3後			2				○						1	
			ディベートと自己主張	1・2・3前			2		○								1	
			ビジネス・コミュニケーションスキル	1・2・3後			2		○								1	
			フィールドワークとライフストーリー研究	1・2・3・4前			2		○			1						

科目区分		授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外の教員（助手を除く）	
学科専門科目	心理コミュニケーション基幹科目	コンピュータによる調査データの解析	1・2・3後			2				○	1						
		対話研究	2・3・4後			2		○			1						
		社会言語学	2・3・4後			2		○			1						
		原因と結果のデータ分析	2・3・4前			2				○	1						
		データに基づく予測	2・3後			2		○								1	ﾒﾃﾞｨｱ
		ファッション文化	2・3後			2		○								1	
		小計（23科目）	―	―	0	46	0	―			7	2	0			10	―
	心理	心理データ分析	1・2・3・4前・後	○		2				○	1					2	
		心理学の応用	1・2・3・4前			2		○								3	
		ことばと心理	1・2・3・4後	○		2		○			1					2	
		心理的アセスメント	2後			2			○			1					
		心理学実験	2後	○		4				○		1				1	共同
		心理学統計法	1・2後	○		2			○			1					
		心理学研究法	1・2後	○		2			○			1					
		臨床心理学概論	1・2前			2		○				1					
		公認心理師の職責	3前			2		○				1					
		心理学概論	1前	○		2		○				1					
		知覚・認知心理学	1・2前			2		○								1	
		学習・言語心理学	1・2前			2		○								1	
		社会・集団・家族心理学	1・2前			2		○								1	
		発達心理学	1・2前			2		○								1	
		健康・医療心理学	1・2後			2		○								1	
		人体の構造と機能及び疾病	1・2後			2		○								1	
		心理学的支援法	2後			2		○				1					
		心理演習	3前			2			○			3					共同
		心理実習	4前			2				○		3					共同
		精神疾患とその治療	2後			2		○				1					
		関係行政論	2後			2		○				1					
		感情・人格心理学	2・3前			2		○								1	
		神経・生理心理学	2・3前			2		○								1	
		教育・学校心理学	2・3後			2		○								1	
		産業・組織心理学	2・3後			2		○								1	
		司法・犯罪心理学	2・3後			2		○								1	
		障害者（児）心理学	2・3前			2		○								1	
		福祉心理学	2・3後			2		○								1	
		小計（28科目）	―	―	0	58	0	―			2	3	0			13	―
	メディア	マルチメディア制作Ⅰ（ＣＧ・ＤＴＰ編集）	1・2・3後			2			○							1	ﾒﾃﾞｨｱ
		マルチメディア制作Ⅱ（音楽制作）	1・2・3前・後			2			○							1	
		フィルム・スタディーズ入門	1・2・3前	○		2		○				1					
		メディア分析	2・3前・後			2		○				1				1	
		メディア制作	1・2・3前・後			2			○			1				1	
		音楽社会学	1・2・3前	○		2		○			1						
		キリスト教音楽概論	2・3前	○		2		○			1						
		映画舞台音楽論	2・3後			2		○			1						
		諸民族の音楽	2・3後			2		○			1						
		コンピュータ音楽制作	2・3前			2			○			1					
		調査と取材の技法	1・2・3後	○		2			○			1					
		新聞・出版ワークショップ	1・2・3前			2		○				1					
		編集的思考入門	1・2・3後			2		○								1	
		映画研究	2・3前			2		○				1					
		出版編集制作	2・3・4前			2		○								1	ﾒﾃﾞｨｱ
		編集デザインスキル	2・3・4後			2		○								1	
		インターネットメディア論	1・2・3前			2		○				1					
		インターネットセキュリティ	1・2・3前			2		○								1	
		テキストマイニング	2・3前			2		○								1	ﾒﾃﾞｨｱ
		ゲーム分析	2・3後			2		○				1					
		Internet of Things	2・3後			2		○				1					
		プログラミング演習	2・3後			2			○			1				1	ﾒﾃﾞｨｱ
		ネットアプリ制作演習	2・3後			2			○			1					ﾒﾃﾞｨｱ
		メディア論	1・2・3前			2		○								1	
		広告とマーケティング	1・2・3後			2		○								1	
		音楽ジャーナリズム	2・3後			2		○			1						
		アニメ・ゲーム音楽の製作技法	2・3前			2		○				1					
		アート・マネージメント	2・3後			2		○				1					
		Digital Fabrication Lab.	2・3後			2		○				1					
		コミックと小説の訴求構造分析	2・3前			2		○				1					
		英語で学ぶ映画	2・3・4後			2		○				1					
		小計（31科目）	―	―	0	62	0	―			1	4	0			7	―
	共生コミュニケーター	ジェンダーと多文化共生社会	2・3・4後	○		2		○			2						
		セクシュアリティと社会	2・3・4後	○		2		○			1	1					
		比較支援論	2・3・4後	○		2		○			1						
		多文化社会における社会福祉	2・3・4後			2		○								1	
		異文化コミュニケーションの理論と実践	2・3・4前			2		○								1	
		エスニックマイノリティと共生社会	2・3・4前			2		○								2	
		共生社会と宗教	2・3・4後			2		○								1	
		英語で読む世界の「移民問題」	2・3・4前			2		○			1						
		ことばとフィールド	2・3・4前・後			2		○								4	
		共生のフィールドワーク	1・2・3・4前	○		4				○	1						※講義
		生活支援論	2・3・4後			2		○				1					
		ケースワーク基礎論	2・3・4前			2		○								1	

科目区分			授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	基幹教員等の配置 教授	基幹教員等の配置 准教授	基幹教員等の配置 講師	基幹教員等の配置 助教	基幹教員等の配置 助手	基幹教員等の配置 基幹教員以外の教員（助手を除く）	備考
学科専門科目	心理コミュニケーション発展科目	共生コミュニケーター	共生コミュニケーション実践論	2・3・4前			2		○				1					
			多文化教育方法論	2・3・4後			2		○				1					
			紛争解決コミュニケーション	2・3・4後			2		○								1	
			聴覚障害の理解と手話の技法	2・3・4前			2		○								1	
			コミュニティ通訳論（基礎）	2・3・4後			2		○				1					
			コミュニティ通訳論（実践）	2・3・4前			2		○				1					
			コミュニティ通訳論（特論）	2・3・4前・後			2			○							4	
			地域日本語教育実習	2・3・4前			2				○	1						
			日本語教育研究の方法	2・3・4前			2		○			1						
			日本語学習のコースデザイン	1・2・3・4後			2		○								1	
			日本語教育の教材分析	2・3・4前			2		○								1	
			日本語教育文法	1・2・3・4後			2		○								1	
			日本語教授法	2・3・4前・後			2		○								2	
			第二言語習得論（日本語）	1・2・3・4後			2		○								1	
			音声教育法	2・3・4後			2		○								1	隔年
			日本語教育実習１	3・4前			2				○	1					2	
			日本語教育実習２	3・4後			2				○	1					2	
			小計（29科目）	－	－	0	60	0	－			4	2	0			20	－
	心理コミュニケーション専門演習科目		専門ゼミⅠA	3前	○	1				○		9	9					
			専門ゼミⅠB	3後	○	1				○		9	9					
			専門ゼミⅡA	4前	○	1				○		9	9					
			専門ゼミⅡB	4後	○	1				○		9	9					
			卒業論文・卒業制作	4通	○	6				○		9	9					
			小計（5科目）	－	－	10	0	0	－			9	9	0			0	－
教職に関する科目			教育原理	1・2・3・4前			2		○			1						
			教育思想	1・2・3・4前			2		○								1	
			教育社会学	1・2・3・4前・後			2		○								1	
			教育心理学	1・2・3・4前・後			2		○				1					
			小計（4科目）	－	－	0	8	0	－			1	1	0			2	－
合計（411科目）				－	－	20	619	0	－			9	9	2			250	

学位又は称号	学士（心理コミュニケーション）	学位又は学科の分野	文学関係

卒業・修了要件及び履修方法	授業期間等	
全学教養教育から必修4単位、選択必修12単位、語学科目は履修コースにより選択必修10単位・16単位・22単位のいずれかを修得。 学科専門科目から必修17単位（うち「基礎ゼミ」は配当年次別に2単位を修得）、選択必修30単位を修得。 全学教養教育及び学科専門科目のなかから、語学科目の履修コースに応じて選択51単位・45単位・39単位のいずれかを修得。 以上、合計124単位修得すること。 （履修登録の上限：24単位（1学期））	１学年の学期区分	２期
	１学期の授業期間	15週
	１時限の授業の標準時間	90分

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（グローバル教養学部文化表現学科）

科目区分			授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
						必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外の教員（助手を除く）	
全学教養教育	共通科目	ＣＬＡコア科目	キリスト教概論	1前・後		2			○								4	
			キリスト教学	1・2前・後		2			○								11	
			フェリス女学院とキリスト教	1・2・3・4後			2		○								1	隔年
			一神教概論	1・2・3・4後			2		○								1	隔年
			アカデミック・ライティング入門	1前・後			2		○								3	
			アカデミック・ライティング	2・3・4前・後			2		○								2	
			プレゼンテーションのスキル	1・2・3・4前・後			2		○								1	
			ディスカッションのスキル	1・2・3・4後・休			2		○								1	標準外
			健康・スポーツ論	1・2・3・4前・後			2		○			1					1	
			スポーツ実習	1・2・3・4前・後			1				○	1					6	
			情報リテラシー基礎	1前・後			2		○								2	
			情報リテラシー：コンピュータサイエンス入門	1・2・3・4前・後			2		○								1	
			情報リテラシー：データサイエンス入門	1・2・3・4前・後			2		○								1	
			情報科学：コンピュータと社会	1・2・3・4前			2		○								1	
			情報科学：ソフトウェアとビジネス	1・2・3・4後			2		○								1	
			情報とメディアのリテラシー	1・2・3・4後			2		○								1	
			ジェンダーと教育の歴史	1・2・3・4後			2		○								1	
			ジェンダーから学ぶ現代社会	1・2・3・4後			2		○			4					6	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
			ジェンダー特論	1・2・3・4前			2		○								1	
			男女共同参画政策	1・2・3・4後			2		○								1	
			地域社会と女性リーダー	1・2・3・4前			2		○								1	
			ジェンダーと人権	1・2・3・4前			2		○								1	
			男性学	1・2・3・4後			2		○								1	
			グローバリゼーションとジェンダー	1・2・3・4後			2		○								1	
			ジェンダー&セクシュアリティ入門	1・2・3・4前			2		○								1	
			プロジェクトで学ぶ	3・4前・後			1			○							2	
			デザインと表現	1・2・3・4後			2		○			2	2					ｵﾑﾆﾊﾞｽ
			デザイン概論	1・2・3・4前			2		○								1	
			ことばとデザイン	1・2・3・4後			2		○								1	
			美術芸術論	1・2・3・4後・休			2		○								1	標準外
			ファッションデザイン論	1・2・3・4後			2		○								1	
			メディア・デザイン	1・2・3・4前			2		○								1	
			読書とメディア	1・2・3・4後			2		○								1	
			コピーライティング演習	1・2・3・4前			2			○							1	
			住空間デザイン	1・2・3・4前			2		○								1	
			都市生活の空間デザイン	1・2・3・4前			2		○								1	
			キャリア形成の基礎	1・2・3・4前・後、1・2・3・4前・休			2			○							3	標準外（一部）
			キャリア形成の意義	1・2・3・4前・後			2			○							2	
			キャリア形成の実際	1・2・3・4後、1・2・3・4後・休			2			○							2	標準外（一部）
			キャリア形成の諸問題	1・2・3・4前・後			2			○							2	
			キャリア実習（短期インターンシップ）	3・4前・休			1				○						1	標準外
			キャリア実習（短期就業体験）	1・2・3・4前・後・休			1				○						1	標準外
			キャリア実習（長期インターンシップ）	3・4前・休			2				○						1	標準外
			キャリア実習（長期就業体験）	1・2・3・4前・後・休			2				○						1	標準外
			ボランティア活動（短期）	1後、2・3・4前・後			1				○						1	
			ボランティア活動（中期）	1後、2・3・4前・後			2				○						1	
			ボランティア活動（長期）	2・3・4後			6				○	1						
			市民活動の役割と意義	1・2・3・4前			2		○								1	
			今年の一冊	1・2・3・4前			2		○								1	
			科学技術入門	1・2・3・4前			2		○								1	
			数学の基礎	1・2・3・4後			2		○								1	
			生命科学と倫理	1・2・3・4前			2		○								1	
			日本国憲法	1・2・3・4前・後			2		○								1	
			哲学Ａ	1・2・3・4前			2		○								1	
			哲学Ｂ	1・2・3・4後			2		○								1	
			心理学	1・2・3・4前・後			2		○								1	
			青年心理	1・2・3・4前・後			2		○								1	
			プロジェクト演習	2前			1			○							3	
			小計（58科目）	－	－	4	110	0	－			5	2	0	0		64	－
	語学科目		英語Ｉｓ（聞く・話す）	1前			1			○			1	1	1		16	
			英語Ｉｓ（読む・書く）	1前			1			○		4	1	3			13	
			英語Ⅱｓ（聞く・話す）	1後			1			○							9	
			英語Ⅱｓ（読む・書く）	1後			1			○			1		1		9	
			英語Ⅲｓ（聞く・話す）	2前			1			○				1			9	
			英語Ⅲｓ（読む・書く）	2前			1			○							9	
			英語Ⅳｓ（聞く・話す）	2後			1			○							9	
			英語Ⅳｓ（読む・書く）	2後			1			○							8	
			英語Ⅱｉ（分析・理解）	1後			2			○				2			2	
			英語Ⅱｉ（発信・表現）	1後			2			○				1			3	
			英語Ⅱｉ（プロジェクト）	1後			1			○				3			1	
			英語Ⅲｉ（分析・理解）	2前			2			○				2	1		2	
			英語Ⅲｉ（発信・表現）	2前			2			○			1	1			3	
			英語Ⅲｉ（プロジェクト）	2前			1			○				3			1	
			英語Ⅳｉ（分析・理解）	2後			2			○				2			2	

科目区分			授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
						必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外の教員（助手を除く）	
全学教養教育	共通科目	語学科目	英語Ⅳｉ（発信・表現）	2後			2			○			1	2			1	
			英語Ⅳｉ（プロジェクト）	2後			1			○				3			1	
			英語Ⅴｉ（プロジェクト）	3前			1			○				3			1	
			英語e（Academic Reading）	1・2・3・4前・後			1			○		1					1	
			英語e（Discussion and Debate）	1・2・3・4前			1			○							1	
			英語e（English through Movies）	1・2・3・4後			1			○							1	
			英語e（TOEFL-iBT PreparationⅠ）	1・2・3・4前・後			1			○				1			2	
			英語e（TOEIC Preparation Ⅰ）	1・2・3・4前・後、1・2・3・4前・後・休			1			○							4	標準外（一部）
			英語e（TOEIC Preparation Ⅲ）	1・2・3・4前			1			○				1				
			英語e（Academic Reading: Advanced）	1・2・3・4前			1			○							1	
			英語e（Conversation Skills: Basic）	1・2・3・4前・後			1			○							2	
			英語e（News and Views）	1・2・3・4前			1			○							1	
			英語e（Creative Writing）	1・2・3・4前・後			1			○							1	
			英語e（Academic Listening）	1・2・3・4前・後			1			○		1		1				
			英語e（Conversation Skills: Advanced）	1・2・3・4前・後			1			○				1			1	
			英語e（English through Music: Basic）	1・2・3・4後			1			○							1	
			英語e（Grammar: Basic）	1・2・3・4前・後			1			○							3	
			英語e（Business Communication）	1・2・3・4前・後			1			○							2	
			英語e（Speech and Debate）	1・2・3・4後			1			○							1	
			英語e（TOEIC Preparation Ⅱ: Listening）	1・2・3・4後			1			○							1	
			英語e（TOEIC Preparation Ⅱ: Reading）	1・2・3・4前			1			○							1	
			英語e（Pronunciation: Basic）	1・2・3・4前・後			1			○					1		1	
			英語e（Writing Skills）	1・2・3・4前・後			1			○							2	
			英語e（Vocabulary）	1・2・3・4前			1			○							2	
			英語e（TOEFL-iBT Preparation Ⅱ: Reading/Writing）	1・2・3・4前			1			○				1				
			英語e（TOEFL-iBT Preparation Ⅱ:Listening/Speaking）	1・2・3・4後			1			○							1	
			英語e（Extensive Reading）	1・2・3・4前・後			1			○				1			1	
			英語e（Special Topic）	1・2・3・4前・後			1			○		1	1	1			7	
			英語e（IELTS PreparationⅠ）	1・2・3・4前・後			1			○							2	
			英語e（IELTS PreparationⅡ）	1・2・3・4前・後			1			○							2	
			英語e（Songs and Poems）	1・2・3・4後			1			○		1						
			英語e（EIKEN Grade 2 Preparation）	1・2・3・4前・後			1			○							2	
			英語e（EIKEN Grade Pre-1 Preparation）	1・2・3・4前・後			1			○							2	
			英語e（Pre-Study Abroad: Basic）	1・2・3・4前			1			○			1					
			海外語学実習（アメリカ）	1・2・3・4前・休			2				○	1						標準外
			海外語学実習（イギリス）	1・2・3・4前・休			2				○	1						標準外
			海外語学実習（カナダ）	1・2・3後・休			2				○						1	標準外
			フランス語Ⅰ（入門）	1前			1			○			1				4	
			フランス語Ⅱｓ（文法）	1後			1			○							2	
			フランス語Ⅱｓ（理解）	1後			1			○							2	
			フランス語Ⅱｓ（表現）	1後			1			○							1	
			フランス語Ⅲｓ（文法）	2前			1			○							1	
			フランス語Ⅲｓ（理解）	2前			1			○							2	
			フランス語Ⅲｓ（表現）	2前			1			○							1	
			フランス語Ⅳｓ（文法）	2後			1			○							1	
			フランス語Ⅳｓ（理解）	2後			1			○							2	
			フランス語Ⅳｓ（表現）	2後			1			○							1	
			フランス語Ⅱｉ（文法）	1後			3			○			1				1	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
			フランス語Ⅱｉ（理解）	1後			1			○							1	
			フランス語Ⅱｉ（表現）	1後			1			○							1	
			フランス語Ⅱｉ（総合）	1後			1			○							1	
			フランス語Ⅲｉ（文法）	2前			2			○			1					
			フランス語Ⅲｉ（理解）	2前			1			○							1	
			フランス語Ⅲｉ（表現）	2前			1			○							1	
			フランス語Ⅲｉ（総合）	2前			1			○							1	
			フランス語Ⅳｉ（文法）	2後			2			○							2	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
			フランス語Ⅳｉ（理解）	2後			1			○							1	
			フランス語Ⅳｉ（表現）	2後			1			○							1	
			フランス語Ⅳｉ（総合）	2後			1			○							1	
			フランス語Ⅴｉ（理解）	3・4前			1			○							1	
			フランス語Ⅳｉ（総合）	2後			1			○							1	
			フランス語Ⅴｉ（理解）	3・4前			1			○							1	
			フランス語Ⅴｉ（表現）	3・4前			1			○							1	
			フランス語Ⅴｉ（総合）	3・4前			1			○							1	
			フランス語Ⅵｉ（理解）	3・4後			1			○							1	
			フランス語Ⅵｉ（表現）	3・4後			1			○							1	
			フランス語Ⅵｉ（総合）	3・4後			1			○							1	
			海外語学実習（フランス語）	1・2・3・4前・休			2				○		1					標準外
			ドイツ語Ⅰ（入門）	1前			1			○							6	
			ドイツ語Ⅱｓ（文法）	1後			1			○							2	
			ドイツ語Ⅱｓ（理解）	1後			1			○							2	
			ドイツ語Ⅱｓ（表現）	1後			1			○							1	
			ドイツ語Ⅲｓ（文法）	2前			1			○							2	
			ドイツ語Ⅲｓ（理解）	2前			1			○							2	
			ドイツ語Ⅲｓ（表現）	2前			1			○							1	
			ドイツ語Ⅳｓ（文法）	2後			1			○							2	
			ドイツ語Ⅳｓ（理解）	2後			1			○							2	
			ドイツ語Ⅳｓ（表現）	2後			1			○							1	
			ドイツ語Ⅱｉ（文法）	1後			3			○							2	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
			ドイツ語Ⅱｉ（理解）	1後			1			○							1	
			ドイツ語Ⅱｉ（表現）	1後			1			○							1	

科目区分			授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
						必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外の教員（助手を除く）	
全学教養教育	共通科目	語学科目	ドイツ語Ⅱｉ（総合）	1後			1			○							1	
			ドイツ語Ⅲｉ（文法）	2前			2			○							1	
			ドイツ語Ⅲｉ（理解）	2前			1			○							1	
			ドイツ語Ⅲｉ（表現）	2前			1			○							1	
			ドイツ語Ⅲｉ（総合）	2前			1			○							1	
			ドイツ語Ⅳｉ（文法）	2後			2			○							2	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
			ドイツ語Ⅳｉ（理解）	2後			1			○							1	
			ドイツ語Ⅳｉ（表現）	2後			1			○							1	
			ドイツ語Ⅳｉ（総合）	2後			1			○							1	
			ドイツ語Ⅴｉ（理解）	3・4前			1			○							1	
			ドイツ語Ⅴｉ（表現）	3・4前			1			○							1	
			ドイツ語Ⅴｉ（総合）	3・4前			1			○							1	
			ドイツ語Ⅵｉ（理解）	3・4後			1			○							1	
			ドイツ語Ⅵｉ（表現）	3・4後			1			○							1	
			ドイツ語Ⅵｉ（総合）	3・4後			1			○							1	
			海外語学実習（ドイツ語）	1・2・3・4前・休			2				○						1	標準外
			スペイン語Ⅰ（入門）	1前			1			○			1				6	
			スペイン語Ⅱｓ（文法）	1後			1			○							2	
			スペイン語Ⅱｓ（理解）	1後			1			○							2	
			スペイン語Ⅱｓ（表現）	1後			1			○							1	
			スペイン語Ⅲｓ（文法）	2前			1			○							2	
			スペイン語Ⅲｓ（理解）	2前			1			○							2	
			スペイン語Ⅲｓ（表現）	2前			1			○							1	
			スペイン語Ⅳｓ（文法）	2後			1			○							2	
			スペイン語Ⅳｓ（理解）	2後			1			○							2	
			スペイン語Ⅳｓ（表現）	2後			1			○							1	
			スペイン語Ⅱｉ（文法）	1後			3			○			1				1	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
			スペイン語Ⅱｉ（理解）	1後			1			○							1	
			スペイン語Ⅱｉ（表現）	1後			1			○							1	
			スペイン語Ⅱｉ（総合）	1後			1			○							1	
			スペイン語Ⅲｉ（文法）	2前			2			○			1				1	
			スペイン語Ⅲｉ（理解）	2前			1			○							1	
			スペイン語Ⅲｉ（表現）	2前			1			○							1	
			スペイン語Ⅲｉ（総合）	2前			1			○							1	
			スペイン語Ⅳｉ（文法）	2後			2			○			1				1	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
			スペイン語Ⅳｉ（理解）	2後			1			○							1	
			スペイン語Ⅳｉ（表現）	2後			1			○							1	
			スペイン語Ⅳｉ（総合）	2後			1			○							1	
			スペイン語Ⅴｉ（理解）	3・4前			1			○							1	
			スペイン語Ⅴｉ（表現）	3・4前			1			○							1	
			スペイン語Ⅴｉ（総合）	3・4前			1			○							1	
			スペイン語Ⅵｉ（理解）	3・4後			1			○							1	
			スペイン語Ⅵｉ（表現）	3・4後			1			○							1	
			スペイン語Ⅵｉ（総合）	3・4後			1			○							1	
			海外語学実習（スペイン語）	1・2・3・4前・休			2				○		1					標準外
			中国語Ⅰ（入門）	1前			1			○			1				7	
			中国語Ⅱｓ（文法）	1後			1			○							3	
			中国語Ⅱｓ（理解）	1後			1			○							2	
			中国語Ⅱｓ（表現）	1後			1			○							1	
			中国語Ⅲｓ（文法）	2前			1			○							2	
			中国語Ⅲｓ（理解）	2前			1			○							2	
			中国語Ⅲｓ（表現）	2前			1			○							1	
			中国語Ⅳｓ（文法）	2後			1			○							1	
			中国語Ⅳｓ（理解）	2後			1			○							2	
			中国語Ⅳｓ（表現）	2後			1			○							2	
			中国語Ⅱｉ（文法）	1後			3			○			1				2	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
			中国語Ⅱｉ（理解）	1後			1			○							1	
			中国語Ⅱｉ（表現）	1後			1			○							1	
			中国語Ⅱｉ（総合）	1後			1			○							1	
			中国語Ⅲｉ（文法）	2前			2			○			1				1	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
			中国語Ⅲｉ（理解）	2前			1			○							1	
			中国語Ⅲｉ（表現）	2前			1			○							1	
			中国語Ⅲｉ（総合）	2前			1			○			1					
			中国語Ⅳｉ（文法）	2後			2			○							2	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
			中国語Ⅳｉ（理解）	2後			1			○							1	
			中国語Ⅳｉ（表現）	2後			1			○							1	
			中国語Ⅳｉ（総合）	2後			1			○							1	
			中国語Ⅴｉ（理解）	3・4前			1			○							1	
			中国語Ⅴｉ（表現）	3・4前			1			○							1	
			中国語Ⅴｉ（総合）	3・4前			1			○							1	
			中国語Ⅵｉ（理解）	3・4後			1			○							1	
			中国語Ⅵｉ（表現）	3・4後			1			○							1	
			中国語Ⅵｉ（総合）	3・4後			1			○			1					
			海外語学実習（中国語）	1・2・3・4前・休			2				○		1					標準外
			韓国語Ⅰ（入門）	1前			1			○		1					7	
			韓国語Ⅱｓ（文法）	1後			1			○							2	
			韓国語Ⅱｓ（理解）	1後			1			○							2	
			韓国語Ⅱｓ（表現）	1後			1			○							1	
			韓国語Ⅲｓ（文法）	2前			1			○							2	
			韓国語Ⅲｓ（理解）	2前			1			○							2	

科目区分			授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
						必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外の教員（助手を除く）	
全学教養教育	共通科目	語学科目	韓国語Ⅲｓ（表現）	2前			1			○							1	
			韓国語Ⅳｓ（文法）	2後			1			○							3	
			韓国語Ⅳｓ（理解）	2後			1			○							2	
			韓国語Ⅳｓ（表現）	2後			1			○							1	
			韓国語Ⅱｉ（文法）	1後			3			○		1					1	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
			韓国語Ⅱｉ（理解）	1後			1			○							1	
			韓国語Ⅱｉ（表現）	1後			1			○							1	
			韓国語Ⅱｉ（総合）	1後			1			○							1	
			韓国語Ⅲｉ（文法）	2前			2			○		1						
			韓国語Ⅲｉ（理解）	2前			1			○							1	
			韓国語Ⅲｉ（表現）	2前			1			○							1	
			韓国語Ⅲｉ（総合）	2前			1			○							1	
			韓国語Ⅲｉ（表現）	2前			1			○							1	
			韓国語Ⅲｉ（総合）	2前			1			○							1	
			韓国語Ⅳｉ（文法）	2後			2			○							2	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
			韓国語Ⅳｉ（理解）	2後			1			○							1	
			韓国語Ⅳｉ（表現）	2後			1			○							1	
			韓国語Ⅳｉ（総合）	2後			1			○							1	
			韓国語Ⅴｉ（理解）	3・4前			1			○							1	
			韓国語Ⅴｉ（表現）	3・4前			1			○							1	
			韓国語Ⅴｉ（総合）	3・4前			1			○							1	
			韓国語Ⅵｉ（理解）	3・4後			1			○							1	
			韓国語Ⅵｉ（表現）	3・4後			1			○							1	
			韓国語Ⅵｉ（総合）	3・4後			1			○							1	
			海外語学実習（韓国語）	1・2・3・4前・休			2				○	1						標準外
			イタリア語Ⅰ（基礎）	1・2・3・4前			1			○							2	
			イタリア語Ⅱ（文法）	1・2・3・4後			1			○							1	
			イタリア語Ⅱ（理解）	1・2・3・4後			1			○							1	
			イタリア語Ⅲ（理解）	2・3・4前			1			○							1	
			イタリア語Ⅲ（表現）	2・3・4前			1			○							1	
			イタリア語Ⅳ（理解）	2・3・4後			1			○							1	
			イタリア語Ⅳ（表現）	2・3・4後			1			○							1	
			ラテン語Ⅰ（文法）	1・2・3・4前			1			○							1	
			ラテン語Ⅱ（文法）	1・2・3・4後			1			○							1	
			ラテン語Ⅲ（読む）	2・3・4前			1			○							1	隔年
			ラテン語Ⅳ（読む）	2・3・4後			1			○							1	隔年
			古典ギリシア語Ⅰ（文法）	1・2・3・4前			1			○							1	隔年
			古典ギリシア語Ⅱ（文法）	1・2・3・4後			1			○							1	隔年
			古典ギリシア語Ⅲ（読む）	2・3・4前			1			○							1	隔年
			古典ギリシア語Ⅳ（読む）	2・3・4後			1			○							1	隔年
			日本語Ⅰ	1・2・3・4前			1			○							1	
			日本語Ⅱ	1・2・3・4後			1			○							1	
			小計（214科目）	－	－	0	248	0	－			5	5	3	1		91	－
	ＰＡ（パフォーミングアーツ）科目		ＰＡヴォーカル	1・2・3・4前・後			2			○		1					5	
			ＰＡ鍵盤楽器	1・2・3・4前・後			2			○							9	
			ＰＡ弦楽器	1・2・3・4前・後			2			○							11	
			ＰＡ管楽器	1・2・3・4前・後			2			○							7	
			ＰＡ打楽器	1・2・3・4前・後			2			○							1	
			ＰＡ制作	1・2・3・4前・後			2			○			2					
			ＰＡアンサンブル１	1・2・3・4前・後			1			○							3	
			ＰＡアンサンブル２	1・2・3・4前・後			2			○							2	
			ＰＡ舞台芸術１	1・2・3・4前・後			1			○		1					3	
			ＰＡ舞台芸術２	1・2・3・4前・後			2			○							2	
			ＰＡ舞台芸術３	1・2・3・4前・後			3			○							1	
			小計（11科目）	－	－	0	21	0	－			1	2	0	0		38	－
	日本語科目及び日本事情に関する科目		大学で学ぶ日本語Ⅰ	1・2・3・4前・後			1		○								2	
			大学で学ぶ日本語Ⅱ	1・2・3・4前・後			1		○								2	
			日本事情Ａ	1・2・3・4前			2		○								2	
			日本事情Ｂ	1・2・3・4後			2		○								2	
			小計（4科目）	－	－	0	6	0	－			0	0	0	0		4	－
学科専門科目	基礎科目	文化表現	学科の学び	1前	○	2			○			10	10					ｵﾑﾆﾊﾞｽ・共同（一部）
			導入ゼミ	1前	○	1				○		5	3					
			欧米文化表現入門	1・2前・後	○	2			○			2	1					
			日本・アジア文化表現入門	1・2前・後	○	2			○			1	2					
			音楽・身体表現入門	1・2前・後	○	2			○			1	2					
			基礎ゼミ	1後、2前・後	○	1				○		8	10					
			小計（6科目）	－	－	10	0	0	－			11	10	0	0		0	－
	文化表現基幹科目		イギリス研究入門	1・2前・後	○		2		○			3						
			アメリカ研究入門	1・2後	○		2		○				1					
			フランス研究入門	1・2前	○		2		○				1					
			ドイツ研究入門	1・2後			2		○				1					
			スペイン語圏研究入門	1・2前	○		2		○				1					
			中国研究入門	1・2前	○		2		○				1					
			韓国研究入門	1・2後	○		2		○			1						
			東アジアの文字と文化	1・2後	○		2		○			1	2					
			コミュニケーション文化論	1・2前			2		○			1						
			英語学研究入門	1・2前	○		2		○			1						
			Pronunciation Clinic	1・2前・後			2			○							1	
			Academic Skills	1・2後			2			○		1						
			日本語学概論	1・2前・後	○		2		○			1						
			文章表現法	1後			1			○							1	
			イギリス文学史	1・2後	○		2		○			1						

科目区分		授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外の教員（助手を除く）	
学科専門科目	文化表現基幹科目	アメリカ文学史	1・2前	○		2		○				1					
		日本古典文学概論	1・2前・後	○		2		○			2	1					
		日本近現代文学概論	1・2前・後	○		2		○				1					
		古典読解の基礎	1・2前			2		○								1	
		文学理論の基礎	1・2後			2		○				1					
		演劇論の基礎	1・2前			2		○			1						
		欧米芸術入門	1・2前・後	○		2		○			1					2	
		欧米芸術音楽	1・2前	○		2		○			1						
		日本の音楽	1・2後			2		○								1	
		欧米音楽入門１（理論）	1・2前・後	○		2		○				1					
		欧米音楽入門２（ソルフェージュ）	1・2前・後			1				○						2	
		欧米音楽入門３（実践）	1・2前・後	○		1				○	1	1					
		音楽とクリエーション入門	1・2前・後			2			○			1					
		音楽とビジネス入門	1・2前・後			2		○			1						
		アジアの身体表現	1・2前	○		2			○		1						
		小計（30科目）	－	－	0	57	0	－			12	10	0	0		8	－
	ヨーロッパ・アメリカ	欧米芸術と文学	2・3後			2		○								1	
		イギリス文学	2・3前・後	○		2		○			3						
		アメリカ文学	2・3後	○		2			○			1					
		フランス文化論	2・3後			2		○				1					
		ラテンアメリカ文化論	2・3後			2		○				1					
		性愛文化論	2・3前			2		○			1						
		テクスト文化論	2・3後			2		○			1						
		英語テクスト分析	2・3・4前・後			2			○		2	1				1	
		英語学	2・3後			2		○								1	
		英語の歴史	1・2後			2		○								1	
		第二言語習得論（英語）	2・3前	○		2		○			1						
		Thought and Expression in English	1・2後			2			○		1						
		Advanced English Skills	2・3・4前・後			2			○					1		2	
		翻訳（英文和訳作成）	2・3・4後			2			○		1						
		通訳（英語・日本語）	2・3・4前			2			○							1	
		小計（15科目）	－	－	0	30	0	－			6	4	0	1		6	－
	日本・アジア	書道	2前			1				○						1	
		日本語の歴史	1・2前	○		2		○			1						
		日本語学演習	2・3前			2			○		1						
		日本古典文学演習	2・3前・後			2			○		1	1				1	
		日本近現代文学演習	2・3後			2			○							1	
		日本語学特講	2・3後			2		○			1						
		日本古典文学特講	2・3前・後			2		○			1	1					
		日本近現代文学特講	2・3後			2		○				1					
		日本伝統文化論	2・3後	○		2		○			1						
		日本表象文化論	2・3前	○		2		○			1						
		日本言語表現論	2・3前・後			2		○								2	
		東アジア文学論	2・3前			2		○				1					
		漢文学概論	1・2前・後			2		○				1					
		漢文学演習	2・3前			2			○			1					
		中国文化論	2・3後			2		○				1					
		韓国文化論	2・3前			2		○			1						
		小計（16科目）	－	－	0	31	0	－			4	4	0	0		5	－
	音楽・身体表現	欧米音楽１（理論）	2・3前・後	○		2		○				1					
		欧米音楽２（実践）	2・3前	○		1				○	1						
		欧米音楽３（実践上級）	3・4前・後			2			○		1	1					
		ソングライティングとアレンジメント	2・3・4後			2			○			1					
		コンサート	2・3・4後			1				○						1	
		アンサンブル	2・3・4前			2			○							1	
		キリスト教音楽	2・3前			2			○							1	
		物語と音楽	2・3後			2		○			2						
		ドイツ文学と音楽	2・3前			2		○				1					
		音楽とクリエーション応用１（コンテンツ）	2・3・4前・後			2			○			1					
		音楽とクリエーション応用２（プロダクト）	3・4前・後			2			○			1					
		映像音楽・音響制作	2・3・4前・後			2			○							2	
		音楽とビジネス応用	3・4前・後			2			○		1						
		音楽と身体１（理論）	2・3前・後			2		○								2	
		音楽と身体２（実践）	2・3前・後			2			○							2	
		舞踊の文化人類学	2・3後	○		2		○			1						
		バレエの歴史	2・3前			2		○								1	
		スポーツ文化	2・3後			2		○								1	
		声の表現１（演技）	2・3・4前			2			○							1	隔年
		声の表現２（アナウンス）	2・3・4前			2			○							1	隔年
		小計（20科目）	－	－	0	38	0	－			3	3	0	0		13	－
	文化表現専門演習科目	専門ゼミＩＡ	3前	○	1				○		12	10					
		専門ゼミＩＢ	3後	○	1				○		12	10					
		専門ゼミⅡＡ	4前	○	1				○		12	10					
		専門ゼミⅡＢ	4後	○	1				○		12	10					
		卒業研究	4通	○	6				○		12	10					
		小計（5科目）	－	－	10	0	0	－			12	10	0	0		0	－

科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外の教員（助手を除く）	
教職に関する科目	英語科教育法Ⅰ	3前				4	○								1	
	英語科教育法Ⅱ	3後				4	○								1	
	国語科教育法Ⅰ	3前				4	○								1	
	国語科教育法Ⅱ	3後				4	○								1	
	教育原理	1・2・3・4前			2		○								1	
	教育思想	1・2・3・4前			2		○								1	
	教職入門	1後				2	○								1	
	教育社会学	1・2・3・4前・後			2		○								1	
	教育心理学	1・2・3・4前・後			2		○								1	
	特別支援教育の基礎と方法	2前・後				1	○								1	標準外
	教育課程論	2前・後				2	○								1	
	道徳教育の理論と実践	2前・後				2	○								1	
	総合的な学習の時間の指導法	2・3前・後				1	○								1	標準外
	特別活動	2・3前・後				2	○								1	
	教育の方法・技術（情報通信技術の活用含む）	2・3前・後				2	○								1	
	生徒・進路指導の理論と方法	2・3前・後				2	○								1	
	教育相談	2・3前・後				2	○								1	標準外（前期のみ）
	教育実習１	3後				1			○						2	標準外・共同
	教育実習２	4通				2			○						2	標準外・共同
	教育実習３	4通				2			○						2	標準外・共同
	教職実践演習（中・高）	4後				2		○							5	共同
	小計（21科目）	－	－	0	8	23	－			0	0	0	0		12	－
合計（400科目）		－	－	24	549	23	－			12	11	3	1		228	

学位又は称号	学士（文化表現）	学位又は学科の分野	文学関係

卒業・修了要件及び履修方法	授業期間等	
全学教養教育から必修4単位、選択必修12単位、語学科目は履修コースにより選択必修10単位・16単位・22単位のいずれかを修得。 学科専門科目から必修21単位（うち「基礎ゼミ」は配当年次別に2単位を修得）、選択必修30単位を修得。 全学教養教育及び学科専門科目のなかから、語学科目の履修コースに応じて選択47単位・41単位・35単位のいずれかを修得。 以上、合計124単位修得すること。 （履修登録の上限：24単位（1学期））	１学年の学期区分	２期
	１学期の授業期間	15週
	１時限の授業の標準時間	90分

別記様式第２号（その２の１）

緑園キャンパス
（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（グローバル教養学部文化表現学科）

科目区分			授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
						必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外の教員（助手を除く）	
全学教養教育	共通科目	ＣＬＡコア科目	キリスト教概論	1前・後		2			○								4	
			キリスト教学	1・2前・後		2			○								11	
			フェリス女学院とキリスト教	1・2・3・4後			2		○								1	隔年
			一神教概論	1・2・3・4後			2		○								1	隔年
			アカデミック・ライティング入門	1前・後			2		○								3	
			アカデミック・ライティング	2・3・4前・後			2		○								2	
			プレゼンテーションのスキル	1・2・3・4前・後			2		○								1	
			ディスカッションのスキル	1・2・3・4後・休			2		○								1	標準外
			健康・スポーツ論	1・2・3・4前・後			2		○			1					1	
			スポーツ実習	1・2・3・4前・後			1				○	1					6	
			情報リテラシー基礎	1前・後			2		○								2	
			情報リテラシー：コンピュータサイエンス入門	1・2・3・4前・後			2		○								1	
			情報リテラシー：データサイエンス入門	1・2・3・4前・後			2		○								1	
			情報科学：コンピュータと社会	1・2・3・4前			2		○								1	
			情報科学：ソフトウェアとビジネス	1・2・3・4後			2		○								1	
			情報とメディアのリテラシー	1・2・3・4後			2		○								1	
			ジェンダーと教育の歴史	1・2・3・4後			2		○								1	
			ジェンダーから学ぶ現代社会	1・2・3・4後			2		○			4					6	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
			ジェンダー特論	1・2・3・4前			2		○								1	
			男女共同参画政策	1・2・3・4後			2		○								1	
			地域社会と女性リーダー	1・2・3・4前			2		○								1	
			ジェンダーと人権	1・2・3・4前			2		○								1	
			男性学	1・2・3・4後			2		○								1	
			グローバリゼーションとジェンダー	1・2・3・4後			2		○								1	
			ジェンダー&セクシュアリティ入門	1・2・3・4前			2		○								1	
			プロジェクトで学ぶ	3・4前・後			1			○							2	
			デザインと表現	1・2・3・4後			2		○			2	2					ｵﾑﾆﾊﾞｽ
			デザイン概論	1・2・3・4前			2		○								1	
			ことばとデザイン	1・2・3・4後			2		○								1	
			美術芸術論	1・2・3・4後・休			2		○								1	標準外
			ファッションデザイン論	1・2・3・4後			2		○								1	
			メディア・デザイン	1・2・3・4前			2		○								1	
			読書とメディア	1・2・3・4後			2		○								1	
			コピーライティング演習	1・2・3・4前			2			○							1	
			住空間デザイン	1・2・3・4前			2		○								1	
			都市生活の空間デザイン	1・2・3・4前			2		○								1	
			キャリア形成の基礎	1・2・3・4前・後、1・2・3・4前・休			2			○							3	標準外（一部）
			キャリア形成の意義	1・2・3・4前・後			2			○							2	
			キャリア形成の実際	1・2・3・4後、1・2・3・4後・休			2			○							2	標準外（一部）
			キャリア形成の諸問題	1・2・3・4前・後			2			○							2	
			キャリア実習（短期インターンシップ）	3・4前・休			1				○						1	標準外
			キャリア実習（短期就業体験）	1・2・3・4前・後・休			1				○						1	標準外
			キャリア実習（長期インターンシップ）	3・4前・休			2				○						1	標準外
			キャリア実習（長期就業体験）	1・2・3・4前・後・休			2				○						1	標準外
			ボランティア活動（短期）	1後、2・3・4前・後			1				○						1	
			ボランティア活動（中期）	1後、2・3・4前・後			2				○						1	
			ボランティア活動（長期）	2・3・4後			6				○	1						
			市民活動の役割と意義	1・2・3・4前			2		○								1	
			今年の一冊	1・2・3・4前			2		○								1	
			科学技術入門	1・2・3・4前			2		○								1	
			数学の基礎	1・2・3・4後			2		○								1	
			生命科学と倫理	1・2・3・4前			2		○								1	
			日本国憲法	1・2・3・4前・後			2		○								1	
			哲学Ａ	1・2・3・4前			2		○								1	
			哲学Ｂ	1・2・3・4後			2		○								1	
			心理学	1・2・3・4前・後			2		○								1	
			青年心理	1・2・3・4前・後			2		○								1	
			プロジェクト演習	2前			1			○							3	
			小計（58科目）	－	－	4	110	0	－			5	2	0	0		64	－
	語学科目		英語Ｉｓ（聞く・話す）	1前			1			○			1	1	1		16	
			英語Ｉｓ（読む・書く）	1前			1			○		4	1	3			13	
			英語Ⅱｓ（聞く・話す）	1後			1			○							9	
			英語Ⅱｓ（読む・書く）	1後			1			○			1		1		9	
			英語Ⅲｓ（聞く・話す）	2前			1			○				1			9	
			英語Ⅲｓ（読む・書く）	2前			1			○							9	
			英語Ⅳｓ（聞く・話す）	2後			1			○							9	
			英語Ⅳｓ（読む・書く）	2後			1			○							8	
			英語Ⅱｉ（分析・理解）	1後			2			○				2			2	
			英語Ⅱｉ（発信・表現）	1後			2			○				1			3	
			英語Ⅱｉ（プロジェクト）	1後			1			○				3			1	
			英語Ⅲｉ（分析・理解）	2前			2			○				2	1		2	
			英語Ⅲｉ（発信・表現）	2前			2			○			1	1			3	
			英語Ⅲｉ（プロジェクト）	2前			1			○				3			1	
			英語Ⅳｉ（分析・理解）	2後			2			○				2			2	

科目区分			授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
						必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外の教員（助手を除く）	
全学教養教育	共通科目	語学科目	英語Ⅳｉ（発信・表現）	2後			2			○			1	2			1	
			英語Ⅳｉ（プロジェクト）	2後			1			○				3			1	
			英語Ⅴｉ（プロジェクト）	3前			1			○				3			1	
			英語e（Academic Reading）	1・2・3・4前・後			1			○		1					1	
			英語e（Discussion and Debate）	1・2・3・4前			1			○							1	
			英語e（English through Movies）	1・2・3・4後			1			○							1	
			英語e（TOEFL-iBT PreparationⅠ）	1・2・3・4前・後			1			○				1			2	
			英語e（TOEIC Preparation Ⅰ）	1・2・3・4前・後、1・2・3・4前・後・休			1			○							4	標準外（一部）
			英語e（TOEIC Preparation Ⅲ）	1・2・3・4前			1			○				1				
			英語e（Academic Reading: Advanced）	1・2・3・4前			1			○							1	
			英語e（Conversation Skills: Basic）	1・2・3・4前・後			1			○							2	
			英語e（News and Views）	1・2・3・4前			1			○							1	
			英語e（Creative Writing）	1・2・3・4前・後			1			○							1	
			英語e（Academic Listening）	1・2・3・4前・後			1			○		1		1				
			英語e（Conversation Skills: Advanced）	1・2・3・4前・後			1			○				1			1	
			英語e（English through Music: Basic）	1・2・3・4後			1			○							1	
			英語e（Grammar: Basic）	1・2・3・4前・後			1			○							3	
			英語e（Business Communication）	1・2・3・4前・後			1			○							2	
			英語e（Speech and Debate）	1・2・3・4後			1			○							1	
			英語e（TOEIC Preparation Ⅱ: Listening）	1・2・3・4後			1			○							1	
			英語e（TOEIC Preparation Ⅱ: Reading）	1・2・3・4前			1			○							1	
			英語e（Pronunciation: Basic）	1・2・3・4前・後			1			○					1		1	
			英語e（Writing Skills）	1・2・3・4前・後			1			○							2	
			英語e（Vocabulary）	1・2・3・4前			1			○							2	
			英語e（TOEFL-iBT Preparation Ⅱ: Reading/Writing）	1・2・3・4前			1			○				1				
			英語e（TOEFL-iBT Preparation Ⅱ:Listening/Speaking）	1・2・3・4後			1			○							1	
			英語e（Extensive Reading）	1・2・3・4前・後			1			○				1			1	
			英語e（Special Topic）	1・2・3・4前・後			1			○		1	1	1			7	
			英語e（IELTS PreparationⅠ）	1・2・3・4前・後			1			○							2	
			英語e（IELTS PreparationⅡ）	1・2・3・4前・後			1			○							2	
			英語e（Songs and Poems）	1・2・3・4後			1			○		1						
			英語e（EIKEN Grade 2 Preparation）	1・2・3・4前・後			1			○							2	
			英語e（EIKEN Grade Pre-1 Preparation）	1・2・3・4前・後			1			○							2	
			英語e（Pre-Study Abroad: Basic）	1・2・3・4前			1			○			1					
			海外語学実習（アメリカ）	1・2・3・4前・休			2				○	1						標準外
			海外語学実習（イギリス）	1・2・3・4前・休			2				○	1						標準外
			海外語学実習（カナダ）	1・2・3後・休			2				○						1	標準外
			フランス語Ⅰ（入門）	1前			1			○			1				4	
			フランス語Ⅱｓ（文法）	1後			1			○							2	
			フランス語Ⅱｓ（理解）	1後			1			○							2	
			フランス語Ⅱｓ（表現）	1後			1			○							1	
			フランス語Ⅲｓ（文法）	2前			1			○							1	
			フランス語Ⅲｓ（理解）	2前			1			○							2	
			フランス語Ⅲｓ（表現）	2前			1			○							1	
			フランス語Ⅳｓ（文法）	2後			1			○							1	
			フランス語Ⅳｓ（理解）	2後			1			○							2	
			フランス語Ⅳｓ（表現）	2後			1			○							1	
			フランス語Ⅱｉ（文法）	1後			3			○			1				1	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
			フランス語Ⅱｉ（理解）	1後			1			○							1	
			フランス語Ⅱｉ（表現）	1後			1			○							1	
			フランス語Ⅱｉ（総合）	1後			1			○							1	
			フランス語Ⅲｉ（文法）	2前			2			○			1					
			フランス語Ⅲｉ（理解）	2前			1			○							1	
			フランス語Ⅲｉ（表現）	2前			1			○							1	
			フランス語Ⅲｉ（総合）	2前			1			○							1	
			フランス語Ⅳｉ（文法）	2後			2			○							2	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
			フランス語Ⅳｉ（理解）	2後			1			○							1	
			フランス語Ⅳｉ（表現）	2後			1			○							1	
			フランス語Ⅳｉ（総合）	2後			1			○							1	
			フランス語Ⅴｉ（理解）	3・4前			1			○							1	
			フランス語Ⅳｉ（総合）	2後			1			○							1	
			フランス語Ⅴｉ（理解）	3・4前			1			○							1	
			フランス語Ⅴｉ（表現）	3・4前			1			○							1	
			フランス語Ⅴｉ（総合）	3・4前			1			○							1	
			フランス語Ⅵｉ（理解）	3・4後			1			○							1	
			フランス語Ⅵｉ（表現）	3・4後			1			○							1	
			フランス語Ⅵｉ（総合）	3・4後			1			○							1	
			海外語学実習（フランス語）	1・2・3・4前・休			2				○		1					標準外
			ドイツ語Ⅰ（入門）	1前			1			○							6	
			ドイツ語Ⅱｓ（文法）	1後			1			○							2	
			ドイツ語Ⅱｓ（理解）	1後			1			○							2	
			ドイツ語Ⅱｓ（表現）	1後			1			○							1	
			ドイツ語Ⅲｓ（文法）	2前			1			○							2	
			ドイツ語Ⅲｓ（理解）	2前			1			○							2	
			ドイツ語Ⅲｓ（表現）	2前			1			○							1	
			ドイツ語Ⅳｓ（文法）	2後			1			○							2	
			ドイツ語Ⅳｓ（理解）	2後			1			○							2	
			ドイツ語Ⅳｓ（表現）	2後			1			○							1	
			ドイツ語Ⅱｉ（文法）	1後			3			○							2	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
			ドイツ語Ⅱｉ（理解）	1後			1			○							1	
			ドイツ語Ⅱｉ（表現）	1後			1			○							1	

科目区分			授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
						必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外の教員（助手を除く）	
全学教養教育	共通科目	語学科目	ドイツ語Ⅱｉ（総合）	1後			1			○							1	
			ドイツ語Ⅲｉ（文法）	2前			2			○							1	
			ドイツ語Ⅲｉ（理解）	2前			1			○							1	
			ドイツ語Ⅲｉ（表現）	2前			1			○							1	
			ドイツ語Ⅲｉ（総合）	2前			1			○							1	
			ドイツ語Ⅳｉ（文法）	2後			2			○							2	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
			ドイツ語Ⅳｉ（理解）	2後			1			○							1	
			ドイツ語Ⅳｉ（表現）	2後			1			○							1	
			ドイツ語Ⅳｉ（総合）	2後			1			○							1	
			ドイツ語Ⅴｉ（理解）	3・4前			1			○							1	
			ドイツ語Ⅴｉ（表現）	3・4前			1			○							1	
			ドイツ語Ⅴｉ（総合）	3・4前			1			○							1	
			ドイツ語Ⅵｉ（理解）	3・4後			1			○							1	
			ドイツ語Ⅵｉ（表現）	3・4後			1			○							1	
			ドイツ語Ⅵｉ（総合）	3・4後			1			○							1	
			海外語学実習（ドイツ語）	1・2・3・4前・休			2				○						1	標準外
			スペイン語Ⅰ（入門）	1前			1			○			1				6	
			スペイン語Ⅱｓ（文法）	1後			1			○							2	
			スペイン語Ⅱｓ（理解）	1後			1			○							2	
			スペイン語Ⅱｓ（表現）	1後			1			○							1	
			スペイン語Ⅲｓ（文法）	2前			1			○							2	
			スペイン語Ⅲｓ（理解）	2前			1			○							2	
			スペイン語Ⅲｓ（表現）	2前			1			○							1	
			スペイン語Ⅳｓ（文法）	2後			1			○							2	
			スペイン語Ⅳｓ（理解）	2後			1			○							2	
			スペイン語Ⅳｓ（表現）	2後			1			○							1	
			スペイン語Ⅱｉ（文法）	1後			3			○			1				1	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
			スペイン語Ⅱｉ（理解）	1後			1			○							1	
			スペイン語Ⅱｉ（表現）	1後			1			○							1	
			スペイン語Ⅱｉ（総合）	1後			1			○							1	
			スペイン語Ⅲｉ（文法）	2前			2			○			1				1	
			スペイン語Ⅲｉ（理解）	2前			1			○							1	
			スペイン語Ⅲｉ（表現）	2前			1			○							1	
			スペイン語Ⅲｉ（総合）	2前			1			○							1	
			スペイン語Ⅳｉ（文法）	2後			2			○			1				1	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
			スペイン語Ⅳｉ（理解）	2後			1			○							1	
			スペイン語Ⅳｉ（表現）	2後			1			○							1	
			スペイン語Ⅳｉ（総合）	2後			1			○							1	
			スペイン語Ⅴｉ（理解）	3・4前			1			○							1	
			スペイン語Ⅴｉ（表現）	3・4前			1			○							1	
			スペイン語Ⅴｉ（総合）	3・4前			1			○							1	
			スペイン語Ⅵｉ（理解）	3・4後			1			○							1	
			スペイン語Ⅵｉ（表現）	3・4後			1			○							1	
			スペイン語Ⅵｉ（総合）	3・4後			1			○							1	
			海外語学実習（スペイン語）	1・2・3・4前・休			2				○		1					標準外
			中国語Ⅰ（入門）	1前			1			○			1				7	
			中国語Ⅱｓ（文法）	1後			1			○							3	
			中国語Ⅱｓ（理解）	1後			1			○							2	
			中国語Ⅱｓ（表現）	1後			1			○							1	
			中国語Ⅲｓ（文法）	2前			1			○							2	
			中国語Ⅲｓ（理解）	2前			1			○							2	
			中国語Ⅲｓ（表現）	2前			1			○							1	
			中国語Ⅳｓ（文法）	2後			1			○							1	
			中国語Ⅳｓ（理解）	2後			1			○							2	
			中国語Ⅳｓ（表現）	2後			1			○							2	
			中国語Ⅱｉ（文法）	1後			3			○			1				2	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
			中国語Ⅱｉ（理解）	1後			1			○							1	
			中国語Ⅱｉ（表現）	1後			1			○							1	
			中国語Ⅱｉ（総合）	1後			1			○							1	
			中国語Ⅲｉ（文法）	2前			2			○			1				1	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
			中国語Ⅲｉ（理解）	2前			1			○							1	
			中国語Ⅲｉ（表現）	2前			1			○							1	
			中国語Ⅲｉ（総合）	2前			1			○			1					
			中国語Ⅳｉ（文法）	2後			2			○							2	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
			中国語Ⅳｉ（理解）	2後			1			○							1	
			中国語Ⅳｉ（表現）	2後			1			○							1	
			中国語Ⅳｉ（総合）	2後			1			○							1	
			中国語Ⅴｉ（理解）	3・4前			1			○							1	
			中国語Ⅴｉ（表現）	3・4前			1			○							1	
			中国語Ⅴｉ（総合）	3・4前			1			○							1	
			中国語Ⅵｉ（理解）	3・4後			1			○							1	
			中国語Ⅵｉ（表現）	3・4後			1			○							1	
			中国語Ⅵｉ（総合）	3・4後			1			○			1					
			海外語学実習（中国語）	1・2・3・4前・休			2				○		1					標準外
			韓国語Ⅰ（入門）	1前			1			○		1					7	
			韓国語Ⅱｓ（文法）	1後			1			○							2	
			韓国語Ⅱｓ（理解）	1後			1			○							2	
			韓国語Ⅱｓ（表現）	1後			1			○							1	
			韓国語Ⅲｓ（文法）	2前			1			○							2	
			韓国語Ⅲｓ（理解）	2前			1			○							2	

科目区分			授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
						必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外の教員（助手を除く）	
全学教養教育	共通科目	語学科目	韓国語Ⅲｓ（表現）	2前			1			○							1	
			韓国語Ⅳｓ（文法）	2後			1			○							3	
			韓国語Ⅳｓ（理解）	2後			1			○							2	
			韓国語Ⅳｓ（表現）	2後			1			○							1	
			韓国語Ⅱｉ（文法）	1後			3			○		1					1	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
			韓国語Ⅱｉ（理解）	1後			1			○							1	
			韓国語Ⅱｉ（表現）	1後			1			○							1	
			韓国語Ⅱｉ（総合）	1後			1			○							1	
			韓国語Ⅲｉ（文法）	2前			2			○		1						
			韓国語Ⅲｉ（理解）	2前			1			○							1	
			韓国語Ⅲｉ（表現）	2前			1			○							1	
			韓国語Ⅲｉ（総合）	2前			1			○							1	
			韓国語Ⅳｉ（文法）	2後			2			○							2	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
			韓国語Ⅳｉ（理解）	2後			1			○							1	
			韓国語Ⅳｉ（表現）	2後			1			○							1	
			韓国語Ⅳｉ（総合）	2後			1			○							1	
			韓国語Ⅴｉ（理解）	3・4前			1			○							1	
			韓国語Ⅴｉ（表現）	3・4前			1			○							1	
			韓国語Ⅴｉ（総合）	3・4前			1			○							1	
			韓国語Ⅵｉ（理解）	3・4後			1			○							1	
			韓国語Ⅵｉ（表現）	3・4後			1			○							1	
			韓国語Ⅵｉ（総合）	3・4後			1			○							1	
			海外語学実習（韓国語）	1・2・3・4前・休			2				○	1						標準外
			イタリア語Ⅰ（基礎）	1・2・3・4前			1			○							2	
			イタリア語Ⅱ（文法）	1・2・3・4後			1			○							1	
			イタリア語Ⅱ（理解）	1・2・3・4後			1			○							1	
			イタリア語Ⅲ（理解）	2・3・4前			1			○							1	
			イタリア語Ⅲ（表現）	2・3・4前			1			○							1	
			イタリア語Ⅳ（理解）	2・3・4後			1			○							1	
			イタリア語Ⅳ（表現）	2・3・4後			1			○							1	
			ラテン語Ⅰ（文法）	1・2・3・4前			1			○							1	
			ラテン語Ⅱ（文法）	1・2・3・4後			1			○							1	
			ラテン語Ⅲ（読む）	2・3・4前			1			○							1	隔年
			ラテン語Ⅳ（読む）	2・3・4後			1			○							1	隔年
			古典ギリシア語Ⅰ（文法）	1・2・3・4前			1			○							1	隔年
			古典ギリシア語Ⅱ（文法）	1・2・3・4後			1			○							1	隔年
			古典ギリシア語Ⅲ（読む）	2・3・4前			1			○							1	隔年
			古典ギリシア語Ⅳ（読む）	2・3・4後			1			○							1	隔年
			日本語Ⅰ	1・2・3・4前			1			○							1	
			日本語Ⅱ	1・2・3・4後			1			○							1	
			小計（214科目）	－	－	0	248	0	－			5	5	3	1		91	－
	ＰＡ（パフォーミングアーツ）科目		ＰＡヴォーカル	1・2・3・4前・後			2			○		1					5	
			ＰＡ鍵盤楽器	1・2・3・4前・後			2			○							9	
			ＰＡ弦楽器	1・2・3・4前・後			2			○							11	
			ＰＡ管楽器	1・2・3・4前・後			2			○							7	
			ＰＡ打楽器	1・2・3・4前・後			2			○							1	
			ＰＡ制作	1・2・3・4前・後			2			○			2					
			ＰＡアンサンブル１	1・2・3・4前・後			1			○							3	
			ＰＡアンサンブル２	1・2・3・4前・後			2			○							2	
			ＰＡ舞台芸術１	1・2・3・4前・後			1			○		1					3	
			ＰＡ舞台芸術２	1・2・3・4前・後			2			○							2	
			ＰＡ舞台芸術３	1・2・3・4前・後			3			○							1	
			小計（11科目）	－	－	0	21	0	－			1	2	0	0		38	－
	日本語科目及び日本事情に関する科目		大学で学ぶ日本語Ⅰ	1・2・3・4前・後			1		○								2	
			大学で学ぶ日本語Ⅱ	1・2・3・4前・後			1		○								2	
			日本事情Ａ	1・2・3・4前			2		○								2	
			日本事情Ｂ	1・2・3・4後			2		○								2	
			小計（4科目）	－	－	0	6	0	－			0	0	0	0		4	－
学科専門科目	基礎科目	文化表現	学科の学び	1前	○	2			○			10	10					ｵﾑﾆﾊﾞｽ・共同（一部）
			導入ゼミ	1前	○	1				○		5	3					
			欧米文化表現入門	1・2前・後	○	2			○			2	1					
			日本・アジア文化表現入門	1・2前・後	○	2			○			1	2					
			音楽・身体表現入門	1・2前・後	○	2			○			1	2					
			基礎ゼミ	1後、2前・後	○	1				○		8	10					
			小計（6科目）	－	－	10	0	0	－			11	10	0	0		0	－
	文化表現基幹科目		イギリス研究入門	1・2前・後	○		2		○			3						
			アメリカ研究入門	1・2後	○		2		○				1					
			フランス研究入門	1・2前	○		2		○				1					
			ドイツ研究入門	1・2後			2		○				1					
			スペイン語圏研究入門	1・2前	○		2		○				1					
			中国研究入門	1・2前	○		2		○				1					
			韓国研究入門	1・2後	○		2		○			1						
			東アジアの文字と文化	1・2後	○		2		○			1	2					
			コミュニケーション文化論	1・2前			2		○			1						
			英語学研究入門	1・2前	○		2		○			1						
			Pronunciation Clinic	1・2前・後			2			○							1	
			Academic Skills	1・2後			2			○		1						
			日本語学概論	1・2前・後	○		2		○			1						
			文章表現法	1後			1			○							1	
			イギリス文学史	1・2後	○		2		○			1						

科目区分		授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外の教員（助手を除く）	
学科専門科目	文化表現基幹科目	アメリカ文学史	1・2前	○		2		○				1					
		日本古典文学概論	1・2前・後	○		2		○			2	1					
		日本近現代文学概論	1・2前・後	○		2		○				1					
		古典読解の基礎	1・2前			2		○								1	
		文学理論の基礎	1・2後			2		○				1					
		演劇論の基礎	1・2前			2		○			1						
		欧米芸術入門	1・2前・後	○		2		○			1					2	
		欧米芸術音楽	1・2前	○		2		○			1						
		日本の音楽	1・2後			2		○								1	
		欧米音楽入門１（理論）	1・2前・後	○		2		○				1					
		欧米音楽入門２（ソルフェージュ）	1・2前・後			1				○						2	
		欧米音楽入門３（実践）	1・2前・後	○		1				○	1	1					
		音楽とクリエーション入門	1・2前・後			2			○			1					
		音楽とビジネス入門	1・2前・後			2		○			1						
		アジアの身体表現	1・2前	○		2			○		1						
		小計（30科目）	－	－	0	57	0	－			12	10	0	0		8	－
	ヨーロッパ・アメリカ	欧米芸術と文学	2・3後			2		○								1	
		イギリス文学	2・3前・後	○		2		○			3						
		アメリカ文学	2・3後	○		2			○			1					
		フランス文化論	2・3後			2		○				1					
		ラテンアメリカ文化論	2・3後			2		○				1					
		性愛文化論	2・3前			2		○			1						
		テクスト文化論	2・3後			2		○			1						
		英語テクスト分析	2・3・4前・後			2			○		2	1				1	
		英語学	2・3後			2		○								1	
		英語の歴史	1・2後			2		○								1	
		第二言語習得論（英語）	2・3前	○		2		○			1						
		Thought and Expression in English	1・2後			2			○		1						
		Advanced English Skills	2・3・4前・後			2			○					1		2	
		翻訳（英文和訳作成）	2・3・4後			2			○		1						
		通訳（英語・日本語）	2・3・4前			2			○							1	
		小計（15科目）	－	－	0	30	0	－			6	4	0	1		6	－
	日本・アジア	書道	2前			1				○						1	
		日本語の歴史	1・2前	○		2		○			1						
		日本語学演習	2・3前			2			○		1						
		日本古典文学演習	2・3前・後			2			○		1	1				1	
		日本近現代文学演習	2・3後			2			○							1	
		日本語学特講	2・3後			2		○			1						
		日本古典文学特講	2・3前・後			2		○			1	1					
		日本近現代文学特講	2・3後			2		○				1					
		日本伝統文化論	2・3後	○		2		○			1						
		日本表象文化論	2・3前	○		2		○			1						
		日本言語表現論	2・3前・後			2		○								2	
		東アジア文学論	2・3前			2		○				1					
		漢文学概論	1・2前・後			2		○				1					
		漢文学演習	2・3前			2			○			1					
		中国文化論	2・3後			2		○				1					
		韓国文化論	2・3前			2		○			1						
		小計（16科目）	－	－	0	31	0	－			4	4	0	0		5	－
	音楽・身体表現	欧米音楽１（理論）	2・3前・後	○		2		○				1					
		欧米音楽２（実践）	2・3前	○		1				○	1						
		コンサート	2・3・4後			1				○						1	
		キリスト教音楽	2・3前			2			○							1	
		物語と音楽	2・3後			2		○			2						
		ドイツ文学と音楽	2・3前			2		○				1					
		音楽と身体１（理論）	2・3前・後			2		○								2	
		音楽と身体２（実践）	2・3前・後			2			○							2	
		舞踊の文化人類学	2・3後	○		2		○			1						
		バレエの歴史	2・3前			2		○								1	
		スポーツ文化	2・3後			2		○								1	
		声の表現１（演技）	2・3・4前			2			○							1	隔年
		声の表現２（アナウンス）	2・3・4前			2			○							1	隔年
		小計（13科目）	－	－	0	24	0	－			3	2	0	0		11	－
	文化表現専門演習科目	専門ゼミⅠA	3前	○	1				○		10	7					
		専門ゼミⅠB	3後	○	1				○		10	7					
		専門ゼミⅡA	4前	○	1				○		10	7					
		専門ゼミⅡB	4後	○	1				○		10	7					
		卒業研究	4通	○	6				○		10	7					
		小計（5科目）	－	－	10	0	0	－			10	7	0	0		0	－
教職に関する科目		英語科教育法Ⅰ	3前				4	○								1	
		英語科教育法Ⅱ	3後				4	○								1	
		国語科教育法Ⅰ	3前				4	○								1	
		国語科教育法Ⅱ	3後				4	○								1	
		教育原理	1・2・3・4前			2		○								1	
		教育思想	1・2・3・4前			2		○								1	
		教職入門	1後				2	○								1	
		教育社会学	1・2・3・4前・後			2		○								1	
		教育心理学	1・2・3・4前・後			2		○								1	
		特別支援教育の基礎と方法	2前・後				1	○								1	標準外
		教育課程論	2前・後				2	○								1	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外の教員（助手を除く）	
教職に関する科目	道徳教育の理論と実践	2前・後				2	○								1	
	総合的な学習の時間の指導法	2・3前・後				1	○								1	標準外
	特別活動	2・3前・後				2	○								1	
	教育の方法・技術（情報通信技術の活用含む）	2・3前・後				2	○								1	
	生徒・進路指導の理論と方法	2・3前・後				2	○								1	
	教育相談	2・3前・後				2	○								1	標準外（前期のみ）
	教育実習１	3後				1			○						2	標準外・共同
	教育実習２	4通				2			○						2	標準外・共同
	教育実習３	4通				2			○						2	標準外・共同
	教職実践演習（中・高）	4後				2		○							5	共同
	小計（21科目）	－	－	0	8	23	－			0	0	0	0		12	－
合計（393科目）		－	－	24	535	23	－			12	11	3	1		226	

学位又は称号	学士（文化表現）	学位又は学科の分野	文学関係

卒業・修了要件及び履修方法	授業期間等	
全学教養教育から必修4単位、選択必修12単位、語学科目は履修コースにより選択必修10単位・16単位・22単位のいずれかを修得。 学科専門科目から必修21単位（うち「基礎ゼミ」は配当年次別に2単位を修得）、選択必修30単位を修得。 全学教養教育及び学科専門科目のなかから、語学科目の履修コースに応じて選択47単位・41単位・35単位のいずれかを修得。 以上、合計124単位修得すること。 （履修登録の上限：24単位（1学期））	１学年の学期区分	２期
	１学期の授業期間	15週
	１時限の授業の標準時間	90分

別記様式第２号（その２の１）

山手キャンパス
（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（グローバル教養学部文化表現学科）

科目区分			授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	基幹教員等の配置 教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外の教員（助手を除く）	備考
学科専門科目	文化表現発展科目	音楽・身体表現	欧米音楽３（実践上級）	3・4前・後			2			○		1	1					
			ソングライティングとアレンジメント	2・3・4後			2			○			1					
			アンサンブル	2・3・4前			2			○							1	
			音楽とクリエーション応用１（コンテンツ）	2・3・4前・後			2			○			1					
			音楽とクリエーション応用２（プロダクト）	3・4前・後			2			○			1					
			映像音楽・音響制作	2・3・4前・後			2			○							2	
			音楽とビジネス応用	3・4前・後			2			○		1						
			小計（7科目）	－	－	0	14	0	－			2	3				3	－
	文化表現専門演習科目		専門ゼミＩＡ	3前	○	1				○		2	3					
			専門ゼミＩＢ	3後	○	1				○		2	3					
			専門ゼミⅡＡ	4前	○	1				○		2	3					
			専門ゼミⅡＢ	4後	○	1				○		2	3					
			卒業研究	4通	○	6				○		2	3					
			小計（5科目）	－	－	10	0	0	－			2	3				0	－
合計（12科目）				－	－	10	14	0	－			2	3				3	

学位又は称号	学士（文化表現）	学位又は学科の分野	文学関係

卒業・修了要件及び履修方法	授業期間等	
全学教養教育から必修4単位、選択必修12単位、語学科目は履修コースにより選択必修10単位・16単位・22単位のいずれかを修得。 学科専門科目から必修21単位（うち「基礎ゼミ」は配当年次別に2単位を修得）、選択必修30単位を修得。 全学教養教育及び学科専門科目のなかから、語学科目の履修コースに応じて選択47単位・41単位・35単位のいずれかを修得。 以上、合計124単位修得すること。 （履修登録の上限：24単位（1学期）） １学年の学期区分：２期 １学期の授業期間：15週 １時限の授業の標準時間：90分	１学年の学期区分	２期
	１学期の授業期間	15週
	１時限の授業の標準時間	90分

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授業科目の概要 （グローバル教養学部国際社会学科）						
科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
全学教養教育	共通科目	ＣＬＡコア科目	キリスト教概論		世界宗教の一つであり、本学の寄附行為に明示されているキリスト教の基礎を学ぶ。本学のモットーであるFor Others「他者のために」は、キリスト教の中心であるイエス・キリストによって示された「神の愛」と通底する。本講義は、キリスト教初学者を念頭に、キリスト教の聖書・教理・歴史・実践・現代的展開の基本事項を教授する。それにより、For Othersの精神的基盤を理解させると共に、受講者各人が自らの学問的関心と結びつけるよう促す。	
			キリスト教学		キリスト教の基本的知識を前提に、キリスト教の理解自体を深め、さらに諸学や現代的諸問題との関連を探求する。たとえば、旧約聖書と新約聖書、世界と日本のキリスト教史、キリスト教と他宗教の関係、キリスト教と諸思想の関係、キリスト教と諸文化（文学、芸術、音楽、ことば）、キリスト教の視点による現代的諸課題（平和、環境、福祉、法律、ジェンダー）との取り組みなどである。受講生は、それらの全体または一部を重点的に学修することで、自身の学問的関心をキリスト教の視点から深めることになる。	
			フェリス女学院とキリスト教		この講義では、フェリス女学院大学の設立母体であるフェリス女学院の歴史を紐解くことにより、学院及び大学が「建学の精神」としてきたキリスト教について学びを深めるものである。学生は、本学の「建学の精神」及び「教育理念」、設立の背景やその発展などの自校史について学修するだけでなく、それらに通底しているキリスト教の基本的な信仰・理念・思想について知識を深めるとともに、自校愛を育む機会を得ることが期待できる。	隔年
			一神教概論		この講義は、キリスト教及びイスラム教の母体であるユダヤ教を中心として、一神教及び啓示宗教について考察を深めるものである。とりわけ、ユダヤ教において特徴的な「律法」について詳しく論じていく。「モーセ五書」（トーラー）や「タルムード」、ユダヤ教の「清浄規定」についての知識を深めていく。それと同時に、ユダヤ教とキリスト教の律法理解の違いを明らかにすることにより、キリスト教についてより深く知ることができるようになる。	隔年
			アカデミック・ライティング入門		本科目は、日本語でレポートを執筆する技術を身に付けることを目的とする。要約文や説明文などの短めの文章を書く練習から始め、引用の方法や資料の探し方、パラグラフ・ライティングの技法などを学びながら、レポート執筆の基礎を身に付け、最終的に意見文を完成させる。本科目での学びを通して、学生には自分の意見を論拠に、基づき・述べる方法を身につけることのみならず、論理的な文章を書けるようになることが期待される。	
			アカデミック・ライティング		本科目は、より専門性の高いライティングの技術を学ぶ。分野ごとの先行研究の調査方法や資料を批判的に読む方法を学び、専門に関する様々なテーマについて執筆する。執筆した文章に対して、授業内で意見交換や講評を行う。受講生は、教員や他の受講生の意見をもとに自身の文章を見直し、ライティングの技術を高めていく。本科目を通して学生には、問題意識を持ち、論理的で説得力ある文章を執筆する力を身に付けることが期待される。	
			プレゼンテーションのスキル		本科目は、プレゼンテーションのスキルを向上させることを目的とする。受講生は、調査した内容をもとにスピーチやプレゼンテーションを作成し、発表する。発表へのフィードバックを通して、効果的に伝達・表現する方法を学ぶ。同時に、受講生は、他の受講生のプレゼンテーションに対して、自ら疑問を持ち、積極的に議論に加わることにより、他者の意見を傾聴しながら自分の意見を述べるスキルも高めていく。本科目を通して学生には、自分の意見を正確に伝えるスキルを身に付けることが期待される。	
			ディスカッションのスキル		本科目は、ディベートやディスカッションを通して、自分の意見を的確に伝えて、他者を説得するスキルを学ぶ。授業では、論理的に対話をする方法を学び、普遍的なテーマや正解のない問題について討論を行う。様々な問題に対して、考察し、意見を述べ合うことで、コミュニケーション能力を高めるとともに、考える力を養う。本科目を通して学生には、多角的な視点から思考し、他者の立場も踏まえた上で、説得力ある議論をする方法を身に付けることが期待される。	
			健康・スポーツ論		本授業では、「健康」、「身体」、「スポーツ」など関連するトピックについて幅広く学ぶ。コロナ禍を通じて、私たちの健康観は根底から覆された。このような変化の激しい現代社会において、日本社会の考える健康とは何か、問題点は何かを問い、自分自身や家族の健康、現代社会の健康、そして次世代の健康について考える。一方、オリンピックや地域固有のスポーツなどのスポーツ文化、生きるために不可欠な栄養や給食、さらに運動会の歴史など、関連する様々な事象について人文学的に学ぶ。	
			スポーツ実習		スポーツ実習では、テニス、バドミントン、アーチェリーなどの競技スポーツから、ピラティス、ヨガ、バレエ・ストレッチなどの身体表現系種目まで、幅広い種目を学ぶ。競技スポーツでは、チームとして勝敗を競うことによりコミュニケーション能力を高めることができる。身体表現系種目では、一人一人が自らの身体と向き合い、心と体の調整を通じて、気づきを得ることができる。スポーツは、日々のストレスを発散し、自律神経を整え、生活の質（QOL）を高めることができるのである。	
			情報リテラシー基礎		大学での学びやこれからの社会において、基礎的な情報リテラシーは文科系の学生であっても必須の能力である。そこで、本授業科目では、アプリケーションソフトの単なる操作方法について学ぶのではなく、履修者の情報に関する知識を確認しつつ、大学や社会において求められる、課題や目的に応じて情報を適切に活用するための基礎能力を養う。これにより、これからの大学生活や将来社会人になったときに必須の情報リテラシー能力を身に付けることを目標とする。	
			情報リテラシー：コンピュータサイエンス入門		人間中心社会において、ICTを上手く活用するための基礎知識を、誰もが求められる時代となった。そこで、本授業科目では、これからの情報化社会で必要となるプログラミングの基礎やアルゴリズムの概念などのコンピュータサイエンスを学ぶことで、問題解決のための基礎能力を養う。これにより、簡単なプログラムを作成できるようになるだけでなく、技術革新やグローバル化の進展により日々変動する社会に対しても対応できる力を身に付けることを目標とする。	
			情報リテラシー：データサイエンス入門		政府が2019年に発表した「AI戦略2019」では、文系理系を問わず全ての大学生が初級レベルの「数理・データサイエンス・AI」を習得すべきであるとされている。そこで、本授業科目では、「社会でデータサイエンスやAI」はどのように活用されているのか」、「データをどのようにまとめ、伝えるべきか」という観点からデータサイエンスやAIの基礎を学び、オープンデータを利用してこれらの基礎知識を活用できるようになることを目指す。これにより、これからの社会（Society 5.0）を生き抜くために必要な知識、技能を身に付ける。	

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
全学教養教育	共通科目	CLAコア科目	情報科学：コンピュータと社会		企業での経営活動にはコンピュータをもとにした情報システムが深く関わっている。そこで、本授業科目では、ハードウェアやソフトウェアといったコンピュータに関わる仕組みについて学び、現代の学生、社会人として不可欠な、情報システムやそれを構成するコンピュータについて理解を深める。これにより、日常の生活において何気なく利用しているコンピュータや情報システムの利用のされ方について理解し、説明できるようになることを目標とする。	
			情報科学：ソフトウェアとビジネス		企業での経営活動にはソフトウェアをはじめとしたコンピュータに関連した技術が深く関わっている。そこで、本授業科目では、ソフトウェアを基にして提供される情報に関わるサービスや、サービスを提供する際のソフトウェアの動作、また、それらのソフトウェアがどのようにビジネスで活用されているかについて講義する。これにより、日常の生活において特に意識することなく利用しているソフトウェアがビジネスにおいてどのように活用されているかについて説明できるようになることを目標とする。	
			情報とメディアのリテラシー		インターネットやスマートフォンの急速な普及によって近年、ますます情報リテラシー、メディアリテラシーの重要性が高まっている。そこで、本授業科目では、ソーシャルデザインを通して情報とメディアのリテラシーを養うとともに、情報やメディアとの向き合い方を考える。これにより、実社会で求められる情報とメディアのリテラシーを習得し、情報とメディアのリテラシーについて自分なりの考えをもち、説明ができるようになることを目標とする。	
			ジェンダーと教育の歴史		今日、急速に女性のライフスタイルが変化しつつある。本講義では、近代以降の女性たちが歴史を切り開き、男女平等を実現してきたプロセスを、彼女たちの受けた教育に焦点を当てながら、受講生と一緒に女性と教育の歴史について考察する。「女性」と「教育」を中心に日本の発展過程を学び、多様な性のすべての人の豊かな共存を志向する発想を得てもらうことを目標とする。また、今後の男女のあり方の方向性についても、一緒に考えていく。	
			ジェンダーから学ぶ現代社会		（概要）この講義は、「ジェンダー」をテーマに各教員からそれぞれの研究分野について話をうかがうオムニバス形式で実施する。まず、宝塚等の舞台芸術で「演じられるジェンダー」について講義を受け、その後、言語学や身体動作とジェンダーの関わりについて理論的なアプローチを学ぶ。また、講義の後半では、家族や教育、法律、メディア、政治といった各分野におけるジェンダー問題を取り扱う。それにより、ジェンダーの視点から現代社会について理解すると同時に、ジェンダー問題を解決するための学際的なアプローチを身につける。 （オムニバス方式／全15回） （47　山本　千晶／6回） 導入とまとめ、ディスカッションを担当する。この講義の狙い及びそれぞれの回のアプローチに共通する「ジェンダー視点」について教示するとともに、履修者の感想を授業内で共有し、ディスカッションを時間をとる。 法（とくに女性労働者）とジェンダー。 （35　吉田　弥生／1回） 女形（歌舞伎）と男役（宝塚）の構造とジェンダー （29　土屋　広次郎）／1回） 舞台作品におけるジェンダー／ジェンダーレス／多様な性 （36　饒平名　尚子／1回） ことば／ことばづかいとジェンダー （27　高橋　京子／1回） 身体動作とジェンダー （42　関口　洋平／1回） 「働く女性」の描かれ方 （24　金　香男／1回） 家族（とくに働く女性）とジェンダー （26　澤田　佳世／1回） 教育（とくにリーダーシップ）とジェンダー （21　小ヶ谷　千穂／1回） メディアとジェンダー／男女共同参画社会 （15　矢野　久美子／1回） 政治（とくにケアの思想）とジェンダー	オムニバス方式
			ジェンダー特論		この講義では、ジェンダーに関するテーマを取り上げながら、女性の地位や女性をとりまく環境の変化を理解することを通して、学生たちが主体的なライフデザイン／キャリアデザインを構築することを目指す。具体的には、妊娠など身体に関わる諸問題や賃金労働（ペイドワーク）と無償労働（アンペイドワーク）などの労働問題、家族や結婚などのライフデザインをめぐる問題などを取り上げ、女性（男性）のおかれた状況と歴史的な変化を考察する。	
			男女共同参画政策		この講義では、ジェンダー平等実現のための国連を中心とした国際社会及び日本社会の取組みについて学ぶ。取り上げるテーマは、ポジティブアクションや女性活躍、ワークライフバランス、少子化対策等の諸施策を予定している。その際、日本がジェンダー平等の取組みが遅れているという評価を意識しながら、とくに国連や諸外国の取組みと日本のそれを比較することで、日本における男女共同参画に関する諸施策の課題の洗い出しを行う。それにより、課題解決のために必要な取組みについての提言ができるようになる。	
			地域社会と女性リーダー		「リーダーシップ」とは、その組織や集団、関係性の中において本来は多様なものであり、またライフスタイルや経験の中で築き上げられていくものである。本講義では、地域社会のさまざまな分野（起業/自営業、NGO、公務員、メディア、政治分野等）で活躍する本学OGを含む女性たちをゲストに招き、その実践から学ぶことで受講生が「リーダーシップとは何か」について自ら考えるようになることを目指す。ゲストによる講義と受講生によるチームでのインタビューを通して、女性たちのライフヒストリーから学び・記録するという実践も行う。	

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
全学教養教育	共通科目	CLAコア科目	ジェンダーと人権		この講義では、ジェンダーに関わる問題をとくに「人権」という観点から理解する。具体的にはセクシュアリティや教育、家族、リプロダクティブ・ヘルス＆ライツや、女性に対する暴力などを取り上げる。ジェンダーに関連する法律や判例を取り上げながら、実際の問題状況を理解することに重点をおく。それにより、ジェンダーの視点から法にかかわる具体的な問題を指摘し、問題解決の方法等について論じることができるようになることを目指す。	
			男性学		この授業では、まず男性学という学問の意義について批判的に検討する。男女間の平等が達成されているとは言い難い社会において、男性について研究することにはどのような意味があるのか。社会の役に立つ男性研究とは、どのようなものなのか。本講義の後半では、そのような問題意識を念頭に置きつつ、子育てをする男性が日本とアメリカの文化のなかで、どのように描かれてきたのかを検討する。日米の「イクメン」文化はそれぞれ、どのような社会のなかで育まれてきたのかを考察する。	
			グローバリゼーションとジェンダー		グローバリゼーションによって国境を超えて差異や不平等の顕在化していく中で、「国民国家」を超える新たな連帯の再構築が同時に生まれている。本講義では、こうした複雑かつ多面的な「グローバリゼーション」の諸相を、社会学・政治経済学的視点から、ジェンダーの「レンズ」を通して考察することを目的とする。「労働」「ケア」「社会運動」「他者理解」の４つの切り口から、わたしたちが生きる世界の構造的な課題を理解し、現代世界における自らの位置について、社会科学的に思考を深められるようにする。	
			ジェンダー&セクシュアリティ入門		ジェンダーやセクシュアリティをこれから学ぶ学生を対象に、基本的な用語の意味や定義、それらが現代社会においてどのように使われているかについて学ぶ。この講義では、自分で調べ学習をしたり、その成果をグループで共有し、意見交換をしながら主体的な学びを深めていく。とくに、自身の身体や生活に深く関わっているジェンダーやセクシュアリティの問題を見つけ出し、それを他者と共有することで、多様な身体や性のあり方を「発見」することで、性の多様性を尊重する態度や思考を身につけることを目標にする。	
			プロジェクトで学ぶ		ジェンダーの知識を身につけた学生が、それらの知識を自身のキャリア・プランに活かしていく、プロジェクト型の授業である。本学の卒業生や地域で活躍する女性リーダーと交流したり、共同でイベントの企画や運営を実施することで、新しいリーダーシップを学び、学生リーダーとして活躍する能力を身につける。また、ワーク・ライフ・バランスなど職場での課題についてリサーチし、問題解決のためのスキルを身につけていくことも目標とする。	
			デザインと表現		(概要) 本講義では、わたしたちの生活にとって「デザインすること」「表現すること」が持つ意義を知り、多彩な表現手段について知識を深め、それらの背景にある「感性」と「論理」の統合を学ぶ。さらに本講義を通して、他者に対して効果的に「伝える」ための知識や技術を身につけ、多様で個性的な存在であるわたしたちが「ともに」よりよい未来を創っていくための発想力を養う。 (オムニバス方式／全15回) (39 木水　千里／5回) ファッション、視覚芸術について扱い、私たちが日常的に接しているデザインを客観的に捉える視点と感性を養う。 (43 中西 宣人／5回) 近年の音響・映像・メディアにおけるデザインと表現手法を紹介し、分野横断的な視点や知識を得られるよう授業を展開する。 (34 由井 哲哉／3回) 言葉・書籍など平面デザインから演劇空間に至るデザインを扱い、「感性」と「論理」をバランスよく統合し、多彩な表現手段について知識を深める。 (29 土屋 広次郎／2回) 舞台とデザイン、身体と声について扱い、他者に対して効果的に「伝える」ための知識や技術を身につける。	オムニバス方式
			デザイン概論		私たちの身近には、さまざまな色や形がおりなすデザインであふれており、生活を豊かに彩っている。本講義では、産業革命から現代に至るまでの欧米、そして日本のデザインの歴史を学ぶ。技術革新が進み、大量生産・大量消費の時代が本格的に幕を開けた近代以降、美術・工芸品にはじまり、インテリアや建築、写真、グラフィックなど、デザインはジャンルや国境を越え、人々の暮らしを大きく変えていった。このようなデザインの歴史を概観することで、その色彩や形態の成り立ちを学び、社会の問題解決のために働きかける柔軟な発想や視点を培うことを目指す。	
			ことばとデザイン		書籍、小冊子、雑誌、カタログ、ポスターなどにおいて、製作者の意図を的確に伝えるためには、誌面全体のレイアウト、文字の書体、写真や絵の配置を考えながら、誌面を効果的に組み上げる技術が必要とされる。本講では、InDesignの基本操作を始め、タイポグラフィやページ組版の基礎知識、マテリアル（画像、グラフ、表など）の処理方法など、エディトリアルデザインと呼ばれるこうした技能の基礎理論と基本技能を身につける。	
			美術芸術論		本講義では近現代芸術史をたどりながら、視覚文化領域の表現の拡大や、鑑賞・体験・消費の時代ごとの移り変わり、そして「芸術」という枠組み自体について学んでいく。特に、視覚媒体と芸術の関係を軸に、美術史・デザイン史的文脈からテクノロジーやサイエンス、その他の諸科学と表現のつながりについて理解を深める。さらには同時代の美術やデザインの実践を事例に、現在われわれを取り巻く社会や身の回りの出来事にも結びつけて視覚文化について考察する。	
			ファッションデザイン論		本講義は、最初のファッションデザイナーと言われるシャルル・フレデリック・ウォルトが登場した19世紀半ば以降、現代に至るまでのファッションデザインの歴史を振り返る。各時代に活躍したファッションデザイナーの代表作を事例に取り上げ、それらが生み出した新しい価値観や、社会に与えたインパクトについて検討する他、ジェンダーや環境問題など、近年の社会的関心がファッションデザインにどのような形で現れているかも考える。	
			メディア・デザイン		我々の身の回りでは、ウェブ、SNS、動画配信、新聞や雑誌など様々なメディアを横断して、情報発信が行われている。さらに近年では、IoTやAI技術の発展により、スマートフォンやスマートスピーカーなど、新たなメディアが次々に登場し、我々の生活に溶け込む存在となりつつある。本講義では、時代とともに移り変わり、形態や機能が変化する「メディア」を対象とし、メディアに関する歴史や社会を学び、批評的に捉え、新たなメディアと我々との関係性を「デザイン」するための知識を深める。	

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
全学教養教育	共通科目	ＣＬＡコア科目	読書とメディア		出版メディアのデジタル化が急速に進む昨今、読書のあり方も大きく変わってきている。本科目は、出版をはじめとする読書に関連するメディアの特質を知り、それらのメディアがもたらす知識や情報を適切に扱う方法を学ぶ。授業では、ある一つの知識や情報に対して、多角的な視点から比較検討し、批判的に読む力を養う。同時に、情報を発信する際のリテラシーについても学ぶ。本科目を通して学生には、知識や情報を批判的に読む方法を身に付けること、知識や情報を判断し、解釈し、他者に伝える力を身に付けることが期待される。	
			コピーライティング演習		コピーライティングとは商品を効果的に売り出すのに欠かせない技術であるが、それは見出し、キャッチコピー、ネーミング、スローガン等の狭義の技能にとどまらず、自身の考えやコンセプトを効果的に立案し伝えるための広範な表現活動をも指す。本講では、テキストデザイン、企画書の考案、広告表現、発想力のトレーニングからマーケティング戦略に至る様々な表現技術や発想法を学びながら、意思伝達のための広範な実践演習を行う。	
			住空間デザイン		日本や世界には様々な環境で暮らしている人々が存在する。その土地に住む人々にとって日常の風景であっても、地理的条件、社会的条件、個人的条件などを読み込んだ豊かな「デザイン」と捉えることができる。本授業では、国内・海外の道具、建築、景観などを紹介し、人の営みや思考との関係を考察する。それらの生活のなかのデザインを手掛かりに、多角的な視点を持ち生活文化、地域文化を理解する方法を学ぶ。また、過去・現在・未来を視野に入れて、それらの住空間デザインをどのように継承し現代に生かすかを考察する。	
			都市生活の空間デザイン		本講義では、都市生活の舞台である「地域＝まち」レベルの空間やコミュニティのデザイン手法について学ぶ。特にフェリス女学院大学が立地する「緑園都市」を主な対象とし、住民・企業・団体・行政など地域社会をつくるさまざまな主体の存在についての知識を深めながら、地域への関わりを体験的に学んでいく。またそこから、より豊かで創造的な都市生活のあり方について検討し、現在から将来にわたって、「地域＝まち」に主体的に関わる方法論（編集力）を手に入れることを目標とする。	
			キャリア形成の基礎		この授業では個人のキャリア形成の基礎的段階を育成するために、基礎的知識を修得し、コミュニケーション能力の開発を目指す。レポートおよびプレゼンテーション、グループ・ディスカッション等のコミュニケーション能力を養う。必要な社会環境の変化を理解することにより多様なキャリアのあり方を理解し、自立した社会人として組織における行動の基本的スキルを修得し、活用できるようになることを目標とする。これにより、文章化や他者への伝達能力を修得し、総合的なアウトプット力とチームワーク力を身につけ、大学での学びのみならず、自律的なキャリア形成への実践的なコミュニケーション力を発揮できるようになる。	
			キャリア形成の意義		この授業では、キャリア形成の意義を理解することを目指す。アクティブ・ラーニング形式により、企業の経営者や社会人との交流を通じて、主体的かつ能動的に課題への解決策を模索すると同時に、グループワークを通じて協働的に作業や議論、プレゼンテーションへの準備を行う。社会において働く楽しさや意義を理解することを目的とし、キャリア形成に前向きに取り組む意識と姿勢、スキルを育成することができる。個々の取り組みについてのフィードバックを重ねることにより、自らの強みを発見し、意欲を高めることができる。	
			キャリア形成の実際		この授業科目では、キャリアにおける実践的な能力開発を目標とし、マネジメント能力等の基礎的技法を中心にアクティブ・ラーニング形式で学ぶ。教育での諸活動から企業、公共事業等の多様なプロジェクトにおける実践的なマネジメントの概念や基礎的知識、運用等のスキルの修得を通じて、実践的なキャリア形成を目指す。本授業を通じて、日本プロジェクトマネジメント協会のＰＭＣｅ（プロジェクトマネジメントコーディネーターエントリー）という資格を取得することができる。	
			キャリア形成の諸問題		この授業科目では、キャリア形成において直面する諸問題を明確化し、その克服を目指す。ビジネス情報や経営分析、特に基礎的数学力はビジネスにおいて必須とされるが、特に人文系学生にとっては、数的能力等がキャリア形成において障壁となることが多い。そこで企業診断や経営手法を学び、とりわけ数的根拠に基づいた能力の育成を重点的に行う。これらを克服・修得することで、就職活動のみならず、将来の昇進・転職・再就職においても評価される高度な能力へと展開することができる。	
			キャリア実習（短期インターンシップ）		この実習では、短期間のインターンシップを通じて、働くことを多面的に経験し、学びとキャリアの模索への動機付けを促す。この実習では、働く内容や計画を定め、事前研修、就業体験、事後面談、事後研修から構成される。大学での学びがどのように社会において活用されるのか、また働き方の実際を体験する。この実習を通じて、働くことへの意識を高め、今後目指すべきキャリアと適性の方向性を明確化することにより、在学中に修得すべき学びと能力開発への意欲を高めることができる。	
			キャリア実習（短期就業体験）		本実習は、学生が実際の職場で短期間働くことを通じて、職業やキャリアに関する貴重な経験を積む科目である。学生は自身の学びやスキルを実践的な環境で試し、現実の労働市場における仕事の要件や挑戦に直面することになる。具体的には、事前に設定された組織や企業で数週間から数ヶ月間の就業体験を行い、職場のルールや文化に適応し、業務を遂行していく。この実習を通じて、学生は職業的なスキルや専門知識を向上させるだけでなく、実際の労働環境での問題解決やチームワークの重要性も理解することになる。また、キャリア目標の洗練や自己評価の機会も与えられることで、自身の興味や適性を見極め、　将来の職業選択や進路決定に役立てることが期待される。	
			キャリア実習（長期インターンシップ）		この実習では、長期間のインターンシップを通じて、働く意義と人間関係の基礎的スキルを学ぶ。この実習では、学ぶ目的や計画を定め、事前研修、就業体験、事後面談、事後研修から構成される。大学で学んだ知識や理論を、実社会においていかに活用するのか、また組織における働き方を実習を通じて体験し、実務での基礎的スキルの修得や適性の明確化、各自の意欲や能力に応じた職業および働き方の探求を目的とする。この実習を通じて、働く意義と、組織におけるコミュニケーション能力を向上させ、キャリアの方向性を明確にすることができる。	
			キャリア実習（長期就業体験）		この実習では、長期間の就業体験を通じて、企業・団体等の実務の現場において就業上求められる実務能力とより高度なコミュニケーション力を学ぶ。事前に学ぶ目的や計画を定め、事前研修、就業体験、事後面談、事後研修から構成される。大学での学びと実際の職場での就労体験を接合し、企業や業界の特性の把握、職務における実践的スキルの修得を目的としている。実際の職場での仕事を通じて、働く意義を確認し、業種や業務の違いを認識した上で、自らの適正と意欲に応じたキャリア選択を明確にすることができる。	

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
全学教養教育	共通科目	CLAコア科目	ボランティア活動（短期）		本科目は、現代においてボランティア活動がますます重要な意義をもつようになっていることに対応して設けられた科目である。学生の自主性を重んじ、学生が自分で受入先を見つけ、計画を立てて実行することが基本理念となっているが、大学としても本学ボランティアセンターにおいて、受入先に関する情報提供など全般にわたって学生を支援する。本科目では国内外における実動45時間以上の活動を要求するが、この時間をどのように達成するかは学生の自由な計画に委ねられる。学生は自己責任に基づく社会参加の意義を学び、自己の成長につなげることが期待される。	
			ボランティア活動（中期）		本科目は、現代においてボランティア活動がますます重要な意義をもつようになっていることに対応して設けられた科目である。学生の自主性を重んじ、学生が自分で受入先を見つけ、計画を立てて実行することが基本理念となっているが、大学としても本学ボランティアセンターにおいて、受入先に関する情報提供など全般にわたって学生を支援する。本科目では国内外における実動90時間以上の活動を要求するが、この時間をどのように達成するかは学生の自由な計画に委ねられる。学生は自己責任に基づく社会参加の意義を学び、自己の成長につなげることが期待される。	
			ボランティア活動（長期）		本科目は、現代においてボランティア活動がますます重要な意義をもつようになっていることに対応して設けられた科目である。学生の自主性を重んじ、学生が自分で受入先を見つけ、計画を立てて実行することが基本理念となっているが、大学としても本学ボランティアセンターにおいて、受入先に関する情報提供など全般にわたって学生を支援する。本科目では国内外における実動270時間以上の活動を要求するが、この時間をどのように達成するかは学生の自由な計画に委ねられる。学生は自己責任に基づく社会参加の意義を学び、自己の成長につなげることが期待される。	
			市民活動の役割と意義		この講義では、現代の政治や社会をめぐる諸問題の解決に取り組む市民団体等の活動について、その意義と課題について考察する。市民活動をめぐる法的・政治学的な定義を学んだ上で、市民活動の歴史、多様なアクターおよび活動方法、活動内容、政治との関係性等を講義する。公共性や、自主性、社会との連帯の重要性を認識し、市民が共に支え合う地域社会の形成、および共生社会の実現への意欲と知見の修得を目的とする。この学びを通して、自己の利益を超えた社会性や公益性の重要性を意識し、行政とも企業とも異なる社会問題解決への創造的な発想を育むことができる。	
			今年の一冊		米国大学の中には、リベラル・アーツ教育の一環として古典的著作群（グレート・ブックス）を学ぶ伝統がある。たとえばキリスト教の聖書はその代表であるが、それに留まらず、古今東西の作品の中から一冊を選び、一学期かけて読み解き、味わっていく。その際、古典を読むための技法も教授する。それにより、一冊の書物に腰を据えて取り組むことで初めて得られる知的深みがあることを、受講生に体験させることが本講義の目的である。	
			科学技術入門		本授業科目では科学技術や自然現象に興味を持ってもらうために、科学技術そのものに焦点を当てるのではなく、身近な自然現象やSF小説に出てくる事例などを題材にし、それらの現象が引き起こされる理由や、関連する科学技術について解説する形式で講義を行う。これにより、自然科学に関連した科学技術に対して興味関心を抱いてもらうとともに、自然現象が引き起こされる理由を科学的な立場から理解し、具体的に説明できるようになることを目標とする。	
			数学の基礎		実社会における様々な場面において数学的思考法は有用である。そこで、本授業科目では、基礎的な数学の知識の再確認を行うとともに、それらの知識の社会における活用場面や、社会の仕組み・人間の行動・身近な科学技術などを数学的思考法を用いて理解する方法についても学ぶ。これにより、数学に対する苦手意識を払拭し、論理的に物事を考える力を養成し、社会で活躍するための強力な武器となる数学的思考力を身につけることを目標とする。	
			生命科学と倫理		本講義では、生命科学や医療技術の発展を踏まえつつ、生命倫理・医療倫理の諸問題を扱う。たとえば脳死、臓器移植、安楽死・尊厳死、出生前診断、人工妊娠中絶、優生学、インフォームド・コンセント等である。各々について深く掘り下げるとともに、科学・技術と社会の関係、さらに人類がいかにその問題を向き合っていくかについて、倫理学の知見から考察を加える。この講義を受講することで学生は、上記の諸問題に関する基本的知見を得て、自分なりの見解を育むことが期待される。	
			日本国憲法		日本国憲法は、基本的人権論（国民の権利・義務）と統治機構論（国家の組織・作用）の二つに分けられる。どちらも、人々の権利や利益を保障するために必要不可欠であり、これに違反する法律等は無効となると言われている（憲法の最高法規性）。憲法は国家の基本的な約束事を定めている。本講義では、具体的事例を取り上げつつ憲法の諸側面を扱うことで、政治学や法学との関連のみならず、日常生活の次元で憲法問題を意識させることを目的とする。	
			哲学Ａ		哲学とはいかなる学問なのか、これまで哲学はどのような問題に取り組んできたのか。哲学に初めて触れる受講生を念頭に、哲学という学問の基礎を案内する。古代から現代に至る哲学史の中で提唱されている重要な主張・考え方について、それらがどのようなことを問題にしてきたかを、思想史的または現代的観点から取り上げる。本講義を通して受講生は、哲学史の基礎を習得すると共に、哲学的思考がいかなるものであるかを理解することが期待される。	
			哲学Ｂ		本講義は、哲学の代表的な諸問題を考察することによって哲学独自の思考方法を理解することを目標とする。哲学はあらゆる学問の基礎であり、受講生がいかなる専攻に進むにせよ、哲学はその根本に関わることになる。なぜなら、批判的思考（クリティカル・シンキング）、つまり目の前の問題について「本当にこの答えは正しいのか」ということを粘り強く考え続ける営みだからである。受講生はこの批判的思考を身に付けることで、哲学という学問を超え、日常生活や別領域の学問に取り組むための知的基礎を養うことになる。	
			心理学		本講義は、心理学の基礎的な概念や原則について学ぶ入門科目であり、心理学の歴史、研究方法、主要な理論、領域などについて広くカバーする。受講生は、知覚、学習、記憶、認知、感情、発達、社会的な相互作用、心理的障害など、心理学のさまざまなテーマに触れることになる。また、個人の行動や心理状態を理解するための基本的な概念や枠組みも学ぶ。講義、ディスカッション、読書、実際の心理学の研究の紹介など、必要に応じて多様な教育手法を用いる。本講義の目的は、受講生に心理学の基礎を提供し、心理学の重要性を理解させるとともに、個人や社会に関わる様々な現象を科学的に考察する能力を養うことである。	
			青年心理		本講義は、若者の心理的発達と関連する概念とプロセスを探求する科目である。青年期（10代から20代）の個人の特徴や成長に焦点を当て、身体的、認知的、感情的な変化や社会的な要因の影響を調査する。さらに、自己同一性の形成、人間関係の発展、学業や職業選択への影響など、青年期における重要なテーマを扱う。この科目では、発達理論や研究結果に基づき、青年期の心理的な側面を理解するための枠組みが提供される。受講生は、青年期の個人差や文化的な多様性についても考察し、自己探索や自己成長の過程を探求する機会が与えられる。それにより、若者が自己発見と意義ある生活を追求するための洞察と能力を培うことが期待される。	

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
		ＣＬＡコア科目	プロジェクト演習		この授業では、「新しい時代を切り拓く」ために必要な知識・技能を修得し、社会における問題解決能力の獲得を目指すため、講義と実習を併用するPBL：Project-Based Learningの形式で実施する。グループワークを通じて課題発見・問題解決能力、他者と協働しプロジェクトを管理する能力を身につけることができる。学外の諸団体と連携し、実社会の視察や、実務家の手法を学ぶことを通じて、実社会の課題や社会問題解決に取り組む意欲と能力を身につけることができる。また学生個人が目標設定、振り返りの仕組みを設定し、客観化や自己評価能力を獲得することができる。課題解決と社会貢献への意識付けを高めることにより、大学の理念「For Others」を体現したリーダーとなることができる。	
全学教養教育	共通科目	語学科目	英語Ｉｓ（聞く・話す）		グローバル社会で必要な言語の１つとして、英語の運用能力を養うことを目的とする。英語Is（聞く・話す）では、英語を「聞く、話す」における基礎的な力を養いながら、より実践的な英語力を統合的に身につけることを目指し、アクティブなパフォーマンスとプロジェクト・ワークを重視した授業展開を行っていく。ペアまたはグループでのアクティブ・ラーニングを通して、リスニングにおける推測やキーワード掌握といった技能とともに基礎的な会話に必要な語彙を習得し、情報を求めたり、理由を述べたりする力を身につける。会話やプレゼンテーション、ディスカッション能力を高め、会話を継続させながら馴染みのあるさまざまな話題について、簡単に述べることができることを目指す。	
			英語Ｉｓ（読む・書く）		グローバル社会で必要な言語の１つとして、英語の運用能力を養うことを目的とする。英語Is（読む・書く）では、英語を「読む、書く」における基礎的な力を養いながら、より実践的な英語力を統合的に身につけることを目指し、アクティブなパフォーマンスとプロジェクト・ワークを重視した授業展開を行っていく。これらのアクティビティを行うことにおいて、語彙力を高めながら英文の内容を適切に理解すると同時に、自らの考えを、英語で書き、表現し、発信する訓練を重点的に行う。	
			英語Ⅱｓ（聞く・話す）		グローバル社会で必要な言語の１つとして、英語の運用能力を養うことを目的とする。英語Ⅱs（聞く・話す）では、「聞く、話す」における基礎的な英語力を強化しながら、より確実に統合的な力を身につけることを目指し、アクティブなパフォーマンスとプロジェクト・ワークを重視した授業展開を行っていく。ペアまたはグループでのアクティブ・ラーニングを通して、Isで習得したリスニングにおける基礎力を強化しながら、会話やプレゼンテーション、ディスカッション能力を高め、より高度なアカデミックなトピックにおいても自身の考えや意見を明確に伝えることができるようになることを目指す。	
			英語Ⅱｓ（読む・書く）		グローバル社会で必要な言語の１つとして、英語の運用能力を養うことを目的とする。英語Ⅱs（読む・書く）では、Isで養った「読む、書く」における基礎的な英語力を強化しながら、より確実に統合的な力を身につけることを目指し、アクティブなパフォーマンスとプロジェクト・ワークを重視した授業展開を行っていく。Ⅱsでは、これらのアクティビティを洗練させ、Isで習得した語彙力、英文読解力を高め、自らの考えを、堅固なパラグラフ構成のもとに論理的な英語の文章で表現し、発信する訓練を行う。	
			英語Ⅲｓ（聞く・話す）		グローバル社会で必要な言語の１つとして、英語の運用能力を養うことを目的とする。英語Ⅲs（聞く・話す）ではアカデミックなリスニングとスピーキングの練習を行い、これらの技能をさらに発展させる。「聞く」では、意味の予測、主題の把握、より明確で詳細な情報とキーワードの理解の方法等を訓練し内容を理解できるようにする。「話す」では、会話およびディスカッション能力を高めるとともにプレゼンテーション技能を身につけていく。自分の関心のあるさまざまな話題について、ほどほどの流暢さ、長さの論理的で筋の通ったプレゼンテーションができるようになることを目指す。	
			英語Ⅲｓ（読む・書く）		グローバル社会で必要な言語の１つとして、英語の運用能力を養うことを目的とする。英語Ⅲs（読む・書く）では、１年次の授業（Is，Ⅱs）で習得した、英文を読む力と書く力をさらに発展させる。「読む」では、さまざまなトピックのより高度な英語の文章を読み、正しく要点を押さえつつ、効率よく読むための訓練をする。スキミングの手法を使って必要な情報を効率よく読みとるとともに、文章が書かれた背景や筆者の意図を的確につかむことができる。「書く」では、学習した記事や論文について意見を述べたり、必要に応じて個別のリサーチも行い、英文で論理的に思考を表現する訓練を行う。また「読む」において読んだ記事の内容について英語で意見を述べ、論理的に書くことができる。授業は、２０人程度の少人数で演習形式で行っていく。	
			英語Ⅳｓ（聞く・話す）		グローバル社会で必要な言語の１つとして、英語の運用能力を養うことを目的とする。IsからⅢsまでに習得した英文を聞く力と話す力を発展させ定着させていく。英語Ⅳs（聞く・話す）ではアカデミックなリスニングとスピーキングの練習を行い、これらの技能をさらに発展させる。「聞く」では、Ⅲsで訓練してきた技法を駆使して、主題とその詳細を確実に理解できるリスニング能力を養う。「話す」では、会話やグループ・ディスカッションを主導し、その中で自分の考えや意見を明確に述べることができる。また、自分の関心のあるさまざまな話題について、長さ、内容、論理性などがより発展的であるとともに、プレゼンテーションを行う姿勢などにおいても、トータルとして精巧なプレゼンテーションができるようになることを目指す。	
			英語Ⅳｓ（読む・書く）		グローバル社会で必要な言語の１つとして、英語の運用能力を養うことを目的とする。英語Ⅳs（読む・書く）では、IsからⅢsまでに習得した英文を読む力と書く力を発展させ定着させていく。「読む」では、身近な話題やアカデミックな分野のさまざまなトピックについて、習得したスキルを駆使しながらより高度な英語の文章を読み、正しく要点を押さえ、必要な情報を効率よく、すばやく読みとる訓練をする。簡潔な事実関係のテクストで、自分の専門分野や興味の範囲内のものは、ほとんどのものを理解できるようになることを目指す。「書く」では、学習した記事や論文について、必要に応じて個別のリサーチも行いながら、より複雑で詳細な思考や事柄を英文で論理的に表現する訓練を行う。	
			英語Ⅱｉ（分析・理解）		「英語Ⅱi（分析・理解）」は、英語を日常的に使いこなすとともに、アカデミックな（または卒業後のグローバル社会におけるビジネス分野においても）プレゼンテーションなどに必要な英語のスキルを養うことを目的としている。英語Ⅱi（分析・理解）では、取り入れた情報を「分析」し「理解」する上で必要となるリーディング能力とリスニング能力の堅固な基盤を築いていく。リーディングでは、語彙を増やし、プレビュー、スキミング、スキャニングなどの読解のスキルを使用し、段落の基本的な構造を理解しながら、短いシンプルな学術的なテキストの要点を理解することができる。リスニングでは、音の構造を学びながら、予測、推論、キーワードに焦点を当てるなど、リスニングスキルを身につけ、会話、ミニ講義、メディアを含む、ゆっくりと注意深く話される英語を理解することができるようになることを目指す。	

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
全学教養教育	共通科目	語学科目	英語Ⅱｉ（発信・表現）		「英語Ⅱi（発信・表現）」は、英語を日常的に使いこなすとともに、アカデミックな（または卒業後のグローバル社会におけるビジネス分野においても）プレゼンテーションなどに必要な英語のスキルを養うことを目的としている。英語Ⅱi（発信・表現）では、特に自身の思考や意見を「発信」し「表現」する上で必要となるスピーキング能力とライティング能力の堅固な基盤を築いていく。スピーキングでは、自身の意見や考えをジェスチャーを用いて表現しながら、会話やディスカッションに積極的に参加し、簡単な質問に答えたり、簡単な発言に返答したりすることができるようになることを目指す。ライティングでは、単語や基本的な文法スキルのバリエーションを持ったシンプルなフレーズや文を正確に書くことができるようになることを目指す。	
			英語Ⅱｉ（プロジェクト）		英語Ⅱi（プロジェクト）は、Ⅱiの「分析・理解」、「発信・表現」で学んだスキルをもとに、調査およびプレゼンテーションスキルを発展させることを目的としている。グループでプロジェクトにとりくみ、企画から資料の検索、情報の整理などにおける基礎を学ぶとともに、これらの資料を用いながら、スライドの作成方法を習得し、スピーチの心得や姿勢など、プレゼンテーションにおける基礎的な知識についても学んでいく。一学期中２回程度の実践的なグループプレゼンテーションを通して、プレゼンテーションに必要な知識とスキルをを身に付けていく。また、ポートフォリオを活用することで、適宜、振り返りや目標設定を適切に行っていく。基礎的な英語能力については、EnglishCentral（オンライン）を活用し、自主的な学習を促している。	
			英語Ⅲｉ（分析・理解）		「英語Ⅲi（分析・理解）」は、英語を日常的に使いこなすとともに、アカデミックな（または卒業後のグローバル社会におけるビジネス分野においても）プレゼンテーションなどに必要な英語のスキルを養うことを目的としている。英語Ⅲi（分析・理解）では、Ⅱiで養ったリーディング能力とリスニング能力の発展させていく。リーディングでは、語彙をさらに増やし、Ⅱiで習得したプレビュー、スキミング、スキャンなどのスキルを駆使し、中程度の速度で長めのアカデミックな内容のテキストの詳細と主要ポイントを正確に理解できるようになる。リスニングでは、Ⅱiで養ったスキルを発展させ、一般的に馴染みのあるアクセントで、中程度のスピードで話される日常的なトピックやアカデミックなトピックに関する事実に基づく情報をほとんど理解できるようになることを目指す。	
			英語Ⅲｉ（発信・表現）		「英語Ⅲi（発信・表現）」は、英語を日常的に使いこなすとともに、アカデミックな（または卒業後のグローバル社会におけるビジネス分野においても）プレゼンテーションなどに必要な英語のスキルを養うことを目的としている。英語Ⅲi（発信・表現）では、Ⅱiで養ったスピーキング能力とライティング能力を発展させていく。スピーキングでは、日常の問題や学術的なトピックについて積極的に議論に参加し、自分のアイデアを支持しながら、論理的に賛成/反対意見を正確に述べることができるようになる。ライティングでは、トピック・センテンスとそれを説明する文を含み、同時にスムーズに文を移行させる副詞などを使って、まとまった複数段落（因果関係と比較）を書くことができるようになることを目指す。	
			英語Ⅲｉ（プロジェクト）		英語Ⅲi（プロジェクト）は、Ⅲiの「分析・理解」、「発信・表現」で学んだスキルをもとに、調査およびプレゼンテーションスキルをより発展させることを目的としている。また、Ⅱiで身につけた知識とスキルをさらに発展させ、プレゼンテーションにおけるより戦略的で発展的な知識を身につけていく。グループでプロジェクトに取り組み、企画、効果的な資料収集ができるようになり、作成されるスライドもビジュアル的な効果（図、表、グラフなど）を用いたり、またそれを説明する方法を学び、実践的な発表を行う。Ⅱiに引き続き、ポートフォリオを活用して、適宜振り返りや目標設定を適切に行い、自身の強みや弱点を認識する。基礎的な英語能力についても引き続き、EnglishCentral（オンライン）を活用し、自主学習の分量を増やしながら力を発展させていく。	
			英語Ⅳｉ（分析・理解）		「英語Ⅳi（分析・理解）」は、英語を日常的に使いこなすとともに、アカデミックな（または卒業後のグローバル社会におけるビジネス分野においても）プレゼンテーションなどに必要な英語のスキルを養うことを目的としている。英語Ⅳi（分析・理解）では、Ⅲiまでに養ったリーディング能力とリスニング能力を定着させていく。リーディングでは、これまでに習得したスキルを活用し、長く複雑でアカデミックな内容のテキストを、詳細も把握しながら、より迅速に、より深く理解することができる。リスニングでは、これまでに習得したスキルを活用し、より長く、より複雑な日常的およびアカデミックなスピーチの中で、情報をより正確に理解することができる。また、図表やグラフなどに対する詳細な情報も聞き取って理解することができるようになることを目指す。	
			英語Ⅳｉ（発信・表現）		「英語Ⅳi（発信・表現）」は、英語を日常的に使いこなすとともに、アカデミックな（または卒業後のグローバル社会におけるビジネス分野においても）プレゼンテーションなどに必要な英語のスキルを養うことを目的としている。英語Ⅳi（発信・表現）では、Ⅲiで養ったスピーキング能力とライティング能力を定着させていく。スピーキングでは、ディスカッションに積極的に参加することに加えて、ディスカッションをリードし、より批判的に議論を行うことができる。比較的流暢かつ正確に話すことができる。ライティングでは、調査に基づいて、序論、本論、結論の段落を含む、アカデミックなエッセイ（論理的/賛否両論）を書くことができる。複数の段落で慣用表現や口語表現を使い、現代的な問題に対する自身の考えを論理的に説明できるようになる。	
			英語Ⅳｉ（プロジェクト）		英語Ⅳi（プロジェクト）は、Ⅳiの「分析・理解」、「発信・表現」で学んだスキルをもとに、調査およびプレゼンテーションスキルの習得を完成させていくことを目的としている。また、Ⅲiまでに身につけた知識とスキルを定着させ、より長く、堅固な構成（イントロダクション-本論-結論）によるプレゼンテーションができるようになることを目指す。グループでプロジェクトに取り組み、企画し、十分な資料収集を用いて発表資料を作成する。校正を繰り返しながら、卓越した実践的な発表ができるようになることを目指す。Ⅲiに引き続き、ポートフォリオを活用して、これまでに認識してきた自身の弱点を克服するとともに、強みを伸ばしていく。引き続き、EnglishCentral（オンライン）を活用し、自主学習の分量を増やしながら基礎力を高め、定着させていく。	
			英語Ⅴｉ（プロジェクト）		英語Ⅴi（プロジェクト）は、集中英語プログラムの集大成として、ⅡiからⅣiので学び、完成したスキルを実践的に活用させる目的としている。これまでに考察してきたアカデミックなテーマの中から、自ら関心のあるトピックを見出し、グループで企画、資料収集、調査を行う。十分な資料をもとに、十分な長さをもち、論理的かつ堅固な構成による発表原稿を作成し、スライドなど、効果的な発表資料を作成できるようになる。原稿、スライドともに校正を繰り返し行い完成させるとともに、発表練習を繰り返すことにより、声の大きさ、ジェスチャー、姿勢なども、公的でフォーマルなプレゼンテーションにおいて適切であるように完成させていく。最終的には学年合同でのプレゼンテーション大会を行い、コースにおける学習の成果を共有する。	

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
全学教養教育	共通科目	語学科目	英語e（Academic Reading）		英文のスピーチを正確に読み解くことができるようになり、スピーチに関連する英文資料を探し、読み解いた上で活用できるようになることを目的とする。また、自分の意見や考えを効果的にプレゼンテーションすることができるようになるためのCritical Thinkingの意識と方法を身につけていく。具体的には、"TED: Ideas Worth Spreading"に収録されているスピーチの中から、「ことば」「ジェンダー」「平等」などをめぐるものを選び、スピーチを聴くだけではなく、スクリプトを確認することで現代的な問題意識を確認していく。授業では、各スピーチを確認し、必要な事柄を調べ、ディスカッションを行い、それらを踏まえた上で自分の考えをまとめる訓練をしていく。	
			英語e（Discussion and Debate）		この授業は、英語によるディスカッションやディベートのスキルを習得することを目的とする。チームを作り、議論の的となるさまざまなトピックについて意見を共有し、議論を準備し、調査する方法を学ぶ。あるトピックに対して同意または反対する意見を持ち、批判的に物事を評価する思考力を鍛える。また、自らの意見をサポートし、論理的な議論を展開するために、十分な調査、準備が必要であることを学び、それらを英語で表現するための語彙力、表現力を身につける。これらの訓練を通して、グループディスカッションの場で自身の意見や思考を自信を持って表現する能力を向上させていく。	
			英語e（English through Movies）		アメリカの人気ドラマModern Familyを題材とし、英語運用能力の向上を図る。リスニング（ドラマの特定の場面をとりあげ、聞き取りの練習をする）、スピーキング（台詞を口に出して練習する）リーディング（ドラマについての批評やエッセイを読む）、ライティング（ドラマの感想を書く）など、様々なアクティビティを通じて英語のインプット/アウトプット能力を養う。また、ジェンダーや人種等の諸問題に注目しつつ、ドラマのなかでアメリカの家族がどのように表象されているかを分析し、現代アメリカ文化に対する理解を深める。	
			英語e（TOEFL-iBT PreparationⅠ）		この授業は、アカデミックなテスト攻略法を用いて、TOEFL のスコアアップを図ることを目的としている。授業では、実践的なテストの特定のセクション、特にリーディングとリスニングを重点的に取り上げて演習を行っていく。TOEFLの点数を上げるため、目的とするスコアに必要な英単語を覚え、果敢に問題に挑む力を養っていく。この授業を通して、TOEFLの試験に対応するだけでなく、4技能を含む、総合的な英語力を向上させることを目指す。	
			英語e（TOEIC Preparation Ⅰ）		この授業は、TOEICテストでスコアを獲得するために必要なスキルと攻略法を学ぶことを目的とする。特に、TOEIC-iBTテストのリスニングおよびリーディングセクションのスコアを向上させることを目指す。TOEICテストに頻出する語彙を学び、テキストに即して、実践的な問題に取り組むことにより、TOEIC問題の特徴や形式に慣れ、理解し、問題への取り組み方を習得する。同時に、弱点を認識しながら、基礎的な英語力を定着させていく。進捗を測定するために実践形式でテストを行っていく。	
			英語e（TOEIC Preparation Ⅲ）		TOEICのListeningとReadingのスコアを伸ばすことがこの授業の目的である。とりわけ、多くの学生が苦手とするReading Skillの向上に焦点を当てて授業を行う。スコアを上げるために必要な単語を憶え、時間内に素早く解答を見出すとともに、そのために必要な集中力を養っていく。本授業を通じて、TOEICを攻略するためのスキルだけでなく、4技能を始め、総合的な英語力を高めていくことを目指す。	
			英語e（Academic Reading: Advanced）		現代社会において必須とされる英語を習得し、活用していくための知識とスキルを身につけることを目的とする。この授業では、特に、英語文献から情報を得ることができるようになるため練習をしていく。Advanced Skills for Reading を基本のテキストとし、各ユニットのテーマに即したその他の教材を交えながら、アカデミックな英語を読むための具体的なスキルの訓練をしていく。ワンランク上の読解能力を身につけるために必要な語彙の増強、構文理解のための文法的知識の復習と強化、すばやい内容把握のための技術、詳しく正確に読むための技術などを幅広く身につけていくことを目指す。	
			英語e（Conversation Skills: Basic）		この授業では、基本的な英会話スキルを身につけることを目的とし、そのために必要な英語会話のスキルを習得する。他者が話した内容に基づいて適切な質問をしたり、自身の考えや意見を述べ、会話を継続することができるようになることを目指す。身近にある様々なトピック（家族、食生活、音楽、自由時間など）を取り上げ、基礎的かつ必須の語彙やフレーズを学び、現実生活の中で自信を持って自然に表現することができる能力を向上させていく。	
			英語e（News and Views）		この授業では、テキストに即して、社会科学に関連した話題を英語で扱い、自身の考えや視点を持ち、英語で適切に表現できるようになることを目的とする。特に、リスニングと、ディスカッションおよびプレゼンテーションに重点をおく。アカデミックな社会科学分野の語彙を学び、リスニングでは、社会科学に関連した話題についての短い講義を聞いたり、ビデオを見たりしながら、リスニング力を強化していく。ディスカッションとプレゼンテーションでは、これらの内容に関して、批評的な観点から自身の視点や考えをまとめ、この分野に関する専門的な語彙も交えながら、適切に自信を持って自らの意見を表現する訓練をしていく。	
			英語e（Creative Writing）		この授業は、英語による創造的な表現の形としての文章作成スキルを習得することを目的とする。いくつかの詩や短編小説を読み、同時に、それらの例を参考にしながら、課されたトピックについて自ら詩や短編小説を書く訓練を行う。書かれた原稿に対して、フィードバックを繰り返しながら、語彙、表現を磨き、作品の質を高めていく。これらの訓練を通して、英語力とともに、創造力、批判的思考力を向上させることを目指す。	
			英語e（Academic Listening）		英語で行われる学術的な講義を理解し、効率的にノートを取る準備を目的としている。授業では、効果的なノートの取り方やノート作成方略、学術的な講義の構成や講義構造の理解、選択的なリスニングストラテジーの使用、そして英語の様々なバリエーションに対する意識を高めることなどに重点を置いた活動に取り組んでいく。学生は授業で紹介されるリスニングやノートテイキングの方略を使って、英語で行われる学術的な講義を理解し、自然なスピーチの速さで様々なアクセントの英語を理解する力を訓練していく。	
			英語e（Conversation Skills: Advanced）		この授業では、より高度な会話力を身につけることを目的とし、そのために必要な英語会話のスキルを発展させていく。自身で選んだ様々なトピックに関するディスカッションの中で、質問の仕方やレスポンスの仕方などを身につけ、会話の流れを維持するスキルを習得する。また、ディスカッションにおいて、自身の考えや意見を自然で微妙なニュアンスを交えながら表現するための語彙力や表現力を強化し、リアルな英語の会話の状況に自信を持って参加することができる流暢な英語話者になることを目指す。	
			英語e（English through Music: Basic）		この授業は、音楽、特に、歌を中心として扱い、楽しみながら英語力を向上させることを目的とする。中でも、比較的発音が聞き取りやすく、歌詞も明確だと思われる1970年代から80年代に流行したアメリカン・ポップスを主に題材として取り上げる。カーペンターズの代表曲をメインに据え、それらの曲の作られた時代背景や作者のバックグラウンドを踏まえたうえで、語法・文法や構文に注意しながら歌詞の内容を読み解いた後、その曲をできるだけ自分で歌えるように発音上のポイントなどを考えていく。	

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
全学教養教育	共通科目	語学科目	英語e（Grammar: Basic）		この授業では、英語をより正確に理解し活用することができるように、基本的な文法事項をおさえ、身につけるための訓練をしていく。それぞれの項目における多くの例文や練習問題などを通して、基礎英文法、構文、イディオムなどを理解し、習得する。また、writing、reading、listening、speaking、コミュニケーションスキルの向上にも役立て、より高度で洗練された英語を使いこなすことができるようになることを目指す。	
			英語e（Business Communication）		この授業では、社会で働く上で必要な英語に焦点を当て、さまざまな業界で有用となる英語力を身につけることを目的とする。仕事をする上で役立つ語彙や表現をカバーしながら、リスニング、対話、プレゼンテーションの練習を行う。最終的には、基本的なビジネス用語と概念についてより深い理解を持ち、様々な仕事で十分かつ効果的にコミュニケーションができるようになることを目指す。これらの訓練を通して、リスニング、スピーキング、プレゼンテーションスキルなどの英語基礎力の全般的な向上を期待する。	
			英語e（Speech and Debate）		このクラスは、英語で行われる演説やディベートのスキルを発展させることに焦点を当てる。さまざまな演説などを聞き、スピーチのコツとスキルを習得する。その上で、これらの模範的な演説を参考にしながら、与えられたテーマについてプレゼンテーションを行う。また、自身の考えや意見を持つ訓練を行い、それを効果的に英語で表現したり、反論したりするコツを掴む。しっかりとした理由に基づく考察を持つことができるとともに、自信を持って人前で英語をスピーチすることができるようになることを目指す。	
			英語e（TOEIC Preparation Ⅱ: Listening）		この授業では、TOEICテストのリスニング力を向上させることを目的とし、さまざまな方略を紹介していく。授業は、演習形式で、テキストに沿って様々なテーマのリスニング内容に触れることにより、リスニング力を強化していく。授業は、アクティブラーニングの原則に従って行われ、グループにおける学生の積極的な授業参加により実践的な力を養う。また、スピーキング活動も行い、インプットとアウトプットを相互に関連づけながらTOEICテストに対応しうる力を身につけていく。	
			英語e（TOEIC Preparation Ⅱ: Reading）		TOEIC TESTのReadingセクションに焦点を当て、スコアアップを目指す。TOEICテストのReadingセクションのスコアを伸ばすための目標として、まず、高スコアを獲得するために必要な英語の単語を習得し、英語の文法を正確に理解、習得する。また、リーディングのスキルを学び、テキストの速読ができるようになり、予測を立てながら、少し難しい内容にも対応できるようになることを目指す。さらに、実践的な問題を使用しながら、ビジネスの状況を想像しながら、テキストの内容を理解できるようになることを目的とする。	
			英語e（Pronunciation: Basic）		この授業では、英語の音声を学び、実践的なアクティビティを通じて英語を聞き、話し、発音を改善することを目的とする。具体的には、母音、二重母音、子音、音節、アクセントなどの発音に関する項目を学び、音声記号を使用して発音が難しい単語の発音を練習することにより、自然な発音ができるようになる。ネイティブスピーカーの発音を聞き取るトレーニングも行い、詩の朗読、英語のカラオケ、書籍、演劇、映画の読み聞かせなど、発音スキルを習得するための様々な機会に触れる。英語を明瞭に発音し、ネイティブスピーカーが話す英語を理解することができるようになるとともに、高いレベルで英語を話すことができるようになる。	
			英語e（Writing Skills）		この授業では、文の構造や段落の構造を理解し、パラグラフの書き方の基礎を習得することを目的とする。まず、しっかりとしたパラグラフを作成するために必要となるアウトラインの書き方から、序論、本論、結論の基礎的な書き方を順に学んでいく。また、分類、説明、比較などのさまざまな種類のエッセイの書き方についても学ぶ。パラグラフやエッセイを仕上げていく過程としてのプルーフ・リーディングやエディティングの方法なども身につけていくことを目指す。	
			英語e（Vocabulary）		この授業では、英語語彙の理解を深め、語彙の習得と定着を目的とする。習得目標語彙は100語である。授業では、テキストに即した様々なテーマのリーディング材料を理解していく中で、語彙の形式、意味、使用法に注意しながら、一つ一つの語彙の仕組みを認識できるようにする。暗記を繰り返しながら、言葉に慣れ親しみ、自らさまざまな状況の中で利用し、資格試験においても高得点を獲得できるだけの語彙力を身につけることを目指す。	
			英語e（TOEFL-iBT Preparation Ⅱ: Reading/Writing）		TOEFL iBTテストに慣れ、得点を獲得するために必要な学術的な英語の読み書きのスキルを習得することを目指す。この授業では、特に、TOEFLテストのリーディングおよびライティングセクションでのスコアを向上させる。得点を獲得するために必要な語彙を身につけ、実践的なテスト形式での訓練と解説を行っていく。またライティングにおいて、基礎的なパラグラフ構造を学び、テストで課される実践的でアカデミックなトピックに対する思考を深める訓練を行う。自らの意見を、適切な英語で、論理的かつ効果的に書くことができるようにスキルを習得し、訓練していく。	
			英語e（TOEFL-iBT Preparation Ⅱ:Listening/Speaking）		この授業では、TOEFL-iBTテストでワンランク上のスコアを獲得するための英語のスキルと攻略法を学ぶことを目的とする。このクラスでは、特に、リスニングとスピーキングの集中的な訓練を行う。高いスコアを獲得するために必要な語彙を学び、英語を聴きとり、それに応じるために必要なスピーキング力と、同時に思考力を養う。リスニングに関しては教員が用意する様々な教材を用い、スピーキングについては『TOEFLテスト：スピーキング問題110』をテキストとして使用する。	
			英語e（Extensive Reading）		この授業は、広範な読書を通して読解力向上にさせることを目的とする。定期的に自身のレベルにあった（容易に理解できる）、また好みのトピックの英語のテキストを読み、内容をまとめ、理解度を確認していく。読解速度と語彙レベルを向上させるため、詳細にこだわらず、大まかに全体の内容を掴みながら、段階的に、レベル分けされた多くの本を読む訓練を行う。授業の内外で多くの比較的易しいレベルの本を読む訓練を行うことにより、より速いペースで、多くの新しい単語やフレーズを理解することができるようになることを目指す。	
			英語e（Special Topic）		この授業では、学生の要望やニーズに応え、多様性に富んだ授業を提供する。それぞれの学生が、自身の関心や目的に即して履修することにより、英語の学習に専心し、学びの楽しみを味わいながら英語力を伸ばすことを目的としている。コミュニケーションやプレゼンテーションなどのスキルや、扱うテーマやトピックにおいても多様な授業を提供し、それぞれの授業内容に応じて到達目標を達成するために必要な力を強化していくことを目指す。	
			英語e（IELTS Preparation Ⅰ）		この授業では、IELTSの概要を理解し、IELTSの受験に必要な語彙力とスキルを身につけることを目的とする。授業では、リーディング、リスニング、ライティング、スピーキングの４つの実践的な問題演習を通して、IELTSの試験形態に慣れ親しむとともに、これらの演習を通して、基礎的な英語力を確認し、習得していく。自身の弱点を認識し、強化していくことにより、IELTSテストを、より十分な準備と自信をもって受験することによりスコアの向上を目指す。IELTSテストの特徴についての理解だけでなく、英語の習熟度を高め、IELTSのバンドスコア5（CEFR: B1）を達成を目指していく。	

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
			英語e（IELTS PreparationⅡ）		この授業では、IELTSの概要を理解し、IELTSの受験に必要な語彙力とスキルを身につけることを目的とする。授業では、リーディング、リスニング、ライティング、スピーキングの４つの実践的な問題演習を通して、IELTSの試験形態に慣れ親しむとともに、これらの演習を通して、基礎的な英語力を確認し、習得していく。自身の弱点を認識し、強化していくことにより、IELTSテストを、より十分な準備と自信をもって受験することによりスコアの向上を目指す。IELTSテストの特徴についての理解だけでなく、英語の習熟度を高め、IELTSのバンドスコア6.0-6.5(CEFR: B2)の達成を目指していく。	
			英語e（Songs and Poems）		この授業では、英語の歌（その詩）を使用して英語力を向上させることを目指す。英語の歌（その詩）を精読し、日本語訳をするなど意味を理解したうえで言葉の音やリズムを分析し、英語で歌う、または声に出して読む。歌や詩の細部への関心・積極的に声を出す姿勢も養っていく。授業は演習形式で行い、英語の歌やその詩を聴いて楽しむだけでなく、その内容・発音・言葉のリズム・雰囲気などを積極的に理解し、英語の歌や詩を総合的に楽しむ感覚を身につける。	
			英語e（EIKEN Grade 2 Preparation）		この授業は、英検２級に合格するために必要なスキルを向上させることを目的としている。具体的には、まず、これまでの試験に出されてきたトピックを使用しながら、２級合格に必要な語彙を習得し増やしていく。また、実践的な過去問題を使用し、リスニング、スピーキング、リーディング、ライティングの試験方式に慣れ、受験の際のテクニックや要領を身につけることに重点を置く。自身の目標を設定し、弱点を認識し、克服しながら英語のスキルを向上させていくことを目指す。学習の成果、進歩を測定するために実践的なテストを実施する。	
			英語e（EIKEN Grade Pre-1 Preparation）		この授業は、英検準１級に合格するために必要なスキルを向上させることを目的としている。具体的には、語彙を増やし、文脈や単語の構造から知らない単語の意味を推測する必要な戦略を習得する。また、スキミング、スラッシュリーディング、スピードリーディングなどのスキルを身につけ、素早く正確に内容を把握できるように訓練していく。リスニングでは、スラッシュリスニングやシャドーイングなどのトレーニングを行うことで、全体の要旨をつかむことができるようになる。同時に、問題に沿った詳細な部分をつかむ訓練を行う。ライティングでは、文構造を理解し、論理的なエッセイを書くことができるようになる訓練を行う。実践的な過去問題を使用し、リスニング、スピーキング、リーディング、ライティングの試験方式に慣れ、受験の際のテクニックや要領を身につけ、慣れ、習得することを目的とする。	
			英語e（Pre-Study Abroad: Basic）		英語留学プログラム中に遭遇しがちな状況に焦点を当て、英語能力における入門的な留学準備を行う。扱われるトピックとして、現地への出発と到着、挨拶、交通機関の利用、人々との交流、教室でのやり取り、また健康面や銀行でのやり取り、問題解決など、生活上のさまざまな状況も含まれる。授業では、必要な語彙の習得、習慣や文化的背景を学ぶとともに、全般的な英語能力の向上を目指す。さらに、現地での学びを想定した情報収集、調査の方法についても学んでいく。	
			海外語学実習（アメリカ）		この授業は、研修前の事前講習、米国ワシントン州シアトルにあるワシントン大学における3週間の夏季集中英語講習、シアトルにおける生活および文化交流体験、そして帰国後の事後講習の４つの要素から成り立っている。現地のクラスは異なる大学や国からの学生で構成され、異なるバックグラウンドを持つ者同士が交流し、互いに学び合う機会が提供される。授業を通じて、英語力および異文化環境でのコミュニケーション能力の養成、現地の社会や文化にふれる経験を通じての学びが促進される。	
			海外語学実習（イギリス）		この授業は、研修前の事前講習、カンタベリー・クライスト・チャーチ大学での3週間の夏季集中英語講習、カンタベリーにおける文化・歴史・芸術体験、そして帰国後の事後講習の４つの要素から成り立っている。現地のクラスは異なる大学や国からの学生で構成され、異なるバックグラウンドを持つ者同士が交流し、互いに学び合う機会が提供される。授業を通じて、英語力および異文化環境でのコミュニケーション能力の養成、現地の文化や芸術にふれる経験を通じての学びが促進される。	
			海外語学実習（カナダ）		この授業では、学内で事前研修を受けたのち、カナダの語学学校にて、4週間の英語集中コースを受講する。帰国後、研修の成果をレポートにまとめる。ブリティッシュ・コロンビア州の州都であるビクトリアは、太平洋岸に位置し、2月でも寒さが厳しくなることはまれであり、イギリス文化の影響を強く受けながらも、多様な人々が豊かな文化を形成する美しい街である。ビクトリア大学では、レベル別にクラスを振り分けられ、英語の四技能を伸ばす。同時に、カナダの文化・社会についてのディスカッションや歴史的なサイトへの訪問などをとおして、体全体で言葉と文化を学ぶ。	
			フランス語Ⅰ（入門）		この授業は、フランス語の初学者を対象として、演習形式で実施される。受講生が入門レベルの文法・語彙の知識、発音と簡単な会話表現、およびフランス語圏の文化・社会に関する基礎知識を習得することを到達目標とする。文法の解説や練習問題のほか、学生同士のペアワークやグループワークを取り入れながら、挨拶、自己紹介、レストランやショッピングでのやり取り等の会話表現の実践的な練習も行う。また、教員がフランス語圏の音楽、芸術、食文化、スポーツ、生活習慣、歴史、時事問題等を紹介する時間も設ける。	
			フランス語Ⅱｓ（文法）		この授業は、1年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が入門～初級レベルの文法の知識を習得し、体系的な理解を深めることを到達目標とする。アルファベ、単母音・複母音・鼻母音・半母音・子音の発音、リエゾン・アンシェヌマン・エリジオン、名詞の性と数、冠詞、形容詞、主語人称代名詞、-er動詞/être/avoir等の活用と用法、否定文等の事項を取り上げる。教員による文法解説のほか、理解を深めるための練習問題や、習熟度を確認するための小テスト等も実施する。	
			フランス語Ⅱｓ（理解）		この授業は、1年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が入門～初級レベルのリーディングやリスニングのスキルを習得し、フランス語で情報をインプットする能力を高めることを到達目標とする。挨拶や自己紹介のダイアローグ、レストランやショッピングでのダイアローグ、フランス語圏の生活習慣や食文化に関する短い説明文など、多岐に渡るテーマを取り上げる。教員による文法や語彙の解説のほか、テキストの内容に関するクイズや、学生によるプレゼンテーション等も実施する。	
			フランス語Ⅱｓ（表現）		この授業は、1年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が入門～初級レベルのスピーキングやライティングのスキルを習得し、フランス語で情報をアウトプットする能力を高めることを到達目標とする。挨拶や自己紹介にはじまり、レストランやショッピングや旅行で使える初歩的なフレーズ、友人や教師との短文メール等、実践的で多岐に渡るテーマを取り上げる。教員による発音や語彙の解説のほか、活発な会話を促すためのゲームや、学生によるディスカッション等も実施する。	

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
			フランス語Ⅲｓ（文法）		この授業は、2年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が初級～中級レベルの文法の知識を習得し、体系的な理解を深めることを到達目標とする。形容詞の性数、所有形容詞、疑問形容詞、疑問副詞、疑問代名詞、数量表現、近接未来・近接過去、-ir/-re/-oir動詞/aller/venir等の活用と用法、縮約等の事項を取り上げる。教員による文法解説のほか、理解を深めるための練習問題や、習熟度を確認するための小テスト等も実施する。	
			フランス語Ⅲｓ（理解）		この授業は、2年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が初級～中級レベルのリーディングやリスニングのスキルを習得し、フランス語で情報をインプットする能力を高めることを到達目標とする。フランス語圏の観光地や世界遺産、音楽やスポーツやファッション等、多岐に渡るテーマに関する説明文、童謡や簡単な流行歌などを取り上げる。教員による文法や語彙の解説のほか、テキストの内容に関するクイズや、学生によるプレゼンテーション等も実施する。	
			フランス語Ⅲｓ（表現）		この授業は、2年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が初級～中級レベルのスピーキングやライティングのスキルを習得し、フランス語で情報をアウトプットすることを到達目標とする。家族や学校や趣味やアルバイトの話題、レストランやショッピングや旅行で使える基本表現、日本文化を紹介するための表現等を取り上げる。教員による発音や語彙の解説のほか、活発な会話を促すためのゲームや、学生によるディスカッション等も実施する。	
			フランス語Ⅳｓ（文法）		この授業は、2年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が中級レベルのフランス語文法の知識を習得し、体系的な理解を深めることを到達目標とする。授業では、比較級・最上級、命令形、代名動詞、関係代名詞、ジェロンディフ、複合過去、補語人称代名詞、半過去、単純未来、条件法現在、接続法現在などの事項を取り上げる。教員による文法解説のほか、理解を深めるための練習問題や、習熟度を確認するための小テスト等も実施する。	
			フランス語Ⅳｓ（理解）		この授業は、2年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が中級レベルのリーディングやリスニングのスキルを習得し、フランス語で情報をインプットする能力を高めることを到達目標とする。フランス語圏の美術・建築・映画等に関するエッセイ、時事問題に関する新聞記事、公私の様々なシチュエーションでのメール等を取り上げる。教員による文法や語彙の解説のほか、テキストの内容に関するクイズや、学生によるプレゼンテーション等も実施する。	
			フランス語Ⅳｓ（表現）		この授業は、2年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が中級レベルのスピーキングやライティングのスキルを習得し、フランス語で情報をアウトプットする能力を高めることを到達目標とする。食べ物や音楽や映画の好みを語り合うための表現、友人や教師との長文メール、日本の社会問題について説明するための表現等を取り上げる。教員による発音や語彙の解説のほか、活発な会話を促すためのゲームや、学生によるディスカッション等も実施する。	
全学教養教育	共通科目	語学科目	フランス語Ⅱｉ（文法）		（概要）この授業は、1年次生を対象として、講義形式で実施される。受講生が入門～初級レベルのフランス語文法の知識を習得することを到達目標とする。授業では、アルファベ、発音とつづり字の規則、名詞の性と数、主語人称代名詞、冠詞、形容詞、否定文、疑問文、数詞、指示形容詞、所有形容詞、直説法（現在、複合過去、半過去、単純未来）、比較級・最上級、命令形、代名動詞、関係代名詞等の事項を取り上げる。教員による文法解説のほか、理解を深めるための練習問題や、習熟度を確認するための小テスト等も実施する。 （オムニバス方式／全45回） （39　木水　千里／30回） 動詞の活用や新出の文法事項の用法などを丁寧に解説した後、練習問題を解きながら、新しく学んだ文法事項の定着を図る。 （122　KREMER OGURA ALEXANDRA JEANNE LOUISE／15回） 新出単語や動詞の活用など、発音に重点を置き、授業を進める。また、簡単な会話の練習も行い、実践力を培うことを目指す。	オムニバス方式
			フランス語Ⅱｉ（理解）		この授業は、1年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が入門～初級レベルのリーディングやリスニングのスキルを習得し、フランス語で情報をインプットする能力を高めることを到達目標とする。挨拶や自己紹介のダイアローグ、レストランやショッピングでのダイアローグ、フランス語圏の生活習慣や食文化に関する短い説明文、友人との簡単なメール等を取り上げる。教員による文法や語彙の解説のほか、テキストの内容に関するクイズや、学生によるプレゼンテーション等も実施する。	
			フランス語Ⅱｉ（表現）		この授業は、1年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が入門～初級レベルのスピーキングやライティングのスキルを習得し、フランス語で情報をアウトプットする能力を高めることを到達目標とする。挨拶や自己紹介、レストランやショッピング、旅行で使える初歩的なフレーズと基本表現、友人や教師との短文メール、国や地方ごとに異なるフランス語の語彙のバリエーション等を取り上げる。教員による発音や語彙の解説のほか、活発な会話を促すためのゲームや、学生によるディスカッション等も実施する。	
			フランス語Ⅱｉ（総合）		この授業は、1年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が入門～初級レベルのフランス語の４技能（読む・聞く・話す・書く）を駆使して実践的なスキルを習得することを到達目標とする。個人またはグループごとにテーマを設定して、文献調査やその他のさまざまな手段で情報を収集し、日本語およびフランス語でディスカッションをする等のアクティブラーニングを通じて、フランス語力を向上させると同時にフランス語圏に関する見識を深める。	
			フランス語Ⅲｉ（文法）		この授業は、2年次生を対象として、講義形式で実施される。受講生が初級～中級レベルのフランス語文法の知識を習得することを到達目標とする。授業では、非人称構文、強調構文、中性代名詞、ジェロンディフ、条件法現在、接続法現在、前未来、大過去、非人称構文、強調構文、中性代名詞、感嘆文、直接話法・間節話法などの事項を取り上げる。教員による文法解説のほか、理解を深めるための練習問題や、習熟度を確認するための小テスト等も実施する。	
			フランス語Ⅲｉ（理解）		この授業は、2年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が初級～中級レベルのリーディングやリスニングのスキルを習得し、フランス語で情報をインプットする能力を高めることを到達目標とする。フランス語圏の観光地や世界遺産、音楽やスポーツやファッション等に関する説明文、童謡や簡単な流行歌、やや長めの私的なメール等を取り上げる。教員による文法や語彙の解説のほか、テキストの内容に関するクイズや、学生によるプレゼンテーション等も実施する。	
			フランス語Ⅲｉ（表現）		この授業は2年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が初級～中級レベルのスピーキングやライティングのスキルを習得することを到達目標とする。家族や学校や趣味やアルバイトの話題、レストランやショッピング、旅行で使える基本表現と応用表現、日本文化を紹介するための表現、国や地方ごとに異なるフランスのバリエーション等を取り上げる。教員による発音や語彙の解説のほか、活発な会話を促すためのゲームや、学生によるディスカッション等も実施する。	

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
全学教養教育	共通科目	語学科目	フランス語Ⅲｉ（総合）		この授業は、2年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が初級～中級レベルのフランス語の４技能（読む・聞く・話す・書く）を駆使して実践的なスキルを習得することを到達目標とする。個人またはグループごとにテーマを設定して、文献調査やその他のさまざまな手段で情報を収集し、日本語およびフランス語でディスカッションをする等のアクティブラーニングを通じて、フランス語力を向上させると同時にフランス語圏に関する見識を深める。	
			フランス語Ⅳｉ（文法）		（概要）この授業は、2年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が中級レベルのフランス語文法の知識を習得することを到達目標とする。授業では、比較級・最上級、命令形、代名動詞、関係代名詞、ジェロンディフ、補語人称代名詞、複合過去、半過去、単純未来、条件法現在、接続法現在などの事項を取り上げる。教員による文法解説のほか、理解を深めるための練習問題や、習熟度を確認するための小テスト等も実施する。 （オムニバス方式／全30回） （16　空　由佳子／15回） 動詞の活用や新出の文法事項の用法などを丁寧に解説した後、練習問題を解きながら、新しく学んだ文法事項の定着を図る。 （147　清水　領／15回） 新出単語や動詞の活用など、発音に重点を置き、授業を進める。また、簡単な会話の練習も行い、実践力を培うことを目指す。	オムニバス方式
			フランス語Ⅳｉ（理解）		この授業は、2年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が中級レベルのリーディングやリスニングのスキルを習得し、フランス語で情報をインプットする能力を高めることを到達目標とする。フランス語圏の美術・建築・映画等に関するエッセイ、ビジネスやテクノロジーに関する論説記事、公私の様々なシチュエーションでのメール等を取り上げる。教員による文法や語彙の解説のほか、テキストの内容に関するクイズや、学生によるプレゼンテーション等も実施する。	
			フランス語Ⅳｉ（表現）		この授業は、2年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が中級レベルのスピーキングやライティングのスキルを習得することを到達目標とする。食べ物や音楽や映画の好みを語り合うための表現、友人や教師との長文メール、日本の社会問題について説明するための表現、国や地方ごとに異なるフランス語の発音のバリエーション等を取り上げる。教員による発音や語彙の解説のほか、活発な会話を促すためのゲームや、学生によるディスカッション等も実施する。	
			フランス語Ⅳｉ（総合）		この授業は、2年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が中級レベルのフランス語の４技能（読む・聞く・話す・書く）を駆使して実践的なスキルを習得することを到達目標とする。個人またはグループごとにテーマを設定して、文献調査やその他のさまざまな手段で情報を収集し、日本語およびフランス語でディスカッションをする等のアクティブラーニングを通じて、フランス語力を向上させると同時にフランス語圏に関する見識を深める。	
			フランス語Ⅴｉ（理解）		この授業は、3年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が中級～中上級レベルのリーディングやリスニングのスキルを習得し、フランス語で情報をインプットする能力を高めることを到達目標とする。フランス語圏の時事問題に関する新聞記事や報道番組、エンターテイメントやスポーツに関する評論やインタビュー記事、大衆向けの文学作品等を取り上げる。教員による文法や語彙の解説のほか、テキストの内容に関するクイズや、学生によるプレゼンテーション等も実施する。	
			フランス語Ⅴｉ（表現）		この授業は、3年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が中級～中上級レベルのスピーキングやライティングのスキルを習得し、フランス語で情報をアウトプットする能力を高めることを到達目標とする。留学やビジネスシーンでの口語表現やメール、時事問題について自分の意見を論理的に述べるための表現等を取り上げる。教員による発音や語彙の解説のほか、活発な会話を促すためのゲームや、学生によるディスカッション等も実施する。	
			フランス語Ⅴｉ（総合）		この授業は、3年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が中級～中上級レベルのフランス語の４技能（読む・聞く・話す・書く）を駆使して実践的なスキルを習得することを到達目標とする。個人またはグループごとにテーマを設定して、文献調査やその他のさまざまな手段で情報を収集し、日本語およびフランス語でディスカッションをする等のアクティブラーニングを通じて、フランス語力を向上させると同時にフランス語圏に関する見識を深める。	
			フランス語Ⅵｉ（理解）		この授業は、3年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が中上級～上級レベルのリーディングやリスニングのスキルを習得し、フランス語で情報をインプットする能力を高めることを到達目標とする。フランス語圏の政治・経済・社会問題に関する論文や学術的エッセイ、古典文学作品や文芸評論、上級者向けの歌や映画等を取り上げる。教員による文法や語彙の解説のほか、テキストの内容に関するクイズや、学生によるプレゼンテーション等も実施する。	
			フランス語Ⅵｉ（表現）		この授業は、3年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が中上級～上級レベルのスピーキングやライティングのスキルを習得し、フランス語で情報をアウトプットする能力を高めることを到達目標とする。日本や世界の政治・経済・社会問題や、フランス語圏の文学・芸術・歴史等に関する学術的なテーマを取り上げる。教員による発音や語彙の解説のほか、活発な会話を促すためのゲームや、学生によるディスカッション等も実施する。	
			フランス語Ⅵｉ（総合）		この授業は3年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が中上級～上級レベルのフランス語の４技能（読む・聞く・話す・書く）を駆使して実践的なスキルを習得することを到達目標とする。個人またはグループでテーマを設定し、情報を集め、分析し、プレゼンテーションやディスカッションを行うなど、アクティブラーニングをフランス語で行うことで、フランス語力を向上させると同時に、フランス語圏に関する見識を深める。	
			海外語学実習（フランス語）		夏の一か月間、大学主催のフランスのアンジェ・カトリック大学(CIDEF)でフランス語の学習を集中的に行う。アンジェでは、実力別にクラス分けが行われ、世界中から来た留学生といっしょに勉強をする。また、現地のフランス人学生がアシスタントとして勉強・生活のアドバイスを行う。事前に何度か研修会を行い、フランスやアンジェの歴史や文化について学習をする。帰国後には、留学成果や体験を話し合う事後報告会を行う。	
			ドイツ語Ⅰ（入門）		この授業は、ドイツ語の初学者を対象として、演習形式で実施される。受講生が入門レベルの文法・語彙の知識、発音と簡単な会話表現、およびドイツ語圏の文化・社会に関する基礎知識を習得することを到達目標とする。文法の解説や練習問題のほか、学生同士のペアワークやグループワークを取り入れながら、挨拶、自己紹介、レストランやショッピングでのやり取り等の会話表現の実践的な練習も行う。また、教員がドイツ語圏の音楽、芸術、食文化、スポーツ、生活習慣、歴史、時事問題等を紹介する時間も設ける。	

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
全学教養教育	共通科目	語学科目	ドイツ語Ⅱｓ（文法）		この授業は、1年次生を対象として、演習形式で実施される。1年かけて学ぶ初級文法の前半で、受講生が入門～初級レベルの文法の知識を習得することを到達目標とする。アルファベート、母音と子音の発音、音節とアクセント、各種品詞の生と数に従った格変化、動詞の現在人称変化、話法の助動詞、基本的構文等の事項を取り上げる。教員による文法解説のほか、理解を深めるための練習問題やクイズ、習熟度を確認するための小テスト等も実施する。	
			ドイツ語Ⅱｓ（理解）		この授業は、1年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が入門～初級レベルのリーディングやリスニングのスキルを習得することを到達目標とする。挨拶や自己紹介のダイアローグ、レストランやショッピングでのダイアローグ、ドイツ語圏の生活習慣や食文化に関する短い説明文等を取り上げる。教員による文法や語彙の解説のほか、テキストの内容に関するクイズや、学生によるディスカッション、プレゼンテーション等も実施する。	
			ドイツ語Ⅱｓ（表現）		この授業は、1年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が入門～初級レベルのスピーキングやライティングのスキルを習得することを到達目標とする。挨拶や自己紹介、レストランやショッピングや旅行で使える初歩的なフレーズ、友人や教師との短文メール等を取り上げる。教員による発音や語彙など表現に関する解説のほか、活発な会話を促すためのゲームやクイズ、学生によるディスカッション、プレゼンテーション等も実施する。	
			ドイツ語Ⅲｓ（文法）		この授業は、2年次生を対象として、演習形式で実施される。1年かけて学ぶ初級文法の後半で、受講生が初級レベルの文法の知識を習得し、中級レベルにスムーズに移行することを到達目標とする。動詞の時制（未来形、過去形、完了形）、関係代名詞・関係文、受動文、再帰代名詞・再帰動詞などを取り上げる。教員による文法解説のほか、予習、復習に基づく発言、発表、グループワークなど、アクティブラーニングを中心に行う。理解を深めるための練習問題やクイズ、習熟度を確認するための小テスト等も実施する。	
			ドイツ語Ⅲｓ（理解）		この授業は、2年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が初級～中級レベルのリーディングやリスニングのスキルを習得することを到達目標とする。ドイツ語圏の観光地や世界遺産、音楽やスポーツやファッション等に関する説明文、ポップスや簡単な流行歌等を取り上げる。教員による文法や語彙の解説のほか、テキストの内容に関するクイズや練習問題を適宜行い、定着を確認しながら進める。また、学生によるプレゼンテーション等も実施する。	
			ドイツ語Ⅲｓ（表現）		この授業は、2年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が初級～中級レベルのスピーキングやライティングのスキルを習得することを到達目標とする。家族や学校や趣味やアルバイトの話題、レストランやショッピングや旅行で使える基本表現、日本文化を紹介するための表現等を取り上げる。教員による発音や語彙の解説のほか、実際の活用を学ぶためのフォトランゲージや、活発な会話を促すためのゲーム、学生によるプレゼンテーションやディスカッション等も実施する。	
			ドイツ語Ⅳｓ（文法）		この授業は、2年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が中級レベルのドイツ語文法の知識を習得することを到達目標とする。授業では、分離動詞、再帰動詞・再帰代名詞、命令形、関係代名詞などの事項を取り上げる。教員による文法解説のほか、それらを用いた表現練習を行う。教員による文法解説のほか、予習、復習に基づく発言、発表、グループワークなど、アクティブラーニングを中心に行う。理解を深めるための練習問題やクイズ、習熟度を確認するための小テスト等も実施する。	
			ドイツ語Ⅳｓ（理解）		この授業は、2年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生がドイツ語の文章をスムーズに理解できるよう、初級～中級レベルのリーディングのスキルを習得することを到達目標とする。ドイツ語圏の映画やテレビ番組、文化や伝統、日常生活のニュースや社会問題、ドイツ語圏の旅行先や観光地、短編小説や詩等を利用する。文法事項を確実に習得しながら、辞書を使いこなし読解力を高めるとともに、学生同士のピアラーニングや、反転授業なども行う。	
			ドイツ語Ⅳｓ（表現）		この授業は、2年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が中級レベルのスピーキングやライティングのスキルを習得することを到達目標とする。日本や世界のニュース・社会問題の意見交換、ドイツ語圏の歴史・文化、休暇・旅行のエピソード等を取り上げる。教員による発音や語彙の解説のほか、動詞や名詞の実際の活用を学ぶためのフォトランゲージや、冠詞や数詞を実際に使うカードゲーム、旅行や休暇の予約やメール問い合わせのための作文などを行う。	
			ドイツ語Ⅱｉ（文法）		（概要）この授業は、1年次生を対象として、演習形式で実施される。初級文法の前半で、入門～初級レベルの文法の知識を習得することを到達目標とする。動詞の現在形／過去形／完了形、名詞の性と格変化、冠詞類、前置詞、助動詞、接続詞の学習と表現練習を行う。 （オムニバス方式／全45回） （193 Nadine Kaczmarek）／15回） 双方向によるアクティブラーニングによって、生きたドイツ語として教授する。習得状況を確認しつつ、コンテクストに即して使い方を理解できるよう、映画やドラマの会話文やインタビュー形式のニュース記事などを用いて解説する。 （195 西野　路代／30回） コミュニケーションを通じて理解できるよう、ゲームやクイズなどを活用して教授する。実際の活用や使い分けを学ぶためのフォトランゲージや、小説読解、カードゲームなどを行う。学生同士のピアラーニングや、反転授業なども行う。	オムニバス方式
			ドイツ語Ⅱｉ（理解）		この授業は、1年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が入門～初級レベルのリーディングやリスニングのスキルを習得することを到達目標とする。教室やビジネスシーンでの挨拶や自己紹介、日常生活のレストランやショッピングでのダイアローグ、ドイツ語圏の生活習慣や食文化に関する短い説明文、友人との簡単なメール、チャット等を取り上げる。教員による文法や語彙の解説のほか、テキストの内容に関するクイズや練習問題、学生によるプレゼンテーション等も実施する。	
			ドイツ語Ⅱｉ（表現）		この授業は、1年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が入門～初級レベルのスピーキングやライティングのスキルを習得することを到達目標とする。挨拶や自己紹介、レストランやショッピングや旅行で使える初歩的なフレーズと基本表現、友人や教師との短文メール等を取り上げる。教員による発音や語彙の解説のほか、コミュニケーションを通じて理解できるよう、活発な会話を促すためのゲームやクイズ、学生によるプレゼンテーションやディスカッション等も実施する。	

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
全学教養教育	共通科目	語学科目	ドイツ語Ⅱｉ（総合）		この授業は、1年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が単語単位ではなく、文章レベルでなめらかに理解・発音・聞き取り・表現ができるよう、文法、リスニング、口頭表現のスキルを総合的に習得することを到達目標とする。子供向けアニメ（ドイツ語版）、ドイツ語の発音練習アプリやビデオ、簡単な会話フレーズを学ぶためのカードやリスト等を利用する。教員による発音や語彙の解説のほか、学生によるプレゼンテーションやディスカッション等も実施する。	
			ドイツ語Ⅲｉ（文法）		この授業は、2年次生を対象として、演習形式で実施される。1年かけて学ぶ初級文法の後半で、受講生が初級レベルの文法の知識を習得し、中級レベルにスムーズに移行することを到達目標とする。現在完了形、再帰代名詞・再帰動詞、形容詞・副詞、関係代名詞、受動態、接続法を学習するとともに、それらを用いた表現練習を行う。教員による文法解説のほか、予習、復習に基づく発言、発表、グループワークなど、アクティブラーニングを中心に行う。理解を深めるための練習問題やクイズ、習熟度を確認するための小テスト等も実施する。	
			ドイツ語Ⅲｉ（理解）		この授業は、2年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が初級～中級レベルのリーディングやリスニングのスキルを習得することを到達目標とする。双方向によるアクティブラーニングによって、生きたドイツ語として教授する。ドイツ語圏の観光地や世界遺産、音楽やスポーツやファッション等に関する説明文、童謡や簡単な流行歌、やや長めの私的なメール等を取り上げる。教員による文法や語彙の解説のほか、テキストの内容に関するクイズや、学生によるプレゼンテーション等も実施する。	
			ドイツ語Ⅲｉ（表現）		この授業は、2年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が初級～中級レベルのスピーキングやライティングのスキルを習得することを到達目標とする。挨拶や自己紹介、レストランやショッピングや旅行で使える初歩的なフレーズと基本表現、友人や教師との短文メール、国や地方ごとに異なるドイツ語の語彙のバリエーション等を取り上げる。教員による発音や語彙の解説のほか、活発な会話を促すためのゲームや、学生によるプレゼンテーションやディスカッション等も実施する。	
			ドイツ語Ⅲｉ（総合）		この授業は、2年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が比較的長い文章であってもなめらかに理解・発音・聞き取り・表現ができるよう、文法、リスニング、口頭表現のスキルを総合的に習得することを到達目標とする。双方向によるアクティブラーニングによって、コンテクストに即して使い方を理解できるよう、生きたドイツ語として教授する。映画やドラマのほか、ドイツ語圏の生活や文化に関する記事を読み、プレゼンテーションやディスカッション等を実施する。	
			ドイツ語Ⅳｉ（文法）		（概要）この授業は、2年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が中級レベルのドイツ語文法の知識を習得することを到達目標とする。授業では、分離動詞、再帰動詞・再帰代名詞、命令形、関係代名詞、話法の助動詞、接続法などの事項を取り上げる。 （オムニバス方式／全30回） （70　石井　寿子／15回） 双方向によるアクティブラーニングによって、生きたドイツ語として教授する。新たな文法事項について、コンテクストに即して使い方を理解できるよう、映画やドラマの会話文やインタビュー形式のニュース記事などを用いて解説する。学生同士のピアラーニングや、反転授業なども行う。 （195　西野　路代）／15回） 新たな文法の確実な定着のために、ルーブリックを用いた自己確認を中心に教授する。学習者のつまづきやすいポイントを明示し、自立した学習が可能となる学習態度を育成する。学習した文法事項をランダムに取り入れた長文読解を適宜行い、定着を確認する。	オムニバス方式
			ドイツ語Ⅳｉ（理解）		この授業は2年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が中級レベルのリーディングやリスニングのスキルを習得することを到達目標とする。ドイツ語圏の美術・建築・映画等に関するエッセイ、時事問題やビジネス、テクノロジーに関する論説記事、公私の様々なシチュエーションでのメール等を取り上げる。教員による文法や語彙の解説のほか、テキストの内容に関するクイズ、学生によるディスカッションやプレゼンテーション等も実施する。	
			ドイツ語Ⅳｉ（表現）		この授業は、2年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が中級レベルのスピーキングやライティングのスキルを習得することを到達目標とする。教員による文法解説のほか、予習、復習に基づく発言、発表、グループワークなど、アクティブラーニングを中心に行う。世界の政治・経済・社会問題や、ドイツ語圏の文学・芸術・歴史等に関する学術的なテーマを取り上げる。教員による発音や語彙、表現の解説のほか、活発な会話を促すためのゲームや、学生によるプレゼンテーションやディスカッション等も実施する。	
			ドイツ語Ⅳｉ（総合）		この授業は、2年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が比較的長い文章であってもなめらかに理解・発音・聞き取り・表現ができるよう、文法、リスニング、口頭表現のスキルを総合的に習得することを到達目標とする。双方向によるアクティブラーニングによって、コンテクストに即して使い方を理解できるよう、生きたドイツ語として教授する。映画やドラマのほか、ドイツ語圏の生活や文化に関する記事を読み、ドイツ語でのプレゼンテーションやディスカッション等を実施する。	
			ドイツ語Ｖｉ（理解）		この授業は、3年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が比較的長い文章であってもなめらかに理解・発音・聞き取り・表現ができるよう、文法、リスニング、口頭表現のスキルを総合的に習得することを到達目標とする。双方向によるアクティブラーニングによって、コンテクストに即して使い方を理解できるよう、生きたドイツ語として教授する。映画やドラマのほか、ドイツ語圏の生活や文化に関する記事を読み、ドイツ語でのプレゼンテーションやディスカッション等を実施する。	
			ドイツ語Ｖｉ（表現）		この授業は、3年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が中級～中上級レベルのスピーキングやライティングのスキルを習得することを到達目標とする。世界の政治・経済・社会問題や、ドイツ語圏の文学・芸術・歴史等に関する学術的なテーマを取り上げる。教員による文法や文化に関する解説のほか、予習、復習に基づく発言、発表、グループワークなど、アクティブラーニングを中心に行う。活発な会話を促すためのゲームや、学生によるプレゼンテーションやディスカッション等も実施する。	
			ドイツ語Ｖｉ（総合）		この授業は、3年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が中級～中上級レベルのドイツ語の４技能（読む・書く・聞く・話す）を駆使して研究やプレゼンテーションを行うための、実践的なスキルを習得することを到達目標とする。教員による文法解説のほか、予習、復習に基づく発言、発表、グループワークなど、アクティブラーニングを中心に行う。テーマ（年度により異なる）を定めて、個人またはグループで調査および研究等を実施し、それらの成果をもとにスライド等を作成して、学内でプレゼンテーション、ディスカッション等を行う。	

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
全学教養教育	共通科目	語学科目	ドイツ語Ⅵｉ（理解）		この授業は、3年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が中上級～上級レベルのリーディングやリスニングのスキルを習得することを到達目標とする。ドイツ語圏の政治・経済・社会問題に関する論文や学術的エッセイ、古典文学作品や文芸評論、上級者向けの歌や映画等を取り上げ、アクティブラーニングを中心に行う。教員による文法や語彙の解説のほか、テキストの内容に関するクイズや、学生によるディスカッションやプレゼンテーション等も実施する。	
			ドイツ語Ⅵｉ（表現）		この授業は、3年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が中上級～上級レベルのスピーキングやライティングのスキルを習得することを到達目標とする。世界の政治・経済・社会問題や、ドイツ語圏の文学・芸術・歴史等に関する学術的なテーマを取り上げる。教員による文法や文化に関する解説のほか、予習、復習に基づく発言、発表、グループワークなど、アクティブラーニングを中心に行う。活発な会話を促すためのゲームや、学生によるプレゼンテーションやディスカッション等も実施する。	
			ドイツ語Ⅵｉ（総合）		この授業は、3年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が中級～中上級レベルのドイツ語の４技能（読む・書く・聞く・話す）を駆使して研究やプレゼンテーションを行うための、実践的なスキルを習得することを到達目標とする。教員による文法解説のほか、予習、復習に基づく発言、発表、グループワークなど、アクティブラーニングを中心に行う。テーマ（年度により異なる）を定めて、個人またはグループで調査および研究等を実施し、それらの成果をもとにスライド等を作成して、学内でプレゼンテーション、ディスカッション等を行う。	
			海外語学実習（ドイツ語）		この授業は、入門～初級のドイツ語を学んだ受講生を対象に、ドイツのデュッセルドルフ市、IIK（異文化コミュニケーション研究所）において、多国籍の受講生とともにドイツ語を学ぶ。文法、読む、聞く、話す、書くというドイツ語の総合的な能力を総動員させて、生きたドイツ語を、授業や生活、文化の中で習得することを到達目標とする。さらに授業外の遠足イベント、パーティ等の参加を通じて、多様な場面でのコミュニケーションを学ぶ。またドイツだけでなく近隣諸国へのフィールドトリップにより、ドイツの国際的な関係についても体験する。	
			スペイン語Ⅰ（入門）		この授業は、スペイン語の初学者を対象として、演習形式で実施される。受講生が入門レベルの文法・語彙の知識、発音と簡単な会話表現、およびスペイン語圏の文化・社会に関する基礎知識を習得することを到達目標とする。文法の解説や練習問題のほか、学生同士のペアワークやグループワークを取り入れながら、挨拶、自己紹介、レストランやショッピングでのやり取り等の会話表現の実践的な練習も行う。また、教員がスペイン語圏の音楽、芸術、食文化、スポーツ、生活習慣、歴史、時事問題等を紹介する時間も設ける。	
			スペイン語Ⅱｓ（文法）		この授業は、1年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が入門～初級レベルのスペイン語文法の知識を習得し、体系的な理解を深めることを到達目標とする。アルファベット、母音と子音の発音、音節とアクセント、名詞の性と数、冠詞、形容詞、主格人称代名詞、直説法現在の動詞の活用と用法（SER/ESTAR/HAY、規則活用動詞）等の事項を取り上げる。教員による文法解説のほか、理解を深めるための練習問題や、習熟度を確認するための小テスト等も実施する。	
			スペイン語Ⅱｓ（理解）		この授業は、1年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が入門～初級レベルのリーディングやリスニングのスキルを習得し、スペイン語で情報をインプットする能力を高めることを到達目標とする。挨拶や自己紹介のダイアローグ、レストランやショッピングでのダイアローグ、スペイン語圏の生活習慣や食文化に関する短い説明文等を取り上げる。教員による文法や語彙の解説のほか、テキストの内容に関するクイズや、学生によるプレゼンテーション等も実施する。	
			スペイン語Ⅱｓ（表現）		この授業は、1年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が入門～初級レベルのスピーキングやライティングのスキルを習得し、スペイン語で情報をアウトプットする能力を高めることを到達目標とする。挨拶や自己紹介、レストランやショッピングや旅行で使える初歩的なフレーズ、友人や教師との短文メール等を取り上げる。教員による発音や語彙の解説のほか、活発な会話を促すためのゲームや、学生によるディスカッション等も実施する。	
			スペイン語Ⅲｓ（文法）		この授業は、2年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が初級～中級レベルのスペイン語文法の知識を習得し、体系的な理解を深めることを到達目標とする。目的格人称代名詞、GUSTAR型動詞、前置詞格人称代名詞、語根母音変化動詞、不規則活用動詞、天候表現、再帰動詞、無人称文、感嘆文等の事項を取り上げる。教員による文法解説のほか、理解を深めるための練習問題や、習熟度を確認するための小テスト等も実施する。	
			スペイン語Ⅲｓ（理解）		この授業は、2年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が初級～中級レベルのリーディングやリスニングのスキルを習得し、スペイン語で情報をインプットする能力を高めることを到達目標とする。スペイン語圏の観光地や世界遺産、音楽やスポーツやファッション等に関する説明文、童謡や簡単な流行歌等を取り上げる。教員による文法や語彙の解説のほか、テキストの内容に関するクイズや、学生によるプレゼンテーション等も実施する。	
			スペイン語Ⅲｓ（表現）		この授業は、2年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が初級～中級レベルのスピーキングやライティングのスキルを習得し、スペイン語で情報をアウトプットする能力を高めることを到達目標とする。家族や学校や趣味やアルバイトの話題、レストランやショッピングや旅行で使える基本表現、日本文化を紹介するための表現等を取り上げる。教員による発音や語彙の解説のほか、活発な会話を促すためのゲームや、学生によるディスカッション等も実施する。	
			スペイン語Ⅳｓ（文法）		この授業は、2年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が中級レベルのスペイン語文法の知識を習得し、体系的な理解を深めることを到達目標とする。過去分詞、直説法現在完了、現在分詞、直説法点過去、不定語と否定語、比較表現、受け身表現、直説法線過去、直説法過去完了、直説法未来・過去未来等の事項を取り上げる。教員による文法解説のほか、理解を深めるための練習問題や、習熟度を確認するための小テスト等も実施する。	
			スペイン語Ⅳｓ（理解）		この授業は、2年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が中級レベルのリーディングやリスニングのスキルを習得し、スペイン語で情報をインプットする能力を高めることを到達目標とする。スペイン語圏の美術・建築・映画等に関するエッセイ、時事問題に関する新聞記事、公私の様々なシチュエーションでのメール等を取り上げる。教員による文法や語彙の解説のほか、テキストの内容に関するクイズや、学生によるプレゼンテーション等も実施する。	
			スペイン語Ⅳｓ（表現）		この授業は、2年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が中級レベルのスピーキングやライティングのスキルを習得し、スペイン語で情報をアウトプットする能力を高めることを到達目標とする。食べ物や音楽や映画の好みを語り合うための表現、友人や教師との長文メール、日本の社会問題について説明するための表現等を取り上げる。教員による発音や語彙の解説のほか、活発な会話を促すためのゲームや、学生によるディスカッション等も実施する。	

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
全学教養教育	共通科目	語学科目	スペイン語Ⅱｉ（文法）		（概要）この授業は、1年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が入門～初級レベルのスペイン語文法の知識を習得し、体系的な理解を深めることを到達目標とする。アルファベット、母音と子音の発音、音節とアクセント、名詞の性と数、冠詞、形容詞、人称代名詞、直説法現在の動詞の活用と用法（GUSTAR型動詞や再帰動詞を含む）、直接法点過去の活用と用法等の事項を取り上げる。教員による文法解説のほか、理解を深めるための練習問題や、習熟度を確認するための小テスト等も実施する。 （オムニバス方式／全45回） （38　遠藤　健太／15回） 新出の文法事項の詳細な解説と、それに関する筆記の練習問題を実施する。 （44　HIGA, Marcelo G.／30回） 新出の語彙・成句・動詞活用の解説と、それに関する筆記の練習問題および口頭練習を実施する。既習の文法事項や語彙・成句・動詞活用の復習と、それに関する筆記の練習問題および口頭練習を実施する。	オムニバス方式
			スペイン語Ⅱｉ（理解）		この授業は、1年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が入門～初級レベルのリーディングやリスニングのスキルを習得し、スペイン語で情報をインプットする能力を高めることを到達目標とする。挨拶や自己紹介のダイアローグ、レストランやショッピングでのダイアローグ、スペイン語圏の生活習慣や食文化に関する短い説明文、友人との簡単なメール等を取り上げる。教員による文法や語彙の解説のほか、テキストの内容に関するクイズや、学生によるプレゼンテーション等も実施する。	
			スペイン語Ⅱｉ（表現）		この授業は、1年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が入門～初級レベルのスピーキングやライティングのスキルを習得し、スペイン語で情報をアウトプットする能力を高めることを到達目標とする。挨拶や自己紹介、レストランやショッピングや旅行で使える初歩的なフレーズと基本表現、友人や教師との短文メール、国や地方ごとに異なるスペイン語の語彙のバリエーション等を取り上げる。教員による発音や語彙の解説のほか、活発な会話を促すためのゲームや、学生によるディスカッション等も実施する。	
			スペイン語Ⅱｉ（総合）		この授業は、1年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が入門～初級レベルのスペイン語の４技能（読む・聞く・話す・書く）を駆使して情報収集やプレゼンテーションを行う実践的なスキルを習得することを到達目標とする。グループごとにテーマを設定して、文献調査やその他の様々な手段で情報を収集し、日本語およびスペイン語でディスカッションする等のアクティブ・ラーニングを通じて、スペイン語とスペイン語圏に関する見識を深める。	
			スペイン語Ⅲｉ（文法）		この授業は、2年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が初級～中級レベルのスペイン語文法の知識を習得し、体系的な理解を深めることを到達目標とする。無人称文、関係詞、直接法点過去、否定語と不定語、比較表現、受け身表現、直説法線過去、直説法過去完了、直説法未来・過去未来、直説法未来完了・過去未来完了等の事項を取り上げる。教員による文法解説のほか、理解を深めるための練習問題や、習熟度を確認するための小テスト等も実施する。	
			スペイン語Ⅲｉ（理解）		この授業は、2年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が初級～中級レベルのリーディングやリスニングのスキルを習得し、スペイン語で情報をインプットする能力を高めることを到達目標とする。スペイン語圏の観光地や世界遺産、音楽やスポーツやファッション等に関する説明文、童謡や簡単な流行歌、やや長めの私的なメール等を取り上げる。教員による文法や語彙の解説のほか、テキストの内容に関するクイズや、学生によるプレゼンテーション等も実施する。	
			スペイン語Ⅲｉ（表現）		この授業は、2年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が初級～中級レベルのスピーキングやライティングのスキルを習得し、スペイン語で情報をアウトプットする能力を高めることを到達目標とする。家族や学校や趣味やアルバイトの話題、レストランやショッピングや旅行で使える基本表現と応用表現、日本文化を紹介するための表現、国や地方ごとに異なるスペイン語の文法のバリエーション等を取り上げる。教員による発音や語彙の解説のほか、活発な会話を促すためのゲームや、学生によるディスカッション等も実施する。	
			スペイン語Ⅲｉ（総合）		この授業は、2年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が初級～中級レベルのスペイン語の４技能（読む・聞く・話す・書く）を駆使して情報収集やプレゼンテーションを行う実践的なスキルを習得することを到達目標とする。グループごとにテーマを設定して、文献調査やその他の様々な手段で情報を収集し、日本語およびスペイン語でディスカッションする等のアクティブ・ラーニングを通じて、スペイン語とスペイン語圏に関する見識を深める。	
			スペイン語Ⅳｉ（文法）		（概要）この授業は、2年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が中級～中上級レベルのスペイン語文法の知識を習得し、体系的な理解を深めることを到達目標とする。接続法現在の活用、命令文、接続法現在の用法（名詞節・形容詞節・副詞節・独立文）、接続法過去、接続法現在完了、接続法過去完了、条件文等の事項を取り上げる。教員による文法解説のほか、理解を深めるための練習問題や、習熟度を確認するための小テスト等も実施する。 （オムニバス方式／全30回） （38　遠藤　健太／15回） 新出の文法事項および語彙・成句・動詞活用の詳細な解説と、それに関する筆記の練習問題を実施する。 （243　渡辺　裕木／15回） 既習の文法事項および語彙・成句・動詞活用の復習と、それに関する口頭練習を実施する。	オムニバス方式
			スペイン語Ⅳｉ（理解）		この授業は、2年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が中級レベルのリーディングやリスニングのスキルを習得し、スペイン語で情報をインプットする能力を高めることを到達目標とする。スペイン語圏の美術・建築・映画等に関するエッセイ、ビジネスやテクノロジーに関する論説記事、公私の様々なシチュエーションでのメール等を取り上げる。教員による文法や語彙の解説のほか、テキストの内容に関するクイズや、学生によるプレゼンテーション等も実施する。	

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
全学教養教育	共通科目	語学科目	スペイン語Ⅳｉ（表現）		この授業は、2年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が中級レベルのスピーキングやライティングのスキルを習得し、スペイン語で情報をアウトプットする能力を高めることを到達目標とする。食べ物や音楽や映画の好みを語り合うための表現、友人や教師との長文メール、日本の社会問題について説明するための表現、国や地方ごとに異なるスペイン語の発音のバリエーション等を取り上げる。教員による発音や語彙の解説のほか、活発な会話を促すためのゲームや、学生によるディスカッション等も実施する。	
			スペイン語Ⅳｉ（総合）		この授業は、2年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が中級レベルのスペイン語の４技能（読む・聞く・話す・書く）を駆使して情報収集やプレゼンテーションを行う実践的なスキルを習得することを到達目標とする。グループごとにテーマを設定して、文献調査やその他の様々な手段で情報を収集し、日本語およびスペイン語でディスカッションする等のアクティブ・ラーニングを通じて、スペイン語とスペイン語圏に関する見識を深める。	
			スペイン語Ⅴｉ（理解）		この授業は、3年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が中級～中上級レベルのリーディングやリスニングのスキルを習得し、スペイン語で情報をインプットする能力を高めることを到達目標とする。スペイン語圏の時事問題に関する新聞記事や報道番組、エンターテイメントやスポーツに関する評論やインタビュー記事、大衆向けの文学作品等を取り上げる。教員による文法や語彙の解説のほか、テキストの内容に関するクイズや、学生によるプレゼンテーション等も実施する。	
			スペイン語Ⅴｉ（表現）		この授業は、3年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が中級～中上級レベルのスピーキングやライティングのスキルを習得し、スペイン語で情報をアウトプットする能力を高めることを到達目標とする。留学やビジネスシーンでの口語表現やメール、時事問題について自分の意見を論理的に述べるための表現等を取り上げる。教員による発音や語彙の解説のほか、活発な会話を促すためのゲームや、学生によるディスカッション等も実施する。	
			スペイン語Ⅴｉ（総合）		この授業は、3年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が中級～中上級レベルのスペイン語の４技能（読む・聞く・話す・書く）を駆使して情報収集やプレゼンテーションを行う実践的なスキルを習得することを到達目標とする。グループごとにテーマを設定して、文献調査やその他の様々な手段で情報を収集し、日本語およびスペイン語でディスカッションする等のアクティブ・ラーニングを通じて、スペイン語とスペイン語圏に関する見識を深める。	
			スペイン語Ⅵｉ（理解）		この授業は、3年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が中上級～上級レベルのリーディングやリスニングのスキルを習得し、スペイン語で情報をインプットする能力を高めることを到達目標とする。スペイン語圏の政治・経済・社会問題に関する論文や学術的エッセイ、古典文学作品や文芸評論、上級者向けの歌や映画等を取り上げる。教員による文法や語彙の解説のほか、テキストの内容に関するクイズや、学生によるプレゼンテーション等も実施する。	
			スペイン語Ⅵｉ（表現）		この授業は、3年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が中上級～上級レベルのスピーキングやライティングのスキルを習得し、スペイン語で情報をアウトプットする能力を高めることを到達目標とする。日本や世界の政治・経済・社会問題や、スペイン語圏の文学・芸術・歴史等に関する学術的なテーマを取り上げる。教員による発音や語彙の解説のほか、活発な会話を促すためのゲームや、学生によるディスカッション等も実施する。	
			スペイン語Ⅵｉ（総合）		この授業は、3年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が中上級～上級レベルのスペイン語の４技能（読む・聞く・話す・書く）を駆使して情報収集やプレゼンテーションを行う実践的なスキルを習得することを到達目標とする。グループごとにテーマを設定して、文献調査やその他の様々な手段で情報を収集し、日本語およびスペイン語でディスカッションする等のアクティブ・ラーニングを通じて、スペイン語とスペイン語圏に関する見識を深める。	
			海外語学実習（スペイン語）		この授業は、スペイン語の全コースの学生を対象として、演習形式で実施される。受講生が（各自の学習段階に応じて）入門～上級レベルのスペイン語の総合的なスキルを向上させ、スペインでの生活や文化に親しむことを到達目標とする。夏休みの3週間語学研修プログラムに参加する。現地での語学研修のほか、出国前の本学担当教員による事前研修（渡航や現地滞在に関する指導、スペイン語指導等）や、帰国後の事後研修（学生による成果発表会やディスカッション）等も実施する。	
			中国語Ⅰ（入門）		この授業は、中国語の初学者を対象として、演習形式で実施される。受講生が入門レベルの中国語の現状や特徴、簡体字、発音表記（ピンイン）、発音の基礎、簡単な日常表現、中国語圏の文化・社会に関する基礎知識を習得することを到達目標とする。発音、文法の解説や練習問題のほか、学生同士のペアワークやグループワークを取り入れながら、挨拶、自己紹介、レストランやショッピングでのやり取り等の日常表現の練習も行う。また、教員が中国語圏の文化習慣、音楽・芸術、スポーツ、歴史、時事問題等を紹介する。	
			中国語Ⅱｓ（文法）		この授業は、1年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が入門～初級レベルの文法の知識を習得することを到達目標とする。簡体字、発音表記（ピンイン）、発音（音節と声調）、名詞・指示詞・代名詞、動詞、形容詞、副詞、助詞、数詞、量詞、方位詞、疑問詞、助動詞等の基本的用法（動詞述語文、形容詞述語文、アスペクト等）、存現文の事項を取り上げる。教員による語彙や文法解説のほか、学生同士のペアワークによる発音練習、テキストの内容に関する練習問題や小テスト等も実施する。	
			中国語Ⅱｓ（理解）		この授業は、1年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が入門～初級レベルのリーディングやリスニングのスキルを習得し、中国語で情報をインプットする能力を高めることを到達目標とする。挨拶や自己紹介のダイアローグ、レストランやショッピングでのダイアローグ、中国語圏の生活習慣や食文化に関する短い説明文等を取り上げる。教員による文法や語彙の解説のほか、テキスト及び音声の内容に関するクイズや、学生によるプレゼンテーション等も実施する。	
			中国語Ⅱｓ（表現）		この授業は、1年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が入門～初級レベルのスピーキングやライティングのスキルを習得し、中国語で情報をアウトプットする能力を高めることを到達目標とする。挨拶や自己紹介、レストランやショッピングや旅行で使える初歩的なフレーズ、友人や教師との短文メール等を取り上げる。教員による発音や語彙の解説のほか、活発な会話を促すためのゲームや、学生によるディスカッション、作文課題等も実施する。	
			中国語Ⅲｓ（文法）		この授業は、2年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が初級～中級レベルの文法の知識を習得することを到達目標とする。各種品詞の基本的用法（動詞述語文、形容詞述語文、アスペクト等）、存現文に加え、連動文、兼語文、各種補語（様態、程度、方向、結果、可能）の用法、簡単な複文等の事項を取り上げる。教員による語彙や文法の解説のほか、学生同士のペアワークやグループワークによる発音練習、理解を深めるための練習問題や、習熟度を確認するための小テスト等も実施する。	

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
			中国語Ⅲｓ（理解）		この授業は、2年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が初級～中級レベルのリーディングやリスニングのスキルを習得し、中国語で情報をインプットする能力を高めることを到達目標とする。中国語圏の日常生活、文化や伝統、旅行先や観光地、音楽やスポーツやファッション等に関する説明文、童謡や簡単な流行歌等を取り上げる。教員による文法や語彙の解説のほか、テキスト及び音声の内容に関するクイズや、学生によるプレゼンテーション等も実施する。	
			中国語Ⅲｓ（表現）		この授業は、2年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が初級～中級レベルのスピーキングやライティングのスキルを習得し、中国語で情報をアウトプットする能力を高めることを到達目標とする。家族や学校、趣味やアルバイトの話題、レストランやショッピングや旅行で使える基本表現、日本文化を紹介するための表現等を取り上げる。教員による発音や語彙の解説のほか、活発な会話を促すためのゲームや、学生によるディスカッション、作文課題等も実施する。	
			中国語Ⅳｓ（文法）		この授業は、2年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が中級レベルの文法の知識を習得し、体系的な理解を深めることを到達目標とする。基本表現をはじめ、兼語文、受身表現、離合動詞、各種助詞、各種補語（様態、程度、方向、結果、可能）の用法、複文等の事項を取り上げる。教員による語彙や文法の解説のほか、学生同士のペアワークやグループワークによる発音練習、理解を深めるための練習問題や、習熟度を確認するための小テスト等も実施する。	
			中国語Ⅳｓ（理解）		この授業は、2年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が中級レベルのリーディングやリスニングのスキルを習得し、中国語で情報をインプットする能力を高めることを到達目標とする。中国語圏の美術・建築・映画等に関するエッセイ、時事問題に関する新聞記事、公私の様々なシチュエーションでのメール等を取り上げる。教員による文法や語彙の解説のほか、テキスト及び音声の内容に関するクイズや、学生によるプレゼンテーション等も実施する。	
			中国語Ⅳｓ（表現）		この授業は、2年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が中級レベルのスピーキングやライティングのスキルを習得し、中国語で情報をアウトプットする能力を高めることを到達目標とする。食べ物や音楽や映画の好みを語り合うための表現、友人や教師との長文メール、日本の社会問題について説明するための表現等を取り上げる。教員による発音や語彙の解説のほか、活発な会話を促すためのゲームや、学生によるディスカッション、作文課題等も実施する。	
全学教養教育	共通科目	語学科目	中国語Ⅱｉ（文法）		（概要）この授業は、1年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が入門～初級レベルの文法の知識を習得することを到達目標とする。簡体字、音節（ピンイン、声調）、名詞、指示詞、代名詞、動詞、形容詞、副詞、助詞、数詞、量詞、方位詞、疑問詞、助動詞等の基本的用法（動詞述語文、形容詞述語文、アスペクト等）、存現文、連動文等の事項を取り上げる。教員による語彙や文法解説のほか、学生同士のペアワークによる発音練習、テキストの内容に関する練習問題や小テスト等も実施する。 （オムニバス方式／全45回） （37　上原　かおり／15回） 新出単語や文法事項について詳細に解説し、簡単な練習問題を実施する。 （73　石原　正代／15回） 既習の単語や文法事項に関する練習問題を解きながら復習する。 （150　朱　力／15回） 発音に重点を置いて既習内容を復習する。また、暗唱や会話練習などを実施する。	オムニバス方式
			中国語Ⅱｉ（理解）		この授業は、1年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が入門～初級レベルのリーディングやリスニングのスキルを習得し、中国語で情報をインプットする能力を高めることを到達目標とする。挨拶や自己紹介のダイアローグ、レストランやショッピングでのダイアローグ、中国語圏の生活習慣や食文化に関する短い説明文、友人との簡単なメール等を取り上げる。教員による文法や語彙の解説のほか、テキスト及び音声の内容に関するクイズや、学生によるプレゼンテーション等も実施する。	
			中国語Ⅱｉ（表現）		この授業は、1年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が入門～初級レベルのスピーキングやライティングのスキルを習得し、中国語で情報をアウトプットする能力を高めることを到達目標とする。挨拶や自己紹介、レストランやショッピングや旅行で使える初歩的なフレーズと基本表現、友人や教師との短文メール、地方ごとに異なる語彙のバリエーション等を取り上げる。教員による発音や語彙の解説のほか、活発な会話を促すためのゲームや、学生によるディスカッション、作文課題等も実施する。	
			中国語Ⅱｉ（総合）		この授業は、1年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が入門～初級レベルの中国語の４技能（読む・聞く・話す・書く）を駆使して情報収集やプレゼンテーションを行う実践的なスキルを習得することを到達目標とする。グループごとにテーマを設定して、文献調査やその他の様々な手段で情報を収集し、日本語および中国語でディスカッションする等のアクティブ・ラーニングを通じて、中国語と中国語圏に関する見識を深める。	
			中国語Ⅲｉ（文法）		（概要）この授業は、2年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が初級～中級レベルの文法の知識を習得することを到達目標とする。各種品詞の基本的用法（動詞述語文、形容詞述語文、アスペクト等）、存現文、連動文に加え、兼語文、各種補語（様態、程度、方向、結果、可能）の用法、簡単な複文等の事項を取り上げる。教員による語彙や文法解説のほか、学生同士のペアワークやグループワークによる発音練習、理解を深めるための練習問題や、習熟度を確認するための小テスト等も実施する。 （オムニバス方式／全30回） （37　上原　かおり／15回） 新出単語や語句、文法事項について詳細に解説し、練習問題を実施する。 （2　泉谷　陽子／15回） 既習の単語や語句、文法事項に関する練習問題を解きながら復習する。また、暗唱や会話練習などを実施する。	オムニバス方式
			中国語Ⅲｉ（理解）		この授業は、2年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が初級～中級レベルのリーディングやリスニングのスキルを習得し、中国語で情報をインプットする能力を高めることを到達目標とする。中国語圏の日常生活、文化や伝統、旅行先や観光地、音楽やスポーツやファッション等に関する説明文、童謡や簡単な流行歌、やや長めの私的なメール等を取り上げる。教員による文法や語彙の解説のほか、テキスト及び音声の内容に関するクイズや、学生によるプレゼンテーション等も実施する。	

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
全学教養教育	共通科目	語学科目	中国語Ⅲｉ（表現）		この授業は、2年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が初級～中級レベルのスピーキングやライティングのスキルを習得し、中国語で情報をアウトプットする能力を高めることを到達目標とする。家族や学校、趣味やアルバイトの話題、レストランやショッピングや旅行で使える基本表現と応用表現、日本文化を紹介するための表現、地方ごとに異なる表現のバリエーション等を取り上げる。教員による発音や語彙の解説のほか、活発な会話を促すためのゲームや、学生によるディスカッション、作文課題等も実施する。	
			中国語Ⅲｉ（総合）		この授業は、2年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が初級～中級レベルの中国語の４技能（読む・聞く・話す・書く）を駆使して情報収集やプレゼンテーションを行う実践的なスキルを習得することを到達目標とする。グループごとにテーマを設定して、文献調査やその他の様々な手段で情報を収集し、日本語および中国語でディスカッションする等のアクティブ・ラーニングを通じて、中国語と中国語圏に関する見識を深める。	
			中国語Ⅳｉ（文法）		（概要）この授業は、2年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が中級レベルの文法の知識を習得し、体系的な理解を深めることを到達目標とする。基本表現をはじめ、兼語文、受身表現、離合動詞、各種助詞、各種補語（様態、程度、方向、結果、可能）の用法、複文等の事項を取り上げる。教員による語彙や文法の解説のほか、学生同士のペアワークやグループワークによる発音練習、理解を深めるための練習問題や、習熟度を確認するための小テスト等も実施する。 （オムニバス方式／全30回） （78　伊藤　祥雄／15回） 新出の文法事項の詳細な解説と、それに関する筆記の練習問題を実施する。 （128　河野　正／15回） 既習の単語や語句、文法事項に関する練習問題を解きながら復習する。また、暗唱や会話練習などを実施する。	オムニバス方式
			中国語Ⅳｉ（理解）		この授業は、2年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が中級レベルのリーディングやリスニングのスキルを習得し、中国語で情報をインプットする能力を高めることを到達目標とする。中国語圏の美術・建築・映画等に関するエッセイ、ビジネスやテクノロジーに関する論説記事、公私の様々なシチュエーションでのメール等を取り上げる。教員による文法や語彙の解説のほか、テキスト及び音声の内容に関するクイズや、学生によるプレゼンテーション等も実施する。	
			中国語Ⅳｉ（表現）		この授業は、2年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が中級レベルのスピーキングやライティングのスキルを習得し、中国語で情報をアウトプットする能力を高めることを到達目標とする。食べ物や音楽や映画の好みを語り合うための表現、友人や教師との長文メール、日本の社会問題について説明するための表現等を取り上げる。教員による発音や語彙の解説のほか、活発な会話を促すためのゲームや、学生によるディスカッション、作文課題等も実施する。	
			中国語Ⅳｉ（総合）		この授業は、2年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が中級レベルの中国語の４技能（読む・聞く・話す・書く）を駆使して情報収集やプレゼンテーションを行う実践的なスキルを習得することを到達目標とする。個人またはグループでテーマを設定して、文献調査やその他の様々な手段で情報を収集し、可能な限り中国語で発表しディスカッションする等のアクティブ・ラーニングを通じて、中国語と中国語圏に関する見識を深める。	
			中国語Ⅴｉ（理解）		この授業は、3年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が中級～中上級レベルのリーディングやリスニングのスキルを習得し、中国語で情報をインプットする能力を高めることを到達目標とする。中国語圏の時事問題に関する新聞記事や報道番組、エンターテイメントやスポーツに関する評論やインタビュー記事、大衆向けの文学作品等を取り上げる。教員による文法や語彙の解説のほか、テキスト及び音声の内容に関するクイズや、学生によるプレゼンテーション等も実施する。	
			中国語Ⅴｉ（表現）		この授業は、3年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が中級～中上級レベルのスピーキングやライティングのスキルを習得し、中国語で情報をアウトプットする能力を高めることを到達目標とする。留学やビジネスシーンでの口語表現やメール、時事問題について自分の意見を論理的に述べるための表現等を取り上げる。教員による発音や語彙の解説のほか、活発な会話を促すためのゲームや、学生によるディスカッション、作文課題等も実施する。	
			中国語Ⅴｉ（総合）		この授業は、3年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が中級～中上級レベルの中国語の４技能（読む・聞く・話す・書く）を駆使して情報収集やプレゼンテーションを行う実践的なスキルを習得することを到達目標とする。個人またはグループでテーマを設定して、文献調査やその他の様々な手段で情報を収集し、可能な限り中国語で発表しディスカッションする等のアクティブ・ラーニングを通じて、中国語と中国語圏に関する見識を深める。	
			中国語Ⅵｉ（理解）		この授業は、3年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が中上級～上級レベルのリーディングやリスニングのスキルを習得し、中国語で情報をインプットする能力を高めることを到達目標とする。中国語圏の政治・経済・社会問題に関する論文や学術的エッセイ、文学作品や文芸評論、上級者向けの歌や映画等を取り上げる。教員による文法や語彙の解説のほか、テキストや音声の内容に関するクイズや、学生によるプレゼンテーション等も実施する。	
			中国語Ⅵｉ（表現）		この授業は、3年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が中上級～上級レベルのスピーキングやライティングのスキルを習得し、中国語で情報をアウトプットする能力を高めることを到達目標とする。日本や世界の政治・経済・社会問題や、中国語圏の文学・芸術・歴史等に関する学術的なテーマを取り上げる。教員による発音や語彙の解説のほか、活発な会話を促すためのゲームや、学生によるディスカッション、作文課題等も実施する。	
			中国語Ⅵｉ（総合）		この授業は、3年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が中上級～上級レベルの中国語の４技能（読む・聞く・話す・書く）を駆使して情報収集やプレゼンテーションを行う実践的なスキルを習得することを到達目標とする。個人またはグループでテーマを設定して、文献調査やその他の様々な手段で情報を収集し、可能な限り中国語で発表しディスカッションする等のアクティブ・ラーニングを通じて、中国語と中国語圏に関する見識を深める。	
			海外語学実習（中国語）		この授業は、中国語全希望者を対象として、演習形式で実施される。受講生が入門～上級レベルの中国語各種技能を向上させ、現地での生活や文化に慣れ親しむことを到達目標とする。夏休みに3～4週間、中国または台湾の中国語研修プログラムに参加する。事前のレベルテストにより受講生にあったクラス（入門～上級）で学習する。現地での語学実習のほか、事前研修として教員による説明や質疑応答等を複数回行い準備をサポートする。また事後研修として、学生による報告発表会やディスカッション等も実施する。	

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
全学教養教育	共通科目	語学科目	韓国語Ⅰ（入門）		この授業は、韓国語の初学者を対象として、演習形式で実施される。受講生が入門レベルの文法・語彙の知識、発音の基礎、簡単な自己紹介、および韓国語圏の文化・社会に関する基礎知識を習得することを到達目標とする。ハングル文字と発音を繰り返し練習することで慣れていき、文法の基礎を習得するための練習問題のほか、クイズや学生同士のペアワークを取り入れながら、挨拶と自己紹介等の会話表現の練習も行う。また、教員が映像等を用いて韓国の歴史、文化、時事問題等を紹介する。	
			韓国語Ⅱｓ（文法）		この授業は、1年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が入門～初級レベルの韓国語文法の知識を習得し、体系的な理解を深めることを到達目標とする。初級レベルのテキストを使用し、発音の変化、動詞や形容詞の活用、時制や助詞等を取り上げる。自己紹介や日課、買い物等、簡単な日常会話や基本的な構文等、初級文法を理解し使えるようになる。教員による語彙や文法の解説のほか、学生同士のペアワークによる発音練習、テキストの内容に関する練習問題や小テスト等も実施する。	
			韓国語Ⅱｓ（理解）		この授業は、1年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が入門～初級レベルのリーディングやリスニングのスキルを習得し、韓国語で情報をインプットする能力を高めることを到達目標とする。挨拶や自己紹介のダイアローグ、レストランやショッピングでのダイアローグ、韓国語圏の生活慣習や食文化に関する短い説明文等を取り上げる。教員による文法や語彙の解説のほか、テキストおよび音声の内容に関するクイズや、学生によるプレゼンテーション等も実施する。	
			韓国語Ⅱｓ（表現）		この授業は、1年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が入門～初級レベルのスピーキングやライティングのスキルを習得し、韓国語で情報をアウトプットする能力を高めることを到達目標とする。簡単な挨拶や自己紹介、レストランやショッピングや旅行で使える初歩的なフレーズ、友人や教師との短文メール等を取り上げる。教員による発音や語彙の解説のほか、活発な会話を促すためのゲームや、学生によるディスカッション、作文課題等も実施する。	
			韓国語Ⅲｓ（文法）		この授業は、2年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が初級～中級レベルの韓国語文法の知識を習得し、体系的な理解を深めることを到達目標とする。初中級レベルのテキストを用いて、発音の変化、各種品詞の基本的用法、時制や助詞に加え、連体形や不規則用言等を学習することで、より長い文章に慣れる。教員による語彙や文法の解説のほか、学生同士のペアワークやグループワークによる発音練習、理解を深めるための練習問題や、習熟度を確認するための小テスト等も実施する。	
			韓国語Ⅲｓ（理解）		この授業は、2年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が初級～中級レベルのリーディングやリスニングのスキルを習得し、韓国語で情報をインプットする能力を高めることを到達目標とする。韓国の日常生活、文化と伝統、旅行先や観光地、音楽やスポーツやファッション等に関する説明文、童謡や簡単なK-POP等を取り上げる。教員による文法や語彙の解説のほか、テキストおよび音声の内容に関するクイズや、学生によるプレゼンテーション等も実施する。	
			韓国語Ⅲｓ（表現）		この授業は、2年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が初級～中級レベルのスピーキングやライティングのスキルを習得し、韓国語で情報をアウトプットする能力を高めることを到達目標とする。家族や学校、趣味やアルバイトの話題、レストランやショッピングや旅行で使える基本表現、日本の文化を紹介する表現等を取り上げる。教員による文法や語彙の解説のほか、活発な会話を促すためのゲームや、学生によるプレゼンテーション、作文課題等も実施する。	
			韓国語Ⅳｓ（文法）		この授業は、2年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が中級レベルの韓国語文法の知識を習得し、体系的な理解を深めることを到達目標とする。中級レベルのテキストを用いて、発音の変化や助詞、用言語尾の活用等を取り上げる。パンマルや間接話法等、ざまざまな表現を学習することで、中級文法を理解し使えるようになる。教員による語彙や文法の解説のほか、学生同士のペアワークやグループワークによる発音練習、理解を深めるための練習問題や、習熟度を確認するための小テスト等も実施する。	
			韓国語Ⅳｓ（理解）		この授業は、2年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が中級レベルのリーディングやリスニングのスキルを習得し、韓国語で情報をインプットする能力を高めることを到達目標とする。韓国の映画や美術等に関するエッセイ、時事問題に関する新聞記事、公私の様々なシチュエーションでのメール等を取り上げる。教員による文法や語彙の解説のほか、テキストおよび音声の内容に関するクイズや、学生によるプレゼンテーション等も実施する。	
			韓国語Ⅳｓ（表現）		この授業は、2年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が中級レベルのスピーキングやライティングのスキルを習得し、韓国語で情報をアウトプットする能力を高めることを到達目標とする。食べ物や音楽や映画の好みを語り合うための表現、友人や教師との長文メール、日本の社会問題について説明するための基本表現等を取り上げる。教員による発音や語彙の解説のほか、活発な会話を促すためのゲームや、学生によるディスカッション、作文課題等も実施する。	
			韓国語Ⅱｉ（文法）		（概要）この授業は、1年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が入門～初級レベルの韓国語文法の知識を習得し、体系的な理解を深めることを到達目標とする。初級レベルのテキストを使用し、発音の変化、時制、助詞と用言語尾の活用等を学習し基礎を固めていく。日常生活で必要とされる簡単な会話表現や基本的な構文等、初級文法を理解し使えるようになる。教員による語彙や文法の解説のほか、練習問題や習熟度を確認するための小テスト等も実施する。 （オムニバス方式／全45回） （24　金　香男／30回） 動詞の活用や新出の文法事項の用法などを解説した後、練習問題を解きながら、新しく学んだ文法事項の定着を図る。 （65　李　東憲／15回） 新出単語や動詞の活用など、発音に重点を置き授業を進める。また、簡単な会話の練習も行い、実践力を培うことを目指す。	オムニバス方式

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
全学教養教育	共通科目	語学科目	韓国語Ⅱｉ（理解）		この授業は、1年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が入門～初級レベルのリーディングやリスニングのスキルを習得し、韓国語で情報をインプットする能力を高めることを到達目標とする。自己紹介やショッピング、生活習慣や食文化に関する短い説明文等を取り上げ、辞書の使い方や漢字語にも慣れる。教員による文法や語彙の解説のほか、テキストおよび音声の内容に関するクイズや、学生によるプレゼンテーション等も実施する。	
			韓国語Ⅱｉ（表現）		この授業は、1年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が入門～初級レベルのスピーキングやライティングのスキルを習得し、韓国語で情報をアウトプットする能力を高めることを到達目標とする。挨拶や自己紹介、レストランやショッピングや旅行で使える初歩的なフレーズと基本表現、友人や教師との短文メール等を取り上げる。教員による発音や語彙の解説のほか、活発な会話を促すためのゲームや、学生によるディスカッション、作文課題等も実施する。	
			韓国語Ⅱｉ（総合）		この授業は、1年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が入門～初級レベルの韓国語の４技能（読む・聞く・話す・書く）を駆使して情報収集やプレゼンテーションを行う、実践的なスキルを習得することを到達目標とする。個人またはグループごとにテーマを設定して、文献調査やその他のさまざまな手段で情報を収集し、日本語および韓国語でディスカッションする等のアクティブ・ラーニングを通じて、韓国語力を向上させると同時に、韓国語圏に関する見識を深める。	
			韓国語Ⅲｉ（文法）		この授業は、2年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が初級～中級レベルの韓国語文法の知識を習得し、体系的な理解を深めることを到達目標とする。初中級レベルのテキストを使用し、発音の変化、各種品詞の基本的用法、時制や助詞に加え、連体形や不規則用言等を学習することで、より長い文章に慣れる。教員による語彙や文法の解説のほか、学生同士のペアやグループワークによる発音練習、理解を深めるための練習問題や、習熟度を確認するための小テスト等も実施する。	
			韓国語Ⅲｉ（理解）		この授業は、2年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が初級～中級レベルのリーディングやリスニングのスキルを習得し、韓国語で情報をインプットする能力を高めることを到達目標とする。韓国の観光地や世界遺産、音楽やスポーツやファッション等に関する説明文、童謡や簡単なK、やや長めの私的なメール等を取り上げる。教員による文法や語彙の解説のほか、テキストおよび音声の内容に関するクイズや、学生によるプレゼンテーション等も実施する。	
			韓国語Ⅲｉ（表現）		この授業は、2年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が初級～中級レベルのスピーキングやライティングのスキルを習得し、韓国語で情報をアウトプットする能力を高めることを到達目標とする。家族や学校、趣味やアルバイトの話題、レストランやショッピングや旅行で使える基本表現と応用表現、日本文化を紹介するための表現等を取り上げる。教員による発音や語彙の解説のほか、活発な会話を促すためのゲームや、学生によるディスカッション、作文課題等も実施する。	
			韓国語Ⅲｉ（総合）		この授業は、2年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が初級～中級レベルの韓国語の４技能（読む・聞く・話す・書く）を駆使して情報収集やプレゼンテーションを行う、実践的なスキルを習得することを到達目標とする。個人またはグループごとにテーマを設定して、文献調査やその他のさまざまな手段で情報を収集し、日本語および韓国語でディスカッションする等のアクティブ・ラーニングを通じて、韓国語力を向上させると同時に、韓国語圏に関する見識を深める。	
			韓国語Ⅳｉ（文法）		（概要）この授業は、2年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が中級レベルの韓国語文法の知識を習得し、体系的な理解を深めることを到達目標とする。中級レベルのテキストを使用し、発音の変化や助詞、用言語尾の活用等を取り上げる。パンマル、受身と使役、直接話法と間接話法等、ざまざまな表現を学習することで、高度な韓国語を理解し使えるようになる。教員による語彙や文法の解説のほか、学生同士のペアやグループワークによる発音練習、理解を深めるための練習問題や、習熟度を確認するための小テスト等も実施する。 （オムニバス方式／全30回） （65　李　東憲／15回） 動詞の活用や新出の文法事項の用法などを解説した後、練習問題を解きながら、新しく学んだ文法事項の定着を図る。 （98　荻野　優子／15回） 中級文法の事項を確実に定着させるために、学習者のつまづきやすいポイントを明示し、自立した学習が可能となる学習態度を育成する。また、学生同士のピアラーニングも行い、実践力を培うことを目指す。	オムニバス方式
			韓国語Ⅳｉ（理解）		この授業は、2年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が中級レベルのリーディングやリスニングのスキルを習得し、韓国語で情報をインプットする能力を高めることを到達目標とする。韓国の映画・美術・建築等に関するエッセイ、ビジネスやテクノロジーに関する記事、公私の様々なシチュエーションでのメール等を取り上げる。教員による文法や語彙の解説のほか、テキストおよび音声の内容に関するクイズや、学生によるプレゼンテーション等も実施する。	
			韓国語Ⅳｉ（表現）		この授業は、2年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が中級レベルのスピーキングやライティングのスキルを習得し、韓国語で情報をアウトプットする能力を高めることを到達目標とする。食べ物や音楽や映画の好みを語り合うための表現、友人や教師との長文メール、日本の社会問題について説明するための応用表現等を取り上げる。教員による発音や語彙の解説のほか、活発な会話を促すためのゲームや、学生によるディスカッション、作文課題等も実施する。	
			韓国語Ⅳｉ（総合）		この授業は、2年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が中級レベルの韓国語の４技能（読む・聞く・話す・書く）を駆使して情報収集や、プレゼンテーションを行い、実践的なスキルを習得することを到達目標とする。個人またはグループごとにテーマを設定して、文献調査やその他のさまざまな手段で情報を収集し、日本語および韓国語でディスカッションする等のアクティブ・ラーニングを通じて、韓国語力を向上させると同時に、韓国語圏に関する見識を深める。	
			韓国語Ⅴｉ（理解）		この授業は、3年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が中級～中上級レベルのリーディングやリスニングのスキルを習得し、韓国語で情報をインプットする能力を高めることを到達目標とする。韓国の時事問題に関する新聞記事や報道番組、エンターテイメントやスポーツに関する評論やインタビュー記事、大衆向けの文学作品等を取り上げる。教員による文法や語彙の解説のほか、テキストおよび音声の内容に関するクイズや、学生によるプレゼンテーション等も実施する。	

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
			韓国語Ｖｉ（表現）		この授業は、3年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が中級～中上級レベルのスピーキングやライティングのスキルを習得し、韓国語で情報をアウトプットする能力を高めることを到達目標とする。留学やビジネスシーンでの口語表現やメール、時事問題について自分の意見を論理的に述べるための表現等を取り上げる。教員による発音や語彙の解説のほか、活発な会話を促すためのゲームや、学生によるディスカッション、作文課題等も実施する。	
			韓国語Ｖｉ（総合）		この授業は、3年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が中級～中上級レベルの韓国語の４技能（読む・書く・聞く・話す）を駆使して研究やプレゼンテーションを行う実践的なスキルを習得することを到達目標とする。個人またはグループごとにテーマを設定して、文献調査やその他のさまざまな手段で情報を収集し、日本語および韓国語でディスカッションする等のアクティブ・ラーニングを通じて、韓国語力を向上させると同時に、韓国語圏に関する見識を深める。	
			韓国語Ⅵｉ（理解）		この授業は、3年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が中上級～上級レベルのリーディングやリスニングのスキルを習得し、韓国語で情報をインプットする能力を高めることを到達目標とする。韓国の政治・経済・社会問題に関する論文や学術的エッセイ、文学作品や文芸評論、上級者向けの歌や映画等を取り上げる。教員による文法や語彙の解説のほか、テキストおよび音声の内容に関するクイズや、学生によるプレゼンテーション等も実施する。	
			韓国語Ⅵｉ（表現）		この授業は、3年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が中上級～上級レベルのスピーキングやライティングのスキルを習得し、韓国語で情報をアウトプットする能力を高めることを到達目標とする。日本や世界の政治・経済・社会問題や、韓国の文学・芸術・歴史等に関する学術的なテーマを取り上げる。教員による発音や語彙の解説のほか、活発な会話を促すためのゲームや、学生によるディスカッション、作文課題等も実施する。	
			韓国語Ⅵｉ（総合）		この授業は、3年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が中上級～上級レベルの韓国語の４技能（読む・書く・聞く・話す）を駆使して研究やプレゼンテーションを行う実践的なスキルを習得することを到達目標とする。個人またはグループごとにテーマを設定して、文献調査やその他のさまざまな手段で情報を収集し、日本語および韓国語でディスカッションする等のアクティブ・ラーニングを通じて、韓国語力を向上させると同時に、韓国語圏に関する見識を深める。	
			海外語学実習（韓国語）		この授業は、韓国語全希望者を対象として、演習形式で実施される。受講生が入門～上級レベルの韓国語各種技能を向上させ、現地での生活や文化に慣れ親しむことを到達目標とする。夏休みに3週間、韓国での韓国語研修プログラムに参加する。事前のレベルテストにより受講生にあったクラス（入門～上級）で学習する。現地での語学実習のほか、事前研修として教員による説明や質疑応答等を複数回行い準備をサポートする。また事後研修として、学生による報告発表会やディスカッション等も実施する。	
			イタリア語Ⅰ（基礎）		この授業は演習形式で実施される。受講生が入門レベルのイタリア語の文法・語彙の知識、発音と簡単な会話表現、およびイタリアの文化・社会に関する基礎知識を習得することを到達目標とする。文法の解説や練習問題のほか、学生同士のペアワークやグループワークを取り入れながら、挨拶、自己紹介、レストランやショッピングでのやり取り等の会話表現の実践的な練習も行う。また、イタリアの歴史・芸術・食文化等に関する情報にも触れ、イタリア語の文化的背景についての理解も深める。	
			イタリア語Ⅱ（文法）		この授業は演習形式で実施される。受講生が初級レベルのイタリア語の文法の知識を習得することを到達目標とする。規則活用動詞と不規則活用動詞、直接目的語・間接目的語代名詞、近過去、半過去、再帰動詞、比較級、命令法、未来形等の事項を取り上げる。教員による文法解説のほか、理解を深めるための練習問題や、習熟度を確認するための小テスト等も実施する。また、イタリアの歴史・芸術・食文化等に関する情報にも触れ、イタリア語の文化的背景についての理解も深める。	
			イタリア語Ⅱ（理解）		この授業は演習形式で実施される。受講生が初級レベルのイタリア語のリーディングやリスニングのスキルを習得することを到達目標とする。挨拶や自己紹介のダイアローグ、レストランやショッピングでのダイアローグ、イタリアの生活習慣や食文化に関する短い説明文、友人との簡単なメール等を取り上げる。文法や語彙の解説のほか、テキストの内容に関するクイズや、学生によるプレゼンテーション等も実施する。また、イタリアの歴史・芸術・食文化等に関する情報にも触れ、イタリア語の文化的背景についての理解も深める。	
			イタリア語Ⅲ（理解）		この授業は演習形式で実施される。受講生が初級～中級レベルのイタリア語の文法の知識とリーディングやリスニングのスキルを習得することを到達目標とする。イタリアの観光地や世界遺産、音楽やスポーツやファッション等に関する説明文、童謡や簡単な流行歌、やや長めの私的なメール等を取り上げる。教員による文法や語彙の解説のほか、テキストの内容に関するクイズや、学生によるプレゼンテーション等も実施する。また、イタリアの歴史・芸術・食文化等に関する情報にも触れ、イタリア語の文化的背景についての理解も深める。	
			イタリア語Ⅲ（表現）		この授業は演習形式で実施される。受講生が初級～中級レベルのイタリア語のスピーキングやライティングのスキルを習得することを到達目標とする。家族や学校や趣味やアルバイトの話題、レストランやショッピングや旅行で使える基本表現と応用表現、日本文化を紹介するための表現等を取り上げる。教員による発音や語彙の解説のほか、活発な会話を促すためのゲームや、学生によるディスカッション等も実施する。また、イタリアの歴史・芸術・食文化等に関する情報にも触れ、イタリア語の文化的背景についての理解も深める。	
			イタリア語Ⅳ（理解）		この授業は演習形式で実施される。受講生が中級レベルのイタリア語のリーディングやリスニングのスキルを習得することを到達目標とする。イタリアの美術・建築・映画等に関するエッセイ、ビジネスやテクノロジーに関する論説記事、公私の様々なシチュエーションでのメール等を取り上げる。教員による文法や語彙の解説のほか、テキストの内容に関するクイズや、学生によるプレゼンテーションや等も実施する。また、イタリアの歴史・芸術・食文化等に関する情報にも触れ、イタリア語の文化的背景についての理解も深める。	
			イタリア語Ⅳ（表現）		この授業は演習形式で実施される。受講生が中級レベルのイタリア語のスピーキングやライティングのスキルを習得することを到達目標とする。食べ物や音楽や映画の好みを語り合うための表現、友人や教師との長文メール、社会問題について意見を述べるための表現を取り上げる。教員による発音や語彙の解説のほか、活発な会話を促すためのゲームや、学生によるプレゼンテーションやディスカッション等も実施する。また、イタリアの歴史・芸術・食文化等に関する情報にも触れ、イタリア語の文化的背景についての理解も深める。	
			ラテン語Ⅰ（文法）		この授業では、古代ローマ時代から近世まで使用され、現代の欧州諸語や学問・文化・キリスト教に多大な影響を及ぼしてきたラテン語の基礎を学ぶ。受講生がこの言語の概要を理解し、入門レベルの文法の知識を習得することを到達目標とする。文字・発音・語順、動詞の現在形・未完了過去形・未来形、第1～第3変化名詞、第1・第2変化形容詞等の事項を取り上げる。教員による文法解説のほか、理解を深めるための練習問題や、習熟度を確認するための小テスト等も実施する。	
全学教養教育	共通科目	語学科目				

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
全学教養教育	共通科目	語学科目	ラテン語Ⅱ（文法）		この授業では、「ラテン語 I」に引き続き、ラテン語の基礎を学ぶ。受講生がこの言語の文化的背景を理解しながら、初級レベルの文法の知識を習得することを到達目標とする。動詞（接続法まで）、名詞（第5変化まで）、形容詞（第3変化）のほか、命令形、比較級・最上級、関係代名詞、受動文、分詞、動名詞、間接話法、条件文等の事項を取り上げる。教員による文法解説のほか、理解を深めるための練習問題や、習熟度を確認するための小テスト等も実施する。	
			ラテン語Ⅲ（読む）		この授業では、「ラテン語 I・II」で習得した文法知識と、この授業で新たに習得する文法知識を用いて、『新約聖書』（ラテン語訳）やその他の古典的なテキストを講読する。受講生がこの言語の文化的背景を理解しながら、初級～中級レベルの読解力を習得することを到達目標とする。主として『ヨハネによる福音書』や『カルミナ・ブラーナ』等の一部を取り上げる。教員による文法や語彙の解説のほか、テキストの内容に関するクイズや、学生によるプレゼンテーションやディスカッション等も実施する。	隔年
			ラテン語Ⅳ（読む）		この授業では、「ラテン語 I～III」で習得した文法知識と、この授業で新たに習得する文法知識を用いて、『新約聖書』（ラテン語訳）やその他の古典的なテキストを講読する。受講生がこの言語の文化的背景を理解しながら、中級レベルの読解力を習得することを到達目標とする。主として『ルカによる福音書』や『ガリア戦記』等の一部を取り上げ、正確な音読や日本語訳の練習を重ねる。教員による文法や語彙の解説のほか、テキストの内容に関するクイズや、学生によるプレゼンテーションやディスカッション等も実施する。	隔年
			古典ギリシア語Ⅰ（文法）		この授業では、欧州の学問や文化の源流である古代ギリシア文明の言語であり、また『新約聖書』の言語でもある古典ギリシア語の基礎を学ぶ。受講生がこの言語の概要を理解し、入門レベルの文法の知識を習得することを到達目標とする。書き方と読み方の基礎、動詞変化の基礎（現在直説法能動相、未来直説法能動相、未完了過去直説法能動相）、名詞変化の基礎（第1変化、第2変化）等の事項を取り上げる。教員による文法解説のほか、理解を深めるための練習問題や、習熟度を確認するための小テスト等も実施する。	隔年
			古典ギリシア語Ⅱ（文法）		この授業では、「古典ギリシア語 I」に引き続き、古典ギリシア語の基礎を学ぶ。受講生がこの言語の文化的背景を理解しながら、初級レベルの文法の知識を習得することを到達目標とする。アオリスト直説法能動相、現在完了・過去完了直説法能動相、各種の代名詞の用法と格変化、不規則動詞（eimi, phemi）の用法、直説法中動相・受動相の動詞活用等の事項を取り上げる。教員による文法解説のほか、理解を深めるための練習問題や、習熟度を確認するための小テスト等も実施する。	隔年
			古典ギリシア語Ⅲ（読む）		この授業では、「古典ギリシア語 I・II」で習得した文法知識と、この授業で新たに習得する文法知識を用いて、『新約聖書』のテキストを講読する。受講生がこの言語の文化的背景を理解しながら、初級～中級レベルの読解力を習得することを到達目標とする。『フィリピ人への手紙』、『マタイによる福音書』、『ヨハネによる福音書』等の一部をテキストとして取り上げる。教員による文法や語彙の解説のほか、テキストの内容に関するクイズや、学生によるプレゼンテーションやディスカッション等も実施する。	隔年
			古典ギリシア語Ⅳ（読む）		この授業では、「古典ギリシア語 I～III」で習得した文法知識と、この授業で新たに習得する文法知識を用いて、『新約聖書』のテキストを講読する。受講生がこの言語の文化的背景を理解しながら、中級レベルの読解力を習得することを到達目標とする。主として『ルカによる福音書』の一部をテキストとして取り上げ、正確な音読や日本語訳の練習を重ねる。教員による文法や語彙の解説のほか、テキストの内容に関するクイズや、学生によるプレゼンテーションやディスカッション等も実施する。	隔年
			日本語Ⅰ		日本語を学びたいと考える人々は世界中で年々増え続けている。その人々に日本語を教えるためには、日本語が話せる、学校文法を知っているだけでは不十分で、普段何気なく使用している日本語を意識的に捉え直し、客観的に説明できるようにする必要がある。そこで、この授業科目では、日本語を客観的に考察し、どのようなしくみで語や文が作られているのかなど、詳細な分析を行う経験を積み、日本語の音、語や文のしくみなどを客観的に捉える視点を獲得することを目的とする。日本語の発音、文字のしくみと成り立ち、名詞や動詞の語形成、談話分析、敬語などの日本語を分析する上での初歩的なテーマを中心に取り上げて理解を深めていく。	
			日本語Ⅱ		自然に習得し、これまで使用してきた日本語を意識的に捉え直し、客観的に説明できるようにするために開講されている「日本語Ⅰ」の応用編がこの授業の位置づけである。日本語学習者が発音しにくい音、アクセントの地域差、世界の言語と日本語、借用語、助詞の役割、動詞の活用と種類などのテーマを中心に取り上げ、日本語のしくみへの理解を深めていくことを目的とする。多くの受講生にとっての母語である日本語に対して、その体系や特徴を客観的に捉える視点を身につけることは、日本語学習者への日本語指導の際に役立つことはもちろん、諸外国の言語を新たに学習する際に比較の視点をもちながら学ぶことができ、よりよい学習に繋がる。	
	ＰＡ（パフォーミングアーツ）		ＰＡヴォーカル		歌唱の基本として、姿勢（体幹）、表情をベースにノンバーバルコミュニケーション力を修得し、「声」の特色である「高低・大小・早さ・間・音質」を根拠に楽譜から内面を捉える力も身につける。更に発声法を学ぶだけではなく、身体の共鳴箇所により内容伝達に差異が生じることを認識し、歌唱表現の完成を目指すことは勿論、日常においての表現力向上も目指す。呼吸法においては血流、脳内分泌の向上が顕著に現れることから学習意欲にも確実に影響を及ぼす。そして歌唱表現は言語、歴史、文化を学ぶことになるため、多岐に渡る知識実践にも繋がり、個人的に反復指導を受ける効果は大いに期待される。	
			ＰＡ鍵盤楽器		鍵盤楽器演奏法の基礎として、楽譜の読み方、指の使い方をなど学び、経験者でも気付かないポイントを個々に指摘指導し、西洋音楽を体験、実践する。各作曲家の言語から表出される表現、歴史、文化を学ぶことになるため、多岐に渡る知識実践にも繋がる。身体表現運動は血流、脳内分泌の向上が顕著に現れることから学習意欲にも確実に影響を及ぼす。そして内容表現、鍵盤に対する繊細な指のタッチによる音色の変化を追求することは、表現力、感性の育成だけではなく、自己肯定感、問題解決能力（ＰＢＬ）を養い、個人的に反復指導を受ける効果は大いに期待される。	
			ＰＡ弦楽器		弦楽器演奏法の基礎として、楽譜の読み方、指の使い方をなど学び、経験者でも気付かないポイントを個々に指摘指導し、西洋音楽を体験、実践する。各作曲家の言語から表出される表現、歴史、文化を学ぶことになるため、多岐に渡る知識実践にも繋がる。表現運動は血流、脳内分泌の向上が顕著に現れることから学習意欲にも確実に影響を及ぼす。そして内容表現、弦に対する繊細な弓のタッチによる音色の変化を追求することは、表現力、感性の育成だけではなく、自己肯定感、問題解決能力（ＰＢＬ）を養い、個人的に反復指導を受ける効果は大いに期待される。	

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
全学教養教育	ＰＡ（パフォーミングアーツ）	ＰＡ管楽器		管楽器演奏法の基礎として、楽譜の読み方、指の使い方をなど学び、経験者でも気付かないポイントを個々に指摘指導し、西洋音楽を体験、実践する。各作曲家の言語から表出される表現、歴史、文化を学ぶことになるため、多岐に渡る知識実践にも繋がる。呼吸法においては血流、脳内分泌の向上が顕著に現れることから学習意欲にも確実に影響を及ぼす。そして内容表現、マウスピースコントロールによる音色の変化を追求することは、表現力、感性の育成だけではなく、自己肯定感、問題解決能力（ＰＢＬ）を養い、個人的に反復指導を受ける効果は大いに期待される。	
		ＰＡ打楽器		打楽器演奏法の基礎として、楽譜の読み方、腕の使い方（脱力、重心）をなど学び、経験者でも気付かないポイントを個々に指摘指導し、西洋音楽を体験、実践する。各作曲家の言語から表出される表現、歴史、文化を学ぶことになるため、多岐に渡る知識実践にも繋がる。身体リズム表現運動は血流、脳内分泌の向上が顕著に現れることから学習意欲にも確実に影響を及ぼす。そして内容表現、音色の変化を追求することは、表現力、感性の育成だけではなく、自己肯定感、問題解決能力（ＰＢＬ）を養い、個人的に反復指導を受ける効果は大いに期待される。	
		ＰＡ制作		音楽制作の基礎として、作編曲の基礎とこれに関連する分野の知識実践を学び、楽譜の読み方から始めることから、経験者までポイントを個々に指摘指導し、音楽制作を体験、実践する。想像力を求められることから表現、歴史、文化を学ぶことになるため、多岐に渡る知識実践にも繋がる。そして内容表現、音形、音色の変化を追求することは、表現力、感性の育成だけではなく、自己肯定感、問題解決能力（ＰＢＬ）を養うことから学習意欲にも確実に影響を及ぼし他の多くの授業科目に好影響を与える。	
		ＰＡアンサンブル１		小編成のアンサンブルを各楽器演奏法の基礎も学びつつ、楽譜の読み方から始める未経験者だけでなく経験者にポイントを個々に指摘指導し、西洋音楽を体験、実践する。各作曲家の言語から表出される表現、歴史、文化を学ぶことになるため、多岐に渡る知識実践にも繋がる。身体表現運動は血流、脳内分泌の向上が顕著に現れることから学習意欲にも確実に影響を及ぼす。そして内容表現、音色の変化など、ディスカッションにより追求することは、表現力、感性の育成だけではなく、自己肯定感、問題解決能力（ＰＢＬ）、コミュニケーション能力を養い、更に個人的に反復指導を受けることにより、これらの技術向上効果は大いに期待される。	
		ＰＡアンサンブル２		中編成のアンサンブルを各楽器演奏法の基礎も学びつつ、楽譜の読み方から始める未経験者だけでなく経験者にポイントを個々に指摘指導し、西洋音楽を体験、実践する。各作曲家の言語から表出される表現、歴史、文化を学ぶことになるため、多岐に渡る知識実践にも繋がる。身体表現運動は血流、脳内分泌の向上が顕著に現れることから学習意欲にも確実に影響を及ぼす。そして内容表現、音色の変化など、ディスカッションにより追求することは、表現力、感性の育成だけではなく、自己肯定感、問題解決能力（ＰＢＬ）、コミュニケーション能力を養い、更に個人的に反復指導を受けることにより、これらの技術向上効果は大いに期待される。	
		ＰＡ舞台芸術１		声や身体アンサンブルの基礎を学びつつ、未経験者だけでなく経験者までポイントを個々に指摘指導し、西洋音楽、表現を体験、実践する。各作曲家の言語から表出される表現、歴史、文化を学ぶことになるため、多岐に渡る知識実践にも繋がる。身体表現運動は血流、脳内分泌の向上が顕著に現れることから学習意欲にも確実に影響を及ぼす。そして内容表現など、ディスカッションにより追求することは、表現力、感性の育成だけではなく、自己肯定感、問題解決能力（ＰＢＬ）、社会活動で即実践できるコミュニケーション能力を養い、更に個人的に反復指導を受けることにより、これらの技術向上効果は大いに期待される。	
		ＰＡ舞台芸術２		身体表現、アンサンブルの基礎を学びつつ、基礎が確実に実行可能となるポイントを個々に指摘指導し、西洋音楽、表現を体験、実践する。各作曲家の言語から表出される表現、歴史、文化を学ぶことになるため、多岐に渡る知識実践にも繋がる。身体表現運動は血流、脳内分泌の向上が顕著に現れることから学習意欲にも確実に影響を及ぼす。そして内容表現など、ディスカッションにより追求することは、表現力、感性の育成だけではなく、自己肯定感、問題解決能力（ＰＢＬ）、社会活動で即実践できるコミュニケーション能力を養い、更に個人的に反復指導を受けることにより、これらの技術向上効果は大いに期待される。	
		ＰＡ舞台芸術３		身体表現、アンサンブルの基礎を学びつつ、難易度の高い身体表現もチャレンジを促し、ポイントを個々に指摘指導し、西洋音楽、表現を体験、実践する。各作曲家の言語から表出される表現、歴史、文化を学ぶことになるため、多岐に渡る知識実践にも繋がる。身体表現運動は血流、脳内分泌の向上が顕著に現れることから学習意欲にも確実に影響を及ぼす。そして内容表現など、ディスカッションにより追求することは、表現力、感性の育成だけではなく、自己肯定感、問題解決能力（ＰＢＬ）、社会活動で即実践できるコミュニケーション能力を養い、更に個人的に反復指導を受けることにより、これらの技術向上効果は大いに期待される。	
	日本語科目及び日本事情に関する科目	大学で学ぶ日本語Ⅰ		大学に入学して留学生がまず直面するのはアカデミックな日本語に不慣れなことである。日本語能力は比較的高くても、大学での専門的な授業を理解し、コメントシートやレポートなどの課題提出に困難を抱えるケースが多く見られる。そこで、この授業では、アカデミックな日本語のリスニング、ライティングのスキルの向上を目的とする。講義内容や発表のポイントを正確に聞き取り、日本語でノートを整理する練習や、グラフや表を表現するための日本語を習得し、適切に発表できるようにする練習、自分の意見をまとめる練習、アカデミックなレポートを作成する練習などを行う。これらを通じて、アカデミックな日本語能力の獲得に繋げていく。	
		大学で学ぶ日本語Ⅱ		全体的に日本語能力は高いが、学生によっては技能別で得意・不得意があり、特定の日本語能力の向上がうまく行えていない場合も見受けられる。この授業では、個々の学生の学習状況を踏まえ、テキストを使用したり、グループ活動を行ったりしながら、「読む」、「書く」、「聞く」、「話す」の４技能をバランスよく伸ばすことを目的とする。また、日本語能力試験Ｎ１相当の文法や語彙も取り上げ、文法項目を活かした文章作成の練習なども取り入れ、総合的に高度な日本語運用能力を身につける。	
		日本事情Ａ		多くの留学生は、日本に居住していながらも、日本人と日本語を用いて活動を共にする経験が少ないというのが現状である。そこで、この授業では、留学生と日本人学生によるグループ活動を取り入れながら授業を展開していく。日本に関わる文献から、日本の社会や文化、歴史などを理解し、フィールドワーク等を行うことで具体化を図る。また、学修内容についてのディスカッションや、プレゼンテーションを行うことで、日本語の運用の能力を向上させる。	

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
全学教養教育	日本語科目及び日本事情に関する科目	日本事情Ｂ		多くの留学生は、日本に居住していながらも、日本人と日本語を用いて活動を共にする経験が少ないというのが現状である。そのため、この授業では、留学生と日本人学生との混合グループで行い、日本社会や日本文化の理解を深め、課題や問題を発見し、考察した内容をプレゼンテーションで発表することで、交渉力や協調性を養い、他者理解や自己理解を深めるものである。また、総合的に日本語運用能力を向上させていくことも目的としている。	
学科専門科目	国際社会基礎科目	学科の学び	○	（概要）これから学科で学んでいくための初歩的なスキルを修得し、学問の面白さ、将来のキャリア等をイメージするための新入生対象の授業である。国際社会学科で学修できる専門科目の魅力について専任教員がオムニバス形式で講義を行う。受講生には、この講義を活用して学科の専門科目の内容を把握することが期待される。この授業科目を通して、学科での学修のイメージや4年間の学修プランを作り上げることができる。 （オムニバス方式／全15回） （1　荒井　真／１回） 法と人権の関係について理論と実践から検討し、また環境法を学ぶ意義について講義する。 （2　泉谷　陽子／１回） 中国の映画を題材に中国の歴史や社会を考察し、国際関係史を学ぶ意義について講義する。 （3　上原　良子／１回） EU経済を中心とした地域経済を概観することで、地域研究の魅力とそれを学ぶ意義について講義する。 （4　梅﨑　透／１回） 現代アメリカ合衆国の社会・文化・思想の特徴を概説し、歴史を学ぶ意義について講義する。 （6　齊藤　直／１回） 経営史の観点から日本経済をめぐる最近の動向を概観し、日本経営史を学ぶ意義について講義する。 （7　佐藤　輝／１回） グローバルな環境問題に取り組む本学学生の取り組みを事例として考察し、国際環境協力の理論と実践について講義する。 （8　新城　道彦／１回） 歴史学が取り扱う対象について東アジアや韓国を事例に説明し、歴史学の魅力や奥深さを講義する。 （9　杉之原　真子／１回） グローバル経済をめぐる国際協調に関する理論と実践を概観し、国際政治経済学の役割とそれを学ぶ意義について講義する。 （16　空　由佳子／１回） ヨーロッパ社会史の視座を概観し、地球と人間社会のつながりについて講義する。 （17　高雄　綾子／１回） ドイツのエコ・ハイスクールなどの取り組みを事例に、持続可能な開発における教育の役割について講義する。 （10　高柳　彰夫／１回） 持続可能な開発目標（SDGs）の成立過程や最新動向を概説し、国際開発問題を分析・研究することの意義について講義する。 （18　徳田　信／１回） グローバル化がキリスト教に与えた影響を考察することで、現代社会においてキリスト教を学ぶ意義について講義する。 （12　二木　真／１回） 国際ビジネスの最新動向や日本企業の対応を解説し、経営を理論と実践から検討することの意義について講義する。 （14　Benjamin D. MIDDLETON／１回） 観光に関する現状と課題を概説し、それらを社会学の視点から考察することの意義について講義する。 （15　矢野　久美子・19　渡邉　弘己／１回）（共同） 知識人という視点から現代思想のあり方を検討し、政治思想を学ぶ現代的意義について講義する。また、社会的なできごとや現象に関するデータの読み方を概説し、データのとらえ方・考え方を講義する。	オムニバス方式・共同（一部） 主要授業科目

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
学科専門科目	国際社会基礎科目	国際学への招待	○	（概要）この授業科目では、現代グローバル社会におけるさまざまな現象を理解するための学問である国際学の視点から、主に国際関係、国際ビジネス・観光、環境政策・環境経済の分野について、初歩的な知識や概念を学び、国際学の全体像や奥深さを理解する。異なる学問領域から計3名の教員がオムニバス形式で講義を行い、それぞれの学問の概要を説明した上で、各教員の専門を活かした内容にも触れていく。この授業科目を通して、学科の専門分野を理解でき、2年次以降の学修プランを作ることができるようになる。 （オムニバス方式／全15回） （13　古内　洋平／5回） 国際関係を理解するための初歩的な考え方や基礎概念を説明し、国家の行動原理、国際組織や国際制度の仕組みについて講義する。 （5　袁　媛／5回） 経済学および国際経済学の初歩的な考え方や基礎概念を説明し、国際ビジネスの前提となる経済の成り立ちや基本的仕組みについて講義する。 （11　知足　章宏／5回） 環境問題を政策的・経済的な視点から見ることの重要性を説明し、環境保護に関する各国の政策および国際協力の現状と課題について講義する。	オムニバス方式 主要授業科目
		導入ゼミ	○	この科目は、大学での学びを自分自身の自由な選択と責任によって進めるために必要となる知識や技能を身につけることを目的として、全新入生が1年次前期に履修する演習科目である。図書館等における資料検索の方法、PC・ICTに関するリテラシー、プレゼンテーション資料作成や発表の方法、レポートや論文等の文章作成のための基礎知識、就学と同時進行的なキャリア形成に向けての意識など、大学生活の充実のために必要な知識やスキルを理解・体得する。	主要授業科目
		基礎ゼミ	○	この授業科目では、国際社会における多様な問題について知るとともに、そうした問題を研究していく基礎的な手法を身に付ける。各担当教員の専門分野に関わる具体的なテーマを設定し、演習形式で、文献購読・研究発表・ディスカッション・ディベート・グループワーク・レポート作成などを行う。授業科目の目的は、3年次以降に所属する専門ゼミの選択と卒業論文作成へ向け、知識の幅を広げ、アカデミックな学び方を修得することである。	主要授業科目
	国際社会基幹科目	国際協力入門	○	この授業科目は、グローバルな諸課題（開発と貧困、人権、ジェンダー、地球環境など）についての理解を深め、それらの課題における国際協力を考えることを目的とする。それぞれの課題の現状や背景、相互の関連性について、国連の持続可能な開発目標(SDGs）とその理念である人権ベース、誰一人取り残さないといった理念を踏まえつつ、またSDGsの実施状況も考慮しながら検討し、今後の課題を考察する。また主権国家、国際機関、市民社会組織など多様なアクターによる取り組みを紹介する。	主要授業科目
		国際政治入門	○	この授業科目では、近年の国際情勢に関する複数の時事問題を入口に、入門的な国際政治理論の概要と使い方を学ぶ。対象となる時事問題は2000年代以降のものとする。講義では、時事問題の概要を解説した後、複数の国際政治理論の主要概念を使ってそれぞれの時事問題を整理する。この講義を通して、異なる理論を適用すれば現実を多面的に分析できることを理解できるようになり、理論や概念を実際の時事問題に適用できるようになる。また、国際情勢に関する情報収集や分析ができるようになることもこの講義の目的である。	主要授業科目
		国際政治経済入門	○	この授業科目では、経済・社会のグローバル化が深まる中で、国際経済の安定と発展のために国家はどのような役割を果たすべきかを考察する。講義を通じて、主に第2次大戦後の国際経済の歩みを概観しながら、国際政治経済に関わるどのような問題が存在するのか、それらを解決すべく政治的にどのような試みがなされてきたのかを学ぶ。取り上げるテーマは、貿易・金融・投資・経済発展などである。また、国際政治経済学の基本的な理論を用いて、国際経済の現実を多角的に理解することができるようになる。	主要授業科目
		政治思想入門		この授業では、政治過程や政治現象を理解するための基礎として、政治哲学と政治思想の鍵概念について学ぶ。対象として、ヨーロッパ古代の民主主義、近代の政体論や市民社会像、革命論、20世紀の全体主義論をあつかう。講義ではこれらが生まれた背景としての出来事を解説した上で、現代のフェミニズムや共生の思想、国際政治の文脈からそれらがもつ意味を考察する。この講義を通して、政治思想の基礎的な語彙を日常感覚において使用することができるようになる。また、現代世界の国際的な出来事や政治的争点を理解するための基礎的な思考力を身につけることも、この講義の目的である。	
		政治学概論		この科目では現代政治学の基礎的な内容を学ぶ。授業では、日本の政治が抱えるさまざまな問題を題材に、政治学の基本的な理論や概念を使って日本政治を概説したあと、日本の政治を他国と比較して理解できる視点を提供する。具体的には、政府や政治家の基本的な機能や活動について概説し、政治学の重要概念である自由と権力について具体例を用いながら検討する。さらに、新たな政治参加の仕組み等の最新の政治動向にも触れる。講義を通じて、政治学で何が問題とされてきたのかを理解でき、政治を動かす具体的な仕組み・プロセス（特に日本について）を説明できるようになる。	
		経済学入門（マクロ）	○	この授業科目では、マクロ経済指標の読み方、一国全体の経済活動の測定、経済成長や経済変動の要因、需要と供給の関係など、マクロ経済学のもっとも基礎的な理論について講義を行う。マクロ経済学は、一国の経済全体（マクロ経済）の動きがどのように決まるのかを分析する学問分野である。マクロ経済学の基礎的な概念や、基本となる分析の枠組みを知ることで、GDP、物価、雇用など経済に関わるニュースを理解し、説明できるようになる。	主要授業科目
		経済学入門（ミクロ）	○	この授業科目では、需要と供給を中心にミクロ経済学の基礎的概念と枠組みを現実の経済問題と合わせて学ぶ。具体的には、基本的競争モデル、市場均衡、需要曲線、供給曲線、政府の市場介入を扱う。ミクロ経済学は、個人や企業の行動や意思決定から出発して、誰が何をどれだけ生産・消費するのか、その決定に市場価格のメカニズムがどのような役割を果たすのかを分析する。この授業科目を通じて、ミクロ経済学の基本的な考え方を理解し、それを用いて現実の消費者行動や企業行動を論理的に考えることができるようになる。	主要授業科目
		日本経済入門	○	この授業科目では、今日の日本経済が抱える多くの課題について、毎回1つのテーマを取り上げる形で学ぶ。具体的には、(1)経済成長率の低さ、(2)労働・雇用面の問題、(3)産業の競争力の低さ、(4)財政赤字の深刻化、(5)社会保障の維持可能性、(6)国際経済に関する問題、(7)経済政策の動向などを取り上げ、それらの問題についての基本的な情報を提示したうえで、どのような対応をすべきかを考えてもらう。これにより、日本経済の現状について基本的な理解をひととおり得るとともに、経済現象を自分なりに考える姿勢を身に付ける。	主要授業科目

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
学科専門科目	国際社会基幹科目	国際ビジネス入門	○	この授業科目では、国際経営論の入門として、企業が展開する国際的なビジネスについて理解するために必要になる、経営学および実際の企業経営の基礎を学ぶ。授業では、マーケティング、人的資源管理、研究開発といった企業のさまざまな活動を考察し、企業の海外展開の歴史と現状、現代の企業が直面する諸課題およびそのマネジメント、最新のビジネスのトレンド等について講義する。この授業科目を通じて、グローバル時代における企業経営の基礎を理解し、国際ビジネス関連科目への基礎的理解を身につけることを目的とする。	主要授業科目
		グローバル経済史入門		本講義では、経済の歴史をグローバルな展開から考察することを通じて、国境を越えて展開する経済の多様なあり方を理解する。20世紀を中心に地域レベルでの歴史を踏まえた上で、国家のみならず、人や企業、国際機関など多層的な交流の展開や、国際システムの諸相と変容等を分類し、整理する。これを基礎として、貿易・金融・人の移動・資源・エネルギー、アジア・アフリカの開発等、今日の世界が直面する多様なグローバルな問題の歴史的背景と構造を理解することを目的としている。これにより地球レベルでの経済交流を起点に政治・社会・文化等におよぶ今日のグローバル化のあり方とメカニズムを立体的かつ多面的に考察できるようになる。	
		社会データ分析入門		ビジネスの現場において、適切な方法でデータを分析し、正しく読み取る能力は多くの場面で求められる。そこで、この授業科目では手元にあるデータを分かりやすくまとめるための記述統計学と代表的な確率分布および区間推定や仮説検定等の推測統計学の基礎について教授する。また、特徴的なデータや実データをExcel等のソフトを用いて分析することで、各種分析手法の長所、短所を理解するとともに、統計学が社会のデータの分析に役立っていることを実感してもらい、実際に簡単なデータ分析が出来るようになることを目的とする。	
		観光学入門		観光（ツーリズム）は、世界的に巨大な産業となり、経済的な効果のみならず、社会にも劇的な影響を与えている。講義では、主に社会学の方法論を用いて、観光の影響が就労機会や雇用形態、文化の再生や価値観の創造など幅広い領域に及んできること、観光がグローバル化を加速させる要因となってきたことを学ぶ。また、コロナ禍により観光産業は急に歯止めが掛かったが、その迅速な回復が世界各地の経済的社会的回復に繋がる様相も見る。この講義を通して、観光学の基礎を習得し、ツーリズムの経済・社会への影響を理解できるようになる。	
		社会学概論Ａ		この授業科目では、社会学の基本的な考え方を学ぶ。授業では、社会学の主流的な方法論を概説し、現代社会の変貌過程を多角的に検討する。また、近年の社会現象を視野に入れながら、具体的で身近な事例から個人と社会、グローバル化と近代化、日米英豪といった先進国における社会階層と格差の現状、そして犯罪と逸脱について学び、現代社会の仕組みを考える。講義を通して、社会学の基礎的な考え方を理解でき、身近な社会現象と現代社会の諸相を多角的に考察する力を身に付ける。	
		社会学概論Ｂ		この授業科目では、社会学の基本的な知識を学ぶ。授業では、マクロ社会学的なアプローチを概説したあと、日本とオーストラリアとアメリカといった先進国に焦点を当てながら、各国の人口動態を理論的に説明し、また都市のあり方とツーリズム（観光）を具体的事例として取り上げる。講義を通して、現代社会におけるさまざまな問題を発見し、それについて考えていくための思考を身につける。また、近現代の社会変貌をグローバルなコンテクストで位置付けることができるようになる。	
		環境学入門	○	この講義科目の到達目標は、地球環境問題として重要なテーマである気候変動、熱帯林破壊、沙漠化、水環境汚染、野生生物の絶滅、食料生産に伴う環境破壊などの現状に関して基本的なキーワードを用いて説明し、適切な対策を模索できるようになることである。特に1992年の「地球サミット」以降の国際条約等の動向を取りあげ、さまざまな被害や予測の資料のポイントを解説する。関連する動画も視聴しながら、世界的に広がる環境問題の原因と課題を検証する。これらを通じて、物質循環の完結に向けた政策、消費、産業の３つの側面の長期的な社会変革が必要であることを学ぶ。	主要授業科目
		環境経済学入門	○	この授業科目では、環境経済学、環境政策、環境と開発について入門的な理論や具体的な事例をもとに学ぶ。日本の高度成長期の公害、現代の環境問題、グローバルな環境問題を取り上げる。講義前半では、環境と経済との関係、経済成長と環境問題、環境経済学の基本的な理論、環境政策の展開と課題などを解説する。後半は、エネルギー、交通、廃棄物など具体的な環境問題を取り上げ、経済との関係や政策課題を解説する。この講義を通して、環境と経済、開発をめぐる構造的課題を理解し、改善に向けた諸課題や方法を分析するための基礎を身につけることを目的とする。	主要授業科目
		地域環境入門	○	この授業では、地域社会で人間が環境に及ぼしてきた影響の変遷を踏まえ、自然の循環の範囲で持続可能な地域社会を実現する方法や可能性について学ぶ。対象として、近代以降の工業化に対し、地域固有の自然条件の維持を目的に展開されてきた自然保護活動や環境保全論を扱う。講義では、これらが経済発展と人間の暮らしの関係を再構築することで持続可能な地域発展につながってきたことを解説し、現在の視点から自分や他者の認識を理解し共有する。これにより、未来に向けた具体的な地域発展のあり方を考察し、議論のうえ合意形成するプロセスを学ぶ。	主要授業科目
		法学概論	○	大学に入って初めて法学に触れる受講生に対して、法学という学問の概要を示し、理解できるようにすることがこの科目の目的である。この科目では、まず六法（憲法・民法・商法・民事訴訟法・刑法・刑事訴訟法）とは何かという基本的な事項を学び、その後、日常生活と深く関係する分野の法律を題材として、私たちと法律の関係を説明していく。さらに、日本の裁判制度の概要および弁護士・検察官・裁判官等の諸法曹にも触れ、法システム全体について理解できるようにする。	主要授業科目
		アメリカ史入門		この授業科目では、グローバル化の進展に大きな影響を与えてきたアメリカ合衆国の発展を時系列で学び、アメリカ社会がどのようにつくられてきたのか、それが世界にどう作用してきたのか学ぶ。講義では、アメリカ大陸が近代世界システムに取り込まれた植民地期から大陸的発展、海外進出を経てグローバル化した現代に至る過程を通史的に理解し、21世紀の世界におけるアメリカの位置を考察する。歴史的文書や映像史料などを活用し、アメリカ社会の発展を立体的に考察する視点を持つことを目標とする。	
		ヨーロッパ史入門		この授業科目では、近年重視されるようになったグローバル・ヒストリーの視座から、ヨーロッパの歴史的諸相について考察する。対象となる時代・地域は15世紀から20世紀までの近現代ヨーロッパとする。講義では、現代的な問いを立てたうえで、ヨーロッパ史の基礎的知識を解説する。この講義を通して、ヨーロッパの近代化、植民地支配、二つの世界大戦に至る歴史的過程を、ヨーロッパと世界の諸地域のつながりから捉えられるようになる。以上を通して、ヨーロッパ中心主義ではなく、地球規模の視座に立った歴史の見方を身につけることを目的とする。	

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
学科専門科目	国際社会基幹科目		アジア史入門		この授業科目では、中国を中心としたアジア諸地域の歴史をテーマごとに概説する。中国は古代文明の発祥地であり、大きな影響力を有してきた。中国の長い歴史を縦軸に人の移動、文化交流、交易、都市化などを切り口とし、アジア域内の交流の様相や時代ごとの特徴、変化などを学ぶ。講義では、重要な歴史的出来事や事象、時代の特徴などを解説したあと、文字資料や画像、映像資料などを用いて、歴史的事象をより深く理解し、具体的に考察していく。アジア地域において歴史的に形成された特質やその変化について基礎的な知識を修得し、各種資料をもとに論理的に思考し説明できるようになることを目的とする。	
			東アジア史入門		この授業科目では、東アジア地域における国や地域の成り立ちや政治的な関係性について学ぶ。対象となる期間と地域は、19世紀から現代までの沖縄、中国、台湾とする。講義では、それぞれの国や地域の成り立ちや文化・社会の特徴を説明したうえで、現代の領土問題や政治的摩擦の根源がどこにあるのかを整理する。この講義を通して、国際情勢を史的に考察し、東アジア地域の時事問題を把握するための基礎知識を修得できる。また、それぞれの国や地域の異なる価値観を理解し、異文化間の対話を促進することもこの講義の目的である。	
	国際社会発展科目	国際関係	国際協力論	○	この科目では、国際開発協力のうち、特にNGO/市民社会組織（CSO)による活動に注目する。南（途上国）北（先進国）の諸団体の開発現場での活動や政策提言活動の活動紹介にとどまらず、南北のNGO/CSOのパートナーシップのあり方、NGO/CSOのアカウンタビリティ、ODA（政府開発援助）機関とのパートナーシップ、市民社会が自由に活動できる空間（市民社会スペース）といった問題を検討しつつ、NGO/CSOの活動の実績を評価するとともに、今後の課題を考える。	主要授業科目
			国際開発論		世界の貧困と開発の諸課題を考えることがこの科目の目的である。まず第二次世界大戦後の国際開発の理論の変遷をおさえたうえで、開発と貧困、開発と教育、開発と保健、開発とジェンダー、開発と地球環境問題（特に気候変動）、開発と民主主義といった問題について、国際開発理論の変化を踏まえながら理論的に検討する。合わせて、これらの諸課題について国連持続可能な開発目標(SDGs)とその達成状況を踏まえながら今後の課題を検討する。	
			開発援助論		この科目では、政府開発援助（ODA)政策について論じる。OECDの開発援助委員会（DAC)加盟国のうち主要な諸国の政策や実際のODAの配分と比較しながら日本のODA政策の特徴を考える。DACの相互評価（ピア・レビュー）を参照しつつ、日本のODA政策が国際的にどのように評価されているのかも検討する。ODAの効果の向上、ジェンダー・気候変動といった諸課題への取り組み、NGO/CSOとのパートナーシップについても最新の政策動向を紹介・検討する。	
			国際政治学	○	国際社会では人権の主流化が唱えられ、国際政治学でも人権分野を学ぶことの重要性が増している。この科目では、世界で起きている人権問題の具体例や人権保護の国際的枠組みを題材に、人権の国際政治的側面を考察する。講義では、国家による人権保障を比較・検討しつつ、人権分野における非国家アクターの活動を考察しながら、国際人権保障の課題と将来を考える。この科目を通して、ローカルな人権問題が国際的課題として認識されるに至る政治過程を理解できるようになり、また人権問題に関する国際比較ができるようになる。	主要授業科目
			平和構築		地域紛争の解決と平和構築は、国際社会における重大な課題である。この授業では、アジア・アフリカ・中東など発展途上地域で発生する武力紛争を対象に、紛争が起きる原因を理論的に検討し、紛争解決のために国際社会やわたしたち個人ができることを考察する。講義では、これまでの紛争研究の成果を使って、貧困、地下資源、政治制度、民族などの視点から紛争原因を説明し、具体的な事例に当てはめていく。講義を通じて、紛争の原因に関する理論やコンセプトを理解し、その理論やコンセプトを実際の紛争ケースに当てはめて説明できるようになる。また、紛争を解決するための政策を提案できる力を身につける。	
			外交政策論		この科目では、日本の外交政策について学ぶ。講義では、領土問題、同盟政策、アジア諸国との関係、経済外交、広報外交など日本外交が直面する諸課題について、その背景や日本の対応、諸外国の反応などを概観する。授業で対象とする諸課題は、1990年代以降のものとする。講義を通じて、「対米追従」というひと言では片づけられない日本外交の多様性を理解できるようになる。また、外交問題の基礎的な用語やコンセプトを理解でき、これまで日本が直面した外交上の重要トピックや出来事について、その背景や動きの変化を説明できるようになる。	
			国際政治経済学		この授業科目では、経済のグローバル化が社会にどのような変化をもたらしたかを学ぶ。生産の国際化、オフショアリング、移民の増大などの実態を知り、それらによって、先進国・途上国のそれぞれで社会構造や労働市場がどのように変わったか、そしてそうした変化がどのような問題を引き起こしているかを理解し、問題の克服へ向けた改善策を考える力を身に付ける。またこの授業科目では、グローバル化が先進国・途上国の女性の生活や労働に及ぼした影響について知ることを特に重視する。	
			比較政治学		この授業科目の目的は、日本および世界各国における政治の仕組みについて、比較を通じて理解を深めつつ、政治学の概念や視点を身に付けることである。政治制度・選挙・政党・マスメディアと政治・女性と政治・民主化といったテーマについて、日本と、先進民主主義国を中心とする世界各国の政治制度や政治行動を比較し、実際に生じている具体的な問題に触れながら、政治に関する知識を習得する。また政治学的な分析方法を学び、政治について自ら考えて判断できる能力を獲得する。	
			アメリカ政治経済論		この授業科目では、アメリカの政治と経済の構造を、時事問題や歴史的な背景に触れながら学ぶ。また、大国アメリカの政治や経済の動向が国際社会に与えている影響についても考察する。講義を通じて、アメリカ政治経済の歴史と現状について基本的な知識を得るとともに、政治学の概念をアメリカの政治や経済政策決定に適用して、経済格差・社会の分断など現在のアメリカ社会が抱える問題について、自ら考え、意見を持つことができるようになる。	
			英語で学ぶ国際関係		この授業科目では、世界および日本の社会や政治、経済、外交などに関する主要な問題を英語で学び、議論する力を身に付ける。戦争、核兵器、移民・難民、少子化、地球温暖化など多岐にわたる題材を取り上げ、それぞれの問題の現状や背景、解決策をめぐってどのような議論が行われているかを学ぶ。この授業科目を通じ、現代の国際社会の問題について英語で情報収集をし、さまざまな角度から考察し、自分の意見を書き、議論することができるようになる。	
			文化の政治学		かつて政治は狭義の政治過程に限定されて理解されていたが、21世紀に入り歴史や社会の具体的現象に即して主題化されてきている。たとえば、社会生活の諸課題を旧来の政治的用語にとどめず「ジェンダー」や「ケア」という視点から見直す作業も定着してきた。この授業では、こうした動向を「文化の政治学」として包括的に表現する。講義では、植民地主義や人種差別、ジェンダー、環境正義といった問題に関して、多様な素材を対象にして学び、最先端のトピックを取り上げて考察する。受講者が政治概念そのものを捉え直し、国際社会で通用する理解力や思考力を身につけること、他者との共生の意味や平和の構想を積極的に言語化することも、この講義の目的である。	

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
学科専門科目	国際社会発展科目	国際関係	現代アメリカ政治思想		この授業科目では、現代アメリカにおける諸問題を、社会政治的な思想や宗教などの文化的背景から考察する。講義では、現代アメリカ社会の分断の象徴とされる中絶、銃規制、アファーマティブアクション、大量収監等の論争的諸問題を、リベラリズムや平等の意味をめぐる思想的対立、構造的人種主義、キリスト教原理主義、反知性主義などの理解を通して学ぶ。アメリカ社会における政治思想の要点を理解するばかりでなく、受講者が自ら資料を探し、分析することで、問題の深層に迫る方法を身につけることを目標とする。	
			国際社会と地域		この授業科目では、世界各地の政治・経済・社会・文化に関わる諸問題、および各国・地域間の関係について学び、基本的な理解を得ることを目指す。具体的なテーマとしては、東アジア、ユーラシア、ラテンアメリカ、イスラーム世界、アフリカといった地域の状況および各地域間の人や物、情報の交流を取り上げる。それぞれのトピックに関する歴史的背景や現在の状況、将来へ向けた課題を知ることを通じて、国際関係を様々な角度から考察し、課題の解決に貢献できる力を身に付ける。	
		国際ビジネス・観光	開発経済学		この授業科目では、開発途上国の現状、経済成長の理論的基礎、経済発展の要因、経済発展の事例という4つの側面から講義を行う。開発途上国に住んでいる人びとと比べると、日本に住んでいる私たちの平均的な生活水準、医療水準がはるかに高いのは、経済発展の賜物である。この授業科目は、開発途上国の現状と課題を知り、経済発展が必要とされる理由、経済発展の達成のために開発途上国の政府が実施しているさまざまな経済政策を理解することを目的とする。	
			国際経済学	○	この授業科目では、講義形式で、グローバル化のただ中にある国際経済に関する課題を理解・考察する。理解を深める意味もあり、基本的な国際経済理論を用いるが、難解な数式は避け、できるだけ現実の社会と結びつけて簡潔に説明する。国際経済を語らずして、もはや国内経済を語ることはできないほど、日本経済は国際経済との繋がりの中で絶えず変化している。この授業科目を通じて、国内外の経済状況を理解し、国際経済理論の基本的な考え方を用いて説明できる力を身に付ける。	主要授業科目
			金融論		この授業科目では、金融の基礎的な知識とそれに関する理論的な解釈について学習し、金融政策と金融危機についても考察する。具体的には、まず金融の重要性、直接金融、間接金融、貨幣と仮想通貨について講義する。次に、日本の金融制度の変遷と経済成長への貢献について説明する。最後に、中央銀行の金融政策、金融危機について考察する。この授業科目の目的は、金融に関する基礎的な知識を習得し、経済の中で重要な役割を果たす金融市場の仕組みと、それにかかわる政策を理解することである。	
			日本経済論		この授業科目では、主に1990年代から最近までの時期を対象として、この時期の日本経済はなぜ長期的な低迷を経験したのか、現在の日本経済はどこへ向かおうとしているのか、といった問題を考える。具体的には、1990年代初頭のバブル崩壊について説明した後、それへの対応の誤りや世界的な経済構造の変化の影響から、日本経済が長期的な低迷に陥っていった経緯を説明する。その際、単に現状そのものを知ることに止まらず、過去からの歴史的文脈の中で現状を理解しようとする姿勢を重視する。それにより、経済の現状をより的確に理解することができる。	
			日本経済史		この授業科目では、主に敗戦から1980年代までの時期を対象として、日本経済がめざましい発展を遂げた背景について学ぶとともに、「日本的」ないし「日本型」と称される経済システムが形成された経緯、発揮した機能、後退に転じた経緯について理解する。具体的には、(1)「日本的」な経済システムが形成された戦後改革期から講義を始め、(2)急速な経済成長が実現した高度経済成長期、(3)経済構造の転換が進んだ1970年代、(4)それに対応して規制緩和などの制度変化が進められた1980年代に時期区分し、基本的な史実を学ぶとともに、それらの現在への影響を考える。	
			日本経営史		この授業科目では、明治期から近年までの日本における企業経営の歴史的変化を概観する。特に、戦後における日本経済の競争力の背景として機能した企業経営のあり方が、どのような歴史的過程を経て成立し、それが近年に至るまでにどのような経緯をたどってきたのかを理解することを目指す。講義の前半の回で、日本企業が国際競争力を高めていく戦前の動向を扱い、後半の回で、日本企業が高い国際競争力を発揮した戦後について扱う。それとともに、近年、日本企業の国際競争力が低下している理由についても考える。	
			日本企業論		この授業科目では、今日における日本企業の経営をめぐる重要な動向について幅広い知識を得ることを目指す。具体的に取りあげるのは、イノベーション、国際競争、コーポレート・ガバナンス、技能形成と雇用形態などに関する動向である。企業経営のあり方は現在進行形で大きく変化していることから、前半の回で基本的な考え方を身に付けたうえで、後半の回では、日本企業の経営をめぐる最新の事例を紹介することを重視する。それにより、現実との関係を強く意識しながら企業経営について捉えることができるようにする。	
			国際ビジネス論	○	日本企業はグローバル競争とライフスタイルの変化の中で転換期を迎えている。この授業科目では、国際的なビジネス環境の変化および主要産業の現状と課題について、代表的な戦略理論と企業実践（ケーススタディ）を通して学ぶ。授業では、日本が直面する産業の環境変化を解説し、経営資源、成長戦略、競争戦略について検討する。さらに、ケーススタディを通じて、競争環境の変化を具体的に考察する。この授業科目を通じて、日本企業を取り巻く環境と課題について、経営戦略の視点から理論的に説明できるようになる。	主要授業科目
			国際経営戦略論		この授業科目では、企業の国際経営戦略に関する理論や概念を理解して、ステークホルダーとの良好な関係を築き、企業の評判を向上させるための経営戦略について学ぶ。授業では、経営戦略の基本的概念や先行研究を説明し、企業が直面する戦略上の課題について具体的実践事例に基づいて概説する。この授業科目を通じて、企業経営に関する基礎的な理論と知識を修得でき、戦略志向の企業活動を構想・実践するための基礎となる考え方を身につけることが目的である。	
			マーケティング論		この授業科目では、企業が現場で直面するマーケティング上の課題に対してどのように取り組めばよいのか、どのような解決策があるのかを学ぶ。授業では、市場動向や消費者行動の変化、商品計画、価格政策、企業の広報活動等に着目し、具体的・代表的な事例を取り上げつつ、マーケティングに関する諸課題について理論・実践の両面からアプローチすることで基本的な理解を深める。講義を通じて、企業のマーケティングの基礎知識を修得し、「話題づくり」から「価値づくり」へと進化する現代マーケティングのミッションを理解できるようになる。	
			観光ビジネス論		この授業科目では、観光のビジネスとしての側面について、経営学の基礎的な理論と知識を通じて学ぶ。授業では、主に日本の観光産業を事例に、観光産業の構造、観光商品や市場の動向、価格戦略、流通戦略、広報戦略といった各種の戦略などを経営戦略的な視点から概説し、観光ビジネスの歴史と現状、および課題と今後の方向性について考え、観光産業の職業の多様性とそこで働くことの意義についても解説する。この授業を通じて、観光産業あるいは観光関連産業の特徴を経営学の視点から説明できるようになる。	

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
学科専門科目	国際社会発展科目	国際ビジネス・観光	社会データ分析		ビジネスで扱うデータは多種多様なデータが存在し、複雑に関係しあっていることも多い。そこで、本授業科目では、複数のデータを用いて要約、予測、分類等をするための方法である多変量解析や、多群間や複数の要因によって有意差を生じるかを判断するための手法である分散分析等について教授する。GUIにより複雑な分析が可能であるSPSSを学び、状況に応じて適切な分析手法を選択する力と、分析結果を適切に読み取る力を身につける。	
			プログラミングとデータの可視化		プログラミングのスキルがあれば、データ分析をより効率的に行うことができ、分析の幅も広がる。そこで、本授業科目では、プログラミングの基礎や考え方、データの種類や状況に応じた可視化・、分析手法について教授する。プログラミングをしながらデータをまとめることで論理的思考力を身につけ、プログラミングによって細かくカスタマイズしながらデータを可視化することで、より分かりやすく、自分の思い通りにデータをまとめられるようになることを目的とする。	
			データ分析設計		実際にデータ分析をする場合は、分析手法だけを理解しても、誤った結論を導いてしまうことが多い。そこで、本授業科目では、データを集める際に生じる可能性のあるバイアスの種類や特徴、バイアスを生じさせないためのデータの集め方、集めたデータを分析できる形式に加工するための前処理の方法、分析結果の活用方法など、データ分析における分析手法以外の部分に焦点を当て、教授する。これによりデータ分析全体の流れを理解し、適切なデータ分析の計画を立てられるようになることを目的とする。	
			日本の経済と経営		この授業科目では、今日の日本経済をめぐる重要な動向について幅広く取り上げ、基本的な理解を得ることを目指す。具体的に取りあげるのは、企業組織の変化、産業構造の変化、流通システムの革新、会計制度と企業財務、地域経済が抱える問題と地域振興の動向などである。また、受講者が自らデータを利用した分析を行う機会を提供することを重視する。経済のあり方は現在進行形で大きく変化していることから、前半の回で基本的な考え方を身に付けたうえで、後半の回では、日本経済をめぐる最新の動向・データを紹介する。それにより、現実との関係を強く意識しながら経済について捉えることができるようにする。	
			英語で学ぶ観光学		この授業科目では、世界および日本の観光産業や観光の社会的影響を英語で学び、議論する力を身に付ける。観光に関するドキュメンタリーを上映することもある。取り上げる題材は、観光の歴史、グローバル化との関連、観光の大衆化、ニューツーリズム、コロナ時代の観光など多岐にわたる。この授業科目を通じ、現代の国際社会の問題について英語で情報収集をし、さまざまな角度から考察し、自分の意見を書き、議論することができるようになる。	
			観光史		この授業科目では、西欧におけるツーリズムの歴史学的展開を講義する。19世紀における近代ツーリズムの開始、20世紀のマス・ツーリズムの展開、インバウンド観光の先駆的事例としてのアメリカ人のヨーロッパ観光ブーム、航空機を活用した世界規模でのツーリズムの拡大を理解し、グローバル化の中での観光公害やダークツーリズム、農村ツーリズム、スポーツツーリズム等新たなツーリズムの可能性を模索する。これらを通して、ツーリズムの大衆化の展開を政治および社会経済的変動、消費社会の展開等を歴史学的に考察することを目的とする。さらにエリートや知識人による差別化・批判、多様な視点からの考察といった社会学的・人類学的思考法も学ぶことにより、柔軟な思考と分析を修得できるようになる。	
			観光学		この授業科目では、ヨーロッパにおける地域開発と観光の展開を学ぶ。第二次世界大戦後のマス・ツーリズムの展開を主軸とし、バカンスの民主化と余暇の組織化、地域経済刷新のための国土開発としての観光産業の育成、大衆的な観光産業の発展、歴史的遺産の活用といった歴史的展開を理解した上で、少数話者言語の多様な文化とアイデンティティの尊重、EUの構造政策/地域政策を通じた越境的プログラムの展開、観光を通じた環境との共生と過去の克服等ヨーロッパの特質を考察する。多様なアクターの分析を通じて地域開発の多様な方策を比較・分析することにより、観光の多面性と地域社会における意義を多角的に考察できるようになることを目的としており、多様な価値観の尊重や先進的な試みの重要性を理解できるようになる。	
			観光・地域創生実習		この実習では、地域社会が直面する多様な課題について、観光および地域創生のアプローチを通じて体験し、課題解決能力を身につける。観光を通じた地域創生を行っている地域を取り上げ、現地での実習を行う。実務家レベルの基本的スキルを修得し、現地が直面する課題を理解し、コロナ後の新しい観光・地域創生へ対応する力を身につける。またインバウンドやバリアフリー対応の現実と課題を体験することにより、多文化共生や他者を尊重する柔軟な思考と対応力も獲得することができる。	
			観光文化論		この授業では、観光に影響を与えるメディアの分析と観光を活かした地域おこしについて学ぶ。授業では、観光と観光学の全般を説明し、メディアの分析を通して観光と文化の関係を考察する。その後、文化資源を活用した観光まちおこしの事例を検討する。この講義の目的は、観光と観光学の概要について理解して説明できるようになること、観光と文化の関係について自分の見識を持てるようになること、もし将来において観光に関わる仕事に就くことを希望するなら、そのための実践的な知識が身につくようになることである。	
			横浜学		フェリス女学院が創立された横浜という地域について、その歴史と現状を学ぶ。開港後150年を越えて小さな村から、日本最大の市として発展を遂げる横浜は今もなお注目されている都市である。授業では、横浜の近代史150年を概説し、随時個別テーマを選んで横浜の様々な側面を考察するとともに、さらに現代の横浜の魅力と課題、横浜市のとりくみなどについても説明する。横浜の歴史を学ぶことで、国際化と大都市化という、現代日本が直面する共通の課題を理解できるようになる。また、横浜の歴史・現状・地理を通じて、国際交流と都市問題を歴史的に理解できるようになる。	
		環境政策・環境経済	環境学		この授業科目では、人間と環境のかかわりを理解する環境学の視点から、環境問題と環境保全の現状と課題、環境保全のための法整備や政策、経済的な視点からの環境問題の解決などについて多面的に学ぶ。講義では、さまざまな企業や行政機関等の担当者をゲストスピーカーとして招聘し、ゲストスピーカーから提示される情報に基づいて、環境問題の現状や背景を知り、課題を克服するための多様で先進的な取り組みを理解し共通点を探る。	
			資源利用論		国際的なエネルギー資源、生物資源、水資源、金属資源などの国家間の配分・利用の問題点を解説し、持続的な利用のためには汚染者負担の原則の徹底や産官学民の連携が重要であることを理解する。有限の資源に関するデータや図表を解説しながら、これらの対策をテーマ毎に概観し、社会に出てからも有益な方策を探るための知識と応用力を習得することが目標である。参考となる課題図書レポートを通じた学習では、実社会の先駆的な取り組みにも触れることができる。	
			環境学実習		身のまわりの食糧、土壌、水質を題材として、大学の観察園で、7種類ほどの野菜を栽培しながら、物理的・化学的・生物学的な環境要因の基礎知識を学ぶ。また農業を取り巻く日本の社会状況や「六次産業化」についても適宜、解説して、海外の先進事例とも比較検討する。最終的なレポート課題では、環境保全型農業や食料の地産地消の意義について取りあげてもらい、現状の地域環境や消費社会への理解と批判的な視点を養う機会となる。	

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
学科専門科目	国際社会発展科目	環境政策・環境経済	環境経済学	○	この授業科目では、世界でも特に深刻な環境問題に直面している中国を事例に、環境問題・貧困問題・社会問題の原因・実態について学ぶ。世界の経済大国となった中国の環境問題の背景にある開発・政治・経済・社会・グローバル化を具体的な事例を基により深く追究していく。講義前半では、中国経済、格差、農村や出稼ぎ労働の実態、大気・水など環境汚染の実情を取り上げる。後半では、一帯一路、プラスチックや家電リサイクルなどグローバルな視点から捉える。この授業を通して、中国の環境・社会問題の実情を理解し、環境問題をグローバルな視点から捉える力を養う。	主要授業科目
			環境政策論	○	この授業科目では、世界最大の人口を抱え、急速な経済成長が進むアジアの環境問題の実態・課題および各国の政策を学ぶ。経済成長・グローバル化・貧困・開発・人権・平和・援助・国際協力など多様な側面から、アジア環境問題の構造と課題を追究する。講義の前半では、アジアの経済成長・開発・援助・貿易と環境の関係を解説する。後半では、水・気候変動・食料品・E-waste、フェアトレードや認証、アジア各国の環境問題の特徴と課題について追究する。アジアの環境問題をローカルかつグローバルな視点から捉え、改善のための政策を模索することを目的とする。	主要授業科目
			ボランティア論		この授業科目では、ボランティアとは何か、実際にボランティアに取り組むにあたって理解しておくべき基本事項、様々なボランティアの特徴と課題について学ぶ。特に国際・地域・環境分野のボランティアを取り上げる。講義の前半では、ボランティア、NPO・NGOとは何か、国際援助の成果と課題を解説する。後半では、各分野の具体的活動実例を取り上げ、それらの意義と直面する課題を追究していく。この授業を通して、ボランティアの意義と課題、NPO・NGOとは何か、仕事や業務ではない社会貢献の意義、参加方法などを理解することを目的とする。	
			地域環境学		この授業では、地域環境の問題解決について市民の学習と行動の様々な具体例を通じて学ぶ。対象として、ドイツおよびヨーロッパでのフォーマル、ノンフォーマル、インフォーマルな教育による、SDGs（持続可能な開発目標）への取り組みを扱う。講義では、地域社会での実践例を紹介し、環境行動につながる社会的取り組みについて考察する。また事例に即した課題を考え、自分と他者の意見の違いを認め、共有し、合意形成に導く能力を育むことも、この講義の目的である。	
			地域環境研究		この授業では、SDGs（持続可能な開発目標）の地域実践について、知識から行動へつなげる社会的取り組みという観点から学ぶ。講義の対象として、ヨーロッパで展開されている気候変動問題における地域実践を説明し、日本や他地域と比較する。また、環境問題における地域実践と教育の関係について理解する。様々な社会的集団に適した取り組みを検討し、SDGsのより幅広い実践を促進する地域の枠組みを考察することも、この講義の目的である。	
			法学研究		法学的知識および法的思考力は、社会で生きる人々にとって必要不可欠な現代の教養といえる。この授業科目では、法的問題に関する具体例を用い、現実の法的問題に対する洞察力を培う。講義では、法的思考力を身に付けるために、主に消費者法を中心に、法の基本原則と実践的な適用方法を学ぶ。民法、消費者契約法、特定商取引法など、消費者に深く関わる諸法を一通り概観し、消費者の権利・義務を明らかにすることを通じて、法が企業活動や消費者保護などの経済活動と深く関わっていることを知る。	
			比較法		この科目の中心は、世界の法律家の比較である。すなわち、各国において法律家が果たす役割は異なっており、法秩序の主導権を握る法律家層も違っている。この科目では、法律家という視角からメスを入れ、受講生が、各国における差異を生んだ歴史的・社会的な背景・原因を考察し、理解できるようにする。とりわけ、訴訟大国であるアメリカと訴訟小国である日本との比較を行い、なぜ訴訟数に大きな違いがあるのか、その原因について考察するとともに、ドイツの裁判官と日本の裁判官を比較し、あるべき裁判官像についても理解を深めていく。	
			環境法		この科目では、環境法について初めて触れる受講生に対して、環境法の入門的知識を得させることを目的とする。環境法は領域として若く、いまだ発展途上の分野である。この科目では、学生が、環境基本法を中心として、地球温暖化、大気汚染、水質汚濁、土壌汚染、廃棄物処理、循環型社会形成に関連する諸法についての知識を修得し、現在の社会の問題点を理解し、どのようにすればサステイナブルな社会を形成することができるかを考察させる。	
			ジェンダーと法		この講義では、ジェンダー法学の主要なトピックスを入口としながら、実定法学および基礎法学分野の基本事項について学ぶ。取り扱う内容は、憲法と女性差別問題、民法の基本原則と公私二元論批判、刑法の基本と性刑法改正、社会法の原理と男女雇用機会均等法、ジェンダーステレオタイプと法主体論などである。この講義を通して、ジェンダーに関わる法律問題を知ると同時に、ジェンダー問題を入口としながら基本的な各法学分野の知識も身につけることができる。	
			世界の環境問題		この授業科目では、日本や世界で起きる環境問題と関連する諸課題の重要な動向について幅広く取り上げ、基本的な理解を得ることを目指す。具体的に取りあげるのは、地域における環境問題への取り組み、食と環境、世界遺産を取り巻く環境問題などである。環境問題は現在進行形で大きく変化していることから、前半の回で基本的な考え方を身に付けたうえで、後半の回では、諸課題をめぐる最新の動向・データを紹介する。それにより、現実との関係を強く意識しながら環境問題について捉えることができるようにする。	
			人文地理学		この授業科目では、人文地理学の基本概念、研究手法やツールについて解説し、適切なデータから事象の背景を考察することを学ぶ。事例として、宗教、セクシャリティ、紛争、ツーリズム、民族、ジェンダー、婚姻等のトピックを取り上げ、我々をとりまく現代社会や環境を地理学的に読み解く。人文地理学の基本的な学史、理論、概念および手法等について理解し、地理的見方を修得すること、現代社会の諸地域で起こっている様々な問題や日本との関係性等について、適切な情報、地図、統計データ、文献等を用いて客観的に理解することができるようになることを目的とする。	
			自然地理学		この授業科目では、自然地理学の基本概念や方法、日本の自然地理学的環境について学ぶ。日本の自然環境の特徴を明らかにするとともに、近年多発している自然災害の発生原因などについても考察する。講義ではデジタル地図「地理院地図」や国土交通省の「重ねるハザードマップ」などのWeb-GIS（地理情報システム）、地震に備えた地盤環境や自然災害の危険性を判定するモニタリングの方法などを解説する。ジオ・サイエンスを構成する最新の情報技術や日本列島の自然環境のしくみとメカニズムを理解し、空や海洋、宇宙、国土情報に関する地理的な基礎知識を身につけ、自然災害や社会のリスクへの理解を深めることを目的とする。	
			地誌		地誌とは、ある特定地域の自然事象と人文・社会事象の双方から、その「地域性」を理解する学問である。この授業科目では、世界6大州の自然、人文、社会事象を大局的に学ぶとともに、事例地域を取り上げ、その地域性を学び、諸地域と日本との関係性についても考える。諸地域の地域性を理解する為の基礎的知識と地理的見方を修得すること、現代社会の諸地域で起こっている様々な問題や日本との関係性等について、適切な情報、地図、統計データ、文献等を用いて客観的に理解し、説明することができるようになることを目的とする。	

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
学科専門科目	国際社会発展科目	歴史と地域理解	グローバル・ヒストリー	○	この授業科目では、世界都市ニューヨークの発展を歴史的に学ぶ。ニューヨークは、その最初期から近代世界システムの中にあり、異文化の出会いを通じて発展してきた。講義では資本主義的な経済活動を前提とした多様な人々の間で繰り広げられる交渉や政治文化的実践を考察し、国家内部のローカルな一都市が国境を越えたグローバルな空間として発展する過程を理解する。都市という空間に限定することで、近代以降の人々の営みがいかに国家を超えた形で展開し現在を形作っているかを理解する視座を持つことを目的とする。	主要授業科目
			グローバル・ヒストリー研究	○	この授業科目では、近年の一国史（ナショナルヒストリー）を超えた世界史理解への要請から生まれたグローバルヒストリーの学問的視座と具体例を学ぶ。講義では、歴史学におけるグローバルヒストリーの理論的発展を理解した上で、国境を越えたモノの流通からみた世界史、人々の感情や政治文化的実践が国境を越えた社会関係にもたらす影響を、近代初期から21世紀に連なるグローバル化の進展の中に落とし込んで考察する。受講者自身の現在の立ち位置を、グローバルな視点から再認識する視点を持つことを目標とする。	主要授業科目
			アメリカ史研究		この授業科目では、多様化する社会における共生のあり方をアメリカ合衆国の人種、階級、ジェンダー関係に注目して学ぶ。講義では、合衆国の通史的理解の上に、植民地期から現代に至るまでの、アフリカ系アメリカ人や移民、女性や性的マイノリティがいかにして差別を克服し、「自由」と平等を勝ち取ってきたのかを、歴史学における社会史（人びとの歴史）の成果を踏まえて考察する。一次史料や映像史料を適宜参照し、アメリカの事例から、日本やその他の社会における社会関係のあり方を考える視点を養うことを目的とする。	
			ヨーロッパ史研究		この授業科目では、グローバル社会の課題である「他者」との共生という観点から、ヨーロッパ社会を人の移動と交流、そこから生まれる文化を通して考察する。対象となる時代・地域は古代から20世紀までのヨーロッパと旧植民地とする。講義では、毎回異なる社会史のトピックを取り上げ、基礎的知識の解説を行ったうえで、資料を用いた実践的活動を行うことで、ヨーロッパ社会への理解を深める。この講義を通して、ヨーロッパが多様な宗教、民族、言語からなる多文化社会として絶えず変化し、独自の方法で「他者」と向き合ってきたことが理解できるようになる。以上を通して、現代世界の自明性を問い直し、「他者」への寛容な精神を身につけることを目的とする。	
			ヨーロッパ地域研究		この講義では、第二次世界大戦後の西欧におけるヨーロッパ経済社会モデルについて考察する。ヨーロッパにおいて、地域統合や福祉国家など、アメリカとは異なる独自のモデルが誕生した要因、歴史的展開等を、アメリカ等他地域との比較を通じて理解することを目的とする。失業と格差、移民、ポピュリスム等、今日の先進国が直面する課題を多角的に考察することにより、経済・社会問題の課題解決への思考力を身につけることができる。	
			現代中国論		近年中国の動向が世界に大きな影響を及ぼしており、中国を正しく理解することが不可欠となっている。この授業では、現代中国を理解するための基本的知識を修得するとともに、複数ある中国を分析する視角を用いて、中国をさらに深く理解し、現象の背景を考察できるようになることを目的とする。講義では、基本的知識や現状などを解説したあと、映像資料をみたり、関連する研究を紹介したりして、より深い理解を促す。中国は歴史を重視する国であり、中国独自の歴史認識を知ることも重要である。またそれがどのように現代政治や社会に影響を及ぼしているのか、その問題点についても考える。	
			東アジア国際関係史		この授業科目では、朝鮮半島と日本の関係史を通じて、歴史と歴史認識の違いについて学ぶ。対象となる期間は、14世紀から20世紀までであり、朝鮮王朝の樹立から韓国併合までを扱う。講義では、まず朝鮮王朝の成立や文化について説明した後、近代に至ってなぜ日本が大韓帝国を併合したのか、その理由を当時の国際情勢をもとに考える。この講義を通して、日韓間で懸案となっている歴史問題の根源を理解し、時事問題を考えるための基礎知識を修得できる。また、互いの歴史認識の違いを理解し、異文化間の対話を促進することもこの講義の目的である。	
			東アジア研究（韓国）		この授業科目では、韓国の建国から現代に至るまでの政治・社会の変遷について学ぶ。対象となる期間は、1945年から現在までであり、主に朝鮮戦争、軍事独裁、民主化を扱う。講義では、朝鮮半島の分断と大韓民国の樹立といった歴史的な背景を説明した後、軍事独裁から民主化に至るまでに起こった政治的、社会的な諸問題について整理する。この講義を通して、韓国が民主化した経緯だけでなく、日本との歴史的な関係性や現代の政治的摩擦の原因について理解する。また、韓国の政治や社会の特徴を把握し、対話や交流を促進することもこの講義の目的である。	
			東アジア研究（北朝鮮）		この授業科目では、朝鮮半島の分断と北朝鮮の政治・経済・社会の変遷について学ぶ。対象となる期間は、1945年から現在までであり、主に金日成による建国から現在の金正恩体制までを扱う。講義では、まず朝鮮半島の歴史的背景を説明し、その後、朝鮮戦争以降の北朝鮮が国際社会で孤立し、軍事大国化していく過程を整理する。この講義を通して、北朝鮮の国内事情だけでなく、韓国や日本との歴史的な関係性や拉致問題などについて考察できるようになる。また、東アジアの安全保障について深く考えるのもこの講義の目的である。	
			現代宗教論		人類の歴史と現代世界を深層から捉えるための重要な一側面が宗教である。本講義では、キリスト教、イスラム教、ユダヤ教、仏教など伝統宗教を中心に扱い、それらの歴史、教え、実践、現代社会との接点を考察する。とくに焦点を当てるのが、本学の建学理念に含まれるプロテスタント・キリスト教である。その内在的論理を踏まえつつ、資本主義、民主主義、人権、自然科学など、欧米や日本の近代化との関わりを教授する。それにより期待される成果は次の通り。(1)異文化に生きる人々の精神的諸基盤を理解する。(2)欧米や日本の近代化におけるキリスト教の触媒的役割を理解する。	
			世界史概説Ａ		世界各地の多様性は、相互に関連しあいながら歴史的に形成されてきたものであり、世界史を知ることは現代世界をより深く理解することにつながる。この授業科目では、こうした諸地域の多様性や相互連関を理解するために、その形成の歴史を多方面から概説する。一国の狭い枠を超えたひろい視野を養い、資料を用いた論理的思考を身につけ、現代世界の成り立ちを理解することを目的とする。講義の前半では、各国・各地域の交流の歴史を、後半では文化や社会の歴史を、具体的な事例をあげながら説明する。また文字資料や写真、映像資料も使い、より具体的に歴史的出来事や事象を考察する。	
			世界史概説Ｂ		この授業科目では講義形式により、自国史と世界史および世界史の見方に関わるさまざまな議論について学ぶ。各国・各地域の歴史や文化の成り立ち、およびその背景について基礎となる知識を身につけ、現代世界をグローバルに、より深く理解することを目的とする。講義では、中東地域や東南アジア、太平洋諸国など、日本人にとってあまり身近ではない地域や国の文化、宗教なども対象としてとりあげ、そうした地域や国とも相互に深く関連していることを説明する。また文字資料や写真、映像資料なども使い多様な世界の様相を具体的に理解し、考察を深めていく。	

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
学科専門科目	国際社会発展科目	歴史と地域理解	日本史概説Ａ		この授業科目では、古代から近代初めまでの日本の歴史について、講義やディスカッションを通して総合的に学ぶ。長期的視点にたち大きな流れを理解する歴史学的なものの見方や考え方を身につけること、資料をもとにして自ら問いを見つけ、考察する思考力を養うことを目的とする。各回ごとに政治や文化、家、対外関係、教育といったテーマを設定し、史料や絵図を用いながら、理解を深めていく。また、日本国内の事象だけに注目するのではなく、アジアやヨーロッパなどの諸外国との関係も踏まえながら、日本の歴史について幅広く考察する。	
			日本史概説Ｂ		日本は、幕末の開国・開港を直接的な契機にして、近代国家へと大きく移り変わっていき、人びとの暮らしも変容を遂げた。この授業科目では、幕末から第二次世界大戦前までの近代日本社会の形成・展開過程を、19世紀後半の近代国家の形成期と1920年代から1950年代の現代社会の形成期の２つの時期にわけて概説する。講義では、各時代ごとに特徴的な歴史資料を読解しながら、当時の時代状況を類推していく。日本近現代史の概要を理解し、基本的知識を身につけること、歴史資料から時代背景などを類推できること、習得した知識や能力を活用して、各時代の特徴を論理的に説明できることを目的とする。	
	国際社会専門演習科目		専門ゼミＩＡ	○	専門ゼミでは、国際社会の諸問題に主体的に関わり、解決する能力を修得するという本学科の目的に沿って、担当教員の指導の下、卒業まで一貫したテーマで研究に取り組む。専門ゼミＩＡでは、その出発点として、自らの研究を行うための土台となる専門分野の基礎知識を固め、研究テーマを模索するとともに、研究の手法を修得する。演習形式の授業における文献購読や研究発表、徹底した討論、履修者によるプロジェクトの実施、レポートの作成などを通じて、主体的に学ぶ姿勢を身に付ける。	主要授業科目
			専門ゼミＩＢ	○	専門ゼミでは、国際社会の諸問題に主体的に関わり、解決する能力を修得するという本学科の目的に沿って、担当教員の指導の下、卒業まで一貫したテーマで研究に取り組む。専門ゼミＩＢでは、専門ゼミＩＡで修得した知識と研究手法をさらに深め、卒業論文作成に向けた研究テーマを固めていく。また、より専門性の高い文献の購読や研究発表、プロジェクトの実施、それらをもとにした討論、レポートの作成などを通じて、専門知識の習得とともに研究手法の確立をはかり、主体的に研究を実施することができるようになる。	主要授業科目
			専門ゼミⅡＡ	○	専門ゼミでは、国際社会の諸問題に主体的に関わり、解決する能力を修得するという本学科の目的に沿って、担当教員の指導の下、卒業まで一貫したテーマで研究に取り組む。専門ゼミⅡＡでは、専門ゼミＩＡ、ＩＢで修得した知識を基盤に学修の成果を卒業論文にまとめる作業を進める。研究テーマを確定し、資料の収集・先行研究の検討を行って論文の作成に取り組みつつ、研究の途中経過を発表し、質疑応答を通じ分析を深めていく。また、他の履修者の報告を聞き議論をすることで、専門分野の幅広い知識を身に付け、建設的な批判の能力を磨く。	主要授業科目
			専門ゼミⅡＢ	○	専門ゼミでは、国際社会の諸問題に主体的に関わり、解決する能力を修得するという本学科の目的に沿って、担当教員の指導の下、卒業まで一貫したテーマで研究に取り組む。専門ゼミⅡＢでは、卒業論文の完成に向けて論文の作成に取り組む。情報の分析、考察を進めるとともに、最終段階の研究内容を発表し、他の履修者との質疑応答を通じて、論文の分析をさらに深めていく。また、他の履修者の報告を聞き議論をすることで、専門分野のより幅広い知識を身に付けるとともに、建設的な批判の能力を確立する。	主要授業科目
			卒業論文	○	国際社会の諸課題を地球規模の視点で捉え、身近な社会とのつながりにも着目して主体的に行動する力を身に付け、幅広い教養と多文化共生の視点をもって、社会の発展とイノベーションの推進に貢献できる人材の養成という国際社会学科の教育目標をふまえて、専門ゼミＩＡ、ＩＢ、ⅡＡおよびⅡＢの学修に基づき、自ら設定したテーマに関して、専門的な知識をもとに自ら収集した資料をまとめ、分析し、独自の考察を加えた論文を、担当の教員の指導を受けて作成する。論文執筆規定に則った論文を、所定の期間内に提出する。卒業論文は4年間の学修の集大成と位置付けられる。	主要授業科目
	海外実習科目		海外現地実習		この授業科目では、海外を実際に訪れて文化・社会を体験し、各地域が抱える課題やそれを克服するための取り組みについて実地で学ぶことで、これからの国際社会のあり方を多面的に考える力を身に付ける。現地滞在に加え、学内で実施する事前研修会であらかじめ訪問先への理解を深め、事後研修会では学んだことを報告する。多文化主義、環境保全、エコツーリズム、持続可能な発展といったテーマに関して、実践的な知識を得て、解決策を考えることができるようになる。	
教職に関する科目			教職入門		本講義では、教職の歴史や学校教育に関する法体系をふまえたうえで、そうした現代社会に対応した教員の職務について学び、教職の社会的意義について考えていく。具体的には、教員養成の制度、「教師」の地位や服務上の義務、学校内のみならず学校外の専門家との連携の必要性、仕事内容や働き方について学ぶ。あわせて3年次に行われる介護等体験の理念と目的についても説明する。また、こうした「教師」の職務全般を知ることにより、「教師」に求められる資質能力を理解する。教職課程を履修していくうえでの意欲や適性について、履修者自身が検討し、今後の取り組みについて考える機会とする。毎回の授業では、終了後にフェリスパスポートにレスポンスシートを提出する。また、授業中に行うグループディスカッションでは他者の発言に耳を傾け、一つの事象を多面的に考える機会とする。	
			教育原理		本講義では、教育の基礎理論に関する科目のひとつであり、今後履修するその他の「教職に関する科目」の序論に位置づく。教育の理念や思想及び教育に関する歴史を学ぶ中で教育の本質とは何かについて考える。具体的には、教育・学校・教員制度についての歴史とともに、第二次世界大戦後の教育権思想の発展や、学校と家庭との協力関係の蓄積について学ぶ中で、教育の基本的概念を理解し、今日の、そして今後のあるべき教育理念について考える。なお、毎回の授業終了時にはレスポンスシートを記載してもらうとともに、隣に座っている学生同士による1分間コミュニケーション、小グループに分かれてのディスカッションとそのグループ毎のプレゼンテーションによって皆の意見を全体で共有するなどのアクティブ・ラーニングの手法を適宜取り入れて授業を進める。	
			教育思想		本講義では、古代から現代に至るまで、各時代や各地域、社会の人々の教育に関連する事柄についての捉え方や、教育に対する態度を規定してきた教育思想について考えていく。それは、教育を「教える－学ぶ」という単なる行為としてではなく、その目的や役割を理解するための基礎的な知識でもある。具体的には、代表的な教育思想家たちの思想、これまでの歴史の中で示されてきた教育の理念、教育を成り立たせる諸要因に関する思想を学び、自分がこれまで教育に抱いてきたイメージや、自分たちが受けてきた（受けている）教育の背景にある思想を理解する。特に、日本の近代教育が長い教育思想の歴史の中に位置付いていることを理解する。各時間のテーマについて、教育思想家たちの思想を学ぶ。グループセッションでは、各時間のテーマの理解を促す課題や、教育思想を身近に捉え、実際の教育や学校との関わりを理解するためにディスカッションを行う。	

科目 区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
教職に関する科目	教育心理学		本講義では、教育活動について心理学的に研究し、教育実践上の課題を解決するため、適用可能な心理学的知見と、高い効果をもたらす心理学的技術を提供することを目的としている。具体的には、典型発達の幼児・児童・生徒のみならず、障害を持つ幼児・児童・生徒の心身の発達および学習の過程に関する知識、各発達段階における心理的特性を踏まえた学習活動を支援するための基礎知識、支援方法を提供するものである。加えて、学校現場では必須の、教育・学習評価についても、幼児・児童・生徒の発達の特徴と関連付けて理解する。また、アクティブ・ラーニングとして、性格検査、知能検査を実施し、自己採点を行い、その結果について、プライバシーに最大の配慮を加えながら、検査の有効性などについてグループ・ワーク（可能な限り）を行い、結果を全体に共有する。	
	教育社会学		本講義では、比較文化的、歴史的にさまざまな家族や学校の例を紹介しながら、現代日本の人間形成のあり方と援助者の役割について考究する。社会変動のもとでの学校の役割と課題、ならびにそれに対応するための教育政策の動向について理解を深める。併せてメディアで注目されている教育問題について、事例をもとに理解する。具体的には、子どもの生活の変化と指導の課題について、虐待、学力、ジェンダー、いじめ、不登校、発達障害児支援などのトピックスを取り上げ、社会、学校、家庭の関係性を多面的に把握し、学校をめぐる近年の動向を理解するとともに、教育改革の動向についても理解を深める。物事を複眼的にとらえ、自分の意見を持ち、自分の言葉で表現して論じることができるようになることもこの授業の到達目標である。	
	教育課程論		本講義では、教育目標の具現化に向けて教育課程に沿った教育活動が展開されている学校について、前半では、教育課程の意義や関係法令（主に学習指導要領）等、教育課程に関する基本的事項について学び、後半では、教育課程の実施上の基本的な内容及びカリキュラム・マネジメントについて学ぶことで、教育課程を通して望ましい学校教育の在り方を考えていく。そして、教育課程の意義、教育課程編成、カリキュラム・マネジメントに関わる学習指導要領の基本的事項について概説できる知識を蓄積し、教育課程実施上の諸課題を踏まえ、学習等の指導に積極的に取り組む意欲を高めていく。	
	特別活動		本講義では、学習指導要領に各教科及び道徳、総合的な学習の時間以外の教育活動として位置づけられる特別活動について、生徒の学校や学級の生活における課題の発見や解決を行い、より良い集団や学級生活を目指して行われる活動の総体としての理解を促していく。具体的には、学級活動・生徒会活動・学校行事の３分野を軸として設定し、学校生活の様々な場面を想定し、指導する教師としての実践的指導力の形成をねらう。具体的なテーマについては、学生同士のグループワークやディスカッション・振り返り・講義などによって深め、教育現場で実践的に活用できる体験活動や学級通信・生徒会活動実施要項・学校行事実施要項などの作成等にも挑戦する。	
	教育相談		本講義では、生徒が学校生活において出会う様々な問題・危機への支援について、発達の状況（発達障害を含む）や個々の心理的特質、教育的課題を適切に捉えるために必要な基礎的知識（カウンセリングの意義、理論および技法に関する基礎的知識を含む）を身につける。アクティブ・ラーニングとしては、発達障害、いじめ、非行、不登校、児童虐待について、グループ・ワークならびに発表をし、成果を課題管理を通して提出する。また、毎講義のはじめに具体的な事例を元に、支援・対応に関する自身の考えを記述する課題が課されるので、講義内に提出する。	
	教育実習１		実際に学校の教室で教師として生徒を指導するための基本的力量を培う教育実習へ向け、各教科教育の内容と技法を理解し、多面的な観点から生徒と積極的に関わろうとする態度を形成し、実際の教育場面で生徒を指導することができる基本的技術を習得することを目的とする。具体的には、事務的な内容を含めたオリエンテーションにおいて教育実習の全体像の把握を促進し、その上で中学校・高等学校を中心とした授業参観を実施し、より現実的な学校での活動について身をもって考えていく機会を設ける。毎回の講義を振り返り、レポートにまとめて提出する。	共同
	教育実習２		３年次で履修した「教育実習１」をさらに発展させ、事前指導、実習校実習、事後指導から成り立っている。事前指導では、毎回テーマについて近接のメンバーと議論し、その結果をレポートにまとめる。テーマは、生徒の見方と学級経営、保健と安全指導、人権擁護と教育の果たす役割など多岐に亘り、実習校実習へ向けて具体的な構えを持てるように設定している。事後指導では、KJ法に倣った質的分析法を用い、グループ・ディスカッションによって実習校実習を振り返り、図示化する作業を行い、意見交換、各自の最終課題をレポートにまとめて提出する。	共同
	教育実習３		３年次で履修した「教育実習１」をさらに発展させ、事前指導、実習校実習、事後指導から成り立っている。事前指導では、毎回テーマについて近接のメンバーと議論し、その結果をレポートにまとめる。テーマは、生徒の見方と学級経営、保健と安全指導、人権擁護と教育の果たす役割など多岐に亘り、実習校実習へ向けて具体的な構えを持てるように設定している。事後指導では、KJ法に倣った質的分析法を用い、グループ・ディスカッションによって実習校実習を振り返り、図示化する作業を行い、意見交換、各自の最終課題をレポートにまとめて提出する。	共同
	教職実践演習（中・高）		実習校での実習を経て、教員として必要な資質能力として、教師としての使命感や責任感等、教職についての理解、社会人としてのあり方や対人関係能力など教員としてのスキル、幼児・児童・生徒理解や学級経営等に関する指導力、情報機器の活用を含め教員として求められる教科指導力の4つの事項のさらなる向上が求められる。その目標達成のため演習形式で行われ、模擬授業、ロールプレイ（役割演技）、事例研究（適宜学校見学等を含める）など実習的内容が中心となる。	共同
	社会・地理歴史科教育法Ⅰ		本講義では、「中学社会」と「高校地理歴史科」の教師を目指す者のために、今求められている教育改革課題と学習指導要領の理念を踏まえて、社会科教育のあり方、社会科学習の全体構造、地理・歴史分野の特質等について考察し、社会科学習・指導の基本を学び、教材研究や学習指導案の作成ができることを目標とする。教材研究や学習指導案の作成では、グループワークやディスカッションによる理解力の向上を目指す。併せて教材研究の方法や授業に必要な表現力、情報機器の活用を含めた指導力を高めることも兼ね、受講生による社会科に関する内容の「話題発表（プレゼンテーション）」と「相互評価（文章、及びディスカッション）」を実施する。	
	社会・地理歴史科教育法Ⅱ		本講義では、「社会・地理歴史科教育法　Ⅰ　」に引き続き、「中学社会」と「高校地理歴史科」の教師を目指す者のために、実践的な教科指導力を育て高めることを目的として、社会科学習における基本的な指導法や資・史料の扱い方、教材活用等を具体的に学習し、学習指導案の作成、情報機器の活用を含めた指導力の向上、実践的模擬授業の演習を実施する。併せて、模擬授業では受講生による「個人発表」と「相互評価」を実施し、社会科指導上の課題等について探究する。	

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
教職に関する科目	社会・公民科教育法Ⅰ		本講義では、「中学社会」と「高校公民科」の教師を目指す者のために、現代の教育課題や学習指導要領の理念を踏まえて、「公民的分野」の教科目標や教科の特質について学び、授業づくりのための教材・方法・評価の工夫・改善が必要な事を理解し、よりよい学習指導案が作成できるようにする。教材研究や学習指導案の作成では、グループワークやディスカッションによる理解力の向上を目指す。併せて情報機器の活用を含めた指導力、教材研究の方法や授業に必要な表現力を高めることも兼ね、受講生による社会科に関する内容の「話題発表（プレゼンテーション）」と「相互評価（文章、及びディスカッション）」を実施する。	
	社会・公民科教育法Ⅱ		本講義では、「社会・公民科教育法 Ⅰ 」に引き続き、「中学社会」と「高校公民科」教育の理念や課題を踏まえて、社会・公民科教師としての実践的な指導力を養い、よりよい学習指導案の作成や教材活用・発問や板書計画の大切さを学び、模擬授業を通して授業技術の基礎を習得する。併せて、模擬授業では受講生による「個人発表」と「相互評価」を実施し、情報機器の活用を含めた指導力の向上、社会科指導上の課題等について探究する。	
	道徳教育の理論と実践		子どもを取り巻く社会の急激な変化や家庭の教育力が弱まっているという指摘のある状況の中、学校における道徳教育の充実が強く求められている。本講義では、授業前半は道徳教育の目標・内容・方法等の基本的事項について、学校における道徳教育の基礎的理論を概説できるよう、講義形式で学ぶ。授業後半は、道徳教育の要である特別の教科としての道徳の指導について、学習指導案の作成や授業展開等を演習形式で行い、実践的な指導力を養う。	
	生徒・進路指導の理論と方法		生徒指導は学校が教育目標を達成するための重要な機能の一つであり、児童生徒の人格形成を図る上で大きな役割を担っている。本講義では、生徒指導、教育相談やキャリア教育の指導にかかる現状把握をもとに、学習指導要領や基本的な理論・指導計画を検討した上で、指導実践に向けたグループデスカッションや演習を行う。適宜求める授業振り返りシートによって理解度等を把握し、それに応じて授業計画を調整する。また、生徒指導の前提となる教師と児童生徒の信頼関係及び児童生徒の望ましい人間関係を育てるとともに、児童生徒理解を深めることの意義を理解し、児童生徒の成長を喜ぶ感性と献身的に児童生徒の成長・発達を支援しようとする意欲を持つことを授業のねらいとする。	
	特別支援教育の基礎と方法		特別支援教育は、学習上または生活上の困難のある幼児・児童・生徒ひとりひとりが、授業や学習活動に参加している実感および達成感を持ちながら学び、生きる力を身につけていくことができるように支援する教育活動である。本講義では、そのような支援が出来るよう、幼児・児童・生徒ひとりひとりの学習上または生活上の困難を理解する。成果は課題管理を通して提出する。また、毎講義のはじめに具体的な事例を元に、支援・対応に関する自身の考えを記述する課題が課されるので、講義内に提出する。	
	総合的な学習の時間の指導法		「総合的な学習の時間」は、平成10年3月の『中学校学習指導要領』改訂および平成11年3月の『高等学校学習指導要領』改訂により、「生きる力の育成」の中核として設置された。また、平成31年度から「総合的な探究の時間」が新設された。本講義では、授業前半では、「総合的な学習の時間」「総合的な探究の時間」の意義や教育課程上の役割等について学ぶ。授業後半は、「総合的な学習の時間」「総合的な探究の時間」の指導計画の作成方法や単元計画の作成・指導方法、「総合的な学習の時間」「総合的な探究の時間」の評価方法など実践的な内容について学ぶ。	
	教育の方法・技術（情報通信技術の活用含む）		21世紀を生きる子どもたちを育成する学校教育では、伝達型・教師主導型の授業ではなく、学習者主体の授業が求められているが、それはどのような授業なのか。本講義では、学習者主体の授業をどのようにデザインしていけばよいのか、また、そのような授業における教師の役割、情報機器（ICT）やデジタル教材を含む教材の活用や授業の振返り等について、理論的かつ実践的に考えていく。そのため、本講義自体、対話型授業、グループディスカッション等を積極的に取り入れていく。学習の基盤となる資質・能力としての言語能力・情報活用能力・問題解決力を育成する教育方法のあり方に関する知識・理解と、情報機器及び教材の活用に関する基礎的な知識・技能と実践の素地を養っていく。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授業科目の概要 （グローバル教養学部心理コミュニケーション学科）						
科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
全学教養教育	共通科目	ＣＬＡコア科目	キリスト教概論		世界宗教の一つであり、本学の寄附行為に明示されているキリスト教の基礎を学ぶ。本学のモットーであるFor Others「他者のために」は、キリスト教の中心であるイエス・キリストによって示された「神の愛」と通底する。本講義は、キリスト教初学者を念頭に、キリスト教の聖書・教理・歴史・実践・現代的展開の基本事項を教授する。それにより、For Othersの精神的基盤を理解させると共に、受講者各人が自らの学問的関心と結びつけるよう促す。	
			キリスト教学		キリスト教の基本的知識を前提に、キリスト教の理解自体を深め、さらに諸学や現代的諸問題との関連を探求する。たとえば、旧約聖書と新約聖書、世界と日本のキリスト教史、キリスト教と他宗教の関係、キリスト教と諸思想の関係、キリスト教と諸文化（文学、芸術、音楽、ことば）、キリスト教の視点による現代的諸課題（平和、環境、福祉、法律、ジェンダー）との取り組みなどである。受講生は、それらの全体または一部を重点的に学修することで、自身の学問的関心をキリスト教の視点から深めることになる。	
			フェリス女学院とキリスト教		この講義では、フェリス女学院大学の設立母体であるフェリス女学院の歴史を紐解くことにより、学院及び大学が「建学の精神」としてきたキリスト教について学びを深めるものである。学生は、本学の「建学の精神」及び「教育理念」、設立の背景やその発展などの自校史について学修するだけでなく、それらに通底しているキリスト教の基本的な信仰・理念・思想について知識を深めるとともに、自校愛を育む機会を得ることが期待できる。	隔年
			一神教概論		この講義は、キリスト教及びイスラム教の母体であるユダヤ教を中心として、一神教及び啓示宗教について考察を深めるものである。とりわけ、ユダヤ教において特徴的な「律法」について詳しく論じていく。「モーセ五書」（トーラー）や「タルムード」、ユダヤ教の「清浄規定」についての知識を深めていく。それと同時に、ユダヤ教とキリスト教の律法理解の違いを明らかにすることにより、キリスト教についてより深く知ることができるようになる。	隔年
			アカデミック・ライティング入門		本科目は、日本語でレポートを執筆する技術を身に付けることを目的とする。要約文や説明文などの短めの文章を書く練習から始め、引用の方法や資料の探し方、パラグラフ・ライティングの技法などを学びながら、レポート執筆の基礎を身に付け、最終的に意見文を完成させる。本科目での学びを通して、学生には自分の意見を論拠に、基づき・述べる方法を身につけることのみならず、論理的な文章を書けるようになることが期待される。	
			アカデミック・ライティング		本科目は、より専門性の高いライティングの技術を学ぶ。分野ごとの先行研究の調査方法や資料を批判的に読む方法を学び、専門に関する様々なテーマについて執筆する。執筆した文章に対して、授業内で意見交換や講評を行う。受講生は、教員や他の受講生の意見をもとに自身の文章を見直し、ライティングの技術を高めていく。本科目を通して学生には、問題意識を持ち、論理的で説得力ある文章を執筆する力を身に付けることが期待される。	
			プレゼンテーションのスキル		本科目は、プレゼンテーションのスキルを向上させることを目的とする。受講生は、調査した内容をもとにスピーチやプレゼンテーションを作成し、発表する。発表へのフィードバックを通して、効果的に伝達・表現する方法を学ぶ。同時に、受講生は、他の受講生のプレゼンテーションに対して、自ら疑問を持ち、積極的に議論に加わることにより、他者の意見を傾聴しながら自分の意見を述べるスキルも高めていく。本科目を通して学生には、自分の意見を正確に伝えるスキルを身に付けることが期待される。	
			ディスカッションのスキル		本科目は、ディベートやディスカッションを通して、自分の意見を的確に伝えて、他者を説得するスキルを学ぶ。授業では、論理的に対話をする方法を学び、普遍的なテーマや正解のない問題について討論を行う。様々な問題に対して、考察し、意見を述べ合うことで、コミュニケーション能力を高めるとともに、考える力を養う。本科目を通して学生には、多角的な視点から思考し、他者の立場も踏まえた上で、説得力ある議論をする方法を身に付けることが期待される。	
			健康・スポーツ論		本授業では、「健康」、「身体」、「スポーツ」など関連するトピックについて幅広く学ぶ。コロナ禍を通じて、私たちの健康観は根底から覆された。このような変化の激しい現代社会において、日本社会の考える健康とは何か、問題点は何かを問い、自分自身や家族の健康、現代社会の健康、そして次世代の健康について考える。一方、オリンピックや地域固有のスポーツなどのスポーツ文化、生きるために不可欠な栄養や給食、さらに運動会の歴史など、関連する様々な事象について人文学的に学ぶ。	
			スポーツ実習		スポーツ実習では、テニス、バドミントン、アーチェリーなどの競技スポーツから、ピラティス、ヨガ、バレエ・ストレッチなどの身体表現系種目まで、幅広い種目を学ぶ。競技スポーツでは、チームとして勝敗を競うことによりコミュニケーション能力を高めることができる。身体表現系種目では、一人一人が自らの身体と向き合い、心と体の調整を通じて、気づきを得ることができる。スポーツは、日々のストレスを発散し、自律神経を整え、生活の質（QOL）を高めることができるのである。	
			情報リテラシー基礎		大学での学びやこれからの社会において、基礎的な情報リテラシーは文科系の学生であっても必須の能力である。そこで、本授業科目では、アプリケーションソフトの単なる操作方法について学ぶのではなく、履修者の情報に関する知識を確認しつつ、大学や社会において求められる、課題や目的に応じて情報を適切に活用するための基礎能力を養う。これにより、これからの大学生活や将来社会人になったときに必須の情報リテラシー能力を身に付けることを目標とする。	
			情報リテラシー：コンピュータサイエンス入門		人間中心社会において、ICTを上手く活用するための基礎知識を、誰もが求められる時代となった。そこで、本授業科目では、これからの情報化社会で必要となるプログラミングの基礎やアルゴリズムの概念などのコンピュータサイエンスを学ぶことで、問題解決のための基礎能力を養う。これにより、簡単なプログラムを作成できるようになるだけでなく、技術革新やグローバル化の進展により日々変動する社会に対しても対応できる力を身に付けることを目標とする。	

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
全学教養教育	共通科目	CLAコア科目	情報リテラシー：データサイエンス入門		政府が2019年に発表した「AI戦略2019」では、文系理系を問わず全ての大学生が初級レベルの「数理・データサイエンス・AI」を習得すべきであるとされている。そこで、本授業科目では、「社会でデータサイエンスやAI」はどのように活用されているのか」、「データをどのようにまとめ、伝えるべきか」という観点からデータサイエンスやAIの基礎を学び、オープンデータを利用してこれらの基礎知識を活用できるようになることを目指す。これにより、これからの社会（Society 5.0）を生き抜くために必要な知識、技能を身に付ける。	
			情報科学：コンピュータと社会		企業での経営活動にはコンピュータをもとにした情報システムが深く関わっている。そこで、本授業科目では、ハードウェアやソフトウェアといったコンピュータに関わる仕組みについて学び、現代の学生、社会人として不可欠な、情報システムやそれを構成するコンピュータについて理解を深める。これにより、日常の生活において何気なく利用しているコンピュータや情報システムの利用のされ方について理解し、説明できるようになることを目標とする。	
			情報科学：ソフトウェアとビジネス		企業での経営活動にはソフトウェアをはじめとしたコンピュータに関連した技術が深く関わっている。そこで、本授業科目では、ソフトウェアを基にして提供される情報に関わるサービスや、サービスを提供する際のソフトウェアの動作、また、それらのソフトウェアがどのようにビジネスで活用されているかについて講義する。これにより、日常の生活において特に意識することなく利用しているソフトウェアがビジネスにおいてどのように活用されているかについて説明できるようになることを目標とする。	
			情報とメディアのリテラシー		インターネットやスマートフォンの急速な普及によって近年、ますます情報リテラシー、メディアリテラシーの重要性が高まっている。そこで、本授業科目では、ソーシャルデザインを通して情報とメディアのリテラシーを養うとともに、情報やメディアとの向き合い方を考える。これにより、実社会で求められる情報とメディアのリテラシーを習得し、情報とメディアのリテラシーについて自分なりの考えをもち、説明ができるようになることを目標とする。	
			ジェンダーと教育の歴史		今日、急速に女性のライフスタイルが変化しつつある。本講義では、近代以降の女性たちが歴史を切り開き、男女平等を実現してきたプロセスを、彼女たちの受けた教育に焦点を当てながら、受講生と一緒に女性と教育の歴史について考察する。「女性」と「教育」を中心に日本の発展過程を学び、多様な性のすべての人の豊かな共存を志向する発想を得てもらうことを目標とする。また、今後の男女のあり方の方向性についても、一緒に考えていく。	
			ジェンダーから学ぶ現代社会		（概要）この講義は、「ジェンダー」をテーマに各教員からそれぞれの研究分野について話をうかがうオムニバス形式で実施する。まず、宝塚等の舞台芸術で「演じられるジェンダー」について講義を受け、その後、言語学や身体動作とジェンダーの関わりについて理論的なアプローチを学ぶ。また、講義の後半では、家族や教育、法律、メディア、政治といった各分野におけるジェンダー問題を取り扱う。それにより、ジェンダーの視点から現代社会について理解すると同時に、ジェンダー問題を解決するための学際的なアプローチを身につける。 （オムニバス方式／全15回） （18　山本　千晶／6回） 導入とまとめ、ディスカッションを担当する。この講義の狙い及びそれぞれの回のアプローチに共通する「ジェンダー視点」について教示するとともに、履修者の感想を授業内で共有し、ディスカッションを時間をとる。 法（とくに女性労働者）とジェンダー。 （41　吉田　弥生／1回） 女形（歌舞伎）と男役（宝塚）の構造とジェンダー （35　土屋　広次郎）／1回） 舞台作品におけるジェンダー／ジェンダーレス／多様な性 （9　饒平名　尚子／1回） ことば／ことばづかいとジェンダー （32　高橋　京子／1回） 身体動作とジェンダー （11　関口　洋平／1回） 「働く女性」の描かれ方 （27　金　香男／1回） 家族（とくに働く女性）とジェンダー （4　澤田　佳世／1回） 教育（とくにリーダーシップ）とジェンダー （2　小ヶ谷　千穂／1回） メディアとジェンダー／男女共同参画社会 （39　矢野　久美子／1回） 政治（とくにケアの思想）とジェンダー	オムニバス方式
			ジェンダー特論		この講義では、ジェンダーに関するテーマを取り上げながら、女性の地位や女性をとりまく環境の変化を理解することを通して、学生たちが主体的なライフデザイン／キャリアデザインを構築することを目指す。具体的には、妊娠など身体に関わる諸問題や賃金労働（ペイドワーク）と無償労働（アンペイドワーク）などの労働問題、家族や結婚などのライフデザインをめぐる問題などを取り上げ、女性（男性）のおかれた状況と歴史的な変化を考察する。	

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
全学教養教育	共通科目	CLAコア科目	男女共同参画政策		この講義では、ジェンダー平等実現のための国連を中心とした国際社会及び日本社会の取組みについて学ぶ。取り上げるテーマは、ポジティブアクションや女性活躍、ワークライフバランス、少子化対策等の諸施策を予定している。その際、日本がジェンダー平等の取組みが遅れているという評価を意識しながら、とくに国連や諸外国の取組みと日本のそれを比較することで、日本における男女共同参画に関する諸施策の課題の洗い出しを行う。それにより、課題解決のために必要な取組みについての提言ができるようになる。	
			地域社会と女性リーダー		「リーダーシップ」とは、その組織や集団、関係性の中において本来は多様なものであり、またライフスタイルや経験の中で築き上げられていくものである。本講義では、地域社会のさまざまな分野（起業/自営業、NGO、公務員、メディア、政治分野等）で活躍する本学OGを含む女性たちをゲストに招き、その実践から学ぶことで受講生が「リーダーシップとは何か」について自ら考えるようになることを目指す。ゲストによる講義と受講生によるチームでのインタビューを通して、女性たちのライフヒストリーから学び・記録するという実践も行う。	
			ジェンダーと人権		この講義では、ジェンダーに関わる問題をとくに「人権」という観点から理解する。具体的にはセクシュアリティや教育、家族、リプロダクティブ・ヘルス＆ライツや、女性に対する暴力などを取り上げる。ジェンダーに関連する法律や判例を取り上げながら、実際の問題状況を理解することに重点をおく。それにより、ジェンダーの視点から法にかかわる具体的な問題を指摘し、問題解決の方法等について論じることができるようになることを目指す。	
			男性学		この授業では、まず男性学という学問の意義について批判的に検討する。男女間の平等が達成されているとは言い難い社会において、男性について研究することにはどのような意味があるのか。社会の役に立つ男性研究とは、どのようなものなのか。本講義の後半では、そのような問題意識を念頭に置きつつ、子育てをする男性が日本とアメリカの文化のなかで、どのように描かれてきたのかを検討する。日米の「イクメン」文化はそれぞれ、どのような社会のなかで育まれてきたのかを考察する。	
			グローバリゼーションとジェンダー		グローバリゼーションによって国境を超えて差異や不平等の顕在化していく中で、「国民国家」を超える新たな連帯の再構築が同時に生まれている。本講義では、こうした複雑かつ多面的な「グローバリゼーション」の諸相を、社会学・政治経済学的視点から、ジェンダーの「レンズ」を通して考察することを目的とする。「労働」「ケア」「社会運動」「他者理解」の４つの切り口から、わたしたちが生きる世界の構造的な課題を理解し、現代世界における自らの位置について、社会科学的に思考を深められるようにする。	
			ジェンダー&セクシュアリティ入門		ジェンダーやセクシュアリティをこれから学ぶ学生を対象に、基本的な用語の意味や定義、それらが現代社会においてどのように使われているかについて学ぶ。この講義では、自分で調べ学習をしたり、その成果をグループで共有し、意見交換をしながら主体的な学びを深めていく。とくに、自身の身体や生活に深く関わっているジェンダーやセクシュアリティの問題を見つけ出し、それを他者と共有することで、多様な身体や性のあり方を「発見」することで、性の多様性を尊重する態度や思考を身につけることを目標にする。	
			プロジェクトで学ぶ		ジェンダーの知識を身につけた学生が、それらの知識を自身のキャリア・プランに活かしていく、プロジェクト型の授業である。本学の卒業生や地域で活躍する女性リーダーと交流したり、共同でイベントの企画や運営を実施することで、新しいリーダーシップを学び、学生リーダーとして活躍する能力を身につける。また、ワーク・ライフ・バランスなど職場での課題についてリサーチし、問題解決のためのスキルを身につけていくことも目標とする。	
			デザインと表現		(概要) 本講義では、わたしたちの生活にとって「デザインすること」「表現すること」が持つ意義を知り、多彩な表現手段について知識を深め、それらの背景にある「感性」と「論理」の統合を学ぶ。さらに本講義を通して、他者に対して効果的に「伝える」ための知識や技術を身につけ、多様で個性的な存在であるわたしたちが「ともに」よりよい未来を創っていくための発想力を養う。 (オムニバス方式／全15回) (44　木水　千里／5回) ファッション、視覚芸術について扱い、私たちが日常的に接しているデザインを客観的に捉える視点と感性を養う。 (50 中西 宣人／5回) 近年の音響・映像・メディアにおけるデザインと表現手法を紹介し、分野横断的な視点や知識を得られるよう授業を展開する。 (40 由井 哲哉／3回) 言葉・書籍など平面デザインから演劇空間に至るデザインを扱い、「感性」と「論理」をバランスよく統合し、多彩な表現手段について知識を深める。 (35 土屋 広次郎／2回) 舞台とデザイン、身体と声について扱い、他者に対して効果的に「伝える」ための知識や技術を身につける。	オムニバス方式
			デザイン概論		私たちの身近には、さまざまな色や形がおりなすデザインであふれており、生活を豊かに彩っている。本講義では、産業革命から現代に至るまでの欧米、そして日本のデザインの歴史を学ぶ。技術革新が進み、大量生産・大量消費の時代が本格的に幕を開けた近代以降、美術・工芸品にはじまり、インテリアや建築、写真、グラフィックなど、デザインはジャンルや国境を越え、人々の暮らしを大きく変えていった。このようなデザインの歴史を概観することで、その色彩や形態の成り立ちを学び、社会の問題解決のために働きかける柔軟な発想や視点を培うことを目指す。	
			ことばとデザイン		書籍、小冊子、雑誌、カタログ、ポスターなどにおいて、製作者の意図を的確に伝えるためには、誌面全体のレイアウト、文字の書体、写真や絵の配置を考えながら、誌面を効果的に組み上げる技術が必要とされる。本講では、InDesignの基本操作を始め、タイポグラフィやページ組版の基礎知識、マテリアル（画像、グラフ、表など）の処理方法など、エディトリアルデザインと呼ばれるこうした技能の基礎理論と基本技能を身につける。	

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
全学教養教育	共通科目	ＣＬＡコア科目	美術芸術論		本講義では近現代芸術史をたどりながら、視覚文化領域の表現の拡大や、鑑賞・体験・消費の時代ごとの移り変わり、そして「芸術」という枠組み自体について学んでいく。特に、視覚媒体と芸術の関係を軸に、美術史・デザイン史的文脈からテクノロジーやサイエンス、その他の諸科学と表現のつながりについて理解を深める。さらには同時代の美術やデザインの実践を事例に、現在われわれを取り巻く社会や身の回りの出来事にも結びつけて視覚文化について考察する。	
			ファッションデザイン論		本講義は、最初のファッションデザイナーと言われるシャルル・フレデリック・ウォルトが登場した19世紀半ば以降、現代に至るまでのファッションデザインの歴史を振り返る。各時代に活躍したファッションデザイナーの代表作を事例に取り上げ、それらが生み出した新しい価値観や、社会に与えたインパクトについて検討する他、ジェンダーや環境問題など、近年の社会的関心がファッションデザインにどのような形で現れているかも考える。	
			メディア・デザイン		我々の身の回りでは、ウェブ、SNS、動画配信、新聞や雑誌など様々なメディアを横断して、情報発信が行われている。さらに近年では、IoTやAI技術の発展により、スマートフォンやスマートスピーカーなど、新たなメディアが次々に登場し、我々の生活に溶け込む存在となりつつある。本講義では、時代とともに移り変わり、形態や機能が変化する「メディア」を対象とし、メディアに関する歴史や社会を学び、批評的に捉え、新たなメディアと我々との関係性を「デザイン」するための知識を深める。	
			読書とメディア		出版メディアのデジタル化が急速に進む昨今、読書のあり方も大きく変わってきている。本科目は、出版をはじめとする読書に関連するメディアの特質を知り、それらのメディアがもたらす知識や情報を適切に扱う方法を学ぶ。授業では、ある一つの知識や情報に対して、多角的な視点から比較検討し、批判的に読む力を養う。同時に、情報を発信する際のリテラシーについても学ぶ。本科目を通して学生には、知識や情報を批判的に読む方法を身に付けること、知識や情報を判断し、解釈し、他者に伝える力を身に付けることが期待される。	
			コピーライティング演習		コピーライティングとは商品を効果的に売り出すのに欠かせない技術であるが、それは見出し、キャッチコピー、ネーミング、スローガン等の狭義の技能にとどまらず、自身の考えやコンセプトを効果的に立案し伝えるための広範な表現活動をも指す。本講では、テキストデザイン、企画書の考案、広告表現、発想力のトレーニングからマーケティング戦略に至る様々な表現技術や発想法を学びながら、意思伝達のための広範な実践演習を行う。	
			住空間デザイン		日本や世界には様々な環境で暮らしている人々が存在する。その土地に住む人々にとって日常の風景であっても、地理的条件、社会的条件、個人的条件などを読み込んだ豊かな「デザイン」と捉えることができる。本授業では、国内・海外の道具、建築、景観などを紹介し、人の営みや思考との関係を考察する。それらの生活のなかのデザインを手掛かりに、多角的な視点を持ち生活文化、地域文化を理解する方法を学ぶ。また、過去・現在・未来を視野に入れて、それらの住空間デザインをどのように継承し現代に生かすかを考察する。	
			都市生活の空間デザイン		本講義では、都市生活の舞台である「地域＝まち」レベルの空間やコミュニティのデザイン手法について学ぶ。特にフェリス女学院大学が立地する「緑園都市」を主な対象とし、住民・企業・団体・行政など地域社会をつくるさまざまな主体の存在についての知識を深めながら、地域への関わりを体験的に学んでいく。またそこから、より豊かで創造的な都市生活のあり方について検討し、現在から将来にわたって、「地域＝まち」に主体的に関わる方法論（編集力）を手に入れることを目標とする。	
			キャリア形成の基礎		この授業では個人のキャリア形成の基礎的段階を育成するために、基礎的知識を修得し、コミュニケーション能力の開発を目指す。レポートおよびプレゼンテーション、グループ・ディスカッション等のコミュニケーション能力を養う。必要な社会環境の変化を理解することにより多様なキャリアのあり方を理解し、自立した社会人として組織における行動の基本的スキルを修得し、活用できるようになることを目標とする。これにより、文章化や他者への伝達能力を修得し、総合的なアウトプット力とチームワーク力を身につけ、大学での学びのみならず、自律的なキャリア形成への実践的なコミュニケーション力を発揮できるようになる。	
			キャリア形成の意義		この授業では、キャリア形成の意義を理解することを目指す。アクティブ・ラーニング形式により、企業の経営者や社会人との交流を通じて、主体的かつ能動的に課題への解決策を模索すると同時に、グループワークを通じて協働的に作業や議論、プレゼンテーションへの準備を行う。社会において働く楽しさや意義を理解することを目的とし、キャリア形成に前向きに取り組む意識と姿勢、スキルを育成することができる。個々の取り組みについてのフィードバックを重ねることにより、自らの強みを発見し、意欲を高めることができる。	
			キャリア形成の実際		この授業科目では、キャリアにおける実践的な能力開発を目標とし、マネジメント能力等の基礎的技法を中心にアクティブ・ラーニング形式で学ぶ。教育での諸活動から企業、公共事業等の多様なプロジェクトにおける実践的なマネジメントの概念や基礎的知識、運用等のスキルの修得を通じて、実践的なキャリア形成を目指す。本授業を通じて、日本プロジェクトマネジメント協会のＰＭＣｅ（プロジェクトマネジメントコーディネーターエントリー）という資格を取得することができる。	
			キャリア形成の諸問題		この授業科目では、キャリア形成において直面する諸問題を明確化し、その克服を目指す。ビジネス情報や経営分析、特に基礎的数学力はビジネスにおいて必須とされるが、特に人文系学生にとっては、数的能力等がキャリア形成において障壁となることが多い。そこで企業診断や経営手法を学び、とりわけ数的根拠に基づいた能力の育成を重点的に行う。これらを克服・修得することで、就職活動のみならず、将来の昇進・転職・再就職においても評価される高度な能力へと展開することができる。	
			キャリア実習（短期インターンシップ）		この実習では、短期間のインターンシップを通じて、働くことを多面的に経験し、学びとキャリアの模索への動機付けを促す。この実習では、働く内容や計画を定め、事前研修、就業体験、事後面談、事後研修から構成される。大学での学びがどのように社会において活用されるのか、また働き方の実際を体験する。この実習を通じて、働くことへの意識を高め、今後目指すべきキャリアと適性の方向性を明確化することにより、在学中に修得すべき学びと能力開発への意欲を高めることができる。	

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
全学教養教育	共通科目	CLAコア科目	キャリア実習（短期就業体験）		本実習は、学生が実際の職場で短期間働くことを通じて、職業やキャリアに関する貴重な経験を積む科目である。学生は自身の学びやスキルを実践的な環境で試し、現実の労働市場における仕事の要件や挑戦に直面することになる。具体的には、事前に設定された組織や企業で数週間から数ヶ月間の就業体験を行い、職場のルールや文化に適応し、業務を遂行していく。この実習を通じて、学生は職業的なスキルや専門知識を向上させるだけでなく、実際の労働環境での問題解決やチームワークの重要性も理解することになる。また、キャリア目標の洗練や自己評価の機会も与えられることで、自身の興味や適性を見極め、　将来の職業選択や進路決定に役立てることが期待される。	
			キャリア実習（長期インターンシップ）		この実習では、長期間のインターンシップを通じて、働く意義と人間関係の基礎的スキルを学ぶ。この実習では、学ぶ目的や計画を定め、事前研修、就業体験、事後面談、事後研修から構成される。大学で学んだ知識や理論を、実社会においていかに活用するのか、また組織における働き方を実習を通じて体験し、実務での基礎的スキルの修得や適性の明確化、各自の意欲や能力に応じた職業および働き方の探求を目的とする。この実習を通じて、働く意義と、組織におけるコミュニケーション能力を向上させ、キャリアの方向性を明確にすることができる。	
			キャリア実習（長期就業体験）		この実習では、長期間の就業体験を通じて、企業・団体等の実務の現場において就業上求められる実務能力とより高度なコミュニケーション力を学ぶ。事前に学ぶ目的や計画を定め、事前研修、就業体験、事後面談、事後研修から構成される。大学での学びと実際の職場での就労体験を接合し、企業や業界の特性の把握、職務における実践的スキルの修得を目的としている。実際の職場での仕事を通じて、働く意義を確認し、業種や業務の違いを認識した上で、自らの適正と意欲に応じたキャリア選択を明確にすることができる。	
			ボランティア活動（短期）		本科目は、現代においてボランティア活動がますます重要な意義をもつようになっていることに対応して設けられた科目である。学生の自主性を重んじ、学生が自分で受入先を見つけ、計画を立てて実行することが基本理念となっているが、大学としても本学ボランティアセンターにおいて、受入先に関する情報提供など全般にわたって学生を支援する。本科目では国内外における実動45時間以上の活動を要求するが、この時間をどのように達成するかは学生の自由な計画に委ねられる。学生は自己責任に基づく社会参加の意義を学び、自己の成長につなげることが期待される。	
			ボランティア活動（中期）		本科目は、現代においてボランティア活動がますます重要な意義をもつようになっていることに対応して設けられた科目である。学生の自主性を重んじ、学生が自分で受入先を見つけ、計画を立てて実行することが基本理念となっているが、大学としても本学ボランティアセンターにおいて、受入先に関する情報提供など全般にわたって学生を支援する。本科目では国内外における実動90時間以上の活動を要求するが、この時間をどのように達成するかは学生の自由な計画に委ねられる。学生は自己責任に基づく社会参加の意義を学び、自己の成長につなげることが期待される。	
			ボランティア活動（長期）		本科目は、現代においてボランティア活動がますます重要な意義をもつようになっていることに対応して設けられた科目である。学生の自主性を重んじ、学生が自分で受入先を見つけ、計画を立てて実行することが基本理念となっているが、大学としても本学ボランティアセンターにおいて、受入先に関する情報提供など全般にわたって学生を支援する。本科目では国内外における実動270時間以上の活動を要求するが、この時間をどのように達成するかは学生の自由な計画に委ねられる。学生は自己責任に基づく社会参加の意義を学び、自己の成長につなげることが期待される。	
			市民活動の役割と意義		この講義では、現代の政治や社会をめぐる諸問題の解決に取り組む市民団体等の活動について、その意義と課題について考察する。市民活動をめぐる法的・政治学的な定義を学んだ上で、市民活動の歴史、多様なアクターおよび活動方法、活動内容、政治との関係性等を講義する。公共性や、自主性、社会との連帯の重要性を認識し、市民が共に支え合う地域社会の形成、および共生社会の実現への意欲と知見の修得を目的とする。この学びを通して、自己の利益を超えた社会性や公益性の重要性を意識し、行政とも企業とも異なる社会問題解決への創造的な発想を育むことができる。	
			今年の一冊		米国大学の中には、リベラル・アーツ教育の一環として古典的著作群（グレート・ブックス）を学ぶ伝統がある。たとえばキリスト教の聖書はその代表であるが、それに留まらず、古今東西の作品の中から一冊を選び、一学期かけて読み解き、味わっていく。その際、古典を読むための技法も教授する。それにより、一冊の書物に腰を据えて取り組むことで初めて得られる知的深みがあることを、受講生に体験させることが本講義の目的である。	
			科学技術入門		本授業科目では科学技術や自然現象に興味を持ってもらうために、科学技術そのものに焦点を当てるのではなく、身近な自然現象やSF小説に出てくる事例などを題材にし、それらの現象が引き起こされる理由や、関連する科学技術について解説する形式で講義を行う。これにより、自然科学に関連した科学技術に対して興味関心を抱いてもらうとともに、自然現象が引き起こされる理由を科学的な立場から理解し、具体的に説明できるようになることを目標とする。	
			数学の基礎		実社会における様々な場面において数学的思考法は有用である。そこで、本授業科目では、基礎的な数学の知識の再確認を行うとともに、それらの知識の社会における活用場面や、社会の仕組み・人間の行動・身近な科学技術などを数学的思考法を用いて理解する方法についても学ぶ。これにより、数学に対する苦手意識を払拭し、論理的に物事を考える力を養成し、社会で活躍するための強力な武器となる数学的思考力を身につけることを目標とする。	
			生命科学と倫理		本講義では、生命科学や医療技術の発展を踏まえつつ、生命倫理・医療倫理の諸問題を扱う。たとえば脳死、臓器移植、安楽死・尊厳死、出生前診断、人工妊娠中絶、優生学、インフォームド・コンセント等である。各々について深く掘り下げるとともに、科学・技術と社会の関係、さらに人類がいかにその問題を向き合っていくかについて、倫理学の知見から考察を加える。この講義を受講することで学生は、上記の諸問題に関する基本的知見を得て、自分なりの見解を育むことが期待される。	
			日本国憲法		日本国憲法は、基本的人権論（国民の権利・義務）と統治機構論（国家の組織・作用）の二つに分けられる。どちらも、人々の権利や利益を保障するために必要不可欠であり、これに違反する法律等は無効となると言われている（憲法の最高法規性）。憲法は国家の基本的な約束事を定めている。本講義では、具体的事例を取り上げつつ憲法の諸側面を扱うことで、政治学や法学との関連のみならず、日常生活の次元で憲法問題を意識させることを目的とする。	

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
全学教養教育	共通科目	ＣＬＡコア科目	哲学Ａ		哲学とはいかなる学問なのか、これまで哲学はどのような問題に取り組んできたのか。哲学に初めて触れる受講生を念頭に、哲学という学問の基礎を案内する。古代から現代に至る哲学史の中で提唱されている重要な主張・考え方について、それらがどのようなことを問題にしてきたかを、思想史的または現代的観点から取り上げる。本講義を通して受講生は、哲学史の基礎を習得すると共に、哲学的思考がいかなるものであるかを理解することが期待される。	
			哲学Ｂ		本講義は、哲学の代表的な諸問題を考察することによって哲学独自の思考方法を理解することを目標とする。哲学はあらゆる学問の基礎であり、受講生がいかなる専攻に進むにせよ、哲学はその根本に関わることになる。なぜなら、批判的思考（クリティカル・シンキング）、つまり目の前の問題について「本当にこの答えは正しいのか」ということを粘り強く考え続ける営みだからである。受講生はこの批判的思考を身に付けることで、哲学という学問を超え、日常生活や別領域の学問に取り組むための知的基礎を養うことになる。	
			心理学		本講義は、心理学の基礎的な概念や原則について学ぶ入門科目であり、心理学の歴史、研究方法、主要な理論、領域などについて広くカバーする。受講生は、知覚、学習、記憶、認知、感情、発達、社会的な相互作用、心理的障害など、心理学のさまざまなテーマに触れることになる。また、個人の行動や心理状態を理解するための基本的な概念や枠組みも学ぶ。講義、ディスカッション、読書、実際の心理学の研究の紹介など、必要に応じて多様な教育手法を用いる。本講義の目的は、受講生に心理学の基礎を提供し、心理学の重要性を理解させるとともに、個人や社会に関わる様々な現象を科学的に考察する能力を養うことである。	
			青年心理		本講義は、若者の心理的発達と関連する概念とプロセスを探求する科目である。青年期（10代から20代）の個人の特徴や成長に焦点を当て、身体的、認知的、感情的な変化や社会的な要因の影響を調査する。さらに、自己同一性の形成、人間関係の発展、学業や職業選択への影響など、青年期における重要なテーマを扱う。この科目では、発達理論や研究結果に基づき、青年期の心理的な側面を理解するための枠組みが提供される。受講生は、青年期の個人差や文化的な多様性についても考察し、自己探索や自己成長の過程を探求する機会が与えられる。それにより、若者が自己発見と意義ある生活を追求するための洞察と能力を培うことが期待される。	
			プロジェクト演習		この授業では、「新しい時代を切り拓く」ために必要な知識・技能を修得し、社会における問題解決能力の獲得を目指すため、講義と実習を併用するPBL：Project-Based Learningの形式で実施する。グループワークを通じて課題発見・問題解決能力、他者と協働しプロジェクトを管理する能力を身につけることができる。学外の諸団体と連携し、実社会の視察や、実務家の手法を学ぶことを通じて、実社会の課題や社会問題解決に取り組む意欲と能力を身につけることができる。また学生個人が目標設定、振り返りの仕組みを設定し、客観化や自己評価能力を獲得することができる。課題解決と社会貢献への意識付けを高めることにより、大学の理念「For Others」を体現したリーダーとなることができる。	
		語学科目	英語Ｉｓ（聞く・話す）		グローバル社会で必要な言語の１つとして、英語の運用能力を養うことを目的とする。英語Is（聞く・話す）では、英語を「聞く、話す」における基礎的な力を養いながら、より実践的な英語力を統合的に身につけることを目指し、アクティブなパフォーマンスとプロジェクト・ワークを重視した授業展開を行っていく。ペアまたはグループでのアクティブ・ラーニングを通して、リスニングにおける推測やキーワード掌握といった技能とともに基礎的な会話に必要な語彙を習得し、情報を求めたり、理由を述べたりする力を身につける。会話やプレゼンテーション、ディスカッション能力を高め、会話を継続させながら馴染みのあるさまざまな話題について、簡単に述べることができることを目指す。	
			英語Ｉｓ（読む・書く）		グローバル社会で必要な言語の１つとして、英語の運用能力を養うことを目的とする。英語Is（読む・書く）では、英語を「読む、書く」における基礎的な力を養いながら、より実践的な英語力を統合的に身につけることを目指し、アクティブなパフォーマンスとプロジェクト・ワークを重視した授業展開を行っていく。これらのアクティビティを行うことにおいて、語彙力を高めながら英文の内容を適切に理解すると同時に、自らの考えを、英語で書き、表現し、発信する訓練を重点的に行う。	
			英語Ⅱｓ（聞く・話す）		グローバル社会で必要な言語の１つとして、英語の運用能力を養うことを目的とする。英語Ⅱs（聞く・話す）では、「聞く、話す」における基礎的な英語力を強化しながら、より確実に統合的な力を身につけることを目指し、アクティブなパフォーマンスとプロジェクト・ワークを重視した授業展開を行っていく。ペアまたはグループでのアクティブ・ラーニングを通して、Isで習得したリスニングにおける基礎力を強化しながら、会話やプレゼンテーション、ディスカッション能力を高め、より高度なアカデミックなトピックにおいても自身の考えや意見を明確に伝えることができるようになることを目指す。	
			英語Ⅱｓ（読む・書く）		グローバル社会で必要な言語の１つとして、英語の運用能力を養うことを目的とする。英語Ⅱs（読む・書く）では、Isで養った「読む、書く」における基礎的な英語力を強化しながら、より確実に統合的な力を身につけることを目指し、アクティブなパフォーマンスとプロジェクト・ワークを重視した授業展開を行っていく。Ⅱsでは、これらのアクティビティを洗練させ、Isで習得した語彙力、英文読解力を高め、自らの考えを、堅固なパラグラフ構成のもとに論理的な英語の文章で表現し、発信する訓練を行う。	
			英語Ⅲｓ（聞く・話す）		グローバル社会で必要な言語の１つとして、英語の運用能力を養うことを目的とする。英語Ⅲs（聞く・話す）ではアカデミックなリスニングとスピーキングの練習を行い、これらの技能をさらに発展させる。「聞く」では、意味の予測、主題の把握、より明確で詳細な情報とキーワードの理解の方法等を訓練し内容を理解できるようにする。「話す」では、会話およびディスカッション能力を高めるとともにプレゼンテーション技能を身につけていく。自分の関心のあるさまざまな話題について、ほどほどの流暢さ、長さの論理的で筋の通ったプレゼンテーションができるようになることを目指す。	
			英語Ⅲｓ（読む・書く）		グローバル社会で必要な言語の１つとして、英語の運用能力を養うことを目的とする。英語Ⅲs（読む・書く）では、１年次の授業（Is，Ⅱs）で習得した、英文を読む力と書く力をさらに発展させる。「読む」では、さまざまなトピックのより高度な英語の文章を読み、正しく要点を押さえつつ、効率よく読むための訓練をする。スキミングの手法を使って必要な情報を効率よく読みとるとともに、文章が書かれた背景や筆者の意図を的確につかむことができる。「書く」では、学習した記事や論文について意見を述べたり、必要に応じて個別のリサーチも行い、英文で論理的に思考を表現する訓練を行う。また「読む」において読んだ記事の内容について英語で意見を述べ、論理的に書くことができる。授業は、２０人程度の少人数で演習形式で行っていく。	

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
全学教養教育	共通科目	語学科目	英語Ⅳｓ（聞く・話す）		グローバル社会で必要な言語の１つとして、英語の運用能力を養うことを目的とする。IsからⅢsまでに習得した英文を聞く力と話す力を発展させ定着させていく。英語Ⅳs（聞く・話す）ではアカデミックなリスニングとスピーキングの練習を行い、これらの技能をさらに発展させる。「聞く」では、Ⅲsで訓練してきた技法を駆使して、主題とその詳細を確実に理解できるリスニング能力を養う。「話す」では、会話やグループ・ディスカッションを主導し、その中で自分の考えや意見を明確に述べることができる。また、自分の関心のあるさまざまな話題について、長さ、内容、論理性などがより発展的であるとともに、プレゼンテーションを行う姿勢などにおいても、トータルとして精巧なプレゼンテーションができるようになることを目指す。	
			英語Ⅳｓ（読む・書く）		グローバル社会で必要な言語の１つとして、英語の運用能力を養うことを目的とする。英語Ⅳs（読む・書く）では、IsからⅢsまでに習得した英文を読む力と書く力を発展させ定着させていく。「読む」では、身近な話題やアカデミックな分野のさまざまなトピックについて、習得したスキルを駆使しながらより高度な英語の文章を読み、正しく要点を押さえ、必要な情報を効率よく、すばやく読みとる訓練をする。簡潔な事実関係のテクストで、自分の専門分野や興味の範囲内のものは、ほとんどのものを理解できるようになることを目指す。「書く」では、学習した記事や論文について、必要に応じて個別のリサーチも行いながら、より複雑で詳細な思考や事柄を英文で論理的に表現する訓練を行う。	
			英語Ⅱｉ（分析・理解）		「英語Ⅱi（分析・理解）」は、英語を日常的に使いこなすとともに、アカデミックな（または卒業後のグローバル社会におけるビジネス分野においても）プレゼンテーションなどに必要な英語のスキルを養うことを目的としている。英語Ⅱi（分析・理解）では、取り入れた情報を「分析」し「理解」する上で必要となるリーディング能力とリスニング能力の堅固な基盤を築いていく。リーディングでは、語彙を増やし、プレビュー、スキミング、スキャニングなどの読解のスキルを使用し、段落の基本的な構造を理解しながら、短いシンプルな学術的なテキストの要点を理解することができる。リスニングでは、音の構造を学びながら、予測、推論、キーワードに焦点を当てるなど、リスニングスキルを身につけ、会話、ミニ講義、メディアを含む、ゆっくりと注意深く話される英語を理解することができるようになることを目指す。	
			英語Ⅱｉ（発信・表現）		「英語Ⅱi（発信・表現）」は、英語を日常的に使いこなすとともに、アカデミックな（または卒業後のグローバル社会におけるビジネス分野においても）プレゼンテーションなどに必要な英語のスキルを養うことを目的としている。英語Ⅱi（発信・表現）では、特に自身の思考や意見を「発信」し「表現」する上で必要となるスピーキング能力とライティング能力の堅固な基盤を築いていく。スピーキングでは、自身の意見や考えをジェスチャーを用いて表現しながら、会話やディスカッションに積極的に参加し、簡単な質問に答えたり、簡単な発言に返答したりすることができるようになることを目指す。ライティングでは、単語や基本的な文法スキルのバリエーションを持ったシンプルなフレーズや文を正確に書くことができるようになることを目指す。	
			英語Ⅱｉ（プロジェクト）		英語Ⅱi（プロジェクト）は、Ⅱiの「分析・理解」、「発信・表現」で学んだスキルをもとに、調査およびプレゼンテーションスキルを発展させることを目的としている。グループでプロジェクトにとりくみ、企画から資料の検索、情報の整理などにおける基礎を学ぶとともに、これらの資料を用いながら、スライドの作成方法を習得し、スピーチの心得や姿勢など、プレゼンテーションにおける基礎的な知識についても学んでいく。一学期中２回程度の実践的なグループプレゼンテーションを通して、プレゼンテーションに必要な知識とスキルをを身に付けていく。また、ポートフォリオを活用することで、適宜、振り返りや目標設定を適切に行っていく。基礎的な英語能力については、EnglishCentral（オンライン）を活用し、自主的な学習を促している。	
			英語Ⅲｉ（分析・理解）		「英語Ⅲi（分析・理解）」は、英語を日常的に使いこなすとともに、アカデミックな（または卒業後のグローバル社会におけるビジネス分野においても）プレゼンテーションなどに必要な英語のスキルを養うことを目的としている。英語Ⅲi（分析・理解）では、Ⅱiで養ったリーディング能力とリスニング能力の発展させていく。リーディングでは、語彙をさらに増やし、Ⅱiで習得したプレビュー、スキミング、スキャンなどのスキルを駆使し、中程度の速度で長めのアカデミックな内容のテキストの詳細と主要ポイントを正確に理解できるようになる。リスニングでは、Ⅱiで養ったスキルを発展させ、一般的に馴染みのあるアクセントで、中程度のスピードで話される日常的なトピックやアカデミックなトピックに関する事実に基づく情報をほとんど理解できるようになることを目指す。	
			英語Ⅲｉ（発信・表現）		「英語Ⅲi（発信・表現）」は、英語を日常的に使いこなすとともに、アカデミックな（または卒業後のグローバル社会におけるビジネス分野においても）プレゼンテーションなどに必要な英語のスキルを養うことを目的としている。英語Ⅲi（発信・表現）では、Ⅱiで養ったスピーキング能力とライティング能力を発展させていく。スピーキングでは、日常の問題や学術的なトピックについて積極的に議論に参加し、自分のアイデアを支持しながら、論理的に賛成/反対意見を正確に述べることができるようになる。ライティングでは、トピック・センテンスとそれを説明する文を含み、同時にスムーズに文を移行させる副詞などを使って、まとまった複数段落（因果関係と比較）を書くことができるようになることを目指す。	
			英語Ⅲｉ（プロジェクト）		英語Ⅲi（プロジェクト）は、Ⅲiの「分析・理解」、「発信・表現」で学んだスキルをもとに、調査およびプレゼンテーションスキルをより発展させることを目的としている。また、Ⅱiで身につけた知識とスキルをさらに発展させ、プレゼンテーションにおけるより戦略的で発展的な知識を身につけていく。グループでプロジェクトに取り組み、企画、効果的な資料収集ができるようになり、作成されるスライドもビジュアル的な効果（図、表、グラフなど）を用いたり、またそれを説明する方法を学び、実践的な発表を行う。Ⅱiに引き続き、ポートフォリオを活用して、適宜振り返りや目標設定を適切に行い、自身の強みや弱点を認識する。基礎的な英語能力についても引き続き、EnglishCentral（オンライン）を活用し、自主学習の分量を増やしながら力を発展させていく。	

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
全学教養教育	共通科目	語学科目	英語Ⅳｉ（分析・理解）		「英語Ⅳi（分析・理解）」は、英語を日常的に使いこなすとともに、アカデミックな（または卒業後のグローバル社会におけるビジネス分野においても）プレゼンテーションなどに必要な英語のスキルを養うことを目的としている。英語Ⅳi（分析・理解）では、Ⅲiまでに養ったリーディング能力とリスニング能力を定着させていく。リーディングでは、これまでに習得したスキルを活用し、長く複雑でアカデミックな内容のテキストを、詳細も把握しながら、より迅速に、より深く理解することができる。リスニングでは、これまでに習得したスキルを活用し、より長く、より複雑な日常的およびアカデミックなスピーチの中で、情報をより正確に理解することができる。また、図表やグラフなどに対する詳細な情報も聞き取って理解することができるようになることを目指す。	
			英語Ⅳｉ（発信・表現）		「英語Ⅳi（発信・表現）」は、英語を日常的に使いこなすとともに、アカデミックな（または卒業後のグローバル社会におけるビジネス分野においても）プレゼンテーションなどに必要な英語のスキルを養うことを目的としている。英語Ⅳi（発信・表現）では、Ⅲiで養ったスピーキング能力とライティング能力を定着させていく。スピーキングでは、ディスカッションに積極的に参加することに加えて、ディスカッションをリードし、より批判的に議論を行うことができる。比較的流暢かつ正確に話すことができる。ライティングでは、調査に基づいて、序論、本論、結論の段落を含む、アカデミックなエッセイ（論理的/賛否両論）を書くことができる。複数の段落で慣用表現や口語表現を使い、現代的な問題に対する自身の考えを論理的に説明できるようになる。	
			英語Ⅳｉ（プロジェクト）		英語Ⅳi（プロジェクト）は、Ⅳiの「分析・理解」、「発信・表現」で学んだスキルをもとに、調査およびプレゼンテーションスキルの習得を完成させていくことを目的としている。また、Ⅲiまでに身につけた知識とスキルを定着させ、より長く、堅固な構成（イントロダクション-本論-結論）によるプレゼンテーションができるようになることを目指す。グループでプロジェクトに取り組み、企画し、十分な資料収集を用いて発表資料を作成する。校正を繰り返しながら、卓越した実践的な発表ができるようになることを目指す。Ⅲiに引き続き、ポートフォリオを活用して、これまでに認識してきた自身の弱点を克服するとともに、強みを伸ばしていく。引き続き、EnglishCentral（オンライン）を活用し、自主学習の分量を増やしながら基礎力を高め、定着させていく。	
			英語Ⅴｉ（プロジェクト）		英語Ⅴi（プロジェクト）は、集中英語プログラムの集大成として、ⅡiからⅣiので学び、完成したスキルを実践的に活用させる目的としている。これまでに考察してきたアカデミックなテーマの中から、自ら関心のあるトピックを見出し、グループで企画、資料収集、調査を行う。十分な資料をもとに、十分な長さをもち、論理的かつ堅固な構成による発表原稿を作成し、スライドなど、効果的な発表資料を作成できるようになる。原稿、スライドともに校正を繰り返し行い完成させるとともに、発表練習を繰り返すことにより、声の大きさ、ジェスチャー、姿勢なども、公的でフォーマルなプレゼンテーションにおいて適切であるように完成させていく。最終的には学年合同でのプレゼンテーション大会を行い、コースにおける学習の成果を共有する。	
			英語e（Academic Reading）		英文のスピーチを正確に読み解くことができるようになり、スピーチに関連する英文資料を探し、読み解いた上で活用できるようになることを目的とする。また、自分の意見や考えを効果的にプレゼンテーションすることができるようになるためのCritical Thinkingの意識と方法を身につけていく。具体的には、"TED: Ideas Worth Spreading"に収録されているスピーチの中から、「ことば」「ジェンダー」「平等」などをめぐるものを選び、スピーチを聴くだけではなく、スクリプトを確認することで現代的な問題意識を確認していく。授業では、各スピーチを確認し、必要な事柄を調べ、ディスカッションを行い、それらを踏まえた上で自分の考えをまとめる訓練をしていく。	
			英語e（Discussion and Debate）		この授業は、英語によるディスカッションやディベートのスキルを習得することを目的とする。チームを作り、議論の的となるさまざまなトピックについて意見を共有し、議論を準備し、調査する方法を学ぶ。あるトピックに対して同意または反対する意見を持ち、批判的に物事を評価する思考力を鍛える。また、自らの意見をサポートし、論理的な議論を展開するために、十分な調査、準備が必要であることを学び、それらを英語で表現するための語彙力、表現力を身につける。これらの訓練を通して、グループディスカッションの場で自身の意見や思考を自信を持って表現する能力を向上させていく。	
			英語e（English through Movies）		アメリカの人気ドラマModern Familyを題材とし、英語運用能力の向上を図る。リスニング（ドラマの特定の場面をとりあげ、聞き取りの練習をする）、スピーキング（台詞を口に出して練習する）リーディング（ドラマについての批評やエッセイを読む）、ライティング（ドラマの感想を書く）など、様々なアクティビティを通じて英語のインプット/アウトプット能力を養う。また、ジェンダーや人種等の諸問題に注目しつつ、ドラマのなかでアメリカの家族がどのように表象されているかを分析し、現代アメリカ文化に対する理解を深める。	
			英語e（TOEFL-iBT PreparationⅠ）		この授業は、アカデミックなテスト攻略法を用いて、TOEFL のスコアアップを図ることを目的としている。授業では、実践的なテストの特定のセクション、特にリーディングとリスニングを重点的に取り上げて演習を行っていく。TOEFLの点数を上げるため、目的とするスコアに必要な英単語を覚え、果敢に問題に挑む力を養っていく。この授業を通して、TOEFLの試験に対応するだけでなく、4技能を含む、総合的な英語力を向上させることを目指す。	
			英語e（TOEIC Preparation Ⅰ）		この授業は、TOEICテストでスコアを獲得するために必要なスキルと攻略法を学ぶことを目的とする。特に、TOEIC-iBTテストのリスニングおよびリーディングセクションのスコアを向上させることを目指す。TOEICテストに頻出する語彙を学び、テキストに即して、実践的な問題に取り組むことにより、TOEIC問題の特徴や形式に慣れ、理解し、問題への取り組み方を習得する。同時に、弱点を認識しながら、基礎的な英語力を定着させていく。進捗を測定するために実践形式でテストを行っていく。	
			英語e（TOEIC Preparation Ⅲ）		TOEICのListeningとReadingのスコアを伸ばすことがこの授業の目的である。とりわけ、多くの学生が苦手とするReading Skillの向上に焦点を当てて授業を行う。スコアを上げるために必要な単語を憶え、時間内に素早く解答を見出すとともに、そのために必要な集中力を養っていく。本授業を通じて、TOEICを攻略するためのスキルだけでなく、4技能を始め、総合的な英語力を高めていくことを目指す。	

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
全学教養教育	共通科目	語学科目	英語e（Academic Reading: Advanced）		現代社会において必須とされる英語を習得し、活用していくための知識とスキルを身につけることを目的とする。この授業では、特に、英語文献から情報を得ることができるようになるため練習をしていく。Advanced Skills for Reading を基本のテキストとし、各ユニットのテーマに即したその他の教材を交えながら、アカデミックな英語を読むための具体的なスキルの訓練をしていく。ワンランク上の読解能力を身につけるために必要な語彙の増強、構文理解のための文法的知識の復習と強化、すばやい内容把握のための技術、詳しく正確に読むための技術などを幅広く身につけていくことを目指す。	
			英語e（Conversation Skills: Basic）		この授業では、基本的な英会話スキルを身につけることを目的とし、そのために必要な英語会話のスキルを習得する。他者が話した内容に基づいて適切な質問をしたり、自身の考えや意見を述べ、会話を継続することができるようになることを目指す。身近にある様々なトピック（家族、食生活、音楽、自由時間など）を取り上げ、基礎的かつ必須の語彙やフレーズを学び、現実生活の中で自信を持って自然に表現することができる能力を向上させていく。	
			英語e（News and Views）		この授業では、テキストに即して、社会科学に関連した話題を英語で扱い、自身の考えや視点を持ち、英語で適切に表現できるようになることを目的とする。特に、リスニングと、ディスカッションおよびプレゼンテーションに重点をおく。アカデミックな社会科学分野の語彙を学び、リスニングでは、社会科学に関連した話題についての短い講義を聞いたり、ビデオを見たりしながら、リスニング力を強化していく。ディスカッションとプレゼンテーションでは、これらの内容に関して、批評的な観点から自身の視点や考えをまとめ、この分野に関する専門的な語彙も交えながら、適切に自信を持って自らの意見を表現する訓練をしていく。	
			英語e（Creative Writing）		この授業は、英語による創造的な表現の形としての文章作成スキルを習得することを目的とする。いくつかの詩や短編小説を読み、同時に、それらの例を参考にしながら、課されたトピックについて自ら詩や短編小説を書く訓練を行う。書かれた原稿に対して、フィードバックを繰り返しながら、語彙、表現を磨き、作品の質を高めていく。これらの訓練を通して、英語力とともに、創造力、批判的思考力を向上させることを目指す。	
			英語e（Academic Listening）		英語で行われる学術的な講義を理解し、効率的にノートを取る準備を目的としている。授業では、効果的なノートの取り方やノート作成方略、学術的な講義の構成や講義構造の理解、選択的なリスニングストラテジーの使用、そして英語の様々なバリエーションに対する意識を高めることなどに重点を置いた活動に取り組んでいく。学生は授業で紹介されるリスニングやノートテイキングの方略を使って、英語で行われる学術的な講義を理解し、自然なスピーチの速さで様々なアクセントの英語を理解する力を訓練していく。	
			英語e（Conversation Skills: Advanced）		この授業では、より高度な会話力を身につけることを目的とし、そのために必要な英語会話のスキルを発展させていく。自身で選んだ様々なトピックに関するディスカッションの中で、質問の仕方やレスポンスの仕方などを身につけ、会話の流れを維持するスキルを習得する。また、ディスカッションにおいて、自身の考えや意見を自然で微妙なニュアンスを交えながら表現するための語彙力や表現力を強化し、リアルな英語の会話の状況に自信を持って参加することができる流暢な英語話者になることを目指す。	
			英語e（English through Music: Basic）		この授業は、音楽、特に、歌を中心として扱い、楽しみながら英語力を向上させることを目的とする。中でも、比較的発音が聞き取りやすく、歌詞も明確だと思われる1970年代から80年代に流行したアメリカン・ポップスを主に題材として取り上げる。カーペンターズの代表曲をメインに据え、それらの曲の作られた時代背景や作者のバックグラウンドを踏まえたうえで、語法・文法や構文に注意しながら歌詞の内容を読み解いた後、その曲をできるだけ自分で歌えるように発音上のポイントなどを考えていく。	
			英語e（Grammar: Basic）		この授業では、英語をより正確に理解し活用することができるように、基本的な文法事項をおさえ、身につけるための訓練をしていく。それぞれの項目における多くの例文や練習問題などを通して、基礎英文法、構文、イディオムなどを理解し、習得する。また、writing、reading、listening、speaking、コミュニケーションスキルの向上にも役立て、より高度で洗練された英語を使いこなすことができるようになることを目指す。	
			英語e（Business Communication）		この授業では、社会で働く上で必要な英語に焦点を当て、さまざまな業界で有用となる英語力を身につけることを目的とする。仕事をする上で役立つ語彙や表現をカバーしながら、リスニング、対話、プレゼンテーションの練習を行う。最終的には、基本的なビジネス用語と概念についてより深い理解を持ち、様々な仕事で十分かつ効果的にコミュニケーションができるようになることを目指す。これらの訓練を通して、リスニング、スピーキング、プレゼンテーションスキルなどの英語基礎力の全般的な向上を期待する。	
			英語e（Speech and Debate）		このクラスは、英語で行われる演説やディベートのスキルを発展させることに焦点を当てる。さまざまな演説などを聞き、スピーチのコツとスキルを習得する。その上で、これらの模範的な演説を参考にしながら、与えられたテーマについてプレゼンテーションを行う。また、自身の考えや意見を持つ訓練を行い、それを効果的に英語で表現したり、反論したりするコツを掴む。しっかりとした理由に基づく考察を持つことができるとともに、自信を持って人前で英語をスピーチすることができるようになることを目指す。	
			英語e（TOEIC Preparation Ⅱ: Listening）		この授業では、TOEICテストのリスニング力を向上させることを目的とし、さまざまな方略を紹介していく。授業は、演習形式で、テキストに沿って様々なテーマのリスニング内容に触れることにより、リスニング力を強化していく。授業は、アクティブラーニングの原則に従って行われ、グループにおける学生の積極的な授業参加により実践的な力を養う。また、スピーキング活動も行い、インプットとアウトプットを相互に関連づけながらTOEICテストに対応しうる力を身につけていく。	
			英語e（TOEIC Preparation Ⅱ: Reading）		TOEIC TESTのReadingセクションに焦点を当て、スコアアップを目指す。TOEICテストのReadingセクションのスコアを伸ばすための目標として、まず、高スコアを獲得するために必要な英語の単語を習得し、英語の文法を正確に理解、習得する。また、リーディングのスキルを学び、テキストの速読ができるようになり、予測を立てながら、少し難しい内容にも対応できるようになることを目指す。さらに、実践的な問題を使用しながら、ビジネスの状況を想像しながら、テキストの内容を理解できるようになることを目的とする。	

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
全学教養教育	共通科目	語学科目	英語e (Pronunciation: Basic)		この授業では、英語の音声を学び、実践的なアクティビティを通じて英語を聞き、話し、発音を改善することを目的とする。具体的には、母音、二重母音、子音、音節、アクセントなどの発音に関する項目を学び、音声記号を使用して発音が難しい単語の発音を練習することにより、自然な発音ができるようになる。ネイティブスピーカーの発音を聞き取るトレーニングも行い、詩の朗読、英語のカラオケ、書籍、演劇、映画の読み聞かせなど、発音スキルを習得するための様々な機会に触れる。英語を明瞭に発音し、ネイティブスピーカーが話す英語を理解することができるようになるとともに、高いレベルで英語を話すことができるようになる。	
			英語e (Writing Skills)		この授業では、文の構造や段落の構造を理解し、パラグラフの書き方の基礎を習得することを目的とする。まず、しっかりとしたパラグラフを作成するために必要となるアウトラインの書き方から、序論、本論、結論の基礎的な書き方を順に学んでいく。また、分類、説明、比較などのさまざまな種類のエッセイの書き方についても学ぶ。パラグラフやエッセイを仕上げていく過程としてのプルーフ・リーディングやエディティングの方法なども身につけていくことを目指す。	
			英語e (Vocabulary)		この授業では、英語語彙の理解を深め、語彙の習得と定着を目的とする。習得目標語彙は100語である。授業では、テキストに即した様々なテーマのリーディング材料を理解していく中で、語彙の形式、意味、使用法に注意しながら、一つ一つの語彙の仕組みを認識できるようにする。暗記を繰り返しながら、言葉に慣れ親しみ、自らさまざまな状況の中で利用し、資格試験においても高得点を獲得できるだけの語彙力を身につけることを目指す。	
			英語e (TOEFL-iBT Preparation Ⅱ: Reading/Writing)		TOEFL iBTテストに慣れ、得点を獲得するために必要な学術的な英語の読み書きのスキルを習得することを目指す。この授業では、特に、TOEFLテストのリーディングおよびライティングセクションでのスコアを向上させる。得点を獲得するために必要な語彙を身につけ、実践的なテスト形式での訓練と解説を行っていく。またライティングにおいて、基礎的なパラグラフ構造を学び、テストで課される実践的でアカデミックなトピックに対する思考を深める訓練を行う。自らの意見を、適切な英語で、論理的かつ効果的に書くことができるようにスキルを習得し、訓練していく。	
			英語e (TOEFL-iBT Preparation Ⅱ:Listening/Speaking)		この授業では、TOEFL-iBTテストでワンランク上のスコアを獲得するための英語のスキルと攻略法を学ぶことを目的とする。このクラスでは、特に、リスニングとスピーキングの集中的な訓練を行う。高いスコアを獲得するために必要な語彙を学び、英語を聴きとり、それに応じるために必要なスピーキング力と、同時に思考力を養う。リスニングに関しては教員が用意する様々な教材を用い、スピーキングについては『TOEFLテスト：スピーキング問題110』をテキストとして使用する。	
			英語e (Extensive Reading)		この授業は、広範な読書を通して読解力向上にさせることを目的とする。定期的に自身のレベルにあった（容易に理解できる）、また好みのトピックの英語のテキストを読み、内容をまとめ、理解度を確認していく。読解速度と語彙レベルを向上させるため、詳細にこだわらず、大まかに全体の内容を掴みながら、段階的に、レベル分けされた多くの本を読む訓練を行う。授業の内外で多くの比較的易しいレベルの本を読む訓練を行うことにより、より速いペースで、多くの新しい単語やフレーズを理解することができるようになることを目指す。	
			英語e (Special Topic)		この授業では、学生の要望やニーズに応え、多様性に富んだ授業を提供する。それぞれの学生が、自身の関心や目的に即して履修することにより、英語の学習に専心し、学びの楽しみを味わいながら英語力を伸ばすことを目的としている。コミュニケーションやプレゼンテーションなどのスキルや、扱うテーマやトピックにおいても多様な授業を提供し、それぞれの授業内容に応じて到達目標を達成するために必要な力を強化していくことを目指す。	
			英語e (IELTS PreparationⅠ)		この授業では、IELTSの概要を理解し、IELTSの受験に必要な語彙力とスキルを身につけることを目的とする。授業では、リーディング、リスニング、ライティング、スピーキングの４つの実践的な問題演習を通して、IELTSの試験形態に慣れ親しむとともに、これらの演習を通して、基礎的な英語力を確認し、習得していく。自身の弱点を認識し、強化していくことにより、IELTSテストを、より十分な準備と自信をもって受験することによりスコアの向上を目指す。IELTSテストの特徴についての理解だけでなく、英語の習熟度を高め、IELTSのバンドスコア5 (CEFR: B1) を達成を目指していく。	
			英語e (IELTS PreparationⅡ)		この授業では、IELTSの概要を理解し、IELTSの受験に必要な語彙力とスキルを身につけることを目的とする。授業では、リーディング、リスニング、ライティング、スピーキングの４つの実践的な問題演習を通して、IELTSの試験形態に慣れ親しむとともに、これらの演習を通して、基礎的な英語力を確認し、習得していく。自身の弱点を認識し、強化していくことにより、IELTSテストを、より十分な準備と自信をもって受験することによりスコアの向上を目指す。IELTSテストの特徴についての理解だけでなく、英語の習熟度を高め、IELTSのバンドスコア6.0-6.5(CEFR: B2)の達成を目指していく。	
			英語e (Songs and Poems)		この授業では、英語の歌（その詩）を使用して英語力を向上させることを目指す。英語の歌（その詩）を精読し、日本語訳をするなど意味を理解したうえで言葉の音やリズムを分析し、英語で歌う、または声に出して読む。歌や詩の細部への関心・積極的に声を出す姿勢も養っていく。授業は演習形式で行い、英語の歌やその詩を聴いて楽しむだけでなく、その内容・発音・言葉のリズム・雰囲気などを積極的に理解し、英語の歌や詩を総合的に楽しむ感覚を身につける。	
			英語e (EIKEN Grade 2 Preparation)		この授業は、英検２級に合格するために必要なスキルを向上させることを目的としている。具体的には、まず、これまでの試験に出されてきたトピックを使用しながら、２級合格に必要な語彙を習得し増やしていく。また、実践的な過去問題を使用し、リスニング、スピーキング、リーディング、ライティングの試験方式に慣れ、受験の際のテクニックや要領を身につけることに重点を置く。自身の目標を設定し、弱点を認識し、克服しながら英語のスキルを向上させていくことを目指す。学習の成果、進歩を測定するために実践的なテストを実施する。	

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
全学教養教育	共通科目	語学科目	英語e（EIKEN Grade Pre-1 Preparation）		この授業は、英検準１級に合格するために必要なスキルを向上させることを目的としている。具体的には、語彙を増やし、文脈や単語の構造から知らない単語の意味を推測する必要な戦略を習得する。また、スキミング、スラッシュリーディング、スピードリーディングなどのスキルを身につけ、素早く正確に内容を把握できるように訓練していく。リスニングでは、スラッシュリスニングやシャドーイングなどのトレーニングを行うことで、全体の要旨をつかむことができるようになる。同時に、問題に沿った詳細な部分をつかむ訓練を行う。ライティングでは、文構造を理解し、論理的なエッセイを書くことができるようになる訓練を行う。実践的な過去問題を使用し、リスニング、スピーキング、リーディング、ライティングの試験方式に慣れ、受験の際のテクニックや要領を身につけ、慣れ、習得することを目的とする。	
			英語e（Pre-Study Abroad: Basic）		英語留学プログラム中に遭遇しがちな状況に焦点を当て、英語能力における入門的な留学準備を行う。扱われるトピックとして、現地への出発と到着、挨拶、交通機関の利用、人々との交流、教室でのやり取り、また健康面や銀行でのやり取り、問題解決など、生活上のさまざまな状況も含まれる。授業では、必要な語彙の習得、習慣や文化的背景を学ぶとともに、全般的な英語能力の向上を目指す。さらに、現地での学びを想定した情報収集、調査の方法についても学んでいく。	
			海外語学実習（アメリカ）		この授業は、研修前の事前講習、米国ワシントン州シアトルにあるワシントン大学における3週間の夏季集中英語講習、シアトルにおける生活および文化交流体験、そして帰国後の事後講習の４つの要素から成り立っている。現地のクラスは異なる大学や国からの学生で構成され、異なるバックグラウンドを持つ者同士が交流し、互いに学び合う機会が提供される。授業を通じて、英語力および異文化環境でのコミュニケーション能力の養成、現地の社会や文化にふれる経験を通じての学びが促進される。	
			海外語学実習（イギリス）		この授業は、研修前の事前講習、カンタベリー・クライスト・チャーチ大学での3週間の夏季集中英語講習、カンタベリーにおける文化・歴史・芸術体験、そして帰国後の事後講習の４つの要素から成り立っている。現地のクラスは異なる大学や国からの学生で構成され、異なるバックグラウンドを持つ者同士が交流し、互いに学び合う機会が提供される。授業を通じて、英語力および異文化環境でのコミュニケーション能力の養成、現地の文化や芸術にふれる経験を通じての学びが促進される。	
			海外語学実習（カナダ）		この授業では、学内で事前研修を受けたのち、カナダの語学学校にて、4週間の英語集中コースを受講する。帰国後、研修の成果をレポートにまとめる。ブリティッシュ・コロンビア州の州都であるビクトリアは、太平洋岸に位置し、2月でも寒さが厳しくなることはまれであり、イギリス文化の影響を強く受けながらも、多様な人々が豊かな文化を形成する美しい街である。ビクトリア大学では、レベル別にクラスを振り分けられ、英語の四技能を伸ばす。同時に、カナダの文化・社会についてのディスカッションや歴史的なサイトへの訪問などをとおして、体全体で言葉と文化を学ぶ。	
			フランス語Ⅰ（入門）		この授業は、フランス語の初学者を対象として、演習形式で実施される。受講生が入門レベルの文法・語彙の知識、発音と簡単な会話表現、およびフランス語圏の文化・社会に関する基礎知識を習得することを到達目標とする。文法の解説や練習問題のほか、学生同士のペアワークやグループワークを取り入れながら、挨拶、自己紹介、レストランやショッピングでのやり取り等の会話表現の実践的な練習も行う。また、教員がフランス語圏の音楽、芸術、食文化、スポーツ、生活習慣、歴史、時事問題等を紹介する時間も設ける。	
			フランス語Ⅱｓ（文法）		この授業は、1年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が入門～初級レベルの文法の知識を習得し、体系的な理解を深めることを到達目標とする。アルファベ、単母音・複母音・鼻母音・半母音・子音の発音、リエゾン・アンシェヌマン・エリジオン、名詞の性と数、冠詞、形容詞、主語人称代名詞、-er動詞/être/avoir等の活用と用法、否定文等の事項を取り上げる。教員による文法解説のほか、理解を深めるための練習問題や、習熟度を確認するための小テスト等も実施する。	
			フランス語Ⅱｓ（理解）		この授業は、1年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が入門～初級レベルのリーディングやリスニングのスキルを習得し、フランス語で情報をインプットする能力を高めることを到達目標とする。挨拶や自己紹介のダイアローグ、レストランやショッピングでのダイアローグ、フランス語圏の生活習慣や食文化に関する短い説明文など、多岐に渡るテーマを取り上げる。教員による文法や語彙の解説のほか、テキストの内容に関するクイズや、学生によるプレゼンテーション等も実施する。	
			フランス語Ⅱｓ（表現）		この授業は、1年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が入門～初級レベルのスピーキングやライティングのスキルを習得し、フランス語で情報をアウトプットする能力を高めることを到達目標とする。挨拶や自己紹介にはじまり、レストランやショッピングや旅行で使える初歩的なフレーズ、友人や教師との短文メール等、実践的で多岐に渡るテーマを取り上げる。教員による発音や語彙の解説のほか、活発な会話を促すためのゲームや、学生によるディスカッション等も実施する。	
			フランス語Ⅲｓ（文法）		この授業は、2年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が初級～中級レベルの文法の知識を習得し、体系的な理解を深めることを到達目標とする。形容詞の性数、所有形容詞、疑問形容詞、疑問副詞、疑問代名詞、数量表現、近接未来・近接過去、-ir/-re/-oir動詞/aller/venir等の活用と用法、縮約等の事項を取り上げる。教員による文法解説のほか、理解を深めるための練習問題や、習熟度を確認するための小テスト等も実施する。	
			フランス語Ⅲｓ（理解）		この授業は、2年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が初級～中級レベルのリーディングやリスニングのスキルを習得し、フランス語で情報をインプットする能力を高めることを到達目標とする。フランス語圏の観光地や世界遺産、音楽やスポーツやファッション等、多岐に渡るテーマに関する説明文、童謡や簡単な流行歌などを取り上げる。教員による文法や語彙の解説のほか、テキストの内容に関するクイズや、学生によるプレゼンテーション等も実施する。	
			フランス語Ⅲｓ（表現）		この授業は、2年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が初級～中級レベルのスピーキングやライティングのスキルを習得し、フランス語で情報をアウトプットすることを到達目標とする。家族や学校や趣味やアルバイトの話題、レストランやショッピングや旅行で使える基本表現、日本文化を紹介するための表現等を取り上げる。教員による発音や語彙の解説のほか、活発な会話を促すためのゲームや、学生によるディスカッション等も実施する。	

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
全学教養教育	共通科目	語学科目	フランス語Ⅳｓ（文法）		この授業は、2年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が中級レベルのフランス語文法の知識を習得し、体系的な理解を深めることを到達目標とする。授業では、比較級・最上級、命令形、代名動詞、関係代名詞、ジェロンディフ、複合過去、補語人称代名詞、半過去、単純未来、条件法現在、接続法現在などの事項を取り上げる。教員による文法解説のほか、理解を深めるための練習問題や、習熟度を確認するための小テスト等も実施する。	
			フランス語Ⅳｓ（理解）		この授業は、2年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が中級レベルのリーディングやリスニングのスキルを習得し、フランス語で情報をインプットする能力を高めることを到達目標とする。フランス語圏の美術・建築・映画等に関するエッセイ、時事問題に関する新聞記事、公私の様々なシチュエーションでのメール等を取り上げる。教員による文法や語彙の解説のほか、テキストの内容に関するクイズや、学生によるプレゼンテーション等も実施する。	
			フランス語Ⅳｓ（表現）		この授業は、2年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が中級レベルのスピーキングやライティングのスキルを習得し、フランス語で情報をアウトプットする能力を高めることを到達目標とする。食べ物や音楽や映画の好みを語り合うための表現、友人や教師との長文メール、日本の社会問題について説明するための表現等を取り上げる。教員による発音や語彙の解説のほか、活発な会話を促すためのゲームや、学生によるディスカッション等も実施する。	
			フランス語Ⅱｉ（文法）		（概要）この授業は、1年次生を対象として、講義形式で実施される。受講生が入門～初級レベルのフランス語文法の知識を習得することを到達目標とする。授業では、アルファベ、発音とつづり字の規則、名詞の性と数、主語人称代名詞、冠詞、形容詞、否定文、疑問文、数詞、指示形容詞、所有形容詞、直説法（現在、複合過去、半過去、単純未来）、比較級・最上級、命令形、代名動詞、関係代名詞等の事項を取り上げる。教員による文法解説のほか、理解を深めるための練習問題や、習熟度を確認するための小テスト等も実施する。 （オムニバス方式／全45回） （44　木水　千里／30回） 動詞の活用や新出の文法事項の用法などを丁寧に解説した後、練習問題を解きながら、新しく学んだ文法事項の定着を図る。 （127　KREMER OGURA ALEXANDRA JEANNE LOUISE／15回） 新出単語や動詞の活用など、発音に重点を置き、授業を進める。また、簡単な会話の練習も行い、実践力を培うことを目指す。	オムニバス方式
			フランス語Ⅱｉ（理解）		この授業は、1年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が入門～初級レベルのリーディングやリスニングのスキルを習得し、フランス語で情報をインプットする能力を高めることを到達目標とする。挨拶や自己紹介のダイアローグ、レストランやショッピングでのダイアローグ、フランス語圏の生活習慣や食文化に関する短い説明文、友人との簡単なメール等を取り上げる。教員による文法や語彙の解説のほか、テキストの内容に関するクイズや、学生によるプレゼンテーション等も実施する。	
			フランス語Ⅱｉ（表現）		この授業は、1年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が入門～初級レベルのスピーキングやライティングのスキルを習得し、フランス語で情報をアウトプットする能力を高めることを到達目標とする。挨拶や自己紹介、レストランやショッピング、旅行で使える初歩的なフレーズと基本表現、友人や教師との短文メール、国や地方ごとに異なるフランス語の語彙のバリエーション等を取り上げる。教員による発音や語彙の解説のほか、活発な会話を促すためのゲームや、学生によるディスカッション等も実施する。	
			フランス語Ⅱｉ（総合）		この授業は、1年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が入門～初級レベルのフランス語の４技能（読む・聞く・話す・書く）を駆使して実践的なスキルを習得することを到達目標とする。個人またはグループごとにテーマを設定して、文献調査やその他のさまざまな手段で情報を収集し、日本語およびフランス語でディスカッションをする等のアクティブラーニングを通じて、フランス語力を向上させると同時にフランス語圏に関する見識を深める。	
			フランス語Ⅲｉ（文法）		この授業は、2年次生を対象として、講義形式で実施される。受講生が初級～中級レベルのフランス語文法の知識を習得することを到達目標とする。授業では、非人称構文、強調構文、中性代名詞、ジェロンディフ、条件法現在、接続法現在、前未来、大過去、非人称構文、強調構文、中性代名詞、感嘆文、直接話法・間節話法などの事項を取り上げる。教員による文法解説のほか、理解を深めるための練習問題や、習熟度を確認するための小テスト等も実施する。	
			フランス語Ⅲｉ（理解）		この授業は、2年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が初級～中級レベルのリーディングやリスニングのスキルを習得し、フランス語で情報をインプットする能力を高めることを到達目標とする。フランス語圏の観光地や世界遺産、音楽やスポーツやファッション等に関する説明文、童謡や簡単な流行歌、やや長めの私的なメール等を取り上げる。教員による文法や語彙の解説のほか、テキストの内容に関するクイズや、学生によるプレゼンテーション等も実施する。	
			フランス語Ⅲｉ（表現）		この授業は2年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が初級～中級レベルのスピーキングやライティングのスキルを習得することを到達目標とする。家族や学校や趣味やアルバイトの話題、レストランやショッピング、旅行で使える基本表現と応用表現、日本文化を紹介するための表現、国や地方ごとに異なるフランスのバリエーション等を取り上げる。教員による発音や語彙の解説のほか、活発な会話を促すためのゲームや、学生によるディスカッション等も実施する。	
			フランス語Ⅲｉ（総合）		この授業は、2年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が初級～中級レベルのフランス語の４技能（読む・聞く・話す・書く）を駆使して実践的なスキルを習得することを到達目標とする。個人またはグループごとにテーマを設定して、文献調査やその他のさまざまな手段で情報を収集し、日本語およびフランス語でディスカッションをする等のアクティブラーニングを通じて、フランス語力を向上させると同時にフランス語圏に関する見識を深める。	

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
全学教養教育	共通科目	語学科目	フランス語Ⅳｉ（文法）		（概要）この授業は、2年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が中級レベルのフランス語文法の知識を習得することを到達目標とする。授業では、比較級・最上級、命令形、代名動詞、関係代名詞、ジェロンディフ、補語人称代名詞、複合過去、半過去、単純未来、条件法現在、接続法現在などの事項を取り上げる。教員による文法解説のほか、理解を深めるための練習問題や、習熟度を確認するための小テスト等も実施する。 （オムニバス方式／全30回） （47　空　由佳子／15回） 動詞の活用や新出の文法事項の用法などを丁寧に解説した後、練習問題を解きながら、新しく学んだ文法事項の定着を図る。 （154　清水　領／15回） 新出単語や動詞の活用など、発音に重点を置き、授業を進める。また、簡単な会話の練習も行い、実践力を培うことを目指す。	オムニバス方式
			フランス語Ⅳｉ（理解）		この授業は、2年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が中級レベルのリーディングやリスニングのスキルを習得し、フランス語で情報をインプットする能力を高めることを到達目標とする。フランス語圏の美術・建築・映画等に関するエッセイ、ビジネスやテクノロジーに関する論説記事、公私の様々なシチュエーションでのメール等を取り上げる。教員による文法や語彙の解説のほか、テキストの内容に関するクイズや、学生によるプレゼンテーション等も実施する。	
			フランス語Ⅳｉ（表現）		この授業は、2年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が中級レベルのスピーキングやライティングのスキルを習得することを到達目標とする。食べ物や音楽や映画の好みを語り合うための表現、友人や教師との長文メール、日本の社会問題について説明するための表現、国や地方ごとに異なるフランス語の発音のバリエーション等を取り上げる。教員による発音や語彙の解説のほか、活発な会話を促すためのゲームや、学生によるディスカッション等も実施する。	
			フランス語Ⅳｉ（総合）		この授業は、2年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が中級レベルのフランス語の４技能（読む・聞く・話す・書く）を駆使して実践的なスキルを習得することを到達目標とする。個人またはグループごとにテーマを設定して、文献調査やその他のさまざまな手段で情報を収集し、日本語およびフランス語でディスカッションをする等のアクティブラーニングを通じて、フランス語力を向上させると同時にフランス語圏に関する見識を深める。	
			フランス語Ⅴｉ（理解）		この授業は、3年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が中級～中上級レベルのリーディングやリスニングのスキルを習得し、フランス語で情報をインプットする能力を高めることを到達目標とする。フランス語圏の時事問題に関する新聞記事や報道番組、エンターテイメントやスポーツに関する評論やインタビュー記事、大衆向けの文学作品等を取り上げる。教員による文法や語彙の解説のほか、テキストの内容に関するクイズや、学生によるプレゼンテーション等も実施する。	
			フランス語Ⅴｉ（表現）		この授業は、3年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が中級～中上級レベルのスピーキングやライティングのスキルを習得し、フランス語で情報をアウトプットする能力を高めることを到達目標とする。留学やビジネスシーンでの口語表現やメール、時事問題について自分の意見を論理的に述べるための表現等を取り上げる。教員による発音や語彙の解説のほか、活発な会話を促すためのゲームや、学生によるディスカッション等も実施する。	
			フランス語Ⅴｉ（総合）		この授業は、3年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が中級～中上級レベルのフランス語の４技能（読む・聞く・話す・書く）を駆使して実践的なスキルを習得することを到達目標とする。個人またはグループごとにテーマを設定して、文献調査やその他のさまざまな手段で情報を収集し、日本語およびフランス語でディスカッションをする等のアクティブラーニングを通じて、フランス語力を向上させると同時にフランス語圏に関する見識を深める。	
			フランス語Ⅵｉ（理解）		この授業は、3年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が中上級～上級レベルのリーディングやリスニングのスキルを習得し、フランス語で情報をインプットする能力を高めることを到達目標とする。フランス語圏の政治・経済・社会問題に関する論文や学術的エッセイ、古典文学作品や文芸評論、上級者向けの歌や映画等を取り上げる。教員による文法や語彙の解説のほか、テキストの内容に関するクイズや、学生によるプレゼンテーション等も実施する。	
			フランス語Ⅵｉ（表現）		この授業は、3年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が中上級～上級レベルのスピーキングやライティングのスキルを習得し、フランス語で情報をアウトプットする能力を高めることを到達目標とする。日本や世界の政治・経済・社会問題や、フランス語圏の文学・芸術・歴史等に関する学術的なテーマを取り上げる。教員による発音や語彙の解説のほか、活発な会話を促すためのゲームや、学生によるディスカッション等も実施する。	
			フランス語Ⅵｉ（総合）		この授業は3年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が中上級～上級レベルのフランス語の４技能（読む・聞く・話す・書く）を駆使して実践的なスキルを習得することを到達目標とする。個人またはグループでテーマを設定し、情報を集め、分析し、プレゼンテーションやディスカッションを行うなど、アクティブラーニングをフランス語で行うことで、フランス語力を向上させると同時に、フランス語圏に関する見識を深める。	
			海外語学実習（フランス語）		夏の一か月間、大学主催のフランスのアンジェ・カトリック大学(CIDEF)でフランス語の学習を集中的に行う。アンジェでは、実力別にクラス分けが行われ、世界中から来た留学生といっしょに勉強をする。また、現地のフランス人学生がアシスタントとして勉強・生活のアドバイスを行う。事前に何度か研修会を行い、フランスやアンジェの歴史や文化について学習をする。帰国後には、留学成果や体験を話し合う事後報告会を行う。	
			ドイツ語Ⅰ（入門）		この授業は、ドイツ語の初学者を対象として、演習形式で実施される。受講生が入門レベルの文法・語彙の知識、発音と簡単な会話表現、およびドイツ語圏の文化・社会に関する基礎知識を習得することを到達目標とする。文法の解説や練習問題のほか、学生同士のペアワークやグループワークを取り入れながら、挨拶、自己紹介、レストランやショッピングでのやり取り等の会話表現の実践的な練習も行う。また、教員がドイツ語圏の音楽、芸術、食文化、スポーツ、生活習慣、歴史、時事問題等を紹介する時間も設ける。	

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
全学教養教育	共通科目	語学科目	ドイツ語Ⅱｓ（文法）		この授業は、1年次生を対象として、演習形式で実施される。1年かけて学ぶ初級文法の前半で、受講生が入門～初級レベルの文法の知識を習得することを到達目標とする。アルファベート、母音と子音の発音、音節とアクセント、各種品詞の生と数に従った格変化、動詞の現在人称変化、話法の助動詞、基本的構文等の事項を取り上げる。教員による文法解説のほか、理解を深めるための練習問題やクイズ、習熟度を確認するための小テスト等も実施する。	
			ドイツ語Ⅱｓ（理解）		この授業は、1年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が入門～初級レベルのリーディングやリスニングのスキルを習得することを到達目標とする。挨拶や自己紹介のダイアローグ、レストランやショッピングでのダイアローグ、ドイツ語圏の生活習慣や食文化に関する短い説明文等を取り上げる。教員による文法や語彙の解説のほか、テキストの内容に関するクイズや、学生によるディスカッション、プレゼンテーション等も実施する。	
			ドイツ語Ⅱｓ（表現）		この授業は、1年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が入門～初級レベルのスピーキングやライティングのスキルを習得することを到達目標とする。挨拶や自己紹介、レストランやショッピングや旅行で使える初歩的なフレーズ、友人や教師との短文メール等を取り上げる。教員による発音や語彙など表現に関する解説のほか、活発な会話を促すためのゲームやクイズ、学生によるディスカッション、プレゼンテーション等も実施する。	
			ドイツ語Ⅲｓ（文法）		この授業は、2年次生を対象として、演習形式で実施される。1年かけて学ぶ初級文法の後半で、受講生が初級レベルの文法の知識を習得し、中級レベルにスムーズに移行することを到達目標とする。動詞の時制（未来形、過去形、完了形）、関係代名詞・関係文、受動文、再帰代名詞・再帰動詞などを取り上げる。教員による文法解説のほか、予習、復習に基づく発言、発表、グループワークなど、アクティブラーニングを中心に行う。理解を深めるための練習問題やクイズ、習熟度を確認するための小テスト等も実施する。	
			ドイツ語Ⅲｓ（理解）		この授業は、2年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が初級～中級レベルのリーディングやリスニングのスキルを習得することを到達目標とする。ドイツ語圏の観光地や世界遺産、音楽やスポーツやファッション等に関する説明文、ポップスや簡単な流行歌等を取り上げる。教員による文法や語彙の解説のほか、テキストの内容に関するクイズや練習問題を適宜行い、定着を確認しながら進める。また、学生によるプレゼンテーション等も実施する。	
			ドイツ語Ⅲｓ（表現）		この授業は、2年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が初級～中級レベルのスピーキングやライティングのスキルを習得することを到達目標とする。家族や学校や趣味やアルバイトの話題、レストランやショッピングや旅行で使える基本表現、日本文化を紹介するための表現等を取り上げる。教員による発音や語彙の解説のほか、実際の活用を学ぶためのフォトランゲージや、活発な会話を促すためのゲーム、学生によるプレゼンテーションやディスカッション等も実施する。	
			ドイツ語Ⅳｓ（文法）		この授業は、2年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が中級レベルのドイツ語文法の知識を習得することを到達目標とする。授業では、分離動詞、再帰動詞・再帰代名詞、命令形、関係代名詞などの事項を取り上げる。教員による文法解説のほか、それらを用いた表現練習を行う。教員による文法解説のほか、予習、復習に基づく発言、発表、グループワークなど、アクティブラーニングを中心に行う。理解を深めるための練習問題やクイズ、習熟度を確認するための小テスト等も実施する。	
			ドイツ語Ⅳｓ（理解）		この授業は、2年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生がドイツ語の文章をスムーズに理解できるよう、初級～中級レベルのリーディングのスキルを習得することを到達目標とする。ドイツ語圏の映画やテレビ番組、文化や伝統、日常生活のニュースや社会問題、ドイツ語圏の旅行先や観光地、短編小説や詩等を利用する。文法事項を確実に習得しながら、辞書を使いこなし読解力を高めるとともに、学生同士のピアラーニングや、反転授業なども行う。	
			ドイツ語Ⅳｓ（表現）		この授業は、2年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が中級レベルのスピーキングやライティングのスキルを習得することを到達目標とする。日本や世界のニュース・社会問題の意見交換、ドイツ語圏の歴史・文化、休暇・旅行のエピソード等を取り上げる。教員による発音や語彙の解説のほか、動詞や名詞の実際の活用を学ぶためのフォトランゲージや、冠詞や数詞を実際に使うカードゲーム、旅行や休暇の予約やメール問い合わせのための作文などを行う。	
			ドイツ語Ⅱｉ（文法）		（概要）この授業は、1年次生を対象として、演習形式で実施される。初級文法の前半で、入門～初級レベルの文法の知識を習得することを到達目標とする。動詞の現在形／過去形／完了形、名詞の性と格変化、冠詞類、前置詞、助動詞、接続詞の学習と表現練習を行う。 （オムニバス方式／全45回） （214 Nadine Kaczmarek）／15回） 双方向によるアクティブラーニングによって、生きたドイツ語として教授する。習得状況を確認しつつ、コンテクストに即して使い方を理解できるよう、映画やドラマの会話文やインタビュー形式のニュース記事などを用いて解説する。 （218 西野　路代／30回） コミュニケーションを通じて理解できるよう、ゲームやクイズなどを活用して教授する。実際の活用や使い分けを学ぶためのフォトランゲージや、小説読解、カードゲームなどを行う。学生同士のピアラーニングや、反転授業なども行う。	オムニバス方式
			ドイツ語Ⅱｉ（理解）		この授業は、1年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が入門～初級レベルのリーディングやリスニングのスキルを習得することを到達目標とする。教室やビジネスシーンでの挨拶や自己紹介、日常生活のレストランやショッピングでのダイアローグ、ドイツ語圏の生活習慣や食文化に関する短い説明文、友人との簡単なメール、チャット等を取り上げる。教員による文法や語彙の解説のほか、テキストの内容に関するクイズや練習問題、学生によるプレゼンテーション等も実施する。	

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
全学教養教育	共通科目	語学科目	ドイツ語Ⅱｉ（表現）		この授業は、1年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が入門～初級レベルのスピーキングやライティングのスキルを習得することを到達目標とする。挨拶や自己紹介、レストランやショッピングや旅行で使える初歩的なフレーズと基本表現、友人や教師との短文メール等を取り上げる。教員による発音や語彙の解説のほか、コミュニケーションを通じて理解できるよう、活発な会話を促すためのゲームやクイズ、学生によるプレゼンテーションやディスカッション等も実施する。	
			ドイツ語Ⅱｉ（総合）		この授業は、1年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が単語単位ではなく、文章レベルでなめらかに理解・発音・聞き取り・表現ができるよう、文法、リスニング、口頭表現のスキルを総合的に習得することを到達目標とする。子供向けアニメ（ドイツ語版）、ドイツ語の発音練習アプリやビデオ、簡単な会話フレーズを学ぶためのカードやリスト等を利用する。教員による発音や語彙の解説のほか、学生によるプレゼンテーションやディスカッション等も実施する。	
			ドイツ語Ⅲｉ（文法）		この授業は、2年次生を対象として、演習形式で実施される。1年かけて学ぶ初級文法の後半で、受講生が初級レベルの文法の知識を習得し、中級レベルにスムーズに移行することを到達目標とする。現在完了形、再帰代名詞・再帰動詞、形容詞・副詞、関係代名詞、受動態、接続法を学習するとともに、それらを用いた表現練習を行う。教員による文法解説のほか、予習、復習に基づく発言、発表、グループワークなど、アクティブラーニングを中心に行う。理解を深めるための練習問題やクイズ、習熟度を確認するための小テスト等も実施する。	
			ドイツ語Ⅲｉ（理解）		この授業は、2年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が初級～中級レベルのリーディングやリスニングのスキルを習得することを到達目標とする。双方向によるアクティブラーニングによって、生きたドイツ語として教授する。ドイツ語圏の観光地や世界遺産、音楽やスポーツやファッション等に関する説明文、童謡や簡単な流行歌、やや長めの私的なメール等を取り上げる。教員による文法や語彙の解説のほか、テキストの内容に関するクイズや、学生によるプレゼンテーション等も実施する。	
			ドイツ語Ⅲｉ（表現）		この授業は、2年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が初級～中級レベルのスピーキングやライティングのスキルを習得することを到達目標とする。挨拶や自己紹介、レストランやショッピングや旅行で使える初歩的なフレーズと基本表現、友人や教師との短文メール、国や地方ごとに異なるドイツ語の語彙のバリエーション等を取り上げる。教員による発音や語彙の解説のほか、活発な会話を促すためのゲームや、学生によるプレゼンテーションやディスカッション等も実施する。	
			ドイツ語Ⅲｉ（総合）		この授業は、2年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が比較的長い文章であってもなめらかに理解・発音・聞き取り・表現ができるよう、文法、リスニング、口頭表現のスキルを総合的に習得することを到達目標とする。双方向によるアクティブラーニングによって、コンテクストに即して使い方を理解できるよう、生きたドイツ語として教授する。映画やドラマのほか、ドイツ語圏の生活や文化に関する記事を読み、プレゼンテーションやディスカッション等を実施する。	
			ドイツ語Ⅳｉ（文法）		（概要）この授業は、2年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が中級レベルのドイツ語文法の知識を習得することを到達目標とする。授業では、分離動詞、再帰動詞・再帰代名詞、命令形、関係代名詞、話法の助動詞、接続法などの事項を取り上げる。 （オムニバス方式／全30回） （70　石井　寿子／15回） 双方向によるアクティブラーニングによって、生きたドイツ語として教授する。新たな文法事項について、コンテクストに即して使い方を理解できるよう、映画やドラマの会話文やインタビュー形式のニュース記事などを用いて解説する。学生同士のピアラーニングや、反転授業なども行う。 （218　西野　路代）／15回） 新たな文法の確実な定着のために、ルーブリックを用いた自己確認を中心に教授する。学習者のつまづきやすいポイントを明示し、自立した学習が可能となる学習態度を育成する。学習した文法事項をランダムに取り入れた長文読解を適宜行い、定着を確認する。	オムニバス方式
			ドイツ語Ⅳｉ（理解）		この授業は2年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が中級レベルのリーディングやリスニングのスキルを習得することを到達目標とする。ドイツ語圏の美術・建築・映画等に関するエッセイ、時事問題やビジネス、テクノロジーに関する論説記事、公私の様々なシチュエーションでのメール等を取り上げる。教員による文法や語彙の解説のほか、テキストの内容に関するクイズ、学生によるディスカッションやプレゼンテーション等も実施する。	
			ドイツ語Ⅳｉ（表現）		この授業は、2年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が中級レベルのスピーキングやライティングのスキルを習得することを到達目標とする。教員による文法解説のほか、予習、復習に基づく発言、発表、グループワークなど、アクティブラーニングを中心に行う。世界の政治・経済・社会問題や、ドイツ語圏の文学・芸術・歴史等に関する学術的なテーマを取り上げる。教員による発音や語彙、表現の解説のほか、活発な会話を促すためのゲームや、学生によるプレゼンテーションやディスカッション等も実施する。	
			ドイツ語Ⅳｉ（総合）		この授業は、2年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が比較的長い文章であってもなめらかに理解・発音・聞き取り・表現ができるよう、文法、リスニング、口頭表現のスキルを総合的に習得することを到達目標とする。双方向によるアクティブラーニングによって、コンテクストに即して使い方を理解できるよう、生きたドイツ語として教授する。映画やドラマのほか、ドイツ語圏の生活や文化に関する記事を読み、ドイツ語でのプレゼンテーションやディスカッション等を実施する。	
			ドイツ語Ⅴｉ（理解）		この授業は、3年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が比較的長い文章であってもなめらかに理解・発音・聞き取り・表現ができるよう、文法、リスニング、口頭表現のスキルを総合的に習得することを到達目標とする。双方向によるアクティブラーニングによって、コンテクストに即して使い方を理解できるよう、生きたドイツ語として教授する。映画やドラマのほか、ドイツ語圏の生活や文化に関する記事を読み、ドイツ語でのプレゼンテーションやディスカッション等を実施する。	

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
全学教養教育	共通科目	語学科目	ドイツ語Ｖｉ（表現）		この授業は、3年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が中級～中上級レベルのスピーキングやライティングのスキルを習得することを到達目標とする。世界の政治・経済・社会問題や、ドイツ語圏の文学・芸術・歴史等に関する学術的なテーマを取り上げる。教員による文法や文化に関する解説のほか、予習、復習に基づく発言、発表、グループワークなど、アクティブラーニングを中心に行う。活発な会話を促すためのゲームや、学生によるプレゼンテーションやディスカッション等も実施する。	
			ドイツ語Ｖｉ（総合）		この授業は、3年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が中級～中上級レベルのドイツ語の４技能（読む・書く・聞く・話す）を駆使して研究やプレゼンテーションを行うための、実践的なスキルを習得することを到達目標とする。教員による文法解説のほか、予習、復習に基づく発言、発表、グループワークなど、アクティブラーニングを中心に行う。テーマ（年度により異なる）を定めて、個人またはグループで調査および研究等を実施し、それらの成果をもとにスライド等を作成して、学内でプレゼンテーション、ディスカッション等を行う。	
			ドイツ語Ⅵｉ（理解）		この授業は、3年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が中上級～上級レベルのリーディングやリスニングのスキルを習得することを到達目標とする。ドイツ語圏の政治・経済・社会問題に関する論文や学術的エッセイ、古典文学作品や文芸評論、上級者向けの歌や映画等を取り上げ、アクティブラーニングを中心に行う。教員による文法や語彙の解説のほか、テキストの内容に関するクイズや、学生によるディスカッションやプレゼンテーション等も実施する。	
			ドイツ語Ⅵｉ（表現）		この授業は、3年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が中上級～上級レベルのスピーキングやライティングのスキルを習得することを到達目標とする。世界の政治・経済・社会問題や、ドイツ語圏の文学・芸術・歴史等に関する学術的なテーマを取り上げる。教員による文法や文化に関する解説のほか、予習、復習に基づく発言、発表、グループワークなど、アクティブラーニングを中心に行う。活発な会話を促すためのゲームや、学生によるプレゼンテーションやディスカッション等も実施する。	
			ドイツ語Ⅵｉ（総合）		この授業は、3年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が中級～中上級レベルのドイツ語の４技能（読む・書く・聞く・話す）を駆使して研究やプレゼンテーションを行うための、実践的なスキルを習得することを到達目標とする。教員による文法解説のほか、予習、復習に基づく発言、発表、グループワークなど、アクティブラーニングを中心に行う。テーマ（年度により異なる）を定めて、個人またはグループで調査および研究等を実施し、それらの成果をもとにスライド等を作成して、学内でプレゼンテーション、ディスカッション等を行う。	
			海外語学実習（ドイツ語）		この授業は、入門～初級のドイツ語を学んだ受講生を対象に、ドイツのデュッセルドルフ市、IIK（異文化コミュニケーション研究所）において、多国籍の受講生とともにドイツ語を学ぶ。文法、読む、聞く、話す、書くというドイツ語の総合的な能力を総動員させて、生きたドイツ語を、授業や生活、文化の中で習得することを到達目標とする。さらに授業外の遠足イベント、パーティ等の参加を通じて、多様な場面でのコミュニケーションを学ぶ。またドイツだけでなく近隣諸国へのフィールドトリップにより、ドイツの国際的な関係についても体験する。	
			スペイン語Ⅰ（入門）		この授業は、スペイン語の初学者を対象として、演習形式で実施される。受講生が入門レベルの文法・語彙の知識、発音と簡単な会話表現、およびスペイン語圏の文化・社会に関する基礎知識を習得することを到達目標とする。文法の解説や練習問題のほか、学生同士のペアワークやグループワークを取り入れながら、挨拶、自己紹介、レストランやショッピングでのやり取り等の会話表現の実践的な練習も行う。また、教員がスペイン語圏の音楽、芸術、食文化、スポーツ、生活習慣、歴史、時事問題等を紹介する時間も設ける。	
			スペイン語Ⅱｓ（文法）		この授業は、1年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が入門～初級レベルのスペイン語文法の知識を習得し、体系的な理解を深めることを到達目標とする。アルファベット、母音と子音の発音、音節とアクセント、名詞の性と数、冠詞、形容詞、主格人称代名詞、直説法現在の動詞の活用と用法（SER/ESTAR/HAY、規則活用動詞）等の事項を取り上げる。教員による文法解説のほか、理解を深めるための練習問題や、習熟度を確認するための小テスト等も実施する。	
			スペイン語Ⅱｓ（理解）		この授業は、1年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が入門～初級レベルのリーディングやリスニングのスキルを習得し、スペイン語で情報をインプットする能力を高めることを到達目標とする。挨拶や自己紹介のダイアローグ、レストランやショッピングでのダイアローグ、スペイン語圏の生活習慣や食文化に関する短い説明文等を取り上げる。教員による文法や語彙の解説のほか、テキストの内容に関するクイズや、学生によるプレゼンテーション等も実施する。	
			スペイン語Ⅱｓ（表現）		この授業は、1年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が入門～初級レベルのスピーキングやライティングのスキルを習得し、スペイン語で情報をアウトプットする能力を高めることを到達目標とする。挨拶や自己紹介、レストランやショッピングや旅行で使える初歩的なフレーズ、友人や教師との短文メール等を取り上げる。教員による発音や語彙の解説のほか、活発な会話を促すためのゲームや、学生によるディスカッション等も実施する。	
			スペイン語Ⅲｓ（文法）		この授業は、2年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が初級～中級レベルのスペイン語文法の知識を習得し、体系的な理解を深めることを到達目標とする。目的格人称代名詞、GUSTAR型動詞、前置詞格人称代名詞、語根母音変化動詞、不規則活用動詞、天候表現、再帰動詞、無人称文、感嘆文等の事項を取り上げる。教員による文法解説のほか、理解を深めるための練習問題や、習熟度を確認するための小テスト等も実施する。	
			スペイン語Ⅲｓ（理解）		この授業は、2年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が初級～中級レベルのリーディングやリスニングのスキルを習得し、スペイン語で情報をインプットする能力を高めることを到達目標とする。スペイン語圏の観光地や世界遺産、音楽やスポーツやファッション等に関する説明文、童謡や簡単な流行歌等を取り上げる。教員による文法や語彙の解説のほか、テキストの内容に関するクイズや、学生によるプレゼンテーション等も実施する。	
			スペイン語Ⅲｓ（表現）		この授業は、2年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が初級～中級レベルのスピーキングやライティングのスキルを習得し、スペイン語で情報をアウトプットする能力を高めることを到達目標とする。家族や学校や趣味やアルバイトの話題、レストランやショッピングや旅行で使える基本表現、日本文化を紹介するための表現等を取り上げる。教員による発音や語彙の解説のほか、活発な会話を促すためのゲームや、学生によるディスカッション等も実施する。	

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
全学教養教育	共通科目	語学科目	スペイン語Ⅳｓ（文法）		この授業は、2年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が中級レベルのスペイン語文法の知識を習得し、体系的な理解を深めることを到達目標とする。過去分詞、直説法現在完了、現在分詞、直説法点過去、不定語と否定語、比較表現、受け身表現、直説法線過去、直説法過去完了、直説法未来・過去未来等の事項を取り上げる。教員による文法解説のほか、理解を深めるための練習問題や、習熟度を確認するための小テスト等も実施する。	
			スペイン語Ⅳｓ（理解）		この授業は、2年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が中級レベルのリーディングやリスニングのスキルを習得し、スペイン語で情報をインプットする能力を高めることを到達目標とする。スペイン語圏の美術・建築・映画等に関するエッセイ、時事問題に関する新聞記事、公私の様々なシチュエーションでのメール等を取り上げる。教員による文法や語彙の解説のほか、テキストの内容に関するクイズや、学生によるプレゼンテーション等も実施する。	
			スペイン語Ⅳｓ（表現）		この授業は、2年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が中級レベルのスピーキングやライティングのスキルを習得し、スペイン語で情報をアウトプットする能力を高めることを到達目標とする。食べ物や音楽や映画の好みを語り合うための表現、友人や教師との長文メール、日本の社会問題について説明するための表現等を取り上げる。教員による発音や語彙の解説のほか、活発な会話を促すためのゲームや、学生によるディスカッション等も実施する。	
			スペイン語Ⅱｉ（文法）		（概要）この授業は、1年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が入門～初級レベルのスペイン語文法の知識を習得し、体系的な理解を深めることを到達目標とする。アルファベット、母音と子音の発音、音節とアクセント、名詞の性と数、冠詞、形容詞、人称代名詞、直説法現在の動詞の活用と用法（GUSTAR型動詞や再帰動詞を含む）、直接法点過去の活用と用法等の事項を取り上げる。教員による文法解説のほか、理解を深めるための練習問題や、習熟度を確認するための小テスト等も実施する。 （オムニバス方式／全45回） （43　遠藤　健太／15回） 新出の文法事項の詳細な解説と、それに関する筆記の練習問題を実施する。 （37　HIGA, Marcelo G.／30回） 新出の語彙・成句・動詞活用の解説と、それに関する筆記の練習問題および口頭練習を実施する。既習の文法事項や語彙・成句・動詞活用の復習と、それに関する筆記の練習問題および口頭練習を実施する。	オムニバス方式
			スペイン語Ⅱｉ（理解）		この授業は、1年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が入門～初級レベルのリーディングやリスニングのスキルを習得し、スペイン語で情報をインプットする能力を高めることを到達目標とする。挨拶や自己紹介のダイアローグ、レストランやショッピングでのダイアローグ、スペイン語圏の生活習慣や食文化に関する短い説明文、友人との簡単なメール等を取り上げる。教員による文法や語彙の解説のほか、テキストの内容に関するクイズや、学生によるプレゼンテーション等も実施する。	
			スペイン語Ⅱｉ（表現）		この授業は、1年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が入門～初級レベルのスピーキングやライティングのスキルを習得し、スペイン語で情報をアウトプットする能力を高めることを到達目標とする。挨拶や自己紹介、レストランやショッピングや旅行で使える初歩的なフレーズと基本表現、友人や教師との短文メール、国や地方ごとに異なるスペイン語の語彙のバリエーション等を取り上げる。教員による発音や語彙の解説のほか、活発な会話を促すためのゲームや、学生によるディスカッション等も実施する。	
			スペイン語Ⅱｉ（総合）		この授業は、1年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が入門～初級レベルのスペイン語の４技能（読む・聞く・話す・書く）を駆使して情報収集やプレゼンテーションを行う実践的なスキルを習得することを到達目標とする。グループごとにテーマを設定して、文献調査やその他の様々な手段で情報を収集し、日本語およびスペイン語でディスカッションする等のアクティブ・ラーニングを通じて、スペイン語とスペイン語圏に関する見識を深める。	
			スペイン語Ⅲｉ（文法）		この授業は、2年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が初級～中級レベルのスペイン語文法の知識を習得し、体系的な理解を深めることを到達目標とする。無人称文、関係詞、直接法点過去、否定語と不定語、比較表現、受け身表現、直説法線過去、直説法過去完了、直説法未来・過去未来、直説法未来完了・過去未来完了等の事項を取り上げる。教員による文法解説のほか、理解を深めるための練習問題や、習熟度を確認するための小テスト等も実施する。	
			スペイン語Ⅲｉ（理解）		この授業は、2年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が初級～中級レベルのリーディングやリスニングのスキルを習得し、スペイン語で情報をインプットする能力を高めることを到達目標とする。スペイン語圏の観光地や世界遺産、音楽やスポーツやファッション等に関する説明文、童謡や簡単な流行歌、やや長めの私的なメール等を取り上げる。教員による文法や語彙の解説のほか、テキストの内容に関するクイズや、学生によるプレゼンテーション等も実施する。	
			スペイン語Ⅲｉ（表現）		この授業は、2年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が初級～中級レベルのスピーキングやライティングのスキルを習得し、スペイン語で情報をアウトプットする能力を高めることを到達目標とする。家族や学校や趣味やアルバイトの話題、レストランやショッピングや旅行で使える基本表現と応用表現、日本文化を紹介するための表現、国や地方ごとに異なるスペイン語の文法のバリエーション等を取り上げる。教員による発音や語彙の解説のほか、活発な会話を促すためのゲームや、学生によるディスカッション等も実施する。	
			スペイン語Ⅲｉ（総合）		この授業は、2年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が初級～中級レベルのスペイン語の４技能（読む・聞く・話す・書く）を駆使して情報収集やプレゼンテーションを行う実践的なスキルを習得することを到達目標とする。グループごとにテーマを設定して、文献調査やその他の様々な手段で情報を収集し、日本語およびスペイン語でディスカッションする等のアクティブ・ラーニングを通じて、スペイン語とスペイン語圏に関する見識を深める。	

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
全学教養教育	共通科目	語学科目	スペイン語Ⅳｉ（文法）		（概要）この授業は、2年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が中級～中上級レベルのスペイン語文法の知識を習得し、体系的な理解を深めることを到達目標とする。接続法現在の活用、命令文、接続法現在の用法（名詞節・形容詞節・副詞節・独立文）、接続法過去、接続法現在完了、接続法過去完了、条件文等の事項を取り上げる。教員による文法解説のほか、理解を深めるための練習問題や、習熟度を確認するための小テスト等も実施する。 （オムニバス方式／全30回） （43　遠藤　健太／15回） 新出の文法事項および語彙・成句・動詞活用の詳細な解説と、それに関する筆記の練習問題を実施する。 （268　渡辺　裕木／15回） 既習の文法事項および語彙・成句・動詞活用の復習と、それに関する口頭練習を実施する。	オムニバス方式
			スペイン語Ⅳｉ（理解）		この授業は、2年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が中級レベルのリーディングやリスニングのスキルを習得し、スペイン語で情報をインプットする能力を高めることを到達目標とする。スペイン語圏の美術・建築・映画等に関するエッセイ、ビジネスやテクノロジーに関する論説記事、公私の様々なシチュエーションでのメール等を取り上げる。教員による文法や語彙の解説のほか、テキストの内容に関するクイズや、学生によるプレゼンテーション等も実施する。	
			スペイン語Ⅳｉ（表現）		この授業は、2年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が中級レベルのスピーキングやライティングのスキルを習得し、スペイン語で情報をアウトプットする能力を高めることを到達目標とする。食べ物や音楽や映画の好みを語り合うための表現、友人や教師との長文メール、日本の社会問題について説明するための表現、国や地方ごとに異なるスペイン語の発音のバリエーション等を取り上げる。教員による発音や語彙の解説のほか、活発な会話を促すためのゲームや、学生によるディスカッション等も実施する。	
			スペイン語Ⅳｉ（総合）		この授業は、2年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が中級レベルのスペイン語の４技能（読む・聞く・話す・書く）を駆使して情報収集やプレゼンテーションを行う実践的なスキルを習得することを到達目標とする。グループごとにテーマを設定して、文献調査やその他の様々な手段で情報を収集し、日本語およびスペイン語でディスカッションする等のアクティブ・ラーニングを通じて、スペイン語とスペイン語圏に関する見識を深める。	
			スペイン語Ⅴｉ（理解）		この授業は、3年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が中級～中上級レベルのリーディングやリスニングのスキルを習得し、スペイン語で情報をインプットする能力を高めることを到達目標とする。スペイン語圏の時事問題に関する新聞記事や報道番組、エンターテイメントやスポーツに関する評論やインタビュー記事、大衆向けの文学作品等を取り上げる。教員による文法や語彙の解説のほか、テキストの内容に関するクイズや、学生によるプレゼンテーション等も実施する。	
			スペイン語Ⅴｉ（表現）		この授業は、3年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が中級～中上級レベルのスピーキングやライティングのスキルを習得し、スペイン語で情報をアウトプットする能力を高めることを到達目標とする。留学やビジネスシーンでの口語表現やメール、時事問題について自分の意見を論理的に述べるための表現等を取り上げる。教員による発音や語彙の解説のほか、活発な会話を促すためのゲームや、学生によるディスカッション等も実施する。	
			スペイン語Ⅴｉ（総合）		この授業は、3年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が中級～中上級レベルのスペイン語の４技能（読む・聞く・話す・書く）を駆使して情報収集やプレゼンテーションを行う実践的なスキルを習得することを到達目標とする。グループごとにテーマを設定して、文献調査やその他の様々な手段で情報を収集し、日本語およびスペイン語でディスカッションする等のアクティブ・ラーニングを通じて、スペイン語とスペイン語圏に関する見識を深める。	
			スペイン語Ⅵｉ（理解）		この授業は、3年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が中上級～上級レベルのリーディングやリスニングのスキルを習得し、スペイン語で情報をインプットする能力を高めることを到達目標とする。スペイン語圏の政治・経済・社会問題に関する論文や学術的エッセイ、古典文学作品や文芸評論、上級者向けの歌や映画等を取り上げる。教員による文法や語彙の解説のほか、テキストの内容に関するクイズや、学生によるプレゼンテーション等も実施する。	
			スペイン語Ⅵｉ（表現）		この授業は、3年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が中上級～上級レベルのスピーキングやライティングのスキルを習得し、スペイン語で情報をアウトプットする能力を高めることを到達目標とする。日本や世界の政治・経済・社会問題や、スペイン語圏の文学・芸術・歴史等に関する学術的なテーマを取り上げる。教員による発音や語彙の解説のほか、活発な会話を促すためのゲームや、学生によるディスカッション等も実施する。	
			スペイン語Ⅵｉ（総合）		この授業は、3年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が中上級～上級レベルのスペイン語の４技能（読む・聞く・話す・書く）を駆使して情報収集やプレゼンテーションを行う実践的なスキルを習得することを到達目標とする。グループごとにテーマを設定して、文献調査やその他の様々な手段で情報を収集し、日本語およびスペイン語でディスカッションする等のアクティブ・ラーニングを通じて、スペイン語とスペイン語圏に関する見識を深める。	
			海外語学実習（スペイン語）		この授業は、スペイン語の全コースの学生を対象として、演習形式で実施される。受講生が（各自の学習段階に応じて）入門～上級レベルのスペイン語の総合的なスキルを向上させ、スペインでの生活や文化に親しむことを到達目標とする。夏休みの3週間語学研修プログラムに参加する。現地での語学研修のほか、出国前の本学担当教員による事前研修（渡航や現地滞在に関する指導、スペイン語指導等）や、帰国後の事後研修（学生による成果発表会やディスカッション）等も実施する。	
			中国語Ⅰ（入門）		この授業は、中国語の初学者を対象として、演習形式で実施される。受講生が入門レベルの中国語の現状や特徴、簡体字、発音表記（ピンイン）、発音の基礎、簡単な日常表現、中国語圏の文化・社会に関する基礎知識を習得することを到達目標とする。発音、文法の解説や練習問題のほか、学生同士のペアワークやグループワークを取り入れながら、挨拶、自己紹介、レストランやショッピングでのやり取り等の日常表現の練習も行う。また、教員が中国語圏の文化習慣、音楽・芸術、スポーツ、歴史、時事問題等を紹介する。	

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
全学教養教育	共通科目	語学科目	中国語Ⅱｓ（文法）		この授業は、1年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が入門～初級レベルの文法の知識を習得することを到達目標とする。簡体字、発音表記（ピンイン）、発音（音節と声調）、名詞・指示詞・代名詞、動詞、形容詞、副詞、助詞、数詞、量詞、方位詞、疑問詞、助動詞等の基本的用法（動詞述語文、形容詞述語文、アスペクト等）、存現文の事項を取り上げる。教員による語彙や文法解説のほか、学生同士のペアワークによる発音練習、テキストの内容に関する練習問題や小テスト等も実施する。	
			中国語Ⅱｓ（理解）		この授業は、1年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が入門～初級レベルのリーディングやリスニングのスキルを習得し、中国語で情報をインプットする能力を高めることを到達目標とする。挨拶や自己紹介のダイアローグ、レストランやショッピングでのダイアローグ、中国語圏の生活習慣や食文化に関する短い説明文等を取り上げる。教員による文法や語彙の解説のほか、テキスト及び音声の内容に関するクイズや、学生によるプレゼンテーション等も実施する。	
			中国語Ⅱｓ（表現）		この授業は、1年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が入門～初級レベルのスピーキングやライティングのスキルを習得し、中国語で情報をアウトプットする能力を高めることを到達目標とする。挨拶や自己紹介、レストランやショッピングや旅行で使える初歩的なフレーズ、友人や教師との短文メール等を取り上げる。教員による発音や語彙の解説のほか、活発な会話を促すためのゲームや、学生によるディスカッション、作文課題等も実施する。	
			中国語Ⅲｓ（文法）		この授業は、2年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が初級～中級レベルの文法の知識を習得することを到達目標とする。各種品詞の基本的用法（動詞述語文、形容詞述語文、アスペクト等）、存現文に加え、連動文、兼語文、各種補語（様態、程度、方向、結果、可能）の用法、簡単な複文等の事項を取り上げる。教員による語彙や文法の解説のほか、学生同士のペアワークやグループワークによる発音練習、理解を深めるための練習問題や、習熟度を確認するための小テスト等も実施する。	
			中国語Ⅲｓ（理解）		この授業は、2年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が初級～中級レベルのリーディングやリスニングのスキルを習得し、中国語で情報をインプットする能力を高めることを到達目標とする。中国語圏の日常生活、文化や伝統、旅行先や観光地、音楽やスポーツやファッション等に関する説明文、童謡や簡単な流行歌等を取り上げる。教員による文法や語彙の解説のほか、テキスト及び音声の内容に関するクイズや、学生によるプレゼンテーション等も実施する。	
			中国語Ⅲｓ（表現）		この授業は、2年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が初級～中級レベルのスピーキングやライティングのスキルを習得し、中国語で情報をアウトプットする能力を高めることを到達目標とする。家族や学校、趣味やアルバイトの話題、レストランやショッピングや旅行で使える基本表現、日本文化を紹介するための表現等を取り上げる。教員による発音や語彙の解説のほか、活発な会話を促すためのゲームや、学生によるディスカッション、作文課題等も実施する。	
			中国語Ⅳｓ（文法）		この授業は、2年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が中級レベルの文法の知識を習得し、体系的な理解を深めることを到達目標とする。基本表現をはじめ、兼語文、受身表現、離合動詞、各種助詞、各種補語（様態、程度、方向、結果、可能）の用法、複文等の事項を取り上げる。教員による語彙や文法の解説のほか、学生同士のペアワークやグループワークによる発音練習、理解を深めるための練習問題や、習熟度を確認するための小テスト等も実施する。	
			中国語Ⅳｓ（理解）		この授業は、2年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が中級レベルのリーディングやリスニングのスキルを習得し、中国語で情報をインプットする能力を高めることを到達目標とする。中国語圏の美術・建築・映画等に関するエッセイ、時事問題に関する新聞記事、公私の様々なシチュエーションでのメール等を取り上げる。教員による文法や語彙の解説のほか、テキスト及び音声の内容に関するクイズや、学生によるプレゼンテーション等も実施する。	
			中国語Ⅳｓ（表現）		この授業は、2年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が中級レベルのスピーキングやライティングのスキルを習得し、中国語で情報をアウトプットする能力を高めることを到達目標とする。食べ物や音楽や映画の好みを語り合うための表現、友人や教師との長文メール、日本の社会問題について説明するための表現等を取り上げる。教員による発音や語彙の解説のほか、活発な会話を促すためのゲームや、学生によるディスカッション、作文課題等も実施する。	
			中国語Ⅱｉ（文法）		（概要）この授業は、1年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が入門～初級レベルの文法の知識を習得することを到達目標とする。簡体字、音節（ピンイン、声調）、名詞、指示詞、代名詞、動詞、形容詞、副詞、助詞、数詞、量詞、方位詞、疑問詞、助動詞等の基本的用法（動詞述語文、形容詞述語文、アスペクト等）、存現文、連動文等の事項を取り上げる。教員による語彙や文法解説のほか、学生同士のペアワークによる発音練習、テキストの内容に関する練習問題や小テスト等も実施する。 （オムニバス方式／全45回） （42　上原　かおり／15回） 新出単語や文法事項について詳細に解説し、簡単な練習問題を実施する。 （73　石原　正代／15回） 既習の単語や文法事項に関する練習問題を解きながら復習する。 （157　朱　力／15回） 発音に重点を置いて既習内容を復習する。また、暗唱や会話練習などを実施する。	オムニバス方式
			中国語Ⅱｉ（理解）		この授業は、1年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が入門～初級レベルのリーディングやリスニングのスキルを習得し、中国語で情報をインプットする能力を高めることを到達目標とする。挨拶や自己紹介のダイアローグ、レストランやショッピングでのダイアローグ、中国語圏の生活習慣や食文化に関する短い説明文、友人との簡単なメール等を取り上げる。教員による文法や語彙の解説のほか、テキスト及び音声の内容に関するクイズや、学生によるプレゼンテーション等も実施する。	

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
全学教養教育	共通科目	語学科目	中国語Ⅱｉ（表現）		この授業は、1年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が入門～初級レベルのスピーキングやライティングのスキルを習得し、中国語で情報をアウトプットする能力を高めることを到達目標とする。挨拶や自己紹介、レストランやショッピングや旅行で使える初歩的なフレーズと基本表現、友人や教師との短文メール、地方ごとに異なる語彙のバリエーション等を取り上げる。教員による発音や語彙の解説のほか、活発な会話を促すためのゲームや、学生によるディスカッション、作文課題等も実施する。	
			中国語Ⅱｉ（総合）		この授業は、1年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が入門～初級レベルの中国語の４技能（読む・聞く・話す・書く）を駆使して情報収集やプレゼンテーションを行う実践的なスキルを習得することを到達目標とする。グループごとにテーマを設定して、文献調査やその他の様々な手段で情報を収集し、日本語および中国語でディスカッションする等のアクティブ・ラーニングを通じて、中国語と中国語圏に関する見識を深める。	
			中国語Ⅲｉ（文法）		（概要）この授業は、2年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が初級～中級レベルの文法の知識を習得することを到達目標とする。各種品詞の基本的用法（動詞述語文、形容詞述語文、アスペクト等）、存現文、連動文に加え、兼語文、各種補語（様態、程度、方向、結果、可能）の用法、簡単な複文等の事項を取り上げる。教員による語彙や文法解説のほか、学生同士のペアワークやグループワークによる発音練習、理解を深めるための練習問題や、習熟度を確認するための小テスト等も実施する。 （オムニバス方式／全30回） （42　上原　かおり／15回） 新出単語や語句、文法事項について詳細に解説し、練習問題を実施する。 （22　泉谷　陽子／15回） 既習の単語や語句、文法事項に関する練習問題を解きながら復習する。また、暗唱や会話練習などを実施する。	オムニバス方式
			中国語Ⅲｉ（理解）		この授業は、2年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が初級～中級レベルのリーディングやリスニングのスキルを習得し、中国語で情報をインプットする能力を高めることを到達目標とする。中国語圏の日常生活、文化や伝統、旅行先や観光地、音楽やスポーツやファッション等に関する説明文、童謡や簡単な流行歌、やや長めの私的なメール等を取り上げる。教員による文法や語彙の解説のほか、テキスト及び音声の内容に関するクイズや、学生によるプレゼンテーション等も実施する。	
			中国語Ⅲｉ（表現）		この授業は、2年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が初級～中級レベルのスピーキングやライティングのスキルを習得し、中国語で情報をアウトプットする能力を高めることを到達目標とする。家族や学校、趣味やアルバイトの話題、レストランやショッピングや旅行で使える基本表現と応用表現、日本文化を紹介するための表現、地方ごとに異なる表現のバリエーション等を取り上げる。教員による発音や語彙の解説のほか、活発な会話を促すためのゲームや、学生によるディスカッション、作文課題等も実施する。	
			中国語Ⅲｉ（総合）		この授業は、2年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が初級～中級レベルの中国語の４技能（読む・聞く・話す・書く）を駆使して情報収集やプレゼンテーションを行う実践的なスキルを習得することを到達目標とする。グループごとにテーマを設定して、文献調査やその他の様々な手段で情報を収集し、日本語および中国語でディスカッションする等のアクティブ・ラーニングを通じて、中国語と中国語圏に関する見識を深める。	
			中国語Ⅳｉ（文法）		（概要）この授業は、2年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が中級レベルの文法の知識を習得し、体系的な理解を深めることを到達目標とする。基本表現をはじめ、兼語文、受身表現、離合動詞、各種助詞、各種補語（様態、程度、方向、結果、可能）の用法、複文等の事項を取り上げる。教員による語彙や文法の解説のほか、学生同士のペアワークやグループワークによる発音練習、理解を深めるための練習問題や、習熟度を確認するための小テスト等も実施する。 （オムニバス方式／全30回） （76　伊藤　祥雄／15回） 新出の文法事項の詳細な解説と、それに関する筆記の練習問題を実施する。 （133　河野　正／15回） 既習の単語や語句、文法事項に関する練習問題を解きながら復習する。また、暗唱や会話練習などを実施する。	オムニバス方式
			中国語Ⅳｉ（理解）		この授業は、2年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が中級レベルのリーディングやリスニングのスキルを習得し、中国語で情報をインプットする能力を高めることを到達目標とする。中国語圏の美術・建築・映画等に関するエッセイ、ビジネスやテクノロジーに関する論説記事、公私の様々なシチュエーションでのメール等を取り上げる。教員による文法や語彙の解説のほか、テキスト及び音声の内容に関するクイズや、学生によるプレゼンテーション等も実施する。	
			中国語Ⅳｉ（表現）		この授業は、2年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が中級レベルのスピーキングやライティングのスキルを習得し、中国語で情報をアウトプットする能力を高めることを到達目標とする。食べ物や音楽や映画の好みを語り合うための表現、友人や教師との長文メール、日本の社会問題について説明するための表現等を取り上げる。教員による発音や語彙の解説のほか、活発な会話を促すためのゲームや、学生によるディスカッション、作文課題等も実施する。	
			中国語Ⅳｉ（総合）		この授業は、2年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が中級レベルの中国語の４技能（読む・聞く・話す・書く）を駆使して情報収集やプレゼンテーションを行う実践的なスキルを習得することを到達目標とする。個人またはグループでテーマを設定して、文献調査やその他の様々な手段で情報を収集し、可能な限り中国語で発表しディスカッションする等のアクティブ・ラーニングを通じて、中国語と中国語圏に関する見識を深める。	

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
全学教養教育	共通科目	語学科目	中国語Ｖｉ（理解）		この授業は、3年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が中級～中上級レベルのリーディングやリスニングのスキルを習得し、中国語で情報をインプットする能力を高めることを到達目標とする。中国語圏の時事問題に関する新聞記事や報道番組、エンターテイメントやスポーツに関する評論やインタビュー記事、大衆向けの文学作品等を取り上げる。教員による文法や語彙の解説のほか、テキスト及び音声の内容に関するクイズや、学生によるプレゼンテーション等も実施する。	
			中国語Ｖｉ（表現）		この授業は、3年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が中級～中上級レベルのスピーキングやライティングのスキルを習得し、中国語で情報をアウトプットする能力を高めることを到達目標とする。留学やビジネスシーンでの口語表現やメール、時事問題について自分の意見を論理的に述べるための表現等を取り上げる。教員による発音や語彙の解説のほか、活発な会話を促すためのゲームや、学生によるディスカッション、作文課題等も実施する。	
			中国語Ｖｉ（総合）		この授業は、3年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が中級～中上級レベルの中国語の４技能（読む・聞く・話す・書く）を駆使して情報収集やプレゼンテーションを行う実践的なスキルを習得することを到達目標とする。個人またはグループでテーマを設定して、文献調査やその他の様々な手段で情報を収集し、可能な限り中国語で発表しディスカッションする等のアクティブ・ラーニングを通じて、中国語と中国語圏に関する見識を深める。	
			中国語Ⅵｉ（理解）		この授業は、3年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が中上級～上級レベルのリーディングやリスニングのスキルを習得し、中国語で情報をインプットする能力を高めることを到達目標とする。中国語圏の政治・経済・社会問題に関する論文や学術的エッセイ、文学作品や文芸評論、上級者向けの歌や映画等を取り上げる。教員による文法や語彙の解説のほか、テキストや音声の内容に関するクイズや、学生によるプレゼンテーション等も実施する。	
			中国語Ⅵｉ（表現）		この授業は、3年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が中上級～上級レベルのスピーキングやライティングのスキルを習得し、中国語で情報をアウトプットする能力を高めることを到達目標とする。日本や世界の政治・経済・社会問題や、中国語圏の文学・芸術・歴史等に関する学術的なテーマを取り上げる。教員による発音や語彙の解説のほか、活発な会話を促すためのゲームや、学生によるディスカッション、作文課題等も実施する。	
			中国語Ⅵｉ（総合）		この授業は、3年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が中上級～上級レベルの中国語の４技能（読む・聞く・話す・書く）を駆使して情報収集やプレゼンテーションを行う実践的なスキルを習得することを到達目標とする。個人またはグループでテーマを設定して、文献調査やその他の様々な手段で情報を収集し、可能な限り中国語で発表しディスカッションする等のアクティブ・ラーニングを通じて、中国語と中国語圏に関する見識を深める。	
			海外語学実習（中国語）		この授業は、中国語全希望者を対象として、演習形式で実施される。受講生が入門～上級レベルの中国語各種技能を向上させ、現地での生活や文化に慣れ親しむことを到達目標とする。夏休みに3～4週間、中国または台湾の中国語研修プログラムに参加する。事前のレベルテストにより受講生にあったクラス（入門～上級）で学習する。現地での語学実習のほか、事前研修として教員による説明や質疑応答等を複数回行い準備をサポートする。また事後研修として、学生による報告発表会やディスカッション等も実施する。	
			韓国語Ⅰ（入門）		この授業は、韓国語の初学者を対象として、演習形式で実施される。受講生が入門レベルの文法・語彙の知識、発音の基礎、簡単な自己紹介、および韓国語圏の文化・社会に関する基礎知識を習得することを到達目標とする。ハングル文字と発音を繰り返し練習することで慣れていき、文法の基礎を習得するための練習問題のほか、クイズや学生同士のペアワークを取り入れながら、挨拶と自己紹介等の会話表現の練習も行う。また、教員が映像等を用いて韓国の歴史、文化、時事問題等を紹介する。	
			韓国語Ⅱｓ（文法）		この授業は、1年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が入門～初級レベルの韓国語文法の知識を習得し、体系的な理解を深めることを到達目標とする。初級レベルのテキストを使用し、発音の変化、動詞や形容詞の活用、時制や助詞等を取り上げる。自己紹介や日課、買い物等、簡単な日常会話や基本的な構文等、初級文法を理解し使えるようになる。教員による語彙や文法の解説のほか、学生同士のペアワークによる発音練習、テキストの内容に関する練習問題や小テスト等も実施する。	
			韓国語Ⅱｓ（理解）		この授業は、1年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が入門～初級レベルのリーディングやリスニングのスキルを習得し、韓国語で情報をインプットする能力を高めることを到達目標とする。挨拶や自己紹介のダイアローグ、レストランやショッピングでのダイアローグ、韓国語圏の生活慣習や食文化に関する短い説明文等を取り上げる。教員による文法や語彙の解説のほか、テキストおよび音声の内容に関するクイズや、学生によるプレゼンテーション等も実施する。	
			韓国語Ⅱｓ（表現）		この授業は、1年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が入門～初級レベルのスピーキングやライティングのスキルを習得し、韓国語で情報をアウトプットする能力を高めることを到達目標とする。簡単な挨拶や自己紹介、レストランやショッピングや旅行で使える初歩的なフレーズ、友人や教師との短文メール等を取り上げる。教員による発音や語彙の解説のほか、活発な会話を促すためのゲームや、学生によるディスカッション、作文課題等も実施する。	
			韓国語Ⅲｓ（文法）		この授業は、2年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が初級～中級レベルの韓国語文法の知識を習得し、体系的な理解を深めることを到達目標とする。初中級レベルのテキストを用いて、発音の変化、各種品詞の基本的用法、時制や助詞に加え、連体形や不規則用言等を学習することで、より長い文章に慣れる。教員による語彙や文法の解説のほか、学生同士のペアワークやグループワークによる発音練習、理解を深めるための練習問題や、習熟度を確認するための小テスト等も実施する。	

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
全学教養教育	共通科目	語学科目	韓国語Ⅲｓ（理解）		この授業は、2年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が初級～中級レベルのリーディングやリスニングのスキルを習得し、韓国語で情報をインプットする能力を高めることを到達目標とする。韓国の日常生活、文化と伝統、旅行先や観光地、音楽やスポーツやファッション等に関する説明文、童謡や簡単なK-POP等を取り上げる。教員による文法や語彙の解説のほか、テキストおよび音声の内容に関するクイズや、学生によるプレゼンテーション等も実施する。	
			韓国語Ⅲｓ（表現）		この授業は、2年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が初級～中級レベルのスピーキングやライティングのスキルを習得し、韓国語で情報をアウトプットする能力を高めることを到達目標とする。家族や学校、趣味やアルバイトの話題、レストランやショッピングや旅行で使える基本表現、日本の文化を紹介する表現等を取り上げる。教員による文法や語彙の解説のほか、活発な会話を促すためのゲームや、学生によるプレゼンテーション、作文課題等も実施する。	
			韓国語Ⅳｓ（文法）		この授業は、2年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が中級レベルの韓国語文法の知識を習得し、体系的な理解を深めることを到達目標とする。中級レベルのテキストを用いて、発音の変化や助詞、用言語尾の活用等を取り上げる。パンマルや間接話法等、ざまざまな表現を学習することで、中級文法を理解し使えるようになる。教員による語彙や文法の解説のほか、学生同士のペアワークやグループワークによる発音練習、理解を深めるための練習問題や、習熟度を確認するための小テスト等も実施する。	
			韓国語Ⅳｓ（理解）		この授業は、2年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が中級レベルのリーディングやリスニングのスキルを習得し、韓国語で情報をインプットする能力を高めることを到達目標とする。韓国の映画や美術等に関するエッセイ、時事問題に関する新聞記事、公私の様々なシチュエーションでのメール等を取り上げる。教員による文法や語彙の解説のほか、テキストおよび音声の内容に関するクイズや、学生によるプレゼンテーション等も実施する。	
			韓国語Ⅳｓ（表現）		この授業は、2年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が中級レベルのスピーキングやライティングのスキルを習得し、韓国語で情報をアウトプットする能力を高めることを到達目標とする。食べ物や音楽や映画の好みを語り合うための表現、友人や教師との長文メール、日本の社会問題について説明するための基本表現等を取り上げる。教員による発音や語彙の解説のほか、活発な会話を促すためのゲームや、学生によるディスカッション、作文課題等も実施する。	
			韓国語Ⅱｉ（文法）		（概要）この授業は、1年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が入門～初級レベルの韓国語文法の知識を習得し、体系的な理解を深めることを到達目標とする。初級レベルのテキストを使用し、発音の変化、時制、助詞と用言語尾の活用等を学習し基礎を固めていく。日常生活で必要とされる簡単な会話表現や基本的な構文等、初級文法を理解し使えるようになる。教員による語彙や文法の解説のほか、練習問題や習熟度を確認するための小テスト等も実施する。 （オムニバス方式／全45回） （27　金　香男／30回） 動詞の活用や新出の文法事項の用法などを解説した後、練習問題を解きながら、新しく学んだ文法事項の定着を図る。 （66　李　東憲／15回） 新出単語や動詞の活用など、発音に重点を置き授業を進める。また、簡単な会話の練習も行い、実践力を培うことを目指す。	オムニバス方式
			韓国語Ⅱｉ（理解）		この授業は、1年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が入門～初級レベルのリーディングやリスニングのスキルを習得し、韓国語で情報をインプットする能力を高めることを到達目標とする。自己紹介やショッピング、生活習慣や食文化に関する短い説明文等を取り上げ、辞書の使い方や漢字語にも慣れる。教員による文法や語彙の解説のほか、テキストおよび音声の内容に関するクイズや、学生によるプレゼンテーション等も実施する。	
			韓国語Ⅱｉ（表現）		この授業は、1年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が入門～初級レベルのスピーキングやライティングのスキルを習得し、韓国語で情報をアウトプットする能力を高めることを到達目標とする。挨拶や自己紹介、レストランやショッピングや旅行で使える初歩的なフレーズと基本表現、友人や教師との短文メール等を取り上げる。教員による発音や語彙の解説のほか、活発な会話を促すためのゲームや、学生によるディスカッション、作文課題等も実施する。	
			韓国語Ⅱｉ（総合）		この授業は、1年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が入門～初級レベルの韓国語の４技能（読む・聞く・話す・書く）を駆使して情報収集やプレゼンテーションを行う、実践的なスキルを習得することを到達目標とする。個人またはグループごとにテーマを設定して、文献調査やその他のさまざまな手段で情報を収集し、日本語および韓国語でディスカッションする等のアクティブ・ラーニングを通じて、韓国語力を向上させると同時に、韓国語圏に関する見識を深める。	
			韓国語Ⅲｉ（文法）		この授業は、2年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が初級～中級レベルの韓国語文法の知識を習得し、体系的な理解を深めることを到達目標とする。初中級レベルのテキストを使用し、発音の変化、各種品詞の基本的用法、時制や助詞に加え、連体形や不規則用言等を学習することで、より長い文章に慣れる。教員による語彙や文法の解説のほか、学生同士のペアやグループワークによる発音練習、理解を深めるための練習問題や、習熟度を確認するための小テスト等も実施する。	
			韓国語Ⅲｉ（理解）		この授業は、2年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が初級～中級レベルのリーディングやリスニングのスキルを習得し、韓国語で情報をインプットする能力を高めることを到達目標とする。韓国の観光地や世界遺産、音楽やスポーツやファッション等に関する説明文、童謡や簡単なK、やや長めの私的なメール等を取り上げる。教員による文法や語彙の解説のほか、テキストおよび音声の内容に関するクイズや、学生によるプレゼンテーション等も実施する。	
			韓国語Ⅲｉ（表現）		この授業は、2年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が初級～中級レベルのスピーキングやライティングのスキルを習得し、韓国語で情報をアウトプットする能力を高めることを到達目標とする。家族や学校、趣味やアルバイトの話題、レストランやショッピングや旅行で使える基本表現と応用表現、日本文化を紹介するための表現等を取り上げる。教員による発音や語彙の解説のほか、活発な会話を促すためのゲームや、学生によるディスカッション、作文課題等も実施する。	

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
全学教養教育	共通科目	語学科目	韓国語Ⅲｉ（総合）		この授業は、2年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が初級～中級レベルの韓国語の４技能（読む・聞く・話す・書く）を駆使して情報収集やプレゼンテーションを行う、実践的なスキルを習得することを到達目標とする。個人またはグループごとにテーマを設定して、文献調査やその他のさまざまな手段で情報を収集し、日本語および韓国語でディスカッションする等のアクティブ・ラーニングを通じて、韓国語力を向上させると同時に、韓国語圏に関する見識を深める。	
			韓国語Ⅳｉ（文法）		（概要）この授業は、2年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が中級レベルの韓国語文法の知識を習得し、体系的な理解を深めることを到達目標とする。中級レベルのテキストを使用し、発音の変化や助詞、用言語尾の活用等を取り上げる。パンマル、受身と使役、直接話法と間接話法等、ざまざまな表現を学習することで、高度な韓国語を理解し使えるようになる。教員による語彙や文法の解説のほか、学生同士のペアやグループワークによる発音練習、理解を深めるための練習問題や、習熟度を確認するための小テスト等も実施する。 （オムニバス方式／全30回） （66　李　東憲／15回） 動詞の活用や新出の文法事項の用法などを解説した後、練習問題を解きながら、新しく学んだ文法事項の定着を図る。 （99　荻野　優子／15回） 中級文法の事項を確実に定着させるために、学習者のつまづきやすいポイントを明示し、自立した学習が可能となる学習態度を育成する。また、学生同士のピアラーニングも行い、実践力を培うことを目指す。	オムニバス方式
			韓国語Ⅳｉ（理解）		この授業は、2年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が中級レベルのリーディングやリスニングのスキルを習得し、韓国語で情報をインプットする能力を高めることを到達目標とする。韓国の映画・美術・建築等に関するエッセイ、ビジネスやテクノロジーに関する記事、公私の様々なシチュエーションでのメール等を取り上げる。教員による文法や語彙の解説のほか、テキストおよび音声の内容に関するクイズや、学生によるプレゼンテーション等も実施する。	
			韓国語Ⅳｉ（表現）		この授業は、2年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が中級レベルのスピーキングやライティングのスキルを習得し、韓国語で情報をアウトプットする能力を高めることを到達目標とする。食べ物や音楽や映画の好みを語り合うための表現、友人や教師との長文メール、日本の社会問題について説明するための応用表現等を取り上げる。教員による発音や語彙の解説のほか、活発な会話を促すためのゲームや、学生によるディスカッション、作文課題等も実施する。	
			韓国語Ⅳｉ（総合）		この授業は、2年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が中級レベルの韓国語の４技能（読む・聞く・話す・書く）を駆使して情報収集や、プレゼンテーションを行い、実践的なスキルを習得することを到達目標とする。個人またはグループごとにテーマを設定して、文献調査やその他のさまざまな手段で情報を収集し、日本語および韓国語でディスカッションする等のアクティブ・ラーニングを通じて、韓国語力を向上させると同時に、韓国語圏に関する見識を深める。	
			韓国語Ⅴｉ（理解）		この授業は、3年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が中級～中上級レベルのリーディングやリスニングのスキルを習得し、韓国語で情報をインプットする能力を高めることを到達目標とする。韓国の時事問題に関する新聞記事や報道番組、エンターテイメントやスポーツに関する評論やインタビュー記事、大衆向けの文学作品等を取り上げる。教員による文法や語彙の解説のほか、テキストおよび音声の内容に関するクイズや、学生によるプレゼンテーション等も実施する。	
			韓国語Ⅴｉ（表現）		この授業は、3年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が中級～中上級レベルのスピーキングやライティングのスキルを習得し、韓国語で情報をアウトプットする能力を高めることを到達目標とする。留学やビジネスシーンでの口語表現やメール、時事問題について自分の意見を論理的に述べるための表現等を取り上げる。教員による発音や語彙の解説のほか、活発な会話を促すためのゲームや、学生によるディスカッション、作文課題等も実施する。	
			韓国語Ⅴｉ（総合）		この授業は、3年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が中級～中上級レベルの韓国語の４技能（読む・書く・聞く・話す）を駆使して研究やプレゼンテーションを行う実践的なスキルを習得することを到達目標とする。個人またはグループごとにテーマを設定して、文献調査やその他のさまざまな手段で情報を収集し、日本語および韓国語でディスカッションする等のアクティブ・ラーニングを通じて、韓国語力を向上させると同時に、韓国語圏に関する見識を深める。	
			韓国語Ⅵｉ（理解）		この授業は、3年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が中上級～上級レベルのリーディングやリスニングのスキルを習得し、韓国語で情報をインプットする能力を高めることを到達目標とする。韓国の政治・経済・社会問題に関する論文や学術的エッセイ、文学作品や文芸評論、上級者向けの歌や映画等を取り上げる。教員による文法や語彙の解説のほか、テキストおよび音声の内容に関するクイズや、学生によるプレゼンテーション等も実施する。	
			韓国語Ⅵｉ（表現）		この授業は、3年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が中上級～上級レベルのスピーキングやライティングのスキルを習得し、韓国語で情報をアウトプットする能力を高めることを到達目標とする。日本や世界の政治・経済・社会問題や、韓国の文学・芸術・歴史等に関する学術的なテーマを取り上げる。教員による発音や語彙の解説のほか、活発な会話を促すためのゲームや、学生によるディスカッション、作文課題等も実施する。	
			韓国語Ⅵｉ（総合）		この授業は、3年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が中上級～上級レベルの韓国語の４技能（読む・書く・聞く・話す）を駆使して研究やプレゼンテーションを行う実践的なスキルを習得することを到達目標とする。個人またはグループごとにテーマを設定して、文献調査やその他のさまざまな手段で情報を収集し、日本語および韓国語でディスカッションする等のアクティブ・ラーニングを通じて、韓国語力を向上させると同時に、韓国語圏に関する見識を深める。	
			海外語学実習（韓国語）		この授業は、韓国語全希望者を対象として、演習形式で実施される。受講生が入門～上級レベルの韓国語各種技能を向上させ、現地での生活や文化に慣れ親しむことを到達目標とする。夏休みに3週間、韓国での韓国語研修プログラムに参加する。事前のレベルテストにより受講生にあったクラス（入門～上級）で学習する。現地での語学実習のほか、事前研修として教員による説明や質疑応答等を複数回行い準備をサポートする。また事後研修として、学生による報告発表会やディスカッション等も実施する。	

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
全学教養教育	共通科目	語学科目	イタリア語Ⅰ（基礎）		この授業は演習形式で実施される。受講生が入門レベルのイタリア語の文法・語彙の知識、発音と簡単な会話表現、およびイタリアの文化・社会に関する基礎知識を習得することを到達目標とする。文法の解説や練習問題のほか、学生同士のペアワークやグループワークを取り入れながら、挨拶、自己紹介、レストランやショッピングでのやり取り等の会話表現の実践的な練習も行う。また、イタリアの歴史・芸術・食文化等に関する情報にも触れ、イタリア語の文化的背景についての理解も深める。	
			イタリア語Ⅱ（文法）		この授業は演習形式で実施される。受講生が初級レベルのイタリア語の文法の知識を習得することを到達目標とする。規則活用動詞と不規則活用動詞、直接目的語・間接目的語代名詞、近過去、半過去、再帰動詞、比較級、命令法、未来形等の事項を取り上げる。教員による文法解説のほか、理解を深めるための練習問題や、習熟度を確認するための小テスト等も実施する。また、イタリアの歴史・芸術・食文化等に関する情報にも触れ、イタリア語の文化的背景についての理解も深める。	
			イタリア語Ⅱ（理解）		この授業は演習形式で実施される。受講生が初級レベルのイタリア語のリーディングやリスニングのスキルを習得することを到達目標とする。挨拶や自己紹介のダイアローグ、レストランやショッピングでのダイアローグ、イタリアの生活習慣や食文化に関する短い説明文、友人との簡単なメール等を取り上げる。文法や語彙の解説のほか、テキストの内容に関するクイズや、学生によるプレゼンテーション等も実施する。また、イタリアの歴史・芸術・食文化等に関する情報にも触れ、イタリア語の文化的背景についての理解も深める。	
			イタリア語Ⅲ（理解）		この授業は演習形式で実施される。受講生が初級～中級レベルのイタリア語の文法の知識とリーディングやリスニングのスキルを習得することを到達目標とする。イタリアの観光地や世界遺産、音楽やスポーツやファッション等に関する説明文、童謡や簡単な流行歌、やや長めの私的なメール等を取り上げる。教員による文法や語彙の解説のほか、テキストの内容に関するクイズや、学生によるプレゼンテーション等も実施する。また、イタリアの歴史・芸術・食文化等に関する情報にも触れ、イタリア語の文化的背景についての理解も深める。	
			イタリア語Ⅲ（表現）		この授業は演習形式で実施される。受講生が初級～中級レベルのイタリア語のスピーキングやライティングのスキルを習得することを到達目標とする。家族や学校や趣味やアルバイトの話題、レストランやショッピングや旅行で使える基本表現と応用表現、日本文化を紹介するための表現等を取り上げる。教員による発音や語彙の解説のほか、活発な会話を促すためのゲームや、学生によるディスカッション等も実施する。また、イタリアの歴史・芸術・食文化等に関する情報にも触れ、イタリア語の文化的背景についての理解も深める。	
			イタリア語Ⅳ（理解）		この授業は演習形式で実施される。受講生が中級レベルのイタリア語のリーディングやリスニングのスキルを習得することを到達目標とする。イタリアの美術・建築・映画等に関するエッセイ、ビジネスやテクノロジーに関する論説記事、公私の様々なシチュエーションでのメール等を取り上げる。教員による文法や語彙の解説のほか、テキストの内容に関するクイズや、学生によるプレゼンテーションや等も実施する。また、イタリアの歴史・芸術・食文化等に関する情報にも触れ、イタリア語の文化的背景についての理解も深める。	
			イタリア語Ⅳ（表現）		この授業は演習形式で実施される。受講生が中級レベルのイタリア語のスピーキングやライティングのスキルを習得することを到達目標とする。食べ物や音楽や映画の好みを語り合うための表現、友人や教師との長文メール、社会問題について意見を述べるための表現を取り上げる。教員による発音や語彙の解説のほか、活発な会話を促すためのゲームや、学生によるプレゼンテーションやディスカッション等も実施する。また、イタリアの歴史・芸術・食文化等に関する情報にも触れ、イタリア語の文化的背景についての理解も深める。	
			ラテン語Ⅰ（文法）		この授業では、古代ローマ時代から近世まで使用され、現代の欧州諸語や学問・文化・キリスト教に多大な影響を及ぼしてきたラテン語の基礎を学ぶ。受講生がこの言語の概要を理解し、入門レベルの文法の知識を習得することを到達目標とする。文字・発音・語順、動詞の現在形・未完了過去形・未来形、第1～第3変化名詞、第1・第2変化形容詞等の事項を取り上げる。教員による文法解説のほか、理解を深めるための練習問題や、習熟度を確認するための小テスト等も実施する。	
			ラテン語Ⅱ（文法）		この授業では、「ラテン語 Ⅰ」に引き続き、ラテン語の基礎を学ぶ。受講生がこの言語の文化的背景を理解しながら、初級レベルの文法の知識を習得することを到達目標とする。動詞（接続法まで）、名詞（第5変化まで）、形容詞（第3変化）のほか、命令形、比較級・最上級、関係代名詞、受動文、分詞、動名詞、間接話法、条件文等の事項を取り上げる。教員による文法解説のほか、理解を深めるための練習問題や、習熟度を確認するための小テスト等も実施する。	
			ラテン語Ⅲ（読む）		この授業では、「ラテン語 Ⅰ・II」で習得した文法知識と、この授業で新たに習得する文法知識を用いて、『新約聖書』（ラテン語訳）やその他の古典的なテキストを講読する。受講生がこの言語の文化的背景を理解しながら、初級～中級レベルの読解力を習得することを到達目標とする。主として『ヨハネによる福音書』や『カルミナ・ブラーナ』等の一部を取り上げる。教員による文法や語彙の解説のほか、テキストの内容に関するクイズや、学生によるプレゼンテーションやディスカッション等も実施する。	隔年
			ラテン語Ⅳ（読む）		この授業では、「ラテン語 Ⅰ～III」で習得した文法知識と、この授業で新たに習得する文法知識を用いて、『新約聖書』（ラテン語訳）やその他の古典的なテキストを講読する。受講生がこの言語の文化的背景を理解しながら、中級レベルの読解力を習得することを到達目標とする。主として『ルカによる福音書』や『ガリア戦記』等の一部を取り上げ、正確な音読や日本語訳の練習を重ねる。教員による文法や語彙の解説のほか、テキストの内容に関するクイズや、学生によるプレゼンテーションやディスカッション等も実施する。	隔年
			古典ギリシア語Ⅰ（文法）		この授業では、欧州の学問や文化の源流である古代ギリシア文明の言語であり、また『新約聖書』の言語でもある古典ギリシア語の基礎を学ぶ。受講生がこの言語の概要を理解し、入門レベルの文法の知識を習得することを到達目標とする。書き方と読み方の基礎、動詞変化の基礎（現在直説法能動相、未来直説法能動相、未完了過去直説法能動相）、名詞変化の基礎（第1変化、第2変化）等の事項を取り上げる。教員による文法解説のほか、理解を深めるための練習問題や、習熟度を確認するための小テスト等も実施する。	隔年

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
全学教養教育	共通科目	語学科目	古典ギリシア語Ⅱ（文法）		この授業では、「古典ギリシア語 I」に引き続き、古典ギリシア語の基礎を学ぶ。受講生がこの言語の文化的背景を理解しながら、初級レベルの文法の知識を習得することを到達目標とする。アオリスト直説法能動相、現在完了・過去完了直説法能動相、各種の代名詞の用法と格変化、不規則動詞（eimi, phemi）の用法、直説法中動相・受動相の動詞活用等の事項を取り上げる。教員による文法解説のほか、理解を深めるための練習問題や、習熟度を確認するための小テスト等も実施する。	隔年
			古典ギリシア語Ⅲ（読む）		この授業では、「古典ギリシア語 Ⅰ・II」で習得した文法知識と、この授業で新たに習得する文法知識を用いて、『新約聖書』のテキストを講読する。受講生がこの言語の文化的背景を理解しながら、初級～中級レベルの読解力を習得することを到達目標とする。『フィリピ人への手紙』、『マタイによる福音書』、『ヨハネによる福音書』等の一部をテキストとして取り上げる。教員による文法や語彙の解説のほか、テキストの内容に関するクイズや、学生によるプレゼンテーションやディスカッション等も実施する。	隔年
			古典ギリシア語Ⅳ（読む）		この授業では、「古典ギリシア語 I～III」で習得した文法知識と、この授業で新たに習得する文法知識を用いて、『新約聖書』のテキストを講読する。受講生がこの言語の文化的背景を理解しながら、中級レベルの読解力を習得することを到達目標とする。主として『ルカによる福音書』の一部をテキストとして取り上げ、正確な音読や日本語訳の練習を重ねる。教員による文法や語彙の解説のほか、テキストの内容に関するクイズや、学生によるプレゼンテーションやディスカッション等も実施する。	隔年
			日本語Ⅰ		日本語を学びたいと考える人々は世界中で年々増え続けている。その人々に日本語を教えるためには、日本語が話せる、学校文法を知っているだけでは不十分で、普段何気なく使用している日本語を意識的に捉え直し、客観的に説明できるようにする必要がある。そこで、この授業科目では、日本語を客観的に考察し、どのようなしくみで語や文が作られているのかなど、詳細な分析を行う経験を積み、日本語の音、語や文のしくみなどを客観的に捉える視点を獲得することを目的とする。日本語の発音、文字のしくみと成り立ち、名詞や動詞の語形成、談話分析、敬語などの日本語を分析する上での初歩的なテーマを中心に取り上げて理解を深めていく。	
			日本語Ⅱ		自然に習得し、これまで使用してきた日本語を意識的に捉え直し、客観的に説明できるようにするために開講されている「日本語Ⅰ」の応用編がこの授業の位置づけである。日本語学習者が発音しにくい音、アクセントの地域差、世界の言語と日本語、借用語、助詞の役割、動詞の活用と種類などのテーマを中心に取り上げ、日本語のしくみへの理解を深めていくことを目的とする。多くの受講生にとっての母語である日本語に対して、その体系や特徴を客観的に捉える視点を身につけることは、日本語学習者への日本語指導の際に役立つことはもちろん、諸外国の言語を新たに学習する際に比較の視点をもちながら学ぶことができ、よりよい学習に繋がる。	
		ＰＡ（パフォーミングアーツ）	ＰＡヴォーカル		歌唱の基本として、姿勢（体幹）、表情をベースにノンバーバルコミュニケーション力を修得し、「声」の特色である「高低・大小・早さ・間・音質」を根拠に楽譜から内面を捉える力も身につける。更に発声法を学ぶだけではなく、身体の共鳴箇所により内容伝達に差異が生じることを認識し、歌唱表現の完成を目指すことは勿論、日常においての表現力向上も目指す。呼吸法においては血流、脳内分泌の向上が顕著に現れることから学習意欲にも確実に影響を及ぼす。そして歌唱表現は言語、歴史、文化を学ぶことになるため、多岐に渡る知識実践にも繋がり、個人的に反復指導を受ける効果は大いに期待される。	
			ＰＡ鍵盤楽器		鍵盤楽器演奏法の基礎として、楽譜の読み方、指の使い方をなど学び、経験者でも気付かないポイントを個々に指摘指導し、西洋音楽を体験、実践する。各作曲家の言語から表出される表現、歴史、文化を学ぶことになるため、多岐に渡る知識実践にも繋がる。身体表現運動は血流、脳内分泌の向上が顕著に現れることから学習意欲にも確実に影響を及ぼす。そして内容表現、鍵盤に対する繊細な指のタッチによる音色の変化を追求することは、表現力、感性の育成だけではなく、自己肯定感、問題解決能力（ＰＢＬ）を養い、個人的に反復指導を受ける効果は大いに期待される。	
			ＰＡ弦楽器		弦楽器演奏法の基礎として、楽譜の読み方、指の使い方をなど学び、経験者でも気付かないポイントを個々に指摘指導し、西洋音楽を体験、実践する。各作曲家の言語から表出される表現、歴史、文化を学ぶことになるため、多岐に渡る知識実践にも繋がる。表現運動は血流、脳内分泌の向上が顕著に現れることから学習意欲にも確実に影響を及ぼす。そして内容表現、弦に対する繊細な弓のタッチによる音色の変化を追求することは、表現力、感性の育成だけではなく、自己肯定感、問題解決能力（ＰＢＬ）を養い、個人的に反復指導を受ける効果は大いに期待される。	
			ＰＡ管楽器		管楽器演奏法の基礎として、楽譜の読み方、指の使い方をなど学び、経験者でも気付かないポイントを個々に指摘指導し、西洋音楽を体験、実践する。各作曲家の言語から表出される表現、歴史、文化を学ぶことになるため、多岐に渡る知識実践にも繋がる。呼吸法においては血流、脳内分泌の向上が顕著に現れることから学習意欲にも確実に影響を及ぼす。そして内容表現、マウスピースコントロールによる音色の変化を追求することは、表現力、感性の育成だけではなく、自己肯定感、問題解決能力（ＰＢＬ）を養い、個人的に反復指導を受ける効果は大いに期待される。	
			ＰＡ打楽器		打楽器演奏法の基礎として、楽譜の読み方、腕の使い方（脱力、重心）をなど学び、経験者でも気付かないポイントを個々に指摘指導し、西洋音楽を体験、実践する。各作曲家の言語から表出される表現、歴史、文化を学ぶことになるため、多岐に渡る知識実践にも繋がる。身体リズム表現運動は血流、脳内分泌の向上が顕著に現れることから学習意欲にも確実に影響を及ぼす。そして内容表現、音色の変化を追求することは、表現力、感性の育成だけではなく、自己肯定感、問題解決能力（ＰＢＬ）を養い、個人的に反復指導を受ける効果は大いに期待される。	
			ＰＡ制作		音楽制作の基礎として、作編曲の基礎とこれに関連する分野の知識実践を学び、楽譜の読み方から始めることから、経験者までポイントを個々に指摘指導し、音楽制作を体験、実践する。想像力を求められることから表現、歴史、文化を学ぶことになるため、多岐に渡る知識実践にも繋がる。そして内容表現、音形、音色の変化を追求することは、表現力、感性の育成だけではなく、自己肯定感、問題解決能力（ＰＢＬ）を養うことから学習意欲にも確実に影響を及ぼし他の多くの授業科目に好影響を与える。	

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
全学教養教育	ＰＡ（パフォーミングアーツ）	ＰＡアンサンブル１		小編成のアンサンブルを各楽器演奏法の基礎も学びつつ、楽譜の読み方から始める未経験者だけでなく経験者にポイントを個々に指摘指導し、西洋音楽を体験、実践する。各作曲家の言語から表出される表現、歴史、文化を学ぶことになるため、多岐に渡る知識実践にも繋がる。身体表現運動は血流、脳内分泌の向上が顕著に現れることから学習意欲にも確実に影響を及ぼす。そして内容表現、音色の変化など、ディスカッションにより追求することは、表現力、感性の育成だけではなく、自己肯定感、問題解決能力（ＰＢＬ）、コミュニケーション能力を養い、更に個人的に反復指導を受けることにより、これらの技術向上効果は大いに期待される。	
		ＰＡアンサンブル２		中編成のアンサンブルを各楽器演奏法の基礎も学びつつ、楽譜の読み方から始める未経験者だけでなく経験者にポイントを個々に指摘指導し、西洋音楽を体験、実践する。各作曲家の言語から表出される表現、歴史、文化を学ぶことになるため、多岐に渡る知識実践にも繋がる。身体表現運動は血流、脳内分泌の向上が顕著に現れることから学習意欲にも確実に影響を及ぼす。そして内容表現、音色の変化など、ディスカッションにより追求することは、表現力、感性の育成だけではなく、自己肯定感、問題解決能力（ＰＢＬ）、コミュニケーション能力を養い、更に個人的に反復指導を受けることにより、これらの技術向上効果は大いに期待される。	
		ＰＡ舞台芸術１		声や身体アンサンブルの基礎を学びつつ、未経験者だけでなく経験者までポイントを個々に指摘指導し、西洋音楽、表現を体験、実践する。各作曲家の言語から表出される表現、歴史、文化を学ぶことになるため、多岐に渡る知識実践にも繋がる。身体表現運動は血流、脳内分泌の向上が顕著に現れることから学習意欲にも確実に影響を及ぼす。そして内容表現など、ディスカッションにより追求することは、表現力、感性の育成だけではなく、自己肯定感、問題解決能力（ＰＢＬ）、社会活動で即実践できるコミュニケーション能力を養い、更に個人的に反復指導を受けることにより、これらの技術向上効果は大いに期待される。	
		ＰＡ舞台芸術２		身体表現、アンサンブルの基礎を学びつつ、基礎が確実に実行可能となるポイントを個々に指摘指導し、西洋音楽、表現を体験、実践する。各作曲家の言語から表出される表現、歴史、文化を学ぶことになるため、多岐に渡る知識実践にも繋がる。身体表現運動は血流、脳内分泌の向上が顕著に現れることから学習意欲にも確実に影響を及ぼす。そして内容表現など、ディスカッションにより追求することは、表現力、感性の育成だけではなく、自己肯定感、問題解決能力（ＰＢＬ）、社会活動で即実践できるコミュニケーション能力を養い、更に個人的に反復指導を受けることにより、これらの技術向上効果は大いに期待される。	
		ＰＡ舞台芸術３		身体表現、アンサンブルの基礎を学びつつ、難易度の高い身体表現もチャレンジを促し、ポイントを個々に指摘指導し、西洋音楽、表現を体験、実践する。各作曲家の言語から表出される表現、歴史、文化を学ぶことになるため、多岐に渡る知識実践にも繋がる。身体表現運動は血流、脳内分泌の向上が顕著に現れることから学習意欲にも確実に影響を及ぼす。そして内容表現など、ディスカッションにより追求することは、表現力、感性の育成だけではなく、自己肯定感、問題解決能力（ＰＢＬ）、社会活動で即実践できるコミュニケーション能力を養い、更に個人的に反復指導を受けることにより、これらの技術向上効果は大いに期待される。	
	日本語科目及び日本事情に関する科目	大学で学ぶ日本語Ⅰ		大学に入学して留学生がまず直面するのはアカデミックな日本語に不慣れなことである。日本語能力は比較的高くても、大学での専門的な授業を理解し、コメントシートやレポートなどの課題提出に困難を抱えるケースが多く見られる。そこで、この授業では、アカデミックな日本語のリスニング、ライティングのスキルの向上を目的とする。講義内容や発表のポイントを正確に聞き取り、日本語でノートを整理する練習や、グラフや表を表現するための日本語を習得し、適切に発表できるようにする練習、自分の意見をまとめる練習、アカデミックなレポートを作成する練習などを行う。これらを通じて、アカデミックな日本語能力の獲得に繋げていく。	
		大学で学ぶ日本語Ⅱ		全体的に日本語能力は高いが、学生によっては技能別で得意・不得意があり、特定の日本語能力の向上がうまく行えていない場合も見受けられる。この授業では、個々の学生の学習状況を踏まえ、テキストを使用したり、グループ活動を行ったりしながら、「読む」、「書く」、「聞く」、「話す」の４技能をバランスよく伸ばすことを目的とする。また、日本語能力試験Ｎ１相当の文法や語彙も取り上げ、文法項目を活かした文章作成の練習なども取り入れ、総合的に高度な日本語運用能力を身につける。	
		日本事情Ａ		多くの留学生は、日本に居住していながらも、日本人と日本語を用いて活動を共にする経験が少ないというのが現状である。そこで、この授業では、留学生と日本人学生によるグループ活動を取り入れながら授業を展開していく。日本に関わる文献から、日本の社会や文化、歴史などを理解し、フィールドワーク等を行うことで具体化を図る。また、学修内容についてのディスカッションや、プレゼンテーションを行うことで、日本語の運用の能力を向上させる。	
		日本事情Ｂ		多くの留学生は、日本に居住していながらも、日本人と日本語を用いて活動を共にする経験が少ないというのが現状である。そのため、この授業では、留学生と日本人学生との混合グループで行い、日本社会や日本文化の理解を深め、課題や問題を発見し、考察した内容をプレゼンテーションで発表することで、交渉力や協調性を養い、他者理解や自己理解を深めるものである。また、総合的に日本語運用能力を向上させていくことも目的としている。	

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
学科専門科目	学科基礎科目	学科の学び	○	（概要）本授業は、心理コミュニケーション学科の専任教員によるオムニバス授業である。心理コミュニケーション学科の学びを構成する諸学問分野（心理学・社会学・コミュニケーション研究・メディア研究・多文化共生論・ジェンダー論）の考え方について各担当教員が入門的な講義を行う。これらの諸学問を結び付けることで、どのように心理コミュニケーション学科の学びが構成されているのかを、1年生の段階で理解することができるようになることを目指す。 （オムニバス方式／全15回） （2 小ヶ谷 千穂／1回） 国境を越える人の移動がもたらす社会の変化や文化やアイデンティティの複数性について概説し、多文化共生の意義について学ぶ。 （6 田中 里奈／1回） 日本語教科書の分析や日本語学習者・教師へのライフストーリー調査等をもとに、日本語教育学の役割と意義について学ぶ。 （8 中川 正紀／1回） アメリカ合衆国の移民の動向について概観し、社会的マイノリティに関する本質的問題と意義について学ぶ。 （1 相澤　一／1回） キリスト教を中心とする諸宗教について概説し、グローバリゼーションと異文化コミュニケーションの意義について学ぶ。 （13 髙橋　誠一／1回） 地域における外国人ネットワークや防災時支援の理論と実践を通じて、地域における多文化共生の役割と意義について学ぶ。 （4　澤田　佳世／1回） 国内外のコミュニティにおけるジェンダーに関わる多様な問題を考察し、家族からジェンダーについて考える。 （18　山本　千晶／1回） ジェンダーの視点から法律や裁判事例について批判的に考察し、被害者支援と法の役割の意義について学ぶ。 （9　饒平名　尚子／1回） 社会の様々な場面における会話の分析を基にコミュニケーションについて考察し、言葉と社会の関係を考察する社会言語学の意義について学ぶ。 （3　齋藤　孝滋／1回） 共通語・地域言語を対象とした構造的・地理的・社会的メカニズム等の視点からの音声研究を概観し、言語学研究の意義について学ぶ。 （5　潮村　公弘／1回） 文化、認知、コミュニケーションの観点から、実証科学研究の論理について入門的な講義を行う。 （17　山崎　浩一・10　大山　真礼・15　仲嶺　実甫子／1回）（共同） 「臨床発達心理学と学校」「むなしさとマインドフルネス」「セルフ・コンパッションと精神的健康」の心理諸領域を概説したうえで、人と人との関係を考察するための理論・方法について入門的な講義を行う。 （7　谷口　昭弘・12　瀬藤　康嗣／1回）（共同） 多様な音楽ジャーナリズムの現在を概観し、音楽メディアと文化」「メディアアートと文化」の考え方について入門的な講義を行う。 （11　関口　洋平／1回） アメリカ文化における家族の表象について概観し、そのことを通じて映画メディアと文化の考え方と役割について学ぶ。 （16　引地　達也／1回） 福祉の現場におけるメディアの役割について理論と実践を通じて概観し、マスメディアと文化の意義について学ぶ。 （14　竹野　真帆／1回） ネットゲームやアプリケーション開発の動向について概説し、ゲームメディアを理論と実践から検討することの意義について考える。	オムニバス方式・共同（一部） 主要授業科目
		導入ゼミ	○	この科目は、大学での学びを自分自身の自由な選択と責任によって進めるために必要となる知識や技能を身につけることを目的として、全新入生が1年次前期に履修する演習科目である。図書館等における資料検索の方法、PC・ICTに関するリテラシー、プレゼンテーション資料作成や発表の方法、レポートや論文等の文章作成のための基礎知識、就学と同時進行的なキャリア形成に向けての意識など、大学生活の充実のために必要な知識やスキルを理解・体得する。	主要授業科目
		心理コミュニケーションの基礎	○	この科目では、「心理専攻」「メディア専攻」「共生コミュニケーター専攻」の3専攻に亘って共通する心理コミュニケーションについて、それぞれの専攻の視点からアプローチする方法について概説する。具体的には、心理学やメディア論、ジェンダー論における研究の論理に始まり、データ収集の方法や分析、結果に基づく議論からの概念形成、さらには、それら概念の再検討までを取り上げ、心理コミュニケーションの基礎的な捉え方を学んでいく。	主要授業科目
		基礎ゼミ	○	専任教員それぞれの専門分野における最新、あるいは重要なテーマについて課題を設定し、履修生がその課題に取り組みながら、それぞれの分野における研究方法や作品制作の基礎を身につける演習科目である。具体的には、導入ゼミで身につけた文献・資料検索方法、分析方法やプレゼンテーション方法を発展させ、課題解決へ向けたディスカッション、レポート作成などを実践する。これらの実践から、3年次以降の専門ゼミ、卒業研究・卒業制作へ向けたアカデミックな構えを培うのが本授業の目的である。	主要授業科目

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
学科専門科目	学科基幹科目	コミュニケーション概論	○	この科目では、「心理コミュニケーションの基礎」での学びをさらに深めるべく、心理学、言語学、日本語学、社会学と言った領域において、コミュニケーションがどのように捉えられているのかについて、それぞれの領域におけるキーワードを手がかりに考えていく。具体的には、自己、対人関係、集団、組織・文化、社会と個人、さらに、建築物や町並み、風景や小説、映画、コミックなどをキーワードとして挙げ、研究方法の習得とともにコミュニケーションに迫っていく。	主要授業科目
		身体としぐさの心理学		本講義では、対人関係を構築し、発展させていく上でなくてはならないコミュニケーションについて、その基礎知識とその応用に関する社会心理学的知見を、パラ言語や表情、視線、ジェスチャーといった、ことばそのもの以外の現象を含め紹介する。具体的には、身体接触・姿勢、空間行動、さらには、インターネットなどメディアも視野に入れ、日常生活における対人コミュニケーションを取り上げることで、それらを捉える理論や知見、研究するための様々な手法に触れ、最終的には日常生活におけるコミュニケーション行動について社会心理学的な視点から考察できるようになることを目標とする。	
		談話分析	○	本科目では質的言語研究として談話分析をとりあげる。談話とは意味的なまとまりのある文より大きい単位の集合体である。講義形式で談話分析の基本的な概念と分析方法を解説し、具体的な実際の談話データ（会話、メディア上のやりとり、記事などの書かれたデータを含む）を扱うことで、「ことばと文化の関わり」や「ことばのやりとりと人間関係、心理面への影響」などについても考察をしていく。最初に言語学における質的研究の位置づけを述べ、談話分析における重要概念（語用論、会話分析、相互行為の社会言語学等）を順次解説していく。そして基本的な概念を使って談話データにおいて起きている事柄について簡単な解説または分析ができるようになることを目的とする。	主要授業科目
		コミュニケーションと社会・文化・共生	○	この科目では、グローバル化が進む中で必要とされる、多文化共生という視点を持って他者と良好な関係を構築しながらライブリーかつエフェクティブに活動できるコミュニケーターの育成を目指す。具体的には、文化の多義性の理解、外国文化との交流において起こる諸問題の理解を軸としつつ、異なる言語的・文化的背景の人びとと接していく際のコミュニケーションの視点、さらにコミュニケーションが社会を形成・維持・変化させるための重要な行為であること、相手によって、置かれた状況や環境によって、人間のコミュニケーションが変わること、特に急速に変容する現代のメディア環境が人間のコミュニケーションのあり方も変えてきたことについても捉えていく。	主要授業科目
		ことばと心理・個人・社会・地理の因果関係		本授業の目的は、日本語を中心とした諸言語の音韻・文法・語彙・表現・談話等を含めた言語コミュニケーションについて、各言語の特徴と通言語的共通性を明らかにする対照言語学と、言語文化間の対照により、各々の特徴と通言語的共通性を明らかにするための理論と研究方法を学び、さらに実際の具体的言語コミュニケーション資料や言語芸術パフォーマンス資料についての分析とパフォーマンス体験をとおして、言語コミュニケーションと心理・個人・社会・地理の因果関係の理解を深めることにある。	
		マスコミュニケーションと情報社会		現代が「情報化社会」と呼ばれるようになって久しいが、そこで「情報化」と呼称されていることの中心には、「マスコミュニケーション」が位置している。この授業では、マスメディアの誕生から現代のネットの隆盛に至るまでのメディアと人間の関係をたどる。メディアの歴史を知り、それらについてこれまで重ねられてきた議論について理解することで、私たちにとってあまりにも当たり前のものになっているマスコミュニケーションのありようを意識化し、その捉え方を学ぶ。	
		メディアリテラシー論		現代の社会にはテレビ、インターネット、スマホ、新聞など多様なメディアが存在し、そこからの情報が私たちのものの考え方、ひいては社会のありかたまでも左右するようになっている。このような「メディア社会」で主体的に生きていくためには、メディアと批判的・創造的にかかわっていく力「メディア・リテラシー」が不可欠となる。そのとき、「私たちがメディアとどう関わるか」「メディアをどう受け取るか」が重要となる。本授業では、このメディア・リテラシーの基本となる考え方について、講義および小グループでのワークショップを通して学ぶ。	隔年
		多文化共生論入門	○	本講義では、多文化共生社会を読み解く上での基礎的な視点を身につけることを目標とする。具体的には、国境を超える人の移動を通して複数の文化が共生する中で、国家や家族、国籍と市民権、福祉、労働市場、ネットワーク、ジェンダー、アイデンティティ、といった既存の社会制度や概念がどのように変化しているのかを考えることを通して、多文化共生社会の現状と課題を明らかにしていく。主な対象は日本社会とし、具体的な事例の検討を通して多文化共生論の全体像をつかめるようにする。	主要授業科目
		日本語教育学概論		本授業では、多言語・多文化化した現在の状況を踏まえつつ、日本語教育をめぐるこれまでの歴史と社会を捉えていくことを目的とする。また、日本語教育人材が担っていくべき役割や日本語教育の公共性に関して議論を行い、そうした過程を通じて、自分と日本語教育との接点を見出し、日本語教育に対する自分なりの立場を構築していくことを目指す。授業では、授業担当者がこれまでに行ってきたインタビュー事例を取り上げたり、映像作品を視聴したりしつつ、グループディスカッションなどの協働学習を通じて、トピックへの理解を深めていく。	
		比較共生社会論		「移民の国」と呼ばれるアメリカ合衆国も、1960年代半ば頃まで、出身地域の違いに応じた差別的な移民受容政策をとってきた。しかし、「1965年改正移民法」を境に、多様な社会構成員どうしの平等化と共存を目指すようになり、紆余曲折を経て現在に至っている。1990年代の深刻な財政危機、2000年代の同時多発テロや金融危機、などの影響で移民に対する風当たりが強まる一方、増加する中南米系の票が次第に重要視され、各政権は多様性社会を見据えた連邦移民政策を模索し実施してきた。他方、それに対する移民とその家族、そして移民支援・支持者たちの反応も従来になく目立つようになった。本授業では、以上のような連邦移民政策と民間人が提案する相反する移民対策とのせめぎ合いの歴史を通じて、多様化社会の共存に向けた課題とその解決への取り組みの実例を基に、日本の今後の多様化社会における共存の可能なあり方を考える。	

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
学科専門科目	学科基幹科目	文献・情報の集め方		文化および社会の動向を正確に把握するための技術・技法は、コミュニケーション研究の前提として欠くことのできない基本的スキルである。本講義においては、そのスキルを、1）問題の策定、 2）仮説の立案、3）文献およびデータ収集の方法、4）文献の読解およびデータの処理、5）仮説の検証、という５つの下位区分に分割する。さらに、本講義における「仮説の検証」においては、統計的検定および構造分析を主たる方法論として定置する。統計的手法は、「説得力」を増強するという目的を遂行する上では最も強力な方法であるといえる。また、それは、様々な資料の背後に存在している「隠れた文化的・社会的因子／要素」を把握する手法としても有用である。	
		社会・心理調査の方法		何らかの主張を行う場合、その主張の前提としての「事実」の確認が重要である。どのような素晴らしい主張であっても、「確認された事実」に基づかないものであれば、検討に値しない。「社会調査」「心理調査」とは、「事実」を収集し確認する手法をいう。本授業では、社会調査と心理調査の双方について、その具体的な手法を学ぶ。前半は社会調査について説明し、後半は心理調査について説明する。原則として講義形式の授業であるが、実際の「社会調査」「心理調査」についての実践的な学習を伴う。	
		プレゼンテーションの方法		自分の考えを表現することは重要である。この授業では、他者に自分の構想や提案を伝えるプレゼンテーションの方法を学び、実践していく。まずはプレゼンテーションの基本やスライドを使ったプレゼンテーションの方法を学び、発表を繰り返すことでプレゼンテーションのトレーニングを行う。最終発表は、伝える内容も重視する。社会的課題と解決のためのアクションについて考え、発表を行う。作業や発表は個人で行ってもらうが、伝えるための効果的な方法などはグループワークを想定する。	
		インタビュー・面接のスキル		本授業では、自分で収集した語りのデータを使って自身の問題・関心に迫る。質的研究法であるインタビュー調査について、方法・考え方を学び、かつ、計画・実践、結論を導くまでの調査過程を一通り経験する。具体的には、インタビューの倫理、インタビューの基本スキル、トランスクリプト実習を経て、調査計画を立て、質問項目を作り、インタビューを実施、トランスクリプトを作成・読み合わせ、分析、考察し、発表会を開催する。授業の前半では、ライフストーリー・インタビューを中心に質的調査方法についての講義が中心となるが、中盤以降は、グループ単位および個人単位のインタビュー調査プロジェクトに取り組んでもらう。	
		ディベートと自己主張		「自己主張」は、現代においても重要な要素技術である。一方で「ディベート」という枠組が存在している。議論によって何かを成し遂げることは難しいが、議論という枠組みの「意義」は「自己主張」であると考えられる。本講義では、「ディベート」を想定しつつ、そこで「自己主張」について考える。具体的には、講義中に提示されるテーマにしたがって、受講者自身にグループ・ディスカッションおよびディベートを行ってもらう。テーマごとにグループ分けを行って、それぞれのテーマについて調査およびグループ・ディスカッションをし、実際にディベート試合を行う。上記のような授業を通して、効率的な「自己主張」についての知識と技術の習得を目指す。	
		ビジネス・コミュニケーションスキル		ビジネス・コミュニケーションにおいて、特にBtoBのコミュニケーションにおいて、ドキュメント・コミュニケーション（文書作成技法）は、いかなる業界・部門・ポジションにおいても必要不可欠なビジネススキルであるといえる。本講義の目的は、文章の書き方、図表作成の仕方、プレゼンテーション資料の作り方といった個々の技法はもとより、そればかりではなく、より包括的・体系的なドキュメント作成法を習得することである。前半においてはBtoBのドキュメント作成方法について学ぶが、後半の一部においては、BtoC（Buisiness to Customer)のドキュメント作成方法についても学ぶ（これもとても重要な技術である）。	
		フィールドワークとライフストーリー研究		本授業では、主に社会学的フィールドワークおよびライフストーリー研究という質的な調査方法について基礎から学び、各自がフィールドワークやライフストーリー調査の計画を立て、プレ調査を行うことを到達目標とする。社会調査を通して「わたし」と社会/世界のつながり/かかわりについて、批判的かつ自覚的にとらえられる思考力を身につけることを目標とする。講義前半でフィールドワーク、ライフストーリー分析の理論を学び、これらの手法によって行われた社会調査の成果に基づく既存研究に触れる。後半では、各自が実際にライフストーリー・インタビューの調査計画を立て、調査を行い、その成果を報告する。	
		コンピュータによる調査データの解析		この授業科目では、ＰＣを用いた実習形式でのデータ解析により、専門性の高いデータ分析について修得する。近年では、エビデンス・ベーストな視点に立った計画や決定が重要視され、そのためには実証的なデータを収集し、かつ適切なデータ解析を行う必要がある。特に大学での学修には高度なデータ解析の力量が求められている。本授業では、主としてSPSS統計解析用ソフトウェアを用いて、「分散分析」「因子分析」「重回帰分析」「共分散構造分析」といった統計分析手法を実施し、さらに、定型的なデータ解析を超えて、データ解析を試行錯誤しながら自律的に分析を進め、独自のデータ解析を実施するところまで到達する。その学修を保証するために、授業回ごとのミニレポートの提出とそれに対する講評、加えて学期末には応用的なデータ解析を行う力量を評価する学期末試験を行う。	
		対話研究		対話は自分の言いたいことをただお互いにしゃべることと違い、より深い相互理解と相手への尊重を生み出すことを目的にする。対話の中でも特に他者を支援するための対話の場にこの科目では重点を置きながら「対話」とは何か、何がそこでは起きてくるのかを質的言語学研究の分析視点を取り入れて検討する。相手を尊重し、目標達成や自己実現を支援する制度的対話とはどのようなものだろうか。本科目では講義とディスカッション及び対話の練習も取り入れつつ、相談者が「理解してもらえた。尊重してもらえた。」と感じる対話の進め方、目標や好ましい自己像を手に入れるための質問技法、その背後にある考え方を検討する。対象としてナラティブ・セラピー（相談者の「語り」に着目した臨床心理療法）とコーチングを中心にとりあげるが、その他の支援的対話にも通じる考え方・技法も紹介する。 題材として実際のセッション録画や録音を文字化したものも使用し、問題の解決や解消に向けた質問の投げかけ方、支援者・応援者としての在り方を示すコミュニケーション（承認、共感、リソースの探求等）などを順次取りあげていく。また学生自らお互いにペアワークやグループワークなどを通して練習し、よりよいコミュニケーターとなることを目指す。	
		社会言語学		社会と人間の関わりはどのようなものなのか、社会的階級、ジェンダー、心理、地域、言語政策、差別的言語表現などの観点から検討する。題材として主に英語圏におけるこれまでの研究成果を講義を通して概観し、日本社会との比較もすることによって自分たちの身近な社会とことばの関係にも目を向けていく。はじめに社会言語学の基本的な概念を知り、それらを使って私たちを取り巻く社会における言葉の影響のいくつかについて、例えば女性の社会における立場とことばの関係などを問題意識を持って考察することを目的とする。	

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
学科専門科目	学科基幹科目		原因と結果のデータ分析		本授業では、世界標準の研究者仕様統計ソフトパッケージIBM社製Amosを用いて、様々な人間行動の原因と結果の因果関係を要因モデルで解明することを目指す。具体的に学ぶ分析手法は、重回帰分析（人間行動に関わる要因モデル分析）と共分散構造分析（人間行動に関わる要因について原因と結果の因果関係モデル分析）である。特に本演習で中心的に学ぶ後者の分析（共分散構造分析）は、研究者レベルの上級レベルの分析であるとみなされているが、この分析で最も重要なのは、因果関係のストーリーを語れる文科系的な素養と考えられる。本授業では、一切数式を用いない確立された教授方法により、この上級レベルの分析を習得する。すなわち、IT関連・マーケティング関連・教育他様々な企業でデータ・サイエンティスト、社会調査士として即戦力となる技量を習得することになる。	
			データに基づく予測		データサイエンスにおいては、データに基づいて予測を行うことが重要である。本授業では、Excelを用いた統計の基礎を学ぶところから開始し、ベイズ統計とベイズ推定によるデータ予測について学ぶ。履修学生には、（授業開始時においては）必ずしも前提となる数学的知識を習得している必要はない。また、Excelの使い方についても、本授業内で解説する。本授業は、原則として文系学生を対象とし、ベイズ理論に基づくデータ予測を実際に実施できるようになることを想定している。	
			ファッション文化		ファッションを「服飾系」に限定したとしても、現代ファッションには、いたるところに過去の服飾文化の影響を見ることができる。さらに、ファッションとは、服飾系のみならず、様々なものに、影響を及ぼしている。この授業では、まず、ファッションとは何かについて学び、続いて、日本と西洋の歴史における服飾文化を学び、さらにそれらが時空を超えて現代の私達の装いとどのように関っているのかを政治、芸術、ジェンダー、メディア等を視点に考えていく。	
	学科発展科目	心理	心理データ分析	○	この科目では、ＰＣを用いた実習形式でのデータ解析により、広く行動科学領域におけるデータ解析の基礎となる統計学・推計学の考え方を理解するとともに、一般的なデータ分析の進め方を修得する。近年では、実証的なデータを収集し、かつ適切なデータ解析を行って、結果・知見を分かりやすく報告する力量が求められている。そこで、主としてSPSS統計解析用ソフトウェアを用いて、「相関分析」「独立性の検定」「ｔ検定」「分散分析」「因子分析」「回帰分析」といった統計分析手法を実際に実施し、その分析結果を正しく、かつ分かりやすく記載できる力量の獲得を到達点とする。	主要授業科目
			心理学の応用		この科目では、心理学の知見がどのように応用されているのかについて、社会心理学、産業・組織心理学、臨床心理学などを例に概観していく。具体的には、職業生活や仕事をする人たちの行動への心理学の「応用」を、ワーク・モチベーション、職場のリーダーシップ、組織の意思決定などを例に学び、また、心的外傷後ストレス障害（PTSD）の回復への支援のあり方、すなわち心理療法について心理学の「応用」を、さらに、健康・医療におけるコミュニケーションについて心理学の「応用」範囲の広さを見出していく。	
			ことばと心理	○	この科目では、ことばと心理の関係について、特にことば（言語）側に焦点をあてて、研究方法とともに概観していく。具体的には、日本語のみでなく諸言語を対象として音響音声学的分析法や記述法に触れつつ、代表的な文法論と語彙論を理解し、普段何気なく使っている「話しことば」を学術的に研究する眼差しを培い、その上で自分自身の発話資料を記述・分析することで、場面、相手、内容などによって、ことばの表出が異なること、そこには心理的な影響もあることを学んでいく。	主要授業科目
			心理的アセスメント		本講義では、心理的アセスメントについて、その目的、倫理、心理的アセスメントの観点と展開、心理的アセスメントの方法としての観察・面接及び心理検査、適切な記録及び報告の仕方について学ぶ。心理的アセスメントについての基本的な理論、姿勢、知識、視点を身につけ、アセスメントにおける初歩的な技能を体験的に理解するため、ワークやロールプレイ、グループディスカッションなどに積極的に参加すること、内的体験を省み、ことばで表現するためのレポートの作成・提出が求められる。心理的支援において欠かせない見立て・アセスメントを、将来の心理専門職として身につけることは、公認心理師としての大きな支柱を得ることに繋がる。	
			心理学実験	○	本授業では、データに基づいて人間を探究する心理学において必要不可欠である実験・調査の内、基本的な実験を体験し、その研究方法を習得し、心理学の研究対象である現象についても理解を深めていく。加えて、実験計画法など実験の計画立案についても学んでいく。また、心理学に必要な統計の基本的な知識についても実際のデータを分析しながら理解していく。 実習では全履修者を複数のグループに分け、複数の教員の指導のもとで実験などを実施する。実験の種目によっては、実験装置を扱い、各自が実験者と参加者の双方の役割を体験することがある。それぞれの種目について、実習で得られた結果を各自が分析し、関連する文献を参照し、それらをまとめて翌週までにレポートを提出することを繰り返し行う。	共同 主要授業科目
			心理学統計法	○	心理学の研究においても定量的データの分析には、統計的手法、特に推測統計が必須となっている。よって、心理学の論文などを理解するためにも、また自身で研究を行い、レポートや卒業論文を執筆するためにも、その知識が必要である。本授業では、心理学的研究に用いられる統計的手法に関する基礎的な知識から統計アプリケーションの使用方法や結果の読み取りを解説するだけでなく、履修者が実際に使用することによってその理解を深める。	主要授業科目
			心理学研究法	○	本授業では、データに基づいて人間を探究する学問である心理学において必要不可欠である科学的な研究方法（量的研究ならびに質的研究）を概観し、実証的研究の論理を理解することを目的とする。具体的には、初歩的な観察法、実験法、調査法、面接法、検査法について、その特徴、長所・短所を理解し、自身が実際に研究する際に適切な方法を選択できるだけの知識を獲得する。同時に、特に心理学的研究を実施する際に必要となる倫理的配慮についても学ぶ。	主要授業科目
			臨床心理学概論		本講義では、理論的基盤に心理学をおき、悩みや困り感、生活し難さを持った対象に、アセスメントを通して立てた方針を基に専門的な支援を実践していく臨床心理学の成り立ち、代表的な理論、実際に心理学的支援を行うための方法について学び、臨床心理学の概要を理解することを目指す。具体的には、心理学や、関連する精神医学、福祉学、教育学などに関して、その歴史的背景を含めて概観し、また、医療、教育、産業、福祉、司法・矯正といったさまざまな分野において用いられているアセスメント方法や支援方法についても、簡易な実践を含めて理解していく。	

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
学科専門科目	学科発展科目	心理	公認心理師の職責		公認心理師法の成立によって、心理学に基づく国家資格である公認心理師という資格が誕生した。公認心理師は、国民の心の健康の保持増進に貢献するための資格であり、その職責は、複雑化・困難化している国民の心の健康に関する課題の解決に資するところにある。 本講義では、公認心理師の職責について、資格の役割や意義、現状や課題などについて、幅広く学習することでその理解を深めていくことを目的とする。加えて、公認心理師が社会の様々な場面でどのような役割を果たすことを期待されているのか、そして、どのような知識や技能を習得することが必要なのかについても考えていく。	
			心理学概論	○	行動科学とも称される心理学は、人の行動をデータとして心を客観的に捉え、記述することをその目的としている。本講義は、国家資格である公認心理師を目指す学生を含め、はじめて体系的に心理学を学ぶ学生のための科目である。心理学のさまざまな領域において、どのように研究などが進められてきたのか、すなわち、心理学の成り立ち、また、それら研究によってどのようなことが分かってきているのかを概観する。取り上げる領域は、知覚、認知、学習、感情や、これらの働きを実現する脳、ならびにその発達、社会や教育との関連もとりあげる。加えて、悩みや困り感、生活し難さについて心理学的に支援するための臨床面もトピックとして取り上げる。	主要授業科目
			知覚・認知心理学		本講義では、人がどのようにして自分や他者、それをとりまく世界に関する情報を取得し処理しているのか、すなわち、知覚・認知という心的過程について概観していく。具体的には、感覚器官の生理学的な特徴にはじまり、注意、記憶、思考、学習、推論、問題解決といった過程について、それらに関する研究方法とともに考えていく。さらには、それらの障害についても触れることで、人の日常生活における知覚・認知の役割についても理解を深める。	
			学習・言語心理学		本講義では、「ある事象との接触によって個体に生起する比較的永続的な行動変化」としての学習について、そのプロセスやメカニズム、また、それらを研究する方法について、オーソドックスな動物実験を含め概観する。その上で、学習理論の応用である行動分析や行動療法などにも触れ、我々の日常との繋がりについても考えていく。加えて、人間特有の行動といえる言語行動について、学習という観点からその習得過程についても取り上げる。	
			社会・集団・家族心理学		本講義では、社会、集団、家族といった人と人との関係が個人の意識・態度・行動に与える影響について、古典的な研究を含め概観する。具体的には、個人間関係・集団における個人内過程（情報処理過程）や、社会的態度と行動、説得を含めたコミュニケーション、個人間関係の基礎のひとつである家族、学校などについて、その影響性について考えていく。また、研究方法として、調査法のみでなく、アクションリサーチを含めた実験法についても触れる。	
			発達心理学		本講義では、誕生から死に至るまでの個体発生の過程、また、持てる力を発揮する過程と捉えられる人間の発達について、環境との相互作用を中心に概観していく。具体的には、乳児期、幼児期、児童期、青年期、成人期、老年期といった発達の様相、その各期における家族や学校などの影響を、遺伝と環境、また、個人差という視点からとりあげ、発達の概念や発達の原理についても考察していく。また、発達をとりまく問題である発達障害、引きこもり、不登校、虐待についてもとりあげる。	
			健康・医療心理学		本講義では、心身の健康について、その疾患の要因やプロセス、支援の方法、医療機関や心理専門職の役割などについて概観することで、あらためて心身の健康について考えていく。具体的には、心身、すなわち、こころとからだのつながりや、心身の疾患に関する理論を解説し、疾患などへの心理的介入・支援について、問題点を含め具体例をとりあげ、専門職の果たす役割について考えていく。可能な限り、日常生活においても応用可能な内容を取り上げる。	
			人体の構造と機能及び疾病		本講義では、心理的困難を伴う対象への心理的介入・支援のために身につけておくべき人体に関する医学的な基礎知識についてとりあげる。具体的には、神経系、筋骨格系、循環器系、呼吸器系、泌尿器系、消化器系といった人体の構造や機能、疾病の原因・プロセス、疾病などの心理状態や生活への影響について理解したうえで、診断や治療についての基礎的な知識についても学ぶ。可能な限り、日常生活においても応用可能な内容を取り上げる。	
			心理学的支援法		本授業では、心理的困難を伴う対象への心理的介入・支援を総称する心理学的支援について、演習的要素を含めて学ぶ。具体的には、代表的な心理療法などの歴史や意義、適用や限界について理解し、そのうえで、心理的困難を伴う当事者のみでなく、家族や関係者における心理的問題・背景、さらには社会状況の影響についても理解を深める。その中には、当事者の発達的問題も含まれるため、それらを把握するための方法についても学ぶ。そして、それらの知識を基盤として、支援方法を身につけていく。	
			心理演習		本演習では、心理学を基盤に、公認心理師として基本的に必要な知識および技法の修得を目的とする。具体的には、まず、心理的支援を必要とする人の立場で考えることができるようになるための知識の修得を目指す。そして、公認心理師としての職業倫理及び法的義務を学ぶことで、心理的支援を必要とする人等への関わりの基本を身につける。その後、心理面接場面におけるコミュニケーション方法を学ぶため、具体的な場面を想定したロールプレイを実施する。さらには、心理検査についても学び、ロールプレイを実施することで、医療、保健、福祉、教育、司法・犯罪、産業の各領域における個人および集団などの様々な現場での面接を疑似体験し、その上で、支援計画の立て方や、チームアプローチ・連携をも視野に入れた学びを深めていく。	共同
			心理実習		本実習では、臨床心理の実践現場にて、公認心理師が活動する職場の様子、業務内容、多職種との連携とチームアプローチ、 職業倫理、法的義務等について、実習施設・機関の実習指導者及び実習科目担当教員による指導を受けながら学ぶ。具体的には、実習をさせていただくために必要な知識を学んだうえで、保健医療分野、教育分野で集中的に実習を行い、特に後者では実際に子どもたちとかかわりあい、各発達段階の特徴や子どもと支援者とのコミュニケーション、特別なニーズを持つ子どものアセスメントなど、支援方法を学ぶ。その過程で、公認心理師の職務内容、心理的アセスメント、多職種連携、地域連携についても学ぶ。事前・事後指導はグループ討議を中心に進め、実習後は実習ノートを作成する。	共同
			精神疾患とその治療		本講義では、心理専門職として理解しておくべき精神疾患とその治療方法について体系的に学ぶ。具体的には、精神医学について、自然科学と人文・社会科学の側面をあわせ持つ特殊な領域である点を踏まえ、その歴史・現状を概観したうえで、代表的な精神疾患の原因、経過、症状や診断法、当事者を含めた家族や関係者への支援のための治療法に関する基本的知識について理解を深めていく。本講義を通して、こころの病、こころの健康とは何か、あらためて考えていく。	

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
学科専門科目	学科発展科目	心理	関係行政論		本講義では、心理支援に携わる専門職にとって必須の法律ならびに行政的な仕組みについて学ぶ。具体的には、保健医療、福祉、教育、司法・犯罪、産業・労働の５分野における心理支援を想定し、支援を実践する上でどのような法律が関係し、どのような施策や制度があり、どのような歴史的経緯でそれら法律や制度が構築され、どのような課題があるのかについて体系的に理解を深める。そのうえで、これら法律や制度の基盤となる日本国憲法や、国家資格として心理支援を実践するための法的根拠となる公認心理師法についても取り上げる。	
			感情・人格心理学		本講義では、人間の心理・行動、とりわけその個人差について、感情とパーソナリティ（人格）の側面から理解していく。具体的には、感情や感情が行動に与える影響に関する様々な理論、また、進化心理学、行動遺伝学、認知神経科学などパーソナリティ（人格）に関する諸理論についての理解を、研究方法の理解とともに深めていく。そして、多様性（個人差）という側面から自己や他者、社会について理解する視点を培うことで、社会における人間の行動にアプローチする方法を広げていく。	
			神経・生理心理学		本講義では、人間の心理・行動の生物学的基礎としての脳の構造や機能について、基礎的な知識を身につけることを目的とする。具体的には、脳の構造について理解したうえで、知覚、記憶、学習、感情、意識などの心的機能を脳がどのように担っているのかについて理解を深めていく。加えて、睡眠や生体リズム、心の病についても、脳の機能という側面から概観する。さらに、これら構造や機能を明らかにするための研究方法についても触れる。	
			教育・学校心理学		本講義では、教育に関して心理学的にアプローチする従来の教育心理学に加え、学校自体へ心理学的にアプローチする学校心理学について体系的に学ぶ。具体的には、児童生徒の心理発達、学校における教員を含めた個人間関係について理解したうえで、いじめや不登校を含めた児童生徒が直面する様々な困難に関する心理学的知見に触れ、知識を深めていく。その上で、学校や家庭における具体的な支援方法について、臨床発達・心理臨床的な視点から考えていく。	
			産業・組織心理学		本講義では、産業、組織、労働という社会的枠組みにおける人間の心理・行動に関する基礎的な心理学的知見について学ぶ。具体的には、ワーク・モチベーション、キャリア、リーダーシップなどといった側面から産業・労働場面を概観し、さらに、そのような場面で形成される公式・非公式組織についても、行動への影響という視点から理解していく。そのような理解を基盤とし、産業・労働場面における今日的課題についても考察を広げ、心理アセスメントや支援方法についても考えていく。	
			司法・犯罪心理学		本講義では、司法・犯罪に関する心理学的理論および心理専門職がどのような支援を実践出来るのかということについて学ぶ。具体的には、犯罪の要因に関する理論、法律や制度、加害者の更生支援、犯罪被害者への支援と制度の現状などについて取り上げ、それらの学びを基に、例えば、再犯防止について心理専門職としての自身に何が出来るのかを考え、まとめてみる。司法という側面からは、家事事件についても取り上げ、とりわけ、子どもの福祉の問題について理解を深める。	
			障害者（児）心理学		本講義では、障害者・障害児の心理社会的課題、ならびに必要に応じた支援について学んでいく。具体的には、身体障害、精神障害、知的障害、発達障害などの心理学的・生理学的メカニズムや発達のメカニズムについて概要を理解し、また、必要なアセスメントについても学ぶことによって、より的確な支援に繋げるための知識を蓄積する。加えて、合理的配慮についても取り上げ、日常における障害の理解、支援という枠組みについて考えていく。	
			福祉心理学		本講義では、福祉現場において心理支援を行うために求められる知識を学んでいく。具体的には、社会福祉の理念、法制度を含めて福祉制度の概要とその歴史を学ぶとともに、多様な福祉支援における心理専門職の役割、多職種連携についても理解を深める。福祉現場、とりわけ福祉施設において生じる問題やその背景、心理社会的課題、必要な支援について考えるため、具体例として児童福祉施設における心理支援を取り上げる。また、福祉専門職の抱える問題についても整理していく。	
		メディア	マルチメディア制作Ⅰ（ＣＧ・ＤＴＰ編集）		2次元コンピュータグラフィックスの製作手順および技術を習得する。実際にデジタルスチルカメラを用いて撮影した写真画像を使用して演習を行う。また、Illustratorを用いてのイラストの作成およびポスター作成の演習を行う。原則として、Adobe Photoshop、Illustrator、InDesignを使用するが、必要に応じて、GIMP、Photopea、Inkscape、GravitDesignerなども使用する。	
			マルチメディア制作Ⅱ（音楽制作）		この授業は、パソコンでデータ入力をしてシンセサイザーに演奏させる、いわゆる「打ち込み」を学ぶ演習系の科目である。楽曲の「編成」の方法、それぞれの楽器パートの役割、全体をまとめて「よい演奏」にする方法について、実際に製作用ソフトを用いつつ具体的に学んでいく。ただし、単に具体的な音楽制作ソフトの使い方をを学ぶだけではなく、音楽制作に必要となる基礎知識の習得を目指す。さらには、実際に音楽制作において必要となる音楽表現の知識と技術を修得させることを目指す。	
			フィルム・スタディーズ入門	○	この授業ではいくつかの代表的な映画ジャンルに焦点を当てつつ、映画研究の基礎を学ぶ。また、様々な映画を批判的に考察し、アメリカ文化に対する理解を深めることを、目的とする。形式、テーマという意味でこれらのジャンルにはどのような特徴があるを考えつつ、これらのジャンルはアメリカの文化/社会/歴史とどのように関係しているかについて学ぶ。あわせて、これらのジャンルは映画史のなかでどのように変容していったかを考察する。	主要授業科目
			メディア分析		メディアが持っている力は、私たちの社会に少なくない影響を持っている。また、メディアの力の多くは、そこに含まれる「物語」によって生成される。ここでいう「物語」はCM、漫画、映画、小説などの中に埋め込まれており、それらを視聴する私たちの内部に「自分の物語」として定着することも少なくない。これが自分の「価値観」となる。本講義では、これらのメディアが持つ力を物語構造分析の手法を用いて分析し、そこに存在している訴求構造を抽出し、現代における様々な文化現象を解釈する上で極めて重要となる基礎的な知識と技術習得を目標とする。	

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
学科専門科目	学科発展科目	メディア	メディア制作		いまや誰もがインターネットを介して世界中に情報発信が可能な時代となった。この授業では音声・音楽・写真・映像・文字などで構成される動画コンテンツのクオリティをより上げるためのスキルを実践的に獲得することを目指す。録画、編集、カメラを２台以上用いてリアルタイム配信するためのスイッチングや音声のミキシング、それ以外にも気をつけなければならない著作権や、SNSのリスクなど。実践的で役に立つ知識と経験を、プロジェクト型演習を通じて修得してもらう。また、ジャーナリズムにおいて、映像の重要性は、言うまでもなく日々増加している。今や、映像を伴わない報道が注目されることは少ない。本授業では、実際のテレビのニュースやドキュメンタリーを教材にして、取材の仕方やインタビューの役割、映像の持つ力強さを実践的に学ぶ。単なる撮影手法の修得にとどまらず、映像を中心にニュースをどう表現すべきかを考え、その実践的な手法の修得を目指す。授業は原則として演習形式で行い、具体的な撮影の方法から、取材環境の構築までを包括的に修得することを目指す。	
			音楽社会学	○	音楽は、この社会の文化の重要な一側面であり、今や音楽なしに文化を語ることは不可能である。この授業では、音楽を社会的な現象としてとらえ、その創造（生産）・伝播（流通）・享受（消費）のありかたを、さまざまな社会的要因から分析・考察する。その中でもコンサートにおける「聴き手」のあり方の変化、複製技術が音楽にもたらした影響、ポピュラー音楽など音楽の様々なジャンルなどについて取り上げる。「学ぶ」だけでなく「考える」授業を構成する。	主要授業科目
			キリスト教音楽概論	○	音楽は、宗教との深い関係性の中で進化・発展してきた。特に、音楽とキリスト教の関係は深く、キリスト教的な救済の文化的文脈は現代でのポップスの中にも見ることができる。本授業では、キリスト教音楽作品を取り上げ、時代順に検討していく。それぞれ作品が礼拝／典礼や教会暦とどのように関わりを持つのかを考えた後、作品の歌詞を読み、聖書のメッセージと音楽の関連を考え、そのメッセージが音楽を通してどう表現されているかを検証する。なお本講義では会衆賛美のためのキリスト教音楽はあまり扱わない。	主要授業科目
			映画舞台音楽論		舞台芸術・映画芸術はいわゆる「総合芸術」であり、多くの芸術分野を包含している。なかでも、舞台・映画と音楽は密接に関係しており、音楽を語らずにそれらの芸術を語ることは難しい。この授業は、ディズニー・アニメーション映画を重たる題材とし、そこで使われている音楽を考えるクラスである。特に長編映画では、ミュージカル的手法、背景音楽（アンダースコア）に使われる旋律（ライトモティーフなど）などについても言及する。	
			諸民族の音楽		私たちが普段接している音楽は、その大部分が西洋由来の音楽語法によるものであるといえる。しかし世界には、そういった西洋の音楽とは違う音組織や音感覚からできているもの、あるいは音楽に対する発想そのものが異なるさまざまな諸民族による音楽実践が存在している。世界の色々な地域で行われている諸民族による音楽実践に触れ理解を深めることによって、私たちの価値観が揺るがされることが多々あるが、一方で視野を広めてくれることもある。この授業では世界の音楽をいくつかの地域に分け、視聴覚資料を通して、人々がどのように自分たちの音楽と接しているかを考えていく。そのような学習を通して多彩な音楽が成り立つ文化や価値観を知ることによって、私たち自身のことが見えてくるだけではなく、国境を超えた人々との相互理解が深まってくることもあると考える。	
			コンピュータ音楽制作		この授業では、コンピュータによる音楽制作初心者を対象に、MacOS上の音楽制作ソフト（DAWソフトウェア）であるAbleton Liveを用いた音楽制作の基本技術の習得を目指す。履修者は、コンピュータを利用した音楽の制作/編集/調整の方法や音響処理を実践的に学び、最終的に作品として仕上げる。この授業は、音楽制作の経験のない、まったくの初心者向けの演習系授業であり、履修学生には事前の関連知識や経験を求めない。	
			調査と取材の技法	○	ジャーナリズムにおいてばかりではなく、何らかの主張を行うすべての言動においては、その基礎となる「事実」の収集と確認が欠かせない。本授業では、原則として「ジャーナリズム」「報道」の分野での事実の収集とその事実性の確認の方法について学ぶことを主眼とする。アポイントメントのとりかたや、インタビューの仕方などといった個々の要素技術を学びつつ、それを通して「事実とは何か」というジャーナリズムの基本的概念の修得を目指す。	主要授業科目
			新聞・出版ワークショップ		人の（特に若い世代の）言語運用能力・語彙力・論理力・読解力などの低下も関連しており、出版ジャーナリズムの危機は、現政権のスタンスと重なる時代や人びとのナショナリスティックなメンタリティと大きく関連していよう。活字文化・本の文化・雑誌文化と、これら出版産業および出版ジャーナリズムは、今後どうなってしまうのであろうか。この講義（演習）では、受講生が授業外に様々なワーク（課題）をこなし、統計データ等をひもとき、出版界や出版内容の現状を分析しながら、現代文化を支えている出版文化と出版ジャーナリズムについて考えたい。授業は、出版企画書、読書レポート、パソコンを使ったデータづくりやグラフづくり、雑誌の内容分析など、課題やワークショップが多く、参加型のものとなる。	
			編集的思考入門		「情報がたくさん有ることは、無いと同義である。」情報化時代などと言われて幾星霜、私たちは現在でも、通り過ぎる多くの情報の渦のなかで生きている。この講義では、「編集」を幅広い視点で捉えつつ、編集的思考はどのような思考方法なのかを、理論的または実践的に解きほぐしていく。まず前半（７回）は編集的世界観とは何かを理論的に学んでいく。後半（７回）はその実践として編集術（スキル）を身につけるため、編集キーワード（収集、選択、分類、要約、縮減、比喩、推理、相似、象徴、諧謔、構造、原型、装飾、削除、模倣、表現）からイメージの換気力を膨らませるとともに、発想力と表現力を沸き立たせるための方法を学ぶ。と同時に＜ほんとうのもの＞を選択する能力を磨くために必要なものとは何かを知る。	
			映画研究		現代において、「アメリカ映画（ハリウッド映画）」は、全世界の映画作品を代表するといっても過言ではない。この授業では「アメリカ映画」を対象とし、いくつかの代表的な映画ジャンルに焦点を当てつつ、映画研究の基礎を学ぶ。また、アメリカ映画を批判的に考察し、アメリカ文化に対する理解を深める。特に、人種・ジェンダー・階級といった要素を重視しつつ、映画のなかに表象されたアメリカ文化/歴史を批判的に考察していく。	
			出版編集制作		近年、出版編集の分野においては、記者自身が「紙面製作」の具体的な作業まで担うことが多くなりつつある。具体的には、InDesignなどのDTPソフトを用いて、紙面・誌面製作を行っている。この授業は、業界標準の編集製作ソフトであるInDesignを用いての紙面・誌面製作の具体的な手法を修得することを主眼とする「演習系」の授業である。単なる要素的な技術としてではなく、キャッチーであり、かつ「見やすい」「読みやすい」「理解しやすい」誌面の構成方法について学んでいく。	

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
学科専門科目	学科発展科目	メディア	編集デザインスキル		本講義はエディトリアルデザインの技術（スキル）を習得すると同時にデザインとは、デザインセンスとは何かを学習する。一口にデザインといっても、その領域は広く、ジャンルは多岐（服飾、建築、工業、商業）にわたる。その中で本講義は、商業デザインを中心に、中でもエディトリアル（編集）デザインに焦点を絞り学習する。ただし、編集デザインという意味での基盤となる概念は、ジャンルを問わず共通している。本講義では、履修学生の興味の方向を活かしつつ、どのような分野においても有効である編集デザインの基盤となる概念とスキルの修得を目指す。	
			インターネットメディア論		現代において、インターネットはメディアの中核的な存在となりつつある。様々な情報がインターネット経由で提供され、多くのユーザーがそれを享受しいている。しかし、インターネット経由での情報提供と享受には、さまざまな弊害も存在する。本講義においては、まずインターネットという「技術的実装」について学び、続いて、その問題点について学ぶことを目的とする。さらに、インターネットという「道具」が人類の未来に資するものとなる姿について議論し、理解を深める。	
			インターネットセキュリティ		インターネットという技術的実装は、利便性を追求した結果、多くの脆弱性を伴うものとなった。この脆弱性を理解することが、インターネットセキュリティの確保のためには欠かせない。この授業では、まず、インターネットの持つ脆弱性について広範に理解することを目的とする。続いて、現代における代表的な脆弱性に関して、個別に解説しつつ、それらへの対処方法を具体的に説明する。履修学生がそれぞれのPC環境にネット環境において、具体的かつ実質的な「脆弱性への対処」をできるような作業を伴う。それらの学習をとおして、様々な環境においてインターネットセキリュティを評価し、またセキュアな環境を構築する技術を修得することを目的とする。	
			テキストマイニング		テキスト分析とは、大量のテキストデータを処理して、そこに存在する「訴求構造（魅力を構成する要素の関係）」や「意見構造（意見を構成する要素の関係」を探る手法である。コンピューター上において日本語を扱う「テキスト分析」は、今後の日本における様々な企業や団体において、その必要性がますます高くなっていくと考えられている。本授業では、テキスト分析の手法の一つである潜在意味分析（LSA:Latent Semantic Analysis)という方法を用いて、訴求構造や意見構造を分析する方法について学ぶとともに、実際にテキスト分析を行って、分析報告書を記述する方法までを習得することを目的としている。	
			ゲーム分析		現代においてきわめて重要な意味を持つと考える「ゲーム」に焦点をあて、ゲームという文化現象を通して、物語の訴求力を分析する知識と技術を学ぶものとする。本講義では「ゲーム」の中でも主にコンピュータゲームを分析対象とし、訴求構造分析の応用事例としてのテキスト分析の方法について学ぶが、広くデータマイニングの手法についても学ぶものとする。また、テキスト分析を物語構造分析に応用する具体的な方法についても学習する。	
			Internet of Things		本講義では、近年注目が集まっているIoT(Internet of Things/モノのインターネット)に関する知識・技術を習得し、新たな音・音楽に関するIoTシステム、電子楽器の開発やサービスの考案を行う。IoTに関連する技術はスマートフォンやスマートスピーカーなど、今や我々の生活に溶け込む存在となっており、音・音楽分野の創作活動やにおいても重要な知識・技術の一つになりつつある。本講義の前半では、IoTに関する基礎知識と技術の習得、3Dプリンタやレーザーカッター等を用いたものづくりを体験する。後半では上記を通して得た知見を応用し、IoT技術と音・音楽を組み合わせた作品やサービスの創作に着手する。	
			プログラミング演習		「ゲームプログラミング」を例題としてプログラミングを学ぶ演習である。ゲームエンジンとしてはUnityを用いる。原則として遠隔授業として実施し、履修学生各自が、自分のPC上で「Unityを用いてゲームプログラミングを行うことができる環境」を構築するところから始める。プログラミング言語はC#を用いる。また、単に「ゲームを作れる」ということにとどまらず、そのゲームを「高い訴求力を持つ」「売れる」ゲームにする手法について、具体的に説明し、その技術と知識を修得させる。また、授業後半ではグループワークを基本とし、プログラム開発環境におけるディレクター、アートディレクター、ゲームシナリオライター、デザイナー、プログラミングエンジニア、の役割分担についての理解を醸成する。	
			ネットアプリ制作演習		ネットアプリ（インターネット上で提供されるWebアプリ）の制作を学ぶ。プログラミング環境としてはGo言語を用いる。Go言語は、現時点においてネットアプリ制作に関して最も着目されているプログラミング言語であり、今後少なくとも5～6年は、この状態が続くと考えられる。そのため、まず、Go言語を用いて、クライアント側のアプリを制作する方法について学ぶ。続いて、Go言語を用いて、サーバーサイド・プログラミングについて学ぶ。これらの学習は、将来においてGo言語以外が主流となった場合でも有用であると考えられるし、そのように授業を構成する。	
			メディア論		この授業では、主として放送系メディアを想定したメディアについて学ぶ。特に、放送系メディアにおける「アナウンサー職」の役割についての学習を中心とする。その手がかりとして、放送草創期から、現在にいたるまでのあいだで、メディアにかかわる放送人の意識がどのように変化してきたのかを検証する。また、地上波やBS、インターネットなど、多様化するメディアの中で、放送人やアナウンサーがどのようにメディアと向き合い、また、どうあるべきかについて考える。	
			広告とマーケティング		実際の広告映像やCM、webプロモーション素材を中心にしながら、マーケティング・コミュニケーションがたどった現在までの変遷を、人・メディア・表現・社会に注目しながら社会学・社会心理学の枠組みで検討する。映像などを中心としたコミュニケーションの実例、人を動かそうとする実例を、授業だけでなく、授業外に受講者自らも実例を探し、その効果を検証する作業を行う。参加者が分析した実例は授業内で活用し、さらに分析することで双方向的な展開も行う。	
			音楽ジャーナリズム		音楽について論じ、書き、伝える能力は、仕事として音楽ジャーナリストを目指す人だけでなく、さまざまな音楽関連業界や音楽研究の仕事をするためにも必須の能力である。この授業では、まず「ジャーナリズム」とは何かを学び、続いて、「ジャーナリズムという観点から見た音楽」について学ぶ。さらに、クラシックを中心とした音楽に関するさまざまな文章を執筆するにあたって必要とされる執筆技術、知識や発想、視点について、実際の執筆課題を通して学び、ジャーナリズムの本質部分についての理解の醸成を目指す。	
			アニメ・ゲーム音楽の製作技法		この授業では、ゲームや映像作品で用いられる効果音「SE（Sound Effect)」の作成についての具体的な技法の修得を目指す。ただし、単なる効果音製作にとどまらず、その効果音が、ゲームや映像作品に対して持つ影響について、実際の具体的な例を見ながら学んでいく。さらには、シンセサイザーをもちいた音響合成や、ミュージックコンクレートの技法による自然音の加工を通じて、ゲームや映像作品の効果音の制作実習を行う。	

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
学科専門科目	学科発展科目	メディア	アート・マネージメント		近年、デジタル技術の普及がいわゆるレコード産業に大きな打撃を与え、一方でロックフェスやドームコンサートなどのライブ産業が隆盛している。また、芸術文化への公的支援は削減の一途をたどり、音楽を巡る社会的情勢は大きな変転期を迎えている。この講義は、これから社会に出てアート・マネージメントに関係する仕事に就くことを希望している学生を中心的なターゲットとし、社会における芸術文化のあり方を理解することを目指す。具体的には芸術文化に関連する産業の基本的な特徴や、芸術文化に関連する文化政策の基本的な枠組みや、アート・マネージメントという仕事を、音楽分野を中心的な事例として理解してもらことを意図する。理論面だけではなく、芸術文化に関する実践的な取り組みについても知見を広げるため、アートの最前線で活躍するゲスト講師を招き、『アートを仕事にする』ということを具体的に考える機会も設ける。	
			Digital Fabrication Lab.		デジタルファブリケーション（Digital Fabrication）とは　、3Dスキャナで測定したモノのデータや、パソコンで作ったデジタルデータを、3Dプリンターやレーザーカッターなどのデジタル工作機械で読み込んで木材、アクリル、プラスチックなどの素材で造形する技術のことを指す。この授業では、３Dプリンタ、レーザーカッターを用いて実際に造形物を作る技法を学び、自分が作りたいものを形にすることを、手を動かしながら学んでいく。	
			コミックと小説の訴求構造分析		「訴求構造分析」とは、構造主義的な研究手法に則って、ある作品の「訴求力」を分析することをいう。この授業では、対象となる作品を「コミックと小説」に限定し、その訴求力の分析手法を修得することを目的とする。前半においては、物語論と訴求構造分析の研究文脈を網羅的に学ぶことを目論む。ただし、履修学生には、豊潤な「物語の世界」を感じとってもらいたいと考えるため、必要に応じてコミックと小説以外の代表的な「物語」について触れる。後半においては、物語分析の手法（内容分析と表現分析）を紹介し、その双方の分析手法の修得を目指す。	
			英語で学ぶ映画		英語の映画を「吹き替えではなく英語のままで」「字幕を見ずに」鑑賞することができるようにする授業である。もちろん、この授業の最終的な目的は、文化的な文脈上で展開される英語での会話を理解し、会話できるようになることであるが、「映像作品」を対象として、「その文化圏の言語のままで理解する」ということの意義に鑑みれば、メディア専攻の科目としてきわめて高い重要性を持っていると考えられる。具体的には、90分程度のハリウッド映画を選定し、12回に分け、毎回8分程度の部分について「解説」と「追い読み」を行う。途中に２回の「全体読み」を設けて、進捗を確認し、最後に対象映画全編鑑賞会を行い、成果を確認する。	
		共生コミュニケーター	ジェンダーと多文化共生社会	○	ジェンダーの視点から多文化社会、グローバル化社会の諸問題について検討する科目である。一つは、日本あるいは海外の事例を扱った映像作品を主な題材として、「市民」や「コミュニティ」の複数性と、そこにジェンダーの問題がどのように交差しているのか、を「インターセクショナリティ」の視点から考察する科目である。もう一つは、「男尊女卑」的な男女観がいまだ残る中米地域からアメリカ合衆国に国際移動した移民について、アメリカ社会および本国社会への心理的結びつきの男女差を現地での聞き取り調査記録を題材にして考察する科目である。	主要授業科目
			セクシュアリティと社会	○	人間の「性」や「性のあり方」に着目しながら、その歴史的位置づけやそれらをめぐる争訟など多様な視点から考察することで偏見や差別の問題について学ぶ。具体的には、性的マイノリティをめぐる問題や、売春やセックスワーカー、ポルノグラフィといった性をめぐる諸問題について取り扱う。講義では、社会におけるセクシュアリティの意味やその変遷を学び、「セクシュアリティ」が”自然”ではなく歴史をもつことを理解することで、「性の多様性」という観点からセクシュアリティの問題についてアプローチする能力を身につける。	主要授業科目
			比較支援論	○	アメリカ合衆国における移民支援活動の歴史と現在を扱う。対ラテン系移民支援を例にとると、1980年代初期から、中米内戦からの避難民に保護、物品、法的な助言を提供して安全な「避難所」を目指す、「サンクチュアリームーブメント」（the Sanctuary Movement）と呼ばれる超党派の宗教組織による運動がある。また、エル・レスカテ（El Rescate）やカレセン（CARECEN）などのＮＰＯ組織では、移民の抱える様々な問題に取り組むために、専門職員やボランティアなどが日々、活躍中である。本授業では、米国の様々な移民支援組織の活動内容を題材に、日本において多文化・多言語社会をコーディネートするためのヒントを探る。	主要授業科目
			多文化社会における社会福祉		多文化社会の中で、福祉的ニーズの内容・対象ともに多様化している。貧困や暴力にさらされる女性や子どもたちのなかには外国につながる人々も多く、固有の課題も顕在化している。本授業では、多文化化する社会に特有の社会福祉的課題とアプローチについて、主に理論的・構造的な視点から学ぶ。「貧困の女性化」や「子どもの貧困」と呼ばれる問題構造の中で、さらに外国籍や外国ルーツの女性・子どもたちがおかれている状況を理解し、また外国籍住民の高齢化といった新しい課題についても理解を深めながら、社会福祉への多文化的アプローチを身につける。	
			異文化コミュニケーションの理論と実践		今日、グローバル化に伴い、異文化理解・多文化理解がより必要とされている一方、異文化接触における摩擦や誤解が表面化している。本授業では、異文化コミュニケーションの基本的な知識を体得し、自分が今まで意識していなかった文化を意識化していく。そして、摩擦や誤解が起きる原因や今後の行動指針などを各受講生が言語化し、社会での実践力・コミュニケーション能力を養う。	
			エスニックマイノリティと共生社会		日本のエスニックマイノリティの中でも、特に先住民族アイヌおよび台湾や朝鮮半島にルーツを持つ人々を扱う。まずは、マイノリティの言語や文化に関する学びを通して現代日本社会の多民族性・多文化性を理解する。それと同時に、「包摂」と「排除」という日本の中央政府や地方政府による対マイノリティ政策との闘いの連続であった、かれらの歴史の中に、エスニックマイノリティとしての文化復興・文化継承あるいは人権保障が実現されるための教訓を見出し、それらを多文化社会の中でどのように生かしていくべきかを考える。	
			共生社会と宗教		現代の日本社会では、宗教に苦手意識を持つ人や、宗教に対して無関心な人も少なくない。しかし、宗教は私たちの生活習慣や文化にとって欠かせない基礎であり、異なる文化圏で暮らす人々の価値観を理解するうえでも重要である。特に、グローバル化が進む現代社会において、「宗教について基本的なことを理解し、宗教文化について自ら考え、説明できる力」は、これまで以上に求められていると言えるであろう。本講義では、現代日本社会にとって宗教とはどのようなものか、との問いを出発点として、異なる文化圏との比較をふまえつつ、日本の文化や生活に密接に関わってきた宗教の事例を、様々な角度から考察していく。なお、受講にあたり、宗教に関する専門的知識の有無は問わないが、専門用語をただ暗記するのではなく、関心のある事象について自ら調べたり、考えたりすることを重視する。	

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
学科専門科目	学科発展科目	共生コミュニケーター	英語で読む世界の「移民問題」		学術的視野を広げ専門知識を身につけ、世界各地の様々な移民事例を深く理解するためには、主に英語で発表される数多くの専門書や学術文献を「読み」こなす力が不可欠である。また、そこから得られた知見に基づく自らの見解を、社会に向けて発信するための「書く」力も重要である。それは、話し言葉よりも書き言葉によって伝えられる情報量の方が断然多いからであり、さらには「読み」から得られた情報を今度は話し言葉によるコミュニケーションの題材としても使えることになる。一方で、英語を「聞く力」・「話す力」は、「読む力」・「書く力」の上達によって相乗的に向上させることも可能となる。本授業では、移民・難民論研究に欠かせない英語文献の読解力の養成を目指す。	
			ことばとフィールド		日本にとって身近であり、また在日外国人数も多い東南アジア（フィリピン、タイ、ベトナム、インドネシア）各国の言語の基礎と地域事情について学ぶ。言語学習と地域事情を組み合わせて理解することによって、多文化社会における異文化理解の実践的な方法を学ぶ授業である。受講生はこの授業を通して、各言語の基礎的力をつけることに加えて、その言語の基盤となる文化的背景や、その言語が実際に使われている地域の社会経済状況、そして日本社会におけるそれらの地域出身者の現状に触れ、多文化共生社会における実践的な力を身につけることができる。	
			共生のフィールドワーク	○	本授業は多文化共生の現場でのフィールドワーク科目である。また、受け入れ団体と受講生との間で具体的なプロジェクトを企画・立案し実施するPBL科目でもある。神奈川県内で、外国につながる子どもや多様な社会経済的条件の下で育った子どもたちのサポートやエンパワーメントにかかわる活動をしている複数の団体の活動に受講生がチームで毎週継続的に参加するフィールドワークと、その経験を授業内で共有することを通して、「共生」概念について理解を深めていく。	講義　30時間 実習　60時間 主要授業科目
			生活支援論		本授業では、現代社会における生活支援のあり方について考察する。地域社会では外国人住民の増加・定住化に伴い多文化化が進展し、行政、教育、医療、福祉、法律などさまざまな分野で既存の制度や仕組みでは対応できない問題状況が現出している。そこで本授業では、自治体、国際交流協会、社会福祉協議会等における取組みの事例を聴くとともに、授業内でのワークショップ等を通じて、人びとの暮らしが多様化する現代社会における生活支援のあり方について考察する。	
			ケースワーク基礎論		多文化化する日本において、今日求められるケースワークの性質も多様化している。本授業では、多文化ソーシャルワーク、およびフェミニスト・ソーシャルワークの視点から、特に外国籍女性DV被害者や、外国にルーツを持つ子ども・家族の社会福祉的ニーズや困難を扱うケースワークについて、ケースメソッドやロールプレイなどのアクティブラーニングを通して学ぶ。社会福祉分野における多文化ソーシャルワークや多文化コーディネーターの役割の重要性と社会的意義について具体的な事例から学ぶことを通して、多文化共生社会の現場を担う力を身につける。	
			共生コミュニケーション実践論		本授業では、多文化社会の地域防災をテーマに共生社会におけるコミュニケーションのあり方を学ぶ。日本では近年、自然災害の頻発化・激甚化の傾向が顕著にみられる。また、外国人住民や外国人観光客の増加に伴い、災害時の外国人支援が重要な社会課題となっている。そこで本授業では、地域防災におけるコミュニケーションを実践課題として設定し、事例研究、ワークショップ、グループ・プレゼンテーションを通じて、多様な言語・文化的背景の人びとが共生する社会に求められるコミュニケーションのあり方について考察する。	
			多文化教育方法論		本授業では、ワークショップ等を通じて多文化共生社会の担い手に求められる多文化能力を養う。日本、また多くの国・地域で、多様な文化背景の人々が共によりよく生きることのできる社会をめざす多文化共生およびそのための多文化教育が重要な課題となっている。本講義では多文化教育論の視点から現代の日本社会における諸課題を考える。その上で、異なる文化の人びとと関わり、共に違いから学び合いながら成長するための意識や基本能力（多文化能力 intercultural competence）を身につけるための、フォーマル、インフォーマル双方の領域における教育方法論について学ぶ。	
			紛争解決コミュニケーション		グローバル化、多文化化が進む中、個人、集団、組織、そして国家間でのさまざまな水準での紛争解決のスキルが求められている。本授業では、平和学の視点からの紛争解決コミュニケーションの基本的な理念と方法について学ぶ。具体的な事例に即した紛争解決コミュニケーションの実践方法について学ぶことに加えて、コミュニケーション・スキルをどのように他者に伝達・教育できるのか、そのあり方についても考えることを通して、共生社会におけるコミュニケーターとして力を身につける。	
			聴覚障害の理解と手話の技法		この講義では、異文化コミュニケーションのひとつとして手話言語を学ぶ。授業では、手話の初歩的な単語や文型を学び、簡単な日常会話を学ぶだけでなく、「手話から学ぶ」ことを意識しながら、手話を第一言語とするろう者の文化や生活（趣味や仕事、子育て、旅行や交通手段等）についても学びを深め、聴覚障害への理解を深める。それにより、手話言語で自己表現ができるようになり、同時に、多文化共生社会について関心を高めることを目指す。	
			コミュニティ通訳論（基礎）		本授業では、コミュニティ通訳の基礎について学ぶ。近年、外国人住民の増加・定住化に伴い、地域社会では行政・教育・医療・司法の各領域において、言語間の「橋渡し役」を務めるコミュニティ通訳の役割が求められるようになっている。本授業では、コミュニティ通訳の役割・方法・心構えについて、さまざまな領域・地域での実践事例を聴くことや、ワークショップ等を通じて学び、多文化共生社会の担い手としての意識・能力を身につける。	
			コミュニティ通訳論（実践）		本授業では、コミュニティ通訳における実践の視点を具体的事例から学ぶ。近年、外国人住民の増加・定住化に伴い、司法・行政・教育・医療の領域において、言語間の「橋渡し役」を務めるコミュニティ通訳の役割・必要性が地域社会で求められている。本授業では、コミュニティ通訳が求められるさまざまな領域の事例・場面を取り上げ、異文化対応力を養うとともに、多文化化・多言語化が進展する地域社会の諸問題について考察する。	
			コミュニティ通訳論（特論）		本授業はコミュニティ通訳の基礎的な考え方と実践について既習の学生、かつ在日外国人の主要な言語の中級レベル以上の力を持つ学生を対象にした、コミュニティ通訳養成のための授業である。在日外国人の国籍・言語別に、日本における生活上の課題や困難を理解した上で、具体的な場面においてコミュニティ通訳が果たすべき役割とそのための知識とボキャブラリーを総合的に学ぶことで、卒業後にコミュニティ通訳として現場で活躍できるレベルのスキルを身につけることを目指す。	

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
学科専門科目	学科発展科目	共生コミュニケーター	地域日本語教育実習		本授業では地域の日本語教室で学んでいる外国につながる人々と実際に関わり、日本語学習の支援をする経験を通じて、多様なバックグラウンドをもつ人々とともにどのような社会をめざすことができるのかを考察していくことを目的とする。授業では、沖縄や朝鮮半島、南米などにつながる人々が多く居住している横浜市鶴見区にてフィールドワークを行うが、それに先立ち、学内での座学で、移住者のバックグラウンドや抱えている問題、多文化共生のあり方への考察と、複数言語環境で生きる人々のことばの習得理論についての理解を深める。その後、フィールドワークを実施して、当事者の方や支援機関の方々から現状についてのレクチャーを受けた上で、日本語の支援実習を行い、振り返りを行う。	
			日本語教育研究の方法		本授業は、日本語教育で使用されることの多い研究手法をいくつか取り上げ、研究の基礎を学んだ上で、実際にそれらを用いて、ミニ研究をグループで行う授業である。各自の関心に合わせて研究の問いを立て、最適な調査方法を検討する。また、実際に調査を実施して成果をまとめ、ポスター発表を行い、一連の研究の過程に対する振り返りを行う。研究デザインの具体化・実施を通じて、日本語教育研究の基本的な手法を身につけ、研究に対する理解を深めていく。	
			日本語学習のコースデザイン		日本に在留する外国につながる人々が抱える生活上の課題や問題点を把握し、それらにどう対峙するのかを考えることが現在求められている。本授業は、そうした人々に対して、日本語教育の観点から具体的にどのようなサポートができるのか、そして、私たちがどのように変わり、どのような社会を創っていくべきかを考えていく。私たちが取り組むべき支援のあり方を構想するとともに、日本語非母語話者に日本語を教える際に何をどのように教えるかといったコースデザインについても考察していく。	
			日本語教育の教材分析		本授業では、複数の日本語教科書を取り上げ、比較分析しながら、代表的な日本語教科書の特徴について理解を深めていく。具体的には、日本語学習者に対して教科書を用いながら教えることを想定し、個人またはグループで教科書の各課を分析し、結果を発表し、ディスカッションを行う。様々な日本語教科書を比較し、教科書の基本練習からコミュニケーションにつなげるための方法を考え、最終的には、模擬授業や校外実習など実際の教壇に立つ前に具体的な教室活動のイメージを持てるようにすることを目指す。また、ICT教育や教材作成に伴う著作権の取り扱いについても触れていく。	
			日本語教育文法		本授業では、初級日本語学習者が使用する教科書で取り上げられている初級の文法項目を中心に考察を深めることを目的とする。日本語学などの授業においても、日本語の文法は取り上げられているが、本授業では、それを初級学習者が学ぶ日本語授業の組み立てと関連づけながら学んでいく。実際の日本語の授業の中で、日本語文法を学習者に提示し、授業の中で展開していくといった教育現場での運用と結びつくような形で理解を深めていく。授業では、グループディスカッションや教員からのフィードバックなど双方向的な活動を取り入れて行っていく。	
			日本語教授法		本授業では、日本語学習者を対象とした実践的な指導法を学ぶことを目的とする。日本語学習者が日本語の文型を理解し、それを使ってコミュニケーション力がつくようにするにはどのように指導するとよいのかについて考察していく。また、日本語学習者を支援する日本語クラスで直面する事象や問題について述べられた文献も取り上げ、日本語学習を支援・指導する際の教室・言語環境の設計はどのようにしたらよいのかを考える。授業では、日本語支援・指導のポイントとなるテーマを設け、そのテーマについて概説した後、ワークショップ形式で検討や作業・作成を行って発表し、実践的に理解を深めていく。また、担当者を決めて文献レビューを行い、ディスカッションを通じて、それぞれが自分の考えを形成し、授業例などを構想していく。	
			第二言語習得論（日本語）		「日本語教師」と言えば、一般に教室で日本語を教えるという姿がイメージされるが、近年では、日本語を教える以外に、自律的な学習を支援したり、相互学習を促進したり、学習環境・システムを整えたりするなど、かつてとは異なる「日本語教師」の役割も見られるようになった。本授業では、主に社会・文化的な観点から第二言語習得について考える。具体的には、「外国人力士の第二言語習得」、「留学と第二言語習得」、「参加と第二言語習得」などのテーマにもとづき、社会・文化と第二言語習得の関係を考察する。	
			音声教育法		多様な背景を持つ外国人たちとコミュニケーションをとる機会が増え、さまざまな日本語の発音を耳にする機会も増えてきた。発音は最も母語の影響が残りやすいと言われているが、日本語非母語話者が日本語の発音を学習するだけでなく、日本語母語話者も日本語の音声知識をもち、さまざまな発音を理解し、必要に応じてアドバイスができる能力を身につけることが求められるようになってきている。本授業では、音声学の概要を理解するとともに、多様な事例を取り上げて、日本語の発音がどのように習得されるかについて理解を深めていく。また、発音指導の方法にはどのようなものがあるのかを学び、実際に日本語の発音指導ができるようになることを目指していく。	隔年
			日本語教育実習１		本授業では、日本語初級クラスで扱う文型への理解を深め、実際に複数回、教案作成を行い、模擬授業を行う。クラスでのディスカッションなどの協働活動や自身の模擬授業の映像分析・振り返りを通じて、日本語クラスの指導のあり方を学ぶ。長期休暇に実施予定となっている1～２週間程度の日本語学校などでの教壇実習に備え、実際の日本語初級学習者に対して、一人で授業運営が行えるように、教育実践力を総合的に身につけていくことを目的とする。	
			日本語教育実習２		本授業では、日本語初中級から中級レベルの学習者を対象とした授業運営のあり方を学ぶことを目的とする。実際に複数回、各自で教案作成を行い、模擬授業を行う。クラスでのディスカッションなどの協働活動や自身の模擬授業の映像分析・振り返りを通じて、日本語クラスの指導方法を身につける。長期休暇に実施予定となっている1～２週間程度の日本語学校などでの教壇実習に備え、一人で授業運営が行えるように、教育実践力を総合的に身につけていくことを目的とする。	

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
学科専門科目	心理コミュニケーション専門演習科目	専門ゼミＩＡ	○	履修者が、心理、メディア、共生コミュニケーションの各領域において各自興味のあるテーマに関する知見を深め、卒業研究・卒業制作へ向けてアカデミックな実践活動を重ねていく演習科目である。専門ゼミＩＡでは、自身のテーマを模索しつつ、各専門領域の基礎知識を蓄積し、また、研究に用いられる様々な方法に触れることで、自身のテーマにフィットした方法を選択できる眼差しを培う。そのために、履修生同士でのディスカッション、あるいは情報の共有を推し進めていく。	主要授業科目
		専門ゼミＩＢ	○	履修者が、心理、メディア、共生コミュニケーションの各領域において各自興味のあるテーマに関する知見を深め、卒業研究・卒業制作へ向けてアカデミックな実践活動を重ねていく演習科目である。専門ゼミＩＢでは、専門ゼミＩＡで培った知識や眼差しをさらに深め、自身のテーマを絞り込むため、より専門性の高い資料へアクセスしていく。そこで得られた知識や方法をディスカッションを通して履修者間で共有することで、テーマの決定、方法の選択へと進んでいく。	主要授業科目
		専門ゼミⅡＡ	○	履修者が、心理、メディア、共生コミュニケーションの各領域において各自興味のあるテーマに関する知見を深め、卒業研究・卒業制作へ向けてアカデミックな実践活動を重ねていく演習科目である。専門ゼミⅡＡでは、専門ゼミＩＡ、ＩＢで培った基礎知識や方法を自身のオリジナル研究・制作へ昇華させるべく、テーマの確定、さらなる先行研究へのアプローチ、中間発表による研究・制作の進捗状況の共有やディスカッションを通し、必要なデータの収集、分析へと進めていく。	主要授業科目
		専門ゼミⅡＢ	○	履修者が、心理、メディア、共生コミュニケーションの各領域において各自興味のあるテーマに関する知見を深め、卒業研究・卒業制作へ向けてアカデミックな実践活動を重ねていく演習科目である。専門ゼミⅡＢでは、専門ゼミⅡＡまでの蓄積を卒業論文・卒業制作へ結実させるべく、分析・考察を深めていく。それらを履修生間で共有・ディスカッションすることにより、新たな視点の獲得にも繋がり、自身の卒業論文・作品の社会還元についても考察を深めることが出来る。	主要授業科目
		卒業論文・卒業制作	○	心理、メディア、共生コミュニケーションの領域における学際的な学びを通じて、人間への深い理解と多様なルーツや価値観を持つ人と人をつなぐ「コミュニケーション」手法を身に付け、幅広い教養と多文化共生の視点をもって、社会の発展とイノベーションの推進に貢献できる創造的な人材の養成という心理コミュニケーション学科の教育目標を踏まえ、専門ゼミＩＡ、ＩＢ、ⅡＡおよびⅡＢでの取り組みを通して、自ら模索・設定したテーマについて、専門的な知見ならびに方法を用い、その集大成として社会還元の意を込めた論文・作品を完成させる。	主要授業科目
教職に関する科目		教育原理		本講義では、教育の基礎理論に関する科目のひとつであり、今後履修するその他の「教職に関する科目」の序論に位置づく。教育の理念や思想及び教育に関する歴史を学ぶ中で教育の本質とは何かについて考える。具体的には、教育・学校・教員制度についての歴史とともに、第二次世界大戦後の教育権思想の発展や、学校と家庭との協力関係の蓄積について学ぶ中で、教育の基本的概念を理解し、今日の、そして今後のあるべき教育理念について考える。なお、毎回の授業終了時にはレスポンスシートを記載してもらうとともに、隣に座っている学生同士による1分間コミュニケーション、小グループに分かれてのディスカッションとそのグループ毎のプレゼンテーションによって皆の意見を全体で共有するなどのアクティブ・ラーニングの手法を適宜取り入れて授業を進める。	
		教育思想		本講義では、古代から現代に至るまで、各時代や各地域、社会の人々の教育に関連する事柄についての捉え方や、教育に対する態度を規定してきた教育思想について考えていく。それは、教育を「教えるー学ぶ」という単なる行為としてではなく、その目的や役割を理解するための基礎的な知識でもある。具体的には、代表的な教育思想家たちの思想、これまでの歴史の中で示されてきた教育の理念、教育を成り立たせる諸要因に関する思想を学び、自分がこれまで教育に抱いてきたイメージや、自分たちが受けてきた（受けている）教育の背景にある思想を理解する。特に、日本の近代教育が長い教育思想の歴史の中に位置付いていることを理解する。各時間のテーマについて、教育思想家たちの思想を学ぶ。グループセッションでは、各時間のテーマの理解を促す課題や、教育思想を身近に捉え、実際の教育や学校との関わりを理解するためにディスカッションを行う。	
		教育心理学		本講義では、教育活動について心理学的に研究し、教育実践上の課題を解決するため、適用可能な心理学的知見と、高い効果をもたらす心理学的技術を提供することを目的としている。具体的には、典型発達の幼児・児童・生徒のみならず、障害を持つ幼児・児童・生徒の心身の発達および学習の過程に関する知識、各発達段階における心理的特性を踏まえた学習活動を支援するための基礎知識、支援方法を提供するものである。加えて、学校現場では必須の、教育・学習評価についても、幼児・児童・生徒の発達の特徴と関連付けて理解する。また、アクティブ・ラーニングとして、性格検査、知能検査を実施し、自己採点を行い、その結果について、プライバシーに最大の配慮を加えながら、検査の有効性などについてグループ・ワーク（可能な限り）を行い、結果を全体に共有する。	
		教育社会学		本講義では、比較文化的、歴史的にさまざまな家族や学校の例を紹介しながら、現代日本の人間形成のあり方と援助者の役割について考究する。社会変動のもとでの学校の役割と課題、ならびにそれに対応するための教育政策の動向について理解を深める。併せてメディアで注目されている教育問題について、事例をもとに理解する。具体的には、子どもの生活の変化と指導の課題について、虐待、学力、ジェンダー、いじめ、不登校、発達障害児支援などのトピックスを取り上げ、社会、学校、家庭の関係性を多面的に把握し、学校をめぐる近年の動向を理解するとともに、教育改革の動向についても理解を深める。物事を複眼的にとらえ、自分の意見を持ち、自分の言葉で表現して論じることができるようになることもこの授業の到達目標である。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授業科目の概要 （グローバル教養学部文化表現学科）						
科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
全学教養教育	共通科目	ＣＬＡコア科目	キリスト教概論		世界宗教の一つであり、本学の寄附行為に明示されているキリスト教の基礎を学ぶ。本学のモットーであるFor Others「他者のために」は、キリスト教の中心であるイエス・キリストによって示された「神の愛」と通底する。本講義は、キリスト教初学者を念頭に、キリスト教の聖書・教理・歴史・実践・現代的展開の基本事項を教授する。それにより、For Othersの精神的基盤を理解させると共に、受講者各人が自らの学問的関心と結びつけるよう促す。	
			キリスト教学		キリスト教の基本的知識を前提に、キリスト教の理解自体を深め、さらに諸学や現代的諸問題との関連を探求する。たとえば、旧約聖書と新約聖書、世界と日本のキリスト教史、キリスト教と他宗教の関係、キリスト教と諸思想の関係、キリスト教と諸文化（文学、芸術、音楽、ことば）、キリスト教の視点による現代的諸課題（平和、環境、福祉、法律、ジェンダー）との取り組みなどである。受講生は、それらの全体または一部を重点的に学修することで、自身の学問的関心をキリスト教の視点から深めることになる。	
			フェリス女学院とキリスト教		この講義では、フェリス女学院大学の設立母体であるフェリス女学院の歴史を紐解くことにより、学院及び大学が「建学の精神」としてきたキリスト教について学びを深めるものである。学生は、本学の「建学の精神」及び「教育理念」、設立の背景やその発展などの自校史について学修するだけでなく、それらに通底しているキリスト教の基本的な信仰・理念・思想について知識を深めるとともに、自校愛を育む機会を得ることが期待できる。	隔年
			一神教概論		この講義は、キリスト教及びイスラム教の母体であるユダヤ教を中心として、一神教及び啓示宗教について考察を深めるものである。とりわけ、ユダヤ教において特徴的な「律法」について詳しく論じていく。「モーセ五書」（トーラー）や「タルムード」、ユダヤ教の「清浄規定」についての知識を深めていく。それと同時に、ユダヤ教とキリスト教の律法理解の違いを明らかにすることにより、キリスト教についてより深く知ることができるようになる。	隔年
			アカデミック・ライティング入門		本科目は、日本語でレポートを執筆する技術を身に付けることを目的とする。要約文や説明文などの短めの文章を書く練習から始め、引用の方法や資料の探し方、パラグラフ・ライティングの技法などを学びながら、レポート執筆の基礎を身に付け、最終的に意見文を完成させる。本科目での学びを通して、学生には自分の意見を論拠に、基づき・述べる方法を身につけることのみならず、論理的な文章を書けるようになることが期待される。	
			アカデミック・ライティング		本科目は、より専門性の高いライティングの技術を学ぶ。分野ごとの先行研究の調査方法や資料を批判的に読む方法を学び、専門に関する様々なテーマについて執筆する。執筆した文章に対して、授業内で意見交換や講評を行う。受講生は、教員や他の受講生の意見をもとに自身の文章を見直し、ライティングの技術を高めていく。本科目を通して学生には、問題意識を持ち、論理的で説得力ある文章を執筆する力を身に付けることが期待される。	
			プレゼンテーションのスキル		本科目は、プレゼンテーションのスキルを向上させることを目的とする。受講生は、調査した内容をもとにスピーチやプレゼンテーションを作成し、発表する。発表へのフィードバックを通して、効果的に伝達・表現する方法を学ぶ。同時に、受講生は、他の受講生のプレゼンテーションに対して、自ら疑問を持ち、積極的に議論に加わることにより、他者の意見を傾聴しながら自分の意見を述べるスキルも高めていく。本科目を通して学生には、自分の意見を正確に伝えるスキルを身に付けることが期待される。	
			ディスカッションのスキル		本科目は、ディベートやディスカッションを通して、自分の意見を的確に伝えて、他者を説得するスキルを学ぶ。授業では、論理的に対話をする方法を学び、普遍的なテーマや正解のない問題について討論を行う。様々な問題に対して、考察し、意見を述べ合うことで、コミュニケーション能力を高めるとともに、考える力を養う。本科目を通して学生には、多角的な視点から思考し、他者の立場も踏まえた上で、説得力ある議論をする方法を身に付けることが期待される。	
			健康・スポーツ論		本授業では、「健康」、「身体」、「スポーツ」など関連するトピックについて幅広く学ぶ。コロナ禍を通じて、私たちの健康観は根底から覆された。このような変化の激しい現代社会において、日本社会の考える健康とは何か、問題点は何かを問い、自分自身や家族の健康、現代社会の健康、そして次世代の健康について考える。一方、オリンピックや地域固有のスポーツなどのスポーツ文化、生きるために不可欠な栄養や給食、さらに運動会の歴史など、関連する様々な事象について人文学的に学ぶ。	
			スポーツ実習		スポーツ実習では、テニス、バドミントン、アーチェリーなどの競技スポーツから、ピラティス、ヨガ、バレエ・ストレッチなどの身体表現系種目まで、幅広い種目を学ぶ。競技スポーツでは、チームとして勝敗を競うことによりコミュニケーション能力を高めることができる。身体表現系種目では、一人一人が自らの身体と向き合い、心と体の調整を通じて、気づきを得ることができる。スポーツは、日々のストレスを発散し、自律神経を整え、生活の質（QOL）を高めることができるのである。	
			情報リテラシー基礎		大学での学びやこれからの社会において、基礎的な情報リテラシーは文科系の学生であっても必須の能力である。そこで、本授業科目では、アプリケーションソフトの単なる操作方法について学ぶのではなく、履修者の情報に関する知識を確認しつつ、大学や社会において求められる、課題や目的に応じて情報を適切に活用するための基礎能力を養う。これにより、これからの大学生活や将来社会人になったときに必須の情報リテラシー能力を身に付けることを目標とする。	
			情報リテラシー：コンピュータサイエンス入門		人間中心社会において、ICTを上手く活用するための基礎知識を、誰もが求められる時代となった。そこで、本授業科目では、これからの情報化社会で必要となるプログラミングの基礎やアルゴリズムの概念などのコンピュータサイエンスを学ぶことで、問題解決のための基礎能力を養う。これにより、簡単なプログラムを作成できるようになるだけでなく、技術革新やグローバル化の進展により日々変動する社会に対しても対応できる力を身に付けることを目標とする。	

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
全学教養教育	共通科目	CLAコア科目	情報リテラシー：データサイエンス入門		政府が2019年に発表した「AI戦略2019」では、文系理系を問わず全ての大学生が初級レベルの「数理・データサイエンス・AI」を習得すべきであるとされている。そこで、本授業科目では、「社会でデータサイエンスやAI」はどのように活用されているのか」、「データをどのようにまとめ、伝えるべきか」という観点からデータサイエンスやAIの基礎を学び、オープンデータを利用してこれらの基礎知識を活用できるようになることを目指す。これにより、これからの社会（Society 5.0）を生き抜くために必要な知識、技能を身に付ける。	
			情報科学：コンピュータと社会		企業での経営活動にはコンピュータをもとにした情報システムが深く関わっている。そこで、本授業科目では、ハードウェアやソフトウェアといったコンピュータに関わる仕組みについて学び、現代の学生、社会人として不可欠な、情報システムやそれを構成するコンピュータについて理解を深める。これにより、日常の生活において何気なく利用しているコンピュータや情報システムの利用のされ方について理解し、説明できるようになることを目標とする。	
			情報科学：ソフトウェアとビジネス		企業での経営活動にはソフトウェアをはじめとしたコンピュータに関連した技術が深く関わっている。そこで、本授業科目では、ソフトウェアを基にして提供される情報に関わるサービスや、サービスを提供する際のソフトウェアの動作、また、それらのソフトウェアがどのようにビジネスで活用されているかについて講義する。これにより、日常の生活において特に意識することなく利用しているソフトウェアがビジネスにおいてどのように活用されているかについて説明できるようになることを目標とする。	
			情報とメディアのリテラシー		インターネットやスマートフォンの急速な普及によって近年、ますます情報リテラシー、メディアリテラシーの重要性が高まっている。そこで、本授業科目では、ソーシャルデザインを通して情報とメディアのリテラシーを養うとともに、情報やメディアとの向き合い方を考える。これにより、実社会で求められる情報とメディアのリテラシーを習得し、情報とメディアのリテラシーについて自分なりの考えをもち、説明ができるようになることを目標とする。	
			ジェンダーと教育の歴史		今日、急速に女性のライフスタイルが変化しつつある。本講義では、近代以降の女性たちが歴史を切り開き、男女平等を実現してきたプロセスを、彼女たちの受けた教育に焦点を当てながら、受講生と一緒に女性と教育の歴史について考察する。「女性」と「教育」を中心に日本の発展過程を学び、多様な性のすべての人の豊かな共存を志向する発想を得てもらうことを目標とする。また、今後の男女のあり方の方向性についても、一緒に考えていく。	
			ジェンダーから学ぶ現代社会		（概要）この講義は、「ジェンダー」をテーマに各教員からそれぞれの研究分野について話をうかがうオムニバス形式で実施する。まず、宝塚等の舞台芸術で「演じられるジェンダー」について講義を受け、その後、言語学や身体動作とジェンダーの関わりについて理論的なアプローチを学ぶ。また、講義の後半では、家族や教育、法律、メディア、政治といった各分野におけるジェンダー問題を取り扱う。それにより、ジェンダーの視点から現代社会について理解すると同時に、ジェンダー問題を解決するための学際的なアプローチを身につける。 （オムニバス方式／全15回） （51　山本　千晶／6回） 導入とまとめ、ディスカッションを担当する。この講義の狙い及びそれぞれの回のアプローチに共通する「ジェンダー視点」について教示するとともに、履修者の感想を授業内で共有し、ディスカッションを時間をとる。 法（とくに女性労働者）とジェンダー。 （12　吉田　弥生／1回） 女形（歌舞伎）と男役（宝塚）の構造とジェンダー （6　土屋　広次郎）／1回） 舞台作品におけるジェンダー／ジェンダーレス／多様な性 （45　饒平名　尚子／1回） ことば／ことばづかいとジェンダー （4　高橋　京子／1回） 身体動作とジェンダー （46　関口　洋平／1回） 「働く女性」の描かれ方 （3　金　香男／1回） 家族（とくに働く女性）とジェンダー （36　澤田　佳世／1回） 教育（とくにリーダーシップ）とジェンダー （34　小ヶ谷　千穂／1回） メディアとジェンダー／男女共同参画社会 （44　矢野　久美子／1回） 政治（とくにケアの思想）とジェンダー	オムニバス方式
			ジェンダー特論		この講義では、ジェンダーに関するテーマを取り上げながら、女性の地位や女性をとりまく環境の変化を理解することを通して、学生たちが主体的なライフデザイン／キャリアデザインを構築することを目指す。具体的には、妊娠など身体に関わる諸問題や賃金労働（ペイドワーク）と無償労働（アンペイドワーク）などの労働問題、家族や結婚などのライフデザインをめぐる問題などを取り上げ、女性（男性）のおかれた状況と歴史的な変化を考察する。	
			男女共同参画政策		この講義では、ジェンダー平等実現のための国連を中心とした国際社会及び日本社会の取組みについて学ぶ。取り上げるテーマは、ポジティブアクションや女性活躍、ワークライフバランス、少子化対策等の諸施策を予定している。その際、日本がジェンダー平等の取組みが遅れているという評価を意識しながら、とくに国連や諸外国の取組みと日本のそれを比較することで、日本における男女共同参画に関する諸施策の課題の洗い出しを行う。それにより、課題解決のために必要な取組みについての提言ができるようになる。	

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
全学教養教育	共通科目	CLAコア科目	地域社会と女性リーダー		「リーダーシップ」とは、その組織や集団、関係性の中において本来は多様なものであり、またライフスタイルや経験の中で築き上げられていくものである。本講義では、地域社会のさまざまな分野（起業/自営業、NGO、公務員、メディア、政治分野等）で活躍する本学OGを含む女性たちをゲストに招き、その実践から学ぶことで受講生が「リーダーシップとは何か」について自ら考えるようになることを目指す。ゲストによる講義と受講生によるチームでのインタビューを通して、女性たちのライフヒストリーから学び・記録するという実践も行う。	
			ジェンダーと人権		この講義では、ジェンダーに関わる問題をとくに「人権」という観点から理解する。具体的にはセクシュアリティや教育、家族、リプロダクティブ・ヘルス＆ライツや、女性に対する暴力などを取り上げる。ジェンダーに関連する法律や判例を取り上げながら、実際の問題状況を理解することに重点をおく。それにより、ジェンダーの視点から法にかかわる具体的な問題を指摘し、問題解決の方法等について論じることができるようになることを目指す。	
			男性学		この授業では、まず男性学という学問の意義について批判的に検討する。男女間の平等が達成されているとは言い難い社会において、男性について研究することにはどのような意味があるのか。社会の役に立つ男性研究とは、どのようなものなのか。本講義の後半では、そのような問題意識を念頭に置きつつ、子育てをする男性が日本とアメリカの文化のなかで、どのように描かれてきたのかを検討する。日米の「イクメン」文化はそれぞれ、どのような社会のなかで育まれてきたのかを考察する。	
			グローバリゼーションとジェンダー		グローバリゼーションによって国境を超えて差異や不平等の顕在化していく中で、「国民国家」を超える新たな連帯の再構築が同時に生まれている。本講義では、こうした複雑かつ多面的な「グローバリゼーション」の諸相を、社会学・政治経済学的視点から、ジェンダーの「レンズ」を通して考察することを目的とする。「労働」「ケア」「社会運動」「他者理解」の４つの切り口から、わたしたちが生きる世界の構造的な課題を理解し、現代世界における自らの位置について、社会科学的に思考を深められるようにする。	
			ジェンダー&セクシュアリティ入門		ジェンダーやセクシュアリティをこれから学ぶ学生を対象に、基本的な用語の意味や定義、それらが現代社会においてどのように使われているかについて学ぶ。この講義では、自分で調べ学習をしたり、その成果をグループで共有し、意見交換をしながら主体的な学びを深めていく。とくに、自身の身体や生活に深く関わっているジェンダーやセクシュアリティの問題を見つけ出し、それを他者と共有することで、多様な身体や性のあり方を「発見」することで、性の多様性を尊重する態度や思考を身につけることを目標にする。	
			プロジェクトで学ぶ		ジェンダーの知識を身につけた学生が、それらの知識を自身のキャリア・プランに活かしていく、プロジェクト型の授業である。本学の卒業生や地域で活躍する女性リーダーと交流したり、共同でイベントの企画や運営を実施することで、新しいリーダーシップを学び、学生リーダーとして活躍する能力を身につける。また、ワーク・ライフ・バランスなど職場での課題についてリサーチし、問題解決のためのスキルを身につけていくことも目標とする。	
			デザインと表現		(概要) 本講義では、わたしたちの生活にとって「デザインすること」「表現すること」が持つ意義を知り、多彩な表現手段について知識を深め、それらの背景にある「感性」と「論理」の統合を学ぶ。さらに本講義を通して、他者に対して効果的に「伝える」ための知識や技術を身につけ、多様で個性的な存在であるわたしたちが「ともに」よりよい未来を創っていくための発想力を養う。 (オムニバス方式／全15回) (17　木水　千里／5回) ファッション、視覚芸術について扱い、私たちが日常的に接しているデザインを客観的に捉える視点と感性を養う。 (21 中西 宣人／5回) 近年の音響・映像・メディアにおけるデザインと表現手法を紹介し、分野横断的な視点や知識を得られるよう授業を展開する。 (11 由井 哲哉／3回) 言葉・書籍など平面デザインから演劇空間に至るデザインを扱い、「感性」と「論理」をバランスよく統合し、多彩な表現手段について知識を深める。 (6 土屋 広次郎／2回) 舞台とデザイン、身体と声について扱い、他者に対して効果的に「伝える」ための知識や技術を身につける。	オムニバス方式
			デザイン概論		私たちの身近には、さまざまな色や形がおりなすデザインであふれており、生活を豊かに彩っている。本講義では、産業革命から現代に至るまでの欧米、そして日本のデザインの歴史を学ぶ。技術革新が進み、大量生産・大量消費の時代が本格的に幕を開けた近代以降、美術・工芸品にはじまり、インテリアや建築、写真、グラフィックなど、デザインはジャンルや国境を越え、人々の暮らしを大きく変えていった。このようなデザインの歴史を概観することで、その色彩や形態の成り立ちを学び、社会の問題解決のために働きかける柔軟な発想や視点を培うことを目指す。	
			ことばとデザイン		書籍、小冊子、雑誌、カタログ、ポスターなどにおいて、製作者の意図を的確に伝えるためには、誌面全体のレイアウト、文字の書体、写真や絵の配置を考えながら、誌面を効果的に組み上げる技術が必要とされる。本講では、InDesignの基本操作を始め、タイポグラフィやページ組版の基礎知識、マテリアル（画像、グラフ、表など）の処理方法など、エディトリアルデザインと呼ばれるこうした技能の基礎理論と基本技能を身につける。	
			美術芸術論		本講義では近現代芸術史をたどりながら、視覚文化領域の表現の拡大や、鑑賞・体験・消費の時代ごとの移り変わり、そして「芸術」という枠組み自体について学んでいく。特に、視覚媒体と芸術の関係を軸に、美術史・デザイン史的文脈からテクノロジーやサイエンス、その他の諸科学と表現のつながりについて理解を深める。さらには同時代の美術やデザインの実践を事例に、現在われわれを取り巻く社会や身の回りの出来事にも結びつけて視覚文化について考察する。	
			ファッションデザイン論		本講義は、最初のファッションデザイナーと言われるシャルル・フレデリック・ウォルトが登場した19世紀半ば以降、現代に至るまでのファッションデザインの歴史を振り返る。各時代に活躍したファッションデザイナーの代表作を事例に取り上げ、それらが生み出した新しい価値観や、社会に与えたインパクトについて検討する他、ジェンダーや環境問題など、近年の社会的関心がファッションデザインにどのような形で現れているかも考える。	

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
全学教養教育	共通科目	CLAコア科目	メディア・デザイン		我々の身の回りでは、ウェブ、SNS、動画配信、新聞や雑誌など様々なメディアを横断して、情報発信が行われている。さらに近年では、IoTやAI技術の発展により、スマートフォンやスマートスピーカーなど、新たなメディアが次々に登場し、我々の生活に溶け込む存在となりつつある。本講義では、時代とともに移り変わり、形態や機能が変化する「メディア」を対象とし、メディアに関する歴史や社会を学び、批評的に捉え、新たなメディアと我々との関係性を「デザイン」するための知識を深める。	
			読書とメディア		出版メディアのデジタル化が急速に進む昨今、読書のあり方も大きく変わってきている。本科目は、出版をはじめとする読書に関連するメディアの特質を知り、それらのメディアがもたらす知識や情報を適切に扱う方法を学ぶ。授業では、ある一つの知識や情報に対して、多角的な視点から比較検討し、批判的に読む力を養う。同時に、情報を発信する際のリテラシーについても学ぶ。本科目を通して学生には、知識や情報を批判的に読む方法を身に付けること、知識や情報を判断し、解釈し、他者に伝える力を身に付けることが期待される。	
			コピーライティング演習		コピーライティングとは商品を効果的に売り出すのに欠かせない技術であるが、それは見出し、キャッチコピー、ネーミング、スローガン等の狭義の技能にとどまらず、自身の考えやコンセプトを効果的に立案し伝えるための広範な表現活動をも指す。本講では、テキストデザイン、企画書の考案、広告表現、発想力のトレーニングからマーケティング戦略に至る様々な表現技術や発想法を学びながら、意思伝達のための広範な実践演習を行う。	
			住空間デザイン		日本や世界には様々な環境で暮らしている人々が存在する。その土地に住む人々にとって日常の風景であっても、地理的条件、社会的条件、個人的条件などを読み込んだ豊かな「デザイン」と捉えることができる。本授業では、国内・海外の道具、建築、景観などを紹介し、人の営みや思考との関係を考察する。それらの生活のなかのデザインを手掛かりに、多角的な視点を持ち生活文化、地域文化を理解する方法を学ぶ。また、過去・現在・未来を視野に入れて、それらの住空間デザインをどのように継承し現代に生かすかを考察する。	
			都市生活の空間デザイン		本講義では、都市生活の舞台である「地域＝まち」レベルの空間やコミュニティのデザイン手法について学ぶ。特にフェリス女学院大学が立地する「緑園都市」を主な対象とし、住民・企業・団体・行政など地域社会をつくるさまざまな主体の存在についての知識を深めながら、地域への関わりを体験的に学んでいく。またそこから、より豊かで創造的な都市生活のあり方について検討し、現在から将来にわたって、「地域＝まち」に主体的に関わる方法論（編集力）を手に入れることを目標とする。	
			キャリア形成の基礎		この授業では個人のキャリア形成の基礎的段階を育成するために、基礎的知識を修得し、コミュニケーション能力の開発を目指す。レポートおよびプレゼンテーション、グループ・ディスカッション等のコミュニケーション能力を養う。必要な社会環境の変化を理解することにより多様なキャリアのあり方を理解し、自立した社会人として組織における行動の基本的スキルを修得し、活用できるようになることを目標とする。これにより、文章化や他者への伝達能力を修得し、総合的なアウトプット力とチームワーク力を身につけ、大学での学びのみならず、自律的なキャリア形成への実践的なコミュニケーション力を発揮できるようになる。	
			キャリア形成の意義		この授業では、キャリア形成の意義を理解することを目指す。アクティブ・ラーニング形式により、企業の経営者や社会人との交流を通じて、主体的かつ能動的に課題への解決策を模索すると同時に、グループワークを通じて協働的に作業や議論、プレゼンテーションへの準備を行う。社会において働く楽しさや意義を理解することを目的とし、キャリア形成に前向きに取り組む意識と姿勢、スキルを育成することができる。個々の取り組みについてのフィードバックを重ねることにより、自らの強みを発見し、意欲を高めることができる。	
			キャリア形成の実際		この授業科目では、キャリアにおける実践的な能力開発を目標とし、マネジメント能力等の基礎的技法を中心にアクティブ・ラーニング形式で学ぶ。教育での諸活動から企業、公共事業等の多様なプロジェクトにおける実践的なマネジメントの概念や基礎的知識、運用等のスキルの修得を通じて、実践的なキャリア形成を目指す。本授業を通じて、日本プロジェクトマネジメント協会のＰＭＣｅ（プロジェクトマネジメントコーディネーターエントリー）という資格を取得することができる。	
			キャリア形成の諸問題		この授業科目では、キャリア形成において直面する諸問題を明確化し、その克服を目指す。ビジネス情報や経営分析、特に基礎的数学力はビジネスにおいて必須とされるが、特に人文系学生にとっては、数的能力等がキャリア形成において障壁となることが多い。そこで企業診断や経営手法を学び、とりわけ数的根拠に基づいた能力の育成を重点的に行う。これらを克服・修得することで、就職活動のみならず、将来の昇進・転職・再就職においても評価される高度な能力へと展開することができる。	
			キャリア実習（短期インターンシップ）		この実習では、短期間のインターンシップを通じて、働くことを多面的に経験し、学びとキャリアの模索への動機付けを促す。この実習では、働く内容や計画を定め、事前研修、就業体験、事後面談、事後研修から構成される。大学での学びがどのように社会において活用されるのか、また働き方の実際を体験する。この実習を通じて、働くことへの意識を高め、今後目指すべきキャリアと適性の方向性を明確化することにより、在学中に修得すべき学びと能力開発への意欲を高めることができる。	
			キャリア実習（短期就業体験）		本実習は、学生が実際の職場で短期間働くことを通じて、職業やキャリアに関する貴重な経験を積む科目である。学生は自身の学びやスキルを実践的な環境で試し、現実の労働市場における仕事の要件や挑戦に直面することになる。具体的には、事前に設定された組織や企業で数週間から数ヶ月間の就業体験を行い、職場のルールや文化に適応し、業務を遂行していく。この実習を通じて、学生は職業的なスキルや専門知識を向上させるだけでなく、実際の労働環境での問題解決やチームワークの重要性も理解することになる。また、キャリア目標の洗練や自己評価の機会も与えられることで、自身の興味や適性を見極め、　将来の職業選択や進路決定に役立てることが期待される。	
			キャリア実習（長期インターンシップ）		この実習では、長期間のインターンシップを通じて、働く意義と人間関係の基礎的スキルを学ぶ。この実習では、学ぶ目的や計画を定め、事前研修、就業体験、事後面談、事後研修から構成される。大学で学んだ知識や理論を、実社会においていかに活用するのか、また組織における働き方を実習を通じて体験し、実務での基礎的スキルの修得や適性の明確化、各自の意欲や能力に応じた職業および働き方の探求を目的とする。この実習を通じて、働く意義と、組織におけるコミュニケーション能力を向上させ、キャリアの方向性を明確にすることができる。	

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
全学教養教育	共通科目	CLAコア科目	キャリア実習（長期就業体験）		この実習では、長期間の就業体験を通じて、企業・団体等の実務の現場において就業上求められる実務能力とより高度なコミュニケーション力を学ぶ。事前に学ぶ目的や計画を定め、事前研修、就業体験、事後面談、事後研修から構成される。大学での学びと実際の職場での就労体験を接合し、企業や業界の特性の把握、職務における実践的スキルの修得を目的としている。実際の職場での仕事を通じて、働く意義を確認し、業種や業務の違いを認識した上で、自らの適正と意欲に応じたキャリア選択を明確にすることができる。	
			ボランティア活動（短期）		本科目は、現代においてボランティア活動がますます重要な意義をもつようになっていることに対応して設けられた科目である。学生の自主性を重んじ、学生が自分で受入先を見つけ、計画を立てて実行することが基本理念となっているが、大学としても本学ボランティアセンターにおいて、受入先に関する情報提供など全般にわたって学生を支援する。本科目では国内外における実動45時間以上の活動を要求するが、この時間をどのように達成するかは学生の自由な計画に委ねられる。学生は自己責任に基づく社会参加の意義を学び、自己の成長につなげることが期待される。	
			ボランティア活動（中期）		本科目は、現代においてボランティア活動がますます重要な意義をもつようになっていることに対応して設けられた科目である。学生の自主性を重んじ、学生が自分で受入先を見つけ、計画を立てて実行することが基本理念となっているが、大学としても本学ボランティアセンターにおいて、受入先に関する情報提供など全般にわたって学生を支援する。本科目では国内外における実動90時間以上の活動を要求するが、この時間をどのように達成するかは学生の自由な計画に委ねられる。学生は自己責任に基づく社会参加の意義を学び、自己の成長につなげることが期待される。	
			ボランティア活動（長期）		本科目は、現代においてボランティア活動がますます重要な意義をもつようになっていることに対応して設けられた科目である。学生の自主性を重んじ、学生が自分で受入先を見つけ、計画を立てて実行することが基本理念となっているが、大学としても本学ボランティアセンターにおいて、受入先に関する情報提供など全般にわたって学生を支援する。本科目では国内外における実動270時間以上の活動を要求するが、この時間をどのように達成するかは学生の自由な計画に委ねられる。学生は自己責任に基づく社会参加の意義を学び、自己の成長につなげることが期待される。	
			市民活動の役割と意義		この講義では、現代の政治や社会をめぐる諸問題の解決に取り組む市民団体等の活動について、その意義と課題について考察する。市民活動をめぐる法的・政治学的な定義を学んだ上で、市民活動の歴史、多様なアクターおよび活動方法、活動内容、政治との関係性等を講義する。公共性や、自主性、社会との連帯の重要性を認識し、市民が共に支え合う地域社会の形成、および共生社会の実現への意欲と知見の修得を目的とする。この学びを通して、自己の利益を超えた社会性や公益性の重要性を意識し、行政とも企業とも異なる社会問題解決への創造的な発想を育むことができる。	
			今年の一冊		米国大学の中には、リベラル・アーツ教育の一環として古典的著作群（グレート・ブックス）を学ぶ伝統がある。たとえばキリスト教の聖書はその代表であるが、それに留まらず、古今東西の作品の中から一冊を選び、一学期かけて読み解き、味わっていく。その際、古典を読むための技法も教授する。それにより、一冊の書物に腰を据えて取り組むことで初めて得られる知的深みがあることを、受講生に体験させることが本講義の目的である。	
			科学技術入門		本授業科目では科学技術や自然現象に興味を持ってもらうために、科学技術そのものに焦点を当てるのではなく、身近な自然現象やSF小説に出てくる事例などを題材にし、それらの現象が引き起こされる理由や、関連する科学技術について解説する形式で講義を行う。これにより、自然科学に関連した科学技術に対して興味関心を抱いてもらうとともに、自然現象が引き起こされる理由を科学的な立場から理解し、具体的に説明できるようになることを目標とする。	
			数学の基礎		実社会における様々な場面において数学的思考法は有用である。そこで、本授業科目では、基礎的な数学の知識の再確認を行うとともに、それらの知識の社会における活用場面や、社会の仕組み・人間の行動・身近な科学技術などを数学的思考法を用いて理解する方法についても学ぶ。これにより、数学に対する苦手意識を払拭し、論理的に物事を考える力を養成し、社会で活躍するための強力な武器となる数学的思考力を身につけることを目標とする。	
			生命科学と倫理		本講義では、生命科学や医療技術の発展を踏まえつつ、生命倫理・医療倫理の諸問題を扱う。たとえば脳死、臓器移植、安楽死・尊厳死、出生前診断、人工妊娠中絶、優生学、インフォームド・コンセント等である。各々について深く掘り下げるとともに、科学・技術と社会の関係、さらに人類がいかにその問題を向き合っていくかについて、倫理学の知見から考察を加える。この講義を受講することで学生は、上記の諸問題に関する基本的知見を得て、自分なりの見解を育むことが期待される。	
			日本国憲法		日本国憲法は、基本的人権論（国民の権利・義務）と統治機構論（国家の組織・作用）の二つに分けられる。どちらも、人々の権利や利益を保障するために必要不可欠であり、これに違反する法律等は無効となると言われている（憲法の最高法規性）。憲法は国家の基本的な約束事を定めている。本講義では、具体的事例を取り上げつつ憲法の諸側面を扱うことで、政治学や法学との関連のみならず、日常生活の次元で憲法問題を意識させることを目的とする。	
			哲学A		哲学とはいかなる学問なのか、これまで哲学はどのような問題に取り組んできたのか。哲学に初めて触れる受講生を念頭に、哲学という学問の基礎を案内する。古代から現代に至る哲学史の中で提唱されている重要な主張・考え方について、それらがどのようなことを問題にしてきたかを、思想史的または現代的観点から取り上げる。本講義を通して受講生は、哲学史の基礎を習得すると共に、哲学的思考がいかなるものであるかを理解することが期待される。	
			哲学B		本講義は、哲学の代表的な諸問題を考察することによって哲学独自の思考方法を理解することを目標とする。哲学はあらゆる学問の基礎であり、受講生がいかなる専攻に進むにせよ、哲学はその根本に関わることになる。なぜなら、批判的思考（クリティカル・シンキング）、つまり目の前の問題について「本当にこの答えは正しいのか」ということを粘り強く考え続ける営みだからである。受講生はこの批判的思考を身に付けることで、哲学という学問を超え、日常生活や別領域の学問に取り組むための知的基礎を養うことになる。	

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
全学教養教育	共通科目	CLAコア科目	心理学		本講義は、心理学の基礎的な概念や原則について学ぶ入門科目であり、心理学の歴史、研究方法、主要な理論、領域などについて広くカバーする。受講生は、知覚、学習、記憶、認知、感情、発達、社会的な相互作用、心理的障害など、心理学のさまざまなテーマに触れることになる。また、個人の行動や心理状態を理解するための基本的な概念や枠組みも学ぶ。講義、ディスカッション、読書、実際の心理学の研究の紹介など、必要に応じて多様な教育手法を用いる。本講義の目的は、受講生に心理学の基礎を提供し、心理学の重要性を理解させるとともに、個人や社会に関わる様々な現象を科学的に考察する能力を養うことである。	
			青年心理		本講義は、若者の心理的発達と関連する概念とプロセスを探求する科目である。青年期（10代から20代）の個人の特徴や成長に焦点を当て、身体的、認知的、感情的な変化や社会的な要因の影響を調査する。さらに、自己同一性の形成、人間関係の発展、学業や職業選択への影響など、青年期における重要なテーマを扱う。この科目では、発達理論や研究結果に基づき、青年期の心理的な側面を理解するための枠組みが提供される。受講生は、青年期の個人差や文化的な多様性についても考察し、自己探索や自己成長の過程を探求する機会が与えられる。それにより、若者が自己発見と意義ある生活を追求するための洞察と能力を培うことが期待される。	
			プロジェクト演習		この授業では、「新しい時代を切り拓く」ために必要な知識・技能を修得し、社会における問題解決能力の獲得を目指すため、講義と実習を併用するPBL：Project-Based Learningの形式で実施する。グループワークを通じて課題発見・問題解決能力、他者と協働しプロジェクトを管理する能力を身につけることができる。学外の諸団体と連携し、実社会の視察や、実務家の手法を学ぶことを通じて、実社会の課題や社会問題解決に取り組む意欲と能力を身につけることができる。また学生個人が目標設定、振り返りの仕組みを設定し、客観化や自己評価能力を獲得することができる。課題解決と社会貢献への意識付けを高めることにより、大学の理念「For Others」を体現したリーダーとなることができる。	
		語学科目	英語Ｉｓ（聞く・話す）		グローバル社会で必要な言語の１つとして、英語の運用能力を養うことを目的とする。英語Is（聞く・話す）では、英語を「聞く、話す」における基礎的な力を養いながら、より実践的な英語力を統合的に身につけることを目指し、アクティブなパフォーマンスとプロジェクト・ワークを重視した授業展開を行っていく。ペアまたはグループでのアクティブ・ラーニングを通して、リスニングにおける推測やキーワード掌握といった技能とともに基礎的な会話に必要な語彙を習得し、情報を求めたり、理由を述べたりする力を身につける。会話やプレゼンテーション、ディスカッション能力を高め、会話を継続させながら馴染みのあるさまざまな話題について、簡単に述べることができることを目指す。	
			英語Ｉｓ（読む・書く）		グローバル社会で必要な言語の１つとして、英語の運用能力を養うことを目的とする。英語Is（読む・書く）では、英語を「読む、書く」における基礎的な力を養いながら、より実践的な英語力を統合的に身につけることを目指し、アクティブなパフォーマンスとプロジェクト・ワークを重視した授業展開を行っていく。これらのアクティビティを行うことにおいて、語彙力を高めながら英文の内容を適切に理解すると同時に、自らの考えを、英語で書き、表現し、発信する訓練を重点的に行う。	
			英語Ⅱｓ（聞く・話す）		グローバル社会で必要な言語の１つとして、英語の運用能力を養うことを目的とする。英語Ⅱs（聞く・話す）では、「聞く、話す」における基礎的な英語力を強化しながら、より確実に統合的な力を身につけることを目指し、アクティブなパフォーマンスとプロジェクト・ワークを重視した授業展開を行っていく。ペアまたはグループでのアクティブ・ラーニングを通して、Isで習得したリスニングにおける基礎力を強化しながら、会話やプレゼンテーション、ディスカッション能力を高め、より高度なアカデミックなトピックにおいても自身の考えや意見を明確に伝えることができるようになることを目指す。	
			英語Ⅱｓ（読む・書く）		グローバル社会で必要な言語の１つとして、英語の運用能力を養うことを目的とする。英語Ⅱs（読む・書く）では、Isで養った「読む、書く」における基礎的な英語力を強化しながら、より確実に統合的な力を身につけることを目指し、アクティブなパフォーマンスとプロジェクト・ワークを重視した授業展開を行っていく。Ⅱsでは、これらのアクティビティを洗練させ、Isで習得した語彙力、英文読解力を高め、自らの考えを、堅固なパラグラフ構成のもとに論理的な英語の文章で表現し、発信する訓練を行う。	
			英語Ⅲｓ（聞く・話す）		グローバル社会で必要な言語の１つとして、英語の運用能力を養うことを目的とする。英語Ⅲs（聞く・話す）ではアカデミックなリスニングとスピーキングの練習を行い、これらの技能をさらに発展させる。「聞く」では、意味の予測、主題の把握、より明確で詳細な情報とキーワードの理解の方法等を訓練し内容を理解できるようにする。「話す」では、会話およびディスカッション能力を高めるとともにプレゼンテーション技能を身につけていく。自分の関心のあるさまざまな話題について、ほどほどの流暢さ、長さの論理的で筋の通ったプレゼンテーションができるようになることを目指す。	
			英語Ⅲｓ（読む・書く）		グローバル社会で必要な言語の１つとして、英語の運用能力を養うことを目的とする。英語Ⅲs（読む・書く）では、１年次の授業（Is，Ⅱs）で習得した、英文を読む力と書く力をさらに発展させる。「読む」では、さまざまなトピックのより高度な英語の文章を読み、正しく要点を押さえつつ、効率よく読むための訓練をする。スキミングの手法を使って必要な情報を効率よく読みとるとともに、文章が書かれた背景や筆者の意図を的確につかむことができる。「書く」では、学習した記事や論文について意見を述べたり、必要に応じて個別のリサーチも行い、英文で論理的に思考を表現する訓練を行う。また「読む」において読んだ記事の内容について英語で意見を述べ、論理的に書くことができる。授業は、２０人程度の少人数で演習形式で行っていく。	
			英語Ⅳｓ（聞く・話す）		グローバル社会で必要な言語の１つとして、英語の運用能力を養うことを目的とする。IsからⅢsまでに習得した英文を聞く力と話す力を発展させ定着させていく。英語Ⅳs（聞く・話す）ではアカデミックなリスニングとスピーキングの練習を行い、これらの技能をさらに発展させる。「聞く」では、Ⅲsで訓練してきた技法を駆使して、主題とその詳細を確実に理解できるリスニング能力を養う。「話す」では、会話やグループ・ディスカッションを主導し、その中で自分の考えや意見を明確に述べることができる。また、自分の関心のあるさまざまな話題について、長さ、内容、論理性などがより発展的であるとともに、プレゼンテーションを行う姿勢などにおいても、トータルとして精巧なプレゼンテーションができるようになることを目指す。	

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
全学教養教育	共通科目	語学科目	英語Ⅳｓ（読む・書く）		グローバル社会で必要な言語の１つとして、英語の運用能力を養うことを目的とする。英語Ⅳs（読む・書く）では、IsからⅢsまでに習得した英文を読む力と書く力を発展させ定着させていく。「読む」では、身近な話題やアカデミックな分野のさまざまなトピックについて、習得したスキルを駆使しながらより高度な英語の文章を読み、正しく要点を押さえ、必要な情報を効率よく、すばやく読みとる訓練をする。簡潔な事実関係のテクストで、自分の専門分野や興味の範囲内のものは、ほとんどのものを理解できるようになることを目指す。「書く」では、学習した記事や論文について、必要に応じて個別のリサーチも行いながら、より複雑で詳細な思考や事柄を英文で論理的に表現する訓練を行う。	
			英語Ⅱｉ（分析・理解）		「英語Ⅱi（分析・理解）」は、英語を日常的に使いこなすとともに、アカデミックな（または卒業後のグローバル社会におけるビジネス分野においても）プレゼンテーションなどに必要な英語のスキルを養うことを目的としている。英語Ⅱi（分析・理解）では、取り入れた情報を「分析」し「理解」する上で必要となるリーディング能力とリスニング能力の堅固な基盤を築いていく。リーディングでは、語彙を増やし、プレビュー、スキミング、スキャニングなどの読解のスキルを使用し、段落の基本的な構造を理解しながら、短いシンプルな学術的なテキストの要点を理解することができる。リスニングでは、音の構造を学びながら、予測、推論、キーワードに焦点を当てるなど、リスニングスキルを身につけ、会話、ミニ講義、メディアを含む、ゆっくりと注意深く話される英語を理解することができるようになることを目指す。	
			英語Ⅱｉ（発信・表現）		「英語Ⅱi（発信・表現）」は、英語を日常的に使いこなすとともに、アカデミックな（または卒業後のグローバル社会におけるビジネス分野においても）プレゼンテーションなどに必要な英語のスキルを養うことを目的としている。英語Ⅱi（発信・表現）では、特に自身の思考や意見を「発信」し「表現」する上で必要となるスピーキング能力とライティング能力の堅固な基盤を築いていく。スピーキングでは、自身の意見や考えをジェスチャーを用いて表現しながら、会話やディスカッションに積極的に参加し、簡単な質問に答えたり、簡単な発言に返答したりすることができるようになることを目指す。ライティングでは、単語や基本的な文法スキルのバリエーションを持ったシンプルなフレーズや文を正確に書くことができるようになることを目指す。	
			英語Ⅱｉ（プロジェクト）		英語Ⅱi（プロジェクト）は、Ⅱiの「分析・理解」、「発信・表現」で学んだスキルをもとに、調査およびプレゼンテーションスキルを発展させることを目的としている。グループでプロジェクトにとりくみ、企画から資料の検索、情報の整理などにおける基礎を学ぶとともに、これらの資料を用いながら、スライドの作成方法を習得し、スピーチの心得や姿勢など、プレゼンテーションにおける基礎的な知識についても学んでいく。一学期中２回程度の実践的なグループプレゼンテーションを通して、プレゼンテーションに必要な知識とスキルをを身に付けていく。また、ポートフォリオを活用することで、適宜、振り返りや目標設定を適切に行っていく。基礎的な英語能力については、EnglishCentral（オンライン）を活用し、自主的な学習を促している。	
			英語Ⅲｉ（分析・理解）		「英語Ⅲi（分析・理解）」は、英語を日常的に使いこなすとともに、アカデミックな（または卒業後のグローバル社会におけるビジネス分野においても）プレゼンテーションなどに必要な英語のスキルを養うことを目的としている。英語Ⅲi（分析・理解）では、Ⅱiで養ったリーディング能力とリスニング能力の発展させていく。リーディングでは、語彙をさらに増やし、Ⅱiで習得したプレビュー、スキミング、スキャンなどのスキルを駆使し、中程度の速度で長めのアカデミックな内容のテキストの詳細と主要ポイントを正確に理解できるようになる。リスニングでは、Ⅱiで養ったスキルを発展させ、一般的に馴染みのあるアクセントで、中程度のスピードで話される日常的なトピックやアカデミックなトピックに関する事実に基づく情報をほとんど理解できるようになることを目指す。	
			英語Ⅲｉ（発信・表現）		「英語Ⅲi（発信・表現）」は、英語を日常的に使いこなすとともに、アカデミックな（または卒業後のグローバル社会におけるビジネス分野においても）プレゼンテーションなどに必要な英語のスキルを養うことを目的としている。英語Ⅲi（発信・表現）では、Ⅱiで養ったスピーキング能力とライティング能力を発展させていく。スピーキングでは、日常の問題や学術的なトピックについて積極的に議論に参加し、自分のアイデアを支持しながら、論理的に賛成/反対意見を正確に述べることができるようになる。ライティングでは、トピック・センテンスとそれを説明する文を含み、同時にスムーズに文を移行させる副詞などを使って、まとまった複数段落（因果関係と比較）を書くことができるようになることを目指す。	
			英語Ⅲｉ（プロジェクト）		英語Ⅲi（プロジェクト）は、Ⅲiの「分析・理解」、「発信・表現」で学んだスキルをもとに、調査およびプレゼンテーションスキルをより発展させることを目的としている。また、Ⅱiで身につけた知識とスキルをさらに発展させ、プレゼンテーションにおけるより戦略的で発展的な知識を身につけていく。グループでプロジェクトに取り組み、企画、効果的な資料収集ができるようになり、作成されるスライドもビジュアル的な効果（図、表、グラフなど）を用いたり、またそれを説明する方法を学び、実践的な発表を行う。Ⅱiに引き続き、ポートフォリオを活用して、適宜振り返りや目標設定を適切に行い、自身の強みや弱点を認識する。基礎的な英語能力についても引き続き、EnglishCentral（オンライン）を活用し、自主学習の分量を増やしながら力を発展させていく。	
			英語Ⅳｉ（分析・理解）		「英語Ⅳi（分析・理解）」は、英語を日常的に使いこなすとともに、アカデミックな（または卒業後のグローバル社会におけるビジネス分野においても）プレゼンテーションなどに必要な英語のスキルを養うことを目的としている。英語Ⅳi（分析・理解）では、Ⅲiまでに養ったリーディング能力とリスニング能力を定着させていく。リーディングでは、これまでに習得したスキルを活用し、長く複雑でアカデミックな内容のテキストを、詳細も把握しながら、より迅速に、より深く理解することができる。リスニングでは、これまでに習得したスキルを活用し、より長く、より複雑な日常的およびアカデミックなスピーチの中で、情報をより正確に理解することができる。また、図表やグラフなどに対する詳細な情報も聞き取って理解することができるようになることを目指す。	

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
全学教養教育	共通科目	語学科目	英語Ⅳｉ（発信・表現）		「英語Ⅳi（発信・表現）」は、英語を日常的に使いこなすとともに、アカデミックな（または卒業後のグローバル社会におけるビジネス分野においても）プレゼンテーションなどに必要な英語のスキルを養うことを目的としている。英語Ⅳi（発信・表現）では、Ⅲiで養ったスピーキング能力とライティング能力を定着させていく。スピーキングでは、ディスカッションに積極的に参加することに加えて、ディスカッションをリードし、より批判的に議論を行うことができる。比較的流暢かつ正確に話すことができる。ライティングでは、調査に基づいて、序論、本論、結論の段落を含む、アカデミックなエッセイ（論理的/賛否両論）を書くことができる。複数の段落で慣用表現や口語表現を使い、現代的な問題に対する自身の考えを論理的に説明できるようになる。	
			英語Ⅳｉ（プロジェクト）		英語IVi（プロジェクト）は、Ⅳiの「分析・理解」、「発信・表現」で学んだスキルをもとに、調査およびプレゼンテーションスキルの習得を完成させていくことを目的としている。また、Ⅲiまでに身につけた知識とスキルを定着させ、より長く、堅固な構成（イントロダクション-本論-結論）によるプレゼンテーションができるようになることを目指す。グループでプロジェクトに取り組み、企画し、十分な資料収集を用いて発表資料を作成する。校正を繰り返しながら、卓越した実践的な発表ができるようになることを目指す。Ⅲiに引き続き、ポートフォリオを活用して、これまでに認識してきた自身の弱点を克服するとともに、強みを伸ばしていく。引き続き、EnglishCentral（オンライン）を活用し、自主学習の分量を増やしながら基礎力を高め、定着させていく。	
			英語Ｖｉ（プロジェクト）		英語Ⅴi（プロジェクト）は、集中英語プログラムの集大成として、ⅡiからⅣiので学び、完成したスキルを実践的に活用させる目的としている。これまでに考察してきたアカデミックなテーマの中から、自ら関心のあるトピックを見出し、グループで企画、資料収集、調査を行う。十分な資料をもとに、十分な長さをもち、論理的かつ堅固な構成による発表原稿を作成し、スライドなど、効果的な発表資料を作成できるようになる。原稿、スライドともに校正を繰り返し行い完成させるとともに、発表練習を繰り返すことにより、声の大きさ、ジェスチャー、姿勢なども、公的でフォーマルなプレゼンテーションにおいて適切であるように完成させていく。最終的には学年合同でのプレゼンテーション大会を行い、コースにおける学習の成果を共有する。	
			英語e（Academic Reading）		英文のスピーチを正確に読み解くことができるようになり、スピーチに関連する英文資料を探し、読み解いた上で活用できるようになることを目的とする。また、自分の意見や考えを効果的にプレゼンテーションすることができるようになるためのCritical Thinkingの意識と方法を身につけていく。具体的には、"TED: Ideas Worth Spreading"に収録されているスピーチの中から、「ことば」「ジェンダー」「平等」などをめぐるものを選び、スピーチを聴くだけではなく、スクリプトを確認することで現代的な問題意識を確認していく。授業では、各スピーチを確認し、必要な事柄を調べ、ディスカッションを行い、それらを踏まえた上で自分の考えをまとめる訓練をしていく。	
			英語e（Discussion and Debate）		この授業は、英語によるディスカッションやディベートのスキルを習得することを目的とする。チームを作り、議論の的となるさまざまなトピックについて意見を共有し、議論を準備し、調査する方法を学ぶ。あるトピックに対して同意または反対する意見を持ち、批判的に物事を評価する思考力を鍛える。また、自らの意見をサポートし、論理的な議論を展開するために、十分な調査、準備が必要であることを学び、それらを英語で表現するための語彙力、表現力を身につける。これらの訓練を通して、グループディスカッションの場で自身の意見や思考を自信を持って表現する能力を向上させていく。	
			英語e（English through Movies）		アメリカの人気ドラマModern Familyを題材とし、英語運用能力の向上を図る。リスニング（ドラマの特定の場面をとりあげ、聞き取りの練習をする）、スピーキング（台詞を口に出して練習する）リーディング（ドラマについての批評やエッセイを読む）、ライティング（ドラマの感想を書く）など、様々なアクティビティを通じて英語のインプット/アウトプット能力を養う。また、ジェンダーや人種等の諸問題に注目しつつ、ドラマのなかでアメリカの家族がどのように表象されているかを分析し、現代アメリカ文化に対する理解を深める。	
			英語e（TOEFL-iBT PreparationⅠ）		この授業は、アカデミックなテスト攻略法を用いて、TOEFL のスコアアップを図ることを目的としている。授業では、実践的なテストの特定のセクション、特にリーディングとリスニングを重点的に取り上げて演習を行っていく。TOEFLの点数を上げるため、目的とするスコアに必要な英単語を覚え、果敢に問題に挑む力を養っていく。この授業を通して、TOEFLの試験に対応するだけでなく、4技能を含む、総合的な英語力を向上させることを目指す。	
			英語e（TOEIC Preparation Ⅰ）		この授業は、TOEICテストでスコアを獲得するために必要なスキルと攻略法を学ぶことを目的とする。特に、TOEIC-iBTテストのリスニングおよびリーディングセクションのスコアを向上させることを目指す。TOEICテストに頻出する語彙を学び、テキストに即して、実践的な問題に取り組むことにより、TOEIC問題の特徴や形式に慣れ、理解し、問題への取り組み方を習得する。同時に、弱点を認識しながら、基礎的な英語力を定着させていく。進捗を測定するために実践形式でテストを行っていく。	
			英語e（TOEIC Preparation Ⅲ）		TOEICのListeningとReadingのスコアを伸ばすことがこの授業の目的である。とりわけ、多くの学生が苦手とするReading Skillの向上に焦点を当てて授業を行う。スコアを上げるために必要な単語を憶え、時間内に素早く解答を見出すとともに、そのために必要な集中力を養っていく。本授業を通じて、TOEICを攻略するためのスキルだけでなく、4技能を始め、総合的な英語力を高めていくことを目指す。	
			英語e（Academic Reading: Advanced）		現代社会において必須とされる英語を習得し、活用していくための知識とスキルを身につけることを目的とする。この授業では、特に、英語文献から情報を得ることができるようになるため練習をしていく。Advanced Skills for Reading を基本のテキストとし、各ユニットのテーマに即したその他の教材を交えながら、アカデミックな英語を読むための具体的なスキルの訓練をしていく。ワンランク上の読解能力を身につけるために必要な語彙の増強、構文理解のための文法的知識の復習と強化、すばやい内容把握のための技術、詳しく正確に読むための技術などを幅広く身につけていくことを目指す。	
			英語e（Conversation Skills: Basic）		この授業では、基本的な英会話スキルを身につけることを目的とし、そのために必要な英語会話のスキルを習得する。他者が話した内容に基づいて適切な質問をしたり、自身の考えや意見を述べ、会話を継続することができるようになることを目指す。身近にある様々なトピック（家族、食生活、音楽、自由時間など）を取り上げ、基礎的かつ必須の語彙やフレーズを学び、現実生活の中で自信を持って自然に表現することができる能力を向上させていく。	

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
全学教養教育	共通科目	語学科目	英語e (News and Views)		この授業では、テキストに即して、社会科学に関連した話題を英語で扱い、自身の考えや視点を持ち、英語で適切に表現できるようになることを目的とする。特に、リスニングと、ディスカッションおよびプレゼンテーションに重点をおく。アカデミックな社会科学分野の語彙を学び、リスニングでは、社会科学に関連した話題についての短い講義を聞いたり、ビデオを見たりしながら、リスニング力を強化していく。ディスカッションとプレゼンテーションでは、これらの内容に関して、批評的な観点から自身の視点や考えをまとめ、この分野に関する専門的な語彙も交えながら、適切に自信を持って自らの意見を表現する訓練をしていく。	
			英語e (Creative Writing)		この授業は、英語による創造的な表現の形としての文章作成スキルを習得することを目的とする。いくつかの詩や短編小説を読み、同時に、それらの例を参考にしながら、課されたトピックについて自ら詩や短編小説を書く訓練を行う。書かれた原稿に対して、フィードバックを繰り返しながら、語彙、表現を磨き、作品の質を高めていく。これらの訓練を通して、英語力とともに、創造力、批判的思考力を向上させることを目指す。	
			英語e (Academic Listening)		英語で行われる学術的な講義を理解し、効率的にノートを取る準備を目的としている。授業では、効果的なノートの取り方やノート作成方略、学術的な講義の構成や講義構造の理解、選択的なリスニングストラテジーの使用、そして英語の様々なバリエーションに対する意識を高めることなどに重点を置いた活動に取り組んでいく。学生は授業で紹介されるリスニングやノートテイキングの方略を使って、英語で行われる学術的な講義を理解し、自然なスピーチの速さで様々なアクセントの英語を理解する力を訓練していく。	
			英語e (Conversation Skills: Advanced)		この授業では、より高度な会話力を身につけることを目的とし、そのために必要な英語会話のスキルを発展させていく。自身で選んだ様々なトピックに関するディスカッションの中で、質問の仕方やレスポンスの仕方などを身につけ、会話の流れを維持するスキルを習得する。また、ディスカッションにおいて、自身の考えや意見を自然で微妙なニュアンスを交えながら表現するための語彙力や表現力を強化し、リアルな英語の会話の状況に自信を持って参加することができる流暢な英語話者になることを目指す。	
			英語e (English through Music: Basic)		この授業は、音楽、特に、歌を中心として扱い、楽しみながら英語力を向上させることを目的とする。中でも、比較的発音が聞き取りやすく、歌詞も明確だと思われる1970年代から80年代に流行したアメリカン・ポップスを主に題材として取り上げる。カーペンターズの代表曲をメインに据え、それらの曲の作られた時代背景や作者のバックグラウンドを踏まえたうえで、語法・文法や構文に注意しながら歌詞の内容を読み解いた後、その曲をできるだけ自分で歌えるように発音上のポイントなどを考えていく。	
			英語e (Grammar: Basic)		この授業では、英語をより正確に理解し活用することができるように、基本的な文法事項をおさえ、身につけるための訓練をしていく。それぞれの項目における多くの例文や練習問題などを通して、基礎英文法、構文、イディオムなどを理解し、習得する。また、writing、reading、listening、speaking、コミュニケーションスキルの向上にも役立て、より高度で洗練された英語を使いこなすことができるようになることを目指す。	
			英語e (Business Communication)		この授業では、社会で働く上で必要な英語に焦点を当て、さまざまな業界で有用となる英語力を身につけることを目的とする。仕事をする上で役立つ語彙や表現をカバーしながら、リスニング、対話、プレゼンテーションの練習を行う。最終的には、基本的なビジネス用語と概念についてより深い理解を持ち、様々な仕事で十分かつ効果的にコミュニケーションができるようになることを目指す。これらの訓練を通して、リスニング、スピーキング、プレゼンテーションスキルなどの英語基礎力の全般的な向上を期待する。	
			英語e (Speech and Debate)		このクラスは、英語で行われる演説やディベートのスキルを発展させることに焦点を当てる。さまざまな演説などを聞き、スピーチのコツとスキルを習得する。その上で、これらの模範的な演説を参考にしながら、与えられたテーマについてプレゼンテーションを行う。また、自身の考えや意見を持つ訓練を行い、それを効果的に英語で表現したり、反論したりするコツを掴む。しっかりとした理由に基づく考察を持つことができるとともに、自信を持って人前で英語をスピーチすることができるようになることを目指す。	
			英語e (TOEIC Preparation Ⅱ: Listening)		この授業では、TOEICテストのリスニング力を向上させることを目的とし、さまざまな方略を紹介していく。授業は、演習形式で、テキストに沿って様々なテーマのリスニング内容に触れることにより、リスニング力を強化していく。授業は、アクティブラーニングの原則に従って行われ、グループにおける学生の積極的な授業参加により実践的な力を養う。また、スピーキング活動も行い、インプットとアウトプットを相互に関連づけながらTOEICテストに対応しうる力を身につけていく。	
			英語e (TOEIC Preparation Ⅱ: Reading)		TOEIC TESTのReadingセクションに焦点を当て、スコアアップを目指す。TOEICテストのReadingセクションのスコアを伸ばすための目標として、まず、高スコアを獲得するために必要な英語の単語を習得し、英語の文法を正確に理解、習得する。また、リーディングのスキルを学び、テキストの速読ができるようになり、予測を立てながら、少し難しい内容にも対応できるようになることを目指す。さらに、実践的な問題を使用しながら、ビジネスの状況を想像しながら、テキストの内容を理解できるようになることを目的とする。	
			英語e (Pronunciation: Basic)		この授業では、英語の音声を学び、実践的なアクティビティを通じて英語を聞き、話し、発音を改善することを目的とする。具体的には、母音、二重母音、子音、音節、アクセントなどの発音に関する項目を学び、音声記号を使用して発音が難しい単語の発音を練習することにより、自然な発音ができるようになる。ネイティブスピーカーの発音を聞き取るトレーニングも行い、詩の朗読、英語のカラオケ、書籍、演劇、映画の読み聞かせなど、発音スキルを習得するための様々な機会に触れる。英語を明瞭に発音し、ネイティブスピーカーが話す英語を理解することができるようになるとともに、高いレベルで英語を話すことができるようになる。	
			英語e (Writing Skills)		この授業では、文の構造や段落の構造を理解し、パラグラフの書き方の基礎を習得することを目的とする。まず、しっかりとしたパラグラフを作成するために必要となるアウトラインの書き方から、序論、本論、結論の基礎的な書き方を順に学んでいく。また、分類、説明、比較などのさまざまな種類のエッセイの書き方についても学ぶ。パラグラフやエッセイを仕上げていく過程としてのプルーフ・リーディングやエディティングの方法なども身につけていくことを目指す。	
			英語e (Vocabulary)		この授業では、英語語彙の理解を深め、語彙の習得と定着を目的とする。習得目標語彙は100語である。授業では、テキストに即した様々なテーマのリーディング材料を理解していく中で、語彙の形式、意味、使用法に注意しながら、一つ一つの語彙の仕組みを認識できるようにする。暗記を繰り返しながら、言葉に慣れ親しみ、自らさまざまな状況の中で利用し、資格試験においても高得点を獲得できるだけの語彙力を身につけることを目指す。	

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
全学教養教育	共通科目	語学科目	英語e（TOEFL-iBT Preparation Ⅱ: Reading/Writing）		TOEFL iBTテストに慣れ、得点を獲得するために必要な学術的な英語の読み書きのスキルを習得することを目指す。この授業では、特に、TOEFLテストのリーディングおよびライティングセクションでのスコアを向上させる。得点を獲得するために必要な語彙を身につけ、実践的なテスト形式での訓練と解説を行っていく。またライティングにおいて、基礎的なパラグラフ構造を学び、テストで課される実践的でアカデミックなトピックに対する思考を深める訓練を行う。自らの意見を、適切な英語で、論理的かつ効果的に書くことができるようにスキルを習得し、訓練していく。	
			英語e（TOEFL-iBT Preparation Ⅱ:Listening/Speaking）		この授業では、TOEFL-iBTテストでワンランク上のスコアを獲得するための英語のスキルと攻略法を学ぶことを目的とする。このクラスでは、特に、リスニングとスピーキングの集中的な訓練を行う。高いスコアを獲得するために必要な語彙を学び、英語を聴きとり、それに応じるために必要なスピーキング力と、同時に思考力を養う。リスニングに関しては教員が用意する様々な教材を用い、スピーキングについては『TOEFLテスト：スピーキング問題110』をテキストとして使用する。	
			英語e（Extensive Reading）		この授業は、広範な読書を通して読解力向上にさせることを目的とする。定期的に自身のレベルにあった（容易に理解できる）、また好みのトピックの英語のテキストを読み、内容をまとめ、理解度を確認していく。読解速度と語彙レベルを向上させるため、詳細にこだわらず、大まかに全体の内容を掴みながら、段階的に、レベル分けされた多くの本を読む訓練を行う。授業の内外で多くの比較的易しいレベルの本を読む訓練を行うことにより、より速いペースで、多くの新しい単語やフレーズを理解することができるようになることを目指す。	
			英語e（Special Topic）		この授業では、学生の要望やニーズに応え、多様性に富んだ授業を提供する。それぞれの学生が、自身の関心や目的に即して履修することにより、英語の学習に専心し、学びの楽しみを味わいながら英語力を伸ばすことを目的としている。コミュニケーションやプレゼンテーションなどのスキルや、扱うテーマやトピックにおいても多様な授業を提供し、それぞれの授業内容に応じて到達目標を達成するために必要な力を強化していくことを目指す。	
			英語e（IELTS PreparationⅠ）		この授業では、IELTSの概要を理解し、IELTSの受験に必要な語彙力とスキルを身につけることを目的とする。授業では、リーディング、リスニング、ライティング、スピーキングの４つの実践的な問題演習を通して、IELTSの試験形態に慣れ親しむとともに、これらの演習を通して、基礎的な英語力を確認し、習得していく。自身の弱点を認識し、強化していくことにより、IELTSテストを、より十分な準備と自信をもって受験することによりスコアの向上を目指す。IELTSテストの特徴についての理解だけでなく、英語の習熟度を高め、IELTSのバンドスコア5（CEFR: B1）を達成を目指していく。	
			英語e（IELTS PreparationⅡ）		この授業では、IELTSの概要を理解し、IELTSの受験に必要な語彙力とスキルを身につけることを目的とする。授業では、リーディング、リスニング、ライティング、スピーキングの４つの実践的な問題演習を通して、IELTSの試験形態に慣れ親しむとともに、これらの演習を通して、基礎的な英語力を確認し、習得していく。自身の弱点を認識し、強化していくことにより、IELTSテストを、より十分な準備と自信をもって受験することによりスコアの向上を目指す。IELTSテストの特徴についての理解だけでなく、英語の習熟度を高め、IELTSのバンドスコア6.0-6.5(CEFR: B2)の達成を目指していく。	
			英語e（Songs and Poems）		この授業では、英語の歌（その詩）を使用して英語力を向上させることを目指す。英語の歌（その詩）を精読し、日本語訳をするなど意味を理解したうえで言葉の音やリズムを分析し、英語で歌う、または声に出して読む。歌や詩の細部への関心・積極的に声を出す姿勢も養っていく。授業は演習形式で行い、英語の歌やその詩を聴いて楽しむだけでなく、その内容・発音・言葉のリズム・雰囲気などを積極的に理解し、英語の歌や詩を総合的に楽しむ感覚を身につける。	
			英語e（EIKEN Grade 2 Preparation）		この授業は、英検２級に合格するために必要なスキルを向上させることを目的としている。具体的には、まず、これまでの試験に出されてきたトピックを使用しながら、２級合格に必要な語彙を習得し増やしていく。また、実践的な過去問題を使用し、リスニング、スピーキング、リーディング、ライティングの試験方式に慣れ、受験の際のテクニックや要領を身につけることに重点を置く。自身の目標を設定し、弱点を認識し、克服しながら英語のスキルを向上させていくことを目指す。学習の成果、進歩を測定するために実践的なテストを実施する。	
			英語e（EIKEN Grade Pre-1 Preparation）		この授業は、英検準１級に合格するために必要なスキルを向上させることを目的としている。具体的には、語彙を増やし、文脈や単語の構造から知らない単語の意味を推測する必要な戦略を習得する。また、スキミング、スラッシュリーディング、スピードリーディングなどのスキルを身につけ、素早く正確に内容を把握できるように訓練していく。リスニングでは、スラッシュリスニングやシャドーイングなどのトレーニングを行うことで、全体の要旨をつかむことができるようになる。同時に、問題に沿った詳細な部分をつかむ訓練を行う。ライティングでは、文構造を理解し、論理的なエッセイを書くことができるようになる訓練を行う。実践的な過去問題を使用し、リスニング、スピーキング、リーディング、ライティングの試験方式に慣れ、受験の際のテクニックや要領を身につけ、慣れ、習得することを目的とする。	
			英語e（Pre-Study Abroad: Basic）		英語留学プログラム中に遭遇しがちな状況に焦点を当て、英語能力における入門的な留学準備を行う。扱われるトピックとして、現地への出発と到着、挨拶、交通機関の利用、人々との交流、教室でのやり取り、また健康面や銀行でのやり取り、問題解決など、生活上のさまざまな状況も含まれる。授業では、必要な語彙の習得、習慣や文化的背景を学ぶとともに、全般的な英語能力の向上を目指す。さらに、現地での学びを想定した情報収集、調査の方法についても学んでいく。	
			海外語学実習（アメリカ）		この授業は、研修前の事前講習、米国ワシントン州シアトルにあるワシントン大学における3週間の夏季集中英語講習、シアトルにおける生活および文化交流体験、そして帰国後の事後講習の４つの要素から成り立っている。現地のクラスは異なる大学や国からの学生で構成され、異なるバックグラウンドを持つ者同士が交流し、互いに学び合う機会が提供される。授業を通じて、英語力および異文化環境でのコミュニケーション能力の養成、現地の社会や文化にふれる経験を通じての学びが促進される。	

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
全学教養教育	共通科目	語学科目	海外語学実習（イギリス）		この授業は、研修前の事前講習、カンタベリー・クライスト・チャーチ大学での3週間の夏季集中英語講習、カンタベリーにおける文化・歴史・芸術体験、そして帰国後の事後講習の４つの要素から成り立っている。現地のクラスは異なる大学や国からの学生で構成され、異なるバックグラウンドを持つ者同士が交流し、互いに学び合う機会が提供される。授業を通じて、英語力および異文化環境でのコミュニケーション能力の養成、現地の文化や芸術にふれる経験を通じての学びが促進される。	
			海外語学実習（カナダ）		この授業では、学内で事前研修を受けたのち、カナダの語学学校にて、4週間の英語集中コースを受講する。帰国後、研修の成果をレポートにまとめる。ブリティッシュ・コロンビア州の州都であるビクトリアは、太平洋岸に位置し、2月でも寒さが厳しくなることはまれであり、イギリス文化の影響を強く受けながらも、多様な人々が豊かな文化を形成する美しい街である。ビクトリア大学では、レベル別にクラスを振り分けられ、英語の四技能を伸ばす。同時に、カナダの文化・社会についてのディスカッションや歴史的なサイトへの訪問などをとおして、体全体で言葉と文化を学ぶ。	
			フランス語Ⅰ（入門）		この授業は、フランス語の初学者を対象として、演習形式で実施される。受講生が入門レベルの文法・語彙の知識、発音と簡単な会話表現、およびフランス語圏の文化・社会に関する基礎知識を習得することを到達目標とする。文法の解説や練習問題のほか、学生同士のペアワークやグループワークを取り入れながら、挨拶、自己紹介、レストランやショッピングでのやり取り等の会話表現の実践的な練習も行う。また、教員がフランス語圏の音楽、芸術、食文化、スポーツ、生活習慣、歴史、時事問題等を紹介する時間も設ける。	
			フランス語Ⅱｓ（文法）		この授業は、1年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が入門～初級レベルの文法の知識を習得し、体系的な理解を深めることを到達目標とする。アルファベ、単母音・複母音・鼻母音・半母音・子音の発音、リエゾン・アンシェヌマン・エリジオン、名詞の性と数、冠詞、形容詞、主語人称代名詞、-er動詞/être/avoir等の活用と用法、否定文等の事項を取り上げる。教員による文法解説のほか、理解を深めるための練習問題や、習熟度を確認するための小テスト等も実施する。	
			フランス語Ⅱｓ（理解）		この授業は、1年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が入門～初級レベルのリーディングやリスニングのスキルを習得し、フランス語で情報をインプットする能力を高めることを到達目標とする。挨拶や自己紹介のダイアローグ、レストランやショッピングでのダイアローグ、フランス語圏の生活習慣や食文化に関する短い説明文など、多岐に渡るテーマを取り上げる。教員による文法や語彙の解説のほか、テキストの内容に関するクイズや、学生によるプレゼンテーション等も実施する。	
			フランス語Ⅱｓ（表現）		この授業は、1年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が入門～初級レベルのスピーキングやライティングのスキルを習得し、フランス語で情報をアウトプットする能力を高めることを到達目標とする。挨拶や自己紹介にはじまり、レストランやショッピングや旅行で使える初歩的なフレーズ、友人や教師との短文メール等、実践的で多岐に渡るテーマを取り上げる。教員による発音や語彙の解説のほか、活発な会話を促すためのゲームや、学生によるディスカッション等も実施する。	
			フランス語Ⅲｓ（文法）		この授業は、2年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が初級～中級レベルの文法の知識を習得し、体系的な理解を深めることを到達目標とする。形容詞の性数、所有形容詞、疑問形容詞、疑問副詞、疑問代名詞、数量表現、近接未来・近接過去、-ir/-re/-oir動詞/aller/venir等の活用と用法、縮約等の事項を取り上げる。教員による文法解説のほか、理解を深めるための練習問題や、習熟度を確認するための小テスト等も実施する。	
			フランス語Ⅲｓ（理解）		この授業は、2年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が初級～中級レベルのリーディングやリスニングのスキルを習得し、フランス語で情報をインプットする能力を高めることを到達目標とする。フランス語圏の観光地や世界遺産、音楽やスポーツやファッション等、多岐に渡るテーマに関する説明文、童謡や簡単な流行歌などを取り上げる。教員による文法や語彙の解説のほか、テキストの内容に関するクイズや、学生によるプレゼンテーション等も実施する。	
			フランス語Ⅲｓ（表現）		この授業は、2年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が初級～中級レベルのスピーキングやライティングのスキルを習得し、フランス語で情報をアウトプットすることを到達目標とする。家族や学校や趣味やアルバイトの話題、レストランやショッピングや旅行で使える基本表現、日本文化を紹介するための表現等を取り上げる。教員による発音や語彙の解説のほか、活発な会話を促すためのゲームや、学生によるディスカッション等も実施する。	
			フランス語Ⅳｓ（文法）		この授業は、2年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が中級レベルのフランス語文法の知識を習得し、体系的な理解を深めることを到達目標とする。授業では、比較級・最上級、命令形、代名動詞、関係代名詞、ジェロンディフ、複合過去、補語人称代名詞、半過去、単純未来、条件法現在、接続法現在などの事項を取り上げる。教員による文法解説のほか、理解を深めるための練習問題や、習熟度を確認するための小テスト等も実施する。	
			フランス語Ⅳｓ（理解）		この授業は、2年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が中級レベルのリーディングやリスニングのスキルを習得し、フランス語で情報をインプットする能力を高めることを到達目標とする。フランス語圏の美術・建築・映画等に関するエッセイ、時事問題に関する新聞記事、公私の様々なシチュエーションでのメール等を取り上げる。教員による文法や語彙の解説のほか、テキストの内容に関するクイズや、学生によるプレゼンテーション等も実施する。	
			フランス語Ⅳｓ（表現）		この授業は、2年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が中級レベルのスピーキングやライティングのスキルを習得し、フランス語で情報をアウトプットする能力を高めることを到達目標とする。食べ物や音楽や映画の好みを語り合うための表現、友人や教師との長文メール、日本の社会問題について説明するための表現等を取り上げる。教員による発音や語彙の解説のほか、活発な会話を促すためのゲームや、学生によるディスカッション等も実施する。	

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
全学教養教育	共通科目	語学科目	フランス語Ⅱｉ（文法）		（概要）この授業は、1年次生を対象として、講義形式で実施される。受講生が入門～初級レベルのフランス語文法の知識を習得することを到達目標とする。授業では、アルファベ、発音とつづり字の規則、名詞の性と数、主語人称代名詞、冠詞、形容詞、否定文、疑問文、数詞、指示形容詞、所有形容詞、直説法（現在、複合過去、半過去、単純未来）、比較級・最上級、命令形、代名動詞、関係代名詞等の事項を取り上げる。教員による文法解説のほか、理解を深めるための練習問題や、習熟度を確認するための小テスト等も実施する。 （オムニバス方式／全45回） （17　木水　千里／30回） 動詞の活用や新出の文法事項の用法などを丁寧に解説した後、練習問題を解きながら、新しく学んだ文法事項の定着を図る。 （129　KREMER OGURA ALEXANDRA JEANNE LOUISE／15回） 新出単語や動詞の活用など、発音に重点を置き、授業を進める。また、簡単な会話の練習も行い、実践力を培うことを目指す。	オムニバス方式
			フランス語Ⅱｉ（理解）		この授業は、1年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が入門～初級レベルのリーディングやリスニングのスキルを習得し、フランス語で情報をインプットする能力を高めることを到達目標とする。挨拶や自己紹介のダイアローグ、レストランやショッピングでのダイアローグ、フランス語圏の生活習慣や食文化に関する短い説明文、友人との簡単なメール等を取り上げる。教員による文法や語彙の解説のほか、テキストの内容に関するクイズや、学生によるプレゼンテーション等も実施する。	
			フランス語Ⅱｉ（表現）		この授業は、1年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が入門～初級レベルのスピーキングやライティングのスキルを習得し、フランス語で情報をアウトプットする能力を高めることを到達目標とする。挨拶や自己紹介、レストランやショッピング、旅行で使える初歩的なフレーズと基本表現、友人や教師との短文メール、国や地方ごとに異なるフランス語の語彙のバリエーション等を取り上げる。教員による発音や語彙の解説のほか、活発な会話を促すためのゲームや、学生によるディスカッション等も実施する。	
			フランス語Ⅱｉ（総合）		この授業は、1年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が入門～初級レベルのフランス語の４技能（読む・聞く・話す・書く）を駆使して実践的なスキルを習得することを到達目標とする。個人またはグループごとにテーマを設定して、文献調査やその他のさまざまな手段で情報を収集し、日本語およびフランス語でディスカッションをする等のアクティブラーニングを通じて、フランス語力を向上させると同時にフランス語圏に関する見識を深める。	
			フランス語Ⅲｉ（文法）		この授業は、2年次生を対象として、講義形式で実施される。受講生が初級～中級レベルのフランス語文法の知識を習得することを到達目標とする。授業では、非人称構文、強調構文、中性代名詞、ジェロンディフ、条件法現在、接続法現在、前未来、大過去、非人称構文、強調構文、中性代名詞、感嘆文、直接話法・間節話法などの事項を取り上げる。教員による文法解説のほか、理解を深めるための練習問題や、習熟度を確認するための小テスト等も実施する。	
			フランス語Ⅲｉ（理解）		この授業は、2年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が初級～中級レベルのリーディングやリスニングのスキルを習得し、フランス語で情報をインプットする能力を高めることを到達目標とする。フランス語圏の観光地や世界遺産、音楽やスポーツやファッション等に関する説明文、童謡や簡単な流行歌、やや長めの私的なメール等を取り上げる。教員による文法や語彙の解説のほか、テキストの内容に関するクイズや、学生によるプレゼンテーション等も実施する。	
			フランス語Ⅲｉ（表現）		この授業は2年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が初級～中級レベルのスピーキングやライティングのスキルを習得することを到達目標とする。家族や学校や趣味やアルバイトの話題、レストランやショッピング、旅行で使える基本表現と応用表現、日本文化を紹介するための表現、国や地方ごとに異なるフランスのバリエーション等を取り上げる。教員による発音や語彙の解説のほか、活発な会話を促すためのゲームや、学生によるディスカッション等も実施する。	
			フランス語Ⅲｉ（総合）		この授業は、2年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が初級～中級レベルのフランス語の４技能（読む・聞く・話す・書く）を駆使して実践的なスキルを習得することを到達目標とする。個人またはグループごとにテーマを設定して、文献調査やその他のさまざまな手段で情報を収集し、日本語およびフランス語でディスカッションをする等のアクティブラーニングを通じて、フランス語力を向上させると同時にフランス語圏に関する見識を深める。	
			フランス語Ⅳｉ（文法）		（概要）この授業は、2年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が中級レベルのフランス語文法の知識を習得することを到達目標とする。授業では、比較級・最上級、命令形、代名動詞、関係代名詞、ジェロンディフ、補語人称代名詞、複合過去、半過去、単純未来、条件法現在、接続法現在などの事項を取り上げる。教員による文法解説のほか、理解を深めるための練習問題や、習熟度を確認するための小テスト等も実施する。 （オムニバス方式／全30回） （47　空　由佳子／15回） 動詞の活用や新出の文法事項の用法などを丁寧に解説した後、練習問題を解きながら、新しく学んだ文法事項の定着を図る。 （154　清水　領／15回） 新出単語や動詞の活用など、発音に重点を置き、授業を進める。また、簡単な会話の練習も行い、実践力を培うことを目指す。	オムニバス方式
			フランス語Ⅳｉ（理解）		この授業は、2年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が中級レベルのリーディングやリスニングのスキルを習得し、フランス語で情報をインプットする能力を高めることを到達目標とする。フランス語圏の美術・建築・映画等に関するエッセイ、ビジネスやテクノロジーに関する論説記事、公私の様々なシチュエーションでのメール等を取り上げる。教員による文法や語彙の解説のほか、テキストの内容に関するクイズや、学生によるプレゼンテーション等も実施する。	

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
全学教養教育	共通科目	語学科目	フランス語Ⅳｉ（表現）		この授業は、2年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が中級レベルのスピーキングやライティングのスキルを習得することを到達目標とする。食べ物や音楽や映画の好みを語り合うための表現、友人や教師との長文メール、日本の社会問題について説明するための表現、国や地方ごとに異なるフランス語の発音のバリエーション等を取り上げる。教員による発音や語彙の解説のほか、活発な会話を促すためのゲームや、学生によるディスカッション等も実施する。	
			フランス語Ⅳｉ（総合）		この授業は、2年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が中級レベルのフランス語の４技能（読む・聞く・話す・書く）を駆使して実践的なスキルを習得することを到達目標とする。個人またはグループごとにテーマを設定して、文献調査やその他のさまざまな手段で情報を収集し、日本語およびフランス語でディスカッションをする等のアクティブラーニングを通じて、フランス語力を向上させると同時にフランス語圏に関する見識を深める。	
			フランス語Ⅴｉ（理解）		この授業は、3年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が中級～中上級レベルのリーディングやリスニングのスキルを習得し、フランス語で情報をインプットする能力を高めることを到達目標とする。フランス語圏の時事問題に関する新聞記事や報道番組、エンターテイメントやスポーツに関する評論やインタビュー記事、大衆向けの文学作品等を取り上げる。教員による文法や語彙の解説のほか、テキストの内容に関するクイズや、学生によるプレゼンテーション等も実施する。	
			フランス語Ⅴｉ（表現）		この授業は、3年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が中級～中上級レベルのスピーキングやライティングのスキルを習得し、フランス語で情報をアウトプットする能力を高めることを到達目標とする。留学やビジネスシーンでの口語表現やメール、時事問題について自分の意見を論理的に述べるための表現等を取り上げる。教員による発音や語彙の解説のほか、活発な会話を促すためのゲームや、学生によるディスカッション等も実施する。	
			フランス語Ⅴｉ（総合）		この授業は、3年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が中級～中上級レベルのフランス語の４技能（読む・聞く・話す・書く）を駆使して実践的なスキルを習得することを到達目標とする。個人またはグループごとにテーマを設定して、文献調査やその他のさまざまな手段で情報を収集し、日本語およびフランス語でディスカッションをする等のアクティブラーニングを通じて、フランス語力を向上させると同時にフランス語圏に関する見識を深める。	
			フランス語Ⅵｉ（理解）		この授業は、3年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が中上級～上級レベルのリーディングやリスニングのスキルを習得し、フランス語で情報をインプットする能力を高めることを到達目標とする。フランス語圏の政治・経済・社会問題に関する論文や学術的エッセイ、古典文学作品や文芸評論、上級者向けの歌や映画等を取り上げる。教員による文法や語彙の解説のほか、テキストの内容に関するクイズや、学生によるプレゼンテーション等も実施する。	
			フランス語Ⅵｉ（表現）		この授業は、3年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が中上級～上級レベルのスピーキングやライティングのスキルを習得し、フランス語で情報をアウトプットする能力を高めることを到達目標とする。日本や世界の政治・経済・社会問題や、フランス語圏の文学・芸術・歴史等に関する学術的なテーマを取り上げる。教員による発音や語彙の解説のほか、活発な会話を促すためのゲームや、学生によるディスカッション等も実施する。	
			フランス語Ⅵｉ（総合）		この授業は3年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が中上級～上級レベルのフランス語の４技能（読む・聞く・話す・書く）を駆使して実践的なスキルを習得することを到達目標とする。個人またはグループでテーマを設定し、情報を集め、分析し、プレゼンテーションやディスカッションを行うなど、アクティブラーニングをフランス語で行うことで、フランス語力を向上させると同時に、フランス語圏に関する見識を深める。	
			海外語学実習（フランス語）		夏の一か月間、大学主催のフランスのアンジェ・カトリック大学(CIDEF)でフランス語の学習を集中的に行う。アンジェでは、実力別にクラス分けが行われ、世界中から来た留学生といっしょに勉強をする。また、現地のフランス人学生がアシスタントとして勉強・生活のアドバイスを行う。事前に何度か研修会を行い、フランスやアンジェの歴史や文化について学習をする。帰国後には、留学成果や体験を話し合う事後報告会を行う。	
			ドイツ語Ⅰ（入門）		この授業は、ドイツ語の初学者を対象として、演習形式で実施される。受講生が入門レベルの文法・語彙の知識、発音と簡単な会話表現、およびドイツ語圏の文化・社会に関する基礎知識を習得することを到達目標とする。文法の解説や練習問題のほか、学生同士のペアワークやグループワークを取り入れながら、挨拶、自己紹介、レストランやショッピングでのやり取り等の会話表現の実践的な練習も行う。また、教員がドイツ語圏の音楽、芸術、食文化、スポーツ、生活習慣、歴史、時事問題等を紹介する時間も設ける。	
			ドイツ語Ⅱｓ（文法）		この授業は、1年次生を対象として、演習形式で実施される。1年かけて学ぶ初級文法の前半で、受講生が入門～初級レベルの文法の知識を習得することを到達目標とする。アルファベート、母音と子音の発音、音節とアクセント、各種品詞の生と数に従った格変化、動詞の現在人称変化、話法の助動詞、基本的構文等の事項を取り上げる。教員による文法解説のほか、理解を深めるための練習問題やクイズ、習熟度を確認するための小テスト等も実施する。	
			ドイツ語Ⅱｓ（理解）		この授業は、1年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が入門～初級レベルのリーディングやリスニングのスキルを習得することを到達目標とする。挨拶や自己紹介のダイアローグ、レストランやショッピングでのダイアローグ、ドイツ語圏の生活習慣や食文化に関する短い説明文等を取り上げる。教員による文法や語彙の解説のほか、テキストの内容に関するクイズや、学生によるディスカッション、プレゼンテーション等も実施する。	
			ドイツ語Ⅱｓ（表現）		この授業は、1年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が入門～初級レベルのスピーキングやライティングのスキルを習得することを到達目標とする。挨拶や自己紹介、レストランやショッピングや旅行で使える初歩的なフレーズ、友人や教師との短文メール等を取り上げる。教員による発音や語彙など表現に関する解説のほか、活発な会話を促すためのゲームやクイズ、学生によるディスカッション、プレゼンテーション等も実施する。	
			ドイツ語Ⅲｓ（文法）		この授業は、2年次生を対象として、演習形式で実施される。1年かけて学ぶ初級文法の後半で、受講生が初級レベルの文法の知識を習得し、中級レベルにスムーズに移行することを到達目標とする。動詞の時制（未来形、過去形、完了形）、関係代名詞・関係文、受動文、再帰代名詞・再帰動詞などを取り上げる。教員による文法解説のほか、予習、復習に基づく発言、発表、グループワークなど、アクティブラーニングを中心に行う。理解を深めるための練習問題やクイズ、習熟度を確認するための小テスト等も実施する。	

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
全学教養教育	共通科目	語学科目	ドイツ語Ⅲｓ（理解）		この授業は、2年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が初級～中級レベルのリーディングやリスニングのスキルを習得することを到達目標とする。ドイツ語圏の観光地や世界遺産、音楽やスポーツやファッション等に関する説明文、ポップスや簡単な流行歌等を取り上げる。教員による文法や語彙の解説のほか、テキストの内容に関するクイズや練習問題を適宜行い、定着を確認しながら進める。また、学生によるプレゼンテーション等も実施する。	
			ドイツ語Ⅲｓ（表現）		この授業は、2年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が初級～中級レベルのスピーキングやライティングのスキルを習得することを到達目標とする。家族や学校や趣味やアルバイトの話題、レストランやショッピングや旅行で使える基本表現、日本文化を紹介するための表現等を取り上げる。教員による発音や語彙の解説のほか、実際の活用を学ぶためのフォトランゲージや、活発な会話を促すためのゲーム、学生によるプレゼンテーションやディスカッション等も実施する。	
			ドイツ語Ⅳｓ（文法）		この授業は、2年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が中級レベルのドイツ語文法の知識を習得することを到達目標とする。授業では、分離動詞、再帰動詞・再帰代名詞、命令形、関係代名詞などの事項を取り上げる。教員による文法解説のほか、それらを用いた表現練習を行う。教員による文法解説のほか、予習、復習に基づく発言、発表、グループワークなど、アクティブラーニングを中心に行う。理解を深めるための練習問題やクイズ、習熟度を確認するための小テスト等も実施する。	
			ドイツ語Ⅳｓ（理解）		この授業は、2年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生がドイツ語の文章をスムーズに理解できるよう、初級～中級レベルのリーディングのスキルを習得することを到達目標とする。ドイツ語圏の映画やテレビ番組、文化や伝統、日常生活のニュースや社会問題、ドイツ語圏の旅行先や観光地、短編小説や詩等を利用する。文法事項を確実に習得しながら、辞書を使いこなし読解力を高めるとともに、学生同士のピアラーニングや、反転授業なども行う。	
			ドイツ語Ⅳｓ（表現）		この授業は、2年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が中級レベルのスピーキングやライティングのスキルを習得することを到達目標とする。日本や世界のニュース・社会問題の意見交換、ドイツ語圏の歴史・文化、休暇・旅行のエピソード等を取り上げる。教員による発音や語彙の解説のほか、動詞や名詞の実際の活用を学ぶためのフォトランゲージや、冠詞や数詞を実際に使うカードゲーム、旅行や休暇の予約やメール問い合わせのための作文などを行う。	
			ドイツ語Ⅱｉ（文法）		（概要）この授業は、1年次生を対象として、演習形式で実施される。初級文法の前半で、入門～初級レベルの文法の知識を習得することを到達目標とする。動詞の現在形／過去形／完了形、名詞の性と格変化、冠詞類、前置詞、助動詞、接続詞の学習と表現練習を行う。 （オムニバス方式／全45回） （202 Nadine Kaczmarek）／15回） 双方向によるアクティブラーニングによって、生きたドイツ語として教授する。習得状況を確認しつつ、コンテクストに即して使い方を理解できるよう、映画やドラマの会話文やインタビュー形式のニュース記事などを用いて解説する。 （204 西野　路代／30回） コミュニケーションを通じて理解できるよう、ゲームやクイズなどを活用して教授する。実際の活用や使い分けを学ぶためのフォトランゲージや、小説読解、カードゲームなどを行う。学生同士のピアラーニングや、反転授業なども行う。	オムニバス方式
			ドイツ語Ⅱｉ（理解）		この授業は、1年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が入門～初級レベルのリーディングやリスニングのスキルを習得することを到達目標とする。教室やビジネスシーンでの挨拶や自己紹介、日常生活のレストランやショッピングでのダイアローグ、ドイツ語圏の生活習慣や食文化に関する短い説明文、友人との簡単なメール、チャット等を取り上げる。教員による文法や語彙の解説のほか、テキストの内容に関するクイズや練習問題、学生によるプレゼンテーション等も実施する。	
			ドイツ語Ⅱｉ（表現）		この授業は、1年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が入門～初級レベルのスピーキングやライティングのスキルを習得することを到達目標とする。挨拶や自己紹介、レストランやショッピングや旅行で使える初歩的なフレーズと基本表現、友人や教師との短文メール等を取り上げる。教員による発音や語彙の解説のほか、コミュニケーションを通じて理解できるよう、活発な会話を促すためのゲームやクイズ、学生によるプレゼンテーションやディスカッション等も実施する。	
			ドイツ語Ⅱｉ（総合）		この授業は、1年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が単語単位ではなく、文章レベルでなめらかに理解・発音・聞き取り・表現ができるよう、文法、リスニング、口頭表現のスキルを総合的に習得することを到達目標とする。子供向けアニメ（ドイツ語版）、ドイツ語の発音練習アプリやビデオ、簡単な会話フレーズを学ぶためのカードやリスト等を利用する。教員による発音や語彙の解説のほか、学生によるプレゼンテーションやディスカッション等も実施する。	
			ドイツ語Ⅲｉ（文法）		この授業は、2年次生を対象として、演習形式で実施される。1年かけて学ぶ初級文法の後半で、受講生が初級レベルの文法の知識を習得し、中級レベルにスムーズに移行することを到達目標とする。現在完了形、再帰代名詞・再帰動詞、形容詞・副詞、関係代名詞、受動態、接続法を学習するとともに、それらを用いた表現練習を行う。教員による文法解説のほか、予習、復習に基づく発言、発表、グループワークなど、アクティブラーニングを中心に行う。理解を深めるための練習問題やクイズ、習熟度を確認するための小テスト等も実施する。	
			ドイツ語Ⅲｉ（理解）		この授業は、2年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が初級～中級レベルのリーディングやリスニングのスキルを習得することを到達目標とする。双方向によるアクティブラーニングによって、生きたドイツ語として教授する。ドイツ語圏の観光地や世界遺産、音楽やスポーツやファッション等に関する説明文、童謡や簡単な流行歌、やや長めの私的なメール等を取り上げる。教員による文法や語彙の解説のほか、テキストの内容に関するクイズや、学生によるプレゼンテーション等も実施する。	

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
全学教養教育	共通科目	語学科目	ドイツ語Ⅲｉ（表現）		この授業は、2年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が初級～中級レベルのスピーキングやライティングのスキルを習得することを到達目標とする。挨拶や自己紹介、レストランやショッピングや旅行で使える初歩的なフレーズと基本表現、友人や教師との短文メール、国や地方ごとに異なるドイツ語の語彙のバリエーション等を取り上げる。教員による発音や語彙の解説のほか、活発な会話を促すためのゲームや、学生によるプレゼンテーションやディスカッション等も実施する。	
			ドイツ語Ⅲｉ（総合）		この授業は、2年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が比較的長い文章であってもなめらかに理解・発音・聞き取り・表現ができるよう、文法、リスニング、口頭表現のスキルを総合的に習得することを到達目標とする。双方向によるアクティブラーニングによって、コンテクストに即して使い方を理解できるよう、生きたドイツ語として教授する。映画やドラマのほか、ドイツ語圏の生活や文化に関する記事を読み、プレゼンテーションやディスカッション等を実施する。	
			ドイツ語Ⅳｉ（文法）		（概要）この授業は、2年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が中級レベルのドイツ語文法の知識を習得することを到達目標とする。授業では、分離動詞、再帰動詞・再帰代名詞、命令形、関係代名詞、話法の助動詞、接続法などの事項を取り上げる。 （オムニバス方式／全30回） （71　石井　寿子／15回） 双方向によるアクティブラーニングによって、生きたドイツ語として教授する。新たな文法事項について、コンテクストに即して使い方を理解できるよう、映画やドラマの会話文やインタビュー形式のニュース記事などを用いて解説する。学生同士のピアラーニングや、反転授業なども行う。 （204　西野　路代）／15回） 新たな文法の確実な定着のために、ルーブリックを用いた自己確認を中心に教授する。学習者のつまづきやすいポイントを明示し、自立した学習が可能となる学習態度を育成する。学習した文法事項をランダムに取り入れた長文読解を適宜行い、定着を確認する。	オムニバス方式
			ドイツ語Ⅳｉ（理解）		この授業は2年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が中級レベルのリーディングやリスニングのスキルを習得することを到達目標とする。ドイツ語圏の美術・建築・映画等に関するエッセイ、時事問題やビジネス、テクノロジーに関する論説記事、公私の様々なシチュエーションでのメール等を取り上げる。教員による文法や語彙の解説のほか、テキストの内容に関するクイズ、学生によるディスカッションやプレゼンテーション等も実施する。	
			ドイツ語Ⅳｉ（表現）		この授業は、2年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が中級レベルのスピーキングやライティングのスキルを習得することを到達目標とする。教員による文法解説のほか、予習、復習に基づく発言、発表、グループワークなど、アクティブラーニングを中心に行う。世界の政治・経済・社会問題や、ドイツ語圏の文学・芸術・歴史等に関する学術的なテーマを取り上げる。教員による発音や語彙、表現の解説のほか、活発な会話を促すためのゲームや、学生によるプレゼンテーションやディスカッション等も実施する。	
			ドイツ語Ⅳｉ（総合）		この授業は、2年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が比較的長い文章であってもなめらかに理解・発音・聞き取り・表現ができるよう、文法、リスニング、口頭表現のスキルを総合的に習得することを到達目標とする。双方向によるアクティブラーニングによって、コンテクストに即して使い方を理解できるよう、生きたドイツ語として教授する。映画やドラマのほか、ドイツ語圏の生活や文化に関する記事を読み、ドイツ語でのプレゼンテーションやディスカッション等を実施する。	
			ドイツ語Ⅴｉ（理解）		この授業は、3年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が比較的長い文章であってもなめらかに理解・発音・聞き取り・表現ができるよう、文法、リスニング、口頭表現のスキルを総合的に習得することを到達目標とする。双方向によるアクティブラーニングによって、コンテクストに即して使い方を理解できるよう、生きたドイツ語として教授する。映画やドラマのほか、ドイツ語圏の生活や文化に関する記事を読み、ドイツ語でのプレゼンテーションやディスカッション等を実施する。	
			ドイツ語Ⅴｉ（表現）		この授業は、3年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が中級～中上級レベルのスピーキングやライティングのスキルを習得することを到達目標とする。世界の政治・経済・社会問題や、ドイツ語圏の文学・芸術・歴史等に関する学術的なテーマを取り上げる。教員による文法や文化に関する解説のほか、予習、復習に基づく発言、発表、グループワークなど、アクティブラーニングを中心に行う。活発な会話を促すためのゲームや、学生によるプレゼンテーションやディスカッション等も実施する。	
			ドイツ語Ⅴｉ（総合）		この授業は、3年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が中級～中上級レベルのドイツ語の４技能（読む・書く・聞く・話す）を駆使して研究やプレゼンテーションを行うための、実践的なスキルを習得することを到達目標とする。教員による文法解説のほか、予習、復習に基づく発言、発表、グループワークなど、アクティブラーニングを中心に行う。テーマ（年度により異なる）を定めて、個人またはグループで調査および研究等を実施し、それらの成果をもとにスライド等を作成して、学内でプレゼンテーション、ディスカッション等を行う。	
			ドイツ語Ⅵｉ（理解）		この授業は、3年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が中上級～上級レベルのリーディングやリスニングのスキルを習得することを到達目標とする。ドイツ語圏の政治・経済・社会問題に関する論文や学術的エッセイ、古典文学作品や文芸評論、上級者向けの歌や映画等を取り上げ、アクティブラーニングを中心に行う。教員による文法や語彙の解説のほか、テキストの内容に関するクイズや、学生によるディスカッションやプレゼンテーション等も実施する。	
			ドイツ語Ⅵｉ（表現）		この授業は、3年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が中上級～上級レベルのスピーキングやライティングのスキルを習得することを到達目標とする。世界の政治・経済・社会問題や、ドイツ語圏の文学・芸術・歴史等に関する学術的なテーマを取り上げる。教員による文法や文化に関する解説のほか、予習、復習に基づく発言、発表、グループワークなど、アクティブラーニングを中心に行う。活発な会話を促すためのゲームや、学生によるプレゼンテーションやディスカッション等も実施する。	

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
全学教養教育	共通科目	語学科目	ドイツ語Ⅵｉ（総合）		この授業は、3年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が中級～中上級レベルのドイツ語の４技能（読む・書く・聞く・話す）を駆使して研究やプレゼンテーションを行うための、実践的なスキルを習得することを到達目標とする。教員による文法解説のほか、予習、復習に基づく発言、発表、グループワークなど、アクティブラーニングを中心に行う。テーマ（年度により異なる）を定めて、個人またはグループで調査および研究等を実施し、それらの成果をもとにスライド等を作成して、学内でプレゼンテーション、ディスカッション等を行う。	
			海外語学実習（ドイツ語）		この授業は、入門～初級のドイツ語を学んだ受講生を対象に、ドイツのデュッセルドルフ市、IIK（異文化コミュニケーション研究所）において、多国籍の受講生とともにドイツ語を学ぶ。文法、読む、聞く、話す、書くというドイツ語の総合的な能力を総動員させて、生きたドイツ語を、授業や生活、文化の中で習得することを到達目標とする。さらに授業外の遠足イベント、パーティ等の参加を通じて、多様な場面でのコミュニケーションを学ぶ。またドイツだけでなく近隣諸国へのフィールドトリップにより、ドイツの国際的な関係についても体験する。	
			スペイン語Ⅰ（入門）		この授業は、スペイン語の初学者を対象として、演習形式で実施される。受講生が入門レベルの文法・語彙の知識、発音と簡単な会話表現、およびスペイン語圏の文化・社会に関する基礎知識を習得することを到達目標とする。文法の解説や練習問題のほか、学生同士のペアワークやグループワークを取り入れながら、挨拶、自己紹介、レストランやショッピングでのやり取り等の会話表現の実践的な練習も行う。また、教員がスペイン語圏の音楽、芸術、食文化、スポーツ、生活習慣、歴史、時事問題等を紹介する時間も設ける。	
			スペイン語Ⅱｓ（文法）		この授業は、1年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が入門～初級レベルのスペイン語文法の知識を習得し、体系的な理解を深めることを到達目標とする。アルファベット、母音と子音の発音、音節とアクセント、名詞の性と数、冠詞、形容詞、主格人称代名詞、直説法現在の動詞の活用と用法（SER/ESTAR/HAY、規則活用動詞）等の事項を取り上げる。教員による文法解説のほか、理解を深めるための練習問題や、習熟度を確認するための小テスト等も実施する。	
			スペイン語Ⅱｓ（理解）		この授業は、1年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が入門～初級レベルのリーディングやリスニングのスキルを習得し、スペイン語で情報をインプットする能力を高めることを到達目標とする。挨拶や自己紹介のダイアローグ、レストランやショッピングでのダイアローグ、スペイン語圏の生活習慣や食文化に関する短い説明文等を取り上げる。教員による文法や語彙の解説のほか、テキストの内容に関するクイズや、学生によるプレゼンテーション等も実施する。	
			スペイン語Ⅱｓ（表現）		この授業は、1年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が入門～初級レベルのスピーキングやライティングのスキルを習得し、スペイン語で情報をアウトプットする能力を高めることを到達目標とする。挨拶や自己紹介、レストランやショッピングや旅行で使える初歩的なフレーズ、友人や教師との短文メール等を取り上げる。教員による発音や語彙の解説のほか、活発な会話を促すためのゲームや、学生によるディスカッション等も実施する。	
			スペイン語Ⅲｓ（文法）		この授業は、2年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が初級～中級レベルのスペイン語文法の知識を習得し、体系的な理解を深めることを到達目標とする。目的格人称代名詞、GUSTAR型動詞、前置詞格人称代名詞、語根母音変化動詞、不規則活用動詞、天候表現、再帰動詞、無人称文、感嘆文等の事項を取り上げる。教員による文法解説のほか、理解を深めるための練習問題や、習熟度を確認するための小テスト等も実施する。	
			スペイン語Ⅲｓ（理解）		この授業は、2年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が初級～中級レベルのリーディングやリスニングのスキルを習得し、スペイン語で情報をインプットする能力を高めることを到達目標とする。スペイン語圏の観光地や世界遺産、音楽やスポーツやファッション等に関する説明文、童謡や簡単な流行歌等を取り上げる。教員による文法や語彙の解説のほか、テキストの内容に関するクイズや、学生によるプレゼンテーション等も実施する。	
			スペイン語Ⅲｓ（表現）		この授業は、2年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が初級～中級レベルのスピーキングやライティングのスキルを習得し、スペイン語で情報をアウトプットする能力を高めることを到達目標とする。家族や学校や趣味やアルバイトの話題、レストランやショッピングや旅行で使える基本表現、日本文化を紹介するための表現等を取り上げる。教員による発音や語彙の解説のほか、活発な会話を促すためのゲームや、学生によるディスカッション等も実施する。	
			スペイン語Ⅳｓ（文法）		この授業は、2年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が中級レベルのスペイン語文法の知識を習得し、体系的な理解を深めることを到達目標とする。過去分詞、直説法現在完了、現在分詞、直説法点過去、不定語と否定語、比較表現、受け身表現、直説法線過去、直説法過去完了、直説法未来・過去未来等の事項を取り上げる。教員による文法解説のほか、理解を深めるための練習問題や、習熟度を確認するための小テスト等も実施する。	
			スペイン語Ⅳｓ（理解）		この授業は、2年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が中級レベルのリーディングやリスニングのスキルを習得し、スペイン語で情報をインプットする能力を高めることを到達目標とする。スペイン語圏の美術・建築・映画等に関するエッセイ、時事問題に関する新聞記事、公私の様々なシチュエーションでのメール等を取り上げる。教員による文法や語彙の解説のほか、テキストの内容に関するクイズや、学生によるプレゼンテーション等も実施する。	
			スペイン語Ⅳｓ（表現）		この授業は、2年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が中級レベルのスピーキングやライティングのスキルを習得し、スペイン語で情報をアウトプットする能力を高めることを到達目標とする。食べ物や音楽や映画の好みを語り合うための表現、友人や教師との長文メール、日本の社会問題について説明するための表現等を取り上げる。教員による発音や語彙の解説のほか、活発な会話を促すためのゲームや、学生によるディスカッション等も実施する。	

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
全学教養教育	共通科目	語学科目	スペイン語Ⅱｉ（文法）		（概要）この授業は、1年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が入門～初級レベルのスペイン語文法の知識を習得し、体系的な理解を深めることを到達目標とする。アルファベット、母音と子音の発音、音節とアクセント、名詞の性と数、冠詞、形容詞、人称代名詞、直説法現在の動詞の活用と用法（GUSTAR型動詞や再帰動詞を含む）、直接法点過去の活用と用法等の事項を取り上げる。教員による文法解説のほか、理解を深めるための練習問題や、習熟度を確認するための小テスト等も実施する。 （オムニバス方式／全45回） （15　遠藤　健太／15回） 　新出の文法事項の詳細な解説と、それに関する筆記の練習問題を実施する。 （43　HIGA, Marcelo G.／30回） 　新出の語彙・成句・動詞活用の解説と、それに関する筆記の練習問題および口頭練習を実施する。既習の文法事項や語彙・成句・動詞活用の復習と、それに関する筆記の練習問題および口頭練習を実施する。	オムニバス方式
			スペイン語Ⅱｉ（理解）		この授業は、1年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が入門～初級レベルのリーディングやリスニングのスキルを習得し、スペイン語で情報をインプットする能力を高めることを到達目標とする。挨拶や自己紹介のダイアローグ、レストランやショッピングでのダイアローグ、スペイン語圏の生活習慣や食文化に関する短い説明文、友人との簡単なメール等を取り上げる。教員による文法や語彙の解説のほか、テキストの内容に関するクイズや、学生によるプレゼンテーション等も実施する。	
			スペイン語Ⅱｉ（表現）		この授業は、1年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が入門～初級レベルのスピーキングやライティングのスキルを習得し、スペイン語で情報をアウトプットする能力を高めることを到達目標とする。挨拶や自己紹介、レストランやショッピングや旅行で使える初歩的なフレーズと基本表現、友人や教師との短文メール、国や地方ごとに異なるスペイン語の語彙のバリエーション等を取り上げる。教員による発音や語彙の解説のほか、活発な会話を促すためのゲームや、学生によるディスカッション等も実施する。	
			スペイン語Ⅱｉ（総合）		この授業は、1年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が入門～初級レベルのスペイン語の４技能（読む・聞く・話す・書く）を駆使して情報収集やプレゼンテーションを行う実践的なスキルを習得することを到達目標とする。グループごとにテーマを設定して、文献調査やその他の様々な手段で情報を収集し、日本語およびスペイン語でディスカッションする等のアクティブ・ラーニングを通じて、スペイン語とスペイン語圏に関する見識を深める。	
			スペイン語Ⅲｉ（文法）		この授業は、2年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が初級～中級レベルのスペイン語文法の知識を習得し、体系的な理解を深めることを到達目標とする。無人称文、関係詞、直接法点過去、否定語と不定語、比較表現、受け身表現、直説法線過去、直説法過去完了、直説法未来・過去未来、直説法未来完了・過去未来完了等の事項を取り上げる。教員による文法解説のほか、理解を深めるための練習問題や、習熟度を確認するための小テスト等も実施する。	
			スペイン語Ⅲｉ（理解）		この授業は、2年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が初級～中級レベルのリーディングやリスニングのスキルを習得し、スペイン語で情報をインプットする能力を高めることを到達目標とする。スペイン語圏の観光地や世界遺産、音楽やスポーツやファッション等に関する説明文、童謡や簡単な流行歌、やや長めの私的なメール等を取り上げる。教員による文法や語彙の解説のほか、テキストの内容に関するクイズや、学生によるプレゼンテーション等も実施する。	
			スペイン語Ⅲｉ（表現）		この授業は、2年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が初級～中級レベルのスピーキングやライティングのスキルを習得し、スペイン語で情報をアウトプットする能力を高めることを到達目標とする。家族や学校や趣味やアルバイトの話題、レストランやショッピングや旅行で使える基本表現と応用表現、日本文化を紹介するための表現、国や地方ごとに異なるスペイン語の文法のバリエーション等を取り上げる。教員による発音や語彙の解説のほか、活発な会話を促すためのゲームや、学生によるディスカッション等も実施する。	
			スペイン語Ⅲｉ（総合）		この授業は、2年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が初級～中級レベルのスペイン語の４技能（読む・聞く・話す・書く）を駆使して情報収集やプレゼンテーションを行う実践的なスキルを習得することを到達目標とする。グループごとにテーマを設定して、文献調査やその他の様々な手段で情報を収集し、日本語およびスペイン語でディスカッションする等のアクティブ・ラーニングを通じて、スペイン語とスペイン語圏に関する見識を深める。	
			スペイン語Ⅳｉ（文法）		（概要）この授業は、2年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が中級～中上級レベルのスペイン語文法の知識を習得し、体系的な理解を深めることを到達目標とする。接続法現在の活用、命令文、接続法現在の用法（名詞節・形容詞節・副詞節・独立文）、接続法過去、接続法現在完了、接続法過去完了、条件文等の事項を取り上げる。教員による文法解説のほか、理解を深めるための練習問題や、習熟度を確認するための小テスト等も実施する。 （オムニバス方式／全30回） （15　遠藤　健太／15回） 　新出の文法事項および語彙・成句・動詞活用の詳細な解説と、それに関する筆記の練習問題を実施する。 （254　渡辺　裕木／15回） 　既習の文法事項および語彙・成句・動詞活用の復習と、それに関する口頭練習を実施する。	オムニバス方式
			スペイン語Ⅳｉ（理解）		この授業は、2年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が中級レベルのリーディングやリスニングのスキルを習得し、スペイン語で情報をインプットする能力を高めることを到達目標とする。スペイン語圏の美術・建築・映画等に関するエッセイ、ビジネスやテクノロジーに関する論説記事、公私の様々なシチュエーションでのメール等を取り上げる。教員による文法や語彙の解説のほか、テキストの内容に関するクイズや、学生によるプレゼンテーション等も実施する。	

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
全学教養教育	共通科目	語学科目	スペイン語Ⅳｉ（表現）		この授業は、2年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が中級レベルのスピーキングやライティングのスキルを習得し、スペイン語で情報をアウトプットする能力を高めることを到達目標とする。食べ物や音楽や映画の好みを語り合うための表現、友人や教師との長文メール、日本の社会問題について説明するための表現、国や地方ごとに異なるスペイン語の発音のバリエーション等を取り上げる。教員による発音や語彙の解説のほか、活発な会話を促すためのゲームや、学生によるディスカッション等も実施する。	
			スペイン語Ⅳｉ（総合）		この授業は、2年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が中級レベルのスペイン語の４技能（読む・聞く・話す・書く）を駆使して情報収集やプレゼンテーションを行う実践的なスキルを習得することを到達目標とする。グループごとにテーマを設定して、文献調査やその他の様々な手段で情報を収集し、日本語およびスペイン語でディスカッションする等のアクティブ・ラーニングを通じて、スペイン語とスペイン語圏に関する見識を深める。	
			スペイン語Ⅴｉ（理解）		この授業は、3年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が中級～中上級レベルのリーディングやリスニングのスキルを習得し、スペイン語で情報をインプットする能力を高めることを到達目標とする。スペイン語圏の時事問題に関する新聞記事や報道番組、エンターテイメントやスポーツに関する評論やインタビュー記事、大衆向けの文学作品等を取り上げる。教員による文法や語彙の解説のほか、テキストの内容に関するクイズや、学生によるプレゼンテーション等も実施する。	
			スペイン語Ⅴｉ（表現）		この授業は、3年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が中級～中上級レベルのスピーキングやライティングのスキルを習得し、スペイン語で情報をアウトプットする能力を高めることを到達目標とする。留学やビジネスシーンでの口語表現やメール、時事問題について自分の意見を論理的に述べるための表現等を取り上げる。教員による発音や語彙の解説のほか、活発な会話を促すためのゲームや、学生によるディスカッション等も実施する。	
			スペイン語Ⅴｉ（総合）		この授業は、3年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が中級～中上級レベルのスペイン語の４技能（読む・聞く・話す・書く）を駆使して情報収集やプレゼンテーションを行う実践的なスキルを習得することを到達目標とする。グループごとにテーマを設定して、文献調査やその他の様々な手段で情報を収集し、日本語およびスペイン語でディスカッションする等のアクティブ・ラーニングを通じて、スペイン語とスペイン語圏に関する見識を深める。	
			スペイン語Ⅵｉ（理解）		この授業は、3年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が中上級～上級レベルのリーディングやリスニングのスキルを習得し、スペイン語で情報をインプットする能力を高めることを到達目標とする。スペイン語圏の政治・経済・社会問題に関する論文や学術的エッセイ、古典文学作品や文芸評論、上級者向けの歌や映画等を取り上げる。教員による文法や語彙の解説のほか、テキストの内容に関するクイズや、学生によるプレゼンテーション等も実施する。	
			スペイン語Ⅵｉ（表現）		この授業は、3年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が中上級～上級レベルのスピーキングやライティングのスキルを習得し、スペイン語で情報をアウトプットする能力を高めることを到達目標とする。日本や世界の政治・経済・社会問題や、スペイン語圏の文学・芸術・歴史等に関する学術的なテーマを取り上げる。教員による発音や語彙の解説のほか、活発な会話を促すためのゲームや、学生によるディスカッション等も実施する。	
			スペイン語Ⅵｉ（総合）		この授業は、3年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が中上級～上級レベルのスペイン語の４技能（読む・聞く・話す・書く）を駆使して情報収集やプレゼンテーションを行う実践的なスキルを習得することを到達目標とする。グループごとにテーマを設定して、文献調査やその他の様々な手段で情報を収集し、日本語およびスペイン語でディスカッションする等のアクティブ・ラーニングを通じて、スペイン語とスペイン語圏に関する見識を深める。	
			海外語学実習（スペイン語）		この授業は、スペイン語の全コースの学生を対象として、演習形式で実施される。受講生が（各自の学習段階に応じて）入門～上級レベルのスペイン語の総合的なスキルを向上させ、スペインでの生活や文化に親しむことを到達目標とする。夏休みの3週間語学研修プログラムに参加する。現地での語学研修のほか、出国前の本学担当教員による事前研修（渡航や現地滞在に関する指導、スペイン語指導等）や、帰国後の事後研修（学生による成果発表会やディスカッション）等も実施する。	
			中国語Ⅰ（入門）		この授業は、中国語の初学者を対象として、演習形式で実施される。受講生が入門レベルの中国語の現状や特徴、簡体字、発音表記（ピンイン）、発音の基礎、簡単な日常表現、中国語圏の文化・社会に関する基礎知識を習得することを到達目標とする。発音、文法の解説や練習問題のほか、学生同士のペアワークやグループワークを取り入れながら、挨拶、自己紹介、レストランやショッピングでのやり取り等の日常表現の練習も行う。また、教員が中国語圏の文化習慣、音楽・芸術、スポーツ、歴史、時事問題等を紹介する。	
			中国語Ⅱｓ（文法）		この授業は、1年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が入門～初級レベルの文法の知識を習得することを到達目標とする。簡体字、発音表記（ピンイン）、発音（音節と声調）、名詞・指示詞・代名詞、動詞、形容詞、副詞、助詞、数詞、量詞、方位詞、疑問詞、助動詞等の基本的用法（動詞述語文、形容詞述語文、アスペクト等）、存現文の事項を取り上げる。教員による語彙や文法解説のほか、学生同士のペアワークによる発音練習、テキストの内容に関する練習問題や小テスト等も実施する。	
			中国語Ⅱｓ（理解）		この授業は、1年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が入門～初級レベルのリーディングやリスニングのスキルを習得し、中国語で情報をインプットする能力を高めることを到達目標とする。挨拶や自己紹介のダイアローグ、レストランやショッピングでのダイアローグ、中国語圏の生活習慣や食文化に関する短い説明文等を取り上げる。教員による文法や語彙の解説のほか、テキスト及び音声の内容に関するクイズや、学生によるプレゼンテーション等も実施する。	
			中国語Ⅱｓ（表現）		この授業は、1年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が入門～初級レベルのスピーキングやライティングのスキルを習得し、中国語で情報をアウトプットする能力を高めることを到達目標とする。挨拶や自己紹介、レストランやショッピングや旅行で使える初歩的なフレーズ、友人や教師との短文メール等を取り上げる。教員による発音や語彙の解説のほか、活発な会話を促すためのゲームや、学生によるディスカッション、作文課題等も実施する。	

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
全学教養教育	共通科目	語学科目	中国語Ⅲｓ（文法）		この授業は、2年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が初級～中級レベルの文法の知識を習得することを到達目標とする。各種品詞の基本的用法（動詞述語文、形容詞述語文、アスペクト等）、存現文に加え、連動文、兼語文、各種補語（様態、程度、方向、結果、可能）の用法、簡単な複文等の事項を取り上げる。教員による語彙や文法の解説のほか、学生同士のペアワークやグループワークによる発音練習、理解を深めるための練習問題や、習熟度を確認するための小テスト等も実施する。	
			中国語Ⅲｓ（理解）		この授業は、2年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が初級～中級レベルのリーディングやリスニングのスキルを習得し、中国語で情報をインプットする能力を高めることを到達目標とする。中国語圏の日常生活、文化や伝統、旅行先や観光地、音楽やスポーツやファッション等に関する説明文、童謡や簡単な流行歌等を取り上げる。教員による文法や語彙の解説のほか、テキスト及び音声の内容に関するクイズや、学生によるプレゼンテーション等も実施する。	
			中国語Ⅲｓ（表現）		この授業は、2年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が初級～中級レベルのスピーキングやライティングのスキルを習得し、中国語で情報をアウトプットする能力を高めることを到達目標とする。家族や学校、趣味やアルバイトの話題、レストランやショッピングや旅行で使える基本表現、日本文化を紹介するための表現等を取り上げる。教員による発音や語彙の解説のほか、活発な会話を促すためのゲームや、学生によるディスカッション、作文課題等も実施する。	
			中国語Ⅳｓ（文法）		この授業は、2年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が中級レベルの文法の知識を習得し、体系的な理解を深めることを到達目標とする。基本表現をはじめ、兼語文、受身表現、離合動詞、各種助詞、各種補語（様態、程度、方向、結果、可能）の用法、複文等の事項を取り上げる。教員による語彙や文法の解説のほか、学生同士のペアワークやグループワークによる発音練習、理解を深めるための練習問題や、習熟度を確認するための小テスト等も実施する。	
			中国語Ⅳｓ（理解）		この授業は、2年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が中級レベルのリーディングやリスニングのスキルを習得し、中国語で情報をインプットする能力を高めることを到達目標とする。中国語圏の美術・建築・映画等に関するエッセイ、時事問題に関する新聞記事、公私の様々なシチュエーションでのメール等を取り上げる。教員による文法や語彙の解説のほか、テキスト及び音声の内容に関するクイズや、学生によるプレゼンテーション等も実施する。	
			中国語Ⅳｓ（表現）		この授業は、2年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が中級レベルのスピーキングやライティングのスキルを習得し、中国語で情報をアウトプットする能力を高めることを到達目標とする。食べ物や音楽や映画の好みを語り合うための表現、友人や教師との長文メール、日本の社会問題について説明するための表現等を取り上げる。教員による発音や語彙の解説のほか、活発な会話を促すためのゲームや、学生によるディスカッション、作文課題等も実施する。	
			中国語Ⅱｉ（文法）		（概要）この授業は、1年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が入門～初級レベルの文法の知識を習得することを到達目標とする。簡体字、音節（ピンイン、声調）、名詞、指示詞、代名詞、動詞、形容詞、副詞、助詞、数詞、量詞、方位詞、疑問詞、助動詞等の基本的用法（動詞述語文、形容詞述語文、アスペクト等）、存現文、連動文等の事項を取り上げる。教員による語彙や文法解説のほか、学生同士のペアワークによる発音練習、テキストの内容に関する練習問題や小テスト等も実施する。 （オムニバス方式／全45回） （14　上原　かおり／15回） 新出単語や文法事項について詳細に解説し、簡単な練習問題を実施する。 （74　石原　正代／15回） 既習の単語や文法事項に関する練習問題を解きながら復習する。 （157　朱　力／15回） 発音に重点を置いて既習内容を復習する。また、暗唱や会話練習などを実施する。	オムニバス方式
			中国語Ⅱｉ（理解）		この授業は、1年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が入門～初級レベルのリーディングやリスニングのスキルを習得し、中国語で情報をインプットする能力を高めることを到達目標とする。挨拶や自己紹介のダイアローグ、レストランやショッピングでのダイアローグ、中国語圏の生活習慣や食文化に関する短い説明文、友人との簡単なメール等を取り上げる。教員による文法や語彙の解説のほか、テキスト及び音声の内容に関するクイズや、学生によるプレゼンテーション等も実施する。	
			中国語Ⅱｉ（表現）		この授業は、1年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が入門～初級レベルのスピーキングやライティングのスキルを習得し、中国語で情報をアウトプットする能力を高めることを到達目標とする。挨拶や自己紹介、レストランやショッピングや旅行で使える初歩的なフレーズと基本表現、友人や教師との短文メール、地方ごとに異なる語彙のバリエーション等を取り上げる。教員による発音や語彙の解説のほか、活発な会話を促すためのゲームや、学生によるディスカッション、作文課題等も実施する。	
			中国語Ⅱｉ（総合）		この授業は、1年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が入門～初級レベルの中国語の４技能（読む・聞く・話す・書く）を駆使して情報収集やプレゼンテーションを行う実践的なスキルを習得することを到達目標とする。グループごとにテーマを設定して、文献調査やその他の様々な手段で情報を収集し、日本語および中国語でディスカッションする等のアクティブ・ラーニングを通じて、中国語と中国語圏に関する見識を深める。	

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
全学教養教育	共通科目	語学科目	中国語Ⅲｉ（文法）		（概要）この授業は、2年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が初級～中級レベルの文法の知識を習得することを到達目標とする。各種品詞の基本的用法（動詞述語文、形容詞述語文、アスペクト等）、存現文、連動文に加え、兼語文、各種補語（様態、程度、方向、結果、可能）の用法、簡単な複文等の事項を取り上げる。教員による語彙や文法解説のほか、学生同士のペアワークやグループワークによる発音練習、理解を深めるための練習問題や、習熟度を確認するための小テスト等も実施する。 （オムニバス方式／全30回） （14　上原　かおり／15回） 新出単語や語句、文法事項について詳細に解説し、練習問題を実施する。 （30　泉谷　陽子／15回） 既習の単語や語句、文法事項に関する練習問題を解きながら復習する。また、暗唱や会話練習などを実施する。	オムニバス方式
			中国語Ⅲｉ（理解）		この授業は、2年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が初級～中級レベルのリーディングやリスニングのスキルを習得し、中国語で情報をインプットする能力を高めることを到達目標とする。中国語圏の日常生活、文化や伝統、旅行先や観光地、音楽やスポーツやファッション等に関する説明文、童謡や簡単な流行歌、やや長めの私的なメール等を取り上げる。教員による文法や語彙の解説のほか、テキスト及び音声の内容に関するクイズや、学生によるプレゼンテーション等も実施する。	
			中国語Ⅲｉ（表現）		この授業は、2年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が初級～中級レベルのスピーキングやライティングのスキルを習得し、中国語で情報をアウトプットする能力を高めることを到達目標とする。家族や学校、趣味やアルバイトの話題、レストランやショッピングや旅行で使える基本表現と応用表現、日本文化を紹介するための表現、地方ごとに異なる表現のバリエーション等を取り上げる。教員による発音や語彙の解説のほか、活発な会話を促すためのゲームや、学生によるディスカッション、作文課題等も実施する。	
			中国語Ⅲｉ（総合）		この授業は、2年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が初級～中級レベルの中国語の４技能（読む・聞く・話す・書く）を駆使して情報収集やプレゼンテーションを行う実践的なスキルを習得することを到達目標とする。グループごとにテーマを設定して、文献調査やその他の様々な手段で情報を収集し、日本語および中国語でディスカッションする等のアクティブ・ラーニングを通じて、中国語と中国語圏に関する見識を深める。	
			中国語Ⅳｉ（文法）		（概要）この授業は、2年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が中級レベルの文法の知識を習得し、体系的な理解を深めることを到達目標とする。基本表現をはじめ、兼語文、受身表現、離合動詞、各種助詞、各種補語（様態、程度、方向、結果、可能）の用法、複文等の事項を取り上げる。教員による語彙や文法の解説のほか、学生同士のペアワークやグループワークによる発音練習、理解を深めるための練習問題や、習熟度を確認するための小テスト等も実施する。 （オムニバス方式／全30回） （79　伊藤　祥雄／15回） 新出の文法事項の詳細な解説と、それに関する筆記の練習問題を実施する。 （134　河野　正／15回） 既習の単語や語句、文法事項に関する練習問題を解きながら復習する。また、暗唱や会話練習などを実施する。	オムニバス方式
			中国語Ⅳｉ（理解）		この授業は、2年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が中級レベルのリーディングやリスニングのスキルを習得し、中国語で情報をインプットする能力を高めることを到達目標とする。中国語圏の美術・建築・映画等に関するエッセイ、ビジネスやテクノロジーに関する論説記事、公私の様々なシチュエーションでのメール等を取り上げる。教員による文法や語彙の解説のほか、テキスト及び音声の内容に関するクイズや、学生によるプレゼンテーション等も実施する。	
			中国語Ⅳｉ（表現）		この授業は、2年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が中級レベルのスピーキングやライティングのスキルを習得し、中国語で情報をアウトプットする能力を高めることを到達目標とする。食べ物や音楽や映画の好みを語り合うための表現、友人や教師との長文メール、日本の社会問題について説明するための表現等を取り上げる。教員による発音や語彙の解説のほか、活発な会話を促すためのゲームや、学生によるディスカッション、作文課題等も実施する。	
			中国語Ⅳｉ（総合）		この授業は、2年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が中級レベルの中国語の４技能（読む・聞く・話す・書く）を駆使して情報収集やプレゼンテーションを行う実践的なスキルを習得することを到達目標とする。個人またはグループでテーマを設定して、文献調査やその他の様々な手段で情報を収集し、可能な限り中国語で発表しディスカッションする等のアクティブ・ラーニングを通じて、中国語と中国語圏に関する見識を深める。	
			中国語Ⅴｉ（理解）		この授業は、3年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が中級～中上級レベルのリーディングやリスニングのスキルを習得し、中国語で情報をインプットする能力を高めることを到達目標とする。中国語圏の時事問題に関する新聞記事や報道番組、エンターテイメントやスポーツに関する評論やインタビュー記事、大衆向けの文学作品等を取り上げる。教員による文法や語彙の解説のほか、テキスト及び音声の内容に関するクイズや、学生によるプレゼンテーション等も実施する。	
			中国語Ⅴｉ（表現）		この授業は、3年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が中級～中上級レベルのスピーキングやライティングのスキルを習得し、中国語で情報をアウトプットする能力を高めることを到達目標とする。留学やビジネスシーンでの口語表現やメール、時事問題について自分の意見を論理的に述べるための表現等を取り上げる。教員による発音や語彙の解説のほか、活発な会話を促すためのゲームや、学生によるディスカッション、作文課題等も実施する。	

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
全学教養教育	共通科目	語学科目	中国語Ｖｉ（総合）		この授業は、3年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が中級～中上級レベルの中国語の４技能（読む・聞く・話す・書く）を駆使して情報収集やプレゼンテーションを行う実践的なスキルを習得することを到達目標とする。個人またはグループでテーマを設定して、文献調査やその他の様々な手段で情報を収集し、可能な限り中国語で発表しディスカッションする等のアクティブ・ラーニングを通じて、中国語と中国語圏に関する見識を深める。	
			中国語Ⅵｉ（理解）		この授業は、3年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が中上級～上級レベルのリーディングやリスニングのスキルを習得し、中国語で情報をインプットする能力を高めることを到達目標とする。中国語圏の政治・経済・社会問題に関する論文や学術的エッセイ、文学作品や文芸評論、上級者向けの歌や映画等を取り上げる。教員による文法や語彙の解説のほか、テキストや音声の内容に関するクイズや、学生によるプレゼンテーション等も実施する。	
			中国語Ⅵｉ（表現）		この授業は、3年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が中上級～上級レベルのスピーキングやライティングのスキルを習得し、中国語で情報をアウトプットする能力を高めることを到達目標とする。日本や世界の政治・経済・社会問題や、中国語圏の文学・芸術・歴史等に関する学術的なテーマを取り上げる。教員による発音や語彙の解説のほか、活発な会話を促すためのゲームや、学生によるディスカッション、作文課題等も実施する。	
			中国語Ⅵｉ（総合）		この授業は、3年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が中上級～上級レベルの中国語の４技能（読む・聞く・話す・書く）を駆使して情報収集やプレゼンテーションを行う実践的なスキルを習得することを到達目標とする。個人またはグループでテーマを設定して、文献調査やその他の様々な手段で情報を収集し、可能な限り中国語で発表しディスカッションする等のアクティブ・ラーニングを通じて、中国語と中国語圏に関する見識を深める。	
			海外語学実習（中国語）		この授業は、中国語全希望者を対象として、演習形式で実施される。受講生が入門～上級レベルの中国語各種技能を向上させ、現地での生活や文化に慣れ親しむことを到達目標とする。夏休みに3～4週間、中国または台湾の中国語研修プログラムに参加する。事前のレベルテストにより受講生にあったクラス（入門～上級）で学習する。現地での語学実習のほか、事前研修として教員による説明や質疑応答等を複数回行い準備をサポートする。また事後研修として、学生による報告発表会やディスカッション等も実施する。	
			韓国語Ⅰ（入門）		この授業は、韓国語の初学者を対象として、演習形式で実施される。受講生が入門レベルの文法・語彙の知識、発音の基礎、簡単な自己紹介、および韓国語圏の文化・社会に関する基礎知識を習得することを到達目標とする。ハングル文字と発音を繰り返し練習することで慣れていき、文法の基礎を習得するための練習問題のほか、クイズや学生同士のペアワークを取り入れながら、挨拶と自己紹介等の会話表現の練習も行う。また、教員が映像等を用いて韓国の歴史、文化、時事問題等を紹介する。	
			韓国語Ⅱｓ（文法）		この授業は、1年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が入門～初級レベルの韓国語文法の知識を習得し、体系的な理解を深めることを到達目標とする。初級レベルのテキストを使用し、発音の変化、動詞や形容詞の活用、時制や助詞等を取り上げる。自己紹介や日課、買い物等、簡単な日常会話や基本的な構文等、初級文法を理解し使えるようになる。教員による語彙や文法の解説のほか、学生同士のペアワークによる発音練習、テキストの内容に関する練習問題や小テスト等も実施する。	
			韓国語Ⅱｓ（理解）		この授業は、1年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が入門～初級レベルのリーディングやリスニングのスキルを習得し、韓国語で情報をインプットする能力を高めることを到達目標とする。挨拶や自己紹介のダイアローグ、レストランやショッピングでのダイアローグ、韓国語圏の生活慣習や食文化に関する短い説明文等を取り上げる。教員による文法や語彙の解説のほか、テキストおよび音声の内容に関するクイズや、学生によるプレゼンテーション等も実施する。	
			韓国語Ⅱｓ（表現）		この授業は、1年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が入門～初級レベルのスピーキングやライティングのスキルを習得し、韓国語で情報をアウトプットする能力を高めることを到達目標とする。簡単な挨拶や自己紹介、レストランやショッピングや旅行で使える初歩的なフレーズ、友人や教師との短文メール等を取り上げる。教員による発音や語彙の解説のほか、活発な会話を促すためのゲームや、学生によるディスカッション、作文課題等も実施する。	
			韓国語Ⅲｓ（文法）		この授業は、2年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が初級～中級レベルの韓国語文法の知識を習得し、体系的な理解を深めることを到達目標とする。初中級レベルのテキストを用いて、発音の変化、各種品詞の基本的用法、時制や助詞に加え、連体形や不規則用言等を学習することで、より長い文章に慣れる。教員による語彙や文法の解説のほか、学生同士のペアワークやグループワークによる発音練習、理解を深めるための練習問題や、習熟度を確認するための小テスト等も実施する。	
			韓国語Ⅲｓ（理解）		この授業は、2年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が初級～中級レベルのリーディングやリスニングのスキルを習得し、韓国語で情報をインプットする能力を高めることを到達目標とする。韓国の日常生活、文化と伝統、旅行先や観光地、音楽やスポーツやファッション等に関する説明文、童謡や簡単なK-POP等を取り上げる。教員による文法や語彙の解説のほか、テキストおよび音声の内容に関するクイズや、学生によるプレゼンテーション等も実施する。	
			韓国語Ⅲｓ（表現）		この授業は、2年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が初級～中級レベルのスピーキングやライティングのスキルを習得し、韓国語で情報をアウトプットする能力を高めることを到達目標とする。家族や学校、趣味やアルバイトの話題、レストランやショッピングや旅行で使える基本表現、日本の文化を紹介する表現等を取り上げる。教員による文法や語彙の解説のほか、活発な会話を促すためのゲームや、学生によるプレゼンテーション、作文課題等も実施する。	

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
全学教養教育	共通科目	語学科目	韓国語Ⅳｓ（文法）		この授業は、2年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が中級レベルの韓国語文法の知識を習得し、体系的な理解を深めることを到達目標とする。中級レベルのテキストを用いて、発音の変化や助詞、用言語尾の活用等を取り上げる。パンマルや間接話法等、ざまざまな表現を学習することで、中級文法を理解し使えるようになる。教員による語彙や文法の解説のほか、学生同士のペアワークやグループワークによる発音練習、理解を深めるための練習問題や、習熟度を確認するための小テスト等も実施する。	
			韓国語Ⅳｓ（理解）		この授業は、2年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が中級レベルのリーディングやリスニングのスキルを習得し、韓国語で情報をインプットする能力を高めることを到達目標とする。韓国の映画や美術等に関するエッセイ、時事問題に関する新聞記事、公私の様々なシチュエーションでのメール等を取り上げる。教員による文法や語彙の解説のほか、テキストおよび音声の内容に関するクイズや、学生によるプレゼンテーション等も実施する。	
			韓国語Ⅳｓ（表現）		この授業は、2年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が中級レベルのスピーキングやライティングのスキルを習得し、韓国語で情報をアウトプットする能力を高めることを到達目標とする。食べ物や音楽や映画の好みを語り合うための表現、友人や教師との長文メール、日本の社会問題について説明するための基本表現等を取り上げる。教員による発音や語彙の解説のほか、活発な会話を促すためのゲームや、学生によるディスカッション、作文課題等も実施する。	
			韓国語Ⅱｉ（文法）		（概要）この授業は、1年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が入門～初級レベルの韓国語文法の知識を習得し、体系的な理解を深めることを到達目標とする。初級レベルのテキストを使用し、発音の変化、時制、助詞と用言語尾の活用等を学習し基礎を固めていく。日常生活で必要とされる簡単な会話表現や基本的な構文等、初級文法を理解し使えるようになる。教員による語彙や文法の解説のほか、練習問題や習熟度を確認するための小テスト等も実施する。 （オムニバス方式／全45回） （3　金　香男／30回） 動詞の活用や新出の文法事項の用法などを解説した後、練習問題を解きながら、新しく学んだ文法事項の定着を図る。 （65　李　東憲／15回） 新出単語や動詞の活用など、発音に重点を置き授業を進める。また、簡単な会話の練習も行い、実践力を培うことを目指す。	オムニバス方式
			韓国語Ⅱｉ（理解）		この授業は、1年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が入門～初級レベルのリーディングやリスニングのスキルを習得し、韓国語で情報をインプットする能力を高めることを到達目標とする。自己紹介やショッピング、生活習慣や食文化に関する短い説明文等を取り上げ、辞書の使い方や漢字語にも慣れる。教員による文法や語彙の解説のほか、テキストおよび音声の内容に関するクイズや、学生によるプレゼンテーション等も実施する。	
			韓国語Ⅱｉ（表現）		この授業は、1年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が入門～初級レベルのスピーキングやライティングのスキルを習得し、韓国語で情報をアウトプットする能力を高めることを到達目標とする。挨拶や自己紹介、レストランやショッピングや旅行で使える初歩的なフレーズと基本表現、友人や教師との短文メール等を取り上げる。教員による発音や語彙の解説のほか、活発な会話を促すためのゲームや、学生によるディスカッション、作文課題等も実施する。	
			韓国語Ⅱｉ（総合）		この授業は、1年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が入門～初級レベルの韓国語の４技能（読む・聞く・話す・書く）を駆使して情報収集やプレゼンテーションを行う、実践的なスキルを習得することを到達目標とする。個人またはグループごとにテーマを設定して、文献調査やその他のさまざまな手段で情報を収集し、日本語および韓国語でディスカッションする等のアクティブ・ラーニングを通じて、韓国語力を向上させると同時に、韓国語圏に関する見識を深める。	
			韓国語Ⅲｉ（文法）		この授業は、2年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が初級～中級レベルの韓国語文法の知識を習得し、体系的な理解を深めることを到達目標とする。初中級レベルのテキストを使用し、発音の変化、各種品詞の基本的用法、時制や助詞に加え、連体形や不規則用言等を学習することで、より長い文章に慣れる。教員による語彙や文法の解説のほか、学生同士のペアやグループワークによる発音練習、理解を深めるための練習問題や、習熟度を確認するための小テスト等も実施する。	
			韓国語Ⅲｉ（理解）		この授業は、2年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が初級～中級レベルのリーディングやリスニングのスキルを習得し、韓国語で情報をインプットする能力を高めることを到達目標とする。韓国の観光地や世界遺産、音楽やスポーツやファッション等に関する説明文、童謡や簡単なK、やや長めの私的なメール等を取り上げる。教員による文法や語彙の解説のほか、テキストおよび音声の内容に関するクイズや、学生によるプレゼンテーション等も実施する。	
			韓国語Ⅲｉ（表現）		この授業は、2年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が初級～中級レベルのスピーキングやライティングのスキルを習得し、韓国語で情報をアウトプットする能力を高めることを到達目標とする。家族や学校、趣味やアルバイトの話題、レストランやショッピングや旅行で使える基本表現と応用表現、日本文化を紹介するための表現等を取り上げる。教員による発音や語彙の解説のほか、活発な会話を促すためのゲームや、学生によるディスカッション、作文課題等も実施する。	
			韓国語Ⅲｉ（総合）		この授業は、2年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が初級～中級レベルの韓国語の４技能（読む・聞く・話す・書く）を駆使して情報収集やプレゼンテーションを行う、実践的なスキルを習得することを到達目標とする。個人またはグループごとにテーマを設定して、文献調査やその他のさまざまな手段で情報を収集し、日本語および韓国語でディスカッションする等のアクティブ・ラーニングを通じて、韓国語力を向上させると同時に、韓国語圏に関する見識を深める。	

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
全学教養教育	共通科目	語学科目	韓国語Ⅳｉ（文法）		（概要）この授業は、2年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が中級レベルの韓国語文法の知識を習得し、体系的な理解を深めることを到達目標とする。中級レベルのテキストを使用し、発音の変化や助詞、用言語尾の活用等を取り上げる。パンマル、受身と使役、直接話法と間接話法等、ざまざまな表現を学習することで、高度な韓国語を理解し使えるようになる。教員による語彙や文法の解説のほか、学生同士のペアやグループワークによる発音練習、理解を深めるための練習問題や、習熟度を確認するための小テスト等も実施する。 （オムニバス方式／全30回） （65　李　東憲／15回） 　動詞の活用や新出の文法事項の用法などを解説した後、練習問題を解きながら、新しく学んだ文法事項の定着を図る。 （100　荻野　優子／15回） 　中級文法の事項を確実に定着させるために、学習者のつまづきやすいポイントを明示し、自立した学習が可能となる学習態度を育成する。また、学生同士のピアラーニングも行い、実践力を培うことを目指す。	オムニバス方式
			韓国語Ⅳｉ（理解）		この授業は、2年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が中級レベルのリーディングやリスニングのスキルを習得し、韓国語で情報をインプットする能力を高めることを到達目標とする。韓国の映画・美術・建築等に関するエッセイ、ビジネスやテクノロジーに関する記事、公私の様々なシチュエーションでのメール等を取り上げる。教員による文法や語彙の解説のほか、テキストおよび音声の内容に関するクイズや、学生によるプレゼンテーション等も実施する。	
			韓国語Ⅳｉ（表現）		この授業は、2年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が中級レベルのスピーキングやライティングのスキルを習得し、韓国語で情報をアウトプットする能力を高めることを到達目標とする。食べ物や音楽や映画の好みを語り合うための表現、友人や教師との長文メール、日本の社会問題について説明するための応用表現等を取り上げる。教員による発音や語彙の解説のほか、活発な会話を促すためのゲームや、学生によるディスカッション、作文課題等も実施する。	
			韓国語Ⅳｉ（総合）		この授業は、2年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が中級レベルの韓国語の４技能（読む・聞く・話す・書く）を駆使して情報収集や、プレゼンテーションを行い、実践的なスキルを習得することを到達目標とする。個人またはグループごとにテーマを設定して、文献調査やその他のさまざまな手段で情報を収集し、日本語および韓国語でディスカッションする等のアクティブ・ラーニングを通じて、韓国語力を向上させると同時に、韓国語圏に関する見識を深める。	
			韓国語Ⅴｉ（理解）		この授業は、3年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が中級～中上級レベルのリーディングやリスニングのスキルを習得し、韓国語で情報をインプットする能力を高めることを到達目標とする。韓国の時事問題に関する新聞記事や報道番組、エンターテイメントやスポーツに関する評論やインタビュー記事、大衆向けの文学作品等を取り上げる。教員による文法や語彙の解説のほか、テキストおよび音声の内容に関するクイズや、学生によるプレゼンテーション等も実施する。	
			韓国語Ⅴｉ（表現）		この授業は、3年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が中級～中上級レベルのスピーキングやライティングのスキルを習得し、韓国語で情報をアウトプットする能力を高めることを到達目標とする。留学やビジネスシーンでの口語表現やメール、時事問題について自分の意見を論理的に述べるための表現等を取り上げる。教員による発音や語彙の解説のほか、活発な会話を促すためのゲームや、学生によるディスカッション、作文課題等も実施する。	
			韓国語Ⅴｉ（総合）		この授業は、3年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が中級～中上級レベルの韓国語の４技能（読む・書く・聞く・話す）を駆使して研究やプレゼンテーションを行う実践的なスキルを習得することを到達目標とする。個人またはグループごとにテーマを設定して、文献調査やその他のさまざまな手段で情報を収集し、日本語および韓国語でディスカッションする等のアクティブ・ラーニングを通じて、韓国語力を向上させると同時に、韓国語圏に関する見識を深める。	
			韓国語Ⅵｉ（理解）		この授業は、3年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が中上級～上級レベルのリーディングやリスニングのスキルを習得し、韓国語で情報をインプットする能力を高めることを到達目標とする。韓国の政治・経済・社会問題に関する論文や学術的エッセイ、文学作品や文芸評論、上級者向けの歌や映画等を取り上げる。教員による文法や語彙の解説のほか、テキストおよび音声の内容に関するクイズや、学生によるプレゼンテーション等も実施する。	
			韓国語Ⅵｉ（表現）		この授業は、3年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が中上級～上級レベルのスピーキングやライティングのスキルを習得し、韓国語で情報をアウトプットする能力を高めることを到達目標とする。日本や世界の政治・経済・社会問題や、韓国の文学・芸術・歴史等に関する学術的なテーマを取り上げる。教員による発音や語彙の解説のほか、活発な会話を促すためのゲームや、学生によるディスカッション、作文課題等も実施する。	
			韓国語Ⅵｉ（総合）		この授業は、3年次生を対象として、演習形式で実施される。受講生が中上級～上級レベルの韓国語の４技能（読む・書く・聞く・話す）を駆使して研究やプレゼンテーションを行う実践的なスキルを習得することを到達目標とする。個人またはグループごとにテーマを設定して、文献調査やその他のさまざまな手段で情報を収集し、日本語および韓国語でディスカッションする等のアクティブ・ラーニングを通じて、韓国語力を向上させると同時に、韓国語圏に関する見識を深める。	
			海外語学実習（韓国語）		この授業は、韓国語全希望者を対象として、演習形式で実施される。受講生が入門～上級レベルの韓国語各種技能を向上させ、現地での生活や文化に慣れ親しむことを到達目標とする。夏休みに3週間、韓国での韓国語研修プログラムに参加する。事前のレベルテストにより受講生にあったクラス（入門～上級）で学習する。現地での語学実習のほか、事前研修として教員による説明や質疑応答等を複数回行い準備をサポートする。また事後研修として、学生による報告発表会やディスカッション等も実施する。	
			イタリア語Ⅰ（基礎）		この授業は演習形式で実施される。受講生が入門レベルのイタリア語の文法・語彙の知識、発音と簡単な会話表現、およびイタリアの文化・社会に関する基礎知識を習得することを到達目標とする。文法の解説や練習問題のほか、学生同士のペアワークやグループワークを取り入れながら、挨拶、自己紹介、レストランやショッピングでのやり取り等の会話表現の実践的な練習も行う。また、イタリアの歴史・芸術・食文化等に関する情報にも触れ、イタリア語の文化的背景についての理解も深める。	

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
全学教養教育	共通科目	語学科目	イタリア語Ⅱ（文法）		この授業は演習形式で実施される。受講生が初級レベルのイタリア語の文法の知識を習得することを到達目標とする。規則活用動詞と不規則活用動詞、直接目的語・間接目的語代名詞、近過去、半過去、再帰動詞、比較級、命令法、未来形等の事項を取り上げる。教員による文法解説のほか、理解を深めるための練習問題や、習熟度を確認するための小テスト等も実施する。また、イタリアの歴史・芸術・食文化等に関する情報にも触れ、イタリア語の文化的背景についての理解も深める。	
			イタリア語Ⅱ（理解）		この授業は演習形式で実施される。受講生が初級レベルのイタリア語のリーディングやリスニングのスキルを習得することを到達目標とする。挨拶や自己紹介のダイアローグ、レストランやショッピングでのダイアローグ、イタリアの生活習慣や食文化に関する短い説明文、友人との簡単なメール等を取り上げる。文法や語彙の解説のほか、テキストの内容に関するクイズや、学生によるプレゼンテーション等も実施する。また、イタリアの歴史・芸術・食文化等に関する情報にも触れ、イタリア語の文化的背景についての理解も深める。	
			イタリア語Ⅲ（理解）		この授業は演習形式で実施される。受講生が初級～中級レベルのイタリア語の文法の知識とリーディングやリスニングのスキルを習得することを到達目標とする。イタリアの観光地や世界遺産、音楽やスポーツやファッション等に関する説明文、童謡や簡単な流行歌、やや長めの私的なメール等を取り上げる。教員による文法や語彙の解説のほか、テキストの内容に関するクイズや、学生によるプレゼンテーション等も実施する。また、イタリアの歴史・芸術・食文化等に関する情報にも触れ、イタリア語の文化的背景についての理解も深める。	
			イタリア語Ⅲ（表現）		この授業は演習形式で実施される。受講生が初級～中級レベルのイタリア語のスピーキングやライティングのスキルを習得することを到達目標とする。家族や学校や趣味やアルバイトの話題、レストランやショッピングや旅行で使える基本表現と応用表現、日本文化を紹介するための表現等を取り上げる。教員による発音や語彙の解説のほか、活発な会話を促すためのゲームや、学生によるディスカッション等も実施する。また、イタリアの歴史・芸術・食文化等に関する情報にも触れ、イタリア語の文化的背景についての理解も深める。	
			イタリア語Ⅳ（理解）		この授業は演習形式で実施される。受講生が中級レベルのイタリア語のリーディングやリスニングのスキルを習得することを到達目標とする。イタリアの美術・建築・映画等に関するエッセイ、ビジネスやテクノロジーに関する論説記事、公私の様々なシチュエーションでのメール等を取り上げる。教員による文法や語彙の解説のほか、テキストの内容に関するクイズや、学生によるプレゼンテーションや等も実施する。また、イタリアの歴史・芸術・食文化等に関する情報にも触れ、イタリア語の文化的背景についての理解も深める。	
			イタリア語Ⅳ（表現）		この授業は演習形式で実施される。受講生が中級レベルのイタリア語のスピーキングやライティングのスキルを習得することを到達目標とする。食べ物や音楽や映画の好みを語り合うための表現、友人や教師との長文メール、社会問題について意見を述べるための表現を取り上げる。教員による発音や語彙の解説のほか、活発な会話を促すためのゲームや、学生によるプレゼンテーションやディスカッション等も実施する。また、イタリアの歴史・芸術・食文化等に関する情報にも触れ、イタリア語の文化的背景についての理解も深める。	
			ラテン語Ⅰ（文法）		この授業では、古代ローマ時代から近世まで使用され、現代の欧州諸語や学問・文化・キリスト教に多大な影響を及ぼしてきたラテン語の基礎を学ぶ。受講生がこの言語の概要を理解し、入門レベルの文法の知識を習得することを到達目標とする。文字・発音・語順、動詞の現在形・未完了過去形・未来形、第1～第3変化名詞、第1・第2変化形容詞等の事項を取り上げる。教員による文法解説のほか、理解を深めるための練習問題や、習熟度を確認するための小テスト等も実施する。	
			ラテン語Ⅱ（文法）		この授業では、「ラテン語 Ⅰ」に引き続き、ラテン語の基礎を学ぶ。受講生がこの言語の文化的背景を理解しながら、初級レベルの文法の知識を習得することを到達目標とする。動詞（接続法まで）、名詞（第5変化まで）、形容詞（第3変化）のほか、命令形、比較級・最上級、関係代名詞、受動文、分詞、動名詞、間接話法、条件文等の事項を取り上げる。教員による文法解説のほか、理解を深めるための練習問題や、習熟度を確認するための小テスト等も実施する。	
			ラテン語Ⅲ（読む）		この授業では、「ラテン語 Ⅰ・II」で習得した文法知識と、この授業で新たに習得する文法知識を用いて、『新約聖書』（ラテン語訳）やその他の古典的なテキストを講読する。受講生がこの言語の文化的背景を理解しながら、初級～中級レベルの読解力を習得することを到達目標とする。主として『ヨハネによる福音書』や『カルミナ・ブラーナ』等の一部を取り上げる。教員による文法や語彙の解説のほか、テキストの内容に関するクイズや、学生によるプレゼンテーションやディスカッション等も実施する。	隔年
			ラテン語Ⅳ（読む）		この授業では、「ラテン語 I～III」で習得した文法知識と、この授業で新たに習得する文法知識を用いて、『新約聖書』（ラテン語訳）やその他の古典的なテキストを講読する。受講生がこの言語の文化的背景を理解しながら、中級レベルの読解力を習得することを到達目標とする。主として『ルカによる福音書』や『ガリア戦記』等の一部を取り上げ、正確な音読や日本語訳の練習を重ねる。教員による文法や語彙の解説のほか、テキストの内容に関するクイズや、学生によるプレゼンテーションやディスカッション等も実施する。	隔年
			古典ギリシア語Ⅰ（文法）		この授業では、欧州の学問や文化の源流である古代ギリシア文明の言語であり、また『新約聖書』の言語でもある古典ギリシア語の基礎を学ぶ。受講生がこの言語の概要を理解し、入門レベルの文法の知識を習得することを到達目標とする。書き方と読み方の基礎、動詞変化の基礎（現在直説法能動相、未来直説法能動相、未完了過去直説法能動相）、名詞変化の基礎（第1変化、第2変化）等の事項を取り上げる。教員による文法解説のほか、理解を深めるための練習問題や、習熟度を確認するための小テスト等も実施する。	隔年
			古典ギリシア語Ⅱ（文法）		この授業では、「古典ギリシア語 Ⅰ」に引き続き、古典ギリシア語の基礎を学ぶ。受講生がこの言語の文化的背景を理解しながら、初級レベルの文法の知識を習得することを到達目標とする。アオリスト直説法能動相、現在完了・過去完了直説法能動相、各種の代名詞の用法と格変化、不規則動詞（eimi, phemi）の用法、直説法中動相・受動相の動詞活用等の事項を取り上げる。教員による文法解説のほか、理解を深めるための練習問題や、習熟度を確認するための小テスト等も実施する。	隔年

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
全学教養教育	共通科目	語学科目	古典ギリシア語Ⅲ（読む）		この授業では、「古典ギリシア語 Ⅰ・II」で習得した文法知識と、この授業で新たに習得する文法知識を用いて、『新約聖書』のテキストを講読する。受講生がこの言語の文化的背景を理解しながら、初級～中級レベルの読解力を習得することを到達目標とする。『フィリピ人への手紙』、『マタイによる福音書』、『ヨハネによる福音書』等の一部をテキストとして取り上げる。教員による文法や語彙の解説のほか、テキストの内容に関するクイズや、学生によるプレゼンテーションやディスカッション等も実施する。	隔年
			古典ギリシア語Ⅳ（読む）		この授業では、「古典ギリシア語 I～III」で習得した文法知識と、この授業で新たに習得する文法知識を用いて、『新約聖書』のテキストを講読する。受講生がこの言語の文化的背景を理解しながら、中級レベルの読解力を習得することを到達目標とする。主として『ルカによる福音書』の一部をテキストとして取り上げ、正確な音読や日本語訳の練習を重ねる。教員による文法や語彙の解説のほか、テキストの内容に関するクイズや、学生によるプレゼンテーションやディスカッション等も実施する。	隔年
			日本語Ⅰ		日本語を学びたいと考える人々は世界中で年々増え続けている。その人々に日本語を教えるためには、日本語が話せる、学校文法を知っているだけでは不十分で、普段何気なく使用している日本語を意識的に捉え直し、客観的に説明できるようにする必要がある。そこで、この授業科目では、日本語を客観的に考察し、どのようなしくみで語や文が作られているのかなど、詳細な分析を行う経験を積み、日本語の音、語や文のしくみなどを客観的に捉える視点を獲得することを目的とする。日本語の発音、文字のしくみと成り立ち、名詞や動詞の語形成、談話分析、敬語などの日本語を分析する上での初歩的なテーマを中心に取り上げて理解を深めていく。	
			日本語Ⅱ		自然に習得し、これまで使用してきた日本語を意識的に捉え直し、客観的に説明できるようにするために開講されている「日本語Ⅰ」の応用編がこの授業の位置づけである。日本語学習者が発音しにくい音、アクセントの地域差、世界の言語と日本語、借用語、助詞の役割、動詞の活用と種類などのテーマを中心に取り上げ、日本語のしくみへの理解を深めていくことを目的とする。多くの受講生にとっての母語である日本語に対して、その体系や特徴を客観的に捉える視点を身につけることは、日本語学習者への日本語指導の際に役立つことはもちろん、諸外国の言語を新たに学習する際に比較の視点をもちながら学ぶことができ、よりよい学習に繋がる。	
	PA（パフォーミングアーツ）		ＰＡヴォーカル		歌唱の基本として、姿勢（体幹）、表情をベースにノンバーバルコミュニケーション力を修得し、「声」の特色である「高低・大小・早さ・間・音質」を根拠に楽譜から内面を捉える力も身につける。更に発声法を学ぶだけではなく、身体の共鳴箇所により内容伝達に差異が生じることを認識し、歌唱表現の完成を目指すことは勿論、日常においての表現力向上も目指す。呼吸法においては血流、脳内分泌の向上が顕著に現れることから学習意欲にも確実に影響を及ぼす。そして歌唱表現は言語、歴史、文化を学ぶことになるため、多岐に渡る知識実践にも繋がり、個人的に反復指導を受ける効果は大いに期待される。	
			ＰＡ鍵盤楽器		鍵盤楽器演奏法の基礎として、楽譜の読み方、指の使い方をなど学び、経験者でも気付かないポイントを個々に指摘指導し、西洋音楽を体験、実践する。各作曲家の言語から表出される表現、歴史、文化を学ぶことになるため、多岐に渡る知識実践にも繋がる。身体表現運動は血流、脳内分泌の向上が顕著に現れることから学習意欲にも確実に影響を及ぼす。そして内容表現、鍵盤に対する繊細な指のタッチによる音色の変化を追求することは、表現力、感性の育成だけではなく、自己肯定感、問題解決能力（ＰＢＬ）を養い、個人的に反復指導を受ける効果は大いに期待される。	
			ＰＡ弦楽器		弦楽器演奏法の基礎として、楽譜の読み方、指の使い方をなど学び、経験者でも気付かないポイントを個々に指摘指導し、西洋音楽を体験、実践する。各作曲家の言語から表出される表現、歴史、文化を学ぶことになるため、多岐に渡る知識実践にも繋がる。表現運動は血流、脳内分泌の向上が顕著に現れることから学習意欲にも確実に影響を及ぼす。そして内容表現、弦に対する繊細な弓のタッチによる音色の変化を追求することは、表現力、感性の育成だけではなく、自己肯定感、問題解決能力（ＰＢＬ）を養い、個人的に反復指導を受ける効果は大いに期待される。	
			ＰＡ管楽器		管楽器演奏法の基礎として、楽譜の読み方、指の使い方をなど学び、経験者でも気付かないポイントを個々に指摘指導し、西洋音楽を体験、実践する。各作曲家の言語から表出される表現、歴史、文化を学ぶことになるため、多岐に渡る知識実践にも繋がる。呼吸法においては血流、脳内分泌の向上が顕著に現れることから学習意欲にも確実に影響を及ぼす。そして内容表現、マウスピースコントロールによる音色の変化を追求することは、表現力、感性の育成だけではなく、自己肯定感、問題解決能力（ＰＢＬ）を養い、個人的に反復指導を受ける効果は大いに期待される。	
			ＰＡ打楽器		打楽器演奏法の基礎として、楽譜の読み方、腕の使い方（脱力、重心）をなど学び、経験者でも気付かないポイントを個々に指摘・指導し、西洋音楽を体験、実践する。各作曲家の言語から表出される表現、歴史、文化を学ぶことになるため、多岐に渡る知識実践にも繋がる。身体リズム表現運動は血流、脳内分泌の向上が顕著に現れることから学習意欲にも確実に影響を及ぼす。そして内容表現、音色の変化を追求することは、表現力、感性の育成だけではなく、自己肯定感、問題解決能力（ＰＢＬ）を養い、個人的に反復指導を受ける効果は大いに期待される。	
			ＰＡ制作		音楽制作の基礎として、作編曲の基礎とこれに関連する分野の知識実践を学び、楽譜の読み方から始めることから、経験者までポイントを個々に指摘・指導し、音楽制作を体験、実践する。想像力を求められることから表現、歴史、文化を学ぶことになるため、多岐に渡る知識実践にも繋がる。そして内容表現、音形、音色の変化を追求することは、表現力、感性の育成だけではなく、自己肯定感、問題解決能力（ＰＢＬ）を養うことから学習意欲にも確実に影響を及ぼし他の多くの授業科目に好影響を与える。	
			ＰＡアンサンブル１		小編成のアンサンブルを各楽器演奏法の基礎も学びつつ、楽譜の読み方から始める未経験者だけでなく経験者にポイントを個々に指摘指導し、西洋音楽を体験、実践する。各作曲家の言語から表出される表現、歴史、文化を学ぶことになるため、多岐に渡る知識実践にも繋がる。身体表現運動は血流、脳内分泌の向上が顕著に現れることから学習意欲にも確実に影響を及ぼす。そして内容表現、音色の変化など、ディスカッションにより追求することは、表現力、感性の育成だけではなく、自己肯定感、問題解決能力（ＰＢＬ）、コミュニケーション能力を養い、更に個人的に反復指導を受けることにより、これらの技術向上効果は大いに期待される。	

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
全学教養教育	ＰＡ（パフォーミングアーツ）	ＰＡアンサンブル２		中編成のアンサンブルを各楽器演奏法の基礎も学びつつ、楽譜の読み方から始める未経験者だけでなく経験者にポイントを個々に指摘指導し、西洋音楽を体験、実践する。各作曲家の言語から表出される表現、歴史、文化を学ぶことになるため、多岐に渡る知識実践にも繋がる。身体表現運動は血流、脳内分泌の向上が顕著に現れることから学習意欲にも確実に影響を及ぼす。そして内容表現、音色の変化など、ディスカッションにより追求することは、表現力、感性の育成だけではなく、自己肯定感、問題解決能力（ＰＢＬ）、コミュニケーション能力を養い、更に個人的に反復指導を受けることにより、これらの技術向上効果は大いに期待される。	
		ＰＡ舞台芸術１		声や身体アンサンブルの基礎を学びつつ、未経験者だけでなく経験者までポイントを個々に指摘指導し、西洋音楽、表現を体験、実践する。各作曲家の言語から表出される表現、歴史、文化を学ぶことになるため、多岐に渡る知識実践にも繋がる。身体表現運動は血流、脳内分泌の向上が顕著に現れることから学習意欲にも確実に影響を及ぼす。そして内容表現など、ディスカッションにより追求することは、表現力、感性の育成だけではなく、自己肯定感、問題解決能力（ＰＢＬ）、社会活動で即実践できるコミュニケーション能力を養い、更に個人的に反復指導を受けることにより、これらの技術向上効果は大いに期待される。	
		ＰＡ舞台芸術２		身体表現、アンサンブルの基礎を学びつつ、基礎が確実に実行可能となるポイントを個々に指摘指導し、西洋音楽、表現を体験、実践する。各作曲家の言語から表出される表現、歴史、文化を学ぶことになるため、多岐に渡る知識実践にも繋がる。身体表現運動は血流、脳内分泌の向上が顕著に現れることから学習意欲にも確実に影響を及ぼす。そして内容表現など、ディスカッションにより追求することは、表現力、感性の育成だけではなく、自己肯定感、問題解決能力（ＰＢＬ）、社会活動で即実践できるコミュニケーション能力を養い、更に個人的に反復指導を受けることにより、これらの技術向上効果は大いに期待される。	
		ＰＡ舞台芸術３		身体表現、アンサンブルの基礎を学びつつ、難易度の高い身体表現もチャレンジを促し、ポイントを個々に指摘・指導し、西洋音楽、表現を体験、実践する。各作曲家の言語から表出される表現、歴史、文化を学ぶことになるため、多岐に渡る知識実践にも繋がる。身体表現運動は血流、脳内分泌の向上が顕著に現れることから学習意欲にも確実に影響を及ぼす。そして内容表現など、ディスカッションにより追求することは、表現力、感性の育成だけではなく、自己肯定感、問題解決能力（ＰＢＬ）、社会活動で即実践できるコミュニケーション能力を養い、更に個人的に反復指導を受けることにより、これらの技術向上効果は大いに期待される。	
	日本語科目及び日本事情に関する科目	大学で学ぶ日本語Ⅰ		大学に入学して留学生がまず直面するのはアカデミックな日本語に不慣れなことである。日本語能力は比較的高くても、大学での専門的な授業を理解し、コメントシートやレポートなどの課題提出に困難を抱えるケースが多く見られる。そこで、この授業では、アカデミックな日本語のリスニング、ライティングのスキルの向上を目的とする。講義内容や発表のポイントを正確に聞き取り、日本語でノートを整理する練習や、グラフや表を表現するための日本語を習得し、適切に発表できるようにする練習、自分の意見をまとめる練習、アカデミックなレポートを作成する練習などを行う。これらを通じて、アカデミックな日本語能力の獲得に繋げていく。	
		大学で学ぶ日本語Ⅱ		全体的に日本語能力は高いが、学生によっては技能別で得意・不得意があり、特定の日本語能力の向上がうまく行えていない場合も見受けられる。この授業では、個々の学生の学習状況を踏まえ、テキストを使用したり、グループ活動を行ったりしながら、「読む」、「書く」、「聞く」、「話す」の４技能をバランスよく伸ばすことを目的とする。また、日本語能力試験Ｎ１相当の文法や語彙も取り上げ、文法項目を活かした文章作成の練習なども取り入れ、総合的に高度な日本語運用能力を身につける。	
		日本事情Ａ		多くの留学生は、日本に居住していながらも、日本人と日本語を用いて活動を共にする経験が少ないというのが現状である。そこで、この授業では、留学生と日本人学生によるグループ活動を取り入れながら授業を展開していく。日本に関わる文献から、日本の社会や文化、歴史などを理解し、フィールドワーク等を行うことで具体化を図る。また、学修内容についてのディスカッションや、プレゼンテーションを行うことで、日本語の運用の能力を向上させる。	
		日本事情Ｂ		多くの留学生は、日本に居住していながらも、日本人と日本語を用いて活動を共にする経験が少ないというのが現状である。そのため、この授業では、留学生と日本人学生との混合グループで行い、日本社会や日本文化の理解を深め、課題や問題を発見し、考察した内容をプレゼンテーションで発表することで、交渉力や協調性を養い、他者理解や自己理解を深めるものである。また、総合的に日本語運用能力を向上させていくことも目的としている。	

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
学科専門科目	文化表現基礎科目	学科の学び	○	（概要）基幹教員がオムニバス形式で担当する講義である。本学科のヨーロッパ・アメリカ、日本・アジア、音楽・身体表現という3分野を、また文化・社会、芸術表現、言語表現、文学表現、音楽表現、身体表現という本学科カリキュラムの諸領域を、立体的に横断するような履修イメージあるいは計画を新入生各自が構想することが目的である。 （オムニバス方式／全15回） （17　木水　千里／1回） 　フランス文化：絵画や写真などの図像作品に見出される衣服に注目し、フランスで育まれた芸術文化の特質を学ぶと同時に、各時代に特有の美意識や身体観を学び、物事を複合的に捉える視点を培う。 （15　遠藤　健太／1回） 　スペイン語圏文化：スペイン語圏諸国の人種・民族的な多様性のありようと、その歴史的・社会的背景を論じ、その多様性のありようが、これら諸国の音楽文化等においてどのように反映・表象されているかを考察する。 （18　小泉　泉／1回） 　アメリカ文化：特にアメリカに深く根付く人種問題について取り上げ、その中で育まれてきた伝統的なキルト文化などの意義について考えていく。また、一大文化を築きあげたディズニー文化の裏側からも現代アメリカ社会について掘り下げてみる。 （10　向井　秀忠・11　由井　哲哉／1回）（共同） 　イギリス文化：イギリス社会における階級・人種などの問題について意識的になり、一般的に流布しているステレオタイプ（紳士、紅茶など）にとらわれない視点からイギリスについて調べ、考えられるようにする。 （8　藤巻　光浩／1回） 　表象文化論入門：文化について学ぶためには、なぜ表現されたモノに着目すべきなのか、その社会的意義と歴史的経緯について説明する。 （2　勝田　耕起／1回） 　日本語学：日本語学の研究分野と、日本語を考える際の外国との史的つながりについて概観する。 （9　松田　浩・13　井内　健太／1回）（共同） 　日本文学・文化：日本における古典文学のうち、古代（奈良～平安時代）に成立したものを中心に取り上げる。作品の読解を通して、背景にある時代の思想、習俗、文化に関する基礎知識を身につけながら、個々の作品の魅力に触れるとともに、日本古典文学の特質について理解する。 （12　吉田　弥生・22　平井　裕香／1回）（共同） 　日本文学・文化：日本文学・文化：19世紀以降に成立した日本文学・文化の特徴を学び、作品の社会背景や外国文学・文化との影響関係等についても複合的にとらえる視野を培う。 （20　宋　晗・14　上原　かおり／1回）（共同） 　漢・中国文化：東アジア全域に受容された漢文学と、それを古典として形成された中国文化それぞれの特徴を学び、東アジアの文化や、東アジアと日本の関係について複合的に捉える視野を培う。 （3　金　香男／1回） 　韓国文化：「韓流」は文化的ブームにとどまらず、韓国のブランド・イメージの向上などを生み出したが、それはなぜ可能だったのかを、グローバル化と文化がもつ社会的影響力について理解する。 （5　武井　涼子／1回） 　音楽ビジネス：アートマネジメントの初歩として、コンサートとはどのようなビジネスであるのかを、クラシックの演奏会を例として事業収支の観点から理解する。 （6　土屋　広次郎・19　次郎丸　智希／1回）（共同） 　欧米芸術音楽：主に主要イタリア声楽作品、ドイツ声楽と器楽作品を紹介し、ポップス楽曲の表現とクラシックの誇大・内面表現方法やの差異を理解し、芸術的な音楽表現を学ぶ。 （16　川本　聡胤／1回） 　ポピュラー音楽：J-POP、ロック、ジャズ、フォーク、ヒップホップ、EDM、レゲエ、ボサノバ・・・世界にあふれる多様なポピュラー音楽につき、その音楽と歴史について考察し、特徴を理解する。 （21　中西　宣人／1回） 　音楽とクリエーション： 　サウンドデザインや音に関するプロダクト開発など、現代の音・音楽分野における幅広い創造の在り方について学び、分野を横断する表現活動を行うため知識を身につける。 （4　高橋　京子／1回） 　身体表現：普段の生活で使っている様式化されない身体表現である手振り、身振り、表情について知り、さらに様式化された身体表現である舞踊、ここではバレエについて考えてる。	オムニバス方式・共同（一部）主要授業科目

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
学科専門科目	文化表現基礎科目	導入ゼミ	○	この科目は、大学での学びを自分自身の自由な選択と責任によって進めるために必要となる知識や技能を身につけることを目的として、全新入生が1年次前期に履修する演習科目である。図書館等における資料検索の方法、PC・ICTに関するリテラシー、プレゼンテーション資料作成や発表の方法、レポートや論文等の文章作成のための基礎知識、就学と同時進行的なキャリア形成に向けての意識など、大学生活の充実のために必要な知識やスキルを理解・体得する。	主要授業科目
		欧米文化表現入門	○	この講義では欧米、特にイギリス・アメリカの文化について、平易な文学作品や身近な事象・問題の読解・考察を通じて入門的な知見を得ることを目的とする。イギリス・アメリカ・現代欧米文化の3クラス展開とし、それぞれルイス『ナルニア国年代記』などのファンタジー作品、『赤毛のアン』のような児童文学、およびインディアンロゴ論争のような社会的事例の分析を通じて、文化とは何か、それはどのように表現されるか、その可能性・問題点は何か、などについて学び、考える。	主要授業科目
		日本・アジア文化表現入門	○	この講義では、文学研究のための様々な手法について学修する。各講師の専門分野に応じて、作品を読み解きながら、具体的に作品について分析し、鑑賞する。日本やそれを含むアジア地域で文学が生み出された背景となる社会・歴史・文化の特性を理解したうえで、文学研究の視点を身につける。また、個々の文学作品を味読することを通して作品の魅力に触れ、日本・アジア文化表現の分野に対する興味関心をより一層高めることを目指す。	主要授業科目
		音楽・身体表現入門	○	これは予備知識のない新入生を対象として想定した講義科目である。世界の音楽および舞踊などの身体表現に関する入門的知識を修得する。音楽については、現代のポップ・カルチャーに深く浸透し、それと融合しているアメリカ・イギリスのポピュラー音楽と、文学と融合した19世紀以降のクラシック歌曲作品を学ぶ。身体表現に関しては、非言語コミュニケーションとしての身体表現について、また様式化された世界中の様々な舞踊について、学ぶ。	主要授業科目
		基礎ゼミ	○	この科目は入門的な専門研究演習である。1年次後期から2年次後期にかけて学期ごとにそれぞれ異なる教員のクラスを各学生が選択して履修する。文化・社会、芸術表現、言語表現、文学表現、音楽表現、身体表現という本学科カリキュラムの諸領域を立体的に横断しつつ、調査・研究・制作・発表・議論・フィードバックという学術活動を入門的かつ継続的に体験し、3年次以降の専門ゼミⅠ・Ⅱおよび卒業研究における研究イメージを具体的に構想する。	主要授業科目
	文化表現基幹科目	イギリス研究入門	○	本講義は小説・演劇・詩など文学作品との関連においてイギリスの歴史・社会・文化・思想・宗教・ジェンダーなどのありかたを概観する。16世紀から21世紀までを扱い、宗教改革と英語聖書の流通、ギリシア・ローマ古典や大陸ルネサンス作品の翻訳・翻案の流行、演劇の隆盛、内乱や名誉革命とそれらに伴う思潮の変化、産業革命以降の工業化・資本主義化、中産階級の台頭、19世紀末の退廃と審美主義、20世紀の英国病とサッチャリズムなど、社会的・政治的・文化的諸事象を横断しつつ、イギリスという国の全体像をとらえる。	主要授業科目
		アメリカ研究入門	○	この講義では、児童文学としてもよく知られる19世紀のいくつかの重要な作品（例えば『若草物語』や『アンクル・トムの小屋』など）を取り上げ、原文の英語表現も参照しながらこれらの作品を適切に理解し、その内容と意義について考察していく。これらの初期（19世紀）の作品を丁寧に読み解き、文学作品を味わうことを通して、「アメリカ」という国における人種、ジェンダー、階級、多文化主義などの基礎的な知識をを習得し理解を深めることを目指す。	主要授業科目
		フランス研究入門	○	この講義では、ヨーロッパで近代化が推し進められた19世紀以降、フランスで生まれ、周辺諸国に影響を及ぼした絵画や建築、ファッション、工芸、舞踊、写真、映画など、さまざまなジャンルの作品を取り上げる。それらを、文化的・社会的背景や歴史的背景に照らしながら鑑賞・分析することで、近現代のフランスで育まれた芸術文化の特質や多様性を理解する。また、ヨーロッパや日本を含むアジア諸国とフランスが築いた相互的な交流についても学び、国際的な視野を培う。	主要授業科目
		ドイツ研究入門		ドイツとドイツ語圏の歴史や文化、思想を取り上げ、特に中世からロマン文学作品とロマン派音楽との結びつきを中心に学ぶ。マルクス、ニーチェ、フロイトの思想や、ドイツ文学の代表的な詩人であるハイネ、ホフマン、ブレヒトを知り、ゲーテ作品の「野ばら」にシューベルトとウエルナーが作曲した作品を題材に比較研究など、それぞれの系譜をここで整理し、ドイツ（語圏）入門として授業を行い、ヨーロッパ中に広まったロマン主義の系譜を学ぶ。	
		スペイン語圏研究入門	○	この授業では、スペイン語圏の国々の歴史や文化・社会の基本的な特色について初学者向けに講じる。具体的には、ラテンアメリカ諸国やスペインの音楽・映画・美術・文学・食文化等を取り上げ、それらの歴史的・社会的な背景を論じる。初めて触れる異文化は容易に理解したり共感したりできない場合が多く、理解や共感に至るためにはコンテクストを学ぶなどの努力を要する。受講者がそのことを理解し、「わからないもの」に時間をかけて向き合うという学びの姿勢と、他者とのコミュニケーションの基礎となる異文化リテラシーを習得することを、この授業の到達目標とする。	主要授業科目
		中国研究入門	○	本講義では近現代中国の文芸作品を取り上げ、社会的・政治的・文化的背景を踏まえた鑑賞・分析を通じて、中国という国の基礎的な知識を得ることを目的とする。また、映画、連環画、漫画、アニメ、ゲームなどの関連メディア作品も取り上げることで、近現代中国の文化表現についての理解を深める。中国は、ウエスタン・インパクト、半植民地化、戦争、革命、改革開放、グローバル化などを経験した。これらの歴史を踏まえ、伝統と同時代性・異文化との対話や、相互的な伝播・波及など、中国と諸外国との繋がりについても考える。	主要授業科目
		韓国研究入門	○	戦後、韓国は短期間に経済発展を成し遂げ「圧縮成長」を経験し、現在は世界中で韓流ブームと同時に「Kカルチャー」が注目されている。その一方でグローバル化と格差問題、少子高齢化、教育費の負担、移民や外国人の増加など、日本と共通する課題も多く抱えている。この授業は講義形式で進めるが、配布資料のほか映画やドキュメンタリーなどを用いて、歴史・政治・社会・文化などについて多角的な視点から検討する。韓国という国の基礎的な知識を得るとともに理解を深め、視野を広げていくことを目指す。	主要授業科目
		東アジアの文字と文化	○	本来は古代中国語を表記した文字である漢字は、発生地（黄河流域）を超えて東アジア（日本・朝鮮半島・ベトナム）に広がり、やがて各地固有の文字と文化の発達の土台となった。この講義では、特に古代中国と日本の文字・文化を中心に、それらの構造や歴史的な変遷、特色、表現性についての知識を習得することにより、国際社会に通用する素養の一つとしての東アジアの文字世界の基礎的理解を深め、また日本の文字・文化の特性を多角的に捉える思考力の涵養を目指す。	主要授業科目

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
学科専門科目	文化表現基幹科目	コミュニケーション文化論		本講義においては、国民国家の誕生後、いかに「国民」や「民族」という属性やその文化がコミュニケーションを通して生まれたのかを学んでゆく。具体的には、国語や記念日の制定、トラウマの集合的記憶、ミュージアム展示やテーマパークにおける他者像などが含まれる。人の移動に伴い異文化と接触したことの記憶やそこで生じた他者イメージなどに着目し、現代における「ナショナル・アイデンティティ」や「エスニック・アイデンティティ」にどのように接続されてきたのかを講義する。	
		英語学研究入門	○	この講義では、英語にまつわる素朴な疑問を取り上げ、これまでの言語研究から明らかになった事実を紹介しながら、言語学（英語）研究への興味を喚起する。その際、英語という言語をより理解していくために、さまざまな角度からのアプローチを試みる（英語の音声・音韻、文法の仕組み、歴史的変遷、国際共通語としての実態など）。また、言語研究、英語学の知見をどのように活用していけるかということを考えながら、英語学習・教育へのヒントを模索することを目的とする。	主要授業科目
		Pronunciation Clinic		英語の音声の仕組みについて知識と技能を高める演習科目である。テキストおよび音声・映像教材を使用し、音声英語音声学に基づく母音・子音の聞き分けや発音、国際発音記号（IPA）の読み書き、音の連結や子音の結合、ストレス・リズム・イントネーションなどについて理論的・実践的に学ぶ。英語によるコミュニケーション・プレゼンテーション能力および各種英語資格試験におけるリスニング・スピーキングのスコアの向上をめざす。	
		Academic Skills		この演習科目は、多様なマルチメディアソース（ビデオ、インターネット、印刷物、音声）を活用して、学生たちの英語によるコミュニケーションを促進することを目的とする。授業では、特定の言語スキル（聞く・話す・読む・書く）だけでなく、情報の分析・整理・要約などの様々なアカデミックスキルの統合的な強化にも焦点を当てる。授業の教材は、様々なトピックから選ばれ、学生は自分の興味に基づいてトピックをより理解するためのディスカッションやプレゼンテーションを行う。また、小グループ活動/プロジェクトを通じて、より多くのアウトプットの機会を増やしていく。	
		日本語学概論	○	日本語を様々な角度から観察し、主にその構造面、すなわち仕組み・運用規則を探る視点を教授する。受講生にとって内省の利く現代日本語を主な対象として、音声・音韻、文法、語彙、文字表記の分野ごとに基礎的な概念を紹介し、客観的、体系的にことばが把握できるようになることを到達目標とする。それらを踏まえて、日本語教育との関係や、話し言葉・書き言葉といった文体的な差異、年齢や職業による位相差についても言及する。また、言語の史的変化や方言についても概説し、時間的・空間的にさまざまな「日本語」が存在していることについての理解を深める。	主要授業科目
		文章表現法		主に中学校・高等学校の国語科教員免許の取得を目指す学生を対象に、自分の考えをわかりやすく伝えるための論理的な文章の書き方を教授する。受講生が指定の字数で作成した文章を、全員で共有して表現について議論（推敲）するという実践的演習形式の授業である。具体的には、接続表現、係り受け、事実部分と意見表明部分との書き分け、要約の方法、敬語表現などに注意しながら、読み手にスムーズに違和感なく伝わる文章の作成方法を身につける。	
		イギリス文学史	○	本講義では詩・演劇・小説の3つのジャンルを中心にイギリス文学の歴史を概観する。文学作品は作家個人によってだけ書かれたものではなく、彼らが生きた時代の影響を大きく受けてもいる。ゆえに（特に）各時代の文学思潮、社会、文化等に触れながら、特に16世紀から21世紀までの代表的な作家について、またその作品について多角的に理解する。教材には教科書のほか、英語原文や日本語訳、各種映像作品などを活用し、歴史上の名作としてではなく、各時代に楽しまれた、あるいは現代においても楽しめる、生きた作品として文学にふれる感覚を養う。	主要授業科目
		アメリカ文学史	○	この授業では、アメリカの文学作品を時代の変遷とともに追い、作品が書かれたそれぞれの地域、社会の様相の違いを通して、「アメリカ」という国を理解していくことを目指す。植民地時代から現代に至るアメリカ文学史を、特に重要な作家と作品を取り上げながら概観し、短い歴史の中で発展してきたアメリカ社会と文学作品との関わりを理解していく。また、それぞれの作者が生きた時代、社会の特徴を捉えて、その時代の人々の「心」の様子を探っていく。これらの理解を通して、「アメリカ」という国の知識を深め、広く国際社会の様相や問題点に対する視野を広げていくことを目指す。	主要授業科目
		日本古典文学概論	○	この講義では、日本における古典文学の歴史を概観する。韻文・散文・演劇などの多様なジャンルを横断しながら、それぞれの時代における作品の享受やメディアの在り方、美術・工芸などの文学作品に近接する文化領域といった同時代の歴史的・社会的背景について理解したうえで、文化史上における位置づけを学ぶ。また、個々の文学作品の解説を通して、各時代における文学史上の主要な概念やジャンルごとの文学の展開の過程を詳解する。	主要授業科目
		日本近現代文学概論	○	この講義では、明治維新（1868）から昭和中期まで、およそ120年の文学を近現代文学とみなし、小説を中心にして、それぞれの時期を代表する作者・その作品を取り上げる。概説的に紹介するだけでなく、適宜原文を引用し、小説の形式・内容が鮮明な形を獲得し、洗練されてゆく過程を学生とともに考える。また、短歌・俳句・自由詩などの韻文、文学と映画のメディアミックスなどにも触れ、様々なベクトルが融合して発展してゆく近現代文化を俯瞰する視野を学生に身に付けさせる。	主要授業科目
		古典読解の基礎		この講義では、日本における古典文学作品の文章を読むにあたって、基礎となる文語の文法事項を理解し、知識をもとに正確な読解へと結びつけることのできる能力を修得する。敬語や助動詞・助詞といった特に重要となる事項を中心に、古典文法の体系について解説を通して理解を深め、それらの知識を実際に運用しながら古典の文章を読解する練習を繰り返す。最終的には、現代語訳に頼ることなく、古典の文章を読み解くことができるようになることを目指す。	
		文学理論の基礎		この講義ではポスト構造主義、フェミニスト批評などの批評理論の流派について学び、その上で、具体的な作品について、表現技法やコンテクストを学生が自ら分析し、批評的な読解を行う思考力を身に付けさせる。取り上げる作品は、小説に限定せず、絵画・映画・映像・マンガ・評論など、読み手の側の解釈が可能となる媒体も含む。この講義を通じ、文学理論を学生がレポートや卒業論文を作成する際に活用し、さらに卒業後は、社会の様々な言説を読み解くために活用できることが目標である。	
		演劇論の基礎		演劇とは、文芸・美術・音楽・舞踊からなる総合芸術である。また、演技者・場・劇作術・観客という4つの要素をもって成り立つものである。この講義では、この4要素にもとづき、演じる身体（非言語）と脚本（言語）の関わり、演劇の場としての劇場の歴史と構造、演技術としての仮面と化粧、越境するジェンダー等について考察する。また、古今東西の劇作家および批評家の言説から演劇がなにを目的に、どのように創造されてきたか、その表現芸術の影響のゆくえ等について確認し、演劇に関わる論の生成を追跡し、演劇論の基礎を学習する。	

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
学科専門科目	文化表現基幹科目		欧米芸術入門		この講義では、14世紀のイタリア・ルネサンス以降21世紀までのヨーロッパおよびアメリカの視覚・映像芸術について、主題・媒体・様式・技術・受容などの諸相およびその変化とともに理解し、鑑賞する。 ルネサンスから19世紀象徴主義までの絵画史、 18世紀の産業革命以降20世紀にかけての芸術・デザイン・写真と社会の関係、および20世紀アメリカ・ハリウッドにおける映画産業の歴史的展開に関して、それぞれ入門的な知見を得る。	
			欧米芸術音楽	○	この講義では、欧米（西洋）音楽の歴史を社会背景とともに学ぶ。主にルネサンス期のキリスト教歌唱楽曲に始まり、バロック期の器楽の発展に伴い生まれた名曲と当時の貴族社会を学び、フランス革命の頃の古典時代における女性の描かれ方、ロマン派ではキリスト教から個人への啓蒙、近現代では世界大戦の中での心の描写や世情を交えながら、社会の中の女性に焦点をあて、演奏や映像を視聴しつつ、単なる説明に終わらない、イノベーションに繋がる思考を促す。	主要授業科目
			日本の音楽		この講義では、雅楽や声明に始まり現代までの日本の音楽伝統音楽について学ぶ。後の中世音楽である謡曲、そして女性が演じた阿国から歌舞伎への変遷を学び、宣教師の影響と開国による近代西洋文化が入ってきた横浜での音楽にも触れる。日本の伝統音楽の衰退と西洋音楽の発展として、瀧廉太郎、山田耕筰の流れから古賀政男の大衆歌謡、歌謡曲そしてJ-POPへ発展を遂げるが、歌舞伎から宝塚歌劇団への変遷にも触れ、履修生に興味があるジャンルに関連づけ、日本の音楽を理解する。	
			欧米音楽入門１（理論）	○	ヨーロッパやアメリカ、それに日本やその他世界各国で発展してきた、クラシック音楽やポピュラー音楽は、共通の理論体系を基礎として作られている。この講義ではこれらの共通音楽言語となる「楽典」と呼ばれる楽譜にまつわる各種のルールを知識として身につけ、音名・音程・和音・音階・調性、そして音楽基礎用語などに関する基礎的な理論を習得し、多様なジャンルに対応できる可能性が広げられるように音楽の実践力を身につける。	主要授業科目
			欧米音楽入門２（ソルフェージュ）		この実習科目の「入門」クラスでは音楽の基礎知識、読譜能力などを身に付ける。譜面を正しく記し、また読み取ることも目的とし、リズム、音程を段階的に学ぶ。楽典や記譜等の基礎知識を確認する簡単な実力確認から始め、４～８小節程度の単旋律を聴き取って楽譜に書く作業をする。「基礎」クラスでは、２声の和声問題（進捗状況が良ければ３声に進む）の新曲視唱・視奏を行い、簡単な重唱譜面を理解し、作曲（編曲）法にも触れる。	
			欧米音楽入門３（実践）	○	これは合唱とピアノを扱い、西洋音楽の演奏基礎を学ぶ複数クラスの実習科目である。演奏表現の体験・修得から、以降に履修する音楽・身体表現専攻すべての科目の理解深化が期待される。授業は１対１の個人指導ではなく、グループでおこなう。合唱では基礎的な発声方法を学び、また日本、バロック、ロマンの楽曲演奏によりお互いの声を聴き合い、姿勢や表情を確認しあう。ピアノにおいては、履修者の技量にあわせ、読譜力、リズム感、メロディ・ハーモニーに対する理解を向上させる。	主要授業科目
			音楽とクリエーション入門		本演習では、「音楽」x「クリエーション」をテーマとし、既存の分野にとらわれず、新たな音や音楽、表現の分野を開拓し、創造するための基礎知識を身につけ、技術を習得する。講義内では、音や音楽にまつわるデザインの知識、音楽テクノロジーに関する知識とプログラミング技術、音や音楽を作るためのコンテンツ制作技術を包括して学ぶ。これらの分野を横断的に学ぶことで、多角的な視点から音や音楽を捉える感覚を養い、様々な企画を論理的に提案するための基礎力を身につける。	
			音楽とビジネス入門		この講義では音楽業界における様々な業態のビジネスモデルを理解する。ビジネス、つまり経営の仕組みや、実業を行う会社や団体の構造と、それらの組織の中にどのような役割があるかを知る。第4次産業革命によりビジネスの在り方も世界規模で大きく変革しているなか、この授業では、ことにデジタル化の影響を大きく受けている音楽業界を題材に、最新のビジネスの基本について学びつつ、変わりゆく業界の構造と、その中で必要とされる業務上の役割について紐解く。	
			アジアの身体表現	○	本演習は、アジアに伝承される身体表現について、理論と実践を通して学ぶものである。アジアと言っても、そこには日本の民俗舞踊、1960年代に日本で発生した舞踏、インドのマーシャルアーツなど、多種多様な身体表現が現存する。一般にアジアの身体表現は「腰を落とした」動作が特徴と考えられ、田畑を耕し、地上に愛着をもってきた農耕民族にルーツがあるともいわれる。日本では、和装により下半身の動きが制限されることで、上半身の動作が発達したとも考えられる。このような文化的背景を、身体を通して実践的に学んでいく。	主要授業科目
	文化表現発展科目	ヨーロッパ・アメリカ	欧米芸術と文学		古代ローマ以来〝sister arts〟と呼ばれ、たがいに関係するものととらえられてきた絵画と詩（あるいは広く文学作品）の両者を扱う講義科目である。神話・聖書などからの同一主題を扱う芸術・文学作品の類似と差異、絵画を文学的に表現するエクフラシス、文学を題材とする芸術および芸術を題材とする文学、芸術家であり詩人でもある作家や芸術家のモデルである詩人の登場など、多彩な角度から欧米芸術・文学の相関関係について学ぶ。	
			イギリス文学	○	宗教改革およびルネサンスを見た初期近代16世紀以降21世紀までのイギリス小説・演劇・詩を扱う講義科目である。小説クラスでは18世紀の勃興以降多様化する諸作品を扱い、階級・ジェンダーなどの社会問題とともに考察する。演劇クラスでは、シェイクスピア作品をとりあげ、テクストに加え映像教材も使用しながら、内容・思想・上演形態・時代背景などについて理解を深め、主体的に鑑賞する。詩クラスでは、16世紀から20世紀までの社会や思潮の変化を詩形・主題・文体などの変化とともに理解する。	主要授業科目
			アメリカ文学	○	作者の出自（人種）や地域によって異なるさまざまなアメリカの文学作品を読み、それぞれの作品の特色的な要素を捉えながら、作品に親しむことを目的とする演習科目である。時代・社会背景を理解するとともに、それらが作者・内容・テーマとどのように関わっているかについて、問題意識を持って考察していく。授業は、発表形式で進められ、ディスカッションを通して互いに考察を深め、作品とともに「アメリカ」という国の歴史、社会、文化の理解を深めることを目指す。	主要授業科目
			フランス文化論		今日、多くの人がフランスの首都パリについて、芸術やファッションと結びついたイメージを共有しているが、そうした都市イメージはいかにして形成されたのか。この講義では、近代以降のフランスの美術やファッションを、各時代の芸術潮流や社会背景に照らし合わせながらひも解き、パリという都市の表象の歴史的変遷を検討する。それと同時に、私たちを取り巻く社会や、そこに現れた文化的事象を読み解く複合的な視点を培うことも目標とする。	

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
学科専門科目	文化表現発展科目	ヨーロッパ・アメリカ	ラテンアメリカ文化論		この授業は、ラテンアメリカ地域に関する基礎的な知識をすでに習得している学生を対象として、この地域の文化に関する専門的なテーマについて講じる。具体的には、ラテンアメリカ諸国の音楽・映画・美術・文学・食文化等を取り上げ、それらを特に各国の「人種」「民族」問題と関連づけて論じる。受講生が、ラテンアメリカ地域の文化的な多様性と人種・民族的な多様性の関連を理解したうえで、この地域における「多文化主義」の特色に関する知識を習得することを、この授業の到達目標とする。	
			性愛文化論		性愛とは、生物学的真実ではなく、実は様々なメディアに埋め込まれたコミュニケーションによって構築されていることを、歴史や文化規範のでき方を学ぶことで明らかにする。つまり異性愛が決して客観的な真実ではなく、社会的な構築物であることを示し、批評のための着眼点や方法論、そしてその思想について学ぶ。また、性愛の社会構築性のみならず、そこで発動し得る社会通念やイデオロギーなどを相対化し、批判的にとらえることの可能性と意義を学ぶ。	
			テクスト文化論		本講義では、現代における表現文化を読み解くための視点や方法論を身につける。具体的には、様々なメディアの中に埋め込まれた作品や、注目を集めた文化現象が対象となる。ここでの方法論は、作品や文化現象を、社会通念やテクノロジー、コンテンツや文脈などの複数の要素が寄せ集められたテクストとして位置づけるものである。履修者は豊富な事例を通して学び、複数回、実際に対象となるものに解釈を加え批評を書く課題に取り組む。	
			英語テクスト分析		小説（短編）、評論・エッセイ、新聞や雑誌の記事やインタビュー、演劇作品（の場面）、詩や歌詞、研究書（の一部）や論文など、1セメスターで扱える長さの英語テクストをとりあげ、内容・語彙・文体・構成・音韻・トーンなど、さまざまな角度からそれらを分析する演習科目である。クラスや題材によって多少はあるが、精読・発表・実演・議論などの活動を通じて主体的に、また実践的に諸領域の英語テクスト読解能力の向上を図る。	
			英語学		この講義では英語がどのような言語なのかを言語学的視点から学ぶとともに、言語全般に関する分析力を身につける。特に、英語の音声研究（音声学／音韻論）・語の研究（形態論）・文法研究（統語論）を扱い、あわせてそれらの成り立ち（英語史）にも触れる。また、英語についての理解をより深めるために、日本語との比較も取り入れる。英語学習者／教授者／使用者として必要な英語についての知識と、それを実際に生かす応用力を修得する。	
			英語の歴史		現在の共通語である英語には1500年以上の歴史がある。この講義ではその歴史を辿りつつ各時代に見られる特徴や変化を考察する。歴史的に英語を捉えることで、現在の英語圏におけるコミュニケーションや言語を用いた各種表現のありかたに関する洞察を身につける。各授業では古英語期のイギリスから現代のアメリカやオーストラリアまで、それぞれの時代・地域の英語の特徴や変化を社会的・政治的背景とともに概観する。あわせて実際の英文に触れ、その特徴や変化に関する簡単な調査を行う。	
			第二言語習得論（英語）	○	この講義では、第二言語習得にまつわるいくつかの理論や仮説を概観しつつ、より効果的な英語学習・教育とは何かを模索していく。また言語習得・学習の過程に影響を及ぼす様々な要因を考察することによって、英語学習者としての今後の展望についても考えていく。その際、これまでの外国語学習体験をさまざまな観点から再検討し、より客観的に分析・評価する姿勢を養っていく。特に後半では、情動面における学習者要因（言語不安、自信、動機づけなど）に焦点を当て、より自律的な学習とは何かという点も検討していきたい。	主要授業科目
			Thought and Expression in English		この演習科目では、日本文化の背後にある一般的なテーマや概念を、日本以外の人々の視点を通じて探究する。主要な概念としては、甘え、遠慮、察し、表/裏などが含まれる。異文化遭遇の例証的な説明やエピソードを参照しながら、私たちの文化的な前提や規範を内省的かつ批評的に検討する。日本人でない人々の日本及びその文化についての見解を英語で理解することで、私たちの日本文化を違った角度から見つめ直すことができる。異文化間コミュニケーションにおける問題や困難点の解決策を見つけるための基礎として、私たち自身の文化的行動パターンの理解を深める。	
			Advanced English Skills		発展的な英語運用能力を身につけるための演習科目である。英語ネイティヴ（あるいは同等レベルの）教員によるイマージョン環境における4クラスを展開する。Focus on Listening and Readingではクラス内外の多聴多読演習および指導により、英語のインプット・スキルを向上させる。Academic WritingおよびCreative Writingクラスでは、それぞれ英語圏留学において必要な、あるいは創造的・想像的な、英語作文能力を、知識・実践両面からの指導を通じて身につける。Business Communicationのクラスは商社・観光・各種サービス・エアラインなど国内外仕事の現場で求められる英語に特化して実践的な知識と運用能力を身につける。	
			翻訳（英文和訳作成）		この演習科目では、日本語訳のない難易度中程度の多様な英語テクストの英英辞書使用による翻訳演習をくり返すことにより、また同じく多様な文体・トーンの日本語文章を多く読むことにより、正確かつクリエイティヴな英語読解力と日本語表現力を身につける。新聞記事・エッセイ・TV番組や映画などのスクリプト・短編小説・詩や歌詞・広告やキャッチコピーなど多岐にわたる英語素材を扱い、その発想や表現の豊かさ・自由さ・日本語との違いを理解する。	
			通訳（英語・日本語）		この演習科目は、通訳という職に関する理解・関心を深めるとともに、その実践に必要な各種技能を習得することを目標とする。同時に、広く英語・日本語における瞬発な運用能力を向上させるため、以下のような活動をとり入れる。（1）文法・語彙など英語の基礎の確認、（2）シャドーイング・リプロダクション・ディクテーション、（3）サイトトランスレーション、（4）英語・日本語の暗誦、（5）通訳に必要な発声方法の指導、（6）通訳演習。	
		日本・アジア	書道		主に中学校の国語科教員免許の取得を目指す学生を対象に、楷書・行書を中心とした漢字書法の基本、仮名書法の基本を教授する。古典の名跡の臨書を通して基本技法の修得と理解とを図る実習的授業で、成績評価基準としては、清書課題の提出、授業時に積極的に添削指導を受けること、能動的に合評に参加すること、などが挙げられる。教室外学習方法として美術館・博物館に出掛けて作品鑑賞レポートを作成することを勧め、教室内外で文字文化の伝承について考える機会を与える。	
			日本語の歴史	○	日本語を、主に時間的「変異」面から把握することを目標とする。「現代日本語」には過去の変化の結果が残存しており、また現在の言語体系も常に変化の余地を持つ存在であることを理解する。具体的には、音韻史、文法史、語彙史、文字史に分けて、それぞれの代表的事象を紹介しつつ現代の言葉の様相がどのように成立したのか把握できるようにする。特に高等学校までの古典学習の対象外である中近世の口語を充分に提示し、上代から現代までの連続性の中に変遷が見いだせるようにする。	主要授業科目

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
学科専門科目	文化表現発展科目	日本・アジア	日本語学演習		中世・近世の写本や版本の影印をテキストにし、受講者は割り当てられた担当範囲の語句について日本語学的な研究報告を行う。その際、本文の自立語については語形と語義（一般的意味と文脈における解釈）の正確な把握に努め、漢字の音訓・異体字などは、節用集や倭玉篇などの古辞書を利用しつつ徹底追究する。付属語についてはwebで公開されているコーパス等も利用しつつ多くの用例を収集し、そこからその時代の用法を帰納して記述するような研究態度を養う。	
			日本古典文学演習		この演習では、受講者による口頭発表とそれに対する質疑応答とを行い、日本における古典文学を精読する。発表に際しては、先行研究・諸注釈書・データベース・索引などのツールを用いた資料調査を実地で体験することで、文学研究の方法を習得する。また、研究史上の問題点の理解、作品の表現についての分析、歴史的・社会的・思想史的背景の検討、関連する文学作品との比較などを通じて、作品を多角的な視点から読解できるようになる。	
			日本近現代文学演習		近現代小説を精確に読み、多角的に論じることを目的とし、作品の構造やテーマ、表現技法などを掘り下げ、それらを背景とした文学史的な変遷や作家の背景、思想などについても、学生の理解を深めさせる。取り上げる作品は、教員がリストアップしたもの（夏目漱石・太宰治・川端康成らの小説、文芸批評など）の中から学生が主体的に選択し、演習発表では、学生間の綿密なディスカッションを通じて、発表者・聴講者双方の自己表現力・論理的思考力を養う。	
			日本語学特講		この講義では、日本語学の基礎的概念を踏まえた上で、特にマンガやアニメを資料として、現代日本語を観察する。執筆された時代の口語・俗語が小説等より豊富に含まれており、絵による描写によってその言葉の用いられた文脈・状況がより把握しやすくなっていることが期待される。作中で用いられる俗語以外のものでは、近年「役割語」と定義できるものの研究が盛んだが、それに該当しない文語・古語・俚言なども観察されるので、それらが担う表現効果をも明らかにしつつ、現代日本語による多様な表現を体系的に把握する。	
			日本古典文学特講		この講義では、日本における上代から近世までの古典文学研究からいくつかの論点を取り上げて講義する。作品の精読と並行して、歴史的・社会的・思想史的背景の解説や他の文献（同時代の文学作品や歴史書・記録・漢籍・仏典などの様々なテクスト）との比較といった様々な研究のアプローチを紹介する。それによって、個々の作品の表現・主題・思想・他作品との影響関係などを把握し、その文学的特質や文学史上の位置づけについて理解を深める。	
			日本近現代文学特講		この講義では、近現代文学の主な小説家・詩人の作品を取り上げ、要所を味読するとともに、周辺資料（当時の文化や政治情勢を反映する新聞記事など）をふまえつつ、作品それぞれの文学史的意義を確認する。そうした作品理解を通じて、近現代に当たる明治・大正・昭和各時期の作家と、作者を取りまく社会が抱えている諸問題の意味について考える。また、近現代文学の享受の媒体として重要だったジャーナリズムの役割に関する基礎知識も学ぶ。	
			日本伝統文化論	○	この講義では、日本伝統文化、特に伝統芸能について学ぶ。世界無形文化遺産に認定された能・狂言、文楽、歌舞伎の成り立ちと展開を知り、基礎知識を身につける。なかでも成立した近世期以来、流行を摂取し大衆に応える創造を行い、現代を生きるエンターテインメントであり続ける歌舞伎について、作品の種類や特色などを詳しく学習する。文学や絵画、落語などの話芸、現代エンタメ等との交流、影響関係についても考察し、国際社会における可能性を探究する。	主要授業科目
			日本表象文化論	○	日本の表象文化としての宝塚歌劇を中心に考察する。宝塚歌劇は、商業演劇、エンターテインメントであるとともに、その成立から「少女歌劇」系芸態の演劇と位置づけられる。本講義では、女性芸能者の歴史について知識をつけることからはじめ、近代化のなかで生まれた女歌舞伎や娘義太夫について、また「少女」文化について考え、宝塚歌劇や松竹歌劇など少女歌劇の誕生と形成について学ぶ。その後の宝塚歌劇の発展史と演劇としての特色を追究する。	主要授業科目
			日本言語表現論		この講義では、表現者の視点から、論文とは異なる文章（短編小説などの文学作品）を書く方法について学ぶ。少ない字数のものから長めのものまで段階的に、各種の作品の人物描写・語りの展開の方法などについて考察し、またグループ合評をすることで理解を深める。あわせて、作品を支え、その魅力を可視化しながら書籍化する編集という行為、モノとしての書籍、文学作品や雑誌を取り巻く文化的状況、さらに書籍の種類・内容（単行本・辞典・文庫など）についても概観し、日本語による現代の文章表現文化の実際を体感する。	
			東アジア文学論		東アジア諸国（日中韓ベトナム）は、漢文という知的財産を共有している。この講義では漢文を切り口に、古典時代の各国文学に関する基礎的知識を身に付け、異文化理解の土台となる柔軟な思考力を養う。具体的には、妖怪や神仙が登場する代表的なフィクションや、各国の知識人が作った漢詩などを取り上げる。また、漢文を共有していた各国が、近代以降にそれぞれ固有の文化を育んでいったことについても学び、東アジア諸国の文化の異同を理解する。	
			漢文学概論		この講義では、中国現存最古の詩集『詩経』から近代の魯迅まで、3,000年に及ぶ中国文学の歴史を概観する。概説的に文学史の流れを理解するだけでなく、李白・杜甫の詩や、『西遊記』など、歴代の名作（またはその名場面）を精読し、表現を味わいつつ、その具体的な変化をたどる。また、外国である中国の文学史を学ぶ意味についても、7世紀以降の日本文化との密接な関わり合いを学び、東アジア世界における日本と中国の関係について複眼的に考える。	
			漢文学演習		この演習では、受講生の語彙力・思考力の向上を目標に、発表を主な授業の形態として漢詩文の丁寧な読解を実施する。高校教育の場で受講生が接した『史記』『論語』『桃花源記』などといった名作を、辞書・注釈書・研究論文を参照しつつ読み解く力を身に付ける。また、そうした名作が日本に受容された結果、日本語には漢語や漢文的な言い回しなどが摂取されたのだが、そうした、現代の日本語文に名残をとどめている要素について理解を深める。	
			中国文化論		同様に西洋の近代思想や近代科学・技術の影響をうけながら、中国は日本とは異なる政治・経済システムを模索し、文芸もまた異なる発展を見せた。本講義では、近現代中国の文芸作品を取り上げ、文芸運動、政策、制度、国民教育、科学技術の発展などを踏まえて分析するとともに、文化表現活動の活性化や停滞、発展や衰退をもたらす要因についても考察する。また、中国における中国現代文学史や周辺ジャンルの発展史の書かれ方や書き換えにも着目し、文化表現に対する評価の変化についても理解を深める。	

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
		日本・アジア	韓国文化論		誰もが何らかの家族に関する経験をもっているだけに、家族を相対的にとらえることは案外難しいかもしれない。社会変化と個人の生き方が多様化するなか、家族はさまざまな問題に直面している。本講義では、韓国文化とくに家族やジェンダーを中心に社会学的視点から検討する。諸外国（東アジア、欧米）との比較から家族の歴史性や社会文化的背景を理解し、現代社会における個人・家族・親密圏を取り巻く状況について理解を深めていく。	
		音楽・身体表現	欧米音楽１（理論）	○	欧米の音楽の中でもポピュラー音楽は最大の市場規模を誇る。また音楽的にもジャズやロック、ブラックミュージックやEDMだけではなく、それぞれが無数のサブジャンルに枝分かれし、なおかつ世界に飛び火して、日本でもJ-POPやJ-ロックなどなど、実に多様な発展をしてきている。その多様性について理解を深めるため、この講義では音楽のメロディ、コード、リズム、テクスチャー、サウンドといった各種の要素に光を当て、詳しく研究する。必要に応じて関係するクラシック音楽やその他のジャンルについても光をあてる。	主要授業科目
			欧米音楽２（実践）	○	この実習科目では合唱の実技を通じて歌唱だけではなく高度な表現を要する楽曲と演奏実践を学ぶ。ルネサンス時代のキリスト教音楽からアルネセンのような現代キリスト教合唱音楽や現代詩人をテキストにした欧米近現代作品を取り上げ、合唱歌唱法のヴォーチェディフィンテ基本発声を学び、和声や音階の変遷を体得し、根幹にある思想と歴史文化を理解し、アンサンブルによる歌唱表現を実践すると共に、抑圧された情動ではない表現方法についても考え、学ぶ。	主要授業科目
			欧米音楽３（実践上級）		この演習科目では、オペラやミュージカル、ないしはバンド演奏の基礎演奏技術を習得したのち、実際にステージ上で演奏を行い、公開するための心理やパフォーマンス方法、聴衆への演奏効果、特に「伝え方」「魅せ方」を学生同士のディスカッションを通して実践的に学ぶ。実際に大勢の前で所作演技・演奏する上で必要な高度な知識と技術を習得することにより、グローバルな視点でヨーロッパ・アメリカの楽曲の内容や表現のありかたを深く理解する。	
			ソングライティングとアレンジメント		この演習科目では、欧米音楽を学んできた実践として、初歩的な作曲や編曲を試みる。音楽の基礎的な理論や和声やコードの理論を学び、歌曲などの旋律や歌詞を分析したことを活かしていく。更に楽器の特性を活かすオーケストレーションや楽器ごとの記譜の仕方、歌唱の声部や音域・音質についても学ぶ。既存の様式の知識を活かしつつも、独創的な制作を目指していく。完成した楽曲の表現効果についてフィードバックをすることにより、マーケティングや心理、音楽療法などの多岐にわたる視野も身につける。	
			コンサート		この実習科目では、欧米音楽や歌唱表現の科目等でこれまで学んできた知識や表現を舞台上で実際に実践する。そして社会性に通じるステージマナーだけではなく、周囲とのアンサンブル（協働）にて社会的コミュニケーション力も同時に学ぶ。また、個人ではなく集団で客席に向かって感情表現をすることは羞恥心、自己否定を乗り越えるきっかけとなり、表現力を向上させることから、授業で取り上げる楽曲は、ジャンルに捉われることなく多様な表現実践が可能な曲を取り上げる。	
			アンサンブル		この演習科目では、ピアノ、声楽、弦楽器、管楽器などにてアンサンブル共演を学ぶ。デュオ、三重奏、四重奏、ピアノアンサンブル（連弾、2台ピアノ）など履修者によって編成、楽曲を決め、レッスン形式の演習により履修者のスキルに合わせた技術、様式の指導を行う。お互いの演奏楽器と楽曲分析（演奏解釈）について理解を深めるためにディスカッションを繰り返すことは、多様な考え方を認め合い、建設的思考を学ぶためにアンサンブル演奏は有益な学びに繋がる。	
			キリスト教音楽		この演習では、西洋文化の礎、本学教育の根幹でもあるキリスト教について、また聖書について学び、その宗派や歴史による多様性を知り、その上で過去および現在のキリスト教音楽を鑑賞して理解を深める。また賛美歌などのオルガン演奏実践を通じて、キリスト教音楽が意味するものを多面的・多層的に、また経験的に理解する。このことは他の宗教との差異、多様な人種文化も併せて学ぶことによりグローバルな視野を養うことにも繋がる。	
			物語と音楽		これは物語と音楽を融合したジャンルおよび作品を扱う講義科目である。ルネサンス文化から端を発したオペラ作品からバロック、古典、ロマン、近現代作品までのオペラを取り上げ、ヨーロッパ・アメリカの歴史背景とともに歌唱法やオーケストラ、舞台美術なども取り上げ「総合芸術」のあり方や変遷を学ぶ。あわせて、ミュージカルは如何にして生まれたか、発声や楽曲においてオペラとどのように異なるか、人気を集めてきた理由は何か、どのようにビジネスとして成立してきたか、などについても学ぶ。	
			ドイツ文学と音楽		この講義では、中世からロマン主義の時代にかけてのドイツ語圏の文化や思想、様式の変遷のみならず、それぞれの時代の文学が音楽とどのように融合したかについて学ぶ。ヨーロッパの舞台歌唱でオペラマーケティングが広がりつつあった時代に、ゲーテなどの詩によるドイツ芸術歌曲（ドイツリート）の流れが隆盛し、ドイツ語のディクションや自然描写表現を芸術へと昇華させ、ニーチェの作品がオーケストラ楽曲と融合していった。そのような流れを確認しつつ、多様な芸術の一派を学ぶ。	
			音楽とクリエーション応用１（コンテンツ）		本演習では、「音楽とクリエーション入門」で培った音や音楽とデザインに関する知識、テクノロジーに関する知見や技術力、コンテンツ制作技術を背景として、創作活動に結びつくコンテンツ制作技法を実践的に学ぶ。具体的には、アニメーションやゲーム分野等の分野におけるサウンドデザインや音楽制作、AI技術を用いた音楽コンテンツ制作など、音や音楽に関する先端的な創作活動において重要な知識・技術を身につけ、独自の表現活動や、他者との協働による制作活動などにつながる企画力・実践力を身につける。	
			音楽とクリエーション応用２（プロダクト）		本演習では、「音楽とクリエーション入門」で培った音や音楽とデザインに関する知識、テクノロジーに関する知見や技術力、コンテンツ制作技術を背景として、音や音楽を中心とした分野横断的なデザイン活動や製品の企画に応用可能な知識・技術を身につける。演習内では、デジタルファブリケーション技術、プログラミング等をベースとした製品企画およびプロトタイピング等を体験し、音楽にまつわる製品開発（玩具、楽器、サービスなど）、インタラクティブメディアのデザインやアート表現など、現代社会における様々な創造活動に応用できる知識・技術について学び、企画力、実践力を身につける。	
			映像音楽・音響制作		本演習では映像に関する音楽制作技術、音響機器や録音技術等の音響技術について包括的に学ぶ。現代では、映像作品やTV番組、ミュージックビデオだけでなく、動画配信サービス、SNS、広告など、様々な用途で映像や音響が用いられている。しかし、その背景にある制作技術に関しては意識することが少ない。そこで、映像や音響に関する基礎知識や技術の習得を基本とし、映像・音響メディアの歴史やリテラシー、著作権といった制作において必要なバックグラウンドについても理解を深める。	

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
学科専門科目	文化表現発展科目	音楽・身体表現	音楽とビジネス応用		本演習は、「音楽とビジネス入門」で学んだ基礎をさらに発展させ、経営理論全般を俯瞰するとともに、具体的な企業や団体を取り上げて、より深い研究を行い、実際にそれらの企業の課題を解決したり、新規事業の提案を行うことを通じて、生きた音楽ビジネスを身につけることを目的とする。経営については多くの理論があるが、理論を知っていても実践が伴わないことには意味がないため、様々な理論を自分の武器として使えるようになることを目指す。	
			音楽と身体１（理論）		音楽と人体との関係について、医科学的側面から理論的に学ぶ講義科目である。私たちは幼少の頃から、自然に歌を口ずさみ、好きな音楽を聴いてきた。音楽は、楽しい気分にさせてくれたり、異次元へ私たちを連れて行ってくれたりする存在である。本授業で私たちの脳の発育、リハビリ、音楽療法などを理論的に、また体験を通して学ぶことにより、音楽が単なる娯楽という枠に収まるものではなく、人体へ多大な効果を及ぼす存在であることを理解する。	隔年
			音楽と身体２（実践）		本演習は西洋や東洋の身体表現を実践的に学ぶ科目である。ダンス作品の創作では、構成要素となるテーマ、音楽について考え、表現に必要な身体の動きをトレーニングし、創作し、発表し、鑑賞する。また、中医学やアーユルヴェーダの実践では、心と身体の関係を通して自己の理解を深める。私たち人間は、洋の東西を問わず等しく身体を持って生きているが、文化的・社会的背景が異なれば、生み出される音楽も異なるように、身体の捉え方、リズムの刻み方、実践の方法も異なることを体験を通して学ぶ。	隔年
			舞踊の文化人類学	○	本講義では、まず文化人類学という学問がどのようなものか学ぶ。次に、舞踊を文化人類学的な視点からとらえた欧米の研究動向を探る。その上で、アフリカ、アジアの舞踊を対象に、例えば動作を分析し、舞踊と付随する歌の内容や背景にある習俗から動作の意味を解釈し考えていく。踊ること、すなわち舞踊行為は単に娯楽という側面だけで捉えられるものではない。人類の歴史の中で最も古い芸術ともいわれる舞踊は、人々の祈りの心と共に存在し、文化的・社会的背景、生理的機能をもって存在してきたのである。	主要授業科目
			バレエの歴史		本授業は、中世ヨーロッパ、ルネサンス期を起源とするクラシックバレエの起こりから、現代に至るまでのバレエの歴史を深く学ぶ講義である。クラシックバレエは、中世の舞踊形式から始まり、ルイ14世の活躍した宮廷バレエの時代、宮廷から劇場へと場所を移し、越境し、やがて現在私たちが鑑賞する形態へと変遷を遂げた。クラシックバレエを習ったことがある人にとっては、レッスンで指導された足のポジション、ポワント、さらには作品や衣装なども、こうした壮大な歴史の一部であることを知ることになるだろう。	
			スポーツ文化		スポーツというとオリンピックや世界大会をイメージする人もいるかもしれない。しかし、世界の様々な地域には固有のスポーツや身体文化が存在する。本授業では文化人類学、社会学、身体論といった文系領域から、日本ならではの身体文化、アジア、欧州のスポーツ文化にまで目を向け映像や画像で紹介しつつ、その共通点や独自性を探り、背景に存在する文化や世界観を学ぶ。学生自らが獲得してきたスポーツ文化、身体文化との比較を試みながら理解を深める。	
			声の表現１（演技）		声で「演技」をすることは実は誰でもしていること。それを改めて発声器官や心理状態などを体系的にまとめて理解し、個々の自然な表現力を習得する。声の演技力が求められる声優はもちろん、俳優、アナウンサーなど身体表現、表情まで影響がある声の演技力を学ぶが、日常での声の表現力は重要なコミュニケーションスキルでもあるので、早い年次での履修は就職活動にも大いに役立つ。自分の話し方の癖をこの授業で見つけ出し、トレーニング方法を指導する。	隔年
			声の表現２（アナウンス）		この演習科目では、日本のアナウンサーが100年近く積み上げてきた数々のノウハウの中から「話して伝える力」と「読んで伝える力」を中心に取り上げる。「話すこと」「読むこと」の解説と、その知識を基にした演習を繰り返し、アナウンスと朗読のスキルを高める。「学生生活」はもちろん、「就活」や「社会人生活」にも役立つ、「音のことば」を使ったコミュニケーション能力をトレーニングする。グループ実習やレッスン形式も取り入れる。	隔年
	文化表現専門演習科目		専門ゼミＩＡ	○	専門ゼミでは、グローバルな視座から新たな文化を主体的に創造・表現・発信する力を修得するという本学科の目的に沿って、担当教員の指導の下、各履修者が卒業まで一貫したテーマで研究・制作等のプロジェクトに取り組む。演習形式の授業において個人またはグループでおこなわれる文献講読・調査・制作・口頭発表・議論・文章等発表媒体の作成など活動を通じ、主体的に学び、また成果を発信する姿勢を身につける。その第一段階が専門ゼミＩＡである。	主要授業科目
			専門ゼミＩＢ	○	専門ゼミでは、グローバルな視座から新たな文化を主体的に創造・表現・発信する力を修得するという本学科の目的に沿って、担当教員の指導の下、各履修者が卒業まで一貫したテーマで研究・制作等のプロジェクトに取り組む。演習形式の授業において個人またはグループでおこなわれる文献講読・調査・制作・口頭発表・議論・文章等発表媒体の作成など活動を通じ、主体的に学び、また成果を発信する姿勢を身につける。その第二段階が専門ゼミＩＢである。	主要授業科目
			専門ゼミⅡＡ	○	専門ゼミでは、グローバルな視座から新たな文化を主体的に創造・表現・発信する力を修得するという本学科の目的に沿って、担当教員の指導の下、各履修者が卒業まで一貫したテーマで研究・制作等のプロジェクトに取り組む。演習形式の授業において個人またはグループでおこなわれる文献講読・調査・制作・口頭発表・議論・文章等発表媒体の作成など活動を通じ、主体的に学び、また成果を発信する姿勢を身につける。その第三段階、卒業論文（またはその他の制作物）作成に向けて本格的な準備を始めることになるのが専門ゼミⅡＡである。	主要授業科目
			専門ゼミⅡＢ	○	専門ゼミでは、グローバルな視座から新たな文化を主体的に創造・表現・発信する力を修得するという本学科の目的に沿って、担当教員の指導の下、各履修者が卒業まで一貫したテーマで研究・制作等のプロジェクトに取り組む。演習形式の授業において個人またはグループでおこなわれる文献講読・調査・制作・口頭発表・議論・文章等発表媒体の作成など活動を通じ、主体的に学び、また成果を発信する姿勢を身につける。その最終段階、卒業論文（またはその他の制作物）を完成させるのがⅡＢである。	主要授業科目
			卒業研究	○	これは専門ゼミⅡＡ・ⅡＢと同時に履修する卒業論文（またはその他の制作物）作成のための科目である。社会・芸術表現・言語表現・文学表現・音楽表現・身体表現という本学科カリキュラムの諸領域を立体的に横断するかたちで2年間学び、さらに専門ゼミⅠ・Ⅱにおいて講読・調査・制作・口頭発表・議論・発表媒体作成などの活動を通じて主体的に学び、成果を発信する姿勢を身につけてきた集大成として、ゼミ教員の個人指導の下、履修者は各自の研究成果を論文（またはその他の制作物）にまとめる。認められる形態は学科で定めるものとする。	主要授業科目

科目 区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
教職に関する科目	教職入門		本講義では、教職の歴史や学校教育に関する法体系をふまえたうえで、そうした現代社会に対応した教員の職務について学び、教職の社会的意義について考えていく。具体的には、教員養成の制度、「教師」の地位や服務上の義務、学校内のみならず学校外の専門家との連携の必要性、仕事内容や働き方について学ぶ。あわせて3年次に行われる介護等体験の理念と目的についても説明する。また、こうした「教師」の職務全般を知ることにより、「教師」に求められる資質能力を理解する。教職課程を履修していくうえでの意欲や適性について、履修者自身が検討し、今後の取り組みについて考える機会とする。毎回の授業では、終了後にフェリスパスポートにレスポンスシートを提出する。また、授業中に行うグループディスカッションでは他者の発言に耳を傾け、一つの事象を多面的に考える機会とする。	
	教育原理		本講義では、教育の基礎理論に関する科目のひとつであり、今後履修するその他の「教職に関する科目」の序論に位置づく。教育の理念や思想及び教育に関する歴史を学ぶ中で教育の本質とは何かについて考える。具体的には、教育・学校・教員制度についての歴史とともに、第二次世界大戦後の教育権思想の発展や、学校と家庭との協力関係の蓄積について学ぶ中で、教育の基本的概念を理解し、今日の、そして今後のあるべき教育理念について考える。なお、毎回の授業終了時にはレスポンスシートを記載してもらうとともに、隣に座っている学生同士による1分間コミュニケーション、小グループに分かれてのディスカッションとそのグループ毎のプレゼンテーションによって皆の意見を全体で共有するなどのアクティブ・ラーニングの手法を適宜取り入れて授業を進める。	
	教育思想		本講義では、古代から現代に至るまで、各時代や各地域、社会の人々の教育に関連する事柄についての捉え方や、教育に対する態度を規定してきた教育思想について考えていく。それは、教育を「教えるー学ぶ」という単なる行為としてではなく、その目的や役割を理解するための基礎的な知識でもある。具体的には、代表的な教育思想家たちの思想、これまでの歴史の中で示されてきた教育の理念、教育を成り立たせる諸要因に関する思想を学び、自分がこれまで教育に抱いてきたイメージや、自分たちが受けてきた（受けている）教育の背景にある思想を理解する。特に、日本の近代教育が長い教育思想の歴史の中に位置付いていることを理解する。各時間のテーマについて、教育思想家たちの思想を学ぶ。グループセッションでは、各時間のテーマの理解を促す課題や、教育思想を身近に捉え、実際の教育や学校との関わりを理解するためにディスカッションを行う。	
	教育心理学		本講義では、教育活動について心理学的に研究し、教育実践上の課題を解決するため、適用可能な心理学的知見と、高い効果をもたらす心理学的技術を提供することを目的としている。具体的には、典型発達の幼児・児童・生徒のみならず、障害を持つ幼児・児童・生徒の心身の発達および学習の過程に関する知識、各発達段階における心理的特性を踏まえた学習活動を支援するための基礎知識、支援方法を提供するものである。加えて、学校現場では必須の、教育・学習評価についても、幼児・児童・生徒の発達の特徴と関連付けて理解する。また、アクティブ・ラーニングとして、性格検査、知能検査を実施し、自己採点を行い、その結果について、プライバシーに最大の配慮を加えながら、検査の有効性などについてグループ・ワーク（可能な限り）を行い、結果を全体に共有する。	
	教育社会学		本講義では、比較文化的、歴史的にさまざまな家族や学校の例を紹介しながら、現代日本の人間形成のあり方と援助者の役割について考究する。社会変動のもとでの学校の役割と課題、ならびにそれに対応するための教育政策の動向について理解を深める。併せてメディアで注目されている教育問題について、事例をもとに理解する。具体的には、子どもの生活の変化と指導の課題について、虐待、学力、ジェンダー、いじめ、不登校、発達障害児支援などのトピックスを取り上げ、社会、学校、家庭の関係性を多面的に把握し、学校をめぐる近年の動向を理解するとともに、教育改革の動向についても理解を深める。物事を複眼的にとらえ、自分の意見を持ち、自分の言葉で表現して論じることができるようになることもこの授業の到達目標である。	
	教育課程論		本講義では、教育目標の具現化に向けて教育課程に沿った教育活動が展開されている学校について、前半では、教育課程の意義や関係法令（主に学習指導要領）等、教育課程に関する基本的事項について学び、後半では、教育課程の実施上の基本的な内容及びカリキュラム・マネジメントについて学ぶことで、教育課程を通して望ましい学校教育の在り方を考えていく。そして、教育課程の意義、教育課程編成、カリキュラム・マネジメントに関わる学習指導要領の基本的事項について概説できる知識を蓄積し、教育課程実施上の諸課題を踏まえ、学習等の指導に積極的に取り組む意欲を高めていく。	
	特別活動		本講義では、学習指導要領に各教科及び道徳、総合的な学習の時間以外の教育活動として位置づけられる特別活動について、生徒の学校や学級の生活における課題の発見や解決を行い、より良い集団や学級生活を目指して行われる活動の総体としての理解を促していく。具体的には、学級活動・生徒会活動・学校行事の３分野を軸として設定し、学校生活の様々な場面を想定し、指導する教師としての実践的指導力の形成をねらう。具体的なテーマについては、学生同士のグループワークやディスカッション・振り返り・講義などによって深め、教育現場で実践的に活用できる体験活動や学級通信・生徒会活動実施要項・学校行事実施要項などの作成等にも挑戦する。	
	教育相談		本講義では、生徒が学校生活において出会う様々な問題・危機への支援について、発達の状況（発達障害を含む）や個々の心理的特質、教育的課題を適切に捉えるために必要な基礎的知識（カウンセリングの意義、理論および技法に関する基礎的知識を含む）を身につける。アクティブ・ラーニングとしては、発達障害、いじめ、非行、不登校、児童虐待について、グループ・ワークならびに発表をし、成果を課題管理を通して提出する。また、毎講義のはじめに具体的な事例を元に、支援・対応に関する自身の考えを記述する課題が課されるので、講義内に提出する。	
	教育実習１		実際に学校の教室で教師として生徒を指導するための基本的力量を培う教育実習へ向け、各教科教育の内容と技法を理解し、多面的な観点から生徒と積極的に関わろうとする態度を形成し、実際の教育場面で生徒を指導することができる基本的技術を習得することを目的とする。具体的には、事務的な内容を含めたオリエンテーションにおいて教育実習の全体像の把握を促進し、その上で中学校・高等学校を中心とした授業参観を実施し、より現実的な学校での活動について身をもって考えていく機会を設ける。毎回の講義を振り返り、レポートにまとめて提出する。	共同

科目 区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
教職に関する科目	教育実習２		３年次で履修した「教育実習１」をさらに発展させ、事前指導、実習校実習、事後指導から成り立っている。事前指導では、毎回テーマについて近接のメンバーと議論し、その結果をレポートにまとめる。テーマは、生徒の見方と学級経営、保健と安全指導、人権擁護と教育の果たす役割など多岐に亘り、実習校実習へ向けて具体的な構えを持てるように設定している。事後指導では、KJ法に倣った質的分析法を用い、グループ・ディスカッションによって実習校実習を振り返り、図示化する作業を行い、意見交換、各自の最終課題をレポートにまとめて提出する。	共同
	教育実習３		３年次で履修した「教育実習１」をさらに発展させ、事前指導、実習校実習、事後指導から成り立っている。事前指導では、毎回テーマについて近接のメンバーと議論し、その結果をレポートにまとめる。テーマは、生徒の見方と学級経営、保健と安全指導、人権擁護と教育の果たす役割など多岐に亘り、実習校実習へ向けて具体的な構えを持てるように設定している。事後指導では、KJ法に倣った質的分析法を用い、グループ・ディスカッションによって実習校実習を振り返り、図示化する作業を行い、意見交換、各自の最終課題をレポートにまとめて提出する。	共同
	教職実践演習（中・高）		実習校での実習を経て、教員として必要な資質能力として、教師としての使命感や責任感等、教職についての理解、社会人としてのあり方や対人関係能力など教員としてのスキル、幼児・児童・生徒理解や学級経営等に関する指導力、情報機器の活用を含め教員として求められる教科指導力の4つの事項のさらなる向上が求められる。その目標達成のため演習形式で行われ、模擬授業、ロールプレイ（役割演技）、事例研究（適宜学校見学等を含める）など実習的内容が中心となる。	共同
	英語科教育法Ⅰ		本講義では、中学校及び高等学校における外国語（英語）の学習と指導に関する知識と授業指導及び学習評価の基礎を身に付ける。特に「聞くこと」「読むこと」「話すこと（やり取り）」「話すこと（発表）」「書くこと」の5つの領域にわたって生徒のコミュニケーション能力を育成するための授業の組み立て方及び情報機器の活用を含めた指導力や評価の基礎を身に付ける。さらに、小・中・高等学校の学習指導要領の主旨を理解し、学習指導案の作成・指導法の実践･評価方法の学習などを通して、小・中・高等学校英語の接続とその効果的な指導技術を学び、生徒の理解の程度に応じて英語で指導できる指導力など、英語教師として必要な能力と資質の基礎をも身に付ける。指導法の実践等では、グループで効果的な指導法等についてディスカッションをし、模擬授業の形で発表、また、一人ひとりがオーラルイントロダクションを行う。	
	英語科教育法Ⅱ		本講義では、「英語科教育法Ⅰ」に続き、中学校及び高等学校における外国語（英語）の学習と指導に関する知識と授業指導及び学習評価の基礎を身に付ける。特に「聞くこと」「読むこと」「話すこと（やり取り）」「話すこと（発表）」「書くこと」の5つの領域にわたって生徒のコミュニケーション能力を育成するための授業の組み立て方及び情報機器の活用を含めた指導力や評価の基礎を身に付ける。さらに、小・中・高等学校の学習指導要領の主旨を理解し、学習指導案の作成・指導法の実践･評価方法の学習などを通して、小・中・高等学校英語の接続とその効果的な指導技術を学び、生徒の理解の程度に応じて英語で指導できる力など、英語教師として必要な能力と資質の基礎を身に付ける。「英語科教育法Ⅰ」で学んだ言語観や理論に基づいた効果的な指導技術を深化・拡充しながら、模擬授業形式で実践演習を行う。	
	国語科教育法Ⅰ		本講義では、履修者が学習指導要領の趣旨を正確に理解し、学習指導の方法とともに計画・実施・評価の方法を身に付け、それらを基に教育対象である生徒一人ひとりが国語の力を身に付けられるように指導できるようになることを目的とする。日本語の変遷や国語教育の流れを知ることが指導上の骨格になることから、それらについても概観する。その上で、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の三領域と「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」についての教材研究の方法と実践、学習指導案の立て方とその実践を具体的な教材を通して行い国語の指導法について研究する。加えて、情報機器の活用を含めた指導力の向上も目指す。	
	国語科教育法Ⅱ		本講義では、「国語科教育法Ⅰ」を深化・拡充しながら学習指導要領を踏まえた国語科学習指導の効果的な実践の方法を身に付けることを目的とする。知識基盤社会を迎え、言語の教育の立場としての国語教育は、言葉の力としての思考、認識、伝達、さらに創造という四つの力の充実を担う役割が重要視されている。具体的には「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の三領域と「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」について指導事項をもとに実践的な指導法の研究を教材研究（内容研究と指導案作成を通した指導法の研究）によって行い学習指導案として授業の立案を実践する。また、それらが効果的で実践的であるかどうかの検証及び実証をそれぞれの模擬授業を通して行い工夫改善を行う。さらに評価については特に観点別状況評価の意義と方法を具体的に学び評価と評定に対する理解を一層深める。	
	道徳教育の理論と実践		子どもを取り巻く社会の急激な変化や家庭の教育力が弱まっているという指摘のある状況の中、学校における道徳教育の充実が強く求められている。本講義では、授業前半は道徳教育の目標・内容・方法等の基本的事項について、学校における道徳教育の基礎的理論を概説できるよう、講義形式で学ぶ。授業後半は、道徳教育の要である特別の教科としての道徳の指導について、学習指導案の作成や授業展開等を演習形式で行い、実践的な指導力を養う。	
	生徒・進路指導の理論と方法		生徒指導は学校が教育目標を達成するための重要な機能の一つであり、児童生徒の人格形成を図る上で大きな役割を担っている。本講義では、生徒指導、教育相談やキャリア教育の指導にかかる現状把握をもとに、学習指導要領や基本的な理論・指導計画を検討した上で、指導実践に向けたグループデスカッションや演習を行う。適宜求める授業振り返りシートによって理解度等を把握し、それに応じて授業計画を調整する。また、生徒指導の前提となる教師と児童生徒の信頼関係及び児童生徒の望ましい人間関係を育てるとともに、児童生徒理解を深めることの意義を理解し、児童生徒の成長を喜ぶ感性と献身的に児童生徒の成長・発達を支援しようとする意欲を持つことを授業のねらいとする。	

科目 区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
教職に関する科目	特別支援教育の基礎と方法		特別支援教育は、学習上または生活上の困難のある幼児・児童・生徒ひとりひとりが、授業や学習活動に参加している実感および達成感を持ちながら学び、生きる力を身につけていくことができるように支援する教育活動である。本講義では、そのような支援が出来るよう、幼児・児童・生徒ひとりひとりの学習上または生活上の困難を理解する。成果は課題管理を通して提出する。また、毎講義のはじめに具体的な事例を元に、支援・対応に関する自身の考えを記述する課題が課されるので、講義内に提出する。	
	総合的な学習の時間の指導法		「総合的な学習の時間」は、平成10年3月の『中学校学習指導要領』改訂および平成11年3月の『高等学校学習指導要領』改訂により、「生きる力の育成」の中核として設置された。また、平成31年度から「総合的な探究の時間」が新設された。本講義では、授業前半では、「総合的な学習の時間」「総合的な探究の時間」の意義や教育課程上の役割等について学ぶ。授業後半は、「総合的な学習の時間」「総合的な探究の時間」の指導計画の作成方法や単元計画の作成・指導方法、「総合的な学習の時間」「総合的な探究の時間」の評価方法など実践的な内容について学ぶ。	
	教育の方法・技術（情報通信技術の活用含む）		21世紀を生きる子どもたちを育成する学校教育では、伝達型・教師主導型の授業ではなく、学習者主体の授業が求められているが、それはどのような授業なのか。本講義では、学習者主体の授業をどのようにデザインしていけばよいのか、また、そのような授業における教師の役割、情報機器（ICT）やデジタル教材を含む教材の活用や授業の振返り等について、理論的かつ実践的に考えていく。そのため、本講義自体、対話型授業、グループディスカッション等を積極的に取り入れていく。学習の基盤となる資質・能力としての言語能力・情報活用能力・問題解決力を育成する教育方法のあり方に関する知識・理解と、情報機器及び教材の活用に関する基礎的な知識・技能と実践の素地を養っていく。	

学校法人フェリス女学院　設置認可等に関わる組織の移行表

令和６年（2024）年度	入学定員	編入学定員	収容定員	令和７年（2025）年度	入学定員	編入学定員	収容定員	変更の事由
フェリス女学院大学				フェリス女学院大学				
				グローバル教養学部				学部の設置(届出)
				国際社会学科	195	－	780	
				心理コミュニケーション学科	180	－	720	
				文化表現学科	170	－	680	
文学部								
英語英米文学科	90	－	360		0	－	0	令和７年４月学生募集停止
日本語日本文学科	90	－	360		0	－	0	令和７年４月学生募集停止
コミュニケーション学科	90	－	360		0	－	0	令和７年４月学生募集停止
音楽学部								
音楽芸術学科	75	－	300		0	－	0	令和７年４月学生募集停止
国際交流学部								
国際交流学科	197	２年次 4	800		0	－	0	令和７年４月学生募集停止 ２年次編入学定員は令和８年４月学生募集停止
計	542	4	2180	計	545	－	2180	
フェリス女学院大学大学院				フェリス女学院大学大学院				
人文科学研究科				人文科学研究科				
英語英米文学専攻(M)	6	－	12	英語英米文学専攻(M)	6	－	12	
英語英米文学専攻(D)	2	－	6	英語英米文学専攻(D)	2	－	6	
日本語日本文学専攻(M)	6	－	12	日本語日本文学専攻(M)	6	－	12	
日本語日本文学専攻(D)	3	－	9	日本語日本文学専攻(D)	3	－	9	
コミュニケーション学専攻(M)	6	－	12	コミュニケーション学専攻(M)	6	－	12	
コミュニケーション学専攻(D)	2	－	6	コミュニケーション学専攻(D)	2	－	6	
音楽研究科				音楽研究科				
音楽芸術専攻(M)	6	－	12	音楽芸術専攻(M)	6	－	12	
国際交流研究科				国際交流研究科				
国際交流専攻(M)	6	－	12	国際交流専攻(M)	6	－	12	
国際交流専攻(D)	2	－	6	国際交流専攻(D)	2	－	6	
計	39	－	87	計	39	－	87	